

# 京都府遺跡調査報告書

## 第 28 冊

長岡京跡左京二条三・四坊・東土川遺跡

<本文編>

2000

財団法人 京都府埋蔵文化財調査研究センター



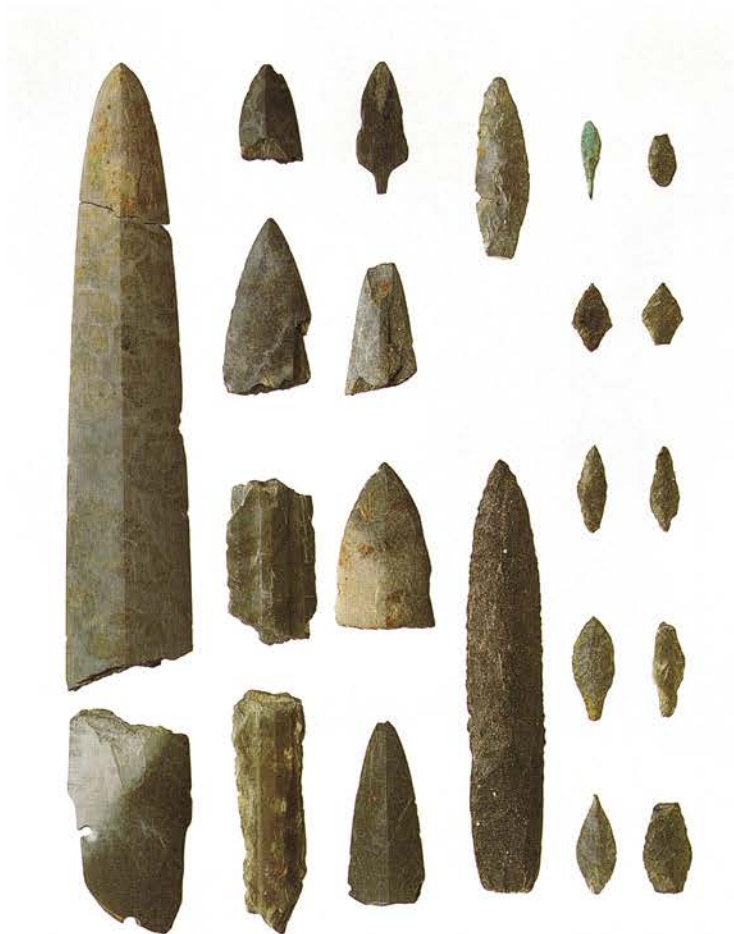
(1)調査地遠景（南から）



(2)二条三坊十五町付近（南から）



(1) S T 385619 周溝内木棺墓 (北東から)



(2) 弥生時代出土武器



(1) S K362100出土二彩小壺



(2) S K363090出土土器群



(1) S K 399504出土印章



(2) S E 334007出土獸帶鏡

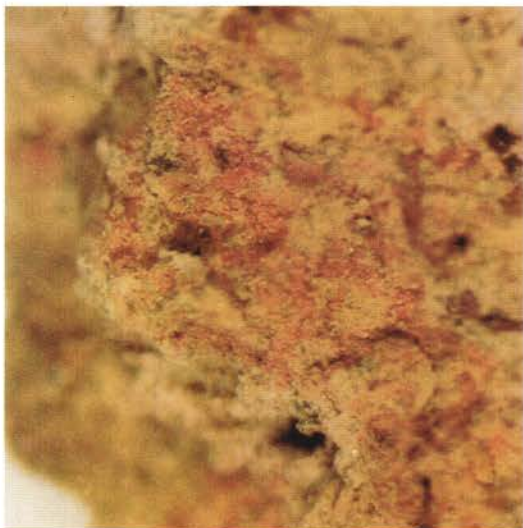


乾燥時 (×15)

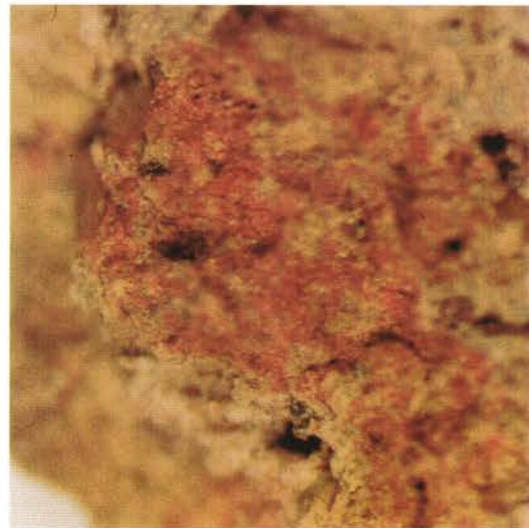


湿潤時 (×15)

(1)No.①土壤サンプル



乾燥時 (×15)



湿潤時 (×15)

(2)No.②土壤サンプル

# 例 言

1. 本書は、京都市南区東土川町金井田・正登に位置する長岡京跡および東土川遺跡の報告書である。本調査は、中央自動車道西宮線(通称名神高速道路)拡幅工事に先立ち、日本道路公団大阪建設局の依頼を受けて実施した。調査期間は、平成5年5月6日から平成9年10月16日までである。

2. 発掘調査区は、道路公団側の工事区にあわせて、上り車線側パーキング・エリアをA地区、下り車線側パーキング・エリアをB地区とし、A地区では1～5区、B地区では1～8区に細分してそれぞれに調査次数を付した。

3. 執筆分担は例言・第1章から第4章・第6章を野島 永が、第5章の第1節を中川和哉、第2節を小池 寛、第3・4・8節を野島 永、第5・6節を岩松 保、第7節を平良泰久が執筆した。

4. 現地調査の遺構撮影は現地調査担当の調査第2課調査員がそれぞれ行ない、出土遺物の写真撮影は調査第1課資料係主任調査員田中 彰が行った。また土器実測は、荒川仁佳子・鈴木浩子・高橋富子・長尾美恵子・松野元宏・村上優美子・安田裕貴子、石器実測は、中川和哉・野島 永、木器実測は、杉本厚典(現(財)大阪市文化財協会)・深掘 茜(現(財)富山県文化振興財団)・丸 悦子、土器復原は、田村重野・米澤裕子、図版トレースは村上優美子(遺構)・荒川仁佳子・松村知也(土器)・野島 永(石器)・寺尾貴美子(木器)が担当した。木器観察表については、一部、村上由美子(京都大学大学院)の教示を得て作成した。

5. 本報告書の編集は、調査第2課課長補佐兼調査第4係長奥村清一郎の指導のもと、調査第1課資料係の協力を得て、調査第2課第2係調査員野島 永が行った。

6. 本報告書で使用した遺構番号は、基本的には今までに刊行してきた概報に依拠しているが、全て6桁に統一した。また、中世素掘り溝などの遺構番号は、長岡京左京調査次数番号を省略し、調査地区名と調査地区ごとの検出番号によって示している。なお、条坊路と宅地の呼称については、長岡京型条坊復原案(山中1992a)に従った。

7. 本書の作成にあたっては、下記の方々の指導・協力を得た(敬称略・五十音順)。  
浅川茂雄・足利健亮(故人)・井上満郎・岩田修一・上村和直・上村憲章・大庭重信・尾野善裕・小畑弘己・金子裕之・川上 貢・木村泰彦・國下多美樹・工楽善通・肥塚隆保・小林博昭・小森俊寛・佐原真・清水みき・高橋照彦・種定淳介・檀原 徹・都出比呂志・寺前直人・寺沢 薫・中島信親・永嶋正春・中山修一(故人)・西山良平・原 秀樹・樋口隆康・平尾政幸・深澤芳樹・福永伸哉・藤沢 彰・藤田勝也・堀内明博・本間元樹・町田 章・松藤和人・宮本長二郎・村上由美子・百瀬正恒・森 浩一・森岡秀人・山中 章・若林邦彦

8. 実測に用いた測量基準は、国土座標平面直角座標系第6系および、東京湾海拔(TP)である。

9. 現地調査および本報告書にかかるすべての経費は、日本道路公団が負担した。

## 序

京都府京都市南区東土川町ほかで実施した、長岡京跡左京二条三・四坊、東土川遺跡に関する報告書を『京都府遺跡調査報告書』第28冊として、ここに刊行いたします。

この発掘調査は、中央高速道路西宮線桂川パーキングエリア建設工事に伴い、日本道路公団の依頼を受けて、(財)京都府埋蔵文化財調査研究センターが主体となって、平成5年度以降、平成9年度までの5年間にわたって実施致しました。各年度の調査成果の概要については、逐次『京都府遺跡調査概報』・『京都府埋蔵文化財情報』に掲載してきたところであります。

本書は、各年度の概要報告で果たせなかった詳細な事実の報告を行うとともに、それらの諸事実を分類・集成し、考察を加えたもので、これをもって記録保存の責務を果たしたものと考えます。

刊行にあたりましては、日本道路公団には現地での発掘調査の実施から本書の刊行に至るまで、多大のご理解とご協力を賜りました。また、京都府教育委員会・京都市埋蔵文化財調査センター・(財)京都市埋蔵文化財研究所をはじめ、関係各方面から、有益なご指導ならびに助言をいただくことができました。この場を借りまして厚く御礼申し上げる次第であります。

最後に、この仕事にかかわった担当職員諸君の労苦をねぎらうとともに、本書が京都府のみならず、わが国の古代都城研究の進展に寄与することを、心から願ってやみません。

平成12年9月

(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター  
理事長 樋口 隆康



# 本文目次

第1章 調査にいたる経緯-----	1
第1節 調査の経過-----	1
第2節 調査体制-----	3
第3節 各年度の調査概要-----	7
第4節 遺跡の環境-----	10
(1) 地理的立地と弥生時代の集落動向	(2) 長岡京における位置関係
(3) 平安時代以降の歴史的環境	
第2章 古墳時代以前の検出遺構-----	14
第1節 弥生時代の検出遺構-----	14
(1) 環壕・溝	(2) 方形周溝墓
(3) 土坑他	(4) 水田関連遺構
第2節 古墳時代の検出遺構-----	25
(1) 流路・溝	(2) 土坑他
第3章 長岡京期の検出遺構-----	28
第1節 条坊路-----	28
(1) 二条条間大路	(2) 東三坊大路
(3) 二条条間北小路	(4) 二条条間南小路
(5) 東四坊坊間西小路	
第2節 大溝(水路)・溝-----	37
第3節 宅地-----	37
(1) 二条三坊十三町	(2) 二条三坊十四町
(3) 二条三坊十五町	(4) 二条四坊二町
(5) 二条四坊三町	(6) 二条四坊六町
(7) 二条四坊七町	
第4章 平安時代以後の検出遺構-----	61
第1節 平安時代以後の検出遺構-----	61

(1) 掘立柱建物跡	(2) 井戸	(3) 土坑他
(4) 条里関連遺構		
a. 坪境関連溝	b. 九条村田(12)里17坪	c. 九条村田(12)里18坪
d. 九条村田(12)里19坪	e. 九条村田(12)里20坪	f. 九条村田(12)里29坪
g. 九条村田(12)里30坪	h. 九条村田(12)里31坪	i. 九条村田(12)里32坪
第2節 平安時代の出土遺物-----67		
(1) 緑釉陶器	(2) 印章	
(3) 櫃		
a. 東側短側板	b. 西側短側板	c. 北側長側板
d. 南側長側板	e. 櫃の復原	
第5章 考察-----70		
第1節 乙訓地域における弥生時代集落と石器生産-----70		
(1) 鶏冠井遺跡と東土川遺跡の構造		
a. 鶏冠井遺跡	b. 東土川遺跡A地区	c. 東土川遺跡B地区
d. 小結		
(2) 東土川遺跡の石製武器出土埋葬主体部		
a. 東土川遺跡検出の埋葬主体部		b. 衝撃による剥離痕
c. 石器の出土状況	d. 小結	
(3) 東土川遺跡における石器石材の利用		
a. 打製石器	b. 磨製石器	
(4) 東土川遺跡S K385613出土の石器群について		
a. 剥片石器の操作概念	b. 出土資料の分析	c. 小結
(5) 東土川遺跡出土石剣の検討		
a. 東土川遺跡出土の新形式の銅剣形石剣		b. 京都府出土の銅剣形石剣
c. 小結		
第2節 乙訓地域の須恵器出土遺構集成…古墳時代中期を中心に…-----91		
(1) はじめに		
(2) 乙訓地域における古墳時代集落と初期須恵器の研究抄史		
(3) 乙訓地域における須恵器出土の遺構集成		
(4) まとめにかえて		
第3節 長岡京東面街区における宅地-----100		
(1) 二条三坊十二町	(2) 二条三坊十三町	
(3) 二条三坊十四町	(4) 二条三坊十五町	
(5) 二条四坊二町	(6) 二条四坊三町	
(7) 二条四坊六町	(8) 二条四坊七町	

(9) 建物配置基準にみる宅地の差異性		
第4節 長岡京における宅地外郭施設の規模と宅地序列-----	111	
第5節 長岡京の条坊計画—長岡京条坊制補論—-----	114	
(1) はじめに		
(2) 長岡京の条坊計画		
a. 大路付加型モデルの条坊計画	b. 一条条間大路以北の計画	
(3) 北辺官衙地区の問題点		
a. 二条条間大路について	b. 一条条間北小路と北一条大路の間の町割り	
(4) まとめと課題		
第6節 長岡京の完成度—長岡京の施工状況と遷都・廃都の事情-----	123	
(1) 問題の所在と分析の方法		
(2) 都城の造営と古墳の破壊		
a. 宮城内の様相	b. 宮城南面街区の様相	c. 宮城西面街区の様相
d. 宮城東面街区の様相	e. 右京街区の様相	f. 左京街区の様相
(3) 長岡京期の遺構分布と京果ての様相		
a. 西北部の様相	b. 西辺の様相	c. 南辺の様相
d. 東辺の様相	e. 東南部の様相	f. 北辺の様相
(4) 長岡京の施工範囲、およびその計画と平安遷都		
a. 長岡京の施工範囲とその計画	b. 長岡京の遷都と廃都	
(5) まとめ		
第7節 二条三坊十五町の宅地班給をめぐって-----	148	
(1) 建物配置とその構造		
(2) 十五町邸宅の居住者をめぐって		
第8節 平安時代以降の条里地割遺構をめぐって-----	154	
第6章 総括-----	158	
付 編 自然科学的方法による分析結果-----	177	

## 挿 図 目 次

第1図	調査地位置図	8
第2図	弥生時代の遺跡分布図	10
第3図	長岡京宮城東面街区における調査位置図	12
第4図	調査地区位置図	13
第5図	奈良時代以前の検出遺構	15
第6図	環濠 S D 361162 入口想定部分	18
第7図	道 S F 363108・道 S F 363109 断面土層図	24
第8図	長岡京期の検出遺構	29
第9図	二条条間大路両側溝出土土器位置図	32
第10図	東三坊大路東側溝緑釉火舎出土状況	33
第11図	二条条間北小路 轍検出状況	34
第12図	A地区北西隅土層断面図	35
第13図	十五町北西 長岡京期遺構平面図	43
第14図	掘立柱建物跡 S B 362116 柱穴内出土礎板	45
第15図	方形土坑 S X 385538	59
第16図	S X 385555 出土遺物	60
第17図	平安時代～中世における検出遺構	63
第18図	井戸 S E 399412 出土櫃復原想定図	69
第19図	鶏冠井遺跡遺構分布図	70
第20図	東土川遺跡弥生時代遺構図	72
第21図	環濠 S D 361162 入口状遺構模式図	72
第22図	S T 385619 木棺墓遺物出土状況および出土石剣	75
第23図	S T 385619 木棺墓出土石剣剥片と石鏃	76
第24図	実験によって生じた衝撃痕	77
第25図	第4回ヴェルホレンスク墓地第25人骨の上腕骨と石鏃	78
第26図	近畿地方の地質構造区分	81
第27図	石器製作の操作概念	83
第28図	S K 385613 出土石器	84
第29図	S K 385613 出土石器属性グラフ	84
第30図	全石片長幅関係グラフ	85

第31図	二次加工で生じる剥片概念図	86
第32図	東土川遺跡出土銅剣形石剣	87
第33図	銅剣形石剣断面模式図	87
第34図	刳込部鎬模式図	88
第35図	京都府内出土銅剣形石剣	90
第36図	東土川遺跡古墳時代遺構配置図	93
第37図	乙訓地域主要古墳時代集落分布図	94
第38図	左京二条三坊十二町	101
第39図	左京二条三坊十三町	102
第40図	左京二条三坊十四町	103
第41図	左京二条三坊十五町	104
第42図	左京二条四坊二町	106
第43図	左京二条四坊三町	107
第44図	左京二条四坊六町	108
第45図	左京二条四坊七町	109
第46図	宅地内外郭施設検出例位置図	112
第47図	大路(左図)と小路(右図)に隣接する宅地外郭施設の側溝からの距離	113
第48図	宮面街区(左図)と京街区(右図)における宅地外郭施設の側溝からの距離	113
第49図	長岡京の基本計画	115
第50図	長岡京の条坊計画	116
第51図	一条大路以北の計画	117
第52図	一条条間大路の路幅の変更	120
第53図	西二・三坊大路幅の変更	121
第54図	一条条間北から北一条大路の計画	122
第55図	長岡京内の古墳(1)	125
第56図	長岡京内の古墳(2)	128
第57図	長岡京期の遺構分布(1)	131
第58図	長岡京期の遺構分布(2)	132
第59図	北西部の調査(1)	133
第60図	北西部の調査(2) 右京二条三坊二・七町	134
第61図	東辺の様相(1) 左京一条四坊十二・十三・十四町	138
第62図	東辺の様相(2) 左京五条四坊八・九・十六町	139
第63図	東南部の様相 水垂遺跡の調査	141
第64図	長岡京の造営範囲	143
第65図	平城京右京二条三坊四坪	149

第66図	平安京右京二条三坊十五町	150
第67図	長岡京遷都時の公卿の昇進	152
第68図	村田里29坪検出遺構平面図	155
第69図	村田里比定地(中央)と近世字境	156
第70図	名神高速道路関連遺跡検出条坊路側溝	159
第71図	長岡京二条三・四坊から北方を望む	160

## 付 表 目 次

第1表	名神P.A.工区発掘調査一覧表	2
第2表	井戸S E 363084井籠組井戸横板材墨書	47
第3表	埋葬主体における石剣・石鏃出土遺跡	79
第4表	乙訓地域の古墳時代須恵器出土状況	97
第5表	条坊路側溝から柱列・並行溝までの距離	112
第6表	一条大路以北の条坊路	119
第7表	長岡京内の古墳一覧表	126
第8表	中心建物の規模	149
第9表	出土土器観察表	221
第10表	出土木器観察表	305
第11表	出土石器観察表	310
第12表	出土金属器観察表(1)	315
第13表	出土金属器観察表(2)	315
第14表	遺構番号対応表	316
第15表	遺構座標対応表	321
第16表	検出建物一覧表	323
第17表	土層名一覧表	325

# 第 1 章 調査にいたる経緯

## 第1節 調査の経過

日本道路公団では、中央自動車道西宮線(名神高速道路)の大阪茨木インターチェンジから京都南インターチェンジ間における慢性的な交通渋滞解消のため、走行車線の拡幅工事を行い、名神京都桂川パーキング・エリアの建設を計画した。当調査研究センターでは、日本道路公団の依頼を受けて、走行車線の拡幅工事およびパーキング・エリアの建設に伴う埋蔵文化財の緊急発掘調査を実施した。

調査に着手したのは、昭和63年度のことで、上記の工事計画のうち、京都府域拡幅工事に伴う発掘調査に着手した。発掘調査にあたっては日本道路公団側の設定した工事区呼称にあわせて、大山崎工区・下植野工区・長岡京工区・向日工区・京都工区に分割して調査を行ってきた。おもに長岡京期の宅地や条坊路などの各種遺構の検出を主眼として行ったが、長岡京工区では、長岡京下層に遺存していた弥生時代前期の環壕集落である雲宮遺跡の調査が主体となった。集落を囲繞する環壕および前期弥生土器の歴史的重要性に鑑みて、調査報告書を刊行した(『京都府遺跡調査報告書』第22冊 1997年)。また、大山崎工区では、西国街道沿いに営まれた平安時代から室町時代に至る集落である百々遺跡の調査を行った。西国から山崎津・河陽院(山崎駅)をへて平安京に至る山陽道の要地としての重要性から調査報告書を刊行した(『京都府遺跡調査報告書』第24冊 1998年)。さらに下植野工区一帯は、縄文時代から中近世に至る複合集落であることが判明した。下植野遺跡における調査成果の顕著であった古墳時代後期と平安時代の遺構を中心とした調査報告書を刊行した(『京都府遺跡調査報告書』第25冊 1999年)。

平成5年度からは名神高速道路桂川パーキングエリア建設予定地内(P. A. 工区)の調査を開始し、同年には、予定地内の本線拡幅部分について3,100㎡の発掘調査を行った。平成6年度には、同予定地内北東部分ほか11,250㎡、平成7年度には、北西部分14,880㎡、平成8年度には、北西の一部と南西部分14,480㎡、現地調査最終年度の平成9年度には、南西部分7,220㎡を発掘調査した。

平成5年度から本調査を開始するにあたり、日本道路公団側の京都桂川パーキング・エリア建設予定地における建設工事区にあわせて、上り車線側パーキング・エリアをA地区、下り車線側パーキング・エリアをB地区とした。さらに、A地区を1～5区、B地区を1～8区に細分して、日本道路公団側建設作業の優先工事区に配慮しつつ、各年度ごとに分割した調査区ごとの発掘調査を行った(第4図)。基本的に各調査区に長岡京左京調査次数を付した。調査の終了した地区から随時、調査概報を刊行してきた(第1表)。平成10・11年度には、整理作業を行いつつ、本報告の作成を継続し、平成12年度に調査報告書を刊行した。

本報告書は、当調査研究センターが平成5年度から平成9年度まで継続して行ってきた長岡京

第1表 名神P.A.工区発掘調査一覧表

	地区名	次数	調査記号	所在地 (字名)	主要推定遺構 (遺跡)	面積	開始日	終了日	担当	概報
平成5	B-1a	L303	7ANVKN	南区久世東土川町(金井田)	東土川遺跡・左京二条四坊二・七町・東四坊坊間西小路・二条条間北小路	1,200	5月6日	2月4日	中川	第61冊
	B-1b	L303	7ANVKN	南区久世東土川町(金井田)	東土川遺跡・左京二条四坊二町・二条条間大路	500	11月22日	2月25日	竹井	第61冊
	B-2a	L315	7ANWST	伏見区久我西出町(正登)	東土川遺跡・左京二条四坊二・三町・二条条間大路・東三坊大路	1,000	9月6日	2月25日	中川	第61冊
	D-2a	L314	7ANWSS-4	伏見区久我西出町(下り長)	東土川遺跡・左京二条三坊十三・十四町・二条条間南小路	400	8月2日	10月28日	竹井	第61冊
平成6	A-1	L336	7ANVKN-4	南区久世東土川町(金井田)	東土川遺跡・左京二条二町・二条条間北小路	2,320	11月8日	2月27日	岩松・森島・中川	第69冊
	A-2	L329	7ANVKN-3	南区久世東土川町(金井田)	東土川遺跡・左京二条四坊二町・東三坊大路	1,000	4月11日	10月13日	石尾	第69冊
	A-3	L330	7ANVST-3	南区久世東土川町(正登)	東土川遺跡・左京二条三坊十四・十五町・二条条間大路・東三坊大路	1,480	4月11日	10月13日	岩松	第69冊
	B-2b・D-2b	L331	7ANVST-4	南区久世東土川町(正登)	東土川遺跡・左京二条三坊十四町・東三坊大路	840	5月12日	9月14日	竹井	第69冊
	B-3	L334	7ANVKN-2	南区久世東土川町(金井田・正登)	東土川遺跡・左京二条四坊七町・二条条間大路	1,500	8月8日	2月16日	岸岡・戸原	第69冊
	B-4	L333	7ANVST-5	南区久世東土川町(正登)	東土川遺跡・左京二条四坊三・六町・東三坊大路・東四坊坊間西小路	1,850	6月21日	1月20日	中川	第69冊
	B-5	L337	7ANVKN-5	南区久世東土川町(金井田)	東土川遺跡・左京二条四坊七町	2,260	10月27日	2月27日	竹井・石尾	第69冊
平成7	A-4	L361	7ANVKN-6	南区久世東土川町(金井田)	東土川遺跡・左京二条四坊二町・東三坊大路・二条条間北小路	4,672	4月10日	2月28日	中川・森島	第74冊
	A-6a	L362	7ANVKN-7	南区久世東土川町(金井田)	東土川遺跡・左京二条三坊十五町・東三坊大路・二条条間北小路	5,104	4月10日	2月28日	戸原・野島	第74冊
	A-6b	L363	7ANVKN-8	南区久世東土川町(金井田)	東土川遺跡・左京二条三坊十五町・二条条間北小路	5,104	4月10日	2月28日	竹井・岩松	第74冊
平成8	A-5	L384	7ANVKN-9	南区久世東土川町(金井田・正登)	東土川遺跡・左京二条三坊十四町・十五町・二条条間大路	5,680	4月8日	9月30日	竹井・岩松	第78冊
	B-5b	L385	7ANVKN-10	南区久世東土川町(金井田・正登)	東土川遺跡・左京二条四坊七町・二条条間大路・東四坊坊間西小路	4,400	6月3日	2月28日	八木・野島	第78冊
	B-8	L385	7ANVKN-10	南区久世東土川町(金井田・正登)	東土川遺跡・左京二条四坊六町・二条条間大路・東四坊坊間西小路	4,400	6月3日	2月28日	竹井・中川	第78冊
平成9	B-6	L399	7ANVKN-11	南区久世東土川町(金井田・正登)	東土川遺跡・左京二条四坊七町・二条条間大路	2,470	4月7日	10月16日	八木・野島	第84冊
	B-7	L399	7ANVST-7	南区久世東土川町(金井田・正登)	東土川遺跡・左京二条四坊七町・二条条間大路・東三坊大路	4,750	4月7日	10月16日	小池・中川・中村	第84冊



左京二条三坊・四坊における発掘調査の記録である。

今回の調査報告は、名神京都桂川パーキング・エリア(P. A. 工区)建設予定地におけるものである。調査面積は都合5万m<sup>2</sup>を超える広大なものとなった。名神京都桂川パーキング・エリア(P. A. 工区)建設予定地は、長岡京左京二条三坊・四坊内にある。長岡宮城の大極殿や内裏にちょうど東面する地点にあたり、長岡京のなかでも高級貴族の邸宅や宮外における官衙町の形成された重要地域であるため、長岡京期の条坊路と、宅地における建物群・井戸などの遺構と、その出土遺物を中心とし、弥生時代の墓地や平安時代の条里遺構などの調査記録をあわせて報告する次第である。

なお、調査期間中から整理作業、本報告の刊行まで暖かく見守っていただいた日本道路公団に感謝申し上げます。

## 第2節 調査体制

### 調査主体者

福山 敏男(理事長 平成5～6年度)

樋口 隆康(理事長 平成7～11年度)

### 調査責任者

城戸 秀夫(事務局長 平成5～7年度)

木村 英男(事務局長 平成7～12年度)

### 調査担当責任者

中谷 雅治(次長兼調査第1課長 平成5・6年度)

安藤 信策(次長兼調査第2課長 平成6年度～平成10年度)

平良 泰久(調査第2課長 平成11・12年度)

### 事務局

佐伯 拓郎(次長兼総務課長 平成5・6年度)

園山 哲 (次長兼総務課長 平成7・8年度)

福島 利範(次長兼総務課長 平成9～11年度)

安田 正人(総務課課長補佐兼総務係長 平成5～10年度)

(総務課主幹総務係長事務取扱 平成10～12年度)

杉江 昌乃(総務課主事 平成5～10年度)

(総務課主任 平成11・12年度)

今村 正寿(総務課主事 平成5～12年度)

鍋田 幸世(総務課主事 平成5～12年度)

松尾 幸枝(総務課主事 平成5～8年度)

藤原 寛志(総務課主事 平成5・6年度)

西村 晃 (総務課主事 平成7～9年度)

西林 紀子(総務課主事 平成8～12年度)

岡田 正記(総務課主事 平成10～12年度)

#### 現地調査担当者

平良 泰久(調査第2課課長補佐兼調査第4係長 平成5～9年度)

戸原 和人(調査第2課第4係主任調査員 平成5～9年度)

竹井 治雄(調査第2課第4係調査員 平成5・6年度)

(調査第2課第4係主査調査員 平成7～9年度)

石尾 政信(調査第2課第4係調査員 平成5・6年度)

岩松 保 (調査第2課第4係調査員 平成5～9年度)

小池 寛 (調査第2課第4係調査員 平成9年度)

中川 和哉(調査第2課第4係調査員 平成5～9年度)

鍋田 勇 (調査第2課第4係調査員 平成5年度)

八木 厚之(調査第2課第4係調査員 平成8・9年度)

森島 康雄(調査第2課第3係調査員 平成6年度)

(調査第2課第4係調査員 平成7年度)

中村 周平(調査第2課第4係調査員 平成9年度)

野島 永 (調査第2課第4係調査員 平成7～9年度)

岸岡 貴英(調査第2課第3係調査員 平成5年度)

(調査第2課第4係調査員 平成6・7年度)

#### 整理報告担当者

奥村 清一郎(調査第2課課長補佐兼調査第4係長 平成10～12年度)

中川 和哉(調査第2課第2係調査員 平成10年度)

野島 永 (調査第2課第4係調査員 平成10・11年度)

(調査第2課第2係調査員 平成12年度)

#### 発掘調査参加者(調査補助員)

##### 平成5年度

赤木 香・赤坂 希・阿部達雄・井上 綾・今井利彦・岩崎香織・上田 勉・上田正彦・江口正孝・大倉英士・岡崎昌宏・奥井 愛・小関真二・尾田洋子・河合弥生・木戸久美子・小島孝修・小谷加奈子・小原 香・小牧朝子・小牧 勲・小村美香・重松康希・島田豊彰・首藤有里・白河豊基・杉本厚典・高浜知子・武生幸子・田中満太郎・飛田浩一・永井正勝・永見真智子・長友朋子・広瀬時習・藤原登紀雄・堀 躍子・松本健一郎・三阪優子・水谷美智代・溝口博士・宮本純二・武藤さやか・森岡かおり・八津谷 都・矢野裕介・吉田泰士・脇村有美

##### 平成6年度

赤坂 希・阿部達雄・安部利恵子・石井祐子・一葉知美・井上 綾・今井利彦・岩崎香織・上田 勉・上田正彦・上野由香・岡崎有紀・尾田洋子・川端佐和子・北川勝巳・木戸久美子・小島孝修・小谷加奈子・坂本真弓・狭川和美・佐藤あゆち・重松康希・島田豊彰・清水美和・白河豊基・杉本厚典・高橋宏樹・手島美香・飛田浩一・深堀 茜・内藤晃子・中瀬古友佳・長友朋子・羽生夕紀子・廣瀬仁美・廣田紀子・藤木俊樹・淵井孝泰・穂積優子・細身祐介・堀 躍子・松本健一郎・三阪優子・水谷美智代・宮本純二・森岡かおり・森下恵美子・森下由美子・安井園絵・八津谷 都・山崎 誠・吉田泰士・吉田るみ・脇村有美・渡邊順子

平成7年度

阿部達雄・石井祐子・伊勢由佳子・井上 綾・上野由香・尾崎高宏・太田明美・奥村茂輝・神賀明子・川端佐和子・木戸久美子・小島孝修・小谷加奈子・杉本厚典・武島良寛・戸谷邦隆・中瀬古友佳・羽生夕紀子・廣田紀子・深堀 茜・淵井孝泰・堀 躍子・松本健一郎・丸 悦子・宮本純二・森下恵美子・安井園絵・八津谷 都・吉沢 貴・脇村有美

平成8年度

魚津知克・尾崎高宏・太田明美・木戸久美子・田畑直彦・那須浩介・羽生夕紀子・堀 躍子・宮本純二・森下恵美子・八津谷 都・吉沢 貴

平成9年度

魚津知克・小川友和・岡田圭司・岡田友和・尾田洋子・窪田瑞恵・倉西雅子・曾根 茂・高畑健・林 基光・藤薮勝則・堀 大輔・松野元宏・山本晃代

整理作業参加者(整理員)

平成5年度

明日礼子・荒川仁佳子・奥村美紗代・小澤和子・倉辻万里子・佐藤卓子・高山英美・竹内千賀子・竹内友美・田村重野・内藤チエ・長尾美恵子・西村敏子・長谷川マチ子・久平喜美子・村上優美子

平成6年度

明日礼子・荒川仁佳子・小澤和子・小原正美・倉辻万里子・佐藤卓子・高山英美・竹内千賀子・竹内友美・田村重野・内藤チエ・長尾美恵子・那須春美・西村敏子・長谷川マチ子・村上優美子・米澤裕子

平成7年度

明日礼子・荒川仁佳子・小澤和子・倉辻万里子・竹内千賀子・竹内友美・田村重野・内藤チエ・長尾美恵子・那須春美・西村敏子・長谷川マチ子・村上優美子・米澤裕子

平成8年度

明日礼子・荒川仁佳子・小澤和子・串田香奈子・倉辻万里子・竹内千賀子・竹内友美・田村重野・内藤チエ・長尾美恵子・那須春美・西村敏子・長谷川マチ子・村上優美子・米澤裕子

平成9年度

荒川仁佳子・大場弘継・梶原義実・川口和也・串田香奈子・倉西雅子・高田良太・関口睦美・田村重野・高橋文子・伊達優子・内藤チエ・長尾美恵子・中村美也・波岸初美・西村敏子・西

村美智子・長谷川マチ子・福島尚子・村上優美子・安田裕貴子・米澤裕子

平成10年度

荒川仁佳子・魚津知克・奥島かおり・倉西雅子・古賀友佳子・鈴木浩子・田村重野・高橋富子・伊達優子・内藤チエ・長尾美恵子・西村敏子・平林千佳・藤木句子・藤薮勝則・堀 大輔・松野元宏・村上優美子・安田裕貴子・山田隆志・吉田美穂・米澤裕子

平成11年度

荒川仁佳子・市川 創・魚津知克・川村真由美・下垣仁志・鈴木浩子・田村重野・高橋富子・寺尾貴美子・長尾美恵子・西村敏子・松野元宏・松村知也・村上優美子・安田裕貴子・吉田美穂・米澤裕子

平成12年度

荒川仁佳子・市川 創・魚津知克・小椋 恵・佐々木奈月・鈴木浩子・長尾美恵子・村上優美子・安田裕貴子・米澤裕子

年度別現地調査体制

平成5年度

調査期間 平成5年5月6日～平成6年2月25日

調査面積 延約3,100m<sup>2</sup>

調査体制 調査第2課課長補佐兼調査第4係長 平良泰久

調査第2課調査第4係主任調査員 戸原和人

調査第2課調査第4係調査員 竹井治雄・石尾政信・岩松 保・中川和哉・鍋田 勇

調査第3係調査員 岸岡貴英

平成6年度

調査期間 平成6年4月11日～平成7年2月27日

調査面積 延約11,250m<sup>2</sup>

調査体制 調査第2課課長補佐兼調査第4係長 平良泰久

調査第2課調査第4係主任調査員 戸原和人

調査第2課調査第4係調査員 竹井治雄・石尾政信・岩松 保・中川和哉・岸岡貴英

調査第3係調査員 森島康雄

平成7年度

調査期間 平成7年4月10日～平成8年2月28日

調査面積 延約14,880m<sup>2</sup>

調査体制 調査第2課課長補佐兼調査第4係長 平良泰久

調査第2課第4係主任調査員 戸原和人

調査第2課第4係主査調査員 竹井治雄

調査第2課第4係調査員 岩松 保・中川和哉・森島康雄・野島 永・岸岡貴英

## 平成8年度

調査期間 平成8年4月8日～平成9年2月28日

調査面積 延約14,480m<sup>2</sup>

調査体制 調査第2課課長補佐兼調査第4係長 平良泰久

調査第2課第4係主任調査員 戸原和人

調査第2課第4係主査調査員 竹井治雄

調査第2課第4係調査員 岩松 保・中川和哉・八木厚之・野島 永

## 平成9年度

調査期間 平成9年4月7日～平成9年10月16日

調査面積 延約7,220m<sup>2</sup>

調査体制 調査第2課課長補佐兼調査第4係長 平良泰久

調査第2課第4係主任調査員 戸原和人

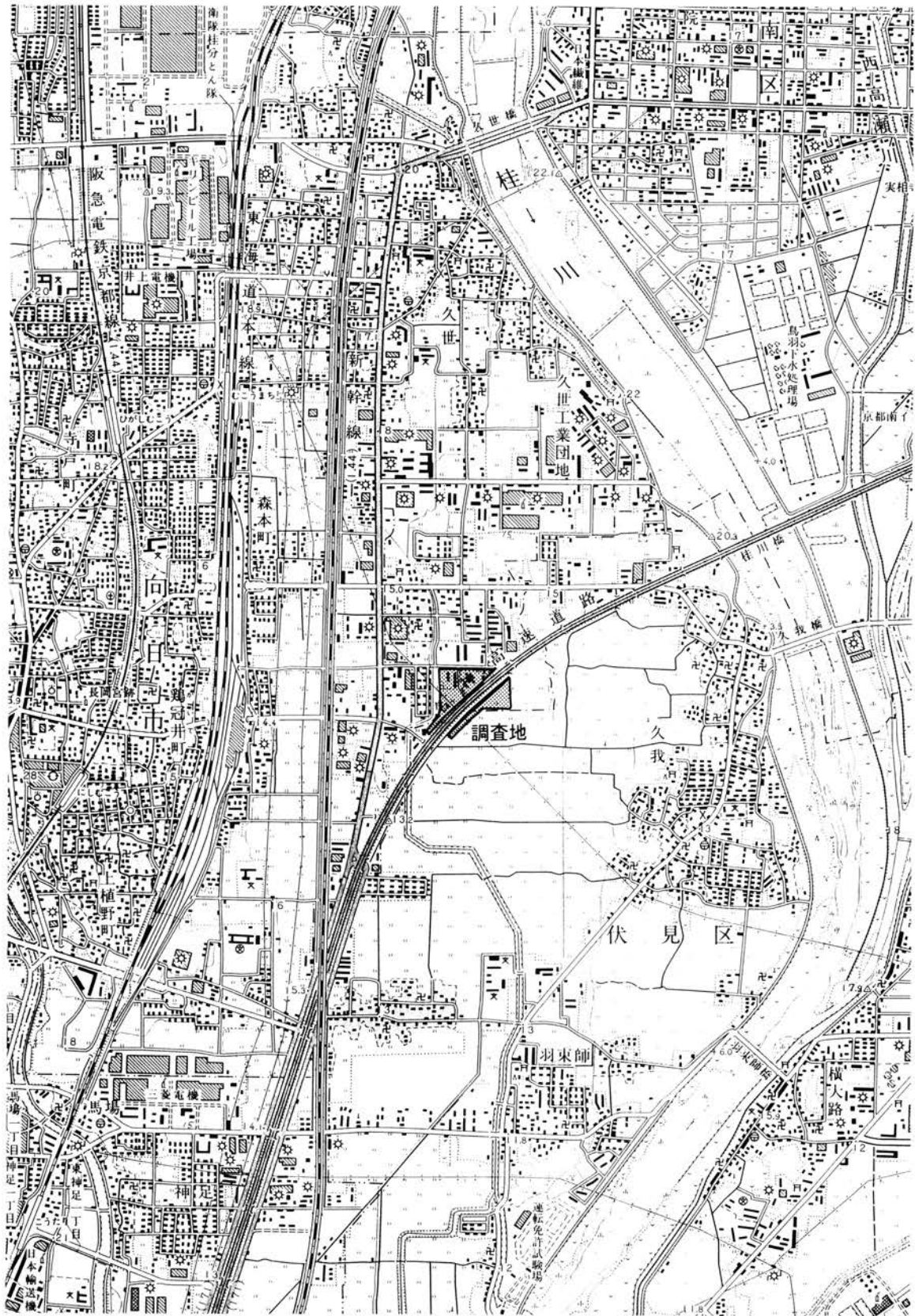
調査第2課第4係主査調査員 竹井治雄

調査第2課第4係調査員 岩松 保・小池 寛・中川和哉・八木厚之・中村周平  
・野島 永

## 第3節 各年度の調査概要(第4図参照)

平成5年度は、B-1 a・B-1 b・B-2 a・D-2 aの各調査区、名神高速道路下り本線拡幅部分の都合3,100m<sup>2</sup>の細長いトレンチ発掘調査を行った。B-1 a地区では、古墳時代の流路や二条四坊七町の宅地における掘立柱建物跡、平安時代に遡る南北素掘り溝などを検出した。B-1 b地区では、二条四坊二町における掘立柱建物跡や区画溝を検出した。弥生時代の細型銅剣を模倣した珍しい磨製石剣や、石庖丁などが出土した。B-2 a地区では、はじめて二条条間大路と東三坊大路路面を検出し、二条四坊三町における宅地外郭築垣や門、掘立柱建物跡・土坑などを検出した。

平成6年度は、A-1・A-2・A-3・B-2 b・B-3・B-4・B-5・D-2 bの各調査区、都合11,250m<sup>2</sup>を調査した。A-1・A-2地区では、弥生時代中期の方形周溝墓や、二条条間北小路と、二条四坊二町内の掘立柱建物跡をはじめとする各種遺構を検出した。二条四坊二町は、掘立柱を持つ柵あるいは塀によって南北2分の1町ずつに分割されていることが判明した。A-3地区では、二条条間大路と東三坊大路の交差点の一部側溝排水施設が検出され、東三坊大路西側溝から二条条間大路北側溝を東へ排水されることが推測された。また、二条三坊十四町もその東西の中央に南北溝が検出されたことから、宅地が東西2分の1に分割されることが予想された。B-2 b・D-2 b地区では二条条間南小路と二条三坊十四町の小規模な掘立柱建物跡を検出した。B-3・B-5地区では、沼状落ち込みから弥生時代の各種木器が大量に出土した。この他、二条四坊七町における掘立柱建物跡数棟と井戸などが検出された。B-3地区ではとくに二条条



第1図 調査地位置図(1/25,000)

間大路の検出とともに、長岡京期における大規模な溝が北東から南西にむけて掘削されていることが予想された。B-4地区では、二条四坊三町および六町の掘立柱建物跡、井戸などを検出した。D-2b地区では、二条条間南小路両側溝や二条三坊十三町宅地内の小規模な掘立柱建物跡を検出した。

平成7年度は、A-4・A-6a・A-6bの各調査区、都合14,880㎡を調査した。A-4地区では、弥生時代中期の方形周溝墓群がみられたが長岡京期、二条四坊二町の宅地ではそれほど顕著な遺構は検出できなかった。

A-6a・A-6b地区では、弥生時代中期の方形周溝墓群とともに水田遺構が広がっていることが判明した。A-6a・A-6b地区は、長岡京期において、二条三坊十五町の中心域にあたる。二条条間大路の北側、東三坊大路の西側に位置する二条三坊十五町は、1町規模を占有する宅地であり、その北東には前殿・後殿に脇殿を備えた建物配列がみられ、宅地の四周には築地が巡ることが判明した。出土遺物も周辺とは様相が異なり、奈良三彩小壺が宅鎮として埋納されるほか、風字硯や円面硯、黒色土器などが出土したため、高級貴族の宅地であると予想されるに至った。

平成8年度は、A-5・B-5b・B-8の各調査区、都合14,480㎡を調査した。A-5地区では、弥生時代の方形周溝墓群と水田遺構が検出された。二条条間大路とそれに面した二条三坊十五町の外郭築地と門が検出された。二条条間大路を挟んで南側の宅地、二条三坊十四町では、宅地が2分の1に分割されていたことが確定し、その西側の宅地では掘立柱建物跡や井戸など長岡京期の遺構が検出された。B-5b地区では、弥生時代の方形周溝墓群と、多数の石鏃や石剣の鋒が出土する周溝埋葬主体を検出した。壮絶な弥生の戦士を彷彿とさせる遺構としてマスコミにも取り上げられた。B-1a地区から続く古墳時代の流路は幾度も氾濫を起こしたらしく、多くの古墳時代の土器など多量の遺物を内包していた。長岡京期では、二条四坊七町にあたる。主殿格の東西棟の建物跡を検出した。母屋の側柱が礎石建ちになっていた可能性がある。水路として利用されたと思われる幅5mの大溝が宅地の南東を南流しており、その護岸施設や船着のためと考えられる方形土坑を検出した。B-8地区では、弥生時代、B-5b地区から続く方形周溝墓群がみられた。二条四坊六町の宅地の主要建物や井戸を検出し、2分の1町規模で西半が占有された可能性が認められた。また、平安時代以降中世に至る井戸を検出し、当該地域における編年上、良好な一括土器資料を得ることができた。

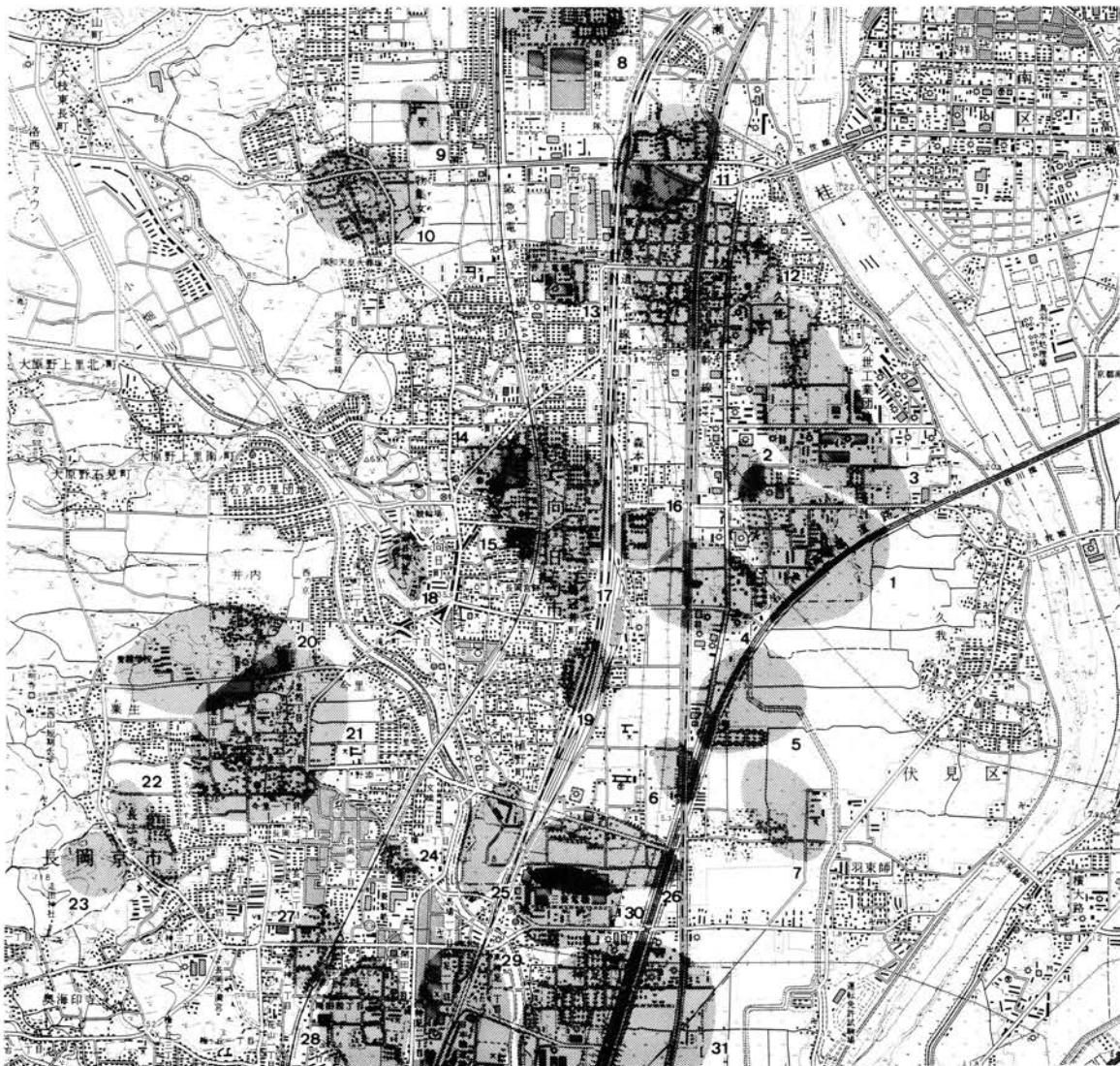
平成9年度は、B-6・B-7の各調査区、都合7,220㎡を調査した。二条条間大路と二条四坊六町の宅地内の諸遺構を検出した。六町も西半のみ2分の1町の宅地利用であり、掘立柱建物が数回建てかえられた様相を把握することができた。平安時代前期には、二条条間大路北側溝埋土上に埋納された「福」と陽鋳された銅印や、井戸の水溜めに利用された櫃など、貴重な遺物を見つけることができた。

## 第4節 遺跡の環境

### (1) 地理的立地と弥生時代の集落動向(第1・2図)

東土川遺跡の所在する乙訓地域は、古来から東方に桂川が南流し、木津川と合流して山崎から淀川となって難波に流下する水運の発達した地域である。丹波古成層群を基盤とする京都盆地南西の西山丘陵から東に、大阪層群よりなる低丘陵(向日丘陵)と桂川によって形成される河岸段丘面が形成される。河岸段丘の東方には、桂川の氾濫とともに沖積層を形成しつづけた沖積地があり、本調査地は、桂川右岸から1km、標高12m前後の地点に位置する。

北部九州に一足早く渡来した水稲耕作の体系的技術は、瀬戸内海を経て、大阪湾から淀川を北上して、乙訓地域の縄文時代晩期の社会構造の変容を促した。乙訓地域における弥生時代の幕開けは、雲宮遺跡として跡付けられる。1万㎡を超える面積を二重の環壕によって圍繞したこの集落は、その当初から農耕社会の体系的技術が埋め込まれた経済活動によって、その社会構造を再生産し始める。佐原 眞による雲宮遺跡出土前期弥生土器の研究(佐原1967)は、後の弥生土器研



第2図 弥生時代の遺跡分布図(1/40,000)

- |          |          |           |         |          |         |        |         |
|----------|----------|-----------|---------|----------|---------|--------|---------|
| 1. 東土川   | 2. 東土川戊亥 | 3. 大藪     | 4. 鶏冠井  | 5. 鶏冠井清水 | 6. 芝ヶ本  | 7. 羽束師 | 8. 下津林  |
| 9. 西ノ岡   | 10. 中海道  | 11. 上久世   | 12. 中久世 | 13. 修理式  | 14. 岸ノ下 | 15. 森本 | 16. 石田  |
| 17. 内裏下層 | 18. 北山   | 19. 沢ノ西   | 20. 井ノ内 | 21. 今里   | 22. 長法寺 | 23. 谷山 | 24. 明星野 |
| 25. 吉備寺  | 26. 鴨田   | 27. 開田城ノ内 | 28. 開田  | 29. 神足   | 30. 馬場  | 31. 雲宮 |         |

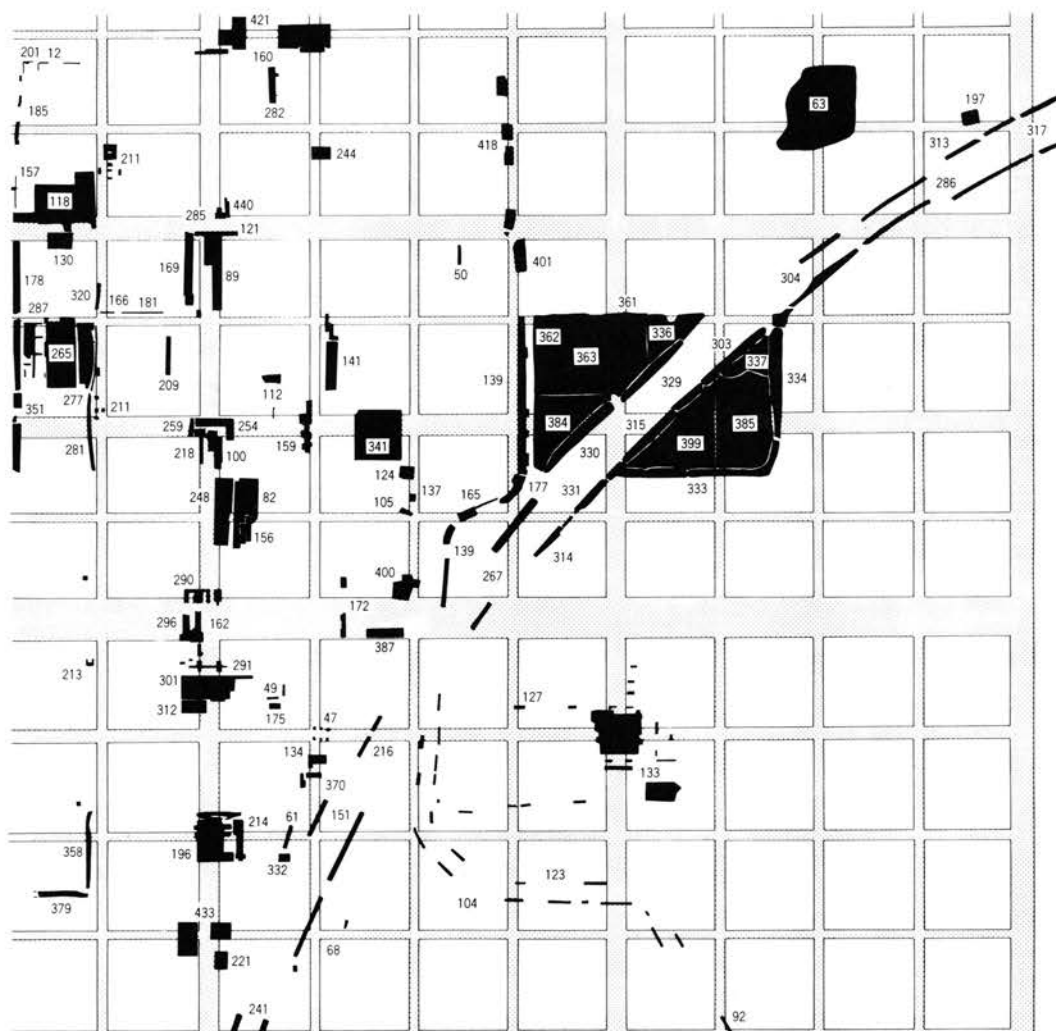


究と社会変容に対する基底的視点を持ち、学史に名高い成果となった。中期以降、雲宮遺跡は衰退し、人々は西方の神足遺跡にその居住域を移したようである。中期前葉までには、本調査地である東土川遺跡や鶏冠井清水遺跡・石田遺跡など、小集落があいついで存立し始めることとなる。この間に農耕共同体の祭祀を司るために使用された銅鐸などの青銅器生産を行う拠点集落として、鶏冠井遺跡や森本遺跡などが中核的集落として伸張する。これらの大集落は、水利権の仲裁などを通して、あるいはまた青銅器生産を独占し、農耕祭祀の主導権を掌握することで、小集落への統率を深めつつ、重層化した社会関係を結び始めたのではないかと思われる。しかし、弥生時代後期にはこれらの大集落は衰退の一途をたどり、かわって本調査地北方の上久世遺跡・中久世遺跡・大藪遺跡など、乙訓地域の北東の広範囲に中核的集落が展開していったものとみられる。桂川右岸の微高地を中心に展開した集団は、河川による広範な移動手段を生かし、鉄素材などの入手のために遠隔地との交易を通じて広域の集落間ネットワークを構築していったのであろう。とくに大藪遺跡では、近年、弥生時代後期の環壕や、吉備系土器をもつ方形周溝墓、一辺11mを超える巨大竪穴式住居跡などが見つかり((財)京都市埋蔵文化財研究所1998)、その大集落の様相が徐々に明らかになりつつある。

## (2)長岡京における位置関係(第3図)

延暦3(784)年、桓武天皇によって長岡京造営が始められる。『続日本紀』延暦7年の9月庚午条に「水陸有便、建都長岡」とあり、水陸交通の要地として遷都されたと公言されるとおり、この地の南東方には北流する木津川と南流する桂川の合流をみ、南方には乙訓南限となる峡谷部を流れ、難波に向かう淀川の水運を利することができる。現在の行政区域では、京都市・向日市・長岡京市・大山崎町に広がり、宮城は眺望の良い低丘陵(向日丘陵)の段丘面に位置している。本調査地は、長岡京の北東部、長岡宮の東にあり、長岡京の条坊復原案(山中1992a)によると、宮城東面街区、第2次内裏の東方、二条条間大路と東三坊大路の交差する地域となり、二条三坊十二町・二条三坊十三町・二条三坊十四町・二条三坊十五町・二条四坊二町・二条四坊三町・二条四坊六町・二条四坊七町の各宅地にあたる。調査面積は5万㎡を超え、長岡京の調査では最も広大な区画を調査したことになる。本報告で後述するように二条三坊十五町は宅地の大半の調査を行い、1町規模の構造を明らかにした。近辺は1町あるいは2分の1町規模の宅地が主体であり、比較的大規模な掘立柱建物跡などが検出される。

本調査地の西方に位置する左京二条二坊八町は、鑄造施設を持つ金属工房を現業とする宮外官司と考えられており、某政所、勅旨所と推定される宮外諸司が東西に並ぶ官衙町を形成する(山中1997a)。二条二坊十町では、内郭に囲まれた正殿・後殿・脇殿・八脚門などが、整然とした配置で検出された。二条三坊三町では、「車宅」墨書土器の出土から、中級官僚を輩出する車持氏の邸宅とみられる(清水1986b)。また、調査地の北方、左京一条三坊八・九町では、木簡を含む多量の木製品が流路から出土した。長岡京造営のための木材陸揚げ地に比定され、大堰川上流の丹波国の杣など多くの地域からの資材搬入地として機能したことが判明している(百瀬・長宗他1997)。

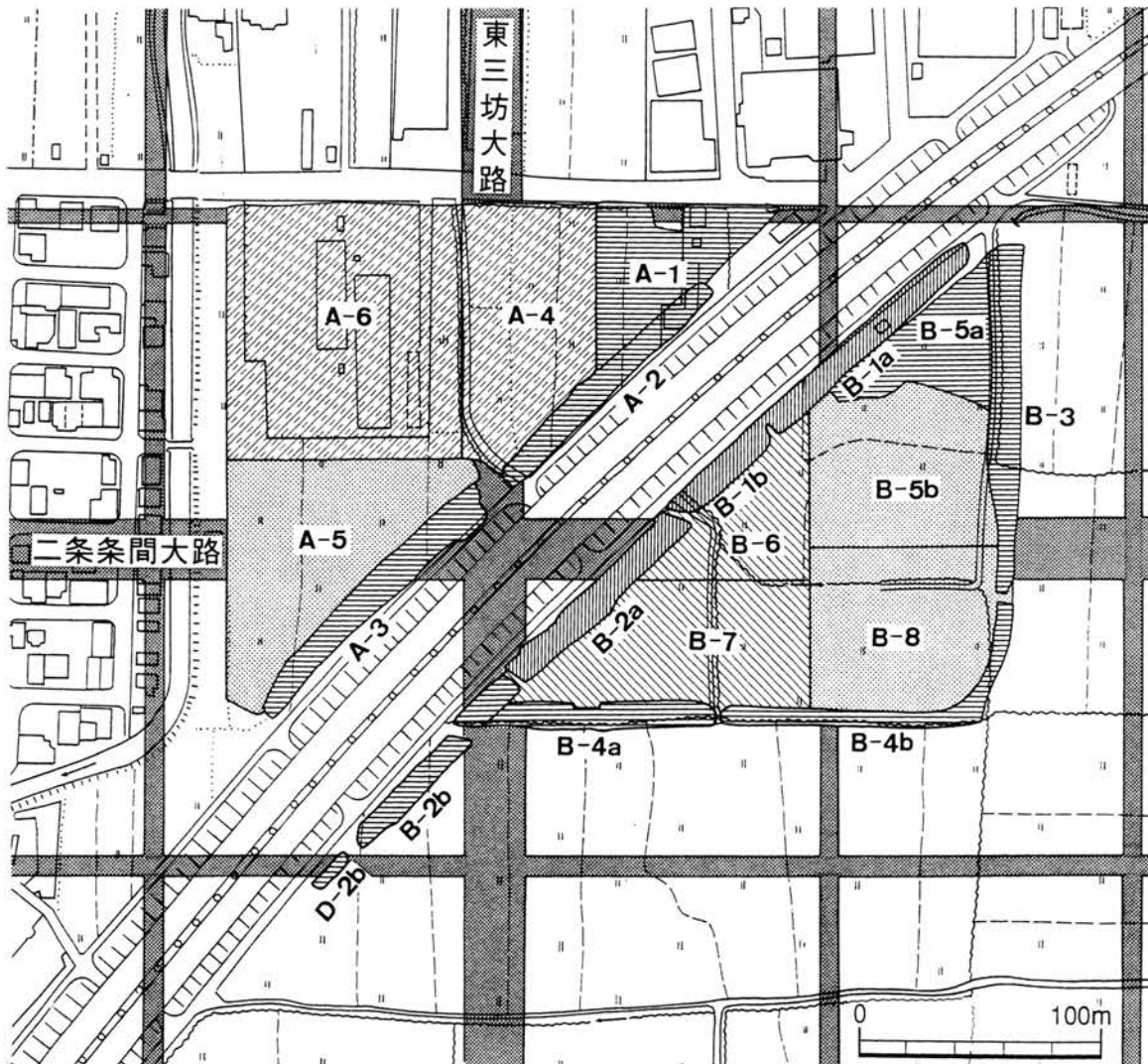


第3図 長岡京宮城東面街区における調査位置図（数字は調査回数）

### (3) 平安時代以降の歴史的環境

乙訓地域においては8世紀中頃には、条里地割の施行が想定されているが、小字界など現状の遺存地割は、長岡京廢都後の条里地割再施行の名残りと思われる(金田1978・1986)。条里坪付の文献上の初見として貞観4(862)年、10月15日の太政官符案(『平安遺文』第134号)がある。藤原良房が、故左大臣と故川辺女王の所有していた乙訓郡八条榎小田里33坪・同衾手里4坪などの土地を貞観寺田とさせた文書である。文献にはみられないが、故左大臣とは桓武天皇の寵臣藤原緒嗣であり、緒嗣に下賜された土地が伝領されたものであったことが推量されている(山中1997b)。9世紀における班田収授の行き詰まりと、条坊地割による田地下賜と条里地割の再施行による乙訓郡の土地所有関係の複雑化を推測でき、当該地域における律令土地制度の崩壊の一端を物語る史料でもある。

『和名類聚抄』によると、桂川右岸一帯の郷名として「訓世郷」とあり、本調査地から北方一帯は久世荘の一部であった。建武3(1336)年には、足利尊氏が久世荘の地頭職を東寺鎮守八幡宮に寄進してから、東寺の一円支配が始まる。本調査地の所在する東土川に関しては、応永7(1400)年の「西山參詣寺当知行山城国寺領目録」(『三詣寺文書』)に「土川名田四段」とみえる。



第4図 調査地区位置図

「久我領并諸散在田数指出帳」(『久我家文書』)では、「東土河分」として30筆8町1反270歩の田地が記載されており、中世以降も複数の荘園領主が存在する複雑な領有関係をもつ入組散在荘園の様相を継続していたとみられる。

15世紀後半には、乙訓地域の諸郷の国人層の団結の結果、合議体制による惣国が出現した。がしかし、荘園領主の検断権の一部が荘内において執行される場合もあったが、基本的には荘園領主層や守護から脱却した南山城国人層にみられた独自の財政と執政機関による支配とは異なる様相であったと言われる(玉城1986)。九条家文書として伝わる室町時代の乙訓郡条里坪付図をみると、当該地域には、北東から南西へ斜行して走る境界道、久我縄手が走り、その周囲は整然とした方格地割が広がっていたことを示している。本調査地もその大半が中世以降、水稻耕作地となり、その水田風景を著しく変えずに現代に至ったものとみられる。

## 第2章 古墳時代以前の検出遺構

### 第1節 弥生時代の検出遺構(第5図)

#### (1)環壕・溝

流路S R303016 B地区北端、北西から南東に向かって流れる流路あるいは湿地状遺構である。検出面での幅にして約10m・深さ50cm～1.2mを測る。堆積土は、大きく3層に分けられ、上層は暗灰色粘質土、中層は灰色粗砂、下層は暗褐色腐植土である。埋土から縄文土器(1)・弥生土器(2～5・7～13・15～18・20・22～25)や又鍬・鋤・鍬・タモ・杯・椀など多種にわたる木器(1～77・121)が出土した。先端を円錐状に加工した直径15cmほどの丸木杭などともに混在しており、二次的な堆積と考えられる。土器は畿内第Ⅳ様式を中心とし、Ⅲ様式あるいはⅤ様式前半の土器もみられる。また、石庖丁未成品や太形蛤刃石斧(89～91)なども出土している。

溝S D337007(図版第7-2) B地区北端、流路S R303016の南辺にそって検出された弧状の溝である。幅30cm、検出面からの深さ20cmの浅い掘りこみとなる。

溝S D334011 B地区北端、流路S R303016の北に位置する蛇行する溝である。幅1.5～2.0m、検出面からの深さ40cmで、断面形状は「U」字状となっていた。弥生中期土器片が出土しており、溝S D337007および溝S D337010に一部並行することから弥生時代中期の遺構の可能性が高い。

溝S D334012 後述する溝S D337010に東接し、屈曲する小さな溝である。幅1.1m・検出面からの深さ10～20cmを測る。溝S R303016の掘削中に検出したため、溝S R303016が埋没しつつある段階で掘削されたものと思われる。埋土から弥生後期土器片が出土した。

溝S D337009 B地区北東端、溝S D337010の西側で検出した、削平された溝の残存である。幅1.1m、検出面からの深さ40cmを測る。断面形状は逆台形を呈する。S R303016と同様の堆積状況で、暗灰色粘土の埋土からは弥生中期土器細片が出土した。

溝S D337010(図版第7-1) 北から南へ流れ、B-3地区で南東に屈曲する。幅3～4m、検出面からの深さは北辺で50cm、南半で30～40cmを測る。堆積土は、2層に分かれ、上層が腐植土混じりの暗黒灰色粘質土、下層が淡灰色砂層である。底には杭があり、護岸の施設とみられる。上層から弥生後期の土器片が出土している。

溝S D303012(図版第7-3・4) B地区北東、流路S R303016の南西掘形に平行するように弧状に掘削された溝である。幅は1.5m前後、検出面からの深さ50～60cmを測り、横断面は「U」字形を呈する。櫛描文と波状紋によって胴部を施文する細頸壺(6)と口縁端部が拡張して跳ね上がる高杯脚部(14)がみられる。また、石庖丁(127)のほか、各種剥片等(87・88)もみられた。

溝S D303012と流路S R303016は、約7～8m離れた位置にあるが、ほぼ並行しており、両者の間が土手、あるいは道路空間などであったと推測される。



第5図 奈良時代以前の検出遺構 (1/1,000)

溝 S D 336012(図版第 7-5) A 地区北東端、北西から南東に向かう幅 2.6m・深さ 50cm の溝である。横断面はゆるやかな「U」字形を呈する。検出したのは 15m あまりであったが、埋土内に炭化物や焼土とともに多量の弥生土器が遺存していた(26~148)。横断面は大きく 3 層に分けることができた。下層(7~12層)は、もっとも多くの土器(26~45・47~92・94~100・111)を含んでいた。土層は、粘質で、水平堆積に近く、自然埋没の経過を示しているようである。中層(4~6層)では、4 層に炭、6 層に焼土が多量に遺存していた。土器(101~107・109・110・113~124・126~130)には、二次的な焼成がみられなかったことから、火災による遺棄と考えるよりも、何らかの人為的な火の使用後に土器とともに炭や焼土塊が廃棄されたと考えられる。上層(1~3層)は、暗紫灰褐色で土質・土色が均一で故意に埋めたものとみられる。土器はわずかししか出土しなかった(131・132)。中層と下層の間に不整合がみられることから、ある程度の自然埋没の後、再度「U」字形に掘削された溝内に焼土や炭・弥生土器等を廃棄し、後に溝全体を故意に埋めた可能性が高いとみられる。ほかに各種石器・剥片(66~79)が出土した。

溝 S D 336013 A-1 地区で検出した。北西から南東に弓なりに掘削される。検出面での幅約 40cm・深さ 20cm、横断面形は箱葉研を呈する。図化する出土遺物にはサヌカイト剥片(84~86)しかないが、弥生土器細片が出土している。

溝 S D 303015 B-1 a 地区で検出した。検出面での幅 1 m あまり、深さ 30cm 前後、横断面「U」字形を呈する浅いものであったが、弥生土器(152~159・215)が南西端付近で出土した。甕や甕の蓋など煮沸容器が主体である。

溝 S D 303014 B-1 a 地区、溝 S D 303015 の南西側で検出した削平された溝の残存と思われる。幅 65cm、検出面での深さ 15cm、断面形状は「U」字型の溝で全長 8 m を検出した。弥生時代中期の甕(151)が正立した形で検出された。他に弥生土器甕・壺(149・150)などが出土した。

環壕 S D 303011(図版第 7-6~8) B 地区北辺で検出した。断面は「V」字形に掘削される。中央付近で幅 1.9m・深さ 1.3m を測る。周辺の長岡京期遺構の削平からすれば、幅 3 m・深さ 2 m 近くになるものとみられる。遺物には、各種弥生土器(160~172)のほか、剥片(80)・柱状片刃石斧(81)・石弋(83)・石庖丁未製品(82)などが出土している。

溝 S D 303010(図版第 7-11) B 地区北部、環壕 S D 303011 の南側で検出した。西から東に向かい、環壕 S D 303011 が埋没する過程で、掘削されたとみられる。検出面での幅 3 m 足らず深さ 1 m あまりで、横断面が逆台形を呈するものであった。環壕と考えられる S D 361168 と溝 S D 361162 のどちらかに接続する可能性が高いことから、本遺構も環壕の可能性がある。弥生土器(19・21・173~176)がみられ、弥生時代中期後葉以降の埋没と考える。

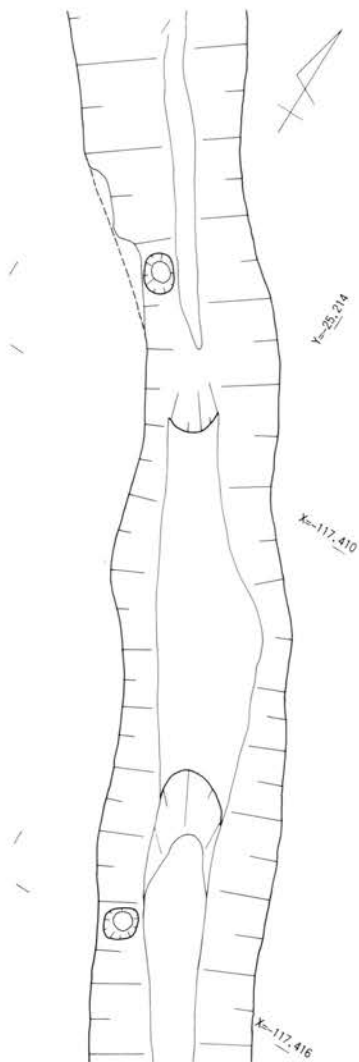
溝 S D 303013 B-1 a 地区、溝 S D 303010 の南側に派生する小規模な溝である。南東側で古墳時代の溝 S D 303009 に削平される。弥生土器(177~179)が内包されていた。検出長 5 m あまり、幅 60cm、検出面での深さ 30cm 前後となる。

環壕 S D 361168(図版第 7-9・10) A 地区北東において、北西から南東にやや弧を描いて掘削される。全長 30m あまりを検出した。後述する環壕 S D 361162 と平行し、「V」字形の横断面

を呈していることから、集落を囲んだ溝と考える。北西部では、幅1.7m・深さ70cm程遺存していたが、古墳時代中・後期に形成された自然流路によって南東部を削平されている。上部には砂質土、下部には粘質土が堆積していた。埋土からは弥生中期土器細片が少量出土したのみで、図化しえる資料はない。S D329009出土弥生土器(229~233・235・237~239)は、本環壕に伴うものとする。

**環壕 S D361162**(図版第7-12~14) A地区北東、環壕 S D361168の南西側に平行し、北西から南東にやや弧を描いて掘削される。同様に横断面「V」字形を呈し、幅約3.0m・深さ約1.2m遺存した。砂質土と砂礫土が堆積する。溝の北西端は、方形周溝墓 S T361160の南東隅に取り付く。堅緻な礫層を掘削して造られているが、横断面が逆台形になるように故意に浅く掘削された部分があり、その両端にやや長方形に近い隅丸方形の掘形を持つ柱穴が2基確認されたため、環壕内への入口施設があったと想定できる(第6図)。柱穴の距離は約8.8m、柱穴掘形は一辺40×50cmであった。検出面から約20cm前後であったが、柱痕は認められなかった。

**溝 S D361176** A地区北東、弥生時代の環壕 S D361162と溝 S D361174に囲まれた部分を北東



第6図 環壕 S D361162  
入口想定部分

から南西に蛇行する溝である。B地区には溝 S D361176に連続すると考えられる遺構が想定しがたいが、溝 S D361174と合流する可能性もある。断面形は、中央部が一段、深くなる形状を示している。溝内から図化しうる遺物はみられなかった。

**溝 S D363104**(図版第8-16) A地区中央北端、方形周溝墓 S T363113に北西から連結する溝である。おそらく方形周溝墓 S T363113に向かって伸びる溝であろう。検出面での幅1.6~2.8m・深さ20cm前後となる。溝 S D361174と同時期、あるいはそれらの埋没までに掘削されたものとみられる。埋没後方形周溝墓 S T363106によって掘削される。浅い溝の南西側肩部から細頸壺など(262・264)が出土した。

**溝 S D363111**(図版第2) A-4地区とA-6b地区境界北側で検出された2基の方形周溝墓を中継する溝と考えられる。方形周溝墓 S T363113の北側に接続する方形周溝墓推定西辺周溝の可能性も考えられるが、溝 S D363111が明瞭に検出されたのに対して、東辺周溝に相応する位置に周溝痕跡さえ検出し得なかったことから、単独の溝として報告する。検出面での幅1.65m・深さ0.8~1.0mを測る。断面形状は逆台形を呈しており、約11mにわたって検出した。溝 S D363111の北端と南端における埋土最下層部分の切りあい関係の断面観察からは、それぞれ方形周溝墓 S T363112南辺周溝、方形周溝墓 S T363113の北辺周溝によって掘削されており、両者の周溝掘削以前に掘削されたとみられる。溝の

南側から小形広口壺が出土した(250)。方形周溝墓S T 363113と同じく、淡灰色粒混暗黄灰色土が溝の東側で認められたので、盛土の可能性を考え、これを除去して精査をしたが、明確な主体部は確認できなかった。また、遺物の出土も認められなかった。

溝S D 361174 A地区中央北、方形周溝墓S T 363113の南東隅からはじまり、南東方向に向かう溝である。断面は、逆台形を呈し、検出面での幅は1.7m・深さは1.0mを測る。出土遺物には、時期を特定できるものはなかったが、方形周溝墓の屈曲部分から溝が始まっていることから、方形周溝墓の溝の掘削時か、それが埋没するまでに掘削されたと考えられる。

#### (2) 方形周溝墓(図版第1～第4)

方形周溝墓は、16基以上を確認したが、後世の削平が著しかったためか、そのすべてにおいて中心埋葬主体は検出できなかった。

方形周溝墓S T 329011(図版第1) A-1・A-2地区で検出した。攪乱によって随所で破壊されている。正確な規模は不明であるが、墳丘はおおよそ9.6m×6m前後で周溝幅は約1.2～1.8m程である。溝の最深部は検出面から約30cmであるが、周溝の四隅は10cm程に浅くなる。南東辺周溝と北東辺周溝から弥生土器底部(225・226)が出土した。

方形周溝墓S T 336014(図版第1) A-1地区で検出した。方形周溝墓S T 329011に接続する弥生時代中期の方形周溝墓で、おおよそ5.8m×5.3mの墳丘に幅1m足らずの周溝が方形に巡る。周溝の最深部は、検出面から15cm程度でかなり削平されたと思われる。北東辺周溝底部に接して横転した状態で弥生土器甕(223)が出土している。方形周溝墓S T 329011北西辺周溝と同方形周溝墓S T 336014南東辺周溝は、切り合い関係を持たずに共有しており、両者は土層観察から同時期に埋没したものとみられる。

方形周溝墓S T 337011(図版第1) B-5地区で検出した方形周溝墓である。東辺周溝が検出されなかったが、一辺約7～8m前後の方形周溝墓と考えられる。周溝幅は80～100cm、深さは10～20cmと浅く、削平が著しいことを示している。南辺周溝埋土から弥生土器細片が出土した。

方形周溝墓周溝S D 337012 方形周溝墓S T 337011の東側に位置する東西方向の溝である。方形周溝墓の南辺周溝の残存であると考え。幅80cm～1m、検出面からの深さは10cmで、溝の断面形状は、浅い「U」字状を呈していた。

方形周溝墓周溝S D 385623 B地区中央北端、古墳時代の流路S D 303007とS D 303008の間で検出した周溝の残存部である。溝の埋土および近辺からは弥生中期の器台など(208：S D 303007出土破片と接合・265)が出土した。

方形周溝墓S T 363113(S D 361123)(図版第2・6) A-4地区とA-6b地区境界北側で検出された方形周溝墓である。墳丘は、南北約17m・東西約15m、周溝の幅は1.5～1.8m・深さ0.75～1.0mを測る。北辺周溝では、横断面が半円形状をなしているが、東・南辺周溝の断面形状は逆台形を呈している。断面観察により、方形周溝墓S T 363113の西辺周溝は、溝S D 363111の南端を再掘削して築造したものと推測される。遺構検出面では、周溝内部、墳丘部分には淡灰色粒混暗黄灰色土が堆積していた。この土層が周囲の同一レベルの土壌と異なり、盛土の可能性があ



った。そのためこの層を20cm程度掘り下げて除去し、主体部の検出に努めたが、埋葬主体は確認できなかった。また、墳丘盛土と考えられた淡灰色粒混暗黄灰色土層からは遺物は全く出土しなかった。南辺周溝の中央からやや西にかけての溝底からは、弥生土器片が集中して出土したが(249・251～259)、打製石鏃(92・93)などが出土した。西辺周溝底からは、埋葬主体と考えられる遺構を検出している(図版第6)。溝底で検出した土坑は、長辺1.2m・短辺45cmで、検出面からの深さは10～25cmで底面は明確な平坦面を持つようにはみえなかった。

方形周溝墓S T 363112(図版第2) A-4地区とA-6b地区境界北端、溝S D363111に北接する方形周溝墓である。北半部分は調査区外に延びる。墳丘は東西約12m、南北確認部分で8mを測る。溝の幅はおおよそ1.3～1.4m前後で検出面からの深さは50～70cmを測る。周溝南東隅埋土出土の無頸壺(248)以外、遺物はほとんど見つからなかった。

方形周溝墓周溝S D 361161(図版第2) 方形周溝墓S T 361159の西辺周溝であるが、幅が極端に減じており、幅約1m、検出面からの深さも方形周溝墓S T 361159南辺溝と比べて浅くなる。周溝内から遺物は出土しなかった。

方形周溝墓S T 361159(図版第2) A-4地区とA-6b地区境界北端、方形周溝墓S T 363112に東接して検出した方形周溝墓で、北半部は調査地外にのびる。墳丘は、東西約12m、南北は現存約8mで、溝幅約1.7m前後、検出面からの深さ約1mを超える。溝の断面はゆるやかな「U」字形を呈している。周溝内から、長頸化した広口壺(240)・底部(243・244)や、打製石鏃(94)などが出土した。

方形周溝墓S T 361160(図版第2) A-4地区とA-6b地区境界北端、方形周溝墓S T 361159に東接する方形周溝墓である。東西約13m以上、周囲の溝は幅約2.2m・深さ約1.0mとなる。東辺周溝は、近世以後の攪乱によって形状は不明である。周溝内から甕や底部片など(241・242・245～247)が出土した。

東西に並ぶこれら3基の方形周溝墓は、遺構検出面の切合い関係から、西から東へと順に溝が掘られていることが推測された。方形周溝墓S T 361160の南辺周溝は断面観察の結果、環壕S D 361162が埋まったあとにも掘られているなど、周溝の再掘削も認められ、周溝検出面の切合いによる前後関係は必ずしも築造順序を反映しないことがわかった。

方形周溝墓S T 363106(図版第2) A-6b地区北端、上述の方形周溝墓群の西側で検出した。溝の隅角が浅くなっていることから、方形周溝墓の残欠と判断したが、周溝辺が45°傾いていることや、周溝の深さが20～30cmと浅いことから、東側の方形周溝墓群とは築造時期が異なると予想された。南西辺周溝は、古墳時代の溝が重複しており、その幅は明瞭ではないが、南東辺周溝は幅1.7m前後で、断面皿状の形態を示している。溝に区画された墳丘は、一辺約15m程度あったと推定される。周溝内からは有段口縁の大形壺や水差し、細頸壺(260・261)などが出土している。

方形周溝墓S T 385619(図版第3・6) B地区中央東側、南西辺と南東辺周溝の溝底部分のみ検出した。検出面から周溝底部までの深さはわずかに10cm程度であったが、南西辺周溝底部から近江系甕(266)、広口短頸壺(267)、口縁が「く」字に外反する甕(268)、底部(269)などが土圧に

よって押しつぶされた状態で出土した。南西辺周溝の底面には埋葬主体と考えられる木棺痕跡が認められた(図版第6)。全長1.35m・幅58~53cm、内法長さ1.20m・幅40cmの小規模な組合式木棺と考えられる。墓壙底面長辺と小口部分の隅角に板材を設置するための細長い掘り込みを行った後に墓壙掘形側辺に木棺側板を設置し、短辺部分の小口板を両側板で挟み込む。中央底面付近から、石剣身1点、石剣鋒5点、石鏃11点、石鏃や石剣の鋒細片が多量に出土した(1~32)。木棺の北西側には、長さ38cm・幅60cmの墓壙空隙があり、底面には酸化鉄と考えられる暗赤褐色の土壌がみられた。土壌の酸化鉄かベンガラが遺存したものかどうかは後述する蛍光X線分析によっても明確にはしなかったが、墓壙底空隙の中央部分にのみ認められたことを考慮すれば、ベンガラが遺存した蓋然性は高いといえよう。

方形周溝墓S T 385614(図版第3・6) B地区中央東側、方形周溝墓S T 385619の南側で検出した。南北13.7m・東西10m程の長方形の墳丘形態で、周溝の幅は80cm~1.3mを測る。主体部は、削平され、遺存していなかったが、東辺周溝の北側で埋葬施設を検出した(図版第6)。木棺痕跡などは確認できなかったが、周溝の底面をさらに掘削して、長さ1.4m・幅50cmの隅丸長方形の墓壙としている。南辺周溝からは、摂津系の水差し形長頸壺(271・272)、底部(270)などが出土している。

方形周溝墓S T 385615(図版第3) 方形周溝墓S T 385614の南側に接続して東辺と西辺の周溝を検出した。墳丘は南北11mあまり、東西9.5m程で、正方形に近いプランを持つ。おそらく方形周溝墓S T 385614南辺周溝を北辺周溝とし、南辺周溝を方形周溝墓S T 385616北辺周溝と共有しているものと思われる。東辺周溝中央付近から小形の広口壺(273)、甕および底部(274~276)などが出土した。また、周溝埋土から蛤刃石斧原石(164)かと考えられる一部研磨された棒柱状の閃緑岩が出土した。

方形周溝墓S T 385616(図版第3) 方形周溝墓S T 385615の南側に接続して西辺と南辺の周溝の一部を検出した。南北11.9m・東西9m以上となる方形周溝墓である。北辺周溝は、方形周溝墓S T 385615の南辺周溝として共有される。西辺周溝中央から、プレ・タイプの水平口縁の高杯(280)が出土しているほか、底部(281・283・284)などがあつた。

方形周溝墓周溝S D 385336(図版第3) 方形周溝墓S T 385616の東側で検出した。当初、方形周溝墓S T 385616東辺周溝が検出できなかったため、東辺周溝としていた南北方向の溝である。検出長4mあまり、幅85~140cm、検出面からの深さ40cm以上を測るもので方形周溝墓S T 385616の周溝掘形とは異なる断面形状である。各種弥生土器(277~279・282・285)が出土した。

方形周溝墓S T 399602(図版第1) 方形周溝墓の北・西・南辺の周溝の一部を検出した。西辺9.8m・南辺10.4mあまりになる。著しい削平のため、中心主体部は遺存しない。北辺周溝から、口縁部を円形浮文によって加飾した広口壺(287)や皿状の杯部を持つ高杯など(286)、壺底部(290)など後期中葉以降の弥生土器が出土した。

方形周溝墓周溝S D 399607(図版第1) 調査区中央東半、二条条間大路南側溝S D 330002南辺で検出した。残存長6.0m・幅80cmが遺存する。検出面からの深さは20cm前後で、出土遺物はほ

とんどみられなかったが、方形周溝墓 S T 399602 周溝同様の埋土から、方形周溝墓周溝の一部と判断した。北側の掘形を二条条間大路南側溝 S D 330002 南掘形が切り込んでおり、溝の底面幅は若干広がる模様である。

方形周溝墓周溝 S D 399609 (図版第 1) 調査区中央北半、北西から南東に、残存長 2 m・幅 1.2 m、検出面からの深さ 20 cm 程度のわずかな溝を検出した。方形周溝墓 S T 399602 西辺溝と並行することからも、方形周溝墓周溝残欠とみられる。遺物は出土していない。

方形周溝墓周溝 S D 399610 (図版第 1) 調査区中央、溝 S D 399607 の北側 6 m あまりの地点で溝 S D 399607 に並行する。残存長 4.5 m・幅 60~80 cm、検出面からの深さ 15 cm に満たない。溝 S D 399610 と溝 S D 399607 を南北両辺とする方形周溝墓の可能性も考えられる。

方形周溝墓周溝 S D 399611 (図版第 1) 調査区中央西半部分で検出した「く」字に曲がる溝。残存長 8 m あまり、幅 60 cm 前後、検出面からの深さ 13 cm 前後を測る。方形周溝墓の周溝残欠と考える。

方形周溝墓 S T 384115 (図版第 4) A 地区南西端、微高地の北縁辺で検出した方形周溝墓である。北西・北東辺周溝が遺存していたのみで、主体部は検出できなかった。北辺周溝の幅は約 2.4~3.2 m だが、北東辺周溝の幅は最大 4 m と幅広く掘削されている。検出面からの周溝の深さは 50~80 cm を測る。この北東辺周溝の南東端は急激に浅くなって終わるため、周溝はもともと全周していなかった可能性がある。墳丘は東西の幅が 11.4 m を測る。南北幅は、方形周溝墓 S T 384114 の北辺までを墳丘と捉えると、同じく 11.4 m を測り、ほぼ正方形となる。北東辺周溝からは、口縁内面に突帯を巡らす広口壺 (298) や近江系の内折した口縁をもつ細頸壺 (299) が出土した。

方形周溝墓 S T 384114 (図版第 4) A 地区南西端、方形周溝墓 S T 384115 に南接する。墳丘部は南北 9.8 m・東西 10.1 m のほぼ正方形となり、四周に周溝が巡る。南西辺周溝は 2.3~3.2 m と幅広に掘削されているが、それ以外の周溝幅は 1.3~2.0 m 程である。検出面からの周溝の深さは 70 cm 以下である。北西辺・北東辺の溝底では、深さ 10 cm 程度の不明瞭な土坑状の窪みを検出しているが、溝底における埋葬遺構の可能性が考えられる。北東辺の土坑状の落ち込み直上では、土器片が集中していた。すなわち口頸部が短く外反する広口壺 (294) や太頸の広口壺 (297)、甕底部 (300) などが出土している。北東辺周溝中央付近からは口縁端部上端に刻目を施した甕 (295) などが出土した。

方形周溝墓 S T 384118 (図版第 4) A 地区南西端、方形周溝墓 S T 384114 に西接する。南東辺周溝と北東辺周溝の一部を検出した。北東辺周溝は方形周溝墓 S T 384114 の南西辺周溝と共有される。溝幅はおよそ 1.5~2 m で、検出面からの周溝の深さは 35~65 cm 程である。周溝から図化する遺物は出土していない。

### (3) 土坑等 (図版第 5)

土坑 S K 336169 (図版第 5) A-1 地区、溝 S D 336012 の東側で検出した。短軸最大幅 1.0 m・長軸長さ 1.6 m・深さ 25 cm の滴形の土坑である。床面南側から口縁端部に刻目を持つ小形の甕など (218・219) が出土した。

土坑 S K 336016(図版第 5) A-1 地区、溝 S D336013の東で検出した。主軸を北西-南東にとる。短軸最大幅80cm×長軸151cm・深さ15cm前後の土坑である。遺構検出面において広口壺や甕(220・221)の破片が一行に並んで出土した。

土坑 S K 336015(図版第 5) 溝 S D336013の西側で検出した。主軸が溝 S D336013にほぼ並行する。長さ4.6m・幅1.6~1.3m前後、検出面からの深さ10~16cmの大きく浅い土坑である。埋土から剥片等(63~65)しか出土しなかったため、時期の比定が困難である。

土坑 S K 385630 B-8 地区南東、溝 S D385336の東側で検出した。現代の攪乱のため、遺構の掘形は不明であるが、南北50cm・東西80cm前後、南北方向の断面が椀状になるようであった。後述する土坑 S K385613と並んで検出したことや、埋土にサヌカイト剥片が出土したことなどから土坑 S K385613同様、弥生時代中期の遺構とみることが可能である。

土坑 S K 385613(図版第 5) B-8 地区南東、溝 S D385336の東側で検出した。南北55cm・東西57cmの隅丸方形の平面形を呈する。深さは遺構検出面から15cmほどであった。土坑の検出面上層からは弥生時代中期の土器体部片が出土した。埋土は分層しえるような層状の堆積はみられず、サヌカイトの剥片等(33~52)が500点足らず出土した。

土坑 S K 333006(図版第 5) B-4 b 地区、北東隅で検出した。先述の土坑 S K385613の南南東 4 m に位置する。雫状の平面形態で、横断面が椀状の掘形を呈していた。床面直上からは、無文の広口壺(288)と「く」字に外反する口縁の端面を垂下させる鉢(289)が出土した。

土坑 S K 334037(図版第 5) B-3 地区南端で検出した。全長1.9m・幅54cmの長方形を呈する。遺構検出面からの深さはおよそ25cm前後となる。埋土からは遺物は出土していない。主軸が北北西-南南東に振れており、西側に位置する方形周溝墓 S T385614と平行することや、土坑短辺に小口板を固定すると考えられる掘りこみ部分が認められたことから、方形周溝墓の主体部墓壇と推測できる。

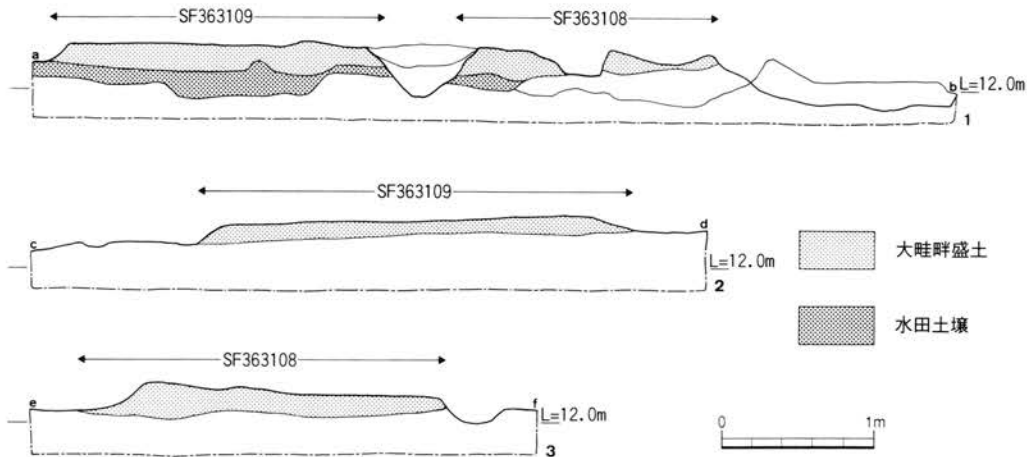
土坑 S K 330018 A-3 地区南半、最大幅 1 m・深さ20cmほどの落ち込みに近い不定形土坑である。一部調査区外に位置するため、全形は不明。内傾する口縁を持ち外面に鋸歯状の沈線紋をもつ小形の壺(291)、垂直に立ち上がる有段口縁の大形壺(292)、口縁が「く」字に外反する鉢(293)、台付取手付水差し(296)などが破碎した状態で出土している。

落ち込み S X 334035 S D334011に南接して検出した直径1.5m、検出面からの深さ10cmの小さな円形の浅い落ち込みである。

落ち込み S X 334036 S D334011に南接して検出した南北3.0m・東西4.0m、検出面からの深さ10cmの浅い落ち込みである。埋土からは焼土塊と弥生中期土器片が出土した。

#### (4)水田関連遺構

道 S F 363108 A-6 b 地区で検出した。北で約37°西の傾きをもって北西から南東方向にのびている道状の遺構である。後述する水田畦畔に併行することから大畦畔とも考えられる。幅3.0m・高さ約30cmが遺存しており、A-6 b 地区の中央で二股に分れて、SF363109を派生させ、それぞれ直線的に伸びている。分岐した S F 363108は、幅2.45m・高さ30cmを測る。北端では畦畔



第7図 道 S F 363108・道 S F 363109断面土層図

の両端に幅50cmの浅い側溝が認められる。道の横断面は台形で、茶褐色粘質土、砂質土が混在して堆積しており、人為的に盛られたものと考え。盛土と考えられた堆積土の下層には水田土壌がある(第7図)。

道 S F 363109 北半部分では、幅2.5~3.0m・高さ20~30cmを測る。道の断面、堆積土は S F 363108と酷似しているが、下層には水田の痕跡は認められなかった。一方、ほぼ南北に向きを変える南側では、幅1.2~0.6mと小さくなる。色調は茶褐色~褐色混黄褐色土で、土色は周囲の地山と異なっているが、土質は地山とほとんど変わらないため、盛り土の残欠というよりも、この上にあつたであろう盛り土によって雨水のしみ込みの違いがあり、それによる鉄分・マンガン質の沈着の違いが帯状に色調を違えたものと考え。

道 S F 363108と S F 363109の新旧関係は平面的には確認できなかったが、上述の水田との関係から、S F 363109が先に土盛りされ、S F 363108が後に造りかえられたと解釈することもできる。

水田畦畔 A-6・A-4地区のはほぼ全域で250区画を越える水田畦畔の痕跡を検出した。水田は、それぞれ幅30~60cm・高さ20~30cm程度の畦によって区画されている。北西-南東方向に作られた平行する畦畔を基軸とし、そこに直交する南西-北東の畦畔を任意に設けて区画を作るものである。前者の畦畔は、基本的に北から南まで一本につながっているのに対して、後者の畦畔は隣合う2~3の区画間でのみつながっているだけである。平均面積は12㎡前後であるが、一区画それぞれの面積にはかなりの差がある。北で約30°西に傾きをもったやや大きめの畦は、2m前後の間隔で並行しており、これに直交する小さめの畦は不ぞろいに造られている。畦畔の切れる部分が数か所認められ、水口の痕跡と考えることができる。出土土器はないが、その形や大きさから弥生時代の水田と思われる。

## 第2節 古墳時代の検出遺構(第5図)

### (1) 流路・溝

溝 S D 329010 A地区北東で検出した溝である。流路 S D 329009に切られる。幅2.0~3.2m、検出面からの深さ約25cmを測る。埋土はラミナ状の構造を持つ砂質土で、多くの土師器片を含ん

でいた。土師器高杯(308・310～312)から古墳時代中期に埋没したものと考える。B地区で検出した溝S D303009に接続するものと思われる。

**溝S D303009**(図版第7-15) B地区北東で検出した。流路S D303008に切られる。溝S D303008・溝S D303011同様に弧状に南東方向に流下する。幅1.3m～2.5mで、深さは20cm未満と浅い。多量の土師器や初期須恵器(336～388)のほかに勾玉・双孔円盤・紡錘車(172・173・176)や、砥石(158)などが出土しているが、特に炉型器台(388)は列島では珍しい遺物であろう。古墳時代中期中葉には埋没したと考える。S D303013の埋没後、その一部に掘削されており、弥生土器(180～187)も出土している。

**流路S D329009**(図版第7-16・17) A地区北東、溝S D329010に西接して検出した。古墳時代後期の自然流路である。幅12～14m以上を確認したが、流路の西側の肩部は不明瞭であった。北西から南東に向けて下る傾斜をもつ。北部では幅1.6～2mの支流状の溝が北から直線的に合流する。北西部分では流路の底は南東から北西に向けて下る傾斜がある。深さは、検出面から最深で約90cmを測る。埋土からはおもに弥生時代～古墳時代の各種土器がみられた。弥生土器(230～233・235・237～239)は、おそらく弥生時代中期に埋没した環壕S D361168に遺棄されていた遺物が、混入したものとみられるが、二条の刻目突帯文を巡らした壺口縁(229)も1点ながら出土している。古墳時代前期～中期の土師器(301・302・309)のなかでも山陰系二重口縁壺(301)は、口縁端部が内側に肥厚し、肩部に「く」字型に二段のハケメ列点紋を一部に施す完形の良品である。これらの遺物は、縄文時代晩期あるいは古墳時代前期の遺構が、調査地北方に遺存している可能性を示唆している。また、流路の埋没時を示すと考えられる古墳時代後期の須恵器(325・327・331)なども出土している。B地区で検出した流路S D303008・流路S D303007に接続するものと思われる。

**流路S D303008**(図版第8-1～3) B地区北東、溝S D303007の南西側に並行し北西から東に流れる自然流路である。流路S D303007に切られる。幅4.0～8.6mで、検出面からの深さ1m前後を測る。埋没までに、数回流路が蛇行し、氾濫したようである。土師器・須恵器など(389～408)とともに陶質土器高杯脚部(409)も出土している。ほかに砥石(159・160)なども出土している。古墳時代中期中葉から後半に埋没したと考える。この流路内や底面を形成する砂層から、弥生土器(188～207・212・217)や石鎌(105)・石剣(110)・棗玉(168)・紡錘車(175)などが出土している。環壕S D361162・環壕S D361168が削平された結果であろう。

**流路S D303007**(図版第8-2下・第8-4) B地区北東において北西から東に流れる流路である。流路S D303008の南側に並行し、一部、流路S D303008南西肩側を削り込む。幅5m程、検出面からの深さ80cm前後である。西半部は狭く、東半部は幅広になっていた。この流路からも凹線文の巡る細身の鼓胴形器台や受口状口縁甕などの弥生土器(208～210)や、土師器・須恵器などの古墳時代各種土器(410～446)、チャート石核(157)、獣骨などが出土している。古墳時代後期後半から飛鳥時代に埋没したものと思われる。

**流路S D329008** A地区中央、流路S D362201の北東側、北西から南東に並行する流路である。

幅8.5～10m、検出面からの最深部で50cm、北西から南東に下る傾斜を有している。埋土からは古墳時代後期の土器片がわずかに出土した。トレンチ北東では、二条の溝が合流しているようなプランを示している。平面での切り合い関係は認められず、埋土もよく似ているため、同一の溝に中州状のものが認められると考える。東側の流路は、底面が一段深くなっている。奈良時代に埋没した溝S D 362201に切られ、弥生時代の方形周溝墓S T 363113を切ることから、弥生中期以降に掘削、古墳時代までに埋没した溝と考える。埋土からは弥生土器甕底部(227)、須恵器杯身(315・316)が出土している。

溝S D 385606・溝S D 385611(図版第8-5～8) B地区北東において北西から東に伸びる溝である。幅60～80cm、検出面からの深さ25cm前後。逆台形に掘削される。溝S D 385611の埋土からは、土師器甕や須恵器甕(450・451)が出土している。溝S D 385606は溝S D 385611の埋没後、それに沿うように溝S D 385611よりも直線的に再掘削されている。溝S D 385606の埋土からは須恵器杯(447～449)が出土しており、ともに古墳時代後期後半以降の埋没を示している。

溝S D 385621 B地区中央、S D 303008の南、S D 385611に南接する土坑状の溝の残存である。おそらくS D 303008の蛇行に伴い、侵食され抉りこまれたものとみられる。埋土から弥生時代の扁平片刃石斧(113)が出土した。

溝S D 385603(図版第8-9・10) B地区北東、北西から南東に蛇行して伸びる溝。幅は1m内外で、検出面からの深さ20cm以上を測る。断面は半円形を呈する。南側で溝S D 385604と合流する。古墳時代初頭の低脚高杯(453)を出土しているが、須恵器杯・甕(452・454)などから、古墳時代後期後半の埋没を考えるべきであろう。

溝S D 385604・溝S D 385605 B地区北部中央より蛇行して南東へ伸びる幅1m内外、検出面からの深さ10cm未満の浅い溝である。溝S D 385604は、溝S D 385605の埋没後に掘削されたものと考えられる。溝S D 385605は、溝S D 385604に並行して流れる幅1.2m内外の浅い溝である。埋土からは、古墳時代中期の土師器片が出土した。また、弥生時代中期の銅鏃(2)や石庖丁(129)も出土した。

溝S D 385602 B地区中央、西北西から東南東へ直線的に掘削され、南に屈折する溝である。幅は20～30cm前後、検出面からの深さ10cm未満のため、遺物はほとんど出土しなかった。

溝S D 385601(図版第8-11～15) B地区中央、北西から蛇行しながら、調査地の南東へ伸びる溝で総長100m以上を検出した。幅1m・検出面からの深さ30cm前後を測る。断面形状は逆台形の掘形を呈する。下層では、粘土層・砂層が堆積しており、水流による堆積が認められる。須恵器杯・甕などの土器(455～459)や・紡錘車(174)が出土しており、古墳時代後期前半の掘削、古墳時代後期中葉以降の埋没と考える。

溝S D 363121 A地区中央、幅30～50cm、検出面からの深さ10cm程度の溝である。弥生時代の大畦畔と考えた道S F 363109とほぼ、平行に掘削され、谷状流路S R 330016の手前で西へ屈曲し、削平のためか、徐々に浅くなって終わる。埋土は淡褐色砂質土である。断面「コ」字状あるいは逆台形に掘られている。南端部は掘り直されており、北側の溝が南側の溝に先行する。内部から

は遺物の出土は全く見なかった。弥生時代の水田畔 S F 363109 と平行に掘削されていることから、掘削時期は弥生時代の可能性があるが、水田畔を掘削していることから古墳時代に降る可能性もある。

**溝 S D 330017** A 地区南西、検出範囲の東端では、谷状流路 SR330016 の南肩部に沿っているが、中央付近で SR330016 の南斜面を下った中央最深部を流れる溝。土砂流によって抉られた溝と考えられる。弥生土器小片や須恵器杯蓋(322)が出土している。古墳時代後期後半以降に埋没したとみられる。

**流路 S R 330016** A 地区南西、東から西に向けて傾斜する谷状の窪地状を呈する流路である。幅 16～22m で、検出面から最深 50cm を測る。急激な土砂流によって抉られたと推測される小さな溝状の筋が斜面に沿って認められた。この谷状の流路内の堆積土は、上層から黄色土－灰色粘土－黒灰色土－淡灰色粘土－黒灰色土－淡灰色土で、灰色粘土以下の堆積土には弥生～古墳時代と考えられる土器片(313・314・332～334)が混入している。しかもこれらの堆積土は流路内の堆積と考えられる粘土で、最上層の黄色土と土質・色調とも明らかに異なることから、最上層の黄色土は長岡京の造営に伴って埋め立てられたものと判断する。

## (2) 土坑他

**土坑 S K 336011** A 地区北東で検出した土坑である。幅 2 m 前後で、東北東に伸びていくようである。検出面からの深さは約 20cm 前後である。南西端は浅くなって終わるが、横断面はゆるやかな舟底状を呈する。北東部は浅くなりつつ、調査地外に伸びる。弥生時代の溝 S D 336012 を横断しているため、内部からは弥生土器(222・224)、石鏃や石剣・剥片等(53～62)が出土した。

**土坑 S K 399606** B 地区の中央西側、S D 385602 の埋没後に形成された窪みである。須恵器壺・壺蓋(460・461)などが出土したが、人為的な掘形とは考えられず、風倒木痕に遺物が混入したものとみられる。



## 第3章 長岡京期の検出遺構

### 第1節 条坊路

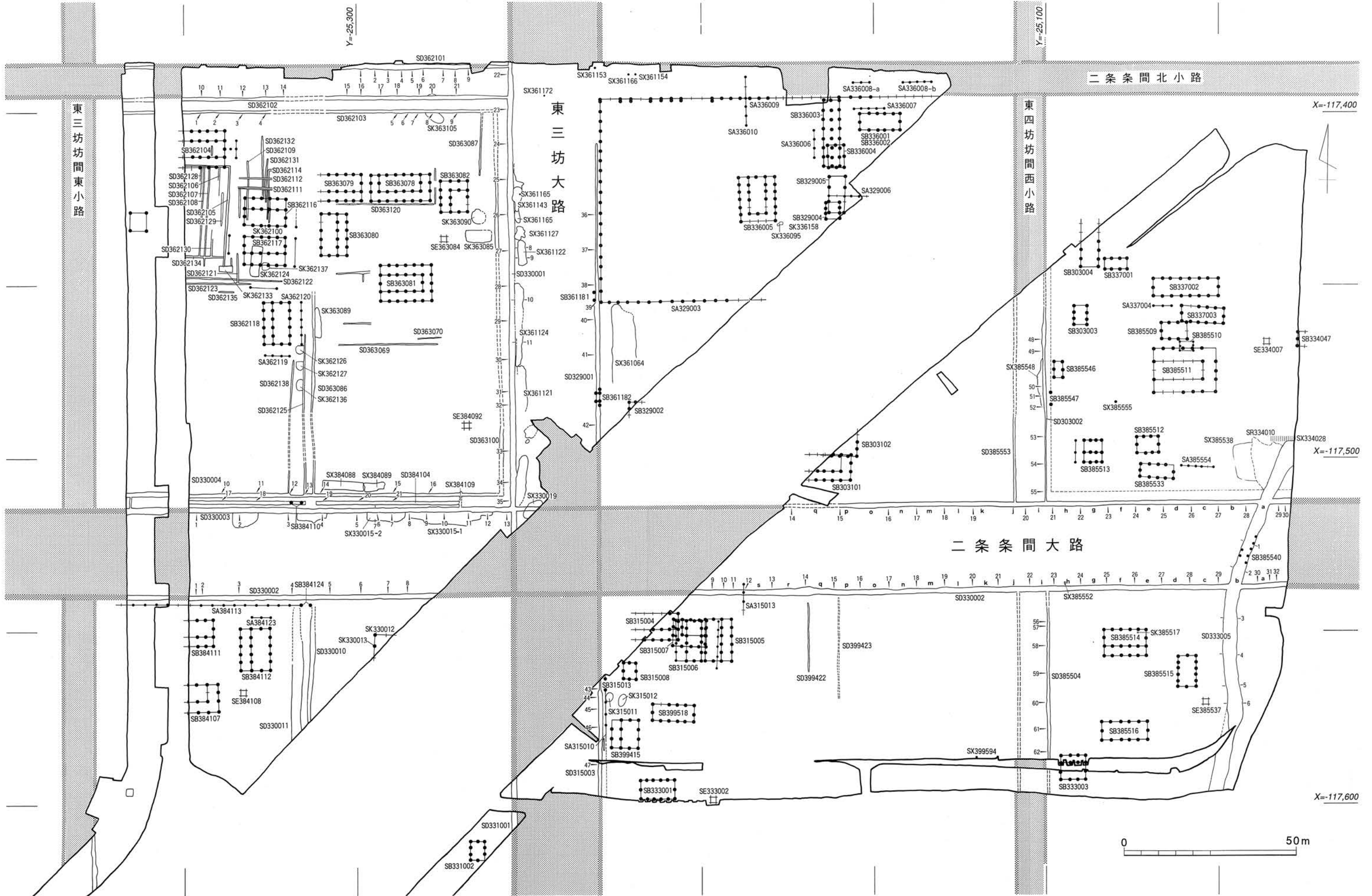
#### (1) 二条条間大路(図版第9・10)

二条条間大路路面 S F 330006(A地区) 二条条間大路北側溝 S D 330003と二条条間大路南側溝 S D 330002に画された平坦面。路面上では、轍や足跡などは検出できなかった。両側溝心心間の距離は、25.05～25.15m(84尺～85尺)であり、路面自体は、約23.7mである。路面の北辺部では、北側溝 S D 330003に沿って土坑状の S X 330015を検出した。

二条条間大路路面 S F 330006(B地区) 二条条間大路北側溝 S D 330003と二条条間大路南側溝 S D 330002に画された平坦面。両側溝心々間の距離は、24.62m(約83尺)(Y=-25,110.00)、24.7m(約83尺)(Y=-25,075.00)、24.36m(約82尺)(Y=-25,040.00)である。東三坊以東では、南側溝再掘削後に大路路面幅が若干狭くなる。

二条条間大路北側溝 S D 330003(A地区)(図版第9-1～13) 総長100m足らずを検出した。幅1.5m、検出面からの深さ35～40cmで、この溝内の堆積土は大きく三層に分かれ、下層から黒色粘土混白色粘土(足跡)、黒色粘土、黄色土が堆積する。調査地西端部の黒色粘土層の上部で木製鋤を検出したが、この層はこの溝が長岡京の条坊側溝として機能していた段階に堆積したものと推定される。溝の底面、あるいは下層の黒色粘土混白色粘土層には、牛や人間の足跡が多数検出できた。この溝の中央部やや東(Y=-25,301.00付近)では、高さ20cm・幅50cmの枕状の掘り残しが認められた。埋土からは、土器はほとんど出土していない(489～494)。溝心の中心座標は、X=-117,514.50(Y=-25,272.00)、X=-117,514.60(Y=-25,310.00) X=-117,514.75(Y=25,346.50)である。東三坊大路西側溝(溝 S D 330001)との合流地点では、溝 S D 330003が約10cm深く掘削されており、東西に4本の杭列の痕跡を認めた。また、土層観察によっても、東三坊大路西側溝から二条条間大路北側溝に水が流れ込んでいたことが確認できた。溝心の座標はX=117,514.40(Y=-25,270.00)である。東三坊大路西側溝と二条条間大路北側溝は、ともに相手の溝を切り合う十字をなしていた。このことから、東三坊大路と二条条間大路については、どちらにも優先関係がなかったものと推測される。

二条条間大路北側溝 S D 330003(B地区)(図版第9-14～30) 総長145mあまりを検出した。B地区西側(B-6地区)では、幅1.2～1.6m、検出面からの深さ37～58cmを測る。溝の断面形状は掘削の浅い部分では、椀形に近く、深い部分では、断面逆台形状に掘削される。基本的に側溝底面から、緑灰色～黄褐色の緻密な粘土層(下層1)、有機質を多く含む暗青灰色の粘土層(下層2)、灰黄褐色～褐色の砂質土層(上層)が堆積する。掘削の浅い椀形の掘形をもつ部分では、緑灰色～黄褐色の緻密な粘土層(下層1)の堆積はみられず、有機質を多く含む暗青灰色の粘土層(下層2)、



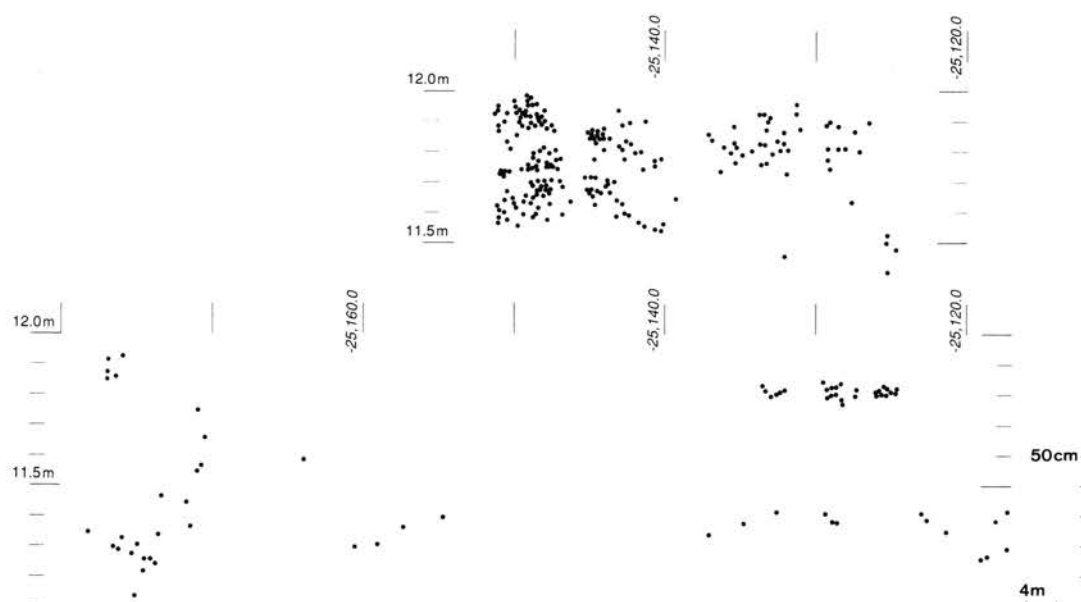
第8図 長岡京期の検出遺構(1/1,000)

灰黄褐色～褐色の土層(上層)のみになる。比較的多くの土器(553～714)や瓦(857)が出土した。下層1・2から出土した土器群と上層に一括して廃棄されたと考えられる土器群があり、容易に弁別しうる出土状況であった(第9図)。上層土器群は、標高11.72m以上の砂質土層に含まれる土器群である。n区付近(Y=-25, 150.00付近)では、上下二群に分別できそうだが、土層および一括して投棄された状況が類似する。下層土器群は、標高11.70m以下の粘土層に含まれていた土器群である。溝心の中心座標は、X=-117, 513.78(Y=-25, 148.00)(再掘削後の側溝心)、X=-117, 513.60(Y=-25, 140.00)、X=-117, 513.58(Y=-25, 120.00)である。また、B地区の東側(B-5 b地区)では、幅1.0～1.2m・深さ40～55cmを測る。溝の掘形は断面逆台形状に掘削される。床面には礫敷きの部分もある。底面近くに有機質の多い灰黒色土層が堆積する。掘形側面には、直径10cm程度の杭跡が列になって認められた。板材を組み合わせるあてがい、流水による溝の崩壊と宅地への冠水を防いでいたものと考えられる。この北側溝の西側では、溝の埋没後に再掘削された状況が認められる。溝心の中心座標は、X=-117, 513.32(Y=-25, 040.00)、X=-117, 513.32(Y=-25, 075.00)、X=-117, 513.68(Y=-25, 110.00)である。

二条条間大路南側溝 S D 330002(A地区)(図版第10-1～8) 総長70m足らずを検出した。幅1.4m、検出面からの深さ40cmで、溝内の堆積は上層より、黄色土、暗褐色粘土、灰色粘土に分かれる。埋土からは、土器を主体とした遺物がコンテナ3箱程度が出土したが、その大半が最上層より出土している。この中には若干の瓦片が認められる。溝心の中心座標は、X=-117, 539.50(Y=-25, 297.50)、X=-117, 539.70(Y=-25, 347.30)である。埋土から出土した遺物はそれほど多くはなく、長岡京期に通有の土師器・須恵器(495～517)である。

二条条間大路南側溝 S D 330002(B地区)(図版第10-9～32) 総長170mあまりを検出した。B地区西側では(B-6地区)、幅1.2～2.2m・深さ50～70cmを測る。k・l区では、再掘削の状況がみられる。溝の位置は北側に30～40cm以上ずれるようである。埋土の堆積は周辺の土壌環境のためか各地区でかなり異なる。再掘削後の溝心の中心座標は、X=-117, 538.10(Y=-25, 120.00) X=-117, 538.54(Y=-25, 148.00)、X=-117, 538.70(Y=-25, 180.00)である。再掘削された側溝内から、土師器・須恵器・緑釉陶器(715～750・851・852・2029・2030)、瓦(853～856・858～860)、木簡・木器等(80～83・93・101～103・116・122・127)などが出土した。再掘削された南側溝は、検出面直下で出土した平安時代前期～中期の土器群と下層の粘質土層から出土した長岡京期の土器群に分けられる(第9図)。9世紀後半まで側溝が完全に埋まらずに放置されていた状況を推察することができる。また、B地区の東側(B-5 b地区)では、幅1.3～1.6m、検出面からの深さ50～60cmを測る。北側溝同様、溝の埋没による再掘削が認められ、再掘削によって側溝心が70～80cm程南側にずれる。溝心の中心座標は、X=-117, 537.68(Y=-25, 040.00) X=-117, 538.02(Y=-25, 075.00)、X=-117, 538.30(Y=-25, 110.00)である。

路面土坑 S X 330015(図版第12-7) A地区二条条間大路路面 S F 330006の北辺部で、同北側溝 S D 330003に沿って検出した溝状を呈した浅い土坑である。大きいものでは東西11mにわたって確認でき、南北の幅2.8m、検出面からの深さ5～15cm程である。この土坑の埋土は、黄色土



第9図 二条条間大路両側溝出土土器位置図  
(上.北側溝 S D 330003、下.南側溝 S D 330002)

と黒色粘土、白色土がブロック状に混ざり合ったもので、二条条間大路北側溝 S D 330003内の堆積土が混入したような土であった。おそらく、側溝内に堆積した生活残滓を路面上の縁辺部に埋めた、あるいは宅地内からの生活残滓が廃棄された可能性なども考えられる。埋土からは須恵器壺 G (540) や土師器盤 A (551) などが出土した。

**路面土坑 S X 330019** A地区二条条間大路北側溝南側、東三坊大路西側溝東側、大路の交差点北西で検出した。東西10.5m・南北12.5m、検出面からの深さ10～20cmの不定形な土坑である。二条条間大路北側溝の掘削によって削平された部分もあるが、長岡京期の土器(518～521・523・525～539・541～550・552・850)が多く出土している。二条条間大路施行直前に掘削・埋没した土坑と考えられ、長岡京期直前の遺構としうる。

**埋甕遺構 S K 385552**(図版第6) 検出長72cm・幅40～44cmの長方形の土坑を持つ。土師器の甕(814・815)の両者の口縁をあわせ口にして埋置していた。内部からはなにも遺物は出土しなかったが、土器内部には暗灰色の粘質土(土層 A・B)がわずかに遺存しており、有機質の存在が推測された。小児棺などの可能性があろう。甕 A は長岡京期に位置付けられるものであり、二条条間大路路面に埋置されたことがわかる。

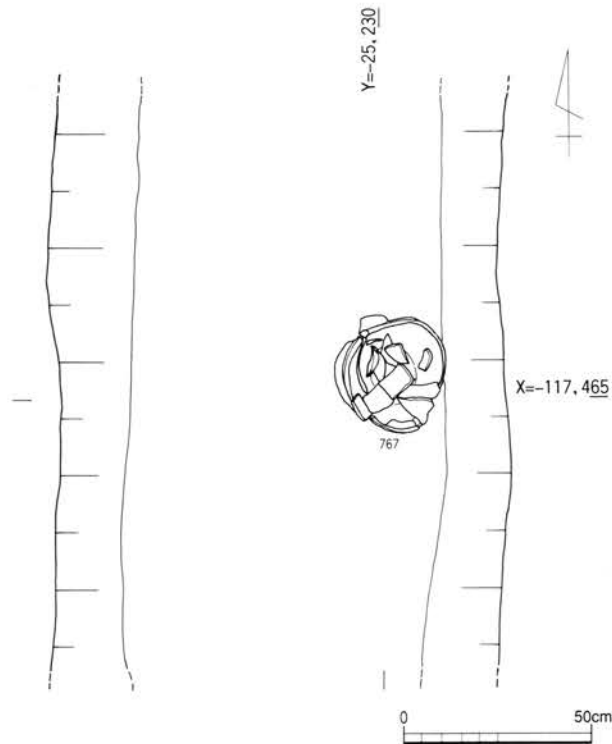
## (2) 東三坊大路

**東三坊大路路面 S F 330007**(A地区) 東三坊大路西側溝 S D 330001 と東三坊大路東側溝 S D 329001 に画された平坦面である。両側溝の心々間距離は、24.5～24.65mを測る。路面上で轍や足跡等は検出できなかった。この路面上、西側溝に隣接して不定形の土坑(S X 361121・S X 361122・S X 361124・S X 361127・S X 361143・S X 361165)を検出した。この土坑内からは、遺物はほとんど出土しなかったため、遺構の性格を直接判断できるような資料はないが、路盤改良に伴う掘り返しの土坑、または宅地内の生活残滓を廃棄した土坑と推測できる。

**東三坊大路西側溝 S D 330001**(A地区)(図版第11-22～35) 幅約1.3～1.8m、検出面からの深

さ15~25cmを測る。断面形状は、浅い皿状である。A地区北方では、後世の削平を受けているため、深さが数cmしか遺存していなかった。検出範囲の南半を中心としてわずかではあったが土師器・須恵器など各種土器(751~763)が出土した。溝心の中心座標は、 $Y=-25,255.00$ ( $X=-117,390.00$ )・ $Y=-25,254.70$ ( $X=-117,480.00$ )・ $Y=-25,255.05$ ( $X=-117,495.00$ )である。

東三坊大路西側溝 S D 331001 (B地区) B-2 b地区でわずかに検出した部分がある。幅約1.2~1.5m、検出面での深さおよそ30~40cmで、遺存度は悪い。溝心の座標は $Y=-25,255.00$ ( $X=-117,599.00$ )である。B-2 b地区では瓦類(861~869)が出土した。



第10図 東三坊大路東側溝緑釉火舎出土状況(1/20)

東三坊大路東側溝 S D 329001 (A地区) (図版第11-36~42) 幅1.2~1.5m、検出面からの深さ約40cmを測る。二町宅地の北半と南半で検出状況が変わっており、南半では、幅も深さも大きく、幅約1.3m以上、検出面からの深さ50cmを測り、断面逆台形を呈しているのに対し、北半では急に浅く狭くなり、断面形状も皿状になる。幅約90cm、検出面からの深さ約20cmとなる。宅地の北端付近では、削平のため検出できなかった。溝心の座標は $Y=-25,230.20$ ( $X=-177,421.00$ )・ $Y=-25,230.20$ ( $X=-177,480.00$ )・ $Y=-25,230.40$ ( $X=-117,486.00$ )である。溝内埋土からは須恵器、土師器とともに緑釉の火舎(767)(第10図)や、各種土器(764~766・768・769)などのみで、図化し得た資料以外ほとんど遺物はみられなかった。

東三坊大路東側溝 S D 315003 (B地区) (図版第11-43~47) B-2 a地区・B-4 a地区・B-7地区で検出した。幅約1.3m、検出面から深さわずか10cmに満たないほど遺存度は著しく悪い。溝の断面形状はゆるやかな「U」字型で、溝心の座標は $Y=-25,230.10$ ( $X=-177,570.00$ )である。

路面土坑 S X 361121 A地区南端、東三坊大路西側溝 S D 330001の東側に隣接して穿たれた長い土坑である。全長7m以上・幅3mの浅い落ち込みとなる。埋土から遺物は出土していないが、側溝および路面に並行しており、長岡京期に、東三坊大路路面に掘削されたものとみられる。

路面土坑 S X 361122 (図版第12-8・9) A地区中央、東三坊大路西側溝 S D 330001の東側に隣接して穿たれた土坑である。全長7.5m・幅2m前後の浅い落ち込みとなる。埋土から遺物は出土していないが、上述した路面土坑 S X 361121同様、長岡京期に、東三坊大路路面に掘削された土坑とみられる。

路面土坑 S X 361124 (図版第12-10・11) A地区南半、路面土坑 S X 361121の北側に隣接する長い土坑である。全長24m・幅1.6~2.5m、検出面からの最深部は40cm程の浅い落ち込みとなる。埋土から遺物は出土していないが、上述した路面土坑 S X 361121同様、長岡京期に、東三坊大路路面に掘削された土坑とみられる。

路面土坑 S X 361127 A地区中央、路面土坑 S X 361122の北側に隣接する土坑である。全長3.6m・最大幅2.8mの不定形の落ち込み状の土坑となる。埋土からは須恵器壺 G (775)が出土している。

路面土坑 S X 361143 A地区北半、東三坊大路西側溝 S D 330001の東側に隣接して穿たれた土坑である。全長9m・幅2.5m前後の浅い不定形の落ち込みとなる。埋土からは須恵器甕破片 (777)が出土した。

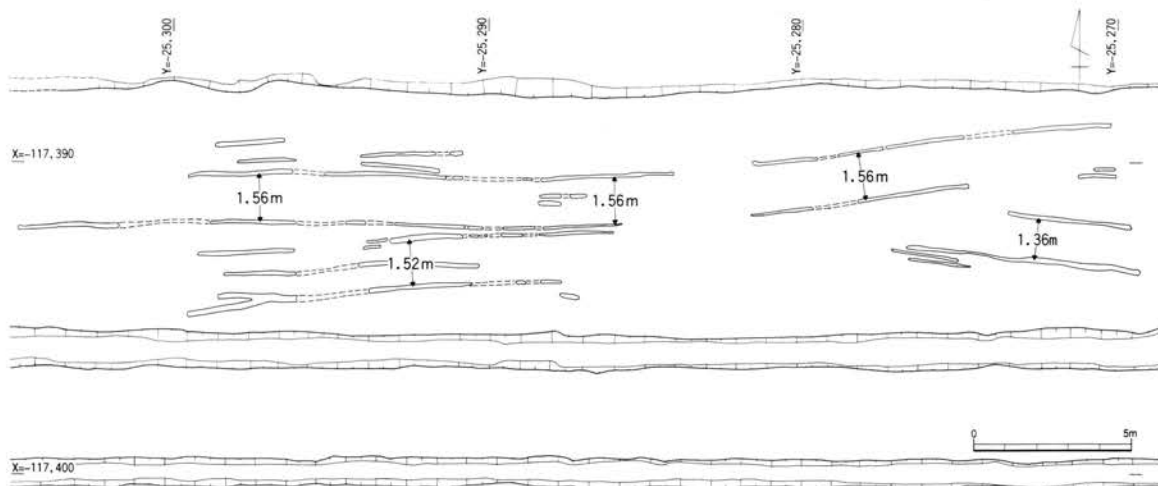
路面土坑 S X 361165 A地区北半、路面土坑 S X 361143に重複して検出した土坑である。全長5m・幅2.5m前後、検出面からの深さは30~40cmとなる。路面土坑 S X 361143の浅い掘形の底面で検出することができたため、路面土坑 S X 361143に先行して掘削、埋没したものとみられる。埋土からは壺 L と土馬 (770・779)が出土した。

地鎮土坑 S X 361172 (図版第13) 東三坊大路路面と二条条間南小路北側溝の延長線が交差する位置で検出した。東西方向の1辺が約90cm、南北方向が約60cmの方形の掘形を持つ。内部からは木製の箱に納められたと考えられる銅銭が3枚出土した。銭名は、和同開珎 (7)、神功開寶 (10)、萬年通寶 (20)である。また、掘形内からは土師器片が出土している。近世以降の攪乱によって、上部を著しく削平されている。

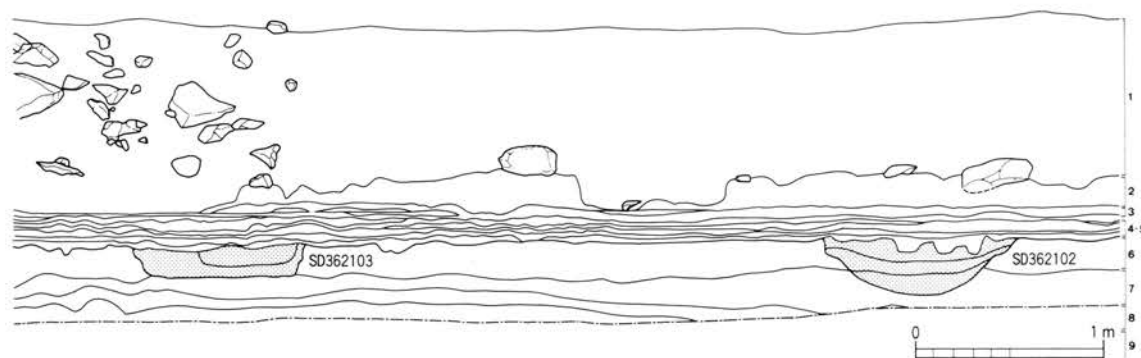
### (3) 二条条間北小路

二条条間北小路路面 S F 362140 二条条間北小路北側溝 S D 362101と二条条間北小路南側溝 S D 362102に画された東西方向の路面である。両側溝の心々間の距離は約9m、路面幅は約8mを測る。両輪の幅1.55mの轍を検出した。轍には淡褐色砂質土が堆積していた。最深部では、検出面から10cm程であった(第11図)。

二条条間北小路北側溝 S D 362101 (図版第11-1~9) A地区の北辺に沿って検出したため、一



第11図 二条条間北小路 轍検出状況(1/240)



第12図 A地区北西隅土層断面図(S D362102. S D362103)

1. コンクリートを含む現代土砂
2. 暗灰色シルト
3. 褐色シルト
4. 橙褐色シルト
5. 灰色シルト
6. 黄褐灰色シルト
7. 橙褐色粘質土
8. 灰色粘土
9. 地山土

部調査トレンチの北側に拡張を行って溝の断面形状とその規模を確認した。幅約1.65m、検出面からの深さ約0.35mを測る。断面形状は「U」字形を呈している。東三坊大路路面上では検出できず、東三坊大路西側溝に合流する。溝内からは、各種土器(816～837)とともに緑釉火舎(838)や瓢箪や桃の種子などが出土している。「車」と墨書された土師器(824)もみられた。拡張を行って溝幅を確認した地点での溝心の座標は $Y=-117,387.05(X=-25,287.00)$ である。

二条条間北小路南側溝 S D 362102(図版第11-10～21) A地区の北辺に沿って検出した東西方向の溝である。A地区の西端から東三坊大路西側溝まで、総長89mあまりを検出した。幅約1.2m・深さ約0.25mを測る。溝の断面形状は浅い「U」字形を呈する。北側溝と同じく、東三坊大路路面では検出されず、東三坊大路西側溝に「T」字形に合流している。埋土からは各種土器(839～845)が出土したが、図化し得たもの以外は少ない。A地区北東隅における二条条間北小路南側溝 S D 362102とその南側、二条三坊十五町の宅地の北辺外郭築地に伴う溝 S D 362103の、南北方向土層断面では、中世以降の水田土壌によって長岡京期の遺構が著しく削平されていたことがわかる(第12図)。溝心の中心座標は、 $Y=-25,347.20(X=-117,396.25)$ 、東三坊大路西側溝との接続地点で $Y=-25,256.00(X=-117,395.90)$ である。

柵 S A 336008 a・b A地区東北部で検出した東西方向の柵。西側の S A 336008 a は二間分を検出したが、柱間は2.35～2.75mと不揃いである。東側の S A 336008 b は四間分を検出し、柱間は西の二間分が2.25m、東の二間分が1.95mである。S A 336008 a・bの間の柱穴は検出できなかったが、ほぼ一直線に復原できることから、同一の柵と判断した。柱掘形は一辺約50～70cmの方形で、検出面からの深さ15～30cmとなる。S A 336008 aの西隅の柱穴の中心座標は、 $X=-117,391.60 \cdot Y=-25,155.60$ 、S A 336008 bの西隅の柱穴の中心座標は、 $X=-117,391.70 \cdot Y=-25,141.35$ である。二条条間北小路北側溝の推定位置より南に4.6mにあたり、路面はほぼ中央に位置する。

路面土坑 S X 361153・S X 361154・S X 361166 A地区二条四坊二町の北西の二条条間北小路路面で検出した不定形な落ち込みである。遺物の包含がみられ、路面土坑 S X 361153では須恵器壺M・壺L(848・849)がみられた。路面土坑 S X 361154・S X 361166では、それぞれ、須恵器杯

B(846・847)が出土した。

#### (4)二条条間南小路

二条条間南小路路面 S F 331005 二条条間南小路北側溝 S D 331003と二条条間南小路南側溝 S D 331004に画された東西方向の路面である。路面上で轍や足跡等は検出できなかった。両側溝の心々間距離は、9.3mである。

二条条間南小路北側溝 S D 331003 D-2 b 地区で検出した3 mあまりの東西溝である。幅1 m、検出面からの深さ30cmを測る。断面形状は逆台形を呈しており、底面には、青灰色の粘質土や砂が堆積していた。検出範囲がわずかであったためか、埋土から遺物は出土していない。溝心の中心座標は、 $X=-117,649.00(-25,305.00)$ である。

二条条間南小路南側溝 S D 331004 D-2 b 地区で検出した6 mあまりの東西溝である。幅1 m、検出面からの深さ30~40cmを測る。断面形状は北側溝同様、逆台形を呈しており、底面には、青灰色の粘質土が堆積していた。埋土から遺物は出土していない。溝心の中心座標は、 $X=-117,658.30(-25,312.50)$ である。

#### (5)東四坊坊間西小路

東四坊坊間西小路 S F 385556 東四坊坊間西小路は、東四坊坊間西小路東側溝 S D 303002と東四坊坊間西小路の西側溝 S D 385553に画された南北方向の路面である。二条四坊二・三町と二条四坊六・七町の間位置する。検出範囲の北側で両側溝心々間9.32m・路面幅8.92m、南側で両側溝心々間8.72m、路面幅8.20mを測る。路面上で轍や足跡等は検出できなかった。

東四坊坊間西小路西側溝 S D 385553 東四坊坊間西小路東側溝同様、二条条間大路によって隔てられており、調査地北側の二条四坊二・三町の宅地の東端を限る側溝である。溝心の中心座標は、 $Y=-25,109.28(X=-117,476.00)$ ・ $Y=-25,108.68(X=-117,512.00)$ である。

東四坊坊間西小路東側溝 S D 303002(図版第11-48~55) B 地区で検出された東四坊西小路東側溝は二条条間大路によって南北に隔てられている。二条条間大路と東四坊坊間西小路の交差点では、大路の東西方向の側溝が小路を横断する、いわゆる条型となっている。大路通行が優先され、桂川右岸の氾濫原に位置する地理的環境と勾配に合致した機能的な排水設計が窺える。溝 S D 303002は、二条四坊七町の宅地の西端を限る側溝である。削平によって幅30cm・深さ15cm程しか遺存しない。A 地区北側では、やや幅広になり、幅50cm・深さ30cm程になる。再掘削によって側溝心が20cm程東にずれる。溝内埋土から、土師器や須恵器などの各種土器(797~799・802・804)が出土した。溝心の中心座標は、 $Y=-25,099.96(X=-117,510.00)$ ・ $Y=-25,100.44(X=-117,470.00)$ 、およびB 地区北端の再掘削後の溝心は $Y=-25,100.24(X=-117,470.00)$ である。

土坑 S X 385548 東四坊坊間西小路路面の東辺部で、同東側溝 S D 303002に沿って検出した溝状を呈する浅い土坑である。灰褐色の粘土質の埋土から土馬(809)や土師器椀(810・811)などが出土した。

東四坊坊間西小路東側溝 S D 385504(図版第11-56~62) 二条四坊六町の宅地の西端を限る側溝である。二条条間大路の南側、二条条間大路を隔てた溝 S D 303002よりもやや深く、幅80cm・



深さ50cm程遺存する。土師器皿A・須恵器蓋A・鉢D(800・801・803)などわずかながら土器が出土した。二条四坊三町の東端を限る東四坊坊間西小路西側溝は、中世素掘り溝の掘削によって、消滅したものと思われる。溝心の中心座標は、 $Y=-25,099.448(X=-117,545.00)$ ・ $Y=-25,099.032(X=-117,585.00)$ である。

## 第2節 大溝(水路)・溝

大溝(水路) S D 333005(図版第12-1~6) B地区の南東部、南北に貫流する幅5m・深さ1.6m以上の大規模な掘削溝である。二条四坊六町の宅地をほぼ東西に2分割する位置に掘削される。断面形状は、左右対称に近い椀状を呈しており、大路路面部分のみ、断面が逆台形状に掘削されている。また、長岡京期の二条条間大路両側溝と切り合い関係をもたず、路面を横断していたものとする。水路として使用されたと想定される。埋土からは、長岡京期の各種土器(870~916)が出土した。また、暗褐色粘土層からは人形や折敷・曲物などの各種木製品(84・85・87・91・92・100・117・120・125・126・128・134・135)が出土した。検出範囲北側、二条条間大路上で溝掘形法面に東岸5基、西岸2基、都合7基の柱穴を確認した。直径30cm前後、約2m間隔で穿たれており、二条条間大路路面に設置された橋柱穴痕(S B 385540)と考える。

溝 S D 362201(図版第12-12~14) A地区の中央を北西から南東に流れる掘削溝である。総長約130mを検出した。幅2.5~4.5m、検出面からの深さ50cmあまりであり、溝の底面からは、牛や人の足跡をほぼ全域に渡って検出した。埋土からは飛鳥時代の須恵器杯(319~321・329)が出土した。

溝 S D 333004(図版第12-15~17) B地区の中央を北北西から南南東に流れる掘削溝である。総長約110mを検出した。幅2.6m、検出面からの深さ40~50cm程であり、二段に掘削される掘形を持つ。最深部分では、暗灰色のシルトや粘土の堆積がみられ、流水に伴う埋没が考える。上半部分では、黄褐色系の砂質土層が堆積しており、人為的に土砂の埋土が行われたものとみられる。埋土からは、土師器甕A・盤B(812・813)が出土している。出土遺物に若干の時期差が認められるが、溝の幅や蛇行方向から、溝 S D 362201と同じ溝と断定できる。

## 第3節 宅地

### (1) 二条三坊十三町(図版第14)

十三町の中央北半に位置するD-2 a地区で掘立柱建物跡3棟を検出した。掘立柱建物跡3棟は、小規模なもので十三町の宅地の分割利用の様相、あるいは中心建物の配置がどのようなものであったかは不明と言わざるを得ない。D-2 a地区では、掘立柱建物跡 S B 314003の東側、宅地の東西2分の1の地点からは柵や塀など、外郭施設の痕跡を見つけることはできなかった。

掘立柱建物跡 S B 314003(図版第14) D-2 a地区の北端で検出した南北棟の掘立柱建物跡である。桁行3間以上・梁間2間、柱間寸法は、桁行・梁間ともに1.7~1.9m(6尺)程で、50~60cm前後のやや不定形な柱穴掘形となる。北西隅の柱穴の中心座標は、 $X=-117,673.14$ ・ $Y=-$

25,323.60である。

**掘立柱建物跡 S B 314001** (図版第14) D-2 a 地区の南半で検出した東西棟の掘立柱建物跡である。桁行3間以上・梁間2間、柱間寸法は、桁行1.8~1.9m(6~6.5尺)・梁間2.5m前後(8.5尺)程で、柱穴は50cm前後の方形掘形である。北東隅の柱穴の中心座標は、X=-117,689.10・Y=-25,336.34である。

**掘立柱建物跡 S B 314002** (図版第14) D-2 a 地区の北端で検出した南北棟の掘立柱建物跡である。桁行・梁間ともに2間以上、柱間寸法は、桁行・梁間ともに1.7~1.9m(6尺)程で、柱穴は、一辺30~50cm前後の不揃いな方形掘形である。北西隅の柱穴の中心座標は、X=-117,695.24・Y=-25,341.84である。

(2) 二条三坊十四町 (図版第15~第17)

二条三坊十四町の宅地はA地区の南西隅にあたり、宅地の北西一部のみの調査となった。宅地は、前述した溝 S D 330011、および溝 S D 330010を両側溝とする町内路が宅地中央を南北に走っており、東西に二等分割されていたようである。今回検出できたのはおもに宅地の西半部における掘立柱建物跡や塀、井戸などである。S B 384107を前屋、S B 384111を後屋とした「二」字型の建物配列が構成される。また、その脇屋的建物として S B 384112が配置される。

**柵 S A 384113** (図版第15) 二条条間大路南側溝 S D 330002の南側で検出した。十四町の北辺を画するものである。柱間は3.15m(10.5尺)で、9間分を検出した。柱穴の平面形態は40~50cmの隅丸方形で、検出面からの深さ20~50cmである。この柵は、十四町町内道路に設けられた門跡 S B 384124に接続して終わっている。西端の柱穴の中心座標は、X=-117,541.95・Y=-25,345.75である。この柱穴の位置では、二条条間大路南側溝 S D 330002の溝心より2.3m南で、溝肩より柱穴まで1.7mを測る。

**門跡 S B 384124** (図版第15) 柵 S A 384113の東端で検出した。二基の柱穴からなる。柱穴は、一辺50cm以下の小さな方形掘形である。3.15m(10.5尺)等間の柱間を持つ柵 S A 384113と一続きであるが、この2基の柱穴の柱間のみ2.7m(9尺)で、町のほぼ東西2分の1の地点にあたること、また後述する溝 S D 330010・溝 S D 330011を両側溝とする町内道路の出口にあたることから、町内道路に設けられた門と考えられる。東側の柱穴の中心座標は、X=-117,541.80・Y=-25,314.40である。この柱穴の位置では、柱穴心は二条条間大路南側溝 S D 330002の溝心より2.35m、溝肩より1.6m南に位置している。

**柵 S A 384123** (図版第17) 掘立柱建物跡 S B 384112の北側で検出した東西2間の柵。掘立柱建物跡 S B 384112の梁間と同じく柱間は2.7m(9尺)で、柱筋を揃えている。東端の柱穴の中心座標は、X=-117,545.35・Y=-25,325.72である。

**町内溝 S D 330010** 溝 S D 330011とともに、十四町の東西幅のほぼ2分の1に位置する町内道路の側溝と推定される。幅1.4~1.6m・検出した深さは最大20cmの南北方向の溝で、14mにわたって検出したが、北端部は徐々に浅くなり、二条条間大路南側溝 S D 330002との接続関係の有無は確認できなかった。十四町の北辺を画する柱列は、この溝の東側では検出できなかった。埋土

からは、土師器皿A・Bや蓋Aなど(972~984・987~989・992・993)が出土した。この溝の中心座標は、Y=-25,313.70(X=-117,555.00)である。

**町内溝 S D 330011** 溝 S D 330010の西で検出した溝の残欠で、東肩の一部を検出したに留まった。溝 S D 330010と対になる町内道路の側溝と考えられ、通路と判断される両溝間の平坦部の幅は1.8~2.4mである。須恵器杯Bの他に、製塩土器や緑釉高杯(985・986・990・991)なども出土している。柵 S A 384113はこの溝の東肩部で終わっており、この町内道路上には門があったものと推定される。溝心の座標はY=-25,318.00(X=-117,570.00)である。

**掘立柱建物跡 S B 384112(図版第17)** 十四町において唯一その全貌が分かる建物である。桁行5間、梁間2間の母屋に西庇が付く。柱間寸法は、桁行2.5~2.7m(8尺)、梁間2.3~2.5m(9尺)、庇の出3.2m(11尺)である。柱穴は一辺70~80cmの方形掘形であるが、母屋の中でも棟持柱のみ、一辺50cm程度とやや小型である。北西隅の庇柱穴の中心座標は、X=-117,548.82・Y=-25,334.40である。また、北東隅の母屋柱穴の中心座標は、X=-117,548.52・Y=-25,325.90である。掘立柱建物跡 S B 384112の北側に柱筋の通る塀 S A 384123が併置される。

**掘立柱建物跡 S B 384111(図版第16)** 掘立柱建物跡 S B 384112の西で検出した掘立柱建物跡である。桁行2間以上、梁間2間の母屋に南庇が付く。柱間寸法は桁行2.3~2.4m(8尺)、梁間2.5m(8.5尺)、庇の出2.6m(9尺)である。方形掘形を持つ柱穴は、母屋側柱が一辺90cm、庇柱が一辺70cmと、宅地内のほかの二棟の掘立柱建物跡と較べてやや大形である。柱穴6から壺L(968)が出土した。北東隅の母屋柱穴の中心座標は、X=-117,546.00・Y=-25,342.20である。

**掘立柱建物跡 S B 384107(図版第16)** 掘立柱建物跡 S B 384111の南側で検出した東西棟の掘立柱建物跡である。桁行2間以上、梁間2間以上の母屋に、東と南の二面に庇が付く。柱間寸法は、桁行2.9~3.0m(10尺)、梁間推定2.35m(8尺)、庇の出はともに2.95~3.0m(10尺)である。母屋柱掘形は、60×90cmの方形を呈しており、柱の抜取り痕がみられた。庇の柱掘形は50~60cmの方形である。北東隅の庇柱穴の中心座標は、X=-117,564.60・Y=-25,341.00である。

**井戸 S E 384108(図版第15)** 掘立柱建物跡 S B 384112の南側で検出した。縦板組隅柱横棧留めの井戸で、土圧のために四周の縦板は内側に倒れた状態で検出した。四隅の隅柱のうち、北西の隅柱のみが遺存していた。他の3本の隅柱を除去したために、井戸側全体が崩壊したようである。井戸の掘形は、やや崩れているが、一辺1.8mの方形に復原できる。井戸側の内法は、一辺1.3~1.4m。井戸底には、径50cm・残存高34cmの、底板を抜かれた小形の曲物が井筒として据えられていた。曲物の周囲には小児頭大の石があり、固定するために置かれたものとみられる。曲物内には須恵器甕の体部が据えられており、湧水に泥土を混入させない工夫がなされている。埋土から各種須恵器(969~971・1786・1787)が出土した。

**柱穴 S K 330012・S K 330013(図版第16)** 十四町の東側の宅地の北端中央に位置する二基の柱穴である。おそらく建物跡の一部となるのであろう。柱間寸法は、2.4m(8尺)である。柱穴 S K 330012は、東西90cm・南北50cm、検出面からの深さ35cmを測る。径15cmの柱根が遺存していた。柱穴 S K 330013は、一辺50cm前後の方形掘形で、検出面からの深さ40cmを測る。柱穴 S K 330012

の中心座標は、 $X=-117,550.40 \cdot Y=-25,295.16$ である。

掘立柱建物跡 S B 331002(図版第16) 十四町の東側の宅地の東端中央に位置する。桁行3間・梁間2間の平面形態を持つ。柱間寸法は、桁行1.8m(6尺)、梁間2.1m(7尺)で、柱穴は40cm前後の方形掘形である。南妻の棟持柱には、径15cmの柱根が遺存していた。北西隅の柱穴の中心座標は、 $X=-117,610.70 \cdot Y=-25,267.34$ である。

### (3)二条三坊十五町(図版第13・第18～第28・第38・第13・14図)

二条三坊十五町は、宅地内に内郭構造こそみられなかったものの、中心的建物群は、左右非対称ながら「コ」字型配列を示していた。前殿 S B 363081と後殿 S B 363078に、脇殿 S B 363080が付設される。S B 363079は酒などの醸造施設、S B 363082は厨の可能性がある。厨とした S B 363082の南側に位置する井戸 S E 363084は、横板井籠組で高級貴族の邸宅の様相を呈していた。また、この「コ」字型配列の建物群の西側には、奈良三彩小壺の宅鎮が施された掘立柱建物跡 S B 362116と、それに並列する同規模の建物 S B 362117が後に増設された。とくに掘立柱建物跡 S B 362117は、栓皮葺きで白壁作りの高級な施設であったと推量される。

溝 S D 362103(図版第13-1～9・第11・13図) 二条条間北小路南側溝から2.9～2.95m南側で検出した十五町宅地北辺の溝である。二条条間北小路南側溝と同じく、A地区の西端から東三坊大路の西側溝付近まで検出した。東三坊大路西側溝との接合部分は、遺構面が削平されて一段低くなっているために、検出できなかった。幅80～100cm、溝の断面形状は、ゆるやかな逆台形で、検出面からの深さ約15cmと二条条間北小路南側溝よりもかなり浅い。溝 S D 362103は、後述の十五町宅地内東辺溝と同じく、宅地外郭に設けられた築地に伴う宅地内側の雨落ち溝と推測される。埋土からは、土師器・須恵器など各種土器(1091・1093・1094・1098・1099・1102～1104・1106・1110～1112・1115・1116・1118)の他に鍛冶作業に供したと考えられる羽口(1121)が出土した。溝心の中心座標は、A地区の西端で $X=-117,399.90 \cdot Y=-25,346.80$ 、東三坊大路との接合付近で $X=-117,399.85 \cdot Y=-25,363.80$ である。

溝 S D 363100 東三坊大路西側溝から2.8～2.9m程、西側で検出した十五町宅地東辺の溝である。現代用水路や埋設管による攪乱のため、遺構の遺存状態が悪く、全体の規模は確認できなかった。土坑 S K 363085の東側を中心に南北約33.5mにわたって部分的に検出した。断面形状は逆台形で、検出面からの深さは約10cmである。溝 S D 362103と同じく、築地の雨落ち溝と推測される。攪乱の著しい埋土からは、土師器・須恵器などの各種土器(1090・1095・1097・1100・1101・1105・1107・1114・1117、1119・1120)が出土した。溝の掘形東肩の中心座標は、北側で $Y=-25,258.55(X=-117,430.00)$ である。また、南側では $Y=-25,258.70(X=-117,500.00)$ である。

溝 S D 330004(図版第13-10～16・図版第25) 二条条間大路北側溝 S D 330003から2.9～3.2m北側で検出した十五町内南辺の溝である。十五町の南辺に造られた築地の北側雨落ち溝と推測しうる。土師器(1092・1096・1108・1109)が出土した。町内溝 S D 363086より東では、幅0.9～1m・深さ15～30cmで掘削されているのに対して、後述する溝 S D 362138より西では幅1～1.35m、検出面からの深さ40～45cmと、やや規模を大きくして掘削されている。溝 S D 363086と溝 S D

362138の間の6.5mにわたっては、溝の南辺は直線的に掘削されているが、北辺は幅を狭めて掘削されている。溝S D362138と溝S D362125の間は、4 m程度で、溝S D362125と溝S D363086の間は2.7m程度となっており、後者の位置に暗渠S X384091が造られている。この位置は後述の門跡S X384122の北側にあたり、通路として利用されていたために、溝内に暗渠が必要であったものとする。また、調査地の東端部の暗渠S X384109の北側付近では、溝底で牛の足跡を多数検出した。溝心の中心座標は、調査地の東端部で $X=-117,510.20$ ( $Y=-25,268.50$ )、中央付近の門跡S B384110の北側で $X=-117,510.40$ ( $Y=-25,318.30$ )、西端部で $X=-117,510.30$ ( $Y=-25,346.30$ )である。

**築地地業S D384104**(図版第13-17~21・図版第25) 二条条間大路北側溝S D330003と十五町南辺溝S D330004の間の平坦面に東西方向に検出した溝である。築地本体の基底部に掘削された地業痕跡と考えるが、その両側に添柱や寄柱などの柱穴等は確認できなかった。幅0.9~1.1m、検出面からの深さ10~20cmを測る。溝の断面形状は「コ」字形を呈している。埋土には灰色土や黄褐色土が2~4層に突き固められている。この築地地業は、後述する暗渠施設S X384109の西側で終わっており、これより東側では検出できなかった。これは、暗渠施設S X384109の枕木が検出面ではほぼ全容を現していたことから、調査地の東側にかけてはかなりの削平を受けていることが推測され、そのため、築地地業溝S D384104は消失してしまったものとする。また、門跡S B384110の東側で2.9mにわたってこの築地地業溝が途切れており、この北側の十五町南辺溝S D330004内には暗渠施設が造られている。そのことから、この築地地業溝S D384104が途切れた部分も門として機能していたものと推定できる。溝心の中心座標は、検出範囲の東端部で $X=-117,512.50$ ( $Y=-25,27.02$ )、門跡S X384122の東側で $X=-117,512.30$ ( $Y=-25,312.65$ )、西側で $X=-117,512.35$ ( $Y=-25,315.60$ )、西端部で $X=-117,512.15$ ( $Y=-25,346.60$ )である。

**門跡S B384110**(図版第25) 築地地業溝S D384104の上から掘り込まれた二基の柱穴を検出した。柱穴は後述する十五町内の掘立柱建物跡の柱穴と比べて大形で、一辺1 m程の隅丸方形を呈している。検出面からの深さは70~75cm、柱心々間で3 mを測る。柱抜き痕が認められた。十五町の東西幅のほぼ中央に位置した門跡と考える。

**門跡S X384122**(図版第25) 門跡S B384110の東側で検出したもので、築地地業が2.9mにわたって途切れている部分である。柱穴等の施設は検出できなかったが、計画的に築地を造っていないこと、この位置に通じる町内通路両側溝と考える溝2条を検出したこと、十五町南辺溝S D330004内に暗渠S X384091を検出したことから、大路に面して入口をなしていたと考える。

**暗渠S X384091**(図版第25) 十五町南辺溝S D330004内で、門跡S X384122の北側で検出した遺構である。溝S D330004は、町内溝S D363086と溝S D362125の間が幅80cmとやや狭められて土坑状に掘削されており、ほぼ60cmの間隔で三本の角材が東西に並べて埋め込まれていた。角材は、門跡S X384122を通るために構築された暗渠施設の枕木と考える。

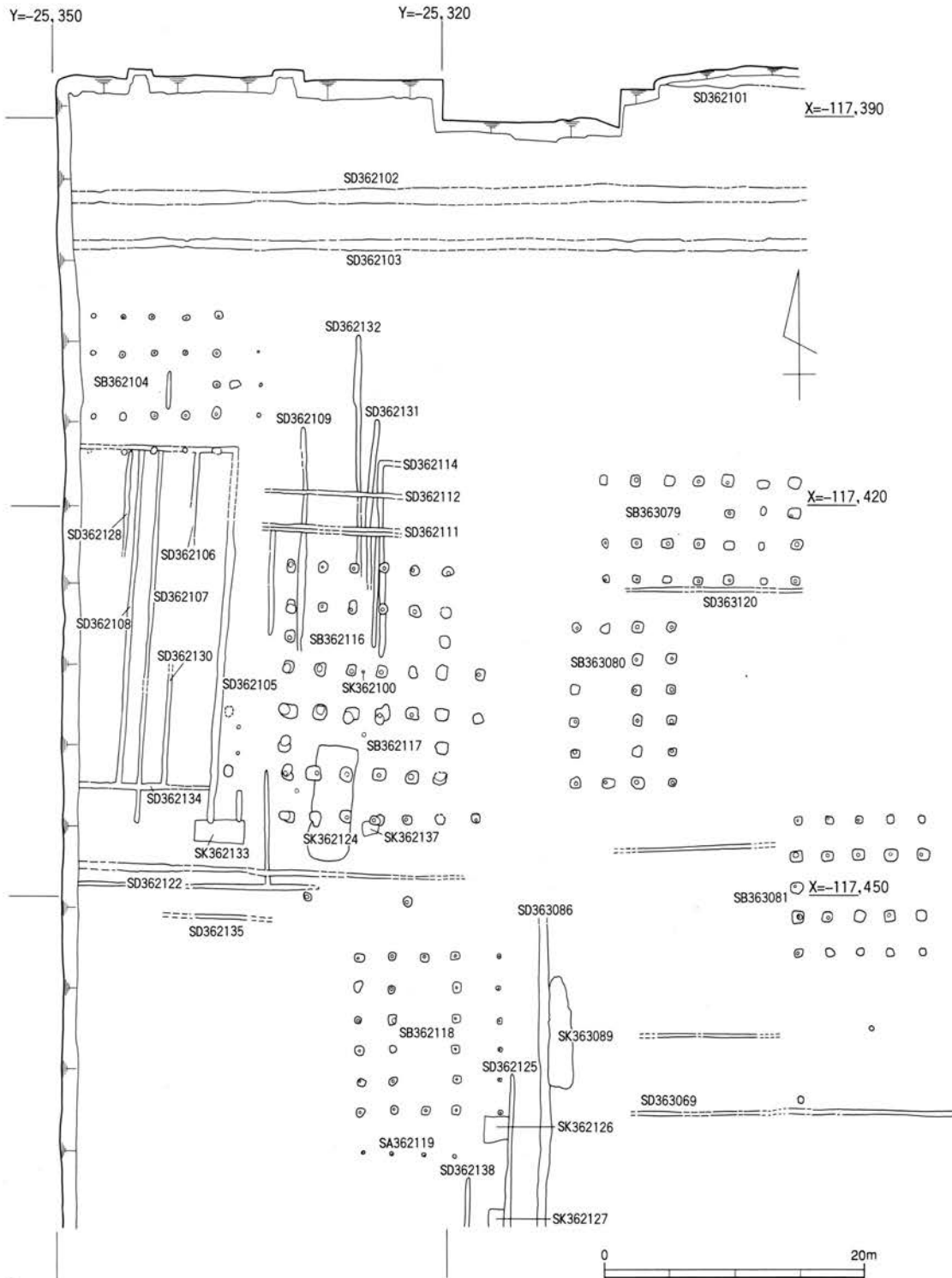
**暗渠S X384109** 十五町の南面東端、築地地業S D384104が途切れる位置で検出した。幅65cmの溝内に、幅5 cm程度、長さ60cmの角材が東西に三列配置されていた。構造的には暗渠S X

384091と同じである。検出した面ですでにこれらの部材が見えていたため、この遺構の周辺は当時の地表面から20cm以上の削平を受けているものと推定される。十五町南辺溝S D330004から二条条間大路北側溝S D330003へと排水するために、築地の下に構築された暗渠施設の枕木と判断される。

**掘立柱建物跡 S B 363078(図版第18)** 掘立柱建物跡 S B 363081の北側で検出した東西棟の掘立柱建物跡で、掘立柱建物跡 S B 363081と母屋の妻が揃う。桁行5間・梁間2間の母屋に、東・西・南の三面に庇が付く。柱間寸法は、桁行・梁間ともに2.3~2.5m(8尺)の等間隔である。庇の出は2.7m(9尺)である。母屋柱の柱穴は一辺90~100cm前後、庇の柱穴は50~60cmの方形掘形である。柱径20~30cmに復原できる。掘立柱建物跡 S B 363081ともに柱の抜取りのための掘形はみられなかった。柱穴4からは土師器杯A・椀A・黒色土器甕(1006・1013・1020)、柱穴8からは土師器杯A・甕A(1005・1015)などが出土している。北西隅の庇柱穴の中心座標は、X=-117,418.30・Y=-25,295.30である。また、南東隅の庇柱穴の中心座標は、X=-117,425.40・Y=-25,278.10で、母屋の北側柱の中心座標(母屋の三番目と四番目の柱穴の間)はX=-117,418.10・Y=-25,286.85である。

**掘立柱建物跡 S B 363079(図版第19)** 掘立柱建物跡 S B 363078の西側で検出した東西棟の掘立柱建物跡で、東西4間以上・南北2間の母屋に、南に庇が付く。柱間寸法は、桁行・梁間ともに2.4~2.5m(8尺)で、南側の庇の出は2.7~2.8m(9尺)を測る。隣接する掘立柱建物跡 S B 363078と掘立柱建物跡 S B 363079の側柱列はわずかだが微妙にずれている。母屋柱の柱穴は一辺70cm前後、庇の柱穴は60cm前後の方形掘形である。柱径20~30cmに復原できる。西半は現代建物跡の基礎によって攪乱を受けているため、東西4間分しか確認できなかったが、十五町で検出した掘立柱建物跡の多くが2間×5間の母屋を有していること、それらと同規模の柱間や柱穴を有していることから、本遺構も桁行5間であったと推定できる。柱穴6からは土師器椀A(1014)、柱穴12からは須恵器蓋A(1021)、柱穴13からは黒色土器杯A(1018)、などが出土した。また、南側に設置された雨落溝S D363120では、黒色土器杯A・土師器杯A(1003・1004)が出土した。母屋の内側には、直径約90cm検出面からの深さ10~15cmの丸底の、二列に並ぶ播鉢型土坑を検出した。甕を据え付けたと考えられ、本遺構が貯蔵施設あるいは醸造施設の機能を有していたと推測される(堀内1992)。北東隅の母屋柱穴の座標はX=-117,418.25・Y=-25,297.90で、南東隅の庇柱穴の中心座標は、X=-117,425.65・Y=-25,297.85である。

**掘立柱建物跡 S B 363080(図版第20)** 掘立柱建物跡 S B 363079の南側で検出した南北棟の掘立柱建物跡で、桁行5間・梁間2間の母屋に東庇が付く。柱間寸法は、桁行・梁間ともに2.4m(8尺)で、庇の出は2.7m(9尺)である。母屋柱の柱穴は一辺70~80cm前後、庇の柱穴は70cm前後の方形掘形である。柱径20cmに復原できる。母屋の東側柱で抜取り痕がみられた。柱穴12から土師器杯B(1008)、柱穴14から須恵器壺L(1027)、柱穴15から土師器盤B(1017)、柱穴17から須恵器甕A(1029)などがそれぞれ出土した。北西隅の母屋柱穴の中心座標は、X=-117,429.32・Y=-25,309.60で、南東隅の庇柱穴の中心座標は、X=-117,441.20・Y=-25,302.10である。



第13図 十五町北西 長岡京期遺構平面図(1/500)

掘立柱建物跡 S B 363082(図版第20) 掘立柱建物跡 S B 363078の東側で検出した南北棟の掘立柱建物跡で、桁行3間・梁間2間の母屋に、北と西の二面に庇が付く特異な平面形態を持つ。柱間寸法は、桁行2.1m(7尺)、梁間2.5m(8.5尺)で、庇の出は2.7m(9尺)である。母屋・庇ともに柱穴は40~50cm前後の方形掘形である。柱径20cm以下に復原できる。柱穴2から土師器椀A(1012)が出土した。掘立柱建物跡 S B 363078東庇柱と掘立柱建物跡 S B 363082の西庇柱の柱間は

2.7mで、庇の出に一致する。また、溝S D 363120は、掘立柱建物跡S B 363082の北庇の位置のみ掘削されずに途切れている。このことから、掘立柱建物跡S B 363078と掘立柱建物跡S B 363082をつなぐ通路があったものと考え、本遺構北庇部分は渡り廊として掘立柱建物跡S B 363078に接続していたと推測される。S B 363082は、二条条間北小路南側溝に取り付く排水溝が付設しており、炊飯・供膳用の土師器等の廃棄土坑や、井戸が近辺に位置していることから、厨とみられる。北西隅の庇柱穴の中心座標は $X=-117,420.10 \cdot Y=-25,275.40$ で、南東隅の母屋柱穴の中心座標は、 $X=-117,428.90 \cdot Y=-25,267.35$ で、南西隅の庇柱穴の中心座標は、 $X=-117,429.05 \cdot Y=-25,274.95$ である。

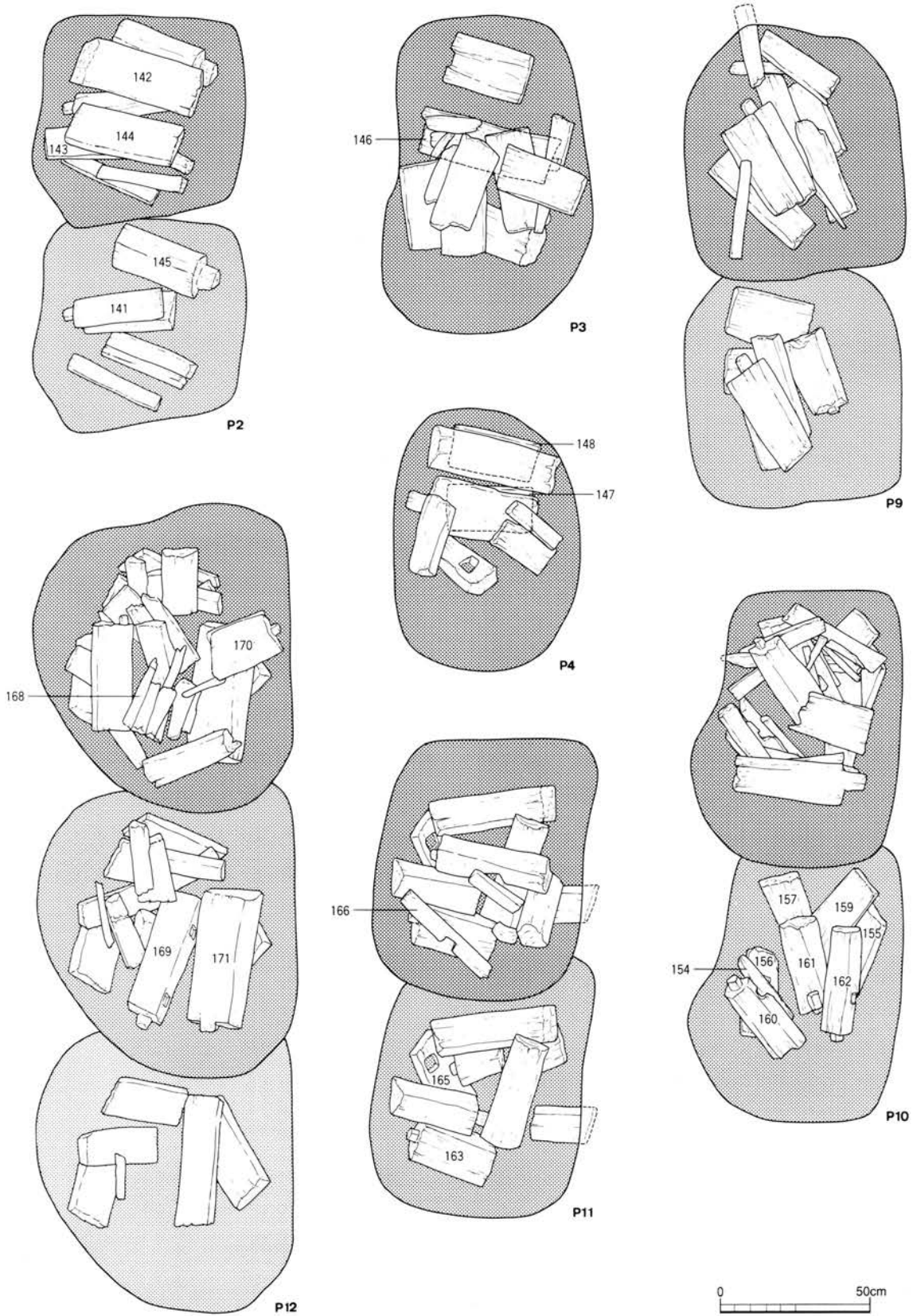
**掘立柱建物跡S B 363081(図版第21)** 十五町東半部のほぼ中央で検出した東西棟の掘立柱建物跡で、桁行5間・梁間2間の母屋に、南・北・東の三面に庇が付く。柱間寸法は、桁行・梁間ともに2.4m(8尺)で、庇の出は2.65~2.75m(9尺)である。母屋柱の柱穴は一辺90~100cm前後、庇の柱穴は50~60cmの方形掘形である。柱径20~30cmに復原できる。柱穴14から土師器皿A(1010)、柱穴21から丸瓦(1461)が出土した。北西隅の庇柱穴の中心座標は、 $X=-117,444.12 \cdot Y=-25,292.60$ である。また、南東隅の庇柱穴の中心座標は、 $X=-117,454.10 \cdot Y=-25,277.70$ で、母屋の北側柱の中心座標(母屋北側柱三番目と四番目間)は $X=-117,446.65 \cdot Y=-25,286.60$ である。

**掘立柱建物跡S B 362116(図版第22)** 十五町の北西で検出した東西棟の掘立柱建物跡で、後述する掘立柱建物跡S B 362117と妻が揃う。桁行5間・梁間2間の母屋に、北に庇が付く。柱間寸法は、2.3~2.4m(8尺)の等間隔で、庇の出は約3.0m(10尺)を測る。柱穴は70~100cm前後の長方形掘形を持つ。妻柱列が北側で $2^{\circ} \sim 2.5^{\circ}$ 程東に振る。柱穴4からは土師器杯B(1007)、柱穴10からは土師器皿A(1011)・風字硯(1024)などの他、柱穴15・18では熨斗瓦に転用されたと考えられる半裁された平瓦が遺存していた(1453~1456)。西妻棟持柱柱穴には、直径30cmの柱根(172)が遺存していた。ほとんどの母屋柱穴掘形で柱抜き取り痕を確認した。柱穴掘形底面には建築部材の一部を分割した割板が大量に遺存しており、礎板(掘立柱建物跡S B 362116 柱穴1(139・140)・柱穴2(141~145)・柱穴3(146)・柱穴4(147・148・158)・柱穴5(149~153・170)・柱穴10(154~162)・柱穴11(163・165~167・175)・柱穴12(164・168・169~171)・柱穴14(172~174)として使用された状況を示していた(第14図)。とくに礎板158は柱穴4と柱穴10、礎板170は柱穴5と柱穴12に遺存したものがそれぞれ接合した例である。礎板173~175も柱穴11と柱穴14に遺存していた割板が接合した例である。北西隅の庇柱穴の中心座標は $X=-117,424.65 \cdot Y=-25,331.50$ である。

**地鎮土坑S K 362100(図版第13)** 上述した掘立柱建物跡S B 362116の南側柱列中央、東3間に付設する小土坑である。一辺15cm×17cmの小さな穴に、二彩小壺(1039・1040)を埋納した宅鎮と考える。中からは、直径3mm弱のガラス小玉10点(181~190)が出土した。小壺の中心座標は $X=-117,432.728 \cdot Y=-25,325.924$ である。

**掘立柱建物跡S B 362117(図版第23)** 掘立柱建物跡S B 362116と妻を揃えて隣接する東西棟の掘立柱建物跡で、桁行5間・梁間2間の母屋に、南に庇が付く。また、東西に土間庇が付く可能





第14図 掘立柱建物跡 S B 362116 柱穴内出土礎板

性がある。掘立柱建物跡 S B 362116 とともに双堂となる可能性が高い。柱間寸法は約 2.4m (8 尺) の等間隔で、庇の出の柱間は約 3.3m (11 尺) を測る。母屋柱は一辺 100cm を超える方形掘形を持つが、庇柱穴は 70~90cm 前後の不定形な掘形である。すべての柱掘形に重複するように柱の抜取り痕がみられたが、抜取り方向に統一性はない。柱の抜取り痕掘形には、拳大の石や漆喰、桧皮が投棄されていた。白壁と檜皮葺きの屋根を持っていたと思われる。柱穴 4 からは須恵器壺 L (1026)、柱穴 20 からは須恵器蓋 A (1022)、柱穴 21 からは土師器甕 A (1016)、柱穴 22 からは土師器皿 A・須恵器杯 B・円面硯・瓦類 (1009・1023・1025・1457~1459)・柱穴 23 からは丸瓦 (1460) が出土した。北西隅の母屋柱穴の中心座標は、 $X=-117,435.52$ ・ $Y=-25,332.00$  である。なお、柱穴間に直径 30cm 前後・深さ 7.0~10.0cm の小規模な土坑を 3 つ検出した。また、東・西・南の三方向に掘立柱建物跡 S B 362117 に付随すると思われる直径 70~90cm 前後の柱穴あるいは土坑を 6 基検出した。東側には、建物跡東妻の柱列から 2.7m (9 尺 1 間分) 離れた、母屋北側柱筋と庇柱筋に柱穴が 2 穴穿たれており、柱痕跡を確認した。西側にも建物跡梁間西辺から 4.5m 程離れ、母屋の北と南の側柱筋に、東側と同規模の土坑が穿たれるが、これには、柱痕跡は認められなかった。さらに、庇柱列から南に 6.4m 離れ、東妻と西妻からそれぞれ 1 間ずつ内側に入った南北方向の柱筋にも 2 基の柱穴が穿たれていた。掘立柱建物跡 S B 362117 の東西の柱穴は土間庇、南側の柱穴は孫庇の可能性はある。

**掘立柱建物跡 S B 362118 (図版第 24)** 十五町南半中央で検出した南北棟の掘立柱建物跡で、桁行 5 間・梁間 2 間の母屋に、西に庇が付く。柱間寸法は、桁行・梁間ともに 2.3~2.5m (8 尺) の等間隔で、庇の出の柱間は約 2.7m (9 尺) を測る。柱穴は一辺 60~70cm 前後の方形掘形で、柱径 15~20cm に復原できる。柱穴 12 から黒色土器杯 A (1019) が出土した。掘立柱建物跡 S B 362118 東側に柱筋を揃えた柱穴列が検出された。土間庇の可能性もあるが、柱穴が 20cm 以下であることから塀の類として扱った (S A 362120)。また、南側には、東西に 4 つの小規模な柱穴が並ぶ塀 S A 362119 が検出されたが、掘立柱建物跡 S B 362118 の南妻には平行せず、東側で南にわずかに振れている。のちに付設したものとする。北西隅の庇柱穴の中心座標は、 $X=-117,454.69$ ・ $Y=-25,326.32$  である。

**掘立柱建物跡 S B 362104 (図版第 25)** 十五町の北西で検出した東西棟の掘立柱建物跡で、桁行 4 間以上・梁間 2 間の母屋に、北と南の二面に庇が付く。東妻の柱列がやや不揃いとなるため、南庇の柱列は柱筋の通る塀の可能性もある。柱間寸法は、桁行・梁間ともに約 2.4~2.5m (8 尺) で、庇の出は 2.75~2.9m (9.5 尺)。柱の並びはやや不揃いである。母屋東妻棟通りの外側に独立した棟持柱柱穴が検出された。柱穴掘形は、母屋で一辺 50~60cm の隅丸方形、柱径 15cm に復原できる。東妻に並行し、柱筋の通る柱穴列を検出した。直径 15cm 程の小さな掘形で、東側の敷地に対する目隠し塀とみられる。桁行 5 間とすれば、北西隅の庇柱穴の中心座標は、 $X=-117,405.31$ ・ $Y=-25,346.74$  で、北東隅の庇柱穴の中心座標は、 $X=-117,405.24$ ・ $Y=-25,337.04$  である。

**井戸 S E 363084 (図版第 26)** 掘立柱建物跡 S B 363081 の北東で検出した横板井籠組の井戸であ

第2表 井戸S E 363084井籠組井戸横板材墨書

段	北杵板			西杵板			東杵板			南杵板		
	東端	西端	遺物番号	北端	南端	遺物番号	北端	南端	遺物番号	東端	西端	遺物番号
5			180			185			190			195
4			179			184			189	東□		194
3	東三		178			183	二		188	東重二		193
2			177			182	東北二		187	東西		192
1		西一	176	西□	西南一	181			186	東本		191

る。上半の井戸側は抜き取られていたが、下から五段分の井戸側が残っていた。井戸側内法は1.1m四方である。井戸側は、長さ約1.27m・幅約25cm・厚さ約3.0cmの板材の両端を臍組み加工を施して組み合わせており、上下の板は、一辺に各2か所に臍穴を設けダボで接合している。井戸の掘形は、一辺約2.3mの隅丸の方形で、検出した深さは2.55mである。井戸底には厚さ60cmにわたって拳大の河原石と木炭を敷き詰めて、浄水の工夫が施されている。井戸底からは、土師器碗A(1032)、口縁部を打ち欠いた須恵器壺L(1035)が出土した。また、井戸廃棄時の埋土中から、須恵器器杯B(1034)や、桃の種などの植物遺存体が出土した。

井戸側の外面両端には、「東北」、「西南」などの文字が記されているのが認められた。以下、下段から上段へ向けて1→5とすると、第2表のようになる(図版118・119の遺物実測図は、上位が外面・下位が内面となる)。

これらは、井戸を組む際に、どの位置にどの部材を組むのかを記した符号と判断できる。しかし、その板材をどの方角の面に用いるのかについての情報は記されておらず、南2の東端の「東西」を除いてすべて、その板材が最下段から何段目であるか、その端をどちらの方向に向けるか、という内容が記されている。東2・西1の板材には、どの面に用いるかも記されている。部材を組む位置を記しているなので、少なくとも現地で板材を加工したのではなく、某所から運搬される以前に墨書されたと推測できる。また、どの面に用いるかを記していないので、運搬の際には、それぞれの面毎に板材をひとまとめにして運搬したと推測しうる。

また、南3の東端の「東重二」は、最下段の上に「東に二枚目として重ねる」と解釈でき、南1の東端の「東本」は「最下段(=本)の東側」の意味であろう。さらに、西1の南端の「西南一」の上に「一」状の墨痕があるが、これは誤った文字を刀子状の工具で削った上に文字を記している。また、東杵板二段(187)外面などに「←」という刻印がなされている。

井戸S E 384092(図版第38) 十五町の東北部で検出した。一辺2.2mの方形の掘形の南側に偏して、直径65cmの曲物(124)を据えた井戸である。この曲物は高さ55cmで、この曲物の上部には、一回り大きな曲物(残存高12cm)がはめ込まれており、両者の曲物の隙間には板材が挟み込まれていた。これらの曲物は、もとは数段にはめ込んで積み上げられていたのが、井戸廃棄時に曲物を回収した際に残されたものとする。井戸の掘形は北で東にやや振れている。曲物の周囲は縦板で保護されていた。井戸内部から土師器皿・甕(1031・1033)、人形あるいは斎串(86・88・89・94)などが出土した。

溝S D 363120(第13図) 掘立柱建物跡S B 363078・掘立柱建物跡S B 363079の東辺と南辺に沿

って「L」字形に検出した雨落ちと考える溝である。幅25～30cmで、検出面からの深さおよそ5.0cmである。庇の柱穴列より南に1.0m、東に1.3mの位置で検出した。先述のように、掘立柱建物跡S B 363078と掘立柱建物跡S B 363082の間が一部途切れている。埋土からは黒色土器杯A・土師器杯A(1003・1004)が出土した。

溝S D 362132(第13図) 掘立柱建物跡S B 362116の北側で検出された南北方向の溝である。幅40～45cm、検出面からの深さ15cm前後であった。ほぼ座標南北に沿う。

溝S D 362109(第13図) ほぼ座標南北に掘削された溝S D 362132の西側に並行して掘削された南北溝である。幅40～60cm前後で、南側に行くに従って、深くなり25cmほどになる。土師器皿(1054・1055)が出土している。

溝S D 362131(第13図) 溝S D 362132に東接して掘削された南北溝である。幅40cm前後、検出面からの深さ15cmを測る。北側で東に6°ほど振れる。

溝S D 362114(第13図) 掘立柱建物跡S B 362116より古い時期に掘削された「L」字形に曲がる溝である。ほぼ真北を向いており、掘立柱建物跡S B 363078～S B 363082と同じ時期に作られたと考える。東側が現代の建物跡基礎の攪乱によって失われているが、西側の溝群(溝S D 362105～108・128など)のように何本もの溝が掘削されていたと考える。幅40～50cm、検出面からの深さ10～15cm前後を測る。断面形状は「U」字形に近いものであった。埋土からは土師器碗C・須恵器甕A(1063・1088)が出土した。

溝S D 362111(第13図) 掘立柱建物跡S B 362116に平行する2条の溝で、東西方向に掘削されている。北側の部分は、掘立柱建物跡S B 362116の北側庇柱列から約3.0m(約10尺)離れている。東から約2°南に傾いており、東側は現代建物跡の基礎の攪乱によって失われている。幅55～65cm、検出面からの深さ10cm以下の、断面形状は「U」字形の浅いものであった。埋土から土師器皿A・円面硯・瓦類(1053・1058・1082・1462～1466)が出土した。

溝S D 362105～溝S D 362108・溝S D 362128～溝S D 362130・溝S D 362134(第13図) 掘立柱建物跡S B 362104の南で検出した東西10m以上・南北約26mの範囲に掘られた溝群である。北側で東に約4°～4.5°東に傾いている。幅約30～50cm、検出面から10～15cm程の深さがあり、底面は平坦で、断面形状はすべてしっかりとした箱薬研を呈する。堆積した土は暗灰色粘土単一層で、自然堆積とは考えにくい。溝S D 362105からは、黒色土器、土師器碗など多数の土器(1043・1045・1046・1049・1057・1064～1066・1069・1073・1074・1078・1081)が投棄された状態で出土した。

溝S D 362121(第13図) 後述する東西溝S D 362123に直角に接して北に延びる南北溝である。

溝S D 362122(第13図) 掘立柱建物跡S B 362117の南側で検出した溝である。掘立柱建物跡S B 362117の棟通りに平行する。幅約30cm、検出面からの深さ10cm前後であった。掘立柱建物跡S B 362117の南庇柱列から4.4～4.5m(約15尺)離れており、東から約2°南に向いているため、南庇柱列にほぼ並行する。幅55～25cmと若干深さが揃わない部分がある。埋土から遺物は出土しなかった。

溝 S D 362123(第13図) 溝 S D 362122の南側に位置する東西溝である。幅30~40cm、検出面からの深さは10cm内外と浅い。南北溝 S D 362121を連結する。埋土に遺物はみられなかった。溝 S D 362122とは並行には掘削されず、ほぼ座標東西に沿っており、掘削時期が異なった可能性がある。座標に沿う掘立柱建物跡 S B 362104が S D 3622105の埋没以後に建てられたことからすれば、本遺構も溝 S D 362105~溝 S D 362108・溝 S D 362128~溝 S D 362130・溝 S D 362134よりも新しく掘削された可能性が高い。

溝 S D 362135(第13図) 溝 S D 362122の南側に平行して掘削された溝である。削平されて、痕跡に近いが、幅30cm前後、検出面からの深さ 5 cm内外であった。溝 S D 362122との距離は溝の心々間で3.68m(12.4尺)を測る。両溝の中心から座標東に行くと、掘立柱建物跡 S B 363081の西妻棟持柱に行きつく。溝 S D 362122と溝 S D 362135を両側溝とする道を想定するとすれば、掘立柱建物跡 S B 362117の南側に、主殿たる掘立柱建物跡 S B 363081の西妻に至る東西方向の町内小路が敷設されていた可能性がある。

溝 S D 363069(第13図) S B 363081の南側で検出された東西方向の溝である。幅40~50cm、検出面からの深さ10cm内外を測る。座標東西に沿い、西に行くと掘立柱建物跡 S B 362118の南妻にあたる。また、北12.3m(41.6尺)隔てた S B 363081の南庇柱列にもほぼ並行する。本遺構の北側6.1m弱(20尺)離れた位置にも同様の規模の東西溝があり、両溝を側溝とする道路の可能性もある。

溝 S D 363070 溝 S D 363069の北側で検出した東西溝である。削平が著しく 9 m 足らずしか検出できなかった。幅30cm前後で検出面での深さ10cm足らずであった。東側で北に5°ほど振れる。

溝 S D 362125・溝 S D 362138・溝 S D 363086(第13図) 柵 S A 362119の南東で検出した3条の溝である。北側で東に約4°程の振れを有している。溝 S D 362125,の幅は40~55cm、検出面からの深さ10~15cm、溝 S D 362138の幅は20~30cmでやや小さい。検出面からの深さ10~25cm、溝 S D 363086の幅40~65cm、検出面からの深さ10~15cm、断面形状はともに箱葉研に近い。町内溝 S D 362125・溝 S D 363086が、門跡 S X 384122に通じる町内小路の東・西側溝と考えられ、町内溝 S D 362125・溝 S D 362138が門跡 S B 384110から宅地に通じる通路の側溝と考える。前者が路幅約2.1m、後者のそれが約4.1mである。溝 S D 362125からは須恵器壺M(1084)、溝 S D 363086からは土師器高杯(1071)がみられたが、それ以外にはほとんど遺物はみられなかった。いずれも南に向かうにしたがって深くなる。十五町南辺溝 S D 330004との接続関係を溝内堆積土層で観察すると、通路側溝から南辺溝に土が流入していた。これらの溝が意図的に埋められた痕跡は認められなかった。

土坑 S K 363090(図版第27) 掘立柱建物跡 S B 363082南東、土坑 S K 363085の北側で検出した円形に近い不定形の平面形を持つ。4.0m×4.2mの範囲にわたって多量の土器(1245~1404)・瓦(1471~1473)が出土した。土器は、土坑 S K 363089・S K 363105同様に杯・皿・椀など土師器供膳具を主体としている。中央部が最も低いレンズ状に堆積しており、その下面に炭が5cm程堆積していた。

土坑 S K 363085(図版第28) 井戸 S E 363084の東、約5mで検出した東西約7.8m・南北約3.8

m・検出面からの深さ約30cmを測る長方形の土坑である。土師器・須恵器など各種土器(1138～1149)が出土した。

土坑 S K 362124(図版第28) 東西約3.0m・南北約8.8m・検出面からの深さ20cmを測る長方形の土坑である。土坑 S K 363085と同様の平面形態を持つ。掘立柱建物跡 S B 362117が建てられる前に埋め立てられていた。埋土からは土師器・須恵器など(1122～1131)が出土したが、その量は多くはなかった。西辺は北側で東に約6°傾いている。

土坑 S K 363089(図版第28) 掘立柱建物跡 S B 362118の東で検出した東西約1.9m・南北約8.7mを測る隅丸長方形の穴である。埋土からは、杯・皿・椀など土師器供膳具を主体とした各種土器(1173～1244)のほか、炭・焼土が出土した。

土坑 S K 363105 古墳時代の溝 S D 363116の上で検出した4.8m×2.3mの隅丸方形の土坑である。弥生時代～古墳時代に掘削された下層の溝と同じ北西－南東方向の主軸を有しており、かつ二条条間北小路南側溝 S D 362102の掘削以前に埋没している。珍しい灰釉水滴(1038)や須恵器(1036・1037)、杯・皿・椀など土師器供膳具(1405～1444)、黒色土器(1445～1452)が出土した。土師器供膳具の多くがb'・c手法であったことから長岡京期のそれと大差はなく、長岡京の条坊路造営直前の埋没と考える。他に焼土や炭が埋土に多く混じっていた。

土坑 S X 384088 十五町南辺溝 S D 33004の北側で検出した土坑である。東西11.8m・南北2.4m・検出高15～25cmで、後述の土坑 S X 384089と接している。ほぼ東西に掘削されている。土坑の底面には5～10cmの厚さの灰色粘土が堆積しており、この上面は凸凹になっていた。この粘土は自然に堆積したとは考えにくいと、意図的に土坑内に入れたものと判断され、池状の施設または粘土を貯蔵したものか、あるいは、築地築造のための粘土をこねた施設と想像されるが、根拠を欠き、その性格を判断しがたい。

土坑 S X 384089 土坑 S X 384088の東側に接して検出した。6.2m×2.1mの土坑である。埋土の状況は土坑 S X 384088と同じである。内部から、須恵器杯蓋(1113)が出土しており、長岡京期と考える。

土坑 S K 362133(第13図) S D 362105の南端に付設された土坑である。東西5m以上・南北1.4mを測る。検出面での深さは非常に浅く5cm以下で、平坦な底面を呈していた。用途は不明であるが、S D 362105などが暗渠であれば、湿気抜きの機能がかったものかもしれない。

土坑 S K 362126・土坑 S K 362127・土坑 S K 362136 溝 S D 362125に西接して付設された隅丸方形の浅い土坑である。一辺1.6～2.0m前後で検出面からの深さ10cm内外の非常に浅いものであった。底面は平坦で、用途は不明と言わざるを得ない。土坑 S K 362136からは土師器(1133・1134)が出土した。

溝 S D 363087 掘立柱建物跡 S B 363082の北東部で検出した南北方向の溝で、北側は攪乱のため条坊関連遺構との接続関係は不明であるが、南端は急激に浅くなって終わる。断面形状は「コ」字形を呈しており、幅40cm前後、検出面からの深さ10～15cmで、総長16.4mにわたって確認した。埋土からは長岡京期の土器(1044・1047・1048・1050～1052・1056・1059～1062・1075～1077・

1085～1087・1089)が多量に出土した。溝の南端の中心座標は、 $X=-117,410.00$ ・ $Y=-25,263.75$ である。

土坑 S K 362137(第13図) 土坑 S K 362117の東側に位置する。一辺 2 m 前後の隅丸方形を呈する土坑である。検出面からの深さ 15cm 程度の浅いものであったが、埋土から各種土器(1135～1137)が出土した。埋土に掘立柱建物跡 S B 362117の柱穴が掘削される。

#### (4) 二条四坊二町(図版第29～第33)

二町は、南北 2 分の 1 ずつに正確に分割されており、北側 2 分の 1 の宅地は、外郭築垣として柵あるいは塀に囲まれていた。北半の宅地の中心建物は、宅地の中心やや西側に位置する南北棟の掘立柱建物跡 S B 336005である。その東に位置する掘立柱建物跡 S B 329005も南北棟で、両建物の中軸は、外郭北辺築垣から 100 尺に揃えることから東西に並ぶ「二」字型の建物配列とみることができる。また、東西棟の S B 336001・336002が、S B 336005中軸の東西中央線を線対称とした位置(未掘部分)に、同等の東西棟が存在したと想像し、東側は前庭部分の機能があったと考える。

塀 S A 329003・336009(図版第29) 二条四坊二町の北半分を区画する柱穴列である。重複するものも含めて都合 57 基の柱穴を検出した。1 辺 40～60cm 程度の方形掘形をもつ。検出面からの深さ 30～90cm を測る。多くの柱穴で柱根がそのまま遺存していた。柱穴の深さは、南で 90cm 前後と深く、北で 30cm と浅くなる。柱径約 10cm 前後で一部柱根が遺存する。柱間寸法は、北辺柱列は、3.0m 前後で揃うが、西辺柱列は、約 2.8～2.95m、一部 3.5m のものまでやや不揃いである。二町宅地の北辺では、この北辺柱列が二条条間北小路南側溝計画線上に位置する。

橋跡 S B 361181(図版第29) 二町の北半の宅地の塀 S A 329003の西南隅では、東三坊大路の路面上に約 2 m の間隔で 2 基の直径 20cm 程の小さな穴を検出した。柱痕や柱根などは遺存していないため、杭が打たれていたものとでき、二町北半の宅地から東三坊大路東側溝を渡る施設(出入口)があったと考える。

橋跡 S B 361182(図版第29) 二町の南半分の宅地西辺中央、東三坊大路東側溝に面して直径 20～30cm 前後の穴を 6 基検出した。橋跡と考える。上述の遺構同様、小規模なもので、東三坊大路の東側溝掘形両肩に杭打ちし、上部に俎橋をのせる構造を推測しうる。

掘立柱建物跡 S B 336001・336002(図版第32) 二町の北半東側で検出した 2 棟の東西棟の掘立柱建物跡である。桁行 5 間・梁間 2 間で、掘立柱建物跡 S B 336001の柱穴は、掘立柱建物跡 336002のそれぞれの柱穴の約 60cm 西に位置しており、同じ規模の建物跡を建て替えたものとみられる。柱穴の重複は全く無いため、先後関係は不明である。柱間寸法は、ともに桁行 2.25 m (7.5 尺)、梁間 2.4 m (8 尺)である。柱掘形は一辺 50～60cm の方形で、検出面からの深さ約 20cm である。柱径は 15～20cm 前後であろう。柱穴 135 から平瓦(1498)が出土している。S B 336001の北西隅の母屋柱穴の中心座標は、 $X=-117,400.70$ ・ $Y=-25,153.70$ である。また、S B 336002の北西隅の母屋柱穴の中心座標は、 $X=-117,400.85$ ・ $Y=-25,153.04$ である。

柵 S A 336007(図版第29) 掘立柱建物跡 S B 336002・S B 336003を北側から目隠しする東西方

向の柵である。S B 336002・003と柱筋は通らない。柱間寸法は、2.25m、一辺65～90cmの方形掘形で、検出面からの深さ約30cmを測る。柱穴132から壺G (1492)が出土している。北西隅の柱穴の中心座標は、 $X=-117,399.30$ ・ $Y=-25,155.50$ で、二条条間北小路南側溝推定位置から南約3m(10尺)の位置にあたる。

**掘立柱建物跡 S B 336005(図版第30)** 二町北半の中央で検出した東西棟の掘立柱建物跡で、桁行5間・梁間2間の母屋に東・西・南の三面に庇が付く。柱間寸法は、桁行2.1m前後(7尺)、梁間2.5m(8.5尺)で、庇の出は、桁行が2.4m(8尺)、梁間2.7m(9尺)を測る。柱掘形は母屋で一辺70～85cmの方形、検出面からの深さ30～40cm。庇柱の一部には1m×55～60cmの長方形のものもあるが、おもに60～70cm前後の方形掘形を持つ。柱径はどちらも15～20cmに復原できる。柱穴104・121・124・126・157・159・161・164・167から土師器杯・皿・椀・甕・須恵器平瓶・平瓦(1475・1476・1478・1479・1482～1486・1488・1489・1493・1496・1497)など、多くの遺物が出土している。北西隅の庇柱穴の中心座標は、 $X=-117,418.70$ ・ $Y=-25,189.05$ である。

**掘立柱建物跡 S B 336003(図版第31)** 二町北半の中央東で検出した長大な南北棟の掘立柱建物跡である。桁行7間・梁間2間の総柱の平面形を持つ。側柱は一辺70～90cmの方形掘形であるが、棟通りの柱は60～80cmの方形掘形で、わずかに規模が小さい。検出面からの深さ約30cm・柱径15～30cm程に復原される。東側柱列北半の二ないし三間分には、南北の柵状の柱穴列が重複している。柱間寸法は、桁行が2.7～2.8m(9尺)、梁間が2.55m(8.5尺)である。北東隅の柱穴の中心座標は、 $X=-117,396.80$ ・ $Y=-25,159.80$ である。

**柵 S A 336006(図版第31)** 掘立柱建物跡 S B 336003の西側、側柱筋を通す南北方向の堀である。掘立柱建物跡 S B 336003の西側柱列から2.85m(約10尺)隔てている。柱間寸法は、2.7m(9尺)である。一辺40～50cmの方形掘形で、検出面からの深さ約20cmを測る。

**掘立柱建物跡 S B 336004(図版第30)** 掘立柱建物跡 S B 336003の南半部分と重複する南北棟の掘立柱建物跡である。桁行2間・梁間2間、南側に位置する掘立柱建物跡 S B 329005と側柱列がほぼ揃う。建物跡方位は、北で3°50′西に振れる。柱間寸法は、桁行が2.45m(8尺)、梁間3.3m(11尺)である。柱掘形は一辺60～80cmの方形掘形で、検出面からの深さ20～50cmである。北西隅の柱穴の中心座標は、 $X=-117,409.63$ ・ $Y=-25,163.35$ である。

**掘立柱建物跡 S B 329005(図版第32)** 掘立柱建物跡 S B 336004の南側で検出した南北棟の掘立柱建物跡である。桁行4間以上・梁間1間、建物跡の方位は3°50′程西に振れる。柱間寸法は、桁行2.5～2.7m(8～9尺)、梁間4.7m(16尺)である。柱掘形は一辺70～80cm前後の方形掘形である。北西隅の柱穴の中心座標は、 $X=-117,418.80$ ・ $Y=-25,162.80$ である。

**掘立柱建物跡 S B 329004(図版第32)** 掘立柱建物跡 S B 329005の南半部分と重複する南北棟の掘立柱建物跡である。桁行3間以上・梁間1間、柱間寸法は、桁行が北から1.8m(6尺)、1.35m(4.5尺)、1.8m(6尺)で、梁間が4.15m(14尺)である。柱掘形は一辺60～70cmの方形掘形で、検出面からの深さ約40cmを測る。西北隅の柱穴の中心座標は、 $X=-117,425.90$ ・ $Y=-25,163.65$ である。柱穴から土師器杯A・皿A・模型竈(1477・1480・1481・1494)などが出土した。



柵 S A 329006(図版第29) 掘立柱建物跡 S B 329005中央を東西に重複する柵である。柱穴と考えられる方形掘形の土坑3基を検出した。一辺70~80cmの方形掘形を持つが、柱痕・柱根は遺存していない。柱間寸法は、おおむね2.4m前後(8尺)に復原できる。柱穴19から平瓦(1499)が出土している。この付近は大きく攪乱を受けており、掘立柱建物跡の北妻の可能性もある。東端の柱穴の座標が、 $X=-117,424.13 \cdot Y=-25,153.65$ である。

柵 S A 336010(図版第29) 調査地西北部で検出した南北方向の柵で、一部柱穴を検出できなかったが、復原で六間分を検出した。柱間寸法は、南の二間分が2.85m、北の四間分(復原)が2.1mである。S A 336009と重複し、その北端は二条条間第二小路路面推定地にまで及ぶ。南端の柱穴の中心座標は $X=-117,403.90 \cdot Y=-25,186.80$ である。長岡京期以降の可能性も高いが、二町宅地外郭の堀 S A 336009に直交し、条坊方位を意識している。

不定形落ち込み S K 336158 S B 336005の南西付近で検出された、不定形の浅い落ち込みである。灰褐色土の堆積した包含層から各種土器(1503~1532・1534~1538・1544・1545)が出土している。

不定形土坑 S X 336095 S B 336005の南西付近で検出された不定形落ち込み S K 336158の堆積土を掘りこんで作られた不定形の土坑である。長さ80cm・幅40cm前後で、播鉢状となる。埋土からは土師器杯A・須恵器蓋A(1500~1502)などが出土した。

掘立柱建物跡 S B 303101(図版第33) 二町宅地の南半の南端中央付近で検出した東西棟の掘立柱建物跡である。桁行3間・梁間2間以上の母屋に東と南の二面に庇が付く。柱間寸法は桁行・梁間ともにほぼ2.4~2.5m(8~8.5尺)で、庇の出はどちらとも2.65m(9尺)となる。一辺約50~60cmの方形掘形で、検出面からの深さ約30cmを測る。北東隅の庇柱穴の中心座標は $X=-117,499.25 \cdot Y=-25,156.65$ である。

掘立柱建物跡 S B 303102(図版第33) 二町宅地の南半、東西3間・南北2間以上の掘立柱建物跡となる可能性があるが、大部分は調査地外である。柱間寸法は、まちまちで2~2.7m(7~9.5尺)である。一辺約40~50cmの小規模な方形掘形で、柱径10~15cm内外に復原できる。検出面からの深さ約30cmを測る。南東隅の柱穴の中心座標は $X=-117,499.60 \cdot Y=-25,155.10$ である。

土坑 S X 361064 二町宅地の南半、東三坊大路東側溝 S D 329001の東で検出した。全長(南北)12m・幅(東西)7mほどの南北に細長い土坑である。検出面からの深さ30~50cmを測る。掘形は浅い皿状であるが、西辺は東三坊大路東側溝に並行する。また、本遺構の北端は二町の南北を正確に2分の1に分割する S A 329003から掘削されていることから、二町の南半の宅地に関連する長岡京期の土坑であることがわかる。遺構内埋土から須恵器杯B・壺・土馬(1490・1491・1495)などが出土した。

掘立柱建物跡 S B 329002(図版第32) 二町の南西で検出した3基の柱穴である。東西・南北ともに1間以上の掘立柱建物跡となる可能性があるが、大部分は調査地外である。柱間寸法は、南北・東西とも1.8m(6尺)である。一辺約45cmの方形掘形で、検出面からの深さ約20cmを測る。北西隅の柱穴の中心座標は、 $X=-117,484.10 \cdot Y=-25,221.50$ である。

## (5) 二条四坊三町(図版第34～第38)

三町の宅地も東西2分の1に分割されるようである。西半の宅地には、東西棟の掘立柱建物跡S B315004およびそれに中軸を揃える東西棟のS B333001と、その西脇に配置された南北棟のS B399415が共存し、S B315004廃絶後、S B315007あるいはS B315005・S B315006の建て替えと、若干方位が振れる東西棟S B399518が設置されたと想定できる。いずれにせよ、三町西側の宅地では、西端に掘立柱建物が集中するやや特異な建物群を想定しなければならない。

堀S A315010・門跡S B315013(図版第37) 東三坊大路東側溝S D315003の東側に並行して5基の柱穴を検出した。三町の西辺、宅地外郭を限る柵あるいは堀と考える。検出範囲の北側2基の柱列は60×80cm前後の長方形掘形を持つが、南側の3基は、直径30cm弱の小規模な円形掘形であったため、北側2基が門(S B315013)にあたると考える。

掘立柱建物跡S B315007(図版第34) 掘立柱建物跡S B315006と重複している東西棟の掘立柱建物跡である。桁行3間・梁間2間に西と南に庇が付く。柱間寸法は、母屋の桁行2.5～2.6m(8.5尺)、梁間2.2～2.4m(7.5～8尺)を測る。桁行庇の出は、2.5～2.6m(8.5尺)で、梁間の庇の出は3.0m(10尺)を測る。一辺40cm前後の方形掘形で、柱径10cm程に復原できる。北西隅の庇柱穴の中心座標はX=-117,546.53・Y=-25,208.45、南西隅の庇柱穴の中心座標は、X=-117,554.20・Y=-25,208.80である。

掘立柱建物跡S B315005(図版第35) 三町の北西に位置する南北棟の掘立柱建物跡である。桁行5間・梁間2間・母屋に、東に庇が付く。柱間寸法は、桁行2.4～2.5m(8～8.5尺)・梁間2.3～2.4m(8尺前後)、東庇の出は、3.15m(10.5尺)を測る。一辺40cm前後の方形掘形をもち、柱径は10cm内外に復原される。北西隅柱穴の中心座標はX=-117,546.38・Y=-25,199.05である。

掘立柱建物跡S B315006(図版第35) 掘立柱建物跡S B315005の西に接する南北等の掘立柱建物跡である。桁行5間・梁間2間、柱間寸法はやや不揃いで、梁間2.2～2.4m(7.5～8尺)、桁行は、側柱北側の2間が2.1m(約7尺)、南側3間が2.4m(8尺)を測る。北妻は掘立柱建物跡S B315005の北妻とはややずれるが、南妻を揃えている。一辺40cm前後の方形掘形で、柱径10cm内外を復原できる。掘立柱建物跡S B315005とほぼ同様の規模である。双堂としても両者が接近しすぎていることや、北妻が揃わないことから、両者が同時期に併存していたとは考えにくく、同一の地割りによって配置された建物跡であると考えの方が妥当であろう。北西隅柱穴の中心座標はX=-117,546.90・Y=-25,207.95である。

掘立柱建物跡S B315008(図版第37) 三町の北西で検出した南北棟の小規模な掘立柱建物跡である。桁行8間・梁間6.5間で、柱間寸法は桁行2.4m(8尺)、梁間1.95m(6.5尺)である。40～60cmの不定形な柱掘形で、柱径10～20cmに復原される。検出面からの深さ20～40cmを測る。柱根が遺存していたものもある。北西隅の柱穴の中心座標はX=-117,558.80・Y=-25,223.30である。

掘立柱建物跡S B399415(図版第36) 三町の西端で検出した南北棟の掘立柱建物跡である。桁行3間・梁間2間の母屋に西庇が付く。柱間寸法は、桁行・梁間・庇の出ともに2.6～2.7m(9尺)等間である。60cm内外の方形掘形で、柱径18cm程に復原できる。柱穴5から土師器高杯

(1565)、柱穴12から須恵器杯・皿などの供膳具(1562~1564・1566)、柱穴14から土師器皿A(1561)など比較的多くの土器が出土した。北東隅の柱穴の中心座標は $X=-117,575.25$ ・ $Y=-25,218.16$ 、南西隅柱穴の中心座標は $X=-117,583.14$ ・ $Y=-25,226.10$ である。

**掘立柱建物跡 S B 399518**(図版第36) 三町の西側で検出した東西棟の掘立柱建物跡である。柱間寸法は、桁行・梁間ともに2.3~2.5m(8尺)等間である。座標東で南に4°程振れる。一辺70cm内外の方形掘形で、柱径20cm程に復原される。柱穴1からは須恵器蓋A(1560)、柱穴4からは須恵器杯B・蓋A(1556・1558)、柱穴5からは須恵器杯B(1557)柱穴9からは土師器甕A(1554)などが出土した。北西隅の柱穴の中心座標は $X=-117,570.66$ ・ $Y=-25,214.08$ 、南西隅の柱穴の中心座標は $X=-117,575.34$ ・ $Y=-25,214.22$ である。

**掘立柱建物跡 S B 333001**(図版第37) 三町の西端中央付近で検出した東西棟の掘立柱建物跡である。桁行5間・梁間2間、柱間寸法は、桁行2.1m(7尺)・梁間2.7m(9尺)等間である。一辺40~50cmの方形掘形を持ち、柱径15~20cmに復原される。柱掘形の検出面からの深さは30~50cmである。北西隅の柱穴の中心座標は $X=-117,593.12$ ・ $Y=-25,217.98$ である。

**井戸 S E 333002**(図版第38) 掘立柱建物跡 S B 333001の東で検出された円形の掘形を持つ井戸である。直径1.3m前後、検出面からの深さは1.1mを測った。井戸側は抜き取られていたが、床面に水溜めのために転用された小形の曲物(123)が遺存していた。埋土からは各種土器(1567~1576)が出土した。

**土坑 S X 399594** 三町東側で検出した長軸1.35m・短軸55cmの楕円形の浅い土坑である。中央から東半部にかけて土師器皿(1608~1647)が集積、遺棄されていた。

**土坑 S K 315011** 門跡 S B 315013の南西で検出した円形の土坑である。長径2.5m・短径1.8mほどで楕鉢状を呈する。検出面からの深さは20cm前後である。埋土の上層(1577~1597)および中・下層(1598~1605)から各種土器が出土した。

**土坑 S K 315012** 門跡 S B 315013の南西、土坑 S K 315011の東側で検出した浅い落ち込みを呈する不定形の土坑である。長さ4.3m・幅2.3mほどである。埋土から須恵器皿A(1606・1607)が出土した。

**溝 S D 399422** 調査区中央で残存長約20mを検出した。溝内からの出土遺物は皆無であるが、中世素掘り溝との先後関係と、左京二条四坊三町の宅地を東西に正確に2分の1に分割する位置にあることから、長岡京期に掘削されたものと考えられる。北端で、 $Y=-25,169.24$ ( $X=-117,541.86$ )、南端で $Y=-25,169.10$ ( $X=-117,561.84$ )である。

**溝 S D 399423** 三町北半中央で検出した南北方向の素掘り溝である。溝 S D 399422同様、出土遺物は皆無であるが、中世素掘り溝との先後関係や、溝 S D 399422の東、約8.7m(30尺)に並行して掘削されることから、長岡京期の可能性がある。北端で、 $Y=-25,160.56$ ( $X=-117,539.48$ )、南端で $Y=-25,160.52$ ( $X=-117,569.40$ )である。溝 S D 399422・399423を両側溝とした町内小路が付設されていた可能性を考えたい。

**柵 S A 315013** 掘立柱建物跡 S B 315005の北東、二条条間大路南側溝に直行する南北方向にな

らぶ4基の柱跡である。柱間寸法2.4~2.6m(8~9尺)となる。一辺40~50cmの小規模な掘形で柱径15cmほどに復原できる。大路路面を横断するため、長岡京期直後とも考えられる。

(6)二条四坊六町(図版第39~第40)

六町は、大溝(水路)SD333005の南流によって、宅地が東西ほぼ2分の1に分割される。西側の宅地は前屋SB385516、後屋SB385514に脇屋的建物SB385515が敷設され、その南側に井戸が位置する。建物規模と庇の有無を別にすれば、二条三坊十四町西半の宅地と同様の建物配列である。

**掘立柱建物跡SB385514(図版第39)** 六町内の北西で検出した東西棟の掘立柱建物跡である。桁行5間・梁間2間の母屋に、南側に庇が付く。柱間寸法は、母屋桁行中央の柱間のみ2.8m(9.5尺)その他は母屋の桁行・梁間ともに2.4m(8尺)等間である。庇の出は、2.8m(9.5尺)を測る。一辺60cm前後の隅丸方形の柱穴掘形をもち、柱径15cm内外に復原できる。建物跡は座標東で40'あまり北に振る。北西隅の柱穴の中心座標は $X=-117,550.13$ ・ $Y=-25,083.27$ である。

**掘立柱建物跡SB385515(図版第39)** 掘立柱建物跡SB385514の南東で検出した南北棟の掘立柱建物跡である。桁行5間・梁間2間で、柱間寸法は梁間2.7m(9尺)、桁行1.8m(6尺)を測る。建物跡は座標北で東に2°程振る。北妻を掘立柱建物跡SB385514の南庇柱列に揃える。一辺50cm~90cmの方形掘形をもち、柱径14~22cmとやや不揃いである。北西隅の柱穴の中心座標は $X=-117,557.63$ ・ $Y=-25,061.75$ である。

**掘立柱建物跡SB385516(図版第40)** 掘立柱建物跡SB385514の南側で検出した東西棟の掘立柱建物跡である。桁行5間・梁間2間で、一辺1.0~1.4m程の大型の隅丸方形の柱穴掘形を持つ。六町西半の中心的な建物跡と考える。掘立柱建物跡SB385514の桁行中心から60cm(2尺)東にずれるが、座標に対する振角が一致することから、平行して建てられたものとみられる。柱間寸法は桁行・梁間ともに2.7m(9尺)等間を測る。柱径40cm内外に復原される。北西隅の柱穴の中心座標は、 $X=-117,576.75$ ・ $Y=-25,084.09$ である。

**掘立柱建物跡SB333003(図版第40)** 掘立柱建物跡SB385516の南西で検出した東西棟の掘立柱建物跡である。桁行3間・梁間2間に、北に庇が付く。柱間寸法は桁行2.4~2.7m(8~9尺)、梁間2.2m(7.5尺前後)、梁間の庇の出2.3m(8尺)を測る。一辺が60cm内外の方形掘形で、柱径18cm程に復原できる。建物跡振角は座標東で2°40'北となる。北西隅の庇柱穴の中心座標は、 $X=-117,586.56$ ・ $Y=-25,095.84$ である。

**井戸SE385537(図版第38)** 掘立柱建物跡SB385515の南東に位置する。円形の掘形をもち、直径1.2m・深さ80cm。井戸側や井筒を抜き取った土坑と考える。土坑内埋土から長岡京期の土師器杯A・皿A・椀A(1665~1669)が出土した。

(7)二条四坊七町(図版第41~第46)

七町の宅地は分割された形跡が認められなかった。三町の中心的建物となるSB385511は、一部母屋柱が礎石建ちの可能性がある。このSB385511を前殿、掘立柱建物跡SB337002を後殿とする「二」字型の建物配列を中心にすえる。その東側に脇殿は存在せず、井戸のみが位置する。

周囲には小規模な建物が多い。また、北東から流下する大溝(水路) S D 333005に方形の掘りこみ S X 385538が付設されており、その水運利用していた宅地とみることができる。資材の運搬などを含めた現業的官司の可能性もあろうか。

**掘立柱建物跡 S B 337002(図版第41)** 六町の西半、ほぼ中央で検出した東西棟の掘立柱建物跡である。桁行7間・梁間2間で、柱間寸法は、桁行中央柱間のみ2.85m(9.5尺)で、他は2.7m(9尺)、梁間2.5m(8.5尺)等間である。方位はほぼ真北を向く。一辺60~70cmの方形掘形で、柱径は約20cmに復原できる。掘形の底に礎板を据えた柱穴がある。南側柱の西2間分に並行して南側からの目隠し塀 S A 337004が敷設される。北西隅の柱穴の中心座標は、 $X=-117,448.40 \cdot Y=-25,068.75$ である。

**掘立柱建物跡 S B 337003(図版第43)** 七町の西半、掘立柱建物跡 S B 337002の南側で検出した東西棟の掘立柱建物跡である。桁行5間・梁間2間で、柱間寸法は概ね、桁行では側柱西側の3間分が2.5m(8.5尺)に復原され、東側の2間は2.4m(8尺)となる。また、梁間は北1間が2.4m(8尺)、南1間が2.25m(7.5尺)とやや不揃いになる。側柱列も東で南に4°程振れ、柱列が不等辺四角形をなす。径40~50cmの小規模な円形掘形を呈し、柱径10~18cmに復原できる。北西隅の柱穴の中心座標は、 $X=-117,456.15 \cdot Y=-25,060.65$ である。

**掘立柱建物跡 S B 303003(図版第43)** 七町の西辺中央で検出した南北棟の掘立柱建物跡である。桁行3間・梁間1間の小規模な建物跡で、柱間寸法は、桁行1.8m(6尺)、梁間3.85m(13尺)を測る。ほぼ座標北を向く。一辺1m前後の方形掘形を持ち、柱径20cmを超える。多くの柱穴には、柱抜き取り穴があり、柱穴304および305には、柱抜き取り土坑に、拳大の根石が敷き詰められていた。北西隅の柱穴の中心座標は、 $X=-117,452.46 \cdot Y=-25,090.94$ である。

**掘立柱建物跡 S B 303004(図版第43)** 七町の北西で検出された南北棟の掘立柱建物跡である。桁行3間・梁間1間で、柱間寸法は桁行2.5m(8.5尺)等間、梁間5.1m(約17尺)となる。一辺60~70cmの比較的大きな方形掘形で、柱径30cm程に復原できる。掘形の検出面からの深さは浅く、10cm未満である。南西隅の柱穴の中心座標は、 $X=-117,448.00 \cdot Y=-25,089.96$ である。

**掘立柱建物跡 S B 337001(図版第41)** 掘立柱建物跡 S B 303003北東で検出した東西棟の小規模な掘立柱建物跡である。桁行3間・梁間1間で、柱間寸法は、桁行2.1~2.3m(7.5尺)、梁間3.3m(11尺)を測る。一辺50~70cmの不揃いな方形掘形を呈している。北西隅の柱穴の中心座標は、 $X=-117,442.05 \cdot Y=-25,083.05$ である。

**掘立柱建物跡 S B 385509(図版第44)** 掘立柱建物跡 S B 337003の南西隅に一部重複する東西棟の小規模な掘立柱建物跡である。B-5 a 地区で検出した柵 S A 337004が北側柱列となる。桁行3間・梁間2間で、柱間寸法が、桁行・梁間ともに2.5~2.6m(8.5尺)等間となる。建物跡は座標東で1°程北に振れる。一辺60cm前後の隅丸方形掘形で、柱径15cm前後に復原できる。北西隅の柱穴の中心座標は $X=-117,460.85 \cdot Y=-25,066.60$ である。

**掘立柱建物跡 S B 385510(図版第44)** 七町の西半、ほぼ中央で検出した小規模な南北棟の掘立柱建物跡である。掘立柱建物跡 S B 385509と掘立柱建物跡 S B 385511の位置に重複する。桁行3

間・梁間1間で、柱間寸法は、桁行1.1~1.5m・梁間3.9m(13尺)を測る。柱穴掘形に切りあい関係はないが、建物跡は座標東で南に3°近く振れるため、長岡京期でも後半か、平安時代初頭に下る可能性がある。柱穴埋土から遺物もみられなかった。西側柱、北から一間の柱穴の中心座標は $X=-117,466.64$ ・ $Y=-25,060.92$ である。

**掘立柱建物跡 S B 385511**(図版第42) 七町南西中央で検出した東西棟の掘立柱建物跡である。桁行5間・梁間2間の母屋に、北・東・南の3面に庇が付く。柱間寸法は、側柱列中央の柱間のみ3m(10尺)で、他は2.8~2.9mに復原できる。また、梁間2間分で5.35m(18尺)を測る。北と東の庇の出は、3.85m(13尺)、南庇の出は3.7m(12.5尺)である。建物跡振角は座標東で北に10'程振れる。柱穴は母屋の四隅と庇の柱穴のみが遺存していたが、それ以外の柱穴は削平のためか、遺存しなかった。あるいは本遺構の南西側から凝灰岩破片などが出土していることから、母屋の側柱が礎石建ちであった可能性も考えられる。母屋の四隅の柱穴は一辺1.3m前後の隅丸方形掘形で、柱抜き痕を検出した。抜き痕からは直径30cm以上の柱を推測しうる。柱穴床面からは円くていねいに敷き並べられた拳大の根石が出土した。掘立柱建物跡 S B 385511の西妻は東第四坊坊間西小路東側溝から31.8m(107尺)東、門跡 S B 385547から30.3m(102尺)東となる。また、南庇柱列は門跡 S B 385547の北の柱穴に揃え、二条条間大路北側溝より、31.8m(107尺)北となり、宅地の南・西を限る条坊路側溝からはほぼ等距離に配置される。柱穴13および柱穴24から瓦片(1773・1774・1777)が出土している。北西隅の庇柱の中心座標は $X=-117,468.76$ ・ $Y=-25,068.61$ である。

**掘立柱建物跡 S B 385512**(図版第45) 掘立柱建物跡 S B 385511の南側で検出した東西棟の小規模な掘立柱建物跡である。桁行3間・梁間2間からなる。柱間寸法は、桁行が2.1~2.3m(7~7.5尺)、梁間が2.4m(8尺)を測る。建物跡は座標東で北に40'あまり振る。一辺が70cm程の方形掘形を持ち、柱径20~24cmに復原できる。隣接して同規模の柱穴がみられることから、立て替えがあったものとみて良い。北西隅の柱穴の中心座標は $X=-117,494.04$ ・ $Y=-25,073.50$ である。

**掘立柱建物跡 S B 385513**(図版第45) 七町の南西隅、掘立柱建物跡 S B 385512の西側で検出した東西棟の小規模な掘立柱建物跡である。桁行3間・梁間1間の小規模な母屋に、南庇が取り付く。西妻に並行し、柱筋を揃える目隠し塀を検出した。柱間寸法は桁行1.65m(5.5尺)、梁間3.58m(12尺)を測る。南庇の出は2.8m(9.5尺)、西側目隠し塀は西妻から2.52m(8.5尺)になる。一辺40cm内外の方形掘形を持ち、柱径は20cmを大きく越えないとみられる。建物跡は座標東で7'程南に振る。塀の柱穴は一辺20cm程の掘形しかない。北西隅の柱穴の中心座標は、 $X=-117,495.14$ ・ $Y=-25,088.624$ である。

**掘立柱建物跡 S B 385533**(図版第45) 掘立柱建物跡 S B 385512の南側で検出した東西棟の掘立柱建物跡である。桁行3間・梁間2間の小規模なもので、柱間寸法は桁行2.2~2.7m・梁間1.93m(6.5尺)で、やや不揃いである。直径40cm前後の円形掘形を持ち、柱径14cmに復原できる。建物跡は掘立柱建物跡 S B 385510に平行し、座標東で南に3°近く振る。南西隅の柱心は二条条間大路北側溝心から7.4m(25尺)北に配置される。北西隅の柱穴の中心座標は $X=-117,502.19$ ・ $Y$

=-25,072.32である。

**掘立柱建物跡 S B 385546**(図版第44) 東四坊坊間西小路に面した南北棟の小規模な掘立柱建物跡である。桁行2間・梁間1間で、柱間寸法は、桁行2.7m(9尺)、梁間2.4m(8尺)を測る。一辺およそ50~60cmの隅丸方形の柱穴掘形を持つ。柱径は20cmに復原される。建物跡は座標北で1°西に振れる。北西隅の柱穴の中心座標は、 $X=-117,472.35 \cdot Y=-25,097.52$ である。

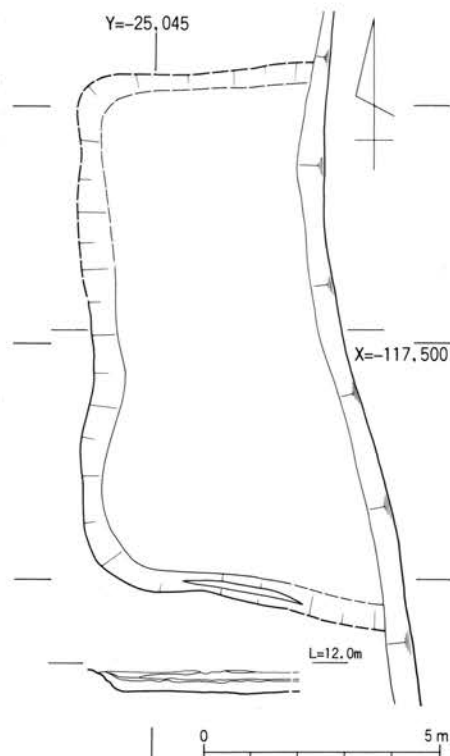
**掘立柱建物跡 S B 334047**(図版第44) 七町の宅地のほぼ中央で検出した柱掘形3基である。おそらく東西棟の掘立柱建物跡となると思われる。柱間寸法は2.1~2.2m(約7尺)で一辺60cmの方形掘形を持つ。削平が著しく、検出面からの掘形の深さは10cmにも満たなかったためか、柱痕跡はみられなかった。北端の柱穴の中心座標は、 $X=-117,463.90 \cdot Y=-25,026.78$ である。

**柵 S A 385554** 掘立柱建物跡 S B 385533の東側で検出した5基の小規模な柱穴である。掘立柱建物跡 S B 385533の北側柱列の東延長上に位置し、直径30cm前後の円形掘形で、柱径10cm前後に復原できる。柱間寸法はややまばらで、2.1m(7尺)と1.4m(約4.5尺)になる。

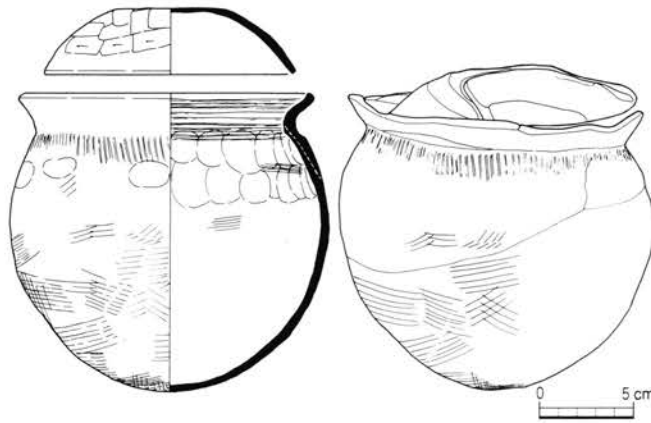
**井戸 S E 334007**(図版第46) 上述した掘立柱建物跡 S B 334047の西側で検出された井戸である。直径4mを超える円形の掘形を検出したが、掘削途中で一辺2.2~2.4mの方形掘形の痕跡が検出されたため、井戸側木材が抜き取られた際の掘形が重複していたものと判断した。井戸の方形の掘形床面には直径1mほどの範囲に円礫を敷き詰めていた。埋土からは長岡京期の各種土器(1677~1689)・斎串・櫛(90・95~98)などが出土した。このほか、古墳時代前期とみられる銘帯を持つ上方作系浮彫式神獸鏡の破片(1)が出土した。

**門跡 S B 385547**(図版第44) 東四坊坊間西小路に面し、掘立柱建物跡 S B 385546の南側に位置する2基の柱穴。南側の柱穴は近代の攪乱坑のため、柱穴底面の柱痕跡しか遺存しなかったが、北側は直径70~80cm・深さ80cmの柱穴掘形に、柱の抜き取り痕跡が認められた。柱穴床面には臍穴をもつ建築部材を3分割した木材が礎板として遺存していた。南北両柱を結ぶ中点は、二条条間大路北側溝からおよそ100尺北にあり、東四坊坊間西小路東側溝心から1.48m(5尺)の宅地外郭区画線上に位置する。北側の柱穴の中心座は推定 $X=-117,481.280 \cdot Y=-25,098.50$ である。南側の柱穴の中心座標は推定 $X=-117,484.80 \cdot Y=-25,098.49$ である。

**方形土坑 S X 385538**(第15図) 七町の中央南側で検出した南北5.5m・東西3m以上の長方形の土坑である。東側の S R 334010と同じ遺構とみられる。最下層から長岡京期の遺物がみられることや、大溝(水路) S D 333005に接して掘削されたと考えられることから、長岡京期に掘削された



第15図 方形土坑 S X 385538(1/160)



第16図 S X 385555出土遺物(1/4)  
(左.実測図 右.出土状況)

ものと考えられる。堆積土は下層では、水性堆積によって形成されたと考えられ、上層に黒色有機質の帯層がほぼ水平に認められた。湿地状の落ち込み S R 334010も同様に S D 333005に取り付く掘りこみであろう。大溝(水路) S D 333005が水路として利用されたと考えるならば、船着場の可能性があろう。柵 S A 385554は、水揚げした荷や木材などを運ぶ通路に設置されたものではなかろうか。埋土からの各種土器(1695・1704・

1707・1712・1720・1728・1733・1775・1776)から、埋没時期は溝 S D 385229の埋没時期とほぼ同じ9世紀後半と考える。S R 334010からも多量の長岡京期～平安時代を中心とした各種土器(1690～1694・1696～1703・1705・1706・1708～1711・1713・1715～1719・1721～1727・1729・1731・1732・1734・1735)が出土した。

**護岸設備 S X 334028** 方形土坑 S X 385538の東側、S R 334010の北側に位置する。杭と丸枝の木組みが東西方向に延び、長さ5m・幅3.9m・高さ40cmほどの規模となる。堅杭は北側に70～90°程倒して打ち込まれており、細長い丸枝を横木として補強している。背面(北側)では砂土と黒色系粘土を交互に堆積させ、一部に木皮を挟み込んで、堰状の土盛りを構築する。大溝(水路) S D 333005の流路に対する護岸設備と考えられ、方形土坑 S X 385538の北辺側に沿って構築されていたものとみられる。

**不明土坑 S X 385555(第16図)** 七町の門跡 S B 385547の真東、およそ18.7mの地点で検出した土師器甕と椀である。長岡京期の土師器甕の口縁部を椀で塞いでいる。下層に流路 S D 303007が埋没した場所であり、土壌がグライ化していたこともあって埋設された掘形を検出することができなかった。甕の中からは神功開宝2枚(21・22)が出土した。七町の門心の東63尺ほどに位置していることから、門から宅地内に延びる路面に埋設されたものかもしれない。



## 第4章 平安時代以後の検出遺構

### 第1節 平安時代以後の検出遺構(第17図)

#### (1) 掘立柱建物跡

**掘立柱建物跡 S B 363119** 十八坪の北東隅で検出した東西棟の掘立柱建物跡である。桁行3間・梁間1間の母屋に、南と北の2面に庇が付く。柱間寸法は、桁行2.55m(8.5尺)・梁間3.9m(13尺)、西側1間は1.8m(6尺)である。径15~20cm程度の小形の円形掘形を持つ。南東に井戸 S E 363115が設置される。井戸 S E 363115と同時期とすれば、10世紀後葉に位置づけられようか。北東隅の庇柱穴の中心座標は、 $X=-117,406.76 \cdot Y=-25,265.42$ である。

**掘立柱建物跡 S B 399417** 掘立柱建物跡 S B 363119同様、20坪の中央やや南東で検出した小規模な掘立柱建物跡である。桁行3間・梁間1間で、柱間寸法は桁行1.8m・梁間4.1mを測る。径30~40cm前後の円形掘形で柱痕は遺存していない。座標東で10°あまり北に振れる。柱穴からは時期を判別できる遺物は出土していない。北西隅の庇柱穴の中心座標は、 $X=-117,561.54 \cdot Y=-25,189.48$ である。

**掘立柱建物跡 S B 399418** 十八坪の北東隅で検出した東西棟の掘立柱建物跡である。柱間寸法は、桁行1.84~2.24m・梁間3.0mと不揃いである。座標東で3°あまり南に振れる。径30~40cm前後の円形掘形で柱痕は遺存していない。S B 399420に並行しており、ほぼ同時期のものと見て良いであろう。北西隅の庇柱穴の中心座標は、 $X=-117,552.32 \cdot Y=-25,180.42$ である。

**掘立柱建物跡 S B 399420** 掘立柱建物跡 S B 363119同様、20坪の中央やや南東で検出した小規模な掘立柱建物跡である。桁行4間・梁間2間の総柱である。柱間寸法は桁行2.0~2.3m前後・梁間2.6~3.2mと非常に不揃いである。径40~50cmの円形掘形をもつが、柱痕は確認されなかった。柱穴からは、9世紀後葉~10世紀前葉頃の土器細片が出土した。北西隅の庇柱穴の中心座標は、 $X=-117,551.76 \cdot Y=-25,193.04$ である。

#### (2) 井戸(図版第47~第49)

**井戸 S E 363115(図版第47)** 18坪の北東隅、掘立柱建物跡 S B 363119の東南約2.0mで検出した。縦板組横棧留め型式のもので、曲物を井筒とする。井戸の掘形は、直径1.1~1.3mの歪な卵円形を呈し、検出面からの深さ1.2mを測る。井戸底には直径48~51cm・高さ31cmの曲物(203)が中央に設置されていた。井戸側はほとんど抜き取られており、内法は不明である。残存する板材は長さ100cm・幅20cm・厚さ2cmを測る。埋土から土師器皿(1788)・黒色土器碗(1789)・須恵器蓋A(1790)・灰釉型須恵器碗(1791・1792)がみられた。

**井戸 S E 399421(図版第47)** 20坪の中央南側、S B 399417の西側で検出した。南北3.6m、東西2.8m程の長方形掘形を持つ。深さは検出面から約1.5mで、その中央やや北側から、井戸側・

井筒・水溜が出土した。井戸側は、縦板組隅柱横棧留め型式のもので、一辺が1.3m内外の規模を持つ。縦板材は、1.5～2cm内外の薄いものであるが、隙間なく並べられており、2つの縦板の間にさらにもう一枚の縦板を外側から被せるように丁寧に重ね合わされていた。また、隅柱や横棧も建築部材などを転用した痕跡はなく、横棧の柄組も精巧なものである。井戸内部には、井筒、水溜として転用された円形曲物と、底板と蓋を取り去った櫃(206～209)が置かれていた。円形曲物は櫃の上に置かれており、曲物の置かれた部分以外は薄板材で覆われていた。櫃内での湧水を円形曲物に誘導させるためであろう。櫃の内部には、大甕の破片が敷かれており、湧水の際に泥土の混入を防ぐ工夫を施していたものとみられる。なお、曲物の北・西・南側には、井戸側隅柱よりやや大きな角材を打ち込んでおり、それによって、曲物を固定していた。井戸側の木組に比べれば、井戸内の水溜施設が案外、無造作であることから、曲物・櫃は当初の設備ではないと考える。おそらく、井戸側内に土砂が堆積したため、再度掘削して新しく水溜のための櫃と曲物を設置したものと推測することができる。しかし、土層の堆積状況からは、再掘削の痕跡を得ることはできなかった。井戸掘形から、土師器甕(1814)・緑釉椀(1815)などが出土しており、また、井筒用曲物や櫃内からは土師器皿(1811～1813)・緑釉型須恵器椀(1816)・灰釉陶器皿(1817)・灰釉陶器大甕(1818)・桃核などが出土した。

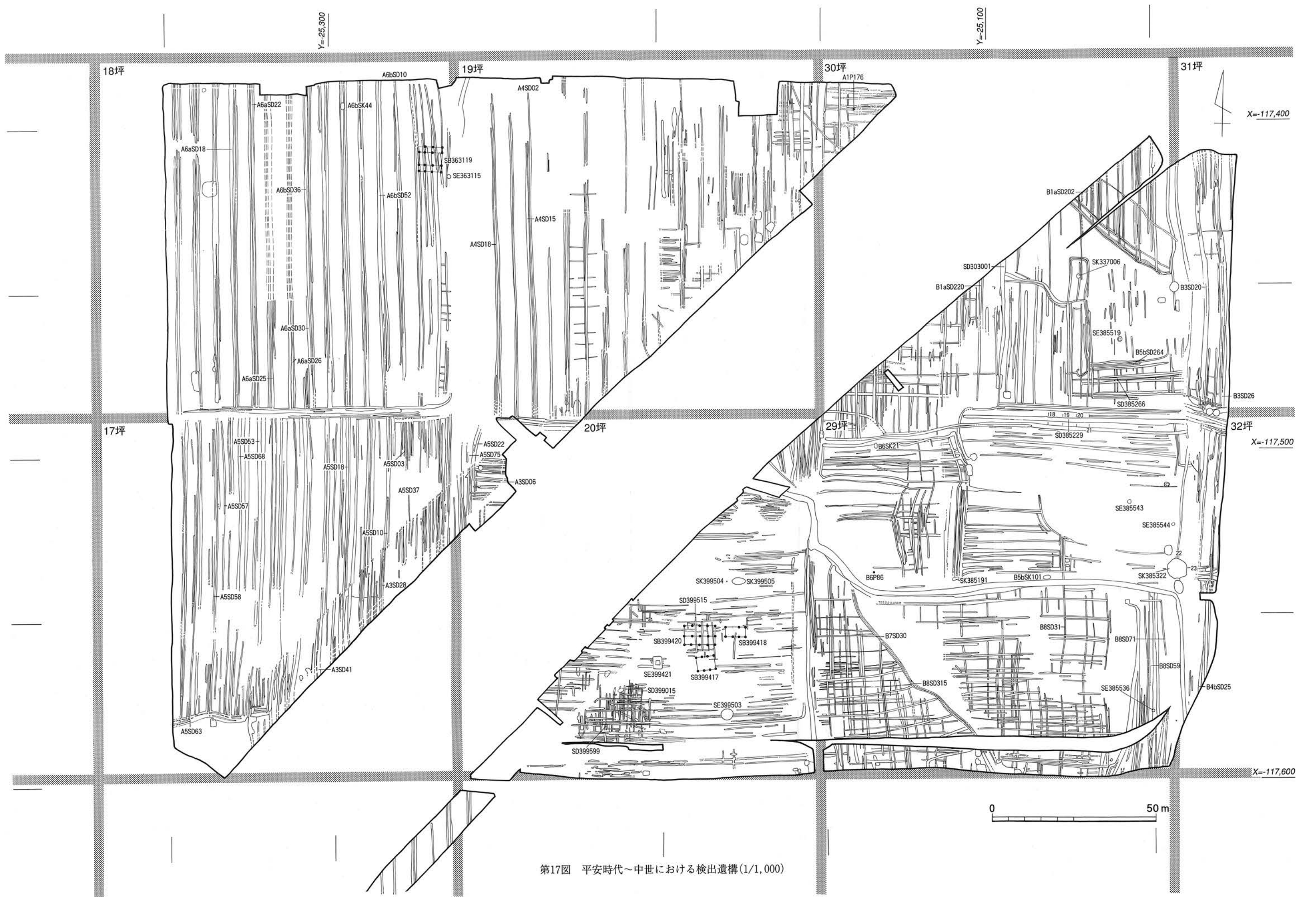
井戸 S E 399503(図版第48) 20坪の南東側で検出した土坑である。南北3.3m・東西3.7mの円形掘形を持つ。井戸側などの木材は廃絶の際に取り除かれたものと思われ、井戸掘形も抜取り土坑による掘削のため遺存しない。埋土からは、土師器・緑釉陶器・須恵器など各種土器(1819～1834)が出土した。

井戸 S E 385536(図版第48) 29坪の南東隅で検出した。南北1.0m・東西1.1m程の方形の掘形を持つ。検出面からの深さ1mを測る。井戸側は縦板を方形に組んだだけの構造で、隅支柱や横棧を持たない。直径50cm・高さ40cmの円形曲物(202)を井筒とする。井筒内部から、「南」の墨書がある緑釉陶器椀(1950)、緑釉型須恵器椀(1949・1951・1952)などが出土した。

井戸 S E 385543(図版第49) 29坪の北東隅で検出した。南北70cm・東西75cm程の方形の掘形を持ち、検出面からの深さは75cmを測る。井戸側は、四隅柱に転用材を用い、一辺3枚程の縦板を組む。井底には円形曲物(198)を置き、水溜めとする。土師器皿(2034)・緑釉型須恵器椀(2035)などと、各種土器(1953～1960)を出土した。

井戸 S E 385544(図版第48) 調査地中央東隅で検出した。直径85cm程の円形の掘形を持つ。深さは検出面から1.0mで、井戸側、井筒等を抜き取ったものとみる。井戸底から土師器甕・羽釜・須恵器練り鉢(2036～2038)や瓦器椀(2130・2131)が出土した。12世紀前葉の共伴関係を示している。

井戸 S E 385519(図版第49) 30坪の南東で検出した。直径1.25～1.35mのやや歪な円形の掘形で、検出面からの深さは1.35mを測る。南西の隅柱と南側の縦板が4枚程遺存していたため、四隅柱に縦板を組む方形の井戸枠が抜き取られたものと考えられる。北側には横板材に縦棧留めを施した木枠材を転用して縦板に替えていた。井筒は3段に組まれた円形曲物の側板(199～201)で、上



第17図 平安時代～中世における検出遺構 (1/1,000)

段の曲物側板は6重になっており、井筒の総長は66cmになる。井筒内から土師器甕(2039)・黒色土器椀(2040)・灰釉陶器椀(2041)などが出土した。

### (3) 土坑他

**土坑 S K 399504** (図版第13) 20坪中央東側、長岡京期のB地区二条条間大路南側溝 S D 330002の西端(s区)で、側溝のほぼ中央、側溝埋土を穿って設置された小土坑である。直径20cm・検出面からの深さ9cm前後を測る。暗褐色砂質の埋土上層部、検出面付近で青銅製の印章(3)が出土した。鈕を東南東、印面を西北西に向ける。鈕は水平に対して斜め30度程の俯角を持つように埋置されていた。周囲に有機物の遺存は認められなかったため、何らかの有機物の容器などに納められていた可能性は高いとは言えない。

**土坑 S K 399505** 20坪中央東側、土坑 S K 399504の東側に位置する。長岡京期の二条条間大路南側溝 S D 330002の西端(s区)上に位置する。長軸5.5m・短軸2.6m、検出面からの深さ10cm前後の長楕円形の浅い土坑である。二条条間大路南側溝 S D 330002側溝心に長軸を合わせるように重複して掘削されている。須恵器壺 G (1864)・緑釉陶器皿(1865)・土師器甕(1867)などが出土した。

**土坑 S K 385322** (図版第12-22・23) 29坪と32坪の坪界中央(二条条間大路南側溝 S D 330002と溝 S D 333005の交差する地点)に位置する直径6m程の不整円形の土坑である。井戸側などの木材は廃絶の際に取り除かれたものと思われ、井戸掘形も抜取り土坑による掘削のため遺存しない。また、出土遺物も土器細片(1961・1962)のみであった。

**土坑 S K 385191** 29坪中央やや西で検出した長楕円形の土坑である。長さ2.0m・幅1.1mほどで、検出面からの深さ45cmを測る。埋土からは曲物底板(129)が出土した。二条条間大路南側溝 S D 330002と東四坊坊間西小路の交差点に掘削されている。

## (4) 条里関連遺構(第17図)

### a. 坪境関連遺構

**溝 S D 303001** 五町の北西部で検出した南北に掘削される溝である。近辺の中世素掘り溝にはほぼ並行するが、南端で後述する平安時代の溝 S D 385229に直角に連結する。30坪の東西2分の1の位置にある。埋土からは長岡京期と考えられる土器(1736・1740~1744)なども出土している。

**溝 S D 385229** (図版第12-18~21) 五町の北部を東西に貫流する溝である。幅は60cm~120cm程で、断面形状半円形の掘形をもつ。東側に行くに従って、広く深くなり、深さ60cm前後に達する。溝内からは9世紀後葉から10世紀初頭の土師器・黒色土器・須恵器・緑釉陶器・灰釉陶器など多量の土器(1971~2028)が出土した。29坪と30坪の坪境に位置しており、条里地割の施行が9世紀後葉以前に遡る可能性を示唆している。

### b. 九条村田(12)里17坪

A-5地区・A-3地区は17坪の北西ほぼ2分の1にあたる。南北方向の素掘り溝を検出した。溝は後述する18坪のように単位ごとにまとまっているものではなく、溝幅にも統一性がなかった。X=-117,580付近で、蛇行する東西素掘り溝に合流する。また、17坪東辺では、20坪との境界に接して南北方向に高さ約5cm・幅1m程度の畦状の盛り土があり、盛り土中からは中世瓦器碎片

が出土した。

**c. 九条村田(12)里18坪**

A-6地区が18坪のほぼ全域にあたる。18坪全体にわたって、南北方向の素掘り溝を検出した。溝は、検出面での幅50～60cm・深さ20～40cm前後で、5～7条の溝が重複したものが一群となつて、ほぼ5.5mを単位として掘削されている。素掘り溝の埋土はほぼ一様であり、埋土の堆積に時間を要したとは考えられず、洪水など自然現象による埋没と人為による再掘削を繰り返したものとみられる。一坪109m四方として、22の長方形区画を確保することができる。17坪と18坪の境界部分では東西方向の素掘り溝に合流するが、近世～現代の攪乱によって削平されており、東西方向の溝から出土遺物はみられなかった。

**d. 九条村田(12)里19坪**

A-1地区・A-2地区・A-4地区が19坪の北西ほぼ3分の2にあたる。18坪同様に南北方向の素掘り溝群が検出された。素掘り溝は、検出面での幅40～50cm・深さ20cm前後であった。また、一部でこの南北方向の素掘り溝群によって切られる東西溝群が検出される。その一部から平安時代の土器細片が出土しており、19坪の東西溝群が少なくとも平安時代中期に遡ることを示している。

**e. 九条村田(12)里20坪**

B-2 a地区・B-4 a地区・B-7地区が20坪の南東ほぼ2分の1にあたる。20坪では、東西方向の素掘り溝群が多く検出された。18坪・19坪のように、5.5mを単位とした南北方向の長地型地割りによると考えられる素掘り溝とは様相を異にするようである。20坪の南西の一部には中世東西素掘り溝に切られる南北素掘り溝が検出されており、その一つの溝S D 399599からは、9世紀後葉の緑釉陶器片(1880)などが出土している。素掘り溝の掘削開始時期が平安時代にまで遡る可能性を示している。また、20坪では前述してきたように掘立柱建物跡や井戸・地鎮遺構と考えられるS K 399504など、平安時代中期前後の遺構が目立つことも注意すべきであろう。

**f. 九条村田(12)里29坪(第68図)**

B-6地区・B-7地区の東半とB-4 b地区・B-5 b地区・B-8地区が29坪にあたる。29坪では、周辺の坪に比べてもっとも複雑に素掘り溝が掘削される。二条条間大路南側溝S D 330002の南側に近接して近世字境溝が並行している。近世字境は29坪の西側で、北西に向きをかえ、二条条間大路を横断して北上するように蛇行し、条里地割を踏襲して、19坪と20坪の坪界線上に移動する。よって字金井田は、29坪の北半と30坪および西側の19坪にあたる。29坪の北半では、おもに東西方向の素掘り溝が掘削されるが、東四坊坊間西小路西側溝近辺では、蛇行する南北溝が、幾度となく掘削されていた。素掘り溝の切りあい関係から言えば、それは東四坊坊間西小路西側溝上に近いものが古く、西あるいは東側に隔たるにしたがって新しく掘削されたものであったことが判明している。いずれにせよ、この蛇行する南北溝が東西両側に掘削された東西素掘り溝の合流する地境の役割を果たしていたと考えられる。この東四坊坊間西小路西側溝上の南北素掘り溝は、北は29坪と30坪の坪界で東側に屈曲して東西方向の素掘り溝に合流する。また、南側では、近世字境溝による攪乱のため、不明確であるが、二条条間大路南側溝近辺で検出できなくなった。

中世に掘削された素掘り溝が、長岡京期の条坊遺構の区画に規制されていた実態を窺うことができる。

29坪の南半では、南北方向に蛇行する素掘り溝を掘削した後に、おもに東西方向の素掘り溝が掘削される。西側では、北西から南東方向に向かう溝により画されており、南西側には、南北・東西両方向の素掘り溝がほぼ5m間隔で掘削される。概して南北方向の溝が埋没し、東西方向の素掘り溝が掘削された後に、南北方向の素掘り溝が再掘される。東西溝は東に行くに従って北偏して北西から南東方向に向かう溝に合流する。南北溝は南に行くに従って東偏している。

#### g. 九条村田(12)里30坪

B-5 a 地区が、30坪の南東2分の1にあたる。30坪からは、南北方向の素掘り溝群が検出された。幅20~40cmの素掘り溝は、3~5本が重複して一群をなす。溝群の間隔は約5.3mを測り、南北方向の長地型地割りがみられた。30坪南辺の東西素掘り溝は、概ね南北素掘り溝より新しく掘削されるようである。30坪の中央南東寄りに検出した2条の「コ」字状の素掘り溝は、幅20cm・東西6m・南北12mを測る。「コ」字状に囲まれた中央には、不正円形の径約1m、検出面からの深さ60cmで断面甕腹状を呈する土坑S K337006を検出した。配水施設のための溜め井戸と考えたい。S K337006埋土からは、瓦器椀(2122・2126・2127)および平城宮式軒丸瓦(1769)などがある。

#### h. 九条村田(12)里31坪

B-3 地区の北半が、31坪の西辺の一部にあたる。30坪との坪界には素掘り溝等の遺構はみられず、30坪同様、南北方向の素掘り溝が検出されたが、30坪南辺でみられた東西素掘り溝は検出されなかった。

#### i. 九条村田(12)里32坪

B-3 地区の南半とB-4 b 地区の北東側が32坪の西辺の一部にあたる。31坪と32坪の間では、東でやや南偏する東西素掘り溝が数条掘削されており、水溜めとみられる土坑も検出した。32坪では、西側29坪の東西溝は及ばず、南北素掘り溝のみ検出し、南北方向の長地型地割りがみられた。

## 第2節 平安時代の出土遺物

### (1) 緑釉陶器

特徴的な陰刻花文をもつ緑釉陶器(744~746・1880・1882~1884)が出土した。多くは「井」字状の結紐文を1単位とし、それを上下左右に配置させ、刻線で囲まれた部分に刺突を施す。さらにこれを留まり木とみたと、周囲四方に一筆書きの簡略化した鳥文を配置させ、基本的な図案とする。しかし、鳥文以外、図案が何であるのか判断するのが困難な程、粗雑化した文様となる。9世紀第3四半期を遡らないであろう。同種の文様を持つ緑釉陶器が石作窯にもみられる。<sup>(注1)</sup>

二条条間大路南側溝S D330002上層から出土しているもの(744~746)もあり、長岡京廃都直後に条坊側溝は故意には埋められなかった部分があることがわかる。

(2)印章

方形有郭の印面に「福」を陽鑄する有孔蒼鈕の銅印(3)である。土坑S K399504出土。鈕に平行する辺は、2.8~2.9cm、鈕に直交する辺は、2.6~2.7cmで、わずかに鈕方向に長い長方形の印面である。高さ3.25cm。鈕頭には花卉状の稜が5つ配置されるが、輪郭の浅いものである。孔はやや偏って穿たれており、直径4mm程である。郭内に収まる「福」字は整った字体で、鑄字の深さは最深3.0mm前後となる。有孔蒼鈕の形態から私印と考える。先述したように、二条条間大路南側溝S D330002上層から平安時代の土器群が出土しており、この銅印も、同時期に埋置されたと思われる。貞観十(868)年の六月廿八日の「太政官符」(『類聚三代格』巻17)に、「而案公式令。唯有諸司之印。未見臣家之印。爰有勢諸家皆私鑄作、進官文外、皆踐僭印之」とあり、有勢の諸家は、「養老公式令」では公的には認められていなかった家印を鑄造して、公文書以外に使用していたことが分かる。

(3)櫃(第15図)

井戸S E399412の水溜めとして再利用されていた。櫃は、蓋と底板が取り外されており、側板4枚のみであった。スギの板目材を使用しており、特に長側板の表面の板目模様が美しい。四隅で5枚組に組み合わされており、組手の柄部には2つの木製目釘が打たれるが、腐朽が著しく、飾鉾の痕跡はない。黒漆による蔭切が側板組手の稜角に幅狭く施されている。以下に各板材の状況について述べる。

a. 東側短側板(206)

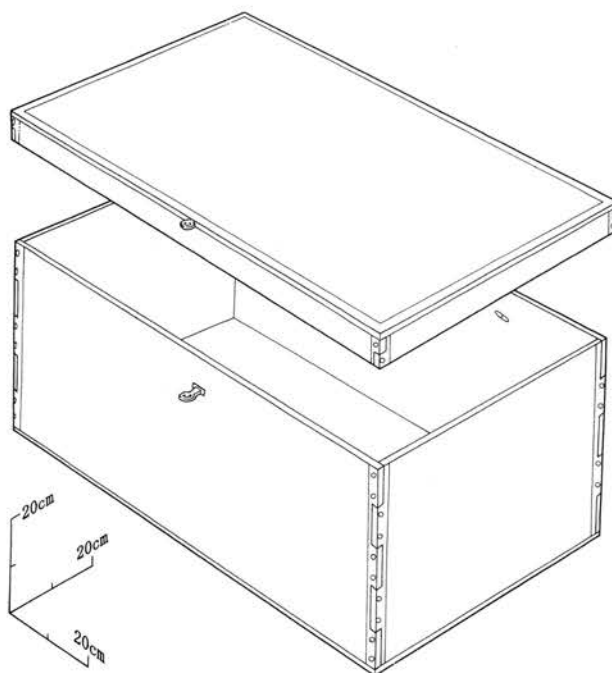
長さ55.2cm・高さ42.8cm・厚さ1.6cm前後。表面からみて、左上の一隅が欠損する。また、右側組手の柄部の腐食が著しい。蔭切の漆の痕跡は比較的明瞭ではあるが、表裏面の腐食が著しく、加工痕はほとんどみられない。わずかに表面右下部分に水平方向の鉋による削り痕がみられる。下端面の釘孔痕跡は確認できない。

b. 西側短側板(207)

長さ55.4cm・高さ42.2cm・厚さ1.5cm前後。ほぼ完存している。表面の左右端には、蔭切が明瞭に残るが、左側の蔭切は幅2.4cm前後、右側の蔭切は幅2.8cmと若干相違がある。左側に組み合わせる北側長側板の厚さが1.7cm前後であるのに対して、右側に組みあわされる南側長側板の厚さは1.2cm程しかない。そのため、西側短側板の左側組手の柄部の出も1.5~1.6cm、右側組手では、1.3~1.4cmとなっている。つまり、板材の厚さの差による左右不对称感を視覚的に解消するための工夫として蔭切の幅を意識的に増減させたものとみられる。表面には鉋による水平方向の削り痕が明瞭に看取される。『春日権現験記絵巻』などにみられる木工作業のように手斧ではつった痕を鉋で仕上げたのであろう。下端面には、5つの釘孔がある。左側に近接して2つ穿たれたものは3.5mm×3mm程の長方形、右側にも同様に2つ穿たれ、3.0×2.5mm程の長方形の釘孔痕跡が認められる。中央に遺存する釘孔は、板材の腐朽により、不明瞭であるが正方形に近いものであったようにみられる。

## c. 北側長側板(208)

長さ90.2cm・高さ43.6cm・厚さ1.7cm前後。ほぼ完存。蔭切は2cm前後と他よりも短くなる。上半中央に鑿子の弦を通すための壺金具をとりつけた長方形の孔と長方形の座金具の痕跡がある。孔は横2.3cm・縦0.7cm前後で、その回りに長さ3.6cm・高さ1.8cmの方形座金をとりつけた圧痕が認められる。表面は右上がり方向の鉋の削り痕跡が認められるが、それ程顕著ではない。下端面には底板を打ちつけた釘が左右に遺存している。どちらも断面が5.0cm×4.5cm前後の正方形に近い隅丸長方形の角釘である。



第18図 井戸S E 399412出土櫃復原想定図(1/15)

## d. 南側長側板(209)

長さ90.1cm・高さ(残存長)36.6cm・厚さ1.1~1.6cm前後。下端部欠損。蔭切は右側では明瞭ではないが、左側では3.0cm前後の幅となる。上半部左右にひとつずつ、蓋と連繋するための壺金具をとりつけた円形孔がみられる。しかし座金や裏面の釘隠しの痕跡は認められなかった。表面の中央部分から左上にかけてわずかながら水平方向の鉋の削り痕が認められる。下端部が欠損しているため、底板との接合状況が不明である。

## e. 櫃の復原

とり去られた蓋は壺金具の孔の位置が上端から5.0~6.0cmであることから、甲板の厚さ推定1.5cmとして加算し、壺金具の連繋部を差し引けば、おおよそ、高さ6~7cm前後の被せ蓋造りとなる。四隅の組手はおそらく2枚組で、身同様、蔭切が施されてあったであろう。また、底板は側板の下端面を覆う平底造りで、長側の左右に2隻、短側の中央に1隻、計6隻の角釘が打ちつけられていたものとみられる。ただし、西側短側板の下端面には、他に小さな長方形の釘孔が2つずつみられたことから、底板の破損・脱落に伴い、修繕が行われた可能性がある。長側と短側の比率はあまり変わらないが、長・短側長に対する深さの比率が最も大きい部類に入る。つまり、平面規模からすれば、深い櫃の部類に入るとみて良いであろう(第18図)。



## 第5章 考 察

### 第1節 乙訓地域における弥生時代集落と石器生産

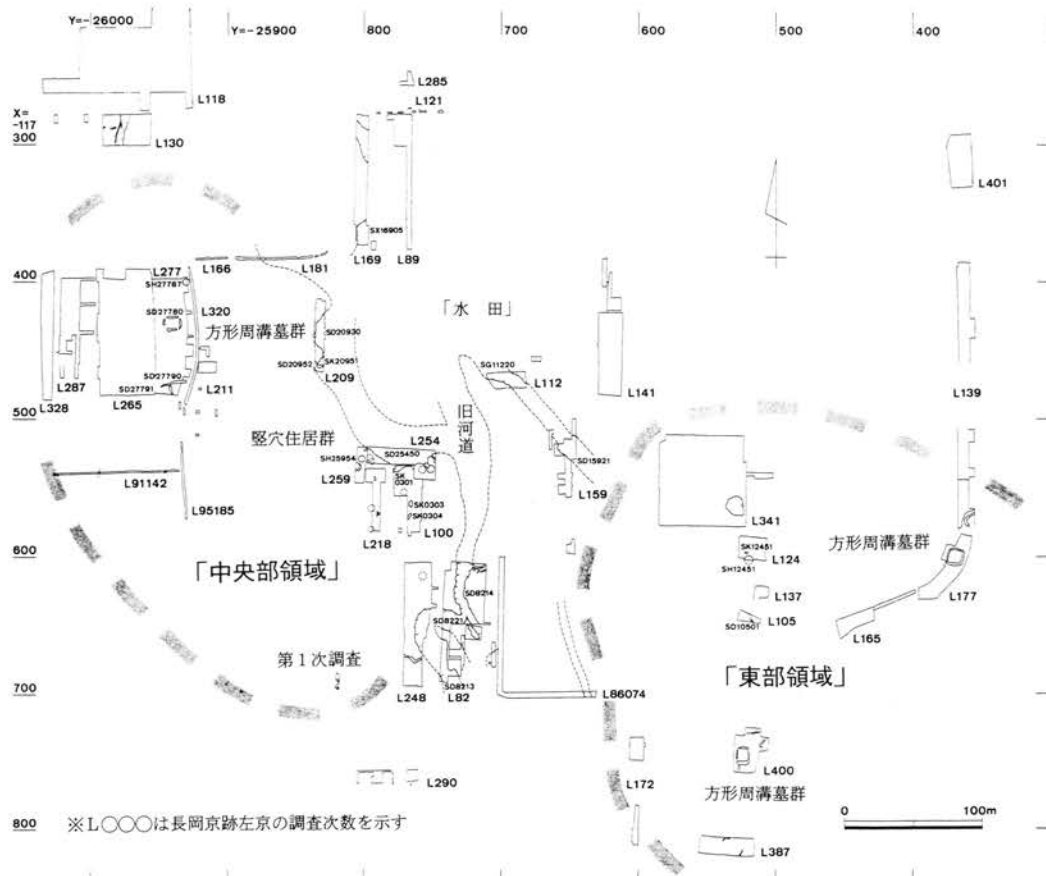
#### (1) 鶏冠井遺跡と東土川遺跡の構造(第19・20図)

位置と環境において述べたように、東土川遺跡の周辺では近接して同時代の遺跡が多く分布する。特に、弥生時代の集落としては西側に鶏冠井遺跡、南側に鶏冠井清水遺跡が接して存在している。東土川遺跡の性格を知るためにも、近接する鶏冠井遺跡の消長について考えておきたい。

#### a. 鶏冠井遺跡

鶏冠井遺跡は、縄文時代後期から弥生中期の集落遺跡で、弥生時代前期後葉から中期中葉の時期が主体となる。集落内からは方形周溝墓群、竪穴式住居跡、土坑、柱穴が検出されている。國下多美樹(1997)によると鶏冠井遺跡は中央部領域と東部領域に二分され、その間には旧河道が認められるとした。また國下は、土器の検討から鶏冠井遺跡を7期編年している。鶏冠井1・2期は弥生時代前期中・後葉、鶏冠井3・4期が中期前葉、鶏冠井5・6期が中期中葉、鶏冠井7期が中期後葉にあたる。

鶏冠井1・2期：遺物の出土量を見ると2期が圧倒的に多い。鶏冠井遺跡中央部領域北西部で



第19図 鶏冠井遺跡遺構分布図

弥生時代前期末から方形周溝墓が作られている。また、旧河道の土器廃棄は西側からおこなわれており、住居跡も中央部領域に見られることからこの地域が集落の中心となっていたと考えられている。

鶏冠井3期：旧流路の堆積が始まり湿地化が進む時期である。鶏冠井2期と同様集落の中心は中央領域である。

鶏冠井4期：集落規模が拡大し、東部領域においても方形周溝墓や竪穴式住居跡が認められるようになる。中央部・東部領域ともに北西部が居住域になり、墓域と居住域が区別できるようになる。また中央域には玉造関連の工房が推定されている。特筆すべき遺物には銅鐸の鋳型がありこの時期に廃棄されている。

鶏冠井5期：衰退期に入り遺構があまり認められなくなる。

鶏冠井6期：遺構が認められなくなる。

鶏冠井7期：僅かに遺構が認められるが、長年にわたる居住を示す遺構・遺物は認められない。

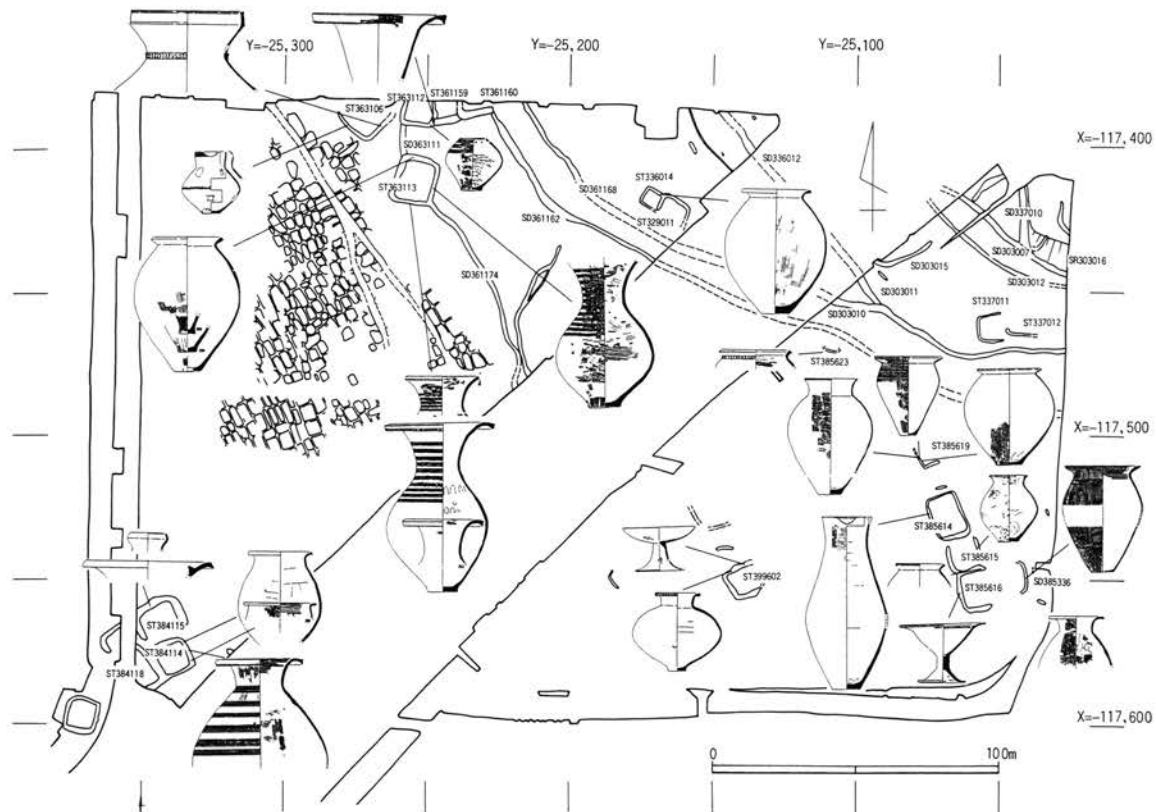
鶏冠井遺跡の変遷を要約すると鶏冠井2期に中央部領域に集落が出現し、旧河道が埋没し湿地化が進むのに対応して集落が東部域に広がる。墓域もまた両地区において広がりを見せるが、鶏冠井5期には集落の態を示さなくなる。最も集落域の広がる4期には今回報告の東土川遺跡の南西部にまで周溝墓が認められる。次に本調査地を含めて東土川遺跡について言及していきたい。

#### b. 東土川遺跡A地区

この地区からは、方形周溝墓10基・道路状遺構・環濠・溝・土坑・水田を検出している。

方形周溝墓は南角部に3基、北辺中央に5基、東部に2基の3群に分かれて分布する。南角部のものは(財)京都市埋蔵文化財研究所の調査地(百瀬・丸川・長宗1991)を加味すると、5基の方形周溝墓群から成り立っている。この周溝墓群の北側は古墳時代の流路にあたり、周溝墓が北に延びていたかは不明である。溝の深さはそれぞれの墓で最深部が70cm前後と深かったが、中央主体部は検出できなかった。S T 384114の北辺・東辺溝の底部で10cmの深さを持つ窪みを検出したが、溝中埋葬か確定できなかった。周溝内の出土遺物から弥生時代中期中葉と考えられる。

北辺中央の一群は、S T 363112・S T 361159・S T 361160の3基が互いに溝を共有している。検出面において溝に切り合い関係が認められた。断面の観察から下部においては一連に連なっていた状況が認められるが、埋没した後に部分的に掘り直されたものと考えられる。S T 363112とS T 361123を繋ぐ溝が検出できたが、対になる東側の溝は土層を断ち割って検出に努めたが、検出できなかった。溝と溝を繋ぐ目的で作られたものと考えられる。S T 363113は長辺約17m・短辺約15mの比較的大型の方形周溝墓である。溝の東辺と南辺には溝中埋葬が見られた。他の辺も土器の集中や窪み痕跡が見られたが、攪乱等のため遺構の性格確定ができなかった。出土土器(249・251～259)から弥生時代中期中葉と考えられる。他の方形周溝墓と方向を異にするS T 363106は、正方位に対して45°程度振っている。削平や攪乱によって寸断されているが、直角に曲がる特徴から方形周溝墓とした。時期は出土遺物から弥生時代中期後葉に位置付けられる。東部の2基は、南辺の溝を自然流路により損失している。遺物量は微量であったが、S T 336014周



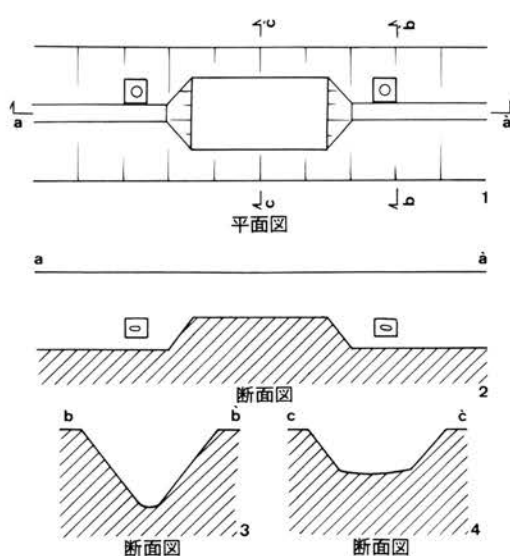
第20図 東土川遺跡弥生時代遺構図

溝出土の土器から弥生時代中期中葉と考えられる。

溝の多くは調査区の北西方向から南東方向に貫き、流路の方向と一致するが、断面には流水による堆積は認められなかった。

S D336012出土の土器群には、層位的に中期後葉の土器が出土し、名神高速道路本線を挟み、B地区のS D303011に続く想定される。

S D361168・S D361162は、並行する断面が「V」字状を呈する溝である。断面の形状から環濠の一部と見られるが、遺物は少ない。S D361168は上面を古墳時代の流路によって削られており、南東部は残存していなかった。S D361162もまた同流路に削られ南東部の残りが悪かった。この溝



第21図 環濠S D361162入口状遺構模式図

は北端でS T361160のコーナー部分で連結するが、現代の建物基礎による攪乱で、切り合い関係や北への伸び方は不明であるが、古墳で言う墳丘部分には続かなかったことから、周溝の南東隅に取り付くとも考えられる。埋土上層は埋め戻されたと考えられる層で、この層から弥生時代中期後葉の水差し形土器が出土している。S D361162は、硬く締まった礫層を開削して作られているが、1か所のみ浅く礫層が掘り残されている部分が認められた。この掘り残し部分の両脇には模式図で書いたように1対の方形

の柱掘形が認められた。環濠の入り口部分の下部構造と考えられる(第21図)。S D361168では、対応する箇所が流失していた。

S D34174は、S T363113の周溝南東隅からはじまり南に消える断面が逆台形状を呈する溝である。検出面において新旧関係は判別できなかった。方形周溝墓と同時かそれ以後の周溝を意識して掘削されたものと考えられる。S T361112とS T363113を繋ぐ溝の存在を加味して考えていく必要がある。

水田状の遺構はA地区でのみで検出し、270枚以上存在する。北で30°程度振る長辺の畦はほぼ並行するが、それと直交する短辺の畦は不揃いである。水田1枚あたりの大きさは小さく、10m<sup>2</sup>を下回るものが大半である。水口跡と考えられるものも存在する。花粉分析の結果、水田面で多量に発見されるはずであるプラントオパール含有量は、皆無か数個といった程度であった(付編参照)。上層の水田面が下層に影響を及ぼした痕跡を掘削していたものと想定できる。水田の帰属時期は出土遺物がまったくないため不明であるが、S T363106と軸がほぼ揃うことから中期後葉の年代観を与えたい。

道路状遺構(大畦畔)は「Y」字状に分岐するS F363108・S F363109の2本が検出されている。水田と密接な関係があり同時期に形成されたものと考えられる。概報では盛り土と考えているが、水田の本来の面より低く土壌化の結果、水田形成以後に引き起こされた下層の土色変化と考えられる。

A地区の南部には中期後葉の遺物は少ないが、S K33018からは中期後葉の土器がまとめて出土している。

### c. 東土川遺跡B地区

方形周溝墓・溝・土坑・土壙・湿地状遺構を検出している。方形周溝墓は10~12基程度存在する。削平が著しいため方形周溝墓の正確な数は特定できない。南東側の一群・南西側の一群・北部の一群の3群に分かれる。

南東側の一群は出土遺物から弥生時代中期中葉~後葉に位置づけられる。特にS T38519の溝中埋葬主体部(中川1998b)からは大量の磨製石剣の鋒、打製石鏃が出土した。石器の破損状態などから体内に射込まれたり、刺されたものと考えられる。

南西側の一群S T399602の溝から弥生時代後期~庄内期にかけての土器が出土しており、この時期の遺構は調査区内ではこれ以外には認められないが、遺物は古墳時代の河道などに若干量含まれる。

北部の一群は残存状況が悪く、時期を特定できない。

溝は大きなものは5本を検出している。S D303011は、A地区のS D336012と繋がると考えられる溝である。S D303010は、S D303011・S D361168・S D361162の何れかに対応するが、S D361168に連続する可能性が高い。S D361162は、B地区の河道がS D303011に並行してあることと、河道の底部に部分的に中期後葉の土器が出土していることから、大部分が流路によって削られているものと考えられる。この河道からは、完形の打製石剣が、1点出土している。S D

303012は断面が逆台形を呈する溝で遺物は少ないが、弥生時代中期に属すると考えられる。

S K 385630・S K 385613(中川1998 a)はサヌカイト製の剥片を多く含む土坑である。石器製作時に生じた剥片・碎片・破損品を捨てたと考えられる。

S K 33437は長方形を呈する土壙で、両短辺に木口板を固定した落ち込みが認められた。時期の特定はできない。

湿地状遺構 S X 303016は、黒灰色の粘質土を基調とする埋土中から、多くの木製品が出土した。同時に材料と考えられる表皮付きの木材が出土している。土器は、弥生時代中期後葉のものが主体を占める。

#### d. 小結

当時の集落構造を考えると、今回の調査地内では、墓域と生産域を調査していたものと考えられる。全体に方形周溝墓の供献土器と考えられる遺物を除くと出土量は少なく、多くの溝も遺物が疎らであったことから、生活域は北側にあるものと想定できる。それを傍証するように、もっとも北に位置する S D 336012からは、多量の土器が出土している。環濠は生産域と集落を画しており、入り口は生産域に向かって開かれている。古い周溝墓と環濠が連結することの意義は不明である。しかし、周溝墓の一部を利用または取り込んだ環濠であることは否定できない。

東土川遺跡の弥生時代の遺構で最も古いものは、中期中葉に属するものである。この時期は近接する鶏冠井遺跡(國下1998)の存続時期と一部重なるが、鶏冠井遺跡が弥生時代前期後葉から中期前葉を主体とする遺跡であるのに対して、東土川遺跡の時期がずれている。このことは東土川遺跡の出現契機と密接な関係があるものと考えられる。特に周溝墓を見る限り西から東への移動が、鶏冠井遺跡から東土川遺跡にも認められ、今回報告の調査区内においても同様な傾向が認められる。周辺地域の調査例(北田1988・鍋田1995)を見ると調査地より北の海拔13~15mの地域で方形周溝墓が見付かっており、墓域は断続的に広がっているものと考えられる。

北西から南東方向に向かう弥生時代の溝群は、弥生時代中期後葉の遺物を含んでおり、方形周溝墓群とは時期が異なる。中期中葉の集落の中心がどの地域にあったかは不明であるが、平面図に見られる景観は同時期ではなく、古い時期の墓域と新出の集落が接していると考えられる。遺跡内の土層の観察や遺構の残存状況の違いから、北側が高くなる地形である。自然堤防の高まりと考えられる。溝群はその等高線に平行して巡っている。溝群の屈曲の状態と遺物の出土状態から、北側自然堤防上の高まりの部分に弥生時代中期後葉の集落が、その緩斜面から後背湿地にかけて水田が広がり、溝によって区画される構造をもっている。溝群(環濠)北側の(財)京都市埋蔵文化財研究所の調査(加納1984)で広範囲にわたって弥生時代の土器が認められている。このことから東土川遺跡は未知の拠点集落の可能性が指摘できるが、集落の消長については未公開資料も少なからずあるのではっきりしない。

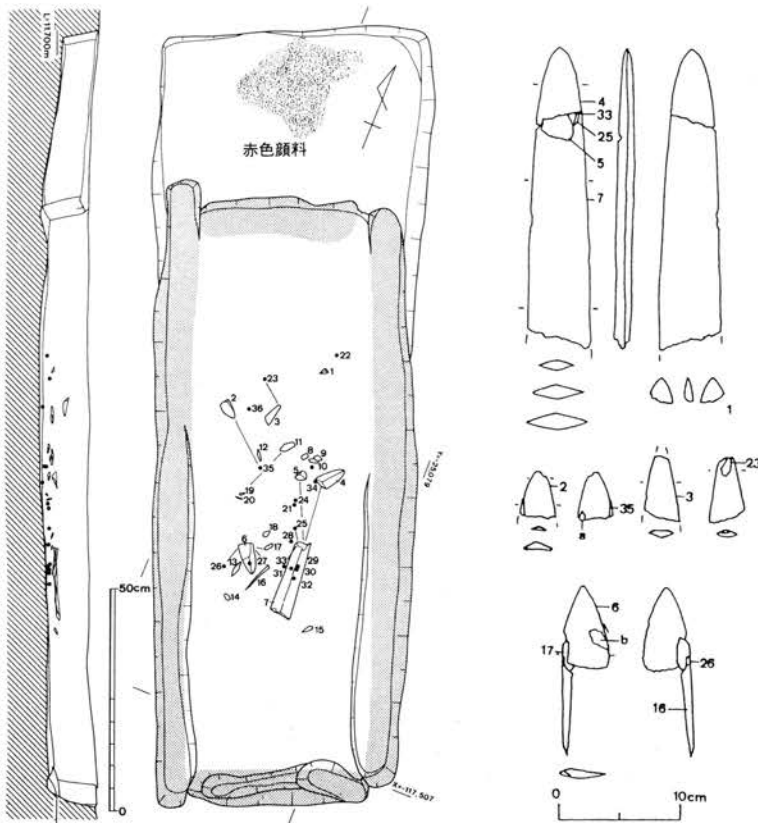
#### (2) 東土川遺跡の石製武器出土埋葬主体部

弥生時代の石製武器が出土する埋葬主体部は、これまで西日本を中心に多数発見されている。このような遺構に対する解釈にはおよそ3つのパターンが存在している。1. 犠牲王の墓(兼康

1996)。2. 戦死者の墓(佐原・藤尾編1996)。3. 副葬品を持つ墓(瀬戸谷他1989・宮村1995)。1は、よく『三国志魏書倭人伝』に中国に渡海するときに航海の成否の結果で財物を受けたり、殺されたりする「持衰」や、『三国志魏書夫餘伝』に書かれた農作物の生育が不調なときに王を変えたり殺したりする風習、フレイザーの『金枝篇』を引用して解釈される。2は、埋葬主体部中に破損した石鏃や、鋒だけの石剣があることを根拠にしている。また九州では、佐賀県吉野ヶ里遺跡等の首のない遺体や首だけの埋葬例があることに基づいて、西日本一円に広げ類推されている。3は、武器には辟邪の意味があることや、鋒を欠損させる祭祀があったのではないかという仮説をより所としている。多くの場合は、このような現象を解釈していくにあたって、報告書中においても出土遺物そのものについて記述はきわめて少なく、解釈の域を出ないのが現状である。

a. 東土川遺跡検出の埋葬主体部

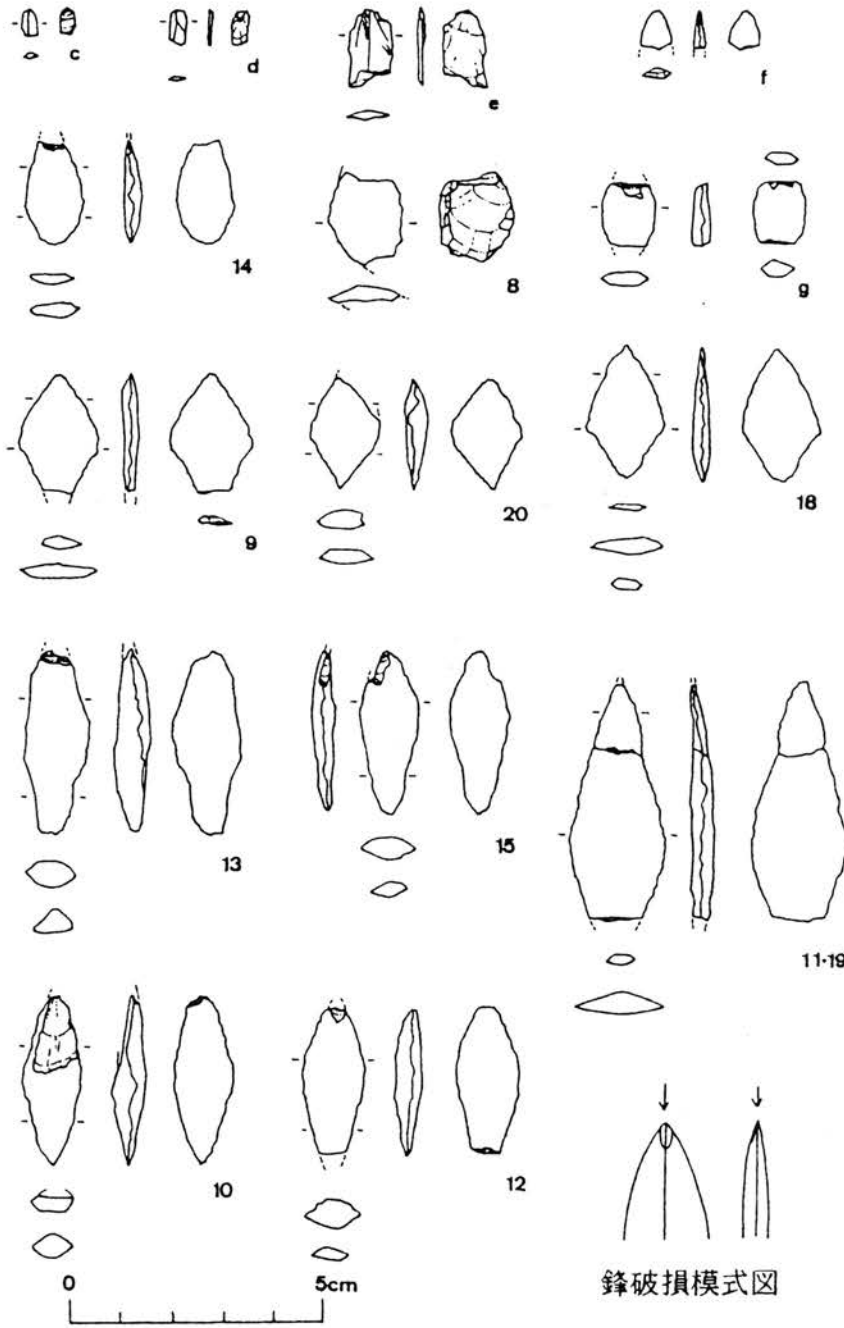
S T 385619周溝検出の木棺墓は、方形周溝墓の溝内に埋葬されたと考えられる木棺直葬である(第22図)。同じ周溝内から出土した土器から、中期中葉から後葉の遺構と考えられる。遺構の上部は大きく削平されており、墓壙の検出面からの深さは11cmと浅く、掘形の規模は長さ約1.75m・幅約0.56mを測る。木棺の小口部分と掘形には約0.35mの空間が存在する。この部分は棺のあった部分より底部が若干高くなっており赤色の顔料が残る。切り取られた頭部が安置された可能性も指摘できる。木棺は小口板を長側板で挟む形態である。その内法は長さ約1.25m・幅約0.4mを測る。棺内からは中央部を中心に磨製石剣7~8個体、石鏃12個体が出土している。番号を付けて提示したものは、原位置を押さえて取り上げたもので、アルファベットのものは埋土の洗浄によって検出したものである。なお、調査の初期に取り置かなかった埋土がわずかにあるため、サンプリング漏れが若干存在する。図示した以外に形にならないサヌカイト・粘板岩の碎片が存在する。



第22図 S T 385619木棺墓遺物出土状況および出土石剣

番号を付けて提示したものは、原位置を押さえて取り上げたもので、アルファベットのものは埋土の洗浄によって検出したものである。なお、調査の初期に取り置かなかった埋土がわずかにあるため、サンプリング漏れが若干存在する。図示した以外に形にならないサヌカイト・粘板岩の碎片が存在する。

石剣は粘板岩を素材としたいわゆる鉄剣形石剣で、鋒部と中間の部分のみが出土し、柄部は出土していない。4+5+7+25+33から成る石剣は、鋒部と中間部が接合したもので、破損時の剥片の多くが接合しており、片側に「く」の字に折れる



第23図 S T 385619木棺墓出土石剣剥片と石鏃  
(石鏃は、破損痕跡のみ図示)

生じる溝状の剥離痕が片側辺に認められる。15も同じく側辺に剥離痕が存在する。13は石器の長軸方向の衝撃によって、先端が楔形石器の両極打法によって生じた縁辺のような潰れた状態を示す。このことは力が石鏃の主軸方向に働いたことを示している。10は前方からの強い力によって作られた、先端部から生じる剥離痕が認められる。f・g・8・9・11+19・12・14は折れ面による破損であるが、折れ面にはいずれも打点を示すリングの終息は認められなかった。g・8・11+19・12・14は折れ面から生じた剥離痕を器表面に持つ。これは折れ面が形成されたと同時に生じたと考えられる。g・8・9・11+19・12・14は石鏃の基部側にも折れ面が認められる(第23図)。

ように破損したことがわかる。しかし、元部の破損剥片は1点も認められない。この資料は20cmを越す大型品であるが、元部側の刃部は刃潰し加工がなく剣把部は持ち去られている。2+35+a・3+23・c・d・eは石器の長軸方向から強い力を受けた破損状態を示す剥離痕が認められる。c、d、eの存在は図示したように石剣の鋒部分が剥離し、残されたものである。

石鏃は全てが二上山産と考えられるサヌカイト製で、12点中完存しているのは2点である。そのうち20は折れた石鏃を、折れ面から再加工したものである。先端部が欠損または破損しているもの8点、基部が破損しているもの6点である。fは石鏃の先端部で、鋒から

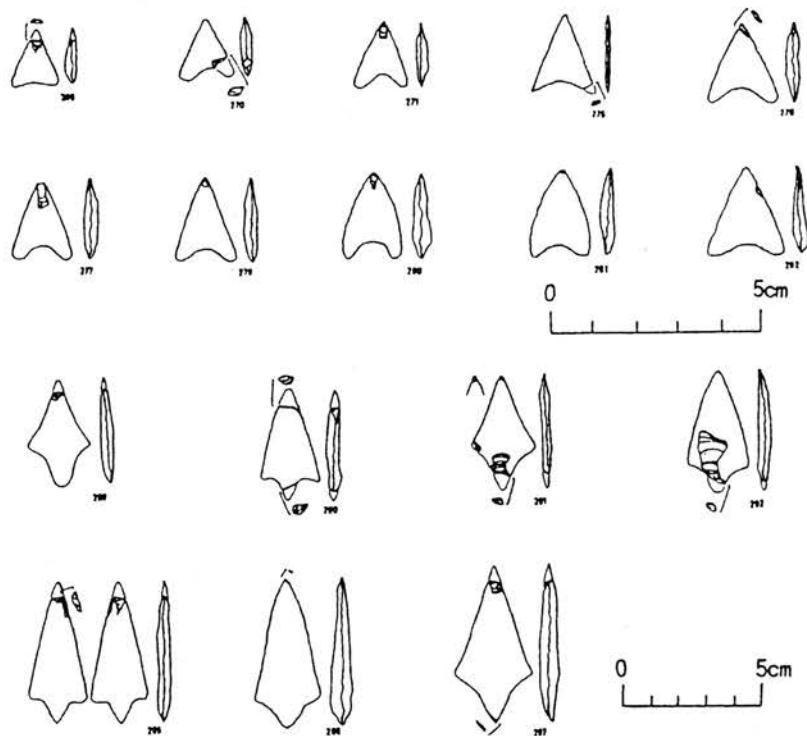
b. 衝撃による剥離痕

日本では御堂島正(1991)が、石鏃・有舌尖頭器の発射実験をおこない衝撃痕を分析している。その実験条件は以下の通りである。石鏃はいずれも凹基無茎で黒曜岩製である。石鏃はカヤ製の弓で射込み、有舌尖頭器は手で投げた。矢柄にはヤダケを使用し、柄と石鏃の装着時に接着剤として松脂を用いた。対象物は重さ約30kgの死んだ豚である。この実験によって生じた衝撃痕は4つに大別できる。①は折れが生じるもの。②石鏃の先端から側辺に槓状の剥離が見られるもの。③器表面に溝状の剥離が見られるものである。①には先端部のみではなく、逆刺にも認められる。また折れ面から③の剥離が生じているものもある。その他④は1点ではあるが、石鏃側辺中に剥離痕が生じるものもある。②③は彫刻刀形石器などの彫刀面を作り出す加工に類似し、彫刀面は端部に主軸に対してやや角度を持った方向からの打撃によって加工される。御堂島が用いた有舌尖頭器は、長さ3.6~5.5gで、これは近畿地方出土の弥生時代に属する石鏃の法量に含まれる大きさである。舌部(中茎)の付くものでは、先端部に石鏃と同じ様な衝撃痕が生じるが、同時に基部側にも剥離痕が新たに生じる。これは矢柄との間に生じる衝撃の反作用によるものと想定できる(第24図)。

実際に人骨に射込まれた事例から石鏃の破損状態を見てみたい。第25図に示したのは、シベリアの初期青銅器時代であるグラスコーヴォ文化に属するヴェルホレンスク墓地から発見された石鏃(小畑1996)の刺さった上腕骨と出土石鏃である(第25図)。石鏃に見られる衝撃痕は御堂島の実験結果と符合し、いずれもが3つのパターンに含まれる。実験結果と人骨の遺存例を見る限り、S T 385619出土の石鏃に見られる破損痕跡は、衝撃痕とされる剥離と齟齬しない。

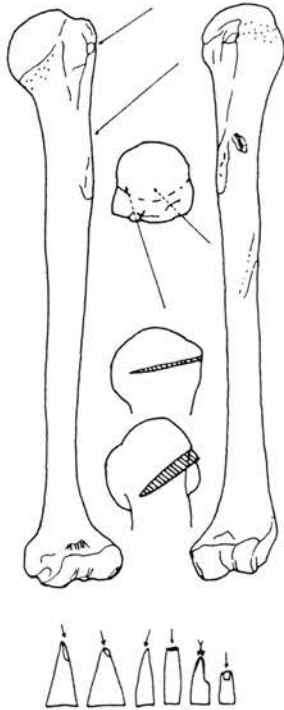
c. 石器の出土状況

管見によると、今回のように石製武器を持つ主体部は九州を除くと100以上確認している。その内、10点以上の石製武器の出土する埋葬主体部は、約20%を占めている。広島県四辻土壙墓第47土壙(神原1973)では36点、島根県友田遺跡土壙墓SK18(松江市教育委員会1983)は34点、京都府豊谷墳墓群1号墳主体部(肥後1993)の22点、岡山県清水谷遺跡2号木棺墓



第24図 実験によって生じた衝撃痕(御堂島1991)





第25図 第4回ヴェルホレンスク墓地第25人骨の上腕骨と石鏃(小畑1996を改変)

(白石1995)の20点と特に多量の出土を見せるものもある。多数の石鏃出土例については、1つの埋葬主体部に何人の遺体が入っていたかによって解釈は異なるが、多くの場合骨の遺存がなく不明である。豊谷墳墓群では、石鏃は埋葬主体部内から2群に分かれて出土している。多くは石器の分布は埋葬主体部中央部または棺の中央部で、被葬者の腹部と思われる場所に多く認められる。

御堂島によると松脂を接着剤に用いたところ、衝撃で矢柄からはずれ体内に残る例が多かったことを記載している。また、骨に深く突き刺さった矢を抜くと、折れて石鏃の一部が体内に残される例も指摘している。実験例から石鏃の遺存から、矢柄を付けたまま埋葬したかどうかは、判断できないことがわかる。ただ東土川例で考えると、木棺の法量と石鏃の先端部の向きから、矢を遺体から抜くか根本で折ったものと考えられる。傍証するように石鏃の基部が破損した例が多く見られる。

石鏃の残存例に比べると、石剣が残された例は九州を除く西日本で少なく、14例であるが、遺存状態には打製・磨製ともに2つのパターンが見られる。1つは鋒部のみの出土。もう1つは完存している場合である。基部のみが出土した明確な埋葬主体部は浅学にして聞かない。また、完形の石剣は大阪府原田遺跡(能勢町教育委員会1998)、持田町3丁目遺跡(愛媛県埋蔵文化財調査センター1995)、四辻峠台状墓、勝部遺跡(大阪文化財センター1982)例で見られるように墓棺の中央に横方向に出土する。勝部例では人骨が残されており、石剣の先端部が若干折れているがほぼ完形と考えられる。この石剣は骨の裏側に横たわっており、骨の間に落ち込んでいないとすれば、身体の下にあったとも考えられる。また、出土位置と状態の一致から、完形品は被葬者が身につけていたものと想定できないであろうか。腰の位置で背中側に石器が携帯されたのである。原田遺跡やでは墓壙底部から遊離した状態で出土しているが、出土状態は同様に埋葬主体部の長軸に対して横方向に出土する。石剣の鋒のみの出土は、兵庫県玉津田中遺跡、山口県中の浜遺跡(豊浦町教育委員会1984)等の九州除く西日本の銅剣の出土例と同じである。また、京都府八木町池上遺跡第3・4次調査(谷口・田代・迫2000)では、主体部内から磨製石剣の鋒が出土しており、東土川遺跡例同様2つの破片が接合する。

#### d. 小結

東土川例をもとに、石製武器を検出した埋葬主体部を検討してきたが、東土川例については人体に射込まれた石鏃である可能性が高いことがわかった。また、石剣の出土状態も完形例を除くと、銅剣等と同じ様相を示すことがわかった。鋒埋納の可能性は東土川例では考えられない。他の例からもそのような儀礼が存在した可能性が低いと考えられる。

また、犠牲王や持衰説は魅惑的であるが、可能性はきわめて低く、立論の反証可能性が確立さ

第3表 埋葬主体における石剣・石鏃出土遺跡

遺跡名	遺構名	時期	所在地	石剣・石鏃出土例	完形	参考文献
東土川	方形周溝墓385619	弥生中期中～後	京都府京都市	磨製石剣8 打製石鏃12		『桂川右岸における石剣の出土例』 『京都府埋蔵文化財情報』第68号 1998
池上	主体部	弥生中期中～後	京都府八木町	磨製石剣1		『池上遺跡発掘調査報告書』2000 八木町教育委員会
招提中町	主体部	不明	大阪府枚方市	磨製石剣1 打製石鏃1	○	『招提中町遺跡現地説明会資料』1999 大阪府教育委員会
勝部	3号木棺	弥生中期中～後	大阪府豊中市	打製石剣1	○	『勝部遺跡』1972 豊中市教育委員会
勝部3次	主体部	弥生中期後	大阪府豊中市	磨製石剣1		『豊中市埋蔵文化財年報』vol.3 1995 豊中市教育委員会
亀井	1号方形周溝墓 6号木棺	弥生中期後	大阪府八尾市	打製石剣1		『亀井遺跡』1982 大阪文化財センター
原田	1号墳第1主体	弥生中期	大阪府能勢町	磨製石剣1	○	『原田遺跡発掘調査報告書』1998
出合	2号方形周溝墓	弥生中期	兵庫県神戸市	打製石剣1		『出合遺跡第27次発掘調査報告書』1994 神戸市教育委員会
四辻峠台状墓	第1土壌	弥生中期中～後	岡山県山陽町	打製石剣1	○	『県営山陽新住宅市街地開発事業内埋蔵文化財発掘調査概要』3 1973
友田	土壌墓SK18	弥生前期末	島根県松江市	磨製石剣1 打製石鏃13		『松江圏都市計画事業乃木地区区画整理事業区域内埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書』1983 松江市教育委員会
西大井古墳群 亀山支群	1号墳	弥生中期後	福井県鯖江市	磨製石剣1		古川登「福井県鯖江市における方形台状墓出土の石剣片について」『福井考古学会会誌』第3号 1985 福井考古学会
持田町3丁目	SK32	弥生前期	愛媛県松山市	磨製石剣1	○	『持田町3丁目遺跡』1995 愛媛県埋蔵文化財調査センター
持田町3丁目	SK34	弥生前期	愛媛県松山市	磨製石剣1	○	『持田町3丁目遺跡』1995 愛媛県埋蔵文化財調査センター

れない限り仮説の域を出ることはない。多数の武器の出土から通常の死ではないとし持衰説を取る人もいるが、経済性だけで戦闘は行われぬ。それは近代の戦闘や地域紛争の例を見れば明らかである。また、民族例(畑中1978)にも10数本の矢を受けた戦士も存在している。しかし、東土川例は脂肪酸分析によると女性であると比定されている(付編参照)。信憑性は別にして、特定の性の偏りなどが不明である現状では、戦死者というよりは戦争犠牲者としておくことが妥当であろう。

また、石製武器の素材は山城地域で一般的に見られるもので、戦いの規模は寺沢 薫(寺沢・武末1998)が指摘するように、抗争は内輪で行われた可能性が高い。

被葬者の性格や死亡原因を解釈する以前に、出土遺物そのものについて詳細な検討をすることが重要である。その後、埋葬状況の復原を行い、それぞれの埋葬主体部に認められる石鏃・石剣の出土が、1つの共通する要因によって生じるのかを考察していく必要がある。また、石鏃片の出土を念頭に置いて埋葬主体部内の土を洗浄すれば、今後飛躍的に類例が増加するものと考えられる。

### (3) 東土川遺跡における石器石材の利用

#### a. 打製石器

打製石器には157のチャート製の石核を除けば、ほとんどすべてサヌカイトが用いられており、

肉眼観察では二上山産と想定できる。石器には石鏃・石錐・打製石剣・削器・楔形石器・剥片・石核がある。石器の出土状況は包含層中のものが多いが、遺構中出土のものはS T 385619内出土の打製石鏃、S K 385613・S K 385630内出土の剥片類が主なもので、溝内からまとまって剥片類が出土することはなかった。これらのことから、石器製作時の剥片類の廃棄に一定の管理がなされていた可能性も考えられる。剥片には礫面があるもの(55・67・140・141・143・144・146・149・151・155など)があるが、肉眼観察では水磨を受けたものもあり石材の収集地は複数である可能性がある。また、出土したサヌカイト製剥片はすべて小型で71がもっとも大型のものである。製品では110の打製石剣が最大の大きさのもので、調査区内出土遺物から遺跡内で作られた可能性は低い。遺跡内では、小型の打製石器は製作されたが、大型の打製石器については完成品あるいは半完成品が遺跡内にもたらされたと想定される。このことは二上山北側の羽曳野市、柏原市等で打製石剣が集中的に製作された形跡を示す土坑が発見されることと関連している。スポット的な産出状態を示す原産地の石を利用する場合、例えば二上山のサヌカイトの場合、未製品、剥片、石核の比率の高い遺跡を原産地周辺に認めることができる。また、弥生時代より古いが、佐賀県多久市の安山岩産地の遺跡(杉原・戸沢・安蒜1983)では、大形の石槍の集中的な生産が認められる。このように大形の石器を作る場合には、原産地周辺で大まかな加工をしている。これは大形の石器の場合、重くて大きな石材を運んだ後に失敗するという愚をなくすためにも、石の豊富なエリアで加工するのであろう。

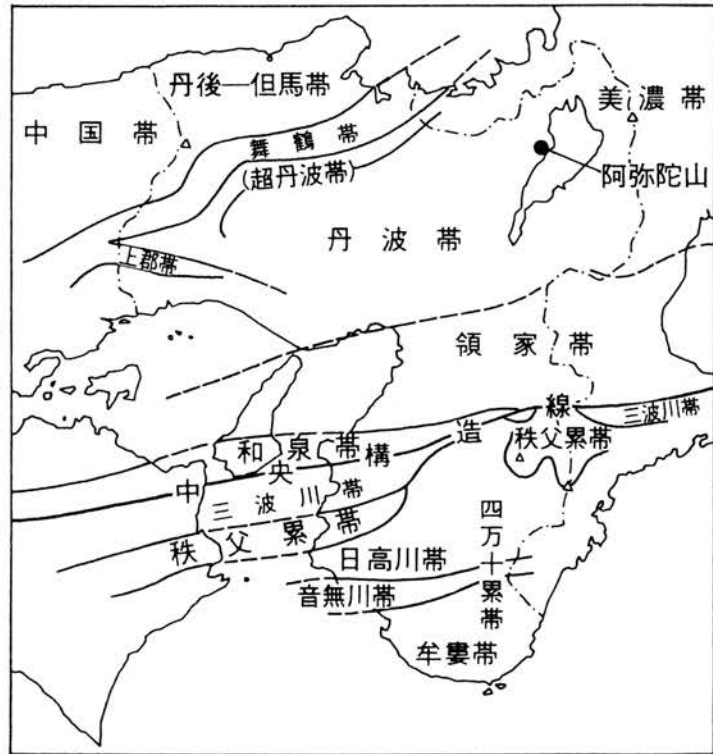
#### b. 磨製石器

磨製石器には鉄剣形石剣・銅剣形石剣・石戈・磨製石鏃・石庖丁・太形蛤刃石斧・扁平片刃石斧などがある。用いられる石材は二分され、鉄剣形石剣・銅剣形石剣・石戈・磨製石鏃には粘板岩、太形蛤刃石斧・扁平片刃石斧には閃緑岩(ヒン岩を含む)を主にその他の石材が用いられている。石材ごとの出土遺物から検証したい。

(粘板岩) 山城盆地の中においても桂川西岸域である乙訓および京都市の一部は、磨製の石製武器が多く出土するところとして知られている。原料となる粘板岩は、東土川遺跡の立地している礫層中から引き抜くことが可能であるが、量目が小さく石庖丁には利用可能であるが石剣の長さに足りない。より産出地に近い河床や露頭に原石を求めていたと考えられる。本調査地内では、飛鳥時代の溝S D 107に混入した形態であるが、123の右側辺が他の面と比べ風化度が異なる大型の加工素材が出土している。159・160は砥石として利用されているが、素材には楕円形の暗灰色を呈する河床礫が用いられている。163は側辺には主軸に直交する擦痕が認められる黒灰色粘板岩製の河床礫を用いた石器である。長岡京市の神足遺跡(岩崎1991)では、鉄剣型石剣40点以上、銅剣形石剣13点以上が出土している。特筆すべきことは35cmを超える整形加工段階の未成品が存在することである。少なくとも石剣を遺跡内で生産していたことが明らかである。同じく長岡京市の裕遺跡(中島2000)では住居跡内から石剣・同未製品・石庖丁・磨製石鏃・剥片・砥石が出土しており、集落内での磨製石器製作が明らかである。東土川遺跡の北側約500mに展開する京都市南区の中久世遺跡(吉崎1990)では、12本以上の磨製石剣が発見されているという。

山城近郊の遺跡で見てみたい。亀岡市太田遺跡(田代・村尾他1986)は丹波帯に位置する畿内第Ⅰ～Ⅱ様式の弥生時代の遺跡である。田代 弘は、太田遺跡の出土資料に基づいた、詳細な磨製石庖丁の製作工程を復原している(田代・村尾他1986)。分析によると、在地の露頭付近から1kg前後の粘板岩の亜角礫を、遺跡に持ち込み加工している。原石および剥片には灰白色のものと黒色のものが見られる。

長岡京市に所在する畿内第Ⅰ様式の遺跡である雲宮遺跡(中川編1997)の環壕から出土した粘板岩製の剥片の自然面を観察すると、楕円形を呈



第26図 近畿地方の地質構造区分(井上1995)

する水磨を受けた円礫であることがわかる。このような円礫は、在地の礫層中から引き抜くことが可能である。種定は、銅剣形石剣を観察すると「摂津の淀川流域から播磨の明石川流域にかけては主に灰白色系粘板岩、日本海沿岸部では主に黒色系粘板岩、河内ではラミナ状の縞目が入った暗灰色系粘板岩が選択されている・・・」と述べ、粘板岩の一元的供給の可能性が低いことを示唆している(種定1990)。神足遺跡の粘板岩はまさしく灰あるいは灰白色系粘板岩であり、この地域の特徴を示している。種定が言うように黒色の粘板岩が“高島石”であるならば、“高島石”は近畿中央部では、銅剣形石剣の素材としてほとんど用いられていないことになる。また、“高島石”は阿弥陀山以外にも鴨川以北の餐庭野縁辺の硯谷や蘭生にも産すると指摘されているように黒色粘板岩の産地自体の特定が怪しくなる。丹波帯のように広域に分布する粘板岩産地は、変成の度合いによってさまざまな状態のものがあると思われる。また、石の色は泥として堆積した時の炭化物の含有量によって左右され、絶対的な分類とはならない。少なくとも原産地遺跡が発見されなければならない。以上のように検討していくと実態のわからない“高島石”といった名称は、産出地の特定研究を阻害する。混乱を回避するためにも廃絶すべきである。

広域のゾーンで産出する粘板岩は、素材として、一元的な供給体制は認めがたく、むしろできる限り近接した産地から石材を得ていることが想定される。この結論は酒井龍一(1974)が石材別の石庖丁の分布から述べたように、粘板岩産地は淀川流域、その近接地のどこかに求めるのが現実的であり、酒井の論考は卓見であったといえる。

(閃緑岩) 遺跡内で石斧に多用される閃緑岩は、全体に緑色を呈し白色の斑晶を含む。斑晶の入り方によってヒン岩に分類されることもある。石斧に用いられる石材は太形蛤刃石斧の場合斑

晶が目立つものが多い、一方扁平片刃石斧(113・115・116)は石基が緻密で斑晶の見られないものも含まれる。前者は八木町池上遺跡の概報において(株)京都フィッシュン・トラックによって閃緑岩と判定されている。後者は色調などが似るが未分析である。

太形蛤刃石斧に用いられる石材は、乙訓地域において一般的に用いられる石材で、亀岡盆地内の亀岡市太田遺跡(田代・村尾他1986)、八木町池上遺跡などの石斧資料に認められる。この石材もまた今回報告の東土川遺跡の礫層中に認められる。形状は円礫で長楕円形を呈するものが多い。礫層中に含まれる量は決して多くなく、注意深く探すと散見できる程度である。石器164は方形周溝墓の周溝中から出土した閃緑岩の礫であり、部分的に敲打痕を残す。石斧の母型である可能性が指摘される。閃緑岩は京都市北部の鞍馬寺周辺で産出する鞍馬石として知られるが、岩帯はその他の部分にも広がり、桂川の河床などで散見できる。

#### (4)東土川遺跡 S K 385613出土の石器群について

弥生時代の石器研究を一瞥すると、石器の種類や形態に重点を置いたものが主流を占めている。土器の場合、遺構の数と同じくらいの詳細な時期区分がなされているが、同じ遺跡内の出土遺物があるにもかかわらず石器の組成等は、弥生時代前期あるいは中期の組成といった雑駁な論議がなされているのが現状で、場の機能や出土状況が加味されることも少ない。報告書中でも石鏃などの形の整ったものだけが包含層からでたにもかかわらず掲載されており、遺構内出土の石片が全く載っていないことも珍しくない。剥片や碎片を基にどのようなことが判るかに付いて考察してみたい。

S K 385613は1996年度発掘調査のP A工区B-6地区で検出した遺構で、平面形は円形を呈し直径約55cm・深さ約25cmを測る土坑である。土坑内からは弥生時代中期の土器体部片とサヌカイト製の石片494点が出土した(石器33~52)。土器は詳細な時期は判らないが、近接する土坑の出土遺物から畿内第Ⅳ様式のものと同定したい。

分析に用いた土坑は、遺構検出時から石器の存在が認められたことから、埋土をすべて持ち帰り3mmメッシュの篩で石器の検出に努めた。石器の出土状態は廃棄単位が判る層を成すような状態ではなく、土器とともに散漫に出土することと、埋土の断面観察から1度に埋められたものと想定できる。

##### a. 剥片石器の操作概念

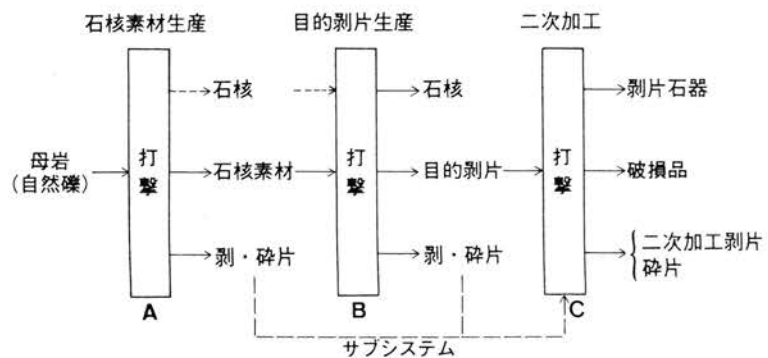
剥片石器を分析していく上での操作概念を第27図のように考えていきたい。自然の石が剥片石器になるまでの段階を3つの剥離工程に大別する。Aは、自然に産出している原礫を分割し、石核の素材を作り出す工程である。この剥片には原礫面が残されることが多い。同時に石核素材を作り出した残核、石核に適さない剥片や不規則な割れによって生じた碎片が副産される。また原礫が小さい場合、この工程が省かれることもある。Bは、石核の素材から剥片石器の材料となる剥片を作り出す工程である。石器の素材となる剥片は通常目的剥片と呼ばれ、当該期の剥片石器を作成することのできる剥片を、組織的に剥離したものを指す。石核と目的剥片とは異なる剥片や不規則な割れによって生じた碎片が副産される。A・B工程ともに碎片や石核ができるが、こ

れらを利用して剥片石器が作られることもある。特に石材産地から離れた遺跡では再利用の頻度が高いものと想定できる。Cは、目的剥片を二次加工によって形状を整え機能部位を作り出した剥片石器が加工される。この生産工程においては、剥片石器を製作する途中に生じた破損品と、二次加工によって生じた剥片(二次加工剥片)<sup>(註3)</sup>が生産される。二次加工の工程はさらにいくつかの段階を持つ可能性がある。粗い成形加工と精緻な整形および調整加工の工程である。破損品は使用による破損と制作時の破損があるが単体での分別は困難な場合がある。二次加工の程度や未加工部の存在はもとより、二次加工剥片の共伴等による場の機能の復原から分別が可能となる。剥片石器の中には成品と製作途中の未成品があると考えられるが、製作址において二次加工の剥離痕の数や大きさ、法量等の検討が必要であり、恣意的であることが多い。破損品は単体で出土した場合分別が困難な場合が多い。

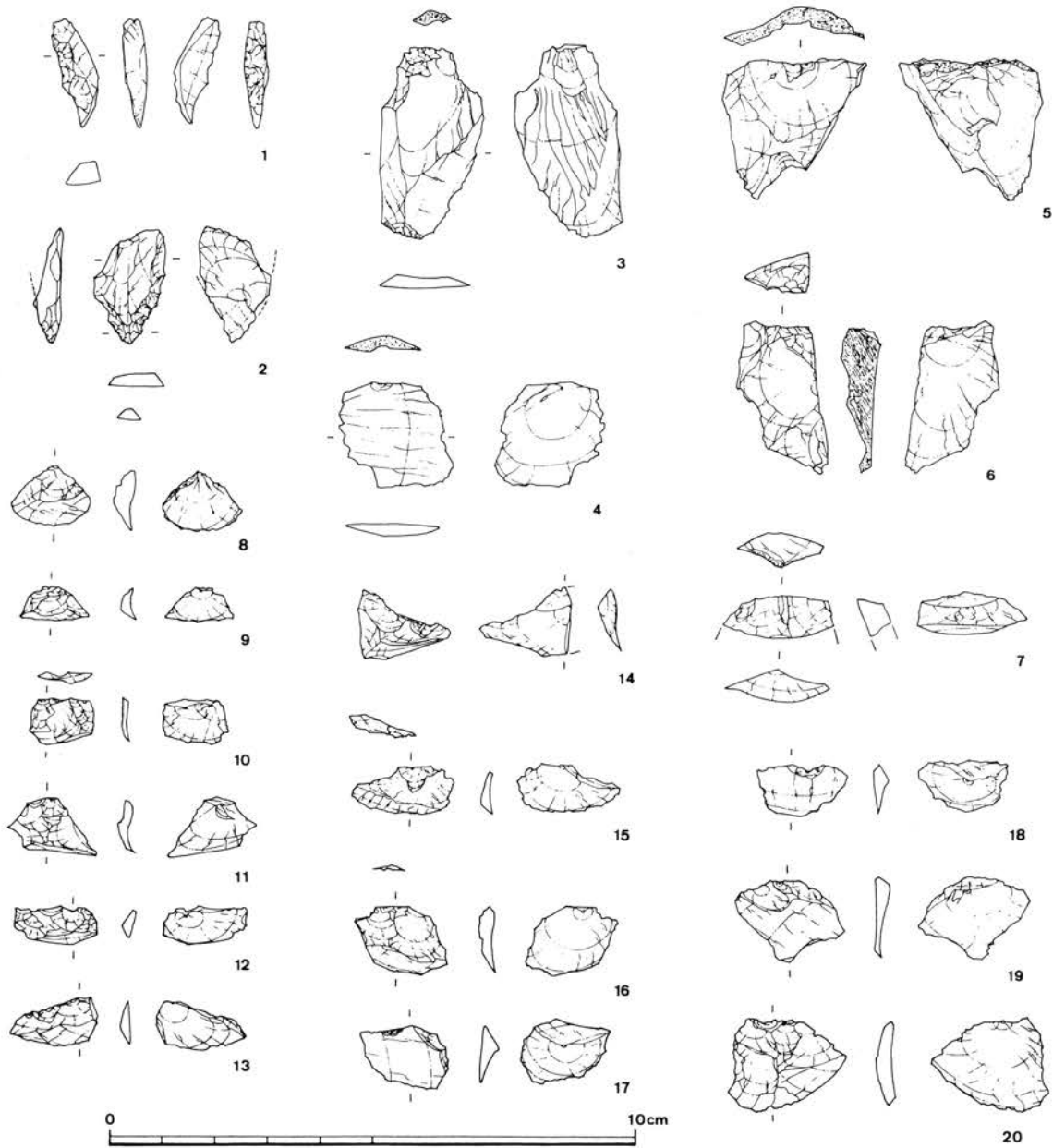
特定の剥片石器が複数の異なる技術を持つB工程からできた剥片を用いるのか、1種類のB工程で剥離された目的剥片が多く器種に用いられたりする。二次加工の技術だけではなく、石器製作のシステムを加味したものが技術形態学である。「かたち・もの」学を超えた研究戦略が必要とされている。二次加工の程度や未加工部の存在のみではなく、二次加工剥片の共伴等による場の機能の復原から分別が可能となる。特定の剥片石器が複数の異なる技術を持つB工程からできた剥片が用いられたり、特定なB工程で作出された目的剥片が多く器種に用いられたりする可能性もある。二次加工の技術だけではなく、石器製作のシステムを加味し、「かたち」学を超える研究戦略が必要とされる。

b. 出土資料の分析

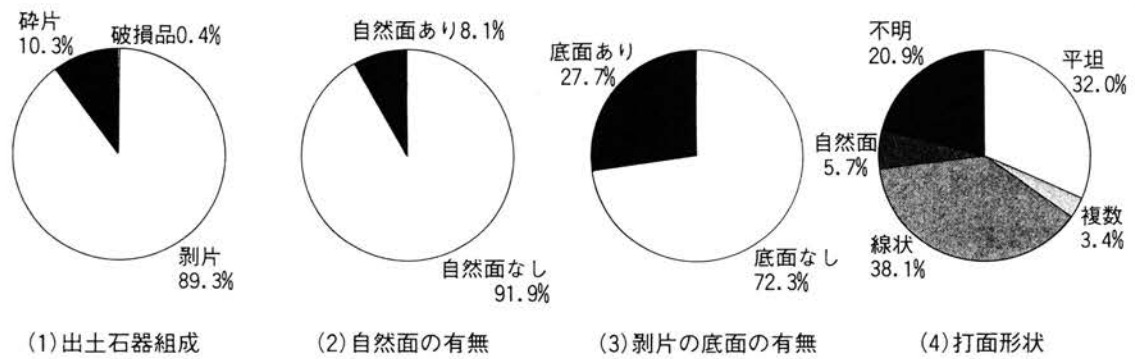
出土石片494点の全てがサヌカイト製で、肉眼的には二上山産と考えられる。石片の多くは2cm以下の剥片である。完成された石器は1点も出土していない。また、自然面(原礫面)を持つものは、8.1%(第29図(2))である。石器組成(第29図(1))は、破損品2点、剥片441点、碎片51点である。第28図1・2は破損品と考えられるもので、いずれも剥片を素材としており、その主要剥離面と考えられる面からのみ二次加工が施されている。石器に認められる剥離痕の切り合いから折れ面が最も新しい。素材剥片が分厚く、二次加工の角度があり、中央までおよんでいないことから錐の破損品とみなされる。使用の痕跡は両石器ともに認められない。剥片は441点の出土である。剥片としたものは、打面や末端が欠損していても、主要剥離面と背面の区別が付くものを含めた。折れ面の存在するものは、剥片441点中の165点である。また、背面が全て自然面で占められた剥片および碎片は1点も出土していない。剥片の打面(第29図(4))は線状打面のものが最も多く、続いて1枚の剥離痕で構成される平坦打面のものが多



第27図 石器製作の操作概念

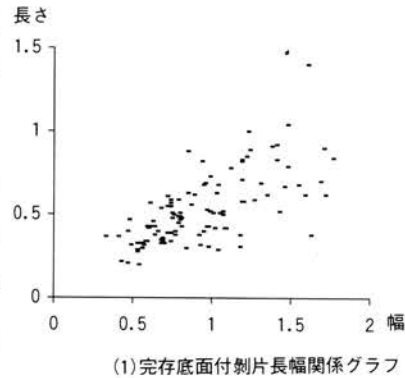


第28図 S K385613出土石器

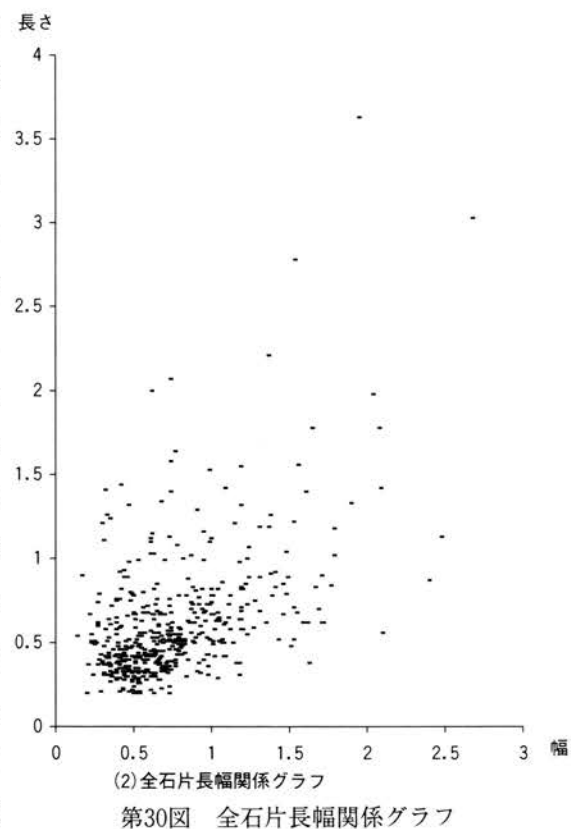


第29図 S K385613出土石器属性グラフ

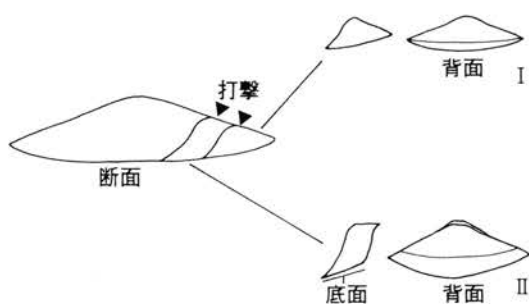
い。第28図(1)に見られるように、数点の法量大きくが突出した剥片が存在している。3～6がそれにあたる。全てが自然面を有しており、3～4は自然面を打面としている。小型のものは横長である割合が高いが、大型のものは縦長のものが多い。これらのことから小型の剥片とは異なった剥片剥離工程があったものと想定したい。7は大型の剥片の打面部側と考えられるが、末端部側が折り取られている。打面は1枚の剥離痕によって作られ、厚みを持つ。石核の打面が大きかったことがうかがえ、素材剥片の縁辺から作り出されたものとは考えられない。8～20は横長の剥片で、全てが剥片素材の石核から剥がされている。背面側の末端に、打面部となった石核の素材剥片の片面と相対する面と考えられる大きな剥離痕の一部を取り込んでいる。この面を底面と呼び、これらの剥片を底面付き剥片とする。底面付き剥片は全剥片中27.7%(第29図(3))も存在している。これらの剥片には背面側に、主要剥離面と同じ打面から剥がされた剥離痕が複数認められる。このことから、剥片の縁辺から連続的に剥離されていることが判る。第31図で模式化すると、剥片の縁辺からは、I



の断面が三角形になる素材剥片の面と主要剥離面(ポジティブ)によって構成される剥片、IIの素材剥片が持っていた面である打面と底面、Iの剥片が剥がされたネガティブな面と主要剥離面によって構成される。もちろん打面が線状打面に呈するもの、剥片の剥離が打面に相対する面にまで到達せず底面ができないものを除く。17・18はIと同じではないが、石核素材剥片の縁辺をその背面に持っており、表裏のなす角度を復原することができる。底面の打面との関係から同様に角度の復原が理論的には可能であるが、両者とも残存している部分が小さく困難であった。底面付き剥片の一部に自然面を持つものは、138点中6点、その中でも自然面を打面とするものは3点であった。底面付き剥片は剥片の縁辺の部分の連続的に剥離したものであり、それ自体が目的剥片と考えられる法量を持たない。よってこれら剥片石器の二次加工剥片と考えられる。底面付き剥片以外の剥片は、大型のものを除くと横長のものが多く長さ1cm・幅1.5cmのものがほとんどである。これら多くの剥片もまた二次加工剥片であったことが想定できる。碎片は主要剥離







第31図 二次加工で生じる剥片概念図

面の特定制が不可能なもの、不規則な割れによって生じたと考えられるものを指し、石器組成中10.3%を占めている。碎片は小型のものが多く底面付き剥片の法量を越えるものはほとんどない。多くが二次加工時にできたものと考えられる。第30図のグラフ1中には、碎片の最も長い部分を長さ、それに直行する最も法量のある部分を幅として

グラフ化した。このため幅に対して長さのまざる石器として51点が落とされている。

### c. 小結

土坑S K385613出土石器群は、大型の剥片、二次加工剥片、石錐の破損品によって構成されていることが判る。この土坑の出土石器を見る限りA工程は認められない。大型の剥片はあるが少なく、その工程の副産物と考えられる石核や大型の碎片などはなく、B工程も認められない。二次加工のC工程だけが認められる。大型の剥片は目的剥片と考えられるが、6を除くと厚さがなく、3・5は剥片が背面に残された打瘤の歪み等で石錐の素材にはならない。6は剥片の片側辺に分厚く自然面が残り背面あるいは主要剥離面から二次加工するどちらの場合でも打撃角が90°に近くなる。これもまた素材剥片に適さない。底面付き剥片が1/4存在するのは、二次加工の内でも素材剥片の幅を減じる整形加工が多く行われたことを物語っていると想定できる。剥片の中には背面の一部に、剥片が剥がされた側辺と対する辺の二次加工面が付着していることもある。この土坑の遺物は、以上のことから素材剥片になる法量を持ちながらも、素材剥片に適さない目的剥片と二次加工剥片、破損品が出土している。C工程だけが認められる。土坑の遺物は1回の作業として二次加工だけが行われたことを示しており、対象物は石錐である。素材剥片を剥離する工程は別の機会にすでに行われており、選ばれた素材剥片によってC工程が行われた。同時に選ばれた目的剥片の内、石錐に製作に向かないものが廃棄されたと考えられる。このように石器製作がB工程とC工程が独立して行われており、1器種のみを集中して生産している可能性が指摘できる。しかし、他の集落に供給するような専門的な規模でないのは見ての通りである。

土坑の性格は、2つの場合が想定できる。1つは石片が飛び散らないように穴の上でC工程が行われた、あるいは別の場所でC工程が行われ廃棄された場合である。石片は底部にのみ検出したわけではないことから、1の可能性は低い。微少な剥片の存在から石片を回収するため敷物を敷いて集め、他のゴミと一緒に土坑に捨てられたと想定したい。

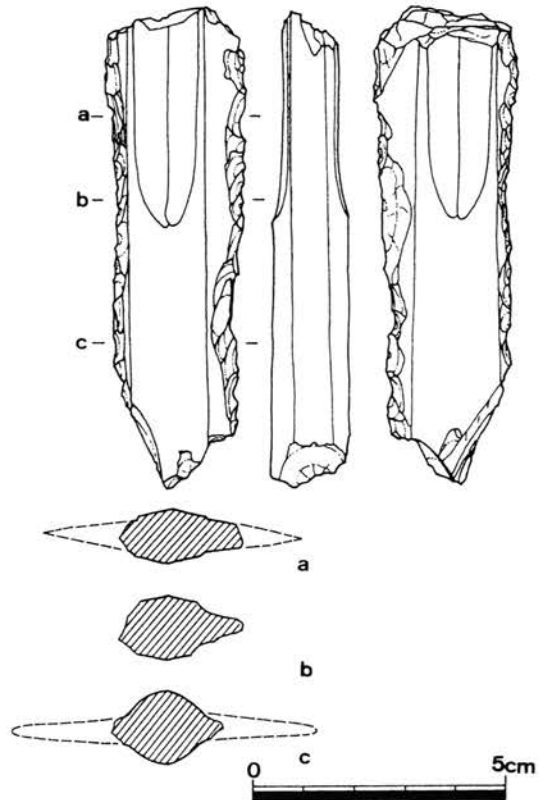
分析した資料は500点弱と少なく分析に手頃であったが、土坑内の遺物は時間の比較的限られた良好な資料であり、<sup>(注5)</sup> 詳細な検証が遺跡内生産(ドメスティック・プロダクション)<sup>(注6)</sup>の実態を明らかにする可能性に満ちている。ドメスティック・プロダクションの中でどの工程がなされているのかと言った実証的な研究が、遺跡の機能や石器の流通について多くのことを物語ってくれる。流通をモデル化する研究にも一定の節度<sup>(注7)</sup>が必要であり、同時に反証可能性(Falsifiability)<sup>(注8)</sup>(関1990)を成立させる資料提示と、解釈の道筋と前提条件を明らかにすることが重要である。

(5) 東土川遺跡出土石剣の検討

a. 東土川遺跡出土の新形式の銅剣形石剣

第32図に示した石剣は、中世素掘り溝の埋土中から出土し、溝の検出面下層には、弥生時代中期後葉の沼状遺構が広がり、多くの木製品が出土した。石器に用いられた石材は、やや青みがかった灰色を呈する粘板岩である。石剣は破損しており、元部と刳込部の脊および翼部分の一部が残存している。元部の脊は円柱状に仕上げられ翼は平らな面をなしている。刳込部に当たる部分から鑄が生じ、銅剣が忠実に模倣されている。破損面の風化は、残存する石器面の風化と同様であり、ほぼ同一時期に形成されたものと考えられる。なかでも翼部の破損面は、両面から幾度も打撃を加えることによって壊された形跡が認められる。先端部方向および茎方向の破損面は折れ面の形状を呈し、翼部と比べて破損状況が異なっている。研磨された面は非常にていねいな加工が施され、擦痕等は肉眼的にはほとんど認められない。

この新形式の銅剣形石剣を、その他の型式の銅剣形石剣と比べてみたい。これまで認められている型式を踏襲(種定1990)して、翼部が平坦面をなすものをⅠ型、「U」字状の溝によって翼を表わしたⅡ型、断面が菱形になり中央にしか鑄が認められないものをⅢ型とする。第33図に東土川遺跡出土の銅剣形石剣、Ⅰ型銅剣形石剣、Ⅱ型銅剣形石剣の刳込部と元部の断面形を模式的に提示した。刳込部の断面を見ると、東土川遺跡出土の銅剣形石剣、Ⅰ型銅剣形石剣は翼部分が平らに加工されているが、Ⅱ型の断面では、U字状の溝によって脊部が作り出されており、技術的な違いが認められる。形状の共通する東土川遺跡出土の銅剣形石剣、Ⅰ型銅剣形石剣の元部を断面形で対比すると、東土川遺跡出土の銅剣形石剣例には、鑄がなく丸い脊であるのに対して、Ⅰ型銅剣形石剣は元部全域にわたって鑄が認められる。Ⅰ型銅剣形石剣、Ⅱ型銅剣形石剣は、粗加工された石材を研磨によって、断面が菱形になるよう全体の形状を整える行程を経て作られている。Ⅰ型およびⅡ型の石剣は、翼部分の形状を作り出す前にす

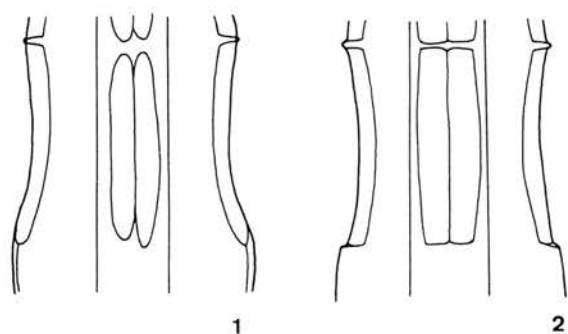


第32図 東土川遺跡出土銅剣形石剣(108)

	刳込部断面	元部断面
東土川遺跡例		
Ⅰ型		
Ⅱ型		

第33図 銅剣形石剣断面模式図

脊部が作り出されており、技術的な違いが認められる。形状の共通する東土川遺跡出土の銅剣形石剣、Ⅰ型銅剣形石剣の元部を断面形で対比すると、東土川遺跡出土の銅剣形石剣例には、鑄がなく丸い脊であるのに対して、Ⅰ型銅剣形石剣は元部全域にわたって鑄が認められる。Ⅰ型銅剣形石剣、Ⅱ型銅剣形石剣は、粗加工された石材を研磨によって、断面が菱形になるよう全体の形状を整える行程を経て作られている。Ⅰ型およびⅡ型の石剣は、翼部分の形状を作り出す前にす



第34図 刃込部鑄模式図(吉田1993改変)

でに製作工程上の問題から鑄が形成されている。その結果、元部にも鑄が認められる。

東土川遺跡例の鑄を観察してみたい。石剣の元部は、脊が円く仕上げられ鑄は認められない。種定は論文中において、いったん元部に製作工程上鑄が形成されるが、後に鑄を円く加工することによって取り除き、銅剣と同じ形状を呈する未知の型式(0式)の存在を想定している。復

原案(種定1992)によると、刃部の形成以後に脊に生じた鑄を、研磨によって円く仕上げる行程となる。石器制作工程を優先して形状を銅剣に近づけている。このように断面形を円く仕上げることは、神足遺跡のI型銅剣形石剣(第35図15)の茎の例にも見られる。この例では、関部で茎と脊の間に段差が見られる。剣の形態を作り出すために断面が菱形になるような加工をしたため、鑄の部分に断面の最大厚が来ることとなる。その結果、鑄と刃部端を結んだ直線以上の造形をすることはできない。この直線に接するように円弧を描くため、段差が生じる。種定の復原案にしたがうと、必ず元部の厚みが刃込部と比べ薄くなり、元部と刃込部の間に段差が生じることとなる。東土川遺跡の例では、全く段差が認められない。このことは、刃込部の研磨によってできる鑄と刃部端を結んだ菱形よりも、元部の脊の方が大きいことがわかる。脊部分を円く仕上げ、後に刃部を形成する時に鑄も同時に形成されたものと考えられる。このような刃部の形成の方法は、I・II式の銅剣形石剣の製作工程とは根本的に異なる。銅剣鑄型と製品から復原される銅剣の研ぎ方と同じである。

また銅剣の場合、刃込部の鑄を形成する研ぎ出し面の形状が、第34図にみられるように1の丸く収まるタイプと2の直線的に終わるものがある。吉田 広(1993)は、研ぎ出し面の端部の形状と、刃込面下端の刃部の研ぎ出し面形状に相関性があることを明らかにし、1と2が型的に分かれると述べている。丸く収まるタイプの研ぎ出し面を持つ銅剣は、刃部の研ぎ出し面が元部から段差を持たずにはじまる。直線的に終わるものは、元部と研ぎ出し面とに段差が認められる。

東土川遺跡出土例の場合、刃込部の鑄研ぎ出し面端部の形状は、丸く収まるタイプであるから、銅剣の例を引くならば、刃部の研ぎ出し面が元部から段差を持たずにはじまると想定できる。I・II式の銅剣形石剣の場合、刃込刃部の鑄研ぎ出し面端部の形状は元部と段差が認められるもので、刃込部分と元部の境に当たる脊上に、直線上の区切りが認められる。銅剣の例から考えると、脊部の直線状の沈線は、第34図の2にあたり、刃込部の鑄を形成する研ぎ出し面の形状が、直線的に終わるのを表現したものと考えられる。このことから、東土川遺跡出土例とI・II式の銅剣形石剣とは、祖型となる銅剣が異なっていたことがわかる。

東土川遺跡出土例の鑄は、刃部の形成とともにできるものであるから、研ぎ出し面の傾斜を延長することによって、本来の銅剣形石剣の幅を復原することができる。東土川遺跡出土例を復原すると、刃込の幅が約5cm、元部が約6cmとなる。刃部の研ぎ方によっては、刃部端付近で若干

のアールを描くこともあるので、やや幅が小さくなる可能性があるが、法量的には、中細型銅剣と同じぐらいであると復原できる。

#### b. 京都府出土の銅剣形石剣

京都府でⅠ・Ⅱ式の銅剣形石剣が出土した遺跡には、宮津市日置塚谷遺跡(梅原1923 a)、福知山市観音寺遺跡(梅原1922)、舞鶴市志高遺跡(肥後他1989)、久美浜町芦原遺跡(梅原1923 a)、夜久野町日置遺跡(平良1974)、八木町池上遺跡(中川2000)、亀岡市松熊遺跡(石井2000)、長岡京市神足遺跡(岩崎1991)、同裕遺跡(中島2000)、木津町大畠遺跡(松本・常盤井1984)、八幡市金右衛門垣内遺跡(杉原1979)、笠置町笠置山遺跡(荊木1990)があるが、銅剣形石剣の帰属時期が不明な遺跡も多い。

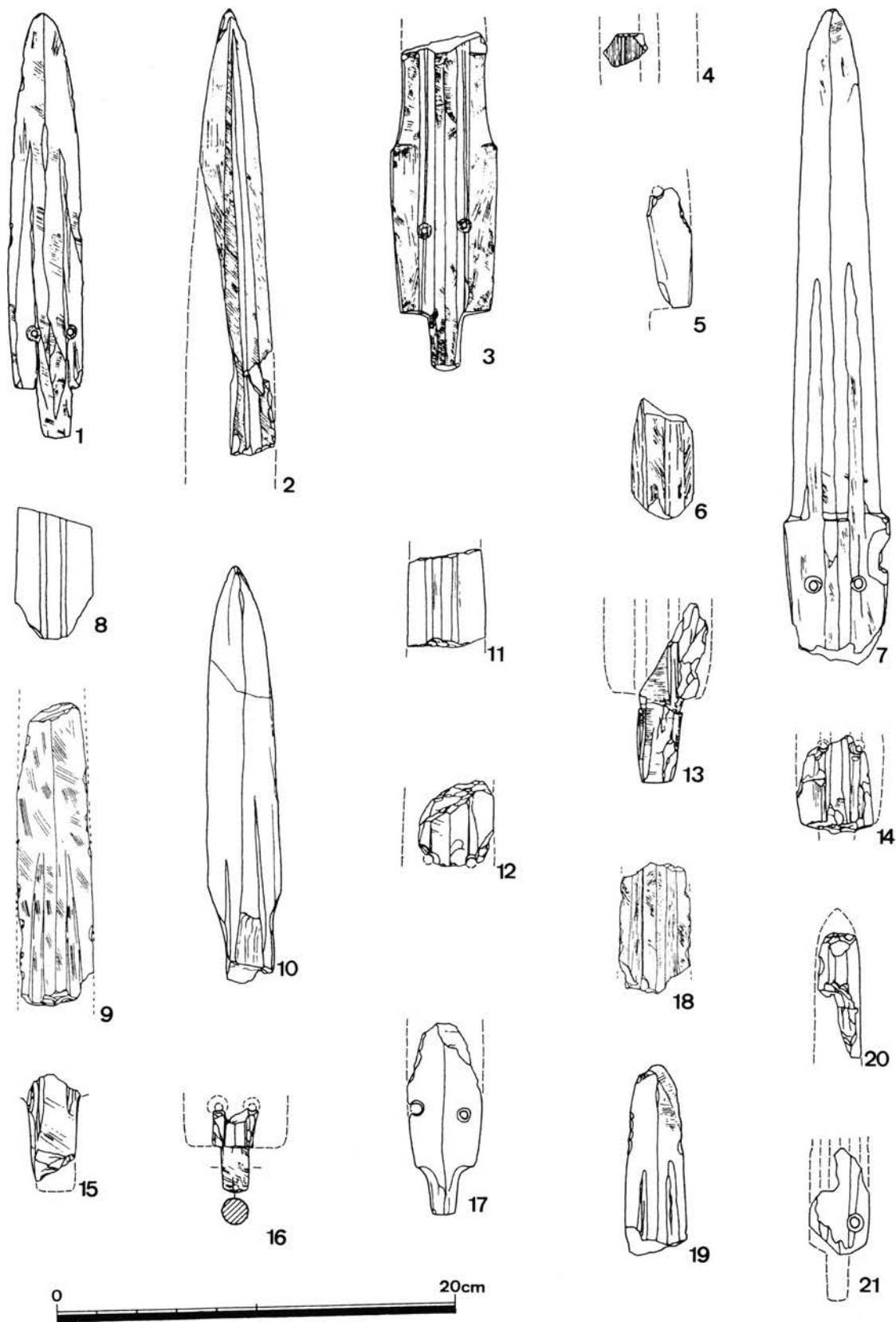
前述したように、東土川遺跡出土例は、中世の溝群から出土している。その直下には、沼状遺構が広がる。遺構出土の土器は、畿内Ⅳ様式が上限となる土器群である。遺跡全体では、畿内Ⅳ様式の遺構が多い。図示した以外に、Ⅱ式の銅剣形石剣片、型式不明の銅剣形石剣の峯部、茎に数か所の穿孔の認められる鉄剣形石剣が東土川遺跡で出土している。

神足遺跡からはⅠ・Ⅱ・Ⅲ式の銅剣形石剣が出土している。破損品の他に、打撃によって成形加工された銅剣形石剣の未製品も同時に出土している。長岡京市神足遺跡のⅠ型石剣は、方形周溝墓の周溝部から出土しているが、土器の中には畿内Ⅳ様式のものも含まれており時期は特定できないと聞く。種定が言うような、神足遺跡のⅠ型石剣がⅡ様式にさかのぼるとい根拠は、希薄である。種定が銅剣形石剣Ⅰ型と分類した瓜生堂(大阪府文化財センター1980)、亀井(大阪府文化財センター1983)、山賀(大阪府文化財センター1984)、星ヶ丘西(枚方市文化財調査会1980)、四ツ池(第二阪和国道内遺跡調査会1970)、池上(同前)、加茂(関西大学1968)、川島(児島・藤田1973)、鰐石(前島1973)、山添(岡本1983)と新出資料である森小路の例の内、多くは畿内Ⅲ～Ⅳ様式を中心とする中期の遺物と共存するか、帰属時期不明の遺物である。唯一、島根県浜田市の鰐石遺跡例のみが、弥生時代畿内Ⅰ様式末に併行する時期のものである。近畿地方に関する限り、確実に弥生時代畿内第Ⅱ様式以前にさかのぼる銅剣形石器は発見されていない。

舞鶴市志高遺跡では、弥生時代畿内Ⅳ様式併行期の直径約8 m 竪穴式住居跡の床面で検出できた直径約30cmの小土坑から、銅剣形石剣Ⅱ型が半截された状況で検出された。土坑の検出面上面からは、台石が水平に置かれた状態で検出されており、土坑と竪穴式住居跡址が同時期であることがわかる。

銅剣形石剣自体を観察すると、刃込部を作る時に脊部に砥石のあたった部分が観察できる。擦痕の切り合い関係から、鎬よりも刃込部が後に作られている。

これらから、銅剣形石剣の伝世の可能性は禁じ得ないが、少なくとも廃棄時期は畿内Ⅳ様式併行期になり、Ⅰ、Ⅱ式とも共存あるいは比較的近い時期に存在していたことが想定できる。ⅠからⅡという型式的変遷が可能であるならば、比較的短期間に変化したとも予測できる。しかし、東土川出土石剣は弥生時代中期後葉以降の遺物しか出土しない地域から出土しており、型式差が時期差を示さないことを傍証している。



第35図 京都府内出土銅剣形石剣

- |             |           |           |             |         |
|-------------|-----------|-----------|-------------|---------|
| 1. 観音寺遺跡    | 2~6. 志高遺跡 | 7. 日置塚谷遺跡 | 8. 芦原遺跡     | 9. 松熊遺跡 |
| 10~17. 神足遺跡 | 18. 東土川遺跡 | 19. 笠置山遺跡 | 20・21. 大島遺跡 |         |

### c. 小結

東土川遺跡例の場合、翼を形成し脊を円く仕上げた後に、刃部および鑄が形成される。このような工程は、Ⅰ式やⅡ式の銅剣形石剣のように全体の形を整える研磨工程とともに刃部と鑄を作り出していくのに比べ、より困難で製作に時間がかかる。それにもかかわらずこのような研ぎ方をするのは、銅剣の鑄型から鑄抜かれた状態を知り、かつ、銅剣を研いだことのあるかあるいは研ぎ方を知っている人の手によって銅剣と同じように作られたものである。中細形銅剣が制作されている時期と同じ時期に東土川遺跡例の石剣が生産されたと考えられる。中細型といってもその年代幅は広く特定できない。兵庫県田能遺跡(尼崎市教育委員会1982)では、中細形銅剣の鑄型が畿内Ⅱ～Ⅲ様式の土器とともに出土しており、近畿地方での国産青銅器の生産が認められる。これらのことから、乙訓地域で中細形銅剣の生産されていた可能性が指摘できる。また、東土川遺跡西方約数100mの鶏冠井遺跡からは、菱環鈕式あるいは外縁付鈕Ⅰ式の銅鐸鑄型(長谷川他1983・國下1994)がⅡ様式以前の土器と共伴して出土している。弥生時代中期初頭には乙訓地域で青銅器生産が行われていたことになる。

また、銅剣形石剣の変異を考えると、東土川遺跡例とⅠ式との技術的な違いが大きいだけでなく、刃部鑄の研ぎ出し面端部の形状が異なり、模倣した銅剣の違いがあることを明らかにできた。両者の関係については明らかではないが類例の増加を待ちたい。

報告書以前の概報や各種論考において述べていた年代観と若干の齟齬が生じている。これは山城地域において大和型甕が弥生時代中期の新しい時期まで存続するという認識に立って変化したものである。中期後半の遺構の一部に中期前葉の遺物が混ざるとしたものは、大和型甕の破片によって年代決定したものであり、訂正したい。

## 第2節 乙訓地域の須恵器出土遺構集成…古墳時代中期を中心に…

### (1)はじめに

事実報告においても述べているように、長岡京期の遺構面下層において、弥生時代から古墳時代の各遺構が検出されている。調査地は、東土川遺跡の範囲内に含まれており、当該遺跡の広がり具体的な様相を理解する上で重要な基礎資料であるといえる。特に、弥生時代の方形周溝墓群には、溝内に埋葬施設を有し、また、石鏃および石剣が棺内から出土するなど、多くの検討課題を提示している。

これに対して古墳時代の遺構は、集落に係する溝や流路などが検出できたものの、遺構が密集する状況は見られず、当該調査地が、東土川遺跡の縁辺部にあたる可能性が指摘できる。一方、古墳時代の遺物には、わずかではあるが前期の土師器や中期から後期の土器および石製模造品などがあり、当該遺跡における古墳時代の時期幅を検討する上で、一定の根拠を得たといえる。特に、388の爐形器台や409の方形刺突文を脚部に有する高杯、485の格子叩き目をもつ体部片などは、陶質土器ないし初期須恵器の様相が見られる。これらの土器群は、乙訓地域において希有な事例であり、これらの土器の出土が、どのような意義を有するかが、大きな検討課題である。数

点の朝鮮半島系の土器の出土で渡来人の存在を首肯することはできないが、少なくとも、当該時期において、これらの土器を入手する環境下にあったことは事実であり、集落構造など不明ではあるが、その出土は重要な要素である。

本稿では、以上の観点から乙訓地域において古墳時代中期から後期の須恵器が出土している遺構を集成することを目的としている。なお、本稿は、各遺跡における須恵器の搬入開始時期を概ね把握する目的を有してはいるが、遺構・遺物からの総合的な東土川遺跡の検討には及ばない。それらについては、今後の検討課題としておきたい。

## (2)乙訓地域における古墳時代集落と初期須恵器の研究抄史

乙訓地域は、長岡京跡の調査を基に、宮域、左京域、右京域において、1500回を越える発掘調査が実施されており、副次的に下層の遺構調査に及ぶ事例が多い。また、定期的に調査成果が公表される機会があり、加えて、概報や報告書として結実する調査が多いため、比較的、古墳時代集落の全体的な様相は把握し易い状況下にある。ここでは、各概報の小結などを除き、乙訓地域の古墳時代集落について検討を加えた研究と初期須恵器についての研究を中心に概観しておきたい。なお、各報告書の小結にも優れた集落論があるが、第4表の文献を参照願いたい。

乙訓地域出土の韓式系土器およびカマド形煮炊具を中心に具体的な出土事例を把握し、その特異性について検討を加えた古閑正浩氏は、まず、乙訓における縄蓆文土器に代表される朝鮮半島系の土器の集成を行った。また、土馬や陶製算盤玉形紡錘車などの出土事例をあわせて集成した。従前発掘調査報告書の中でのわずかな集成は存在したが、この観点での集落検討は、初出である(古閑1996)。この研究では、韓式土器に代表される朝鮮半島系土器が、井ノ内遺跡や今里遺跡が所在する地域と下植野南遺跡や算用田遺跡が所在する地域に集中する傾向があることを指摘した。加えて、これらの集落は、新興勢力によって営まれた結果、朝鮮半島系土器の出土が、顕著に見られることを述べた。古墳時代の集落の消長変化の中で総合的に遺物を捉えた当該研究は、乙訓地域における古墳時代の集落研究の礎となっている。

一方、乙訓地域の古墳時代前期から飛鳥時代の集落の推移を時期毎に集成した中島皆夫氏は<sup>(注9)</sup>、詳細な分布図を作成し、各集落の消長を確認する作業を継続している。また、弥生時代から古墳時代の集落の消長を捉えた本弥八郎氏の研究(本1983)などがある。以上は、集落を中心とした研究であるが、乙訓地域における古墳時代前期の土器編年を行った中塚良氏は<sup>(注10)</sup>、集落の消長を理解する上で良好な研究成果を提示している。

次に、本稿の目的でもある朝鮮半島系の土器および初期須恵器に焦点を当てた先行研究について概観しておきたい。先述した古閑研究は、乙訓地域における韓式土器を集成し、集落の消長を考察した。朝鮮半島系遺物の出土状況を総合的に把握した研究として重要である。また、初期須恵器に焦点をあてた平良泰久は、南条3号墳、殿長遺跡、森本遺跡、山畑古墳群、井ノ内遺跡、今里遺跡における出土事例を集成し、陶邑・非陶邑系の2系統が存在することを想定した。乙訓地域出土の朝鮮半島系土器の出土量は、量的には少ないため、数量的検討は行なわれなかったが、2系統の土器群が出土する背景と各地域首長の政治的関係を推論した見解は、その後の当該地域

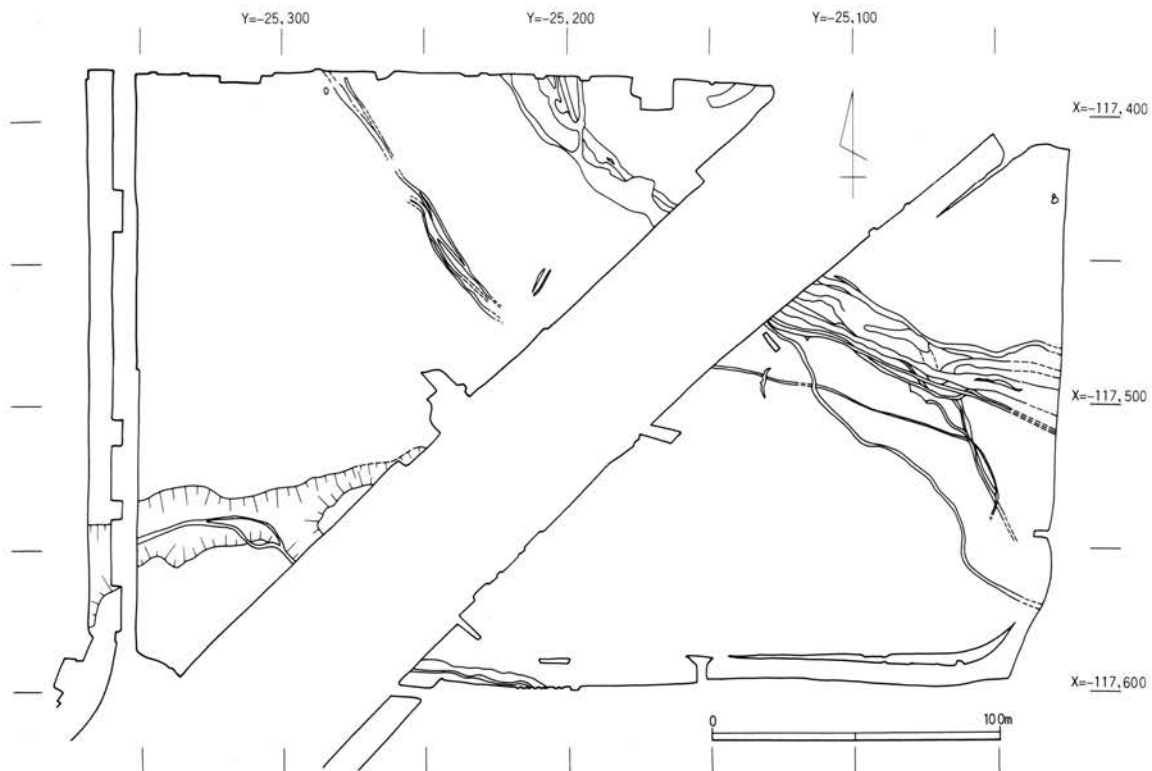
における指針となっている(平良1986)。

以上が、乙訓地域における古墳時代集落および朝鮮半島系土器や初期須恵器に関する研究抄史である。これらの研究は、総合的に乙訓地域を捉えられているが、他に、向日市史や長岡京史などがある。他地域に比べ、多方面において研究が進展している点が指摘できるが、報告書や概報の刊行が、その礎となっている。

### (3)乙訓地域における須恵器出土の遺構集成

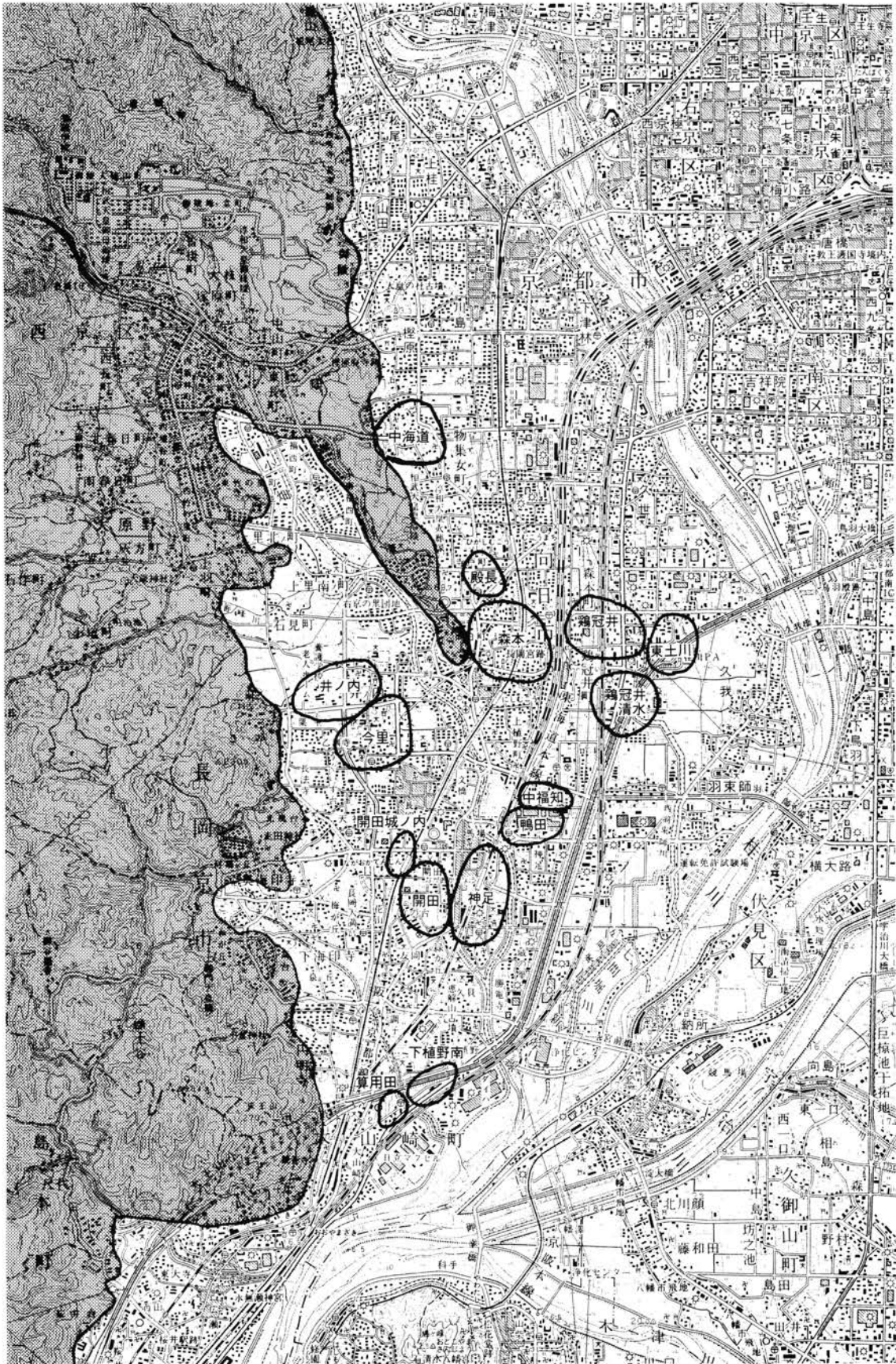
京都市・向日市・長岡京市・大山崎町に及ぶ乙訓地域は、概ね、桂川西岸から丘陵部に市街地をもつ。基本的には、平坦な地形を呈しているが、ほぼ中央に向日丘陵が張り出しており、丘陵裾部を分断している。

乙訓地域における古墳時代の集落は、すでに指摘されているように、桂川西岸部の広い範囲に分布している。特に、規模の大きい集落としては、向日市寺戸町に所在する殿長遺跡、同物集女町に所在する中海道遺跡、同鶏冠井町の鶏冠井遺跡、鶏冠井清水遺跡、同寺戸町・同鶏冠井町・同森本町の広範囲に及ぶ森本遺跡、同上植野町の鴨田遺跡、西小路遺跡などが知られており、また、長岡京市今里町に所在する今里遺跡、同神足町の神足遺跡、同井ノ内町、栗生町の井ノ内遺跡、同長岡の開田城ノ内遺跡などが知られている。一方、京都市伏見区に所在する水垂遺跡や大山崎町円明寺の下植野南遺跡などは、近年の広域な発掘調査により、集落構造が明らかになりつつある。これらの集落には、弥生時代から古墳時代前期に及ぶ集落も多く、桂川によって形成された肥沃な可耕地を背景に、安定した農業生産が堅持できたことを示唆している。このことは、



第36図 東土川遺跡古墳時代遺構配置図





第37図 乙訓地域主要古墳時代集落分布図(古墳時代中期～後期：網部は山塊)

向日丘陵先端部に所在する元稻荷古墳に見られるように、前期の前方後方墳が存在することからも傍証される。

一方、古墳時代中期に比定できる集落は、古墳時代前期以前から継続して営まれた集落<sup>(注10)</sup>と、中期前半に形成される集落とが見られる。多くは、前者であるが、向日市殿長遺跡や長岡京市井ノ内遺跡や今里遺跡などは、後者に含まれる。ここでは、まず、陶質土器や韓式系土師器及び初期須恵器の出土状況を概観することにした。なお、委細については、第4表の一覧表に委ねることとする。

向日市殿長遺跡では、長岡京宮204次調査において包含層中から陶邑編年TK73型式に比定できる土器群と縄文土器が出土している。また、TK208型式からMT15型式に比定できる包含層からも縄文土器が出土している。当該遺跡では、初期須恵器段階の遺物を含む遺構が、比較的多く検出されているとともに、MT15型式前後段階には、遺構数が激減する傾向が見られる。集落の消長を考える際の重要な傾向である。同じく向日市物集女に所在する中海道遺跡は、庄内期に比定できる豪族居館の検出が知られており、前期から連綿と集落が営まれてきたことが把握できている。中海道遺跡3次や37次において韓式土器が出土するとともに、17次や37次調査においてTK73型式に比定できる土器群が出土している。また、部分的にTK43型式に比定できる土器群を含む遺構も存在するが、多くは、MT15型式前後段階には、遺構数が激減する傾向が見られる。これは、先述した向日市殿長遺跡に共通する傾向であろう。

向日市鶏冠井に所在する鶏冠井遺跡および鶏冠井清水遺跡では、現時点では、初期須恵器を含む遺構は検出されていない。鶏冠井遺跡自体は、銅鐸の鋳型が出土するなど、弥生時代集落としては、傑出する遺跡であることが知られているが、古墳時代前半期においては、一定期間の断絶が見られる。TK208型式からTK47型式の土器が、遺構ないし包含層から出土し、その後、鶏冠井清水遺跡に収束される状況を読みとることができる。なお、左京216次調査において縄文土器の出土が確認されている。向日市森本遺跡は、弥生時代末期から古墳時代前期にかけての良好な一括資料が多く出土している。初期須恵器段階の資料も多く、向日丘陵上において安定した集落が長期にわたり、営まれたことが把握されている。朝鮮半島系の土器の出土は知られていない。遺跡自体は、6世紀から7世紀にわたって継続して営まれており、集落立地の条件が良好であることを示唆している。なお、向日市森本に所在する戊亥遺跡左京249次調査では、紀淡海峡付近から搬入された製塩土器が出土しており、搬入時期や共伴遺物の検討がまたれる。

向日市上植野に所在する鴨田遺跡は、森本遺跡同様、古墳時代前期から営まれた集落である。古式土師器の良好な一括資料が多数検出されている。しかし、初期須恵器の出土はほとんど知られておらず、TK23型式以降に須恵器が増加する傾向が見られる。左京30次調査では、韓式土器が出土しているが、朝鮮半島系の土器の出土は、検出遺構の数量と比較してもわずかであることが指摘できる。同じく上植野に所在する西小路遺跡においても、古墳時代中期の遺構は、TK23型式以降に増加する傾向が見られる。なお、墳墓出土事例として、向日市森本に所在する山開古墳からは、TK73型式の杯や甕などが知られており、出土する土器の型式を詳細に把握し、集落

と墳墓の時期的な関連の研究がまたれる。

長岡京市今里に所在する今里遺跡では、古墳時代前期の良好な一括土器も出土しており、また、集落の成立時期が、弥生時代まで遡ることが確認されている。初期須恵器段階の遺構は、検出されておらず、一定期間の断絶期として捉えることも可能である。しかし、右京26次、346次、352次、399次調査では、縄蓆文土器や韓式土器などが出土しており、加えて、府内では、唯一の事例である陶製算盤玉形紡錘車の出土は、注目される。これらの遺物からTK208型式前後に集落が再形成される際、渡来人の参入を想定することができる。なお、今後、滑石製模造品、製塩土器などの出土の増加が予想される。

長岡京市馬場遺跡、左京108次調査において確認されたSD10809から韓式土器が出土している。当該資料は、共伴資料からTK23型式からTK47型式に比定できる。長岡京市井ノ内遺跡では、右京27次調査においてTK216型式およびTK208型式の杯が包含層から出土したことが報じられている。提示された土器実測図を見る限り、指摘されている型式まで遡るか否か、やや疑義が残るところである。井ノ内遺跡では、概ねTK23型式からTK47型式に比定できる遺構が多いことから、当該型式前後に集落の成立を想定することも考慮しなければならない。また、概ねTK10型式前後以降に検出遺構数の減少も見られるなど、限定された時期に集落が営まれた可能性が指摘できる。

長岡京市久貝に所在する南栗ヶ塚遺跡右京94次調査では、TK73型式に比定できる蓋が出土しており、また、開田城ノ内遺跡では、TK23型式に比定できる縄蓆文土器が出土している。これらの集落は、規模などにおいて不明な点も多いが開田城ノ内遺跡は、TK23型式に集落が形成される傾向が指摘される。

大山崎町円明寺に所在する算用田遺跡では、縄蓆文土器や体部に竹刺突管文を有する鳥形土器が出土している。古墳時代前期には集落が形成されるが、初期須恵器段階に至るまでの断絶期間を想定できる。算用田遺跡では、陶邑古窯址群産の須恵器が、比較的多く出土しており、TK216型式に比定できる遺構・遺物が確認されている。大山崎町下植野南遺跡では、縄蓆文土器や格子目引き痕をもつ甕、韓式土器などが出土している。古墳時代前期の集落関連遺構が確認されてはいるが、TK73型式に至るまでの間、断絶期間を想定することができる。集落は、竪穴式住居跡を主体として構成されており、当該時期の掘立柱建物跡は、小規模な建物を数棟検出しているに過ぎない。縄蓆文土器などの出土が確認されているものの、竪穴式住居跡が主体をなす集落である点に当該遺跡の特徴を見い出せよう。

以上が、乙訓における古墳時代中期を代表する集落の概観である。各集落とも正確に成立時期を把握できないが、先述したように古墳時代前期から継続して営まれた集落と前期から中期前半に断絶期間をもつ集落、そして、初期須恵器段階に成立する集落に大別することができる。

今まで、東土川遺跡では、古墳時代の遺構が確認されてはいるが、良好な報告がなく、その実態が不明であった。今回の調査で検出できた遺構は、集落の縁辺部に位置する流路や溝が中心である。そのため、集落構造を究明するには至らなかったが、朝鮮半島系の土器や初期須恵器の出

第4表 乙訓地域の古墳時代須恵器出土状況

番号	遺跡名称	所在地	遺構番号	TK 73	TK 216	TK 208	TK 23	TK 47	MT 15	TK 10	TK 43	TK 209	備考	文献
1	殿長1971	向.寺戸	包含層		—								椀	京考36
2	殿長P160	向.寺戸	SX16003			—	—						杯.高坏	向日18
3	殿長P176	向.寺戸	SH17606					—					杯.高坏	向日21
4	殿長P204	向.寺戸	包含層	—	—								縄蓆文土器他	向日25
5	殿長P204	向.寺戸	包含層			—	—	—	—				杯.高坏.壺.縄蓆文土器	向日25
6	殿長P204	向.寺戸	第6層					—					高坏.甕	向日25
7	殿長P264	向.寺戸	SD26401			—							甌	向日36
8	殿長P264	向.寺戸	包含層							—			杯.椀	向日36
9	殿長P348	向.寺戸	SH34807			—							杯.高坏.壺.甕	向日46
10	殿長P348	向.寺戸	SD34808	—	—	—							杯.高坏.壺.甕	向日46
11	殿長P354	向.寺戸	SD35406						—				杯.有孔円板	向日49
12	中海道3次	向.物集女	SH0313	以前									高坏.韓式土器	向日13
13	中海道17次	向.物集女	SH09	—									把手鍋	セ情46
14	中海道32次	向.物集女	SD32103								—		杯.壺.甕	向日45
15	中海道37次	向.物集女	包含層	—									韓式土器	向日45
16	中海道42次	向.物集女	SH01					—					杯.高坏.椀	セ情77
17	中海道47次	向.物集女	包含層					—					杯	向日46
18	中海道48次	向.物集女	第2層				—						杯	向日49
19	鶏冠井L216	向.鶏冠井	SR21643			—							杯.高坏.椀	セ概40
20	鶏冠井L216	向.鶏冠井	SR21642				—						杯.甕	セ概40
21	鶏冠井L216	長.神足	SR216049										縄蓆文土器	セ概40
22	鶏冠井P298	向.鶏冠井	SX29801			—	—						杯	向日47
23	鶏冠井P298	向.鶏冠井	1層							—			杯	向日47
24	鶏冠井清水	向.鶏冠井	SX22170								—		杯	向日41
25	鶏冠井清水	向.鶏冠井	SD21480				—	—					杯.高坏	向日34
26	鶏冠井清水	向.鶏冠井	包含層								—	—	杯.甌	向日34
27	鶏冠井清水	向.鶏冠井	包含層								—	—	杯.高坏	向日34
28	鶏冠井	向.鶏冠井	包含層				—	—	—	—	—	—	杯.高坏.甕	向日32
29	森本P33	向.森本	包含層	—									高坏.甕	平良1986
30	森本P135	向.寺戸	SK13504						—				甌	向日11
31	森本P210	向.鶏冠井	包含層		—	—	—	—	—	—	—		杯.高坏.甕	向日25
32	森本P233	向.寺戸	包含層		—	—	—	—	—	—			杯.高坏.石製模造品	向日32
33	森本P249	向.寺戸	SK24905		—	—							椀.甕	向日31
34	森本P301	向.寺戸	包含層								—	—	杯.甌.甕	向日43
35	森本P351	向.森本	SR35102			—		—					杯	向日47
36	森本8128	向.森本	包含層					—					杯.高坏	向日19
37	岸ノFP270	向.寺戸	包含層				—	—	—	—			杯.高坏.椀	向日36
38	吉備寺	向.上植野	包含層				—	—	—				杯.甌.甕	向日3
39	吉備寺8138	向.上植野	包含層	—									高坏	向日19
40	吉備寺L263	向.上植野	SD26313				—						杯	向日34
41	石田L262	向.森本	包含層								—		杯	向日37
42	石田L342	向.森本	包含層						—				杯	向日47
43	戊亥L189	向.森本	SK18903				—						甕	向日27
44	戊亥L249	向.森本	SD24935				—	—	—	—			杯.高坏.器台.紀淡製塩土器	向日41
45	L120	向.上植野	包含層	—	—						—	—	杯.高坏.甌.壺.器台	向日18
46	中福知L224	向.上植野	包含層						—				杯	向日37
47	中福知L392	向.上植野	包含層								—	—	杯	向日44
48	鴨田L19	向.上植野	包含層					—	—				杯.甕	向日5
49	鴨田L30	向.上植野	包含層					—					格子叩き	向日14
50	鴨田L30	向.上植野	SD30003					—	—	—			杯.高坏.甌.韓式土器	向日14
51	鴨田L75	向.上植野	包含層					—	—	—			杯.高坏	向日8
52	鴨田L106	向.上植野	SH10651						—				杯	向日17
53	鴨田L106	向.上植野	SH10654							—			杯	向日17
54	鴨田L106	向.上植野	SH10653					—					高坏	向日17
55	鴨田L106	向.上植野	SD10665					—	—	—			杯.椀.甌	向日17
56	鴨田L106	向.上植野	SD10661					—					杯.甌.製塩土器	向日17
57	鴨田L106	向.上植野	SD10670						—	—			杯.高坏.甌.壺.甕	向日17
58	鴨田L148	向.上植野	SH14806						—	—			杯.高坏	向日22
59	鴨田L153	向.上植野	SD15301							—	—		杯.高坏	向日22
60	鴨田L161	向.上植野	SX16155					—	—	—			杯.製塩土器	向日47
61	鴨田L161	向.上植野	SH16164					—					杯.高坏.器台.甕	向日47
62	鴨田L240	向.上植野	SD24030			—	—	—	—	—			杯.高坏.甕	向日31
63	鴨田L240	向.上植野	SD24032					—					杯.高坏.器台	向日31
64	鴨田L240	向.上植野	SD24027							—			杯.甕	向日31
65	鴨田L273	向.上植野	旧河道								—		杯.高坏.器台.甕	向日33
66	鴨田L289	向.上植野	SD28901						—	—	—		杯	向日38
67	鴨田L289	向.上植野	SX28902						—	—	—		杯	向日38
68	鴨田L319	向.上植野	SD31961							—			杯	向日39
69	鴨田L319	向.上植野	SD31944						—				杯	向日39
70	鴨田L319	向.上植野	包含層					—					杯.甕	向日39
71	鴨田L348	向.上植野	SD34821				—	—					杯	向日43

番号	遺跡名称	所在地	遺構番号	TK 73	TK 216	TK 208	TK 23	TK 47	MT 15	TK 10	TK 43	TK 209	備考	文献
72	鴨田L348	向.上植野	包含層										杯.甕	向日43
73	西小路	向.上植野	古墳関連				—	—					杯	向日1
74	西小路L198	向.上植野	包含層						—				杯.壺	向日27
75	西小路L232	向.上植野	SD23235								—		杯.高坏	向日28
76	西小路L416	向.上植野	SD41683								—		杯	向日46
77	西小路立会	向.上植野	包含層				—	—	—				杯.高坏.甕	向日19
78	R572	向.寺戸	包含層									—	杯	向日46
79	渋川P217	向.寺戸	包含層				—	—	—	—			杯.高坏	向日25
80	渋川P277	向.森本	SX27799									—	杯	向日41
81	内裏下P155	向.鶏冠井	包含層				—	—	—	—	—		杯	向日18
82	内裏下P234	向.鶏冠井	包含層						—	—	—		杯.高坏	向日32
83	内裏下P238	向.鶏冠井	包含層						—	—	—		杯.甕.韓式土器	向日31
84	内裏下P299	向.鶏冠井	SD29905								—		杯	向日43
85	辰己P227	向.寺戸	包含層							—			杯	向日29
86	中野P260	向.寺戸	SH26021									—	杯	向日33
87	久々相	向.寺戸	包含層					—					杯	向日46
88	久々相	向.寺戸	包含層						—				杯.高坏	向日46
89	山畑古墳P73	向.鶏冠井	SX7313			—							杯.高坏.器台	向日4
90	山畑古墳P109	向.鶏冠井	古墳周溝						—				杯.高坏.甕.壺.甕	向日8
91	山畑古墳P222	向.鶏冠井	SX22276					—					杯.墓壇	向日29
92	山畑古墳P222	向.鶏冠井	SX22289					—					杯	向日29
93	山畑古墳P259	向.鶏冠井	SD25910					—					杯	向日33
94	山畑古墳P259	向.鶏冠井	SK25915					—					杯	向日33
95	山畑古墳P352	向.鶏冠井	包含層					—					杯.高坏.甕	向日46
96	山畑1号	向.鶏冠井	周溝			—	—						杯.高坏.壺	向日4
97	山畑4号	向.鶏冠井	包含層				—						杯.高坏.甕	向日25
98	山開古墳	向.森本	周溝	—									杯.甕	京考19
99	山開古墳	向.森本	包含層	—									高坏.甕	京考36
100	物集車塚	向.物集女	石室								—		杯.高坏.甕.壺.器台.甕	向日23
101	長野内古墳	向.物集女	SX202									—	杯.壺	向日46
102	長野内古墳	向.物集女	SX203									—	杯.高坏.壺	向日46
103	南条3号墳	向.物集女	盛土			—							器台	向市史上
104	雲宮L17	長.神足	SK1716						—				杯.高坏.器台.甕	長市報5
105	雲宮L54	長.神足	SD5401						—				杯.高坏.壺.甕	長市報14
106	今里R7	長.今里	SD0713								—		杯	府概1979
107	今里R7	長.今里	SK0721						—				杯.高坏	府概1979
108	今里R7	長.今里	SD0728				—	—					杯.甕	府概1979
109	今里R7	長.今里	SK0730								—	—	杯	府概1979
110	今里R7	長.今里	SB0727							—			杯	府概1979
111	今里R7	長.今里	SB0726						—				杯	府概1979
112	今里R7	長.今里	包含層						—			—	算盤玉形紡錘車	府概1979
113	今里R12	長.今里	包含層										土馬	平良1986
114	今里R26	長.今里西	SD1288						—	—			韓式土器	古閑1996
115	今里R185	長.野添	包含層						—				杯.高坏	長年報59
116	今里R352	長.今里	包含層			—							縄文土器	長年報2
117	今里R285	長.今里西	包含層			—	—	—	—				杯	七概45
118	今里R323	長.今里	SD32302						—				杯	長年報63
119	今里R346	長.栗生田内	土壇			—							縄文土器	長年報元
120	今里R375	長.今里	SH37510						—	—	—		杯.高坏	長年報3
121	今里R399	長.今里								—	—	—	縄文土器	長年報4
122	今里R399	長.今里	SH29								—		杯.高坏.甕	長年報4
123	今里R544	長.今里西	SD34										杯.高坏	長七報8
124	馬場R80	長.今里	SH8005						—				杯	長市報9
125	馬場R86	長.今里	SH8613						—				杯	長市報9
126	馬場R86	長.今里	SB8611			—							杯.土師甎	長市報9
127	馬場L108	長.馬場	SK10816										中期.韓式土器	長七報2
128	馬場L108	長.馬場	SD10809.10					—					杯.高坏	長七報2
129	下海印寺13	長.奥海印寺	SH03						—				杯	長年報2
130	下海印寺R134	長.奥海印寺	包含層						—				杯	長年報58
131	陶器町R265	長.長岡	包含層					—					杯	長市報20
132	神足立会	長.東神足						—					杯	長年報元
133	神足R436	長.神足	SK03.04					—					杯	長年報5
134	神足R524	長.東神足	SD52438						—				杯.甕	長七報13
135	神足R524	長.東神足	SX52433						—				杯	長七報13
136	神足16次	長.神足	竪穴									—	杯	長七報4
137	上里R25	長.井ノ内	SD2501.02					—	—	—	—		杯.高坏.甕.壺.器台.提瓶.甕	長七報11
138	古市森本L102	長.神足	包含層						—				杯.高坏	長七報2
139	西山田	長.下海印寺	包含層						—				杯.甕.器台.甕	長年報8
140	井ノ内R27	長.今里	SD8315		—	—							杯	平良1986
141	井ノ内R83	長.今里	SD8315						—	—			杯.把手鍋	七概9
142	井ノ内R214	長.井ノ内	SK21401						—				杯	長年報60
143	井ノ内R214	長.井ノ内	SK21403						—				不明	長年報60
144	井ノ内R240	長.井ノ内	SK24005						—				杯	七概23
145	井ノ内R251	長.栗生	包含層					—					杯.高坏.甕	七概30

番号	遺跡名称	所在地	遺構番号	TK 73	TK 216	TK 208	TK 23	TK 47	MT 15	TK 10	TK 43	TK 209	備考	文献
146	井ノ内R306	長.栗生	SD30631						—	—			杯	七概34
147	井ノ内R306	長.栗生	包含層					—	—				杯	七概34
148	井ノ内R399	長.今里	包含層						—	—			杯	長年報8
149	井ノ内R444	長.井ノ内	SX11							—			杯	長年報5
150	井ノ内R615	長.今里	SD01						—	—			杯	七概89
151	開田立会	長.開田	SX821032							—			杯.壺	長年報57
152	開田R96	長.開田	SD9603						—				杯	長七報1
153	開田R220	長.開田	包含層				—	—	—				杯	長年報60
154	開田R559	長.開田	SD03				—	—					杯.甕	長年報8
155	開田城内R90	長.天神	SD9050				—						杯.甕.縄文土器	長市報9
156	開田城内R469	長.長岡	SX59				—	—					杯	長年報6
157	開田城内R469	長.長岡	SD57				—	—					杯.高坏.甕	長年報6
158	開田城内R557	長.長岡	SK05							—			杯.高坏	長年報8
159	開田城内	長.天神	包含層						—				杯.高坏.甕	長市報36
160	開田城内立会	長.長法寺	包含層					—	—				杯	長年報58
161	谷田2	長.奥海印寺	SH12						—				杯.高坏	長年報8
162	東羅古墳R490	長.馬場	SX29				—	—					中期.甕	長年報6
163	東羅古墳R496	長.開田	SX38				—	—					杯	長七報7
164	今里車塚R352	長.今里西	周溝			—							杯.高坏.甕.縄文土器	長年報2
165	奥海印寺2	長.奥海印寺	包含層						—				杯	長年報62
166	塚本古墳	長.開田	周溝					—	—				杯.甕.壺.器台.甕	長年報59
167	南栗ヶ塚R94	長.久具	包含層	—									杯	長年報57
168	水垂	京.伏見区	SH72					—					杯	水垂報告
169	水垂	京.伏見区	SH74						—				杯	水垂報告
170	水垂	京.伏見区	SD102.122			—							杯.高坏	水垂報告
171	水垂	京.伏見区	SD102.122						—				杯.高坏	水垂報告
172	水垂	京.伏見区	SD124他				—						杯.高坏.甕	水垂報告
173	水垂	京.伏見区	SD127				—						杯.高坏	水垂報告
174	算用田IK16	大.円明寺	SK60		—	—							縄文土器	七概53
175	算用田R192	大.円明寺			—	—							鳥形.縄文土器	長七報9
176	下植野南	大.円明寺	SX36820					—					杯.高坏.壺.甕	七報25
177	下植野南	大.円明寺	SH24				—	—					高坏	町報
178	下植野南	大.円明寺	SD4.46						—	—	—		杯.壺	町報
179	下植野南	大.円明寺	河道			—							杯.壺	町報
180	下植野南	大.円明寺	住居址群						—				杯.高坏.甕	七概90
181	下植野南	大.円明寺	住居址群				—						杯.縄文土器	未報告
182	下植野南	大.円明寺	SK36713				—						杯	七報告25
183	下植野南	大.円明寺	SH395336					—					杯	七報告25
184	下植野南	大.円明寺	SR395333						—				杯.高坏.壺	七報告25
185	下植野南	大.円明寺	SX395335					—					杯.甕.壺.甕	七報告25
186	下植野南	大.円明寺	SH395401					—					杯.製塩土器	七報告25
187	下植野南	大.円明寺	SH39543					—					杯	七報告25
188	下植野南	大.円明寺	SH395433					—					杯	七報告25
189	下植野南	大.円明寺	SK395403						—				杯	七報告25
190	下植野南	大.円明寺	SK395404			—							杯.甕.壺.韓式土器	七報告25
191	下植野南	大.円明寺	SK395449						—				杯.甕	七報告25
192	下植野南	大.円明寺	SK395411						—				杯.高坏	七報告25
193	下植野南	大.円明寺	包含層	—	—								格子叩き	七情報52
194	下植野南	大.円明寺	SR35706			—	—						杯.革袋	七報告25
195	下植野南	大.円明寺	SB36831						—				杯.甕	七報告25
196	下植野南	大.円明寺	SX36820						—				杯	七報告25
197	下植野南	大.円明寺	SX36821						—				杯	七報告25
198	下植野南	大.円明寺	SH368118						—				杯.高坏	七報告25
199	下植野南	大.円明寺	SH368121						—				杯.甕	七報告25
200	下植野南	大.円明寺	SH368120					—					杯	七報告25
201	下植野南	大.円明寺	SK36171						—				杯.甕	七報告25
202	下植野南	大.円明寺	P68			—							杯	七報告25
203	下植野南	大.円明寺	SH368203			—							杯.高坏.甕	七報告25
204	下植野南	大.円明寺	SR395702										韓式土器	七報告25

凡例 文献における略称は以下の通りである。

「向日」向日市埋蔵文化財調査報告書、「京考」京都考古、「向市史上」向日市史上巻、「長市報」長岡京市文化財調査報告書、「府概」埋蔵文化財発掘調査概報、「長年報」長岡京市埋蔵文化財センター年報、「セ概」京都府遺跡調査概報、「長七報」長岡京市埋蔵文化財調査報告書、「セ報」京都府遺跡調査報告書、「セ情」京都府埋蔵文化財情報、「町報」大山崎町埋蔵文化財調査報告書、「水垂報告」水垂遺跡発掘調査報告書

なお、集落検出遺構を中心に集成したが一部に埋葬関連遺構も含んでいる。了承願いたい。

土は、乙訓地域の古墳時代の集落群を考える上で重要な事例である。

以上のように、本集成作業により乙訓地域において初期須恵器が出土する集落の員数は、限られることが明確になったが、その範疇に、今後、東土川遺跡が含まれるべきであることが、より明確になった。なお、乙訓地域において朝鮮半島系の遺物は、古墳時代前期から継続して営まれた集落からも出土するが、中期に形成あるいは再形成される集落から多く出土する傾向が認められる。これは、かつて古閑正浩が指摘した推論と一致している(古閑1996)。

#### (4)まとめにかえて

今回の集成作業の結果は、従前からの指摘(古閑1996)を追認することとなった。おそらく、古閑が指摘する際にも集成作業は行われたと想像されるが、200件以上のデータを掲載できる機会は、多くない。また、本報告書にそれらのデータを掲載することは、本報告書が東土川遺跡を今後、総合的に解釈する上で活用されることを念頭においた作業であり、乙訓地域における古墳時代集落の動態を検討する際の基礎資料となれば幸いである。今回の集成作業は、既刊の報告書ないしは概報からデータを抽出したに過ぎない。そのため、土器実測図が掲載されていない報告では、抽出できなかったデータも少なくない。また、報告そのものが存在しない調査事例については、認識すらできていない。他方、古墳時代の集落で確認される遺構は、膨大な数量に達することは想像に難くないが、良好な土器が出土する遺構に限定すれば、数量的にかなり限られる可能性が指摘できる。今回の集成は、僅か200余例ではあるが、乙訓地域の古墳時代中期の集落を検討する上で何らかの傾向が表出できていれば目的の多くは達成できたといえる。

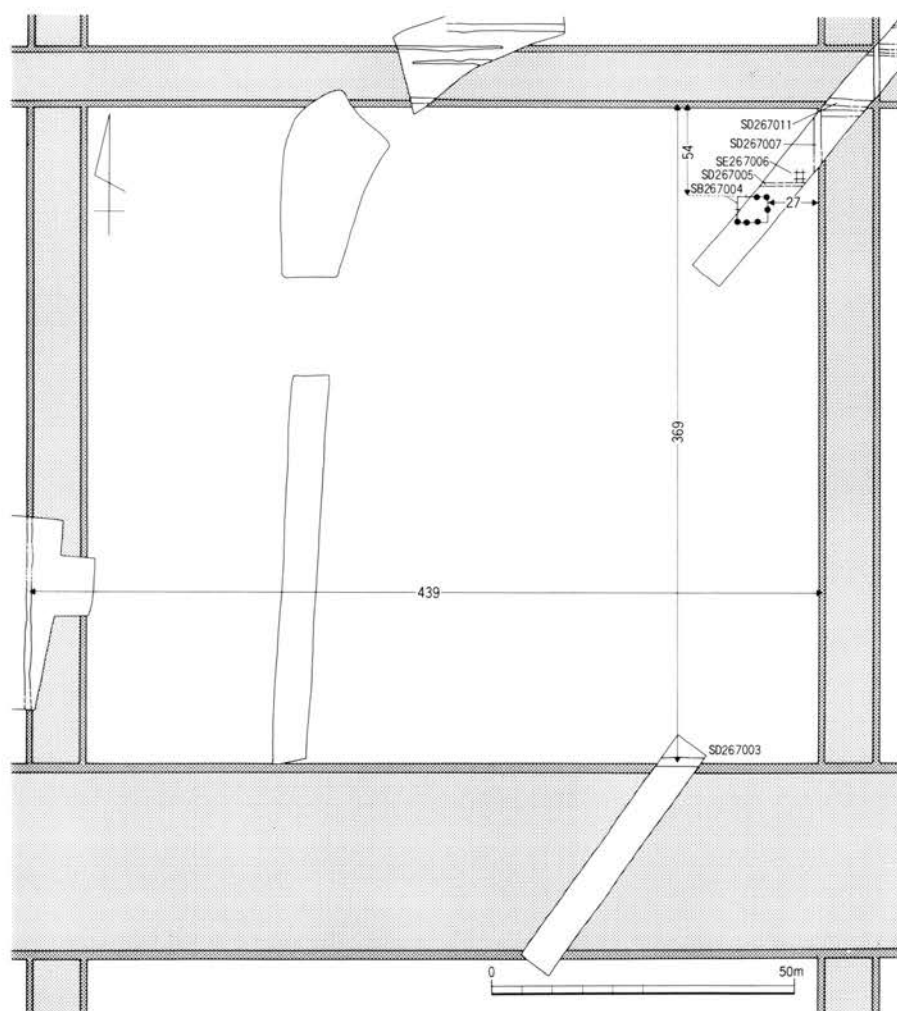
今回は、一覧表の提示に留まったが、府内各地域あるいは、畿内周辺域との比較検討の機会を設定し、活用をはかりたいとおもう。

### 第3節 長岡京東面街区における宅地

長岡京における発掘調査においても、1町を占有する大規模宅地の調査事例がみられるようになってきた。今回報告した宅地は、長岡宮城の東、二条条間大路の南側、東三坊に位置する二条三坊十二町・二条三坊十三町・二条三坊十四町、二条条間大路の北側、東三坊に位置する二条三坊十五町、また、二条条間大路の北側、東四坊に位置する二条四坊二町・二条四坊七町、二条条間大路の南側、東四坊に位置する二条四坊三町・二条四坊六町にあたる。5万m<sup>2</sup>を超える膨大な調査面積であるために、それぞれの宅地の規模や建物などの遺構の配置について、一部遺構の座標記載のみでは、それらの関係を今一步明示し得ないと考えることから、それぞれの宅地の規模と宅地内建物跡の配置関係を明らかにするために、条坊側溝心を基準とした実測距離を中心に述べていく。また、建物配置を規制する四行八門に代表される宅地内分割基準(野島1998b)が、宅地の位置する街区や宅地規模によって異なることを示したい。

#### (1)二条三坊十二町

二条三坊十二町は、南に二条大路、東に東三坊坊間東小路が位置する。十二町の四辺を限る条坊路側溝が全て検出されているため、おおよその宅地の大きさがわかる。すなわち、十二町の南



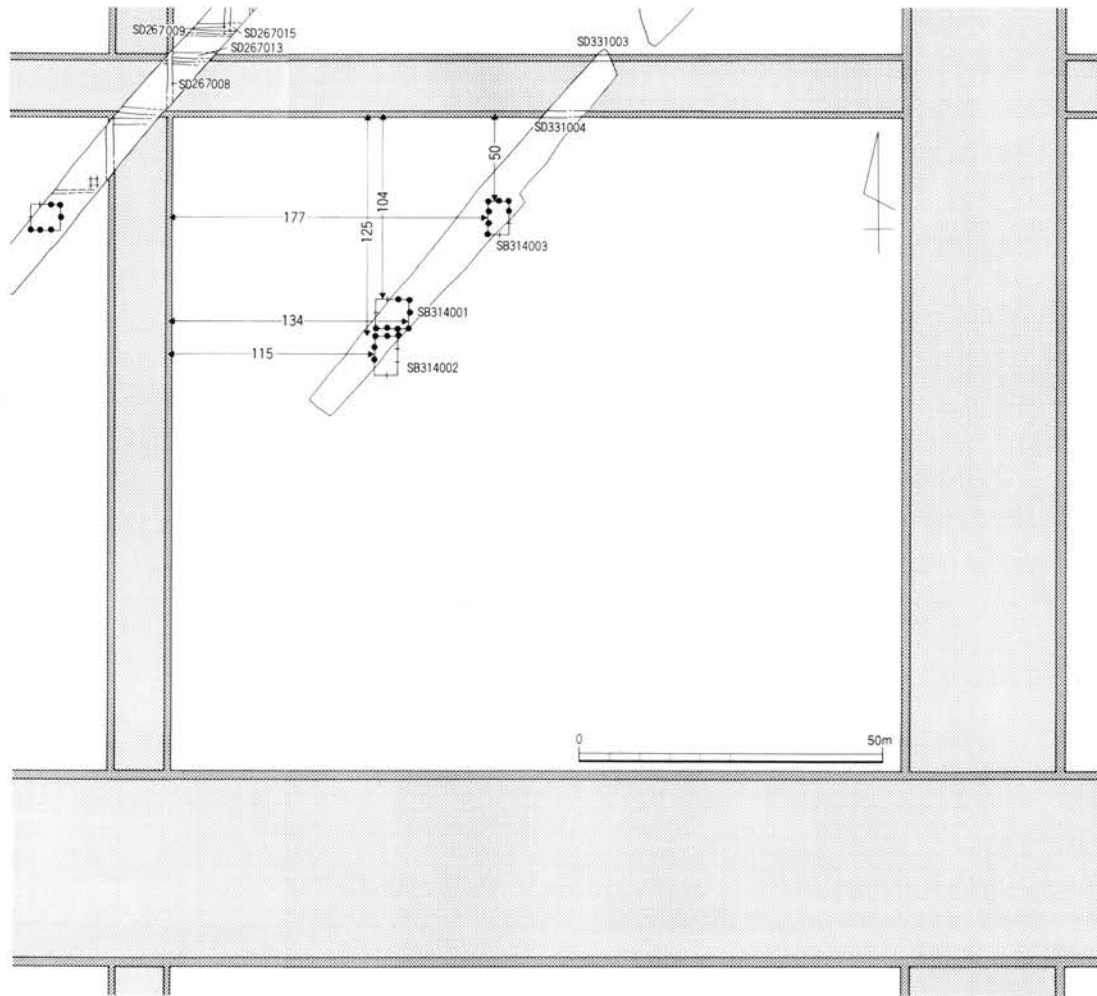
第38図 左京二条三坊十二町

北を限る二条条間南小路南側溝と二条大路北側溝の心々間はおよそ109.1mで369尺となる。東三坊坊間小路は西側溝のみ検出されており、東三坊坊間小路幅を両側溝心々間30尺と仮定すれば、十二町の東西は東三坊坊間小路東側溝と東三坊坊間東小路西側溝の心々間121.2mで409尺となる。東西の外郭築垣心が条坊側溝心から推定4.5～5尺程度であれば、宅地幅はちょうど400尺となる。しかし一方で、南北の宅地幅は360尺、あるいはそれ以下と、南北に較べて極端に短くなることがわかる。

(2)二条三坊十三町

二条三坊十三町は、南に二条大路、東に東三坊大路が位置する。十三町の北辺の二条条間南小路両側溝のみ検出されているが、北側の十四町の東三坊大路西側溝の座標値を参考とすれば、十三町の東西の側溝々間は約121.0mで、およそ409尺となる。また、南北は、十二町の二条大路北側溝の位置を参考とすれば、およそ108.3mで366尺前後とさらに短くなる。東西の宅地幅は十二町同様400尺前後となるが、南北の宅地幅は当然360尺以下、おそらく350尺前後とならざるを得ない。宅地内のS B 314003はその北妻が二条条間南小路南側溝から14.8mで50尺を得る。S B 314002の北妻も二条条間南小路南側溝から36.9m、125尺となる。よって、この宅地では、南北の宅地幅を7等分し、50尺単位の宅地分割基準線の存在を想定することができる。

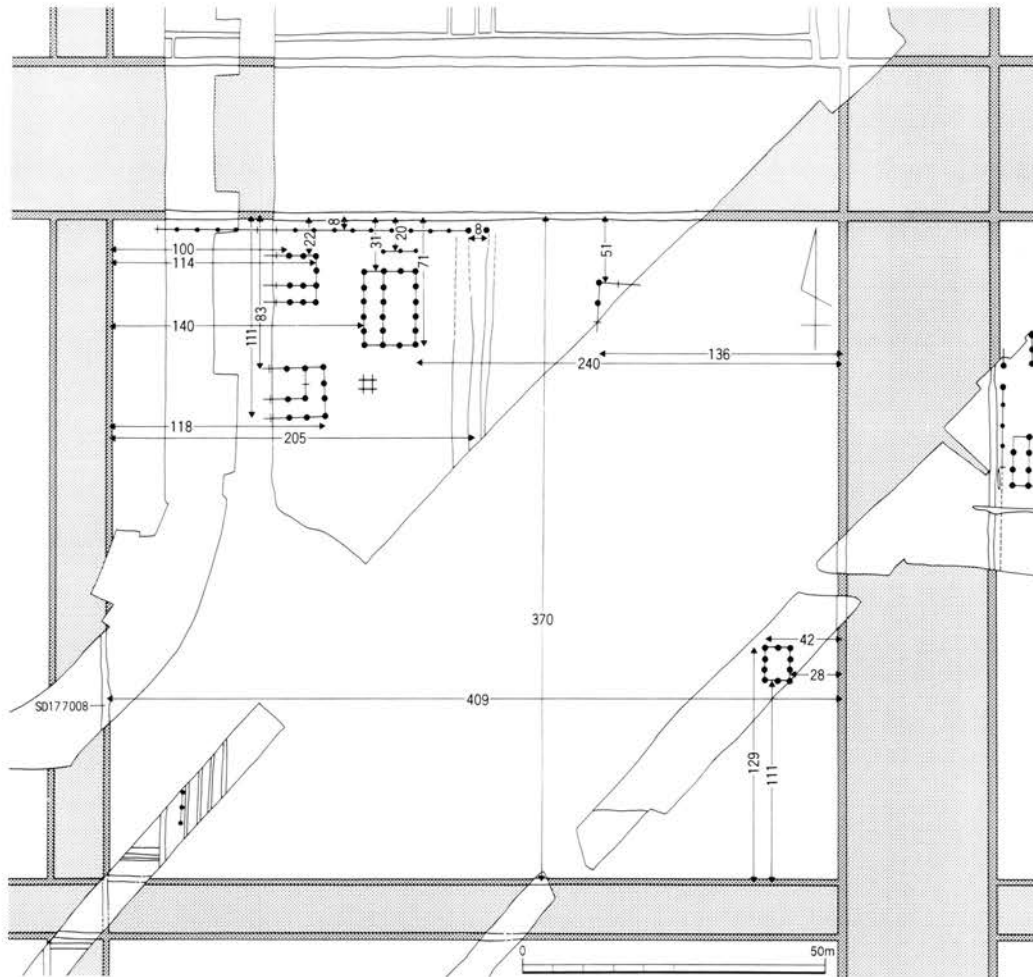




第39図 左京二条三坊十三町

### (3) 二条三坊十四町

二条三坊十四町は、北に二条条間大路、東に東三坊大路が位置する。十四町の四辺の条坊路側溝が全て検出されているために、おおよその宅地の大きさが判明する。十四町の南北を限る二条条間大路南側溝と二条条間南小路北側溝の心々間は約109.50mで370尺となる。十四町の東西は東三坊坊間東小路東側溝と東三坊大路西側溝の心々間121.0m、およそ409尺となる。十二町同様、東西の宅地幅は400尺前後となるが、南北の宅地幅は360尺以下とならざるを得ない。十四町の東西2分の1の地点は町内溝SD330011とSD330010の間にあり、この二つの溝を両側溝とし、十四町を二等分割する町内小路を想定することができる。十四町の西半の宅地では、3棟の掘立柱建物跡と、1基の井戸が検出された。SB384107を前屋、SB384111を後屋とした「二」字型の建物配列が構成され、脇屋的建物としてSB384112が付設される。二条条間大路南側溝から3基の掘立柱建物跡までの実距離を示してみると、まずSB384111北側柱列は、6.6mで約22尺となる。南庇の柱列は、14.3mで48尺前後、SB384107の北側柱列は、24.6mで83尺となる。同様に南庇の柱列は、32.7mで111尺となる。SB384112の北妻は、9.3mで31尺、南妻は、20.9mで71尺となる。以上から十二町の西側の宅地では、少なくとも南北方向には50尺単位の分割基準に則った建物配置をみることはできないといえる。二棟以上の建物の柱列が揃うこともない。おそら



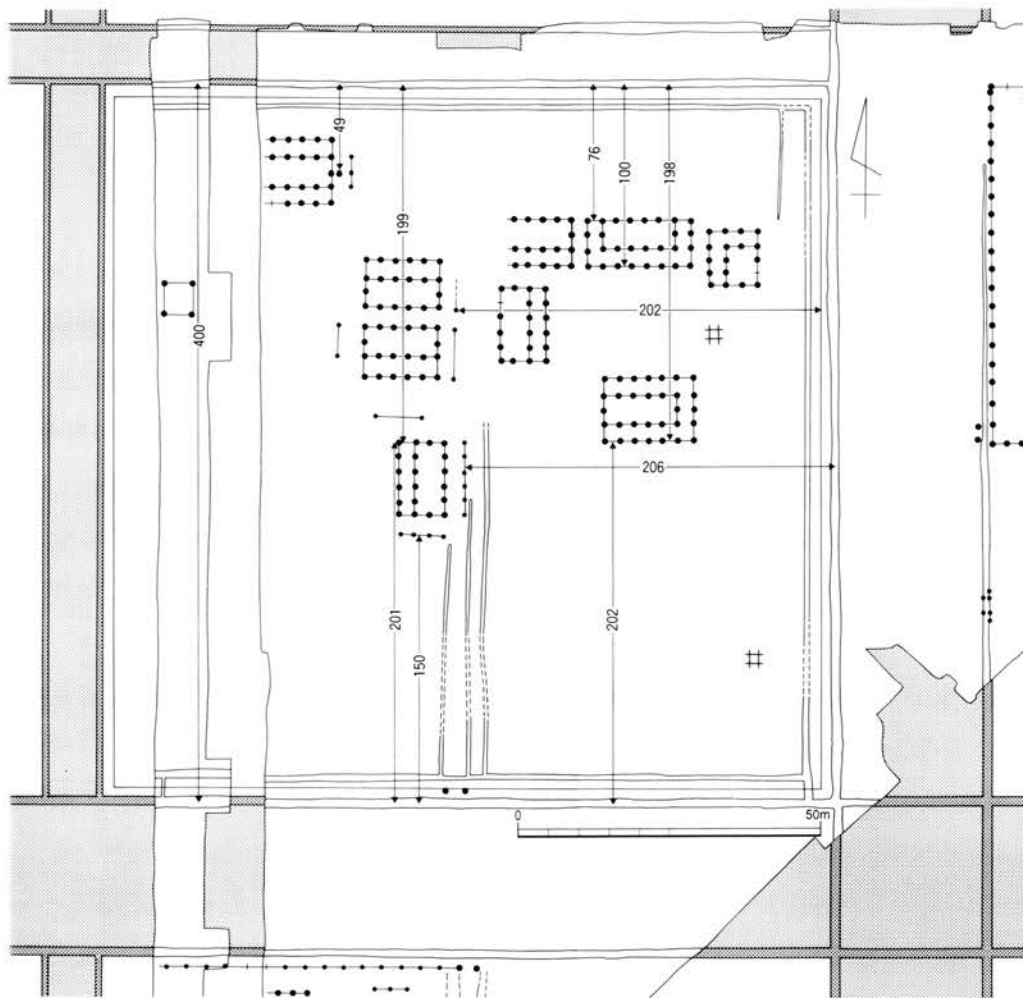
第40図 左京二条三坊十四町

く、宅地南北幅が360尺前後で、50尺単位では等分割できなかったためではなかろうか。では、宅地幅400尺前後となる東西幅ではどうであろうか。東三坊坊間東小路東側溝から建物までの距離を示してみる。S B 384111の東妻は33.8mでおおよそ114尺、S B 384107の東妻は35.0～35.4mで118～119尺となるが、S B 384111とS B 384107の二棟の東西棟の掘立柱建物の南北中軸は、東三坊坊間東小路東側溝からおよそ100尺に配置させたか、東三坊坊間東小路東側溝と町内小路の西側溝と考えられるS D 330011とのほぼ二等分線に位置させたかと思われる。よって、十二町西側の宅地では、東西方向において、側溝から100尺の地点に二棟の建物中軸が置かれた可能性がある。

十四町の東半の宅地では、掘立柱建物跡など宅地の分割基準を推測するに足りるような建物は検出されていない。掘立柱建物跡となると考えられるS K 330012およびS K 330013の柱穴が2基あり、S K 330012は二条条間大路南側溝から14.98mで約51尺を測る。南側では、二条条間南小路北側溝からS B 331002の北妻が38.3mでほぼ129尺、南妻が32.8mで111尺前後となる。いずれも50尺・100尺の実測値によると思われる分割基準が導き出し得ない。宅地の東西幅についても、東三坊大路西側溝からS B 331002の東側柱列が8.2mでほぼ28尺、西側柱列が12.37mで42尺を前後する位置にあり、検討対象事例の少なさもあいまって分割基準を見出せない。

(4) 二条三坊十五町

二条三坊十五町は、南に二条条間大路、東に東三坊大路が位置する。平良泰久によって、造東大寺司長官や左大辨・太宰大式を歴任し、造長岡宮使を務めた参議正三位佐伯宿禰今毛人の邸宅と推察された(平良1996・第5章第7節参照)。四周に築地が巡り、1町を占有する大規模宅地と考えられる。宅地の南北両側の条路側溝、二条条間北小路南側溝と二条条間大路北側溝の心々間は118.50mで400尺、宅地外郭築垣心々間で385尺前後となる。宅地の東西両側の坊路側溝、東三坊坊間東小路東側溝と東三坊大路西側溝の心々間は、西側の東三坊坊間東小路東側溝および西辺外郭築垣が検出されていないために正確な実測値は不明であるが、左京第177次調査(百瀬・丸川・長宗1991)から、推定120.95mで約409尺あまりに復原される。築垣心は条坊側溝から7.5～8尺にあり、「延喜左京職式」京程条にみられる大路・小路の規模による差異はない。宅地南辺中央には大路に開く2基の門がある。二基の門に応じて宅地中央に向かって二列の町内小路が設置され、側溝が掘削されている。中央の側溝S D362125は宅地の中央に位置する。すべての建物は掘立柱建ちで、宅地の北東部に集中している。中心的建物群は、前殿S B363081と後殿S B363078に、脇殿S B363080が付設される。醸造施設・厨と推定されるS B363079・S B363082とともに左右非対称ながら「コ」字型配列を呈している。柱間寸法は、S B362116・S B362117を



第41図 左京二条三坊十五町

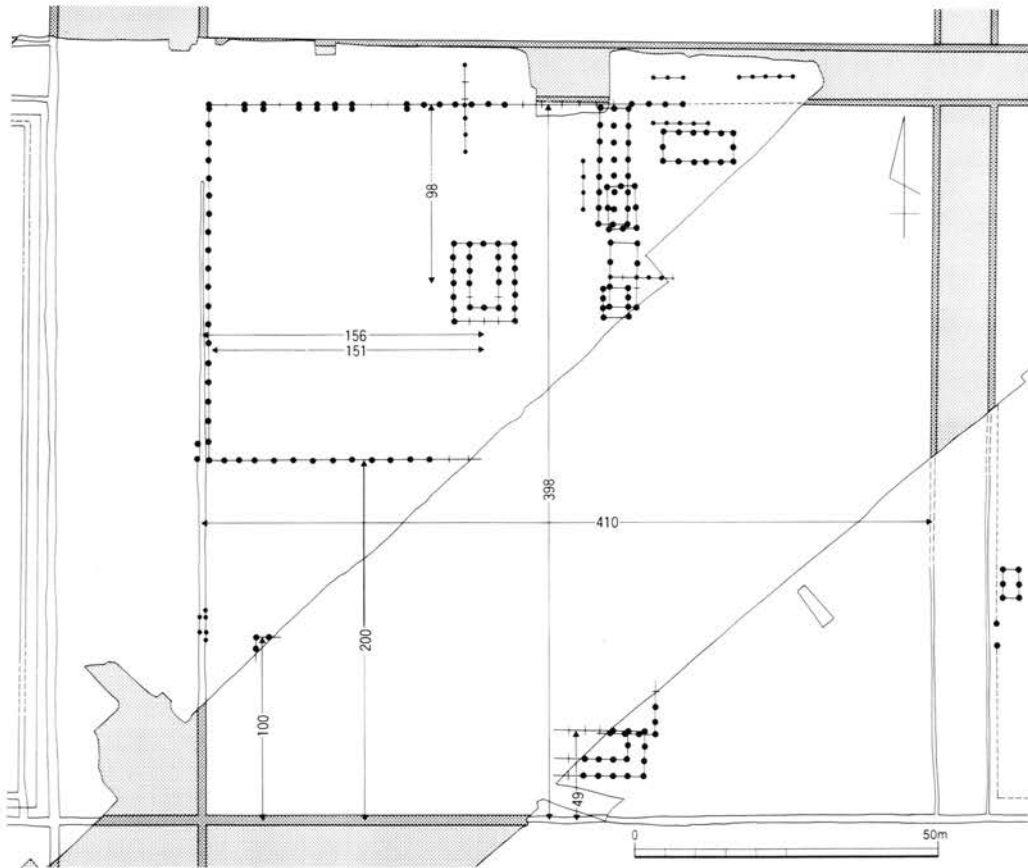
除いてすべて母屋8尺・庇の出9尺に統一する。前殿と考えられるS B 363081は、桁行5間・梁間2間の母屋に南・東・北の三面の庇が付く東西棟の掘立柱建物跡で、桁行5間・梁間2間の母屋に東・南・西の三面に庇を持つ後殿S B 363078と中軸を揃える。S B 363081の南庇柱列は二条条間大路北側溝から202尺になる。S B 363078南庇柱列は二条条間北小路南側溝から100尺に位置する。よってこれらの実測値から、二条条間北小路南側溝と二条条間大路北側溝を南北二辺とし、東西は東三坊大路西側溝・東三坊坊間東小路東側溝からそれぞれ約5尺の地点に東西二辺を設定し、東西4等分割・南北等8分割する四行八門を想定すれば、S B 363078の南庇柱列は北二門、S B 363081南庇柱列は北四門の計画線に合致してくる。S B 363079は、S B 363078の西側に直列し、ともに北二門の計画線に南庇柱列を揃える。S B 363082は、S B 363078の東側にあり、母屋の中軸を北二門の計画線にあわせる。さらに、S B 362118は、北妻を北四門の計画線にあわせて、S B 363081の南庇柱列に揃える。S B 362118の東と南に塀S A 362119・120があり、それぞれを西二行・北五門の計画線上に配置する。S B 362104は、中軸を西一行、妻心を北一門の計画線にあわせる。以上、6棟の建物跡が、想定した四行八門の計画線にその中軸や庇柱列あるいは棟通りをあわせるように配置する。

一方、S B 362116・S B 362117は、それぞれ桁行5間・梁間2間の母屋に、北と南の二面に庇が付く平面形を持ち、並列して建てられる。S B 362117の柱穴からは檜皮や漆喰が出土したことから、檜皮葺の屋根に、漆喰を塗った白壁建物が想定される。検出状況から、宅地班給当初に建てられたものではないことが判明している。庇の柱間寸法や建物振角も他の掘立柱建物跡と異なり、座標方位からかなり振れており、庇柱列や妻心が北二・三門の計画線にあわない。

以上からすれば、十五町は、40丈四方を志向した宅地であり、宅地班給当初には、宅地の南北両側の条路側溝を南北二辺とした四行八門の宅地分割基準による計画線にそって建物を配置していたことが明らかである。しかし、その後のS B 362116・S B 362117の増築に関しては、当初の計画線を重視しなかったとみられる。

#### (5) 二条四坊二町

二条四坊二町は、南に二条条間大路、西に東三坊大路が位置する。二町の南西から北東に向かって名神高速道路本線が貫通しているため、中心部分については調査は行われていない。宅地北側の二条条間北小路南側溝は検出されなかったが、宅地の北辺を限る掘立柱塀S A 329003(336009)と二条条間大路北側溝の距離は、宅地西端で118.3m(400尺)、中央で117.8m(398尺)を測る。東三坊大路東側溝と東四坊坊間西小路西側溝の心々間は121.5mで410尺になる。宅地中央を東西に走る掘立柱塀S A 329003は、二条条間大路北側溝から200尺に位置し、宅地を正確に南北二等分割していた。北半の宅地の中心的建物跡と考えられるS B 336005の中軸は北二門の計画線にのり、妻棟通りを西二行中心に配置する。1間×4間の掘立柱建物跡S B 329005も中軸を北二門の計画線にほぼあわせており、S B 336005と「二」字型の建物跡配列を構成する。一方、南側の宅地では、門S B 361182の南端柱穴とS B 329002の北側柱列を揃えて、北六門の計画線にあわせる。また、S B 303001の母屋北側柱列を北七門の計画線にあわせていることが看取



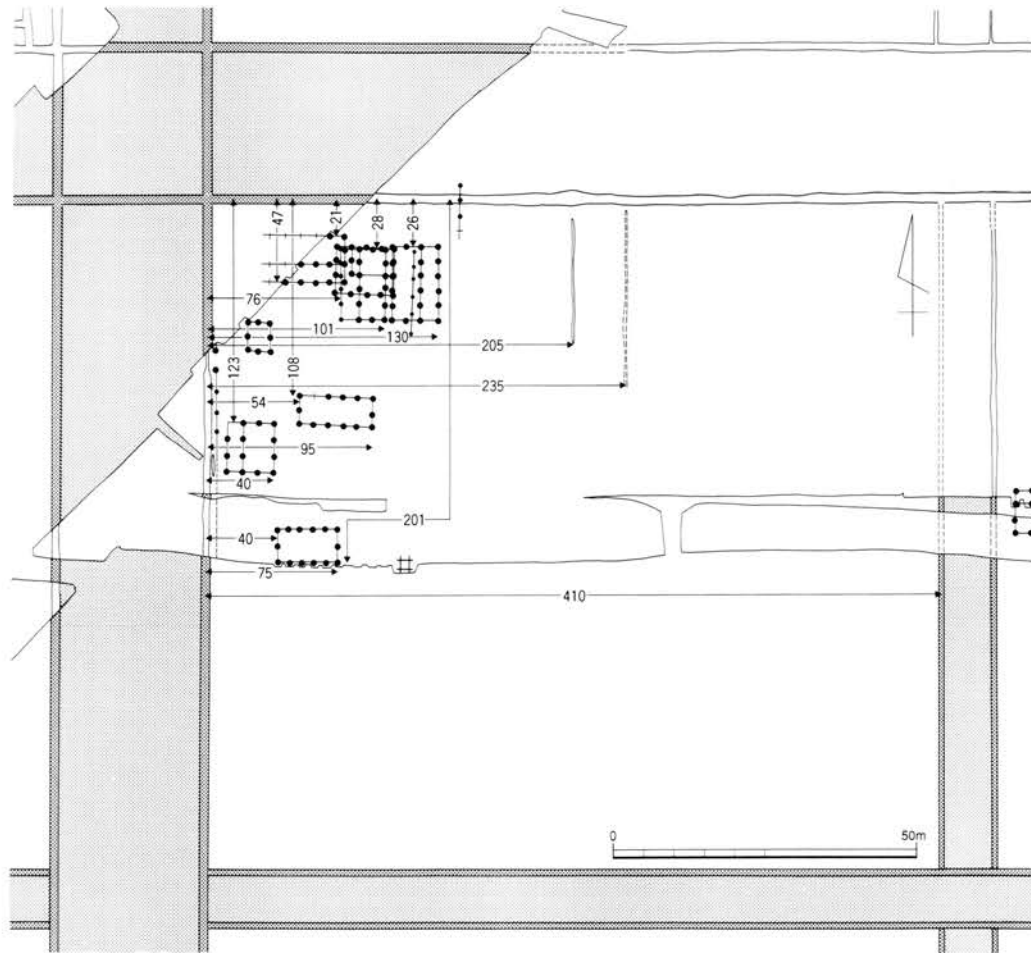
第42図 左京二条四坊二町

される。

#### (6) 二条四坊三町

二条四坊三町は、北に二条条間大路、西に東三坊大路が位置する。北半部分のみを調査したため、その全容は明らかではないが、北・西・東の三辺の条坊路側溝について判明しているため、およその宅地の大きさは類推できる。三町の東西幅は、東三坊大路東側溝と東四坊坊間東小路西側溝との心々間、130.6mでおよそ441尺、東四坊坊間東小路幅を側溝々間で30尺と仮定すれば、三町の宅地の東西幅は側溝々間で411尺となる。両側溝の内側5尺に宅地外郭築垣が存在したとすれば、宅地の東西幅は400尺として差し支えなかろう。また、三町の南北は二条三坊十四町における二条条間南小路北側溝の座標を参考にすれば、およそ110.2mで372尺前後となろう。二条条間大路の南側に位置する十四町同様、宅地の南北幅は東西幅に比べて著しく短いことがわかる。三町の宅地の東西二等分割される位置に溝 S D399422がある。東三坊大路東側溝から60.9m、205尺になり、三町の東西二等分割の位置に正確に掘削される。溝 S D399422とその東30尺にある南北溝 S D399423を両側溝とする町内小路を想定することができる。

三町の西半の宅地では、比較的多くの掘立柱建物跡を検出することができたが、いずれも小規模な柱掘形であり、二条三坊十四町西半宅地や後述する二条四坊六町西半宅地にみられるような前屋と後屋および脇屋的建物を伴う建物配列を想定することは難しい。三町の北西隅の東西棟 S B315004と三町の西端中央に位置する S B333001は南北の中軸を揃えている。二棟の東西棟の掘

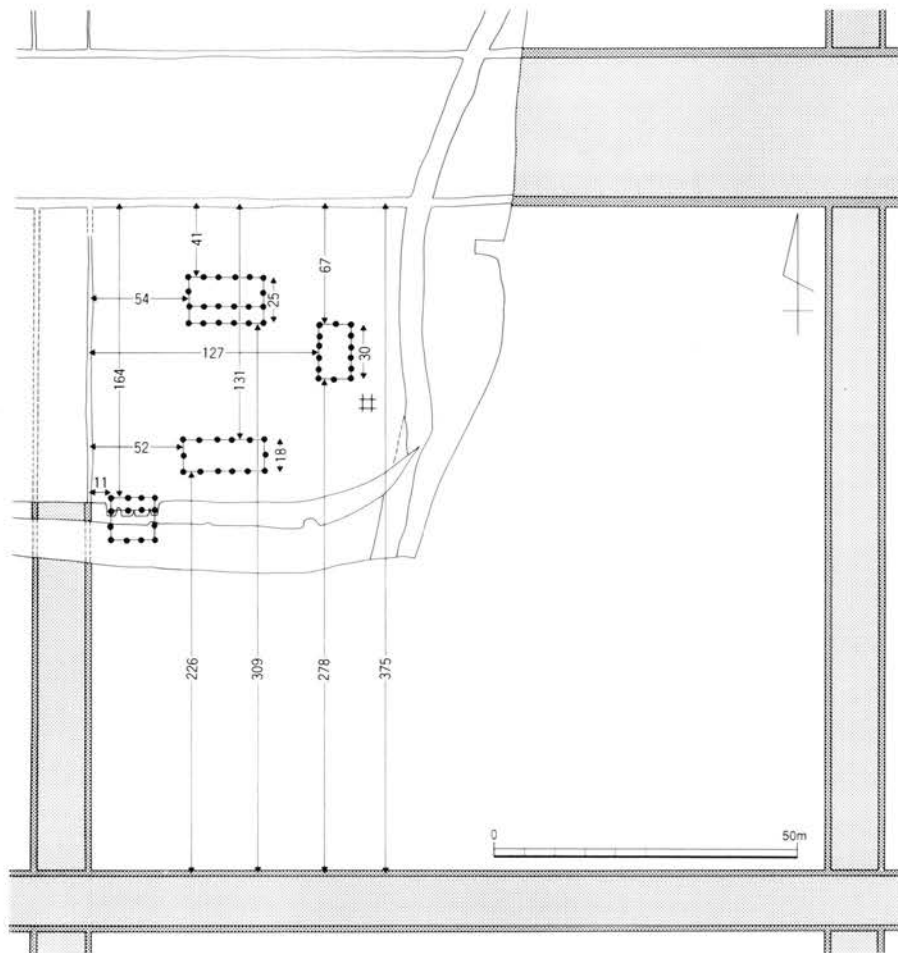


第43図 左京二条四坊三町

立柱建物の中軸は東三坊大路東側溝からほぼ17m前後で57～58尺となる。S B 399518の南側柱列とS B 399415の北妻が揃い、S B 399415の東側柱列とS B 333001の西妻が揃うことから、この三棟は、共存していた時期があった可能性が考えられる。一案では、S B 315004および中軸を揃える東西棟のS B 333001と、その西脇に配置された南北棟のS B 399415が共存し、S B 315004廃絶後、S B 315007あるいはS B 315005・S B 315006の建て替えと、若干方位が振れる東西棟S B 399518が設置されたと想定できる。いずれにせよ、三町西側の宅地では、西端に掘立柱建物が集中するやや特異な建物群を想定しなければならない。S B 333001の南側柱列は二条条間大路南側溝から59.5mで201尺前後となる以外、50尺・100尺の実測値による宅地分割基準に則って配置された建物は見当たらない。

(7) 二条四坊六町

二条四坊六町は、北に二条条間大路、西に東四坊坊間西小路が位置する。六町の北東4分の1程を調査したのみであるため、南・東の条坊側溝・宅地外郭築垣の位置については不明である。二条四坊三町における二条条間南小路北側溝の座標値を参考にすれば、111.1mで375尺前後となる。六町の宅地を大溝(水路)S D 333005が南北にやや蛇行しながら貫流しているため、六町の宅地は東西に二分割されていたものとみられる。西半の宅地では、S B 38551とS B 385516が中軸を揃える。二棟の東西棟の掘立柱建物の中軸は東四坊坊間西小路東側溝から22mで74尺となる。



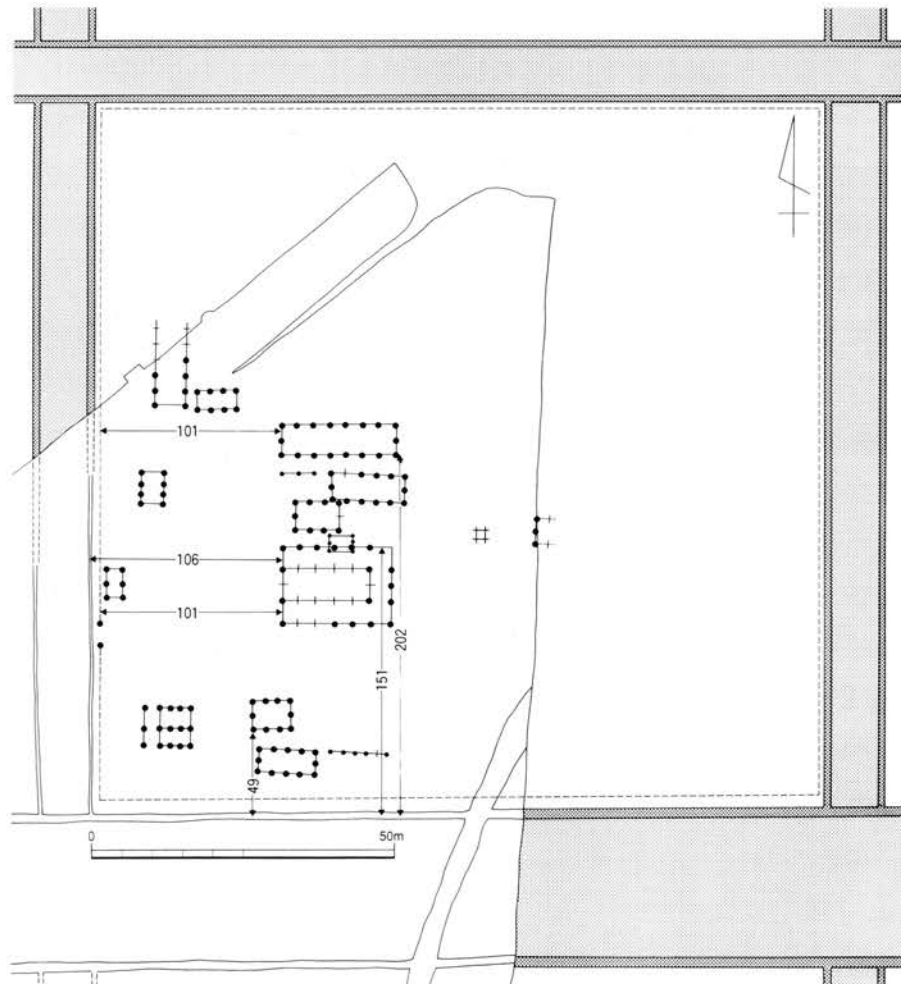
第44図 左京二条四坊六町

二条三坊十四町のように100尺単位の基準計画線に位置しない。東脇にはS B 385515が配置され、S B 385515の北妻はS B 385514の南庇柱列に揃うことがわかる。これとは別にS B 385516の南西、六町の宅地の西端中央にS B 333003が位置する。前述した三棟の掘立柱建物は、前殿と後殿の「二」字型配列とそれに伴う脇屋的建物の配列をとるが、二条条間大路南側溝からの距離は、S B 385514の北側柱列が12.2mで41尺、南庇柱列が19.6mで66尺前後となる。また、S B 385516の北側柱列では38.8mで131尺、同様に南側柱列までは44.1mで148尺となる。さらにS B 385515北妻までは19.8mで66尺、南妻では28.7mで97尺前後となる。また、東四坊坊間西小路東側溝から建物までの距離をみても、S B 385514の西妻は16mで54尺、S B 385515の西側柱列は37.5mでおよそ127尺、S B 385516の西妻は15.3mで52尺となる。

以上から、六町では、その宅地内の東西・南北のどちらの方向にも50尺・100尺の実測値を基準とした宅地分割を想定し得ない。

#### (8) 二条四坊七町

二条四坊七町は、南に二条条間大路、西に東四坊坊間西小路が位置する。南西部分のみを調査したため、宅地の北・東の条坊側溝・宅地外郭築垣の位置については不明である。先述した二町宅地の北辺を限るS A 329003(336009)と七町に面した二条条間大路北側溝の距離は117.6mで397



第45図 左京二条四坊七町

尺となる。東西では、東三坊坊間西小路東側溝と東京極大路西側溝(鍋田1995)心々間から想定小路幅(側溝々間)を差し引いて宅地(町)幅を等分すれば、坊路側溝々間はおおよそ407尺前後になる。まず、前殿とみられる掘立柱建物跡 S B 385511は、桁行5間・梁間2間に北・東・南の三面に庇が付く。その北庇柱列は、二条条間大路北側溝から151尺、四行八門で言えば、北五門の計画線上に位置する。西妻は東四坊坊間西小路東側溝から106尺東にある。門跡 S B 385547が東四坊坊間西小路東側溝から約5尺にあることから、S B 385511西妻は宅地西辺から101尺東、西一行の計画線上に位置する。また、その後方、桁行7間・梁間2間の掘立柱建物跡 S B 337002南側柱列は二条条間大路北側溝から202尺で北四門の計画線上、その西妻を S B 385511の西妻に揃え、西一行の計画線にあわせる。両者は建物跡振角も一致することから、同時期に建てられたものとみられ、「二」字型の建物跡配列を構成する。さらに S B 385512南側柱列も北七門の計画線にあわせる。また、宅地の東西を二等分する南北線付近に柵列や町内小路などの区画施設が認められなかったことから、七町は1町規模で占有されたと推測される。

#### (9) 建物配置基準にみる宅地の差異性

以上、冗長ではあるが今回調査した左京二条三坊・四坊の宅地における調査例を示してきた。その結果、左京二条三坊十五町および二条四坊二町・七町では、50尺・100尺の実測値を基準と



した正確な宅地分割基準、四行八門に則った建物配置が行われていたことが判明した。このような建物配置は、左京二条三坊七町でもみられるようである。すなわち、左京第141次調査(松崎1990)によれば、南北両側の条路側溝、二条条間北小路南側溝と二条条間大路北側溝の心々間、推定118.6mでおよそ400尺になる。二条条間大路北側溝から200尺・300尺の地点において東西溝S D141106・109が掘削される。S B141100・101・102は、それぞれの西庇柱列や西側柱列・西妻を揃えており、東三坊坊間西小路東側溝から推定50尺前後に配置させる。さらにS B141101北妻は、二条条間大路北側溝から251尺北、北三門の計画線上に位置する。三坊七町も1町を占有する大規模宅地として利用されていた可能性が高いことが指摘されている(松崎1990)。

同様に二条条間大路の北側に位置する左京二条二坊十町(山中1992c)では、建物跡配置の基準を条路側溝ではないが、十町の中心やや南に位置する八脚門心を基点として50尺・100尺の宅地分割による建物配置をみることができる。つまり、内郭正殿のS B26500の母屋南側柱列や東西脇殿S B26503・S B38700の南妻、東外郭中殿S B27707南側柱列は八脚門心から99~100尺に位置し、内郭後殿S B26501北側柱列および、東外郭北西・北東殿S B27701・02北妻は八脚門心から約200尺に位置している。

以上の知見から、宮城東面街区のなかでも二条条間大路に面した北側の町、つまり二条条間北小路と二条条間大路に挟まれた街区では、1町を占有する大規模宅地が多く、50尺・100尺の厳密な宅地分割基準に規制された建物配置がみられる。なかでも南北両側の条路側溝々間40丈を基準とした四行八門の計画線が建物跡配置を規制していた宅地の類例を認識することができた。しかし、その南側の宮城東面街区、二条条間大路に面した南側の宅地(二条三坊十四町・二条四坊三町・二条四坊六町)においては、その南北両側の条路側溝の心々間は360~370尺前後であり、宅地の南北幅が著しく制限される。宅地の南北方向、条路側溝から50尺あるいは100尺の計画線に則った建物跡配置を窺うことはできず、四行八門による宅地分割基準に規制された建物跡配置を普遍的に想定することは現状では困難である。それゆえ二条条間北小路と二条条間大路に挟まれた街区の南北幅を、条路施工時の単なる誤差、あるいは計画性の欠如に起因する(辻1994)とするよりも、長岡京造営当初、この街区が特別に設定されたものとみる方が妥当である。

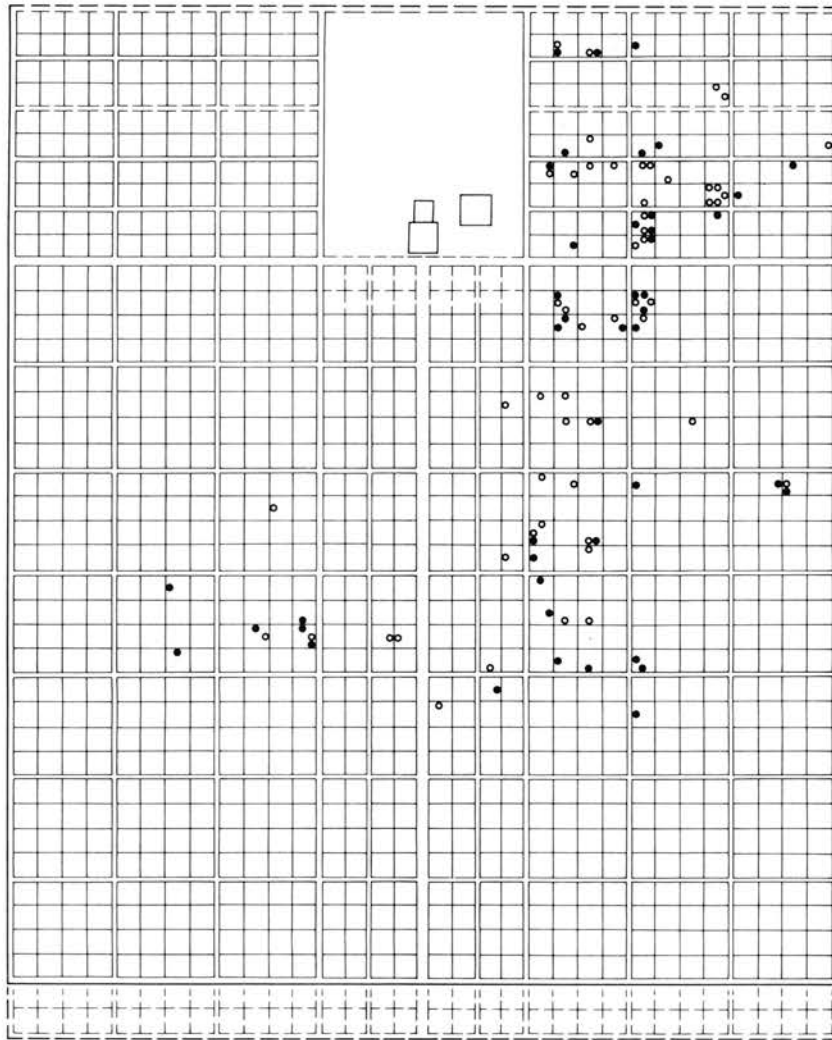
山中 章氏は、宮城東・西面街区である二条大路以北には離宮等の大規模な宅地利用および宮外諸司の集中地であり、小分割を必要としない階級の宅地として設けられたために、1町が南北350(一部375)尺×東西400尺に一律に設定されたとする(山中1992b)。一方で岩松 保は、宮城内は建物跡や官衙配置に規制された地割りが施されており、二条大路以北の宮城に面した街区では、条路施行はその官衙配置計画に規制されているとした(岩松1996・1999)。今回試みた条坊側溝からみた宅地規模および条坊側溝と宅地内建物との距離から読み取れる建物配置を規制した宅地分割基準の検討結果を敷衍すれば、条路に規制された町の南北幅(宅地南北幅)はそれぞれに配置された宅地に関わる性格としての意味を持っており、単純に等分割されるものではなかったと言える。もちろん、朝堂院前面の空間確保の問題や長岡京後期における北辺坊の造営(山中1992c)などといった長岡京造成を通じての空間構成の特徴とその矛盾が、宮城東面街区の南北宅

地幅の狭さに起因する可能性は十分に考えられるが、宮内の官衙配置にのみ規制されたとするには、二条条間北小路と二条条間大路に挟まれた街区にのみ四行八門に則った建物配置がみられることに対する解釈とはならない。一案として二条条間北小路と二条条間大路に挟まれた街区が、長岡宮城の造営当初、京域における条坊路設定以前に造営推進に最も重要視された施設(宮外諸司)や官人宅地の配置された特別区の可能性を指摘しておきたい。

また、2分の1町の宅地においてもその宅地の東西方向についてのみ、50尺・100尺の実測値による分割基準に則って建物が配置される宅地(二条三坊十四町西半)と、南北・東西どちらにも50尺・100尺を単位とする分割基準が見出せない宅地(二条四坊六町西半)があることが判明した。二条三坊十四町西半の宅地と二条四坊六町西半の宅地は、ともに前屋と後屋、それに伴う脇屋の建物を配置させており、類似した様相をみせるが、前者の方がそれぞれの建物規模が大きく庇も付設されるのである。つまり、本調査例をとってみれば、宅地規模だけでなく、建物配置を規制する50尺・100尺の実測値による分割基準が適応されるか否か、その度合いによっても中心的建物の規模の序列が推測しうる差異があることが判明した。

#### 第4節 長岡京における宅地外郭施設の規模と宅地序列

左京二条三坊・四坊の四周宅地にみられる外郭築垣施設(築地・土塀・塀・柵・柴垣などの遮蔽構造物が想定される。以下、外郭施設とする。)に注目し、長岡京における宅地規模と外郭施設をはじめ、路面規模からみた外郭施設の差異や宮面街区(南面・東面・西面の各街区)と左・右京街区の差異と外郭施設の規模についてみていきたい。「延喜左京職式」京程条には、宅地辺が大路・小路のどちらに面するかによって、その外郭施設の規模の差異を規定しているが、長岡京においては、宅地外郭施設にどのような規格あるいは差異性が存在するのであろうか。今回の調査では、1町を占有する二条三坊十五町の宅地では、四辺を限る条坊側溝から築地心の距離7.5～8尺程度、築地地業S D384104の幅0.9～1.1mが基底幅を反映するとすれば、規定幅3尺前後、高さ7尺前後の小規模な築地が築造されていたと推定される。「延喜木工寮式」築垣条にみられる最小規模のものに近い。一方で二条三坊十五町同様に二条条間大路に面した南側の十四町西半の宅地では、大路南側溝から宅地側へ5尺程の位置に小規模な掘形の柱穴列が検出された。大路に面しているにもかかわらず、柵などによって遮蔽されていたものとみられた。つまり、後の京程条にみられる大路・小路の差異による規制内容とは異なる状況がわかる。二条三坊十四町の西半宅地の北辺外郭施設は、おそらく長岡京の2分の1町以下の宅地の実態を示しているものと思われる。長岡京における宅地外郭施設と推定される検出遺構には、条坊路の側溝に並行して掘削された素掘り溝(第46図白丸)と柱穴列(第46図黒丸)がある。検出例の多くは左京域でも六条以北に偏在する。部分的には調査地点の偏在に対応するともみられるが、岩松氏が本章第4節(2)で述べているように、長岡京造営当初の宅地の整備状況も反映していると思われる。なかでも、二条大路以北、宮城東面街区における側溝並行溝の検出例が多いことがわかる。条坊路の側溝に並行して掘削された素掘り溝は、柱穴列に比べると側溝からの距離が平均で概ね2倍になること



第46図 宅地内外郭施設検出例位置図  
(白丸、側溝並行溝、黒丸、側溝並行柱列)

(第5表「総平均」)から、その多くは、外郭施設の宅地側雨落ち溝である可能性が高い。ここでは条坊路側溝に並行した素掘り溝の存在する宅地の外郭施設の多くを築地とし、条坊路側溝に並行した柱穴列(以下、柱列とする)の存在する宅地の外郭施設を柵あるいは柱建ちの塀と仮定して論じていく。このような観点からすれば、宮城東面街区に推定された官衙町(山中1997a)では、ことごとく側溝に並行した幅広の素掘り溝が検出されることから、宮城周辺に設けられた宮外諸司の多く

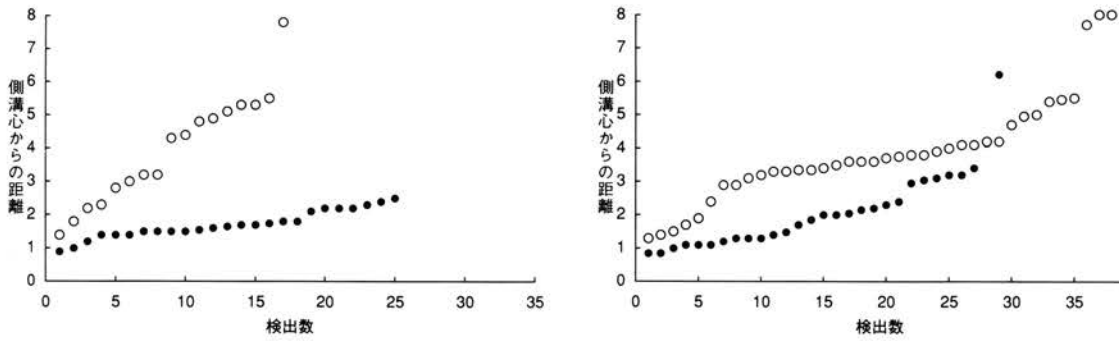
に築地が実際に築造されており、律令国家の体裁を体現していたものと見ることもできる。

長岡京では、宅地外郭施設の規格は実際にどのようなものであったのだろうか。「延喜左京職第5表 条坊路側溝から柱列・並行式」京程条に規定のあるように、宅地辺の面する路面規模に溝までの距離(m)

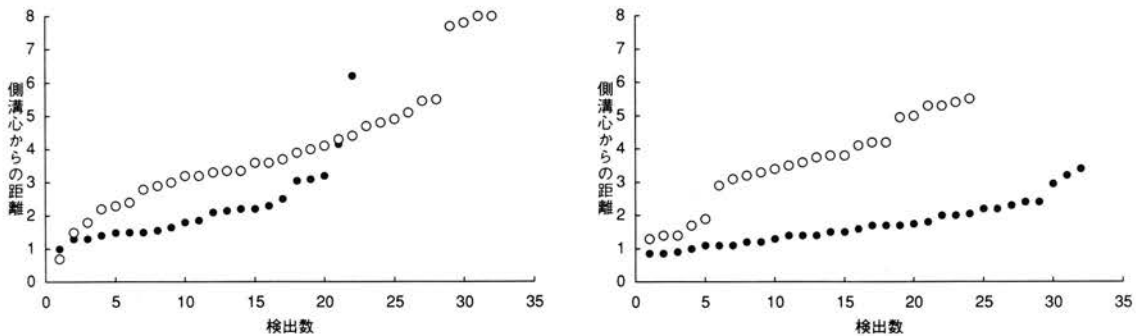
	柱列距離	溝距離
総平均	1.8592	3.7
朱雀大路隣接		7.3
二条大路隣接		
東西一坊大路隣接	1.4666	1.4
一般大路隣接	1.7432	3.87
大路隣接	1.713	3.96
小路隣接	1.9752	3.58
宮面街区	2.061	3.801
左右京街区	1.7226	3.58
宮面街区大路隣接	1.88	3.83
京街区小路隣接	1.785	3.34

によって、その外郭築垣の規模が規制されたどうか考えるために、まず大路、次に小路に隣接する宅地辺の外郭施設についてみる(第47図)。

大路に隣接する宅地辺の側溝並行溝は17例報告され、側溝からの距離平均3.9m前後を測る。また、大路に隣接する宅地辺の柱列は25例、平均1.7m前後となる。大路に隣接する位置にあっても半数以上の宅地辺で柱列が検出されたことから、外郭施設が柵あるいは柱建ちの塀が大路に面していた可能性が高い。これに対して小路に隣接する宅地辺の側溝並行溝は38例報告され、距離平均3.6m前後であった。平均では大路に



第47図 大路(左図)と小路(右図)に隣接する宅地外郭施設の側溝からの距離(m)  
(白丸.側溝並行溝 黒丸.側溝並行柱列)



第48図 宮面街区(左図)と京街区(右図)における宅地外郭施設の側溝からの距離(m)  
(白丸.側溝並行溝 黒丸.側溝並行柱列)

隣接する築地よりも一尺ほど規模が小さいが、側溝の掘削幅を考慮すれば、現実に視認しうる差とは言えない値である。小路に隣接する宅地辺の柱列は28例、距離平均2.0m前後となり、大路隣接の柱列よりも逆に距離は大きいこととなる。また、小路に隣接した宅地辺の半数以上に側溝並行溝が検出されたため、小路に面していても外郭施設に築地が築造された宅地が珍しくなかった可能性も高くなる。以上から、大路と小路の差による宅地外郭施設の種類と規模が明確に規制されたとは考えにくい。

次に宮城に面した東・西・南の各街区(山中1992a)(第5表 以下、宮面街区とする)と左・右京街区について比較する。宮城に面する宮面街区では、宅地辺の側溝並行溝は32例、側溝からの距離平均3.8m前後となる。また、宅地辺の柱列は21例、距離平均2.0m前後となる。宮面街区では、側溝並行溝が柱列の検出例を大きく上回ることから、外郭に築地を築成した宅地が多かったことが窺い知れる。一方、左・右京街区では、宅地辺の側溝並行溝は24例、側溝からの距離平均3.6m前後となる。また、宅地辺の柱列は21例、距離平均1.7m前後となる。側溝並行溝と宅地辺柱列ともに宮面街区の宅地に位置するものの方が、平均距離は上回る。宮面街区における築地の卓越を考慮すれば、両街区における外郭施設の規模差がなんらかの規範を反映していた可能性は捨てきれない。だが、それもそれぞれ平均1尺前後のことであり、現実にはどれほどの視認しうる差異が存在したのかは明確には判断できない。ただ、注目したいのは、第47・48図右側のグラフのように小路に面した宅地辺および左・右京街区の宅地では、側溝並行溝の距離が3つにまとめ、三種の築地規模の序列を読みとることができそうである。とくに左・右京街区ではその距

離が1～2m(築地とするよりは土塁・土塀状のものか)、3～4.5m、6m前後と明瞭に分離する傾向を見て取ることができる。左・右京街区では、上級貴族の宅地と分割可能な小規模宅地の存在が予想されることから、あるいは宅地居住者の位階・宅地規模による外郭築地の規模差がより厳格な規範として守られるべきものであったと見ることもできる。

今回の資料操作からは、朱雀大路と二条大路隣接例を除外すれば、隣接する条坊路の規模によって宅地辺の外郭施設が規制されたと考え難いものと思われた。それよりも宅地位置が宮面街区か左・右京街区かによって宅地外郭施設種類とその規模が規制された可能性の方が高いものと予想した。そして左・右京街区では、築地の規模が居住者の階級や宅地規模によって規制されていたと見るほうが実態に則していると考えられ、本調査地における宅地外郭施設の序列が宅地規模に相応しているとする傍証となる結果とみることができる。

## 第5節 長岡京の条坊計画—長岡京条坊制補論—

### (1)はじめに

長岡京は、平安京と平城京の間の、わずか十年間という短命な都であったためか、その様相はほとんど分かっていない。平安京や平城京の条坊制に関しては一定の定説が存在するのに対して、長岡京の条坊制に関する論考は多くある(山中1992a・鍋田1993・辻1994)が、いずれも全体的な条坊計画について論及されておらず、現在まで確固たる定説となっていない。これは、長岡京の東西条坊路のデータが、南北条坊路ほどには規則性が見られないことが大きな要因である。筆者は長岡宮・京の条坊計画について検討を加え、「できるだけ発掘調査で得たデータを整合的に説明できるモデルを作成する」という指針のもとで、まず均等宅地モデル(岩松1996)を、次いで、大路付加型モデルを作成した(岩松1999)。均等宅地モデルは、南北条坊路のデータを極めてうまく説明できたが、東西条坊路に関しては例外を設定するケースが多く、全体としてはかなり不整合であった。大路付加型モデルはそれを改善したもので、一条条間大路以南という制限はあるが、南北条坊路とともに東西条坊路をも比較的統一的に説明できるものであった。さらに、このモデルを用いて、長岡宮内の地割り計画にも検討を加えた(岩松1998)。

これらの論考をまとめて2年が経過する間に、宮域北部の構造を検討する上で重要な発掘調査成果が得られた。まず、第一に、一条条間大路が小路規模で造営されていることが確実となった。P373次調査(中島信親1999)やL421次調査(中塚1999)では、一条条間大路の南北側溝をそれぞれの調査地内で検出し、側溝心々約9mを測る小路規模であることが確定した。そのため、宮城に取り付く東西条坊路は、長岡京では必ずしも大路と小路が交互に配されているわけではないことが判明した。この事実を敷衍すると、北一条大路(この条坊路は、一条大路から北に四本目の条坊路であるので大路規模と考えられる)の北側二本目に位置する北京極大路は、大路幅を有していると考える必然性がなくなった。事実、北京極大路位置では、P154次調査(渡辺1988)やP316次調査(梅本1996b)において小路幅の東西路が確認されていた。本来は大路規模でなければならぬのに、小路規模でしか検出されていない点は、不問に付されていたところであった。ところ

が、大路幅ではなく、小路幅で造られていると考えても“良い”条件が出てきたのである。

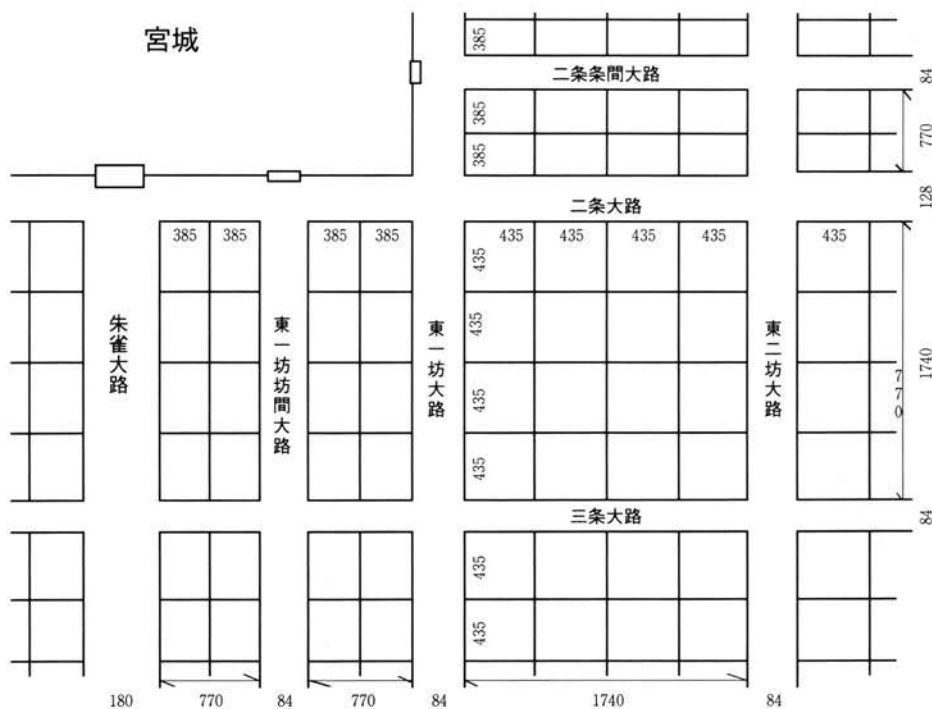
第二に、従来長岡京は北に二町分<sup>(注12)</sup>の北辺坊が想定されていたが、それよりもさらに北側に、宮・京域が広がっていることが分かってきた。先に触れたP316次調査では、従来北京極大路と考えられていた条坊路(これは小路規模で見つかったのは先述したところである)の約125m北側に位置する調査区で、東西に掘削された側溝およびそれに付随する築地・同雨落ち溝が確認された(梅本1996 a)。さらに、宮内朱雀大路の延長上に位置する築地や側溝が北京極大路以北にも続いていた。そのため、従来、北京極大路と考えられていた東西路よりも、少なくとも1町分北側にまで長岡宮(京)が広がっている可能性が出てきた。さらに、久々相遺跡第5次調査では、北京極大路の四町北に位置する地点で、東一坊大路を北方に延長させた位置で南北方向の二条の溝を検出している(梅本1999)。この溝間は心々で24m余りを測り、東一坊大路幅にはほぼ合致し、同大路が北京極大路の北方約四町分以上にわたって敷設されていた可能性が指摘されている。この例のみで、北京極大路の四町分北にまで、宮・京域が造られていたとは即断できないが、従来そうと考えられていた京域の北限を見直すべき調査として注目<sup>(注13)</sup>される。

これらの成果を得て、前稿の内容には実態にそぐわない点が目立つようになり、修正を加える必要が出てきた。そのため、ここで再々度、長岡京の条坊計画——特に二条条間大路以北について考察を加え、先の論考の内容を補足したい。

(2)長岡京の条坊計画

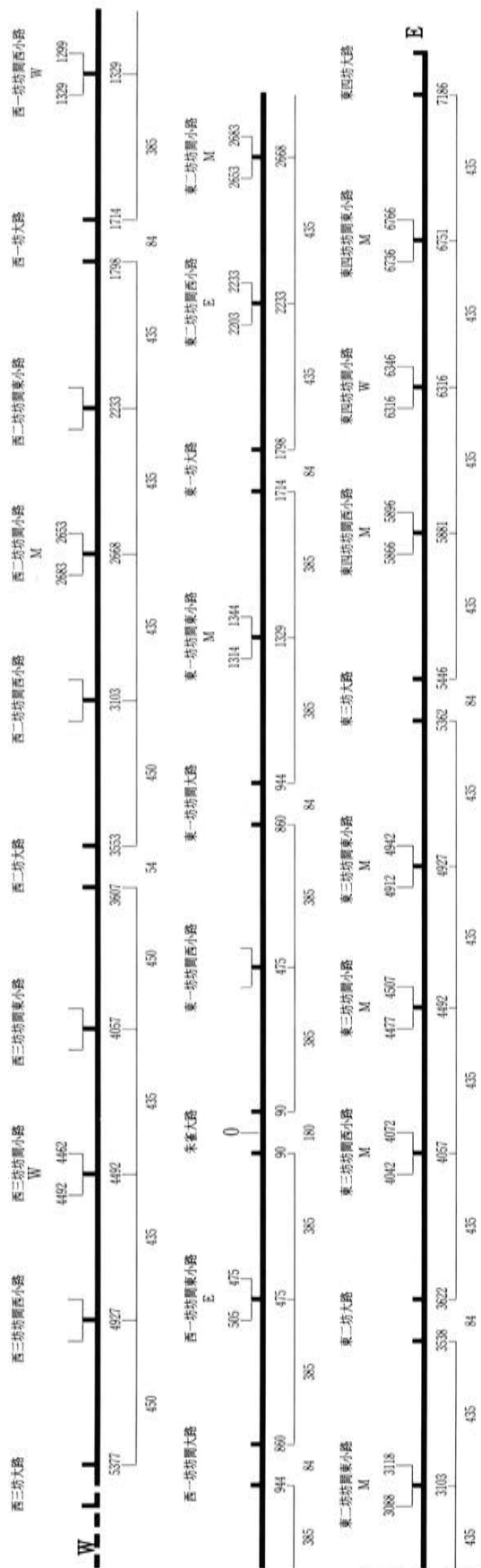
a. 大路付加型モデルの条坊計画

長岡京造営時の基準尺を1尺=29.6cmとすると、大路付加型モデルは、385尺または435尺間隔に基準線を割り付けて町を設定するもので、小路は基準線の両側または片側の町から割り取るの

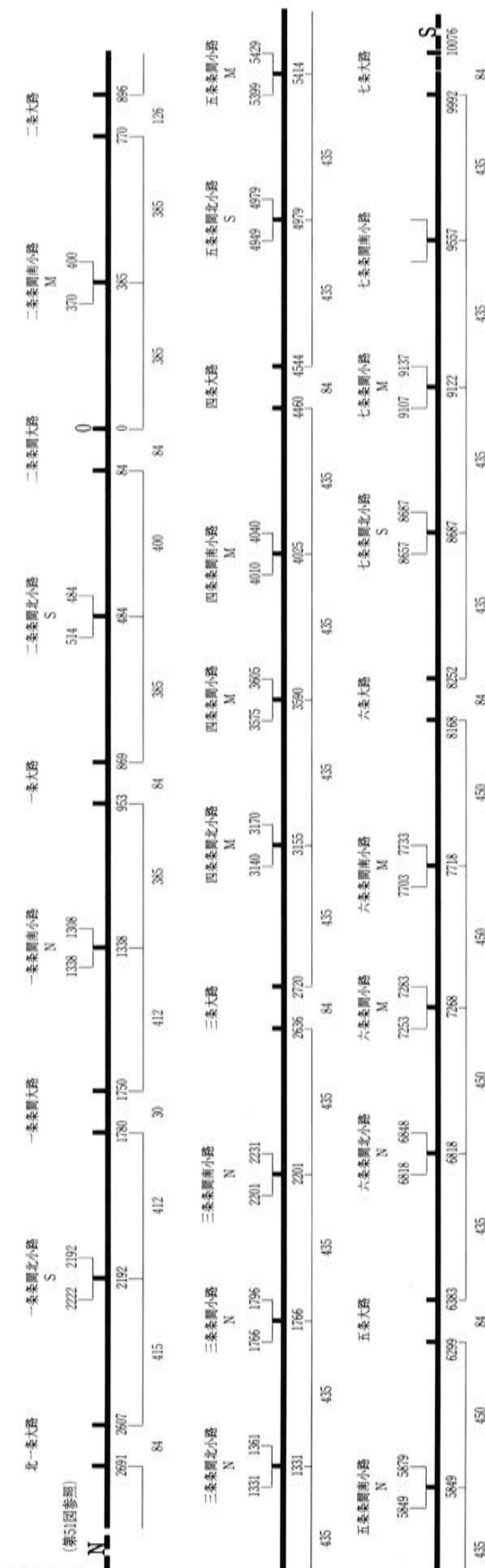


第49図 長岡京の基本計画

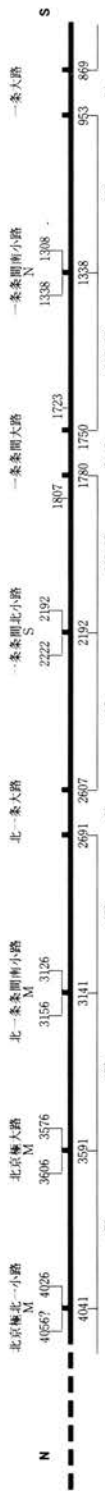
南北条坊路



東西条坊路



第50図 長岡京の条坊計画  
 (二条条間大路南側溝を基準線；東西条坊路は北一条大路以南)



第51図 一条大路以北の計画  
(二条条間大路南側溝を基準線)

この範囲における宮城に面する条間路は大路幅となっており、二条大路北側溝から北へ385-385尺の二町に大路幅分の84尺が付け加わり、これが繰り返されている。具体的に見ると、二条大路北側溝から北に385-385-84(二条条間大路)-400-385で一条大路南側溝にいたる。二条大路以南は435尺毎に基準線を割り付けており、四町分の435尺×4=1740尺の位置に大路幅分の84尺が付け加えられる。小路は基準線位置に設定され、隣接する

に対して、大路はその幅分を割り付け幅に別個に付け加えるものである。宮城に面するか否かで基準線割り付け幅が異なり、宮城に面した部分(宮城東・西面の南北幅と宮城南面部の東西幅；ただし、東西条坊路は北一条大路以南)は385尺×2に割り付け、宮城に面していない部分は435尺×4に割り付けて、そこに大路幅を付け加えるものである(第49図)。小路は割り付けラインを基準線に隣接する宅地から路幅を割き取るが、その際に基準線を路面の中心に置くもの(中心型)と側溝に置くもの(重なる側溝の位置により東・西・南・北側溝型)とがある。いわば、大路については平安京の集積型であるが、小路と宅地の設定については平城京の分割型である。

具体的に見ていこう(第50図)。先の論考(岩松1998)で指摘したように、造営原点を大極殿南庇列の東西の中心位置(大極殿中心の南28尺；X=-117,537.248、Y=-26,840.39)に設定すると、基線となる南北軸は朱雀大路の路面心に、東西軸は二条条間大路南側溝上に位置している。各条坊路の幅は、以下の論述で特にことわりが無い限り、側溝心々で測った距離を記すこととすると、朱雀大路が180尺、二条大路は126尺、大路と小路は84尺と30尺で計画されている。南北条坊路は、朱雀大路を挟んで左右対称に大路と小路の割り付けラインが配置されている。まず宮城南面部を見ると、宮城に取り付く南北の坊間路は大路幅で造られているため、大路と小路が交互に配置されている。この坊間大路も通常の大路と同じ扱いで、路幅は町幅と別個に付け加えられている。左京域を例に見ると、朱雀大路東側溝は原点(=朱雀大路路幅心)から90尺の位置にあり、ここから東へ、385-385-84(東一坊坊間大路)-385-385尺で東一坊大路西側溝にいたる。それぞれの基準線位置には小路が配されるが、基準線が路面の中心に位置する場合(中心型)とどちらかの側溝に位置する場合(東・西側溝型)とがある。東一坊大路は側溝心々で84尺を測る。東一坊大路東側溝より東側では、基準線は435尺毎に割り付けられており、一坊を435尺×4=1740尺に割り付けている。それぞれの基準線位置に三条の小路が隣接する町からその幅分を割き取って設定されるのに対して、大路はその幅分84尺を別個に付け加えている。この一連の構造は東四坊大路まで繰り返される。東西条坊路の計画は、一条条間大路以北については後述することとし、一条条間南小路以南の計画を先に見ておきたい。この範囲における宮城に面する条間路は大路幅となっており、二条大路北側溝から北へ385-385尺の二町に大路幅分の84尺が付け加わり、これが繰り返されている。具体的に見ると、二条大路北側溝から北に385-385-84(二条条間大路)-400-385で一条大路南側溝にいたる。二条大路以南は435尺毎に基準線を割り付けており、四町分の435尺×4=1740尺の位置に大路幅分の84尺が付け加えられる。小路は基準線位置に設定され、隣接する



町から小路幅分が割き取られ、路面心に位置するもの(中心型)とどちらかの側溝に位置するもの(南・北側溝型)がある。これが一条分の構造で、この構造が繰り返されて条坊を構成していく。

南北条坊路は、西二坊大路および西三坊大路の路幅は84尺ではなく、隣接する両町の東西幅が違っている点(この点に関しては(3)－aで概述)を除いて、ほぼ原理通りに設計されている。それに対して、東西条坊路は南北条坊路ほどには規格的ではなく、二条条間大路と二条条間北小路の間は15尺多い400尺で割り付けられている点、五条条間南小路から五条大路、六条条間北小路から六条大路にかけての四町分が15尺多い450尺で割り付けられている点など、原理通りにはならない設計が認められる。15尺を単位とした町の拡幅もしくは割付幅が異なっていると考えるべきであろうか。

いずれにしても、大路付加型モデルの細部には、範型とは若干の齟齬が認められるが、全体的に見ると規格性の高い計画と判断されよう。

#### b. 一条条間大路以北の計画

前項では、大路付加型モデルを振り返ったが、このモデルは南北条坊路が基本計画にほぼ合致するのに対して、東西条坊路のうち、データが計画に当てはまるのは一条条間南小路までで、一条条間大路以北はデータと計画がほとんど合致しなかった。主たる理由は、小規模な調査が多く、条坊関連遺構の検出例が少なかったため、条坊データをほとんど見分けられなかったこと、先述のように、長岡京も他の都城と同じく、宮城には大路と小路が交互に配されると“外挿”していたこと、そのため、宮城北辺部も南辺部と同じ計画で造営されていると暗黙的に思いこんでいたためである。

第6表は、一条大路以北の東西条坊路の側溝と推定される東西溝の座標データ一覧である。それぞれの条坊側溝座標データを基に、原点からの尺数とその平均尺数を算出し、その値から推定される計画位置、計画位置間の距離、割付基準線、割付基準線間の間隔を記している。原点は大極殿南庇列＝二条条間大路南側溝位置としている。検出した側溝データの座標値には、施工時の誤差および調査記録時の測量誤差が含み持たれていると考えられる。その点を考慮し、計画位置および基準線位置は、他の都城の条坊計画との整合性や、先の論考で設定した「大路付加型モデル」との関連性に配慮した上で作成した。これを図示したのが、第51図である。

おおまかに言って、二条大路以北～北一条大路以南の計画は385尺割り付けによる大路付加型モデルであるのに対して、北一条大路以北は450尺割り付けの大路付加型モデルとなっている。一条条間大路は、大路でありながら小路規模で造営されているが、施工時において、急遽、その規模に変更を加えたものと考えられる。これについては、(3)－a)で詳述する。一条条間北小路－北一条大路間は、何案か考えられるが、南側の385尺割り付けや北側の450尺割り付けでは説明しがたい。これについては(3)－b)で論述する。北一条大路以北は小路が三条連続して造られており、すべて、北一条大路北側溝から450尺毎に基準線を割り付けて、隣接する町から15尺ずつを割き取って30尺の小路を造っている(中心型)。この地割り方法は、いわゆる「平城京型」の都城モデルである。<sup>(注17)</sup>このように、北一条大路より北側では、北京極大路(実際には小路規模)を越

第 6 表 一条大路以北の条坊路

条坊名	側溝	調査次数	遺構番号	文献	X座標	Y座標	原点からの尺数	平均尺数	計画位置	計画位置の間隔	割付基準線	基準線の間隔		
京外	南側溝	P316	SD316203	梅本1996a	-116346	-26769	4024.5	4024.5	4026		4041			
北京極大路	北側溝	P316	SD316411	梅本1996b	-116470.638	-26814	3603.4	3603.9	3606	420	3591	450		
		P369	SD05	中塚1998	-116470.8	-26513	3602.9							
	P154	SD15401	渡辺1988	-116470	-26734	3605.6	30							
	南側溝	P154	SD15402	渡辺1988	-116479	-26734	3575.2	3574.0	3576	420		450		
		P316	SD316412	梅本1996b	-116479.4	-26813	3573.8							
		P369	SD36913	中塚1998	-116479.6	-26501	3573.1							
北一条条間南小路	北側溝	—	—	—	—	—	—	—	3156					
	南側溝	P181	SD11711	松崎1987	-116611	-26912	3129.2	3126.7	3126	30	3141	450		
		P117	SD1171	山中他1983	-116610.7	-26922.5	3130.2							
		P204	SD20405	秋山他1989	-116613.92	-26948	3119.4							
	P204	SD11711	秋山他1989	-116611.37	-26948	3128.0								
北側溝?	P208	SD20802	秋山他1989	-116626.93	-26984	3075.4	3075.4		435	—	450			
北一条大路	北側溝	立会98092	SD9809202	山口均1998	-116740.448	—	2691.9	2691.9	2691		2691			
	南側溝	P159	SD15901	山中1986b	-116767.3	-26294.5	2601.2	2593.1	2607	84	2607	84		
		立会98092	SD9809201	山口均1998	-116772.101	—	2585.0			385				
一条条間北小路	北側溝	P270	SD27011A	中塚1993	-116881.1	-26825	2216.7	2216.7	2222			415		
	南側溝	P237	SD23702	秋山1991	-116890.5	-26768.5	2185.0	2187.0	2192	30	2192	385+27		
		P237	SD23701	秋山1991	-116889.05	-26786.3	2189.9							
		P270	SD27025	中塚1993	-116890.7	-26827	2184.3							
		P270	SD27002	中塚1993	-116889.42	-26842	2188.6							
P207	SD20701	國下1990 a	-116889.85	-26882.5	2187.2									
一条条間大路	北側溝	L421-1	SD42107a	中塚1999	-117011.4	-25666	1776.5	1777.6	1807(-27=1780)		1780	30		
		P214	SD21401	山中1990	-117011.7	-26291	1775.5							
		P373	SD37307	中島信親1999	-117010.1	-26329.6	1780.9			84-54				
	南側溝	L421-1	SD421108a	中塚1999	-117020.5	-25666	1745.8			1745.5	1723(+27=1750)		1750	385+27
		L227	SD22701	秋山1990	-117020.55	-26083	1745.6							
		L150	SD15001	秋山1987	-117020.75	-26134	1744.9							
		P373	SD37308	中島信親1999	-117020.5	-26329.6	1745.8							
一条条間南小路	北側溝	L260	SD26001	新庄他1992	-117141.06	-26146.5	1338.5	1341.3	1338		1338	385		
		L418C3	SD440	百瀬他1999	-117141.4	-25377.5	1337.3							
		P249	SD24906	山中1991	-117138.25	-26678	1348.0							
	南側溝	L418C3	SD438	百瀬他1999	-117151.2	-25388	1304.2			1306.6	1308	30		
		L185	SD18504	渡辺1990	-117151	-26030	1304.9							
	L260	SD26002	新庄他1992	-117151.14	-26146.7	1304.4								
	P249	SD24902	山中1991	-117148.6	-26678	1313.0								
一条大路	北側溝	L418D4-5		百瀬他1998	-117255.3	-25384	952.5	948.7	953	355	953	84		
		L286 B2	SD286102	鍋田他1995	-117255.1	-24853	953.2							
		L285	SD28501	松崎1993	-117256.4	-25774	948.8							
		L118	SD11805東端	長谷川他1985	-117256.8	-25928	947.5							
		L118	SD11805西端	長谷川他1985	-117257.3	-26034	945.8							
		L10	SD1007	高橋1977	-117256	-26138	950.2							
		L262	SD26201	新庄1993	-117258.1	-26146.6	943.1							
	南側溝	L286 B2	SD286103	鍋田他1995	-117278.85	-24880	873.0	869.2	869	84	869	84		
		L418D4-5		百瀬他1998	-117279.3	-25384	871.4							
		L89	SD8903	山中他1984	-117280	-25765	869.1							
		L121	SD8903	松崎1989	-117279	-25780	872.5							
		L169	SD16910	國下1990 b	-117280.4	-25805.7	867.7							
		L130	SD11806	松崎1989	-117279.9	-25988	869.4							
		L118	SD11806	長谷川他1985	-117279.8	-26025	869.8							
L14	SD1401東端	戸原1978	-117282.4	-26047.6	861.0									
L14	SD1401西端	戸原1978	-117280	-26138	869.1									

えて、その北側の東西路にいたるまで、同一の計画——450尺割り付けで設定されている。

これらの条坊におけるそれぞれのデータ数は、現時点では少ないが、第6表に見るように、それぞれのデータは推定した計画位置と数尺の誤差しか有していないので、これらのデータから読みとった条坊計画は、整然とした計画とその規格性の高さゆえに納得できるものであろう。北一条大路以南は小路と大路が交互に配されているのに対して、小路規模の条坊路が三条連続して配されるといふ点や、385尺割り付けが450尺割り付けに変更されている点など、北一条大路以北の条坊計画は同大路以南とは明らかに異なっている。385尺割り付けが450尺割り付けに変更されている点は、これを“割付幅の違い”と考えれば、大路付加型モデルの範疇で捉えることは可能である。<sup>(注18)</sup>しかし、宮城に取り付く南北条坊路と北一条大路以南の条坊路が大路・小路と交互に配されている規格制の高さを鑑みると、三条の小路が連続して計画され、配されている点は、“宮城に面しない街区における条坊路の配置”に通ずるもので、もしくは何らかの理由を伴ったイレギュラーと考えられる。これについては、「(4)まとめと課題」で再述する。

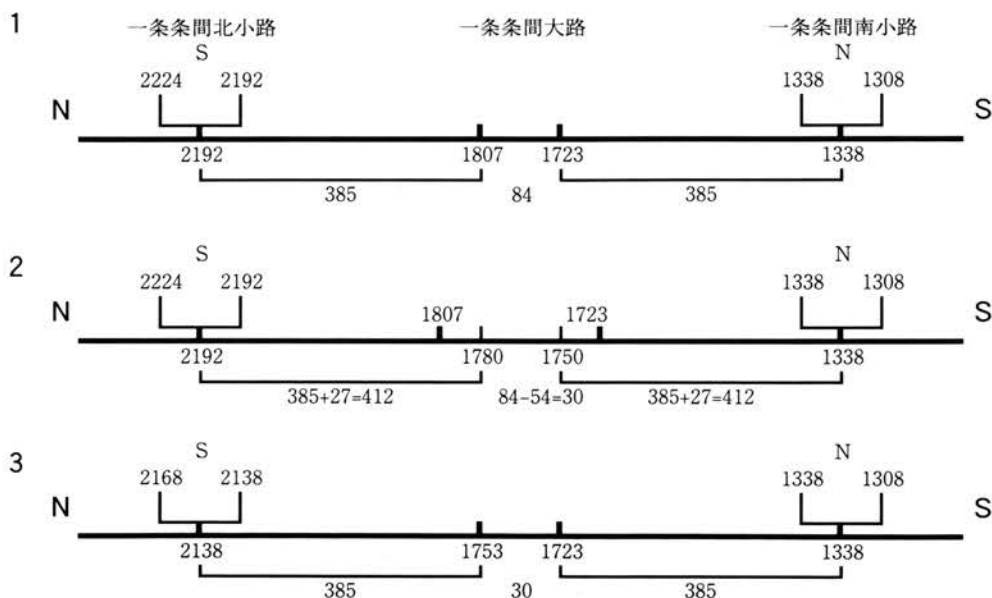
### (3)北辺地区の問題点

上述のように、一条条間大路が小路規模しか有さないこと、一条条間北小路～北一条大路にかけての町割りにやや不整合が見られるなどの問題点が見られる。これらの点について、項目を掲げて補足説明を行っておこう。

#### a. 一条条間大路について

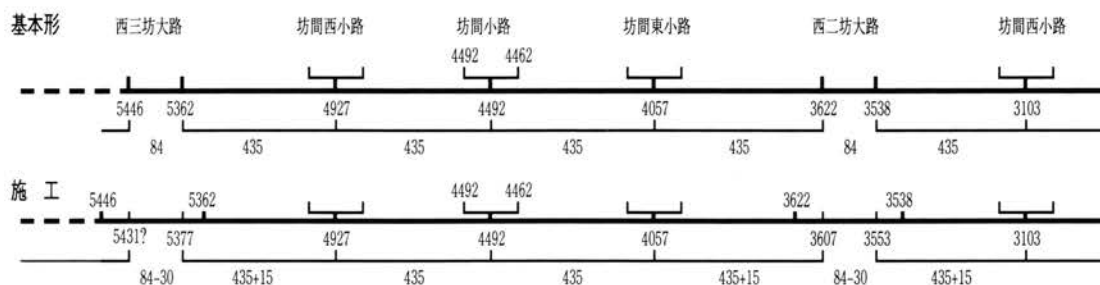
宮城に取り付く条間路は大路規模を有すると考えられていたが、一条条間大路は小路規模であることが確定的になった。これをどう解釈すれば、前述の大路付加型モデルに整合できるのだろうか。

結論的に言えば、本来は84尺幅の大路として計画された(第52図1)のが、実際の施工時には30尺幅の小路規模に変更されたと考える。そしてその際に、84尺-30尺の残余である54尺は、その



第52図 一条条間大路の路幅の変更

(二条間大路南側溝を基準線、一条条間北小路は便宜的に南側溝型で表示)



第53図 西二・三坊大路幅の変更

2分の1である27尺づつが隣接する南・北の町に割り振られ、両側の町幅は385尺+27尺=412尺に設定されたと考える(第52図2)。南北条坊路では、西二坊大路(とおそらく西三坊大路)が大路でありながら、実際の調査で見つかる路幅が50尺程度の規模でしかなく、路幅84尺のうちの30尺を15尺づつ東・西に隣接する町に振り分けて、54尺の路幅で施工されたと想定している(第53図)が、この考えと通じるものである(岩松1999)。

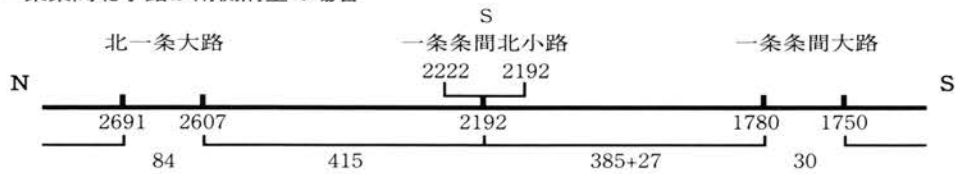
これら条坊路の変更に関してどういった状況が考えられるのかを一条条間大路を例に検討を加えたい。大路付加型モデルは、小路は割付幅に含まれているが、大路は別個に付け加えているので、造営工事未着手で全体計画を作成している段階に、一条条間大路を大路幅から小路幅にその幅を変更した場合には、第52図3の設計が計画されると想定される。設計図上の大路幅を任意の幅——この場合には30尺に変更すればよいので、385尺の基準線割付幅には変更が加えられないとすると、元々の計画とは一条条間北小路位置が移動する。変更を加えた路幅分が移動するだけであって、町幅には乱れが認められないと考えられる<sup>(注19)</sup>。ところが実際には第52図2の計画が採られている。全体計画は一条条間大路が大路幅で計画されており、その計画に基づいて周辺の条坊や町が実際に施工されている段階以後に、大路幅を小路幅に変更した場合がこの計画に相当すると考えられる。何らかの理由により、一条条間大路を小路幅に変更すべき理由が生じたが、この大路の周辺の造作作業がすでに進捗していたために、全体計画を一新することができず、“仕方なく”路幅のみを変更し、本来は路幅に充てられるべき部分を隣接した町へ組み入れたと考えられるのである。本来の計画(第52図1)に基づいて一条条間大路の中心線を設定し、実際に施工すべき道路幅の2分の1(=15尺)を基準線の両側から引き取るのである。この操作によって、変更を加えたために生じた残余の路幅の2分の1づつが隣接する町に組み入れられるのである。

このように、一条条間大路と西二・三坊大路は、計画段階では大路幅であったのが、施工段階で、それぞれ30尺、54尺に、急遽、変更したと判断されるのである<sup>(注20)</sup>。

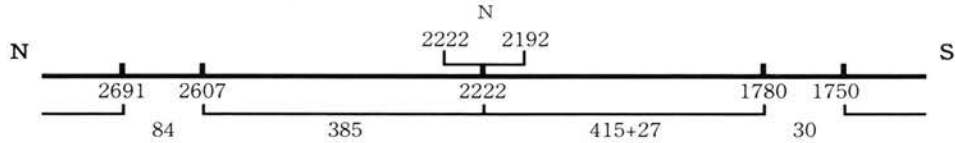
b. 一条条間北小路と北一条大路の間の町割り

一条条間北小路と北一条大路の間の町割りは、385尺割付に合致せずに、若干の不整合が認められる。南から385尺づつに割り付けてくると、一条条間北小路の基準線は、原点から2192尺の位置になり、ここから北一条大路の南側溝までは、385尺より30尺多い415尺に割り付けられている(第54図1)。第54図2・3のように一条条間北小路が設定されている場合も、同小路北側溝・南側溝は発掘調査で得たデータと同じ位置に設定されることになる。第54図2は、一条条間大路

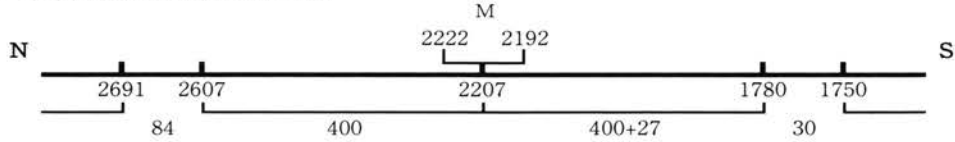
1 一条条間北小路が南側溝型の場合



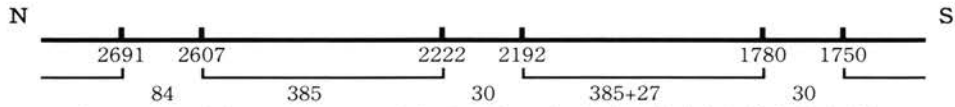
2 一条条間北小路が北側溝型の場合



3 一条条間北小路が中央型の場合



4 一条条間北小路が付加型の場合



第54図 一条条間北から北一条大路の計画（二条条間大路南側溝を基準線）

北側溝から一条条間北小路の基準線までが415尺に割り付けられ、同基準線から北一条大路南側溝までは385尺に割り付けている。第54図3は、一条条間北小路を中央型と考えた場合で、北と南の二町は400尺に割り付けられていると想定される。第54図4は見方を変えて、大路幅分が町幅に別個に付け加えられるのと同じく、一条条間北小路の幅分30尺を町幅に付け加えているとした場合である。一条条間大路と一条条間北小路、一条条間北小路と北一条大路の間の町を385尺に割り付けたとも言える。

これらの当否については、発掘データだけでは判断できない。二条条間北小路北側溝—二条条間北小路基準線までは、385尺より15尺大きい400尺で割り付けており、宮城内の地割りに規制されたものと考えられる(岩松1999)。このため、現時点では、第54図1の設計が採られたものと理解し、北一条大路までは、基本的に385尺割付の大路付加型で設定されており、一条条間北小路—北一条大路間のみは、何らかの理由のために、30尺大きく設定されたと考えたい。

(4)まとめと課題

以上、前稿の大路付加型モデルに修正を加え、北一条大路以北の町割りを450尺に設定した。そうすることで、北一条大路以北で近年確認されている新たな発掘データと北京極大路が実際には小路規模であることをうまく説明できたと思う。また、一条条間大路が小路であることに対しても、一定の解釈を提示できたと考える。

もし、今回提示した計画が当を得ているとするならば、北一条大路を挟んで北と南で都城の設計計画に大きな変更——基準線の割付幅が385尺から450尺へと変更されている。ここに何らかの断絶が認められ、延暦8年以前と以後という前期造営と後期造営による不整合が表れている可能性が指摘できる。山中 章氏によると、一条条間大路～北京極大路の4町分を北辺官衙と呼称す

ると、その地区出土の軒瓦の型式の差異から、南部(一条条間大路～北一条大路)は延暦8年前後、北部(北一条大路～北京極大路)は延暦10年前後に整備された(北辺坊の成立)とする。そして、この宮城北部地区の整備は、宮城の北部に配されていた大蔵群の整備とそれらを宮城内へ囲い込んだ結果と位置づけている(山中1992b)。宮城北部の整備に関する山中氏の指摘をまとめると、宮城北部地区の整備は延暦8年以降になされ、それ以南の整備と時期的にやや遅れるという点、その北部地区の中でも北一条大路～北京極大路間は北辺坊として、延暦10年以降に整備されたという2点に集約される。山中氏の主張するように、北一条大路以北の北辺坊が延暦10(791)年以降の整備であるならば、前期段階の“北京極大路”は、北一条大路であったと推定<sup>(注21)</sup>され、この条坊路の南と北で、条坊計画に差異が認められることに符号する。

また、一条条間大路は大路として計画されていたのが、施工時に小路へと変更されているのに対して、北一条大路以北では三条の小路が連続して計画・施工されている。見かけ上は、北一条大路の北と南で三条の小路が連続して配置されているが、詳細に検討することで、それらは計画段階の設計は全く異なっている点を明らかにした。割付幅の違いとともに、この点でも、北一条大路の北と南で不整合が見て取れることを確認しておきたい。

さて、北一条大路の北と南で小路が三条連続して設定されている点について若干の見通しを述べたい。宮城の南面は、大路と小路が交互に配されており、これには例外が認められない。これを“宮城に面する規格”とするならば、北一条大路以北は、“宮城に面しない規格”であり、左・右京街区と同じ規格になっている。また、450尺割付けは、北一条大路以北と五条条間南小路～六条大路間で見られ、京の北と南に現れている。南北条坊路に見られるように、宮城に面する大路・小路の配列規格とその施行精度の高さを鑑みると、東西条坊路にあっても、大路・小路の配列規格や施行精度も同等程度に高いと考えるべきであろう。そのため、東西条坊路の一条大路以北の配列および五条条間南小路以南の計画は、まさにそういった配列に“計画”した結果と見るべきであろう。これが何を意味するのかは、現時点では不詳と言わざるをえないが、長岡京を解明する上で、重要な点と考える。

先の論考をまとめてから2年と数ヶ月が経過する中で、新たな発掘データが増加し、長岡京の北辺に関して新知見が得られるようになった。小論は、それらのデータをいかに解釈し、大路付加型モデルに組み入れるか、という視点でまとめたものである。そのため、ここに提示した内容も、“現時点”のデータをいかに関連づけて条坊モデルを構築するか、という範囲を越えないものであり、新たなデータの出現とともに再考され、場合によっては新たなモデルに書き替えられるべきものであることは言うまでもない。

## 第6節 長岡京の完成度—長岡京の施行状況と遷都・廃都の事情—

### (1)問題の所在と分析の方法

長岡京は、古代日本国の首都として、政治・文化・国際交流の中心地であった。

文献史学の立場から、長岡京は、まず難波宮を解体・移築し、次いで平城京の諸建物を解体・

移築して、急ピッチで都城としての体裁を整えていったことが明らかにされている(清水1986a・1995)。詳細な文献資料の検討から、長岡京の造営には大規模造営が集中する時期として、前期と後期の二段階があったと考えられている。前期造営は延暦4・5(785・786)年、後期造営は延暦8～13(789～794)年にあたり、前期段階では難波京の解体と移建を中心とし、長岡遷都に伴う造営が一段落する段階である。後期段階は実際には、平安京の造営決定がなされる延暦11(792)年までで、平城宮・京の解体・移築と宮・京の再整備が行われた段階である(清水1986a)。

しかし、それでは、どれだけの範囲にわたって宮・京域が整備されたのか、そして、長岡京の計画に対してどれだけ工事が進捗していたのか、という疑問に対して、明瞭な見解は未だない。

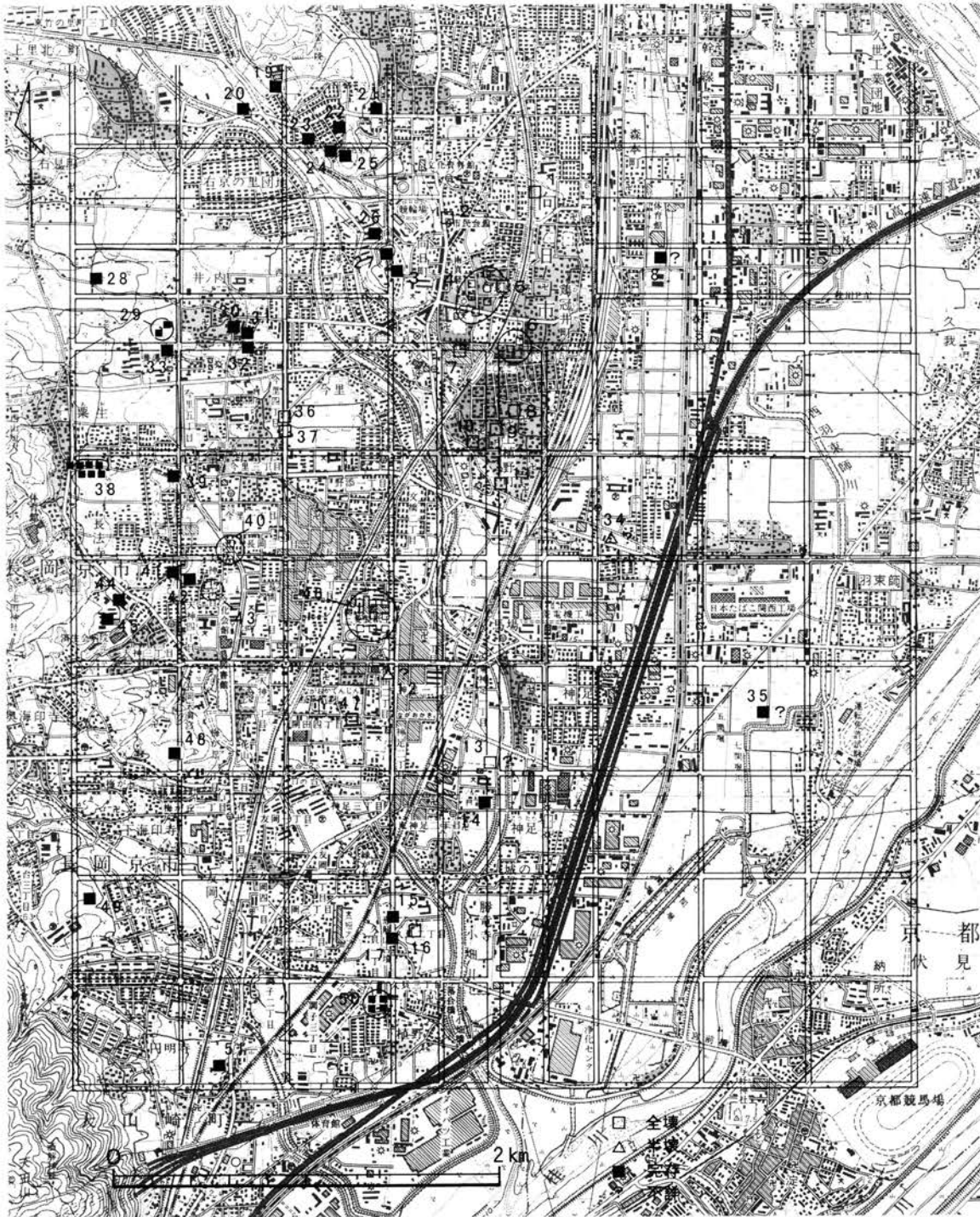
長岡京においては、京域全体にわたって稠密に発掘調査がなされているので、各調査において、長岡京の遺構が検出されているかどうかを検討し、その位置を図示することで、長岡京の造営範囲を推定できるものと期待できる。長岡京域の調査では、昭和50年代前半頃から、国土座標による表示が積極的に行われるようになり、検出された遺構の位置関係が正確に知られている。そのため、膨大な調査データを国土座標によって表示することが可能である。

さて、長岡京の条坊側溝が確認されている地点は、都城の造営が及んでいた地点と判断される。ところが、前節の「長岡京条坊制計画」で見たように、七条大路以南や京の北辺地域は、条坊側溝と積極的に認定できるものが少ないために、条坊計画自体が不確定である。そのため、条坊側溝の検出地点＝都城の造営という関係が成立しにくい状況である。そこで、発掘調査により、長岡京期の掘立柱建物跡や土坑などの遺構が確認されているかどうか、という情報が重要となってくる。条坊遺構が確認できなくても、長岡京期の遺構が稠密に分布している地点は、長岡京の都城内であった可能性が高い。この場合、次の二点を考慮しなければならないであろう。都城の“外”に位置していた集落跡を誤認している可能性と、長岡京の直前・直後の遺物を長岡京期と判断し、そうと誤認している可能性である。これらの点に関しては、長岡京期の遺構が適当な範囲に拡がって分布しているか、どうかを検討し、一定の傾向が認められるのならば、その可能性を排除できるものと期待される。さらに、古墳の破壊／非破壊が有用な情報になる。地表面に残っていない古墳であっても、発掘調査によって破壊された古墳が検出され、どの時期に破壊されたのかが分かる場合がある。ある古墳が長岡京期に破壊されている場合は、都城の造営がその地点にまで及んだためと推測できる。また逆に、現在にまで古墳の墳丘が残っている地点は、都城の造営が及ばなかった、もしくは、墳丘が宅地内の園池として、そのまま活用されたためと考えられよう。そのいずれであるかは、周辺地域での古墳の残存状況や長岡京関連遺構の検出状況を勘案することで、判断できよう。

このように、発掘調査によって条坊側溝データや長岡京期の遺構がどの範囲で確認されているのか、古墳が都城の造営によって破壊されているかどうかを検討することで、長岡京の造営範囲と工事の進捗状況を明らかにしたい。そして、こういった問いに答えることで、長岡京遷都と廃都の事情を明らかにする糸口を提供できよう。

(2) 都城の造営と古墳の破壊

長岡京の造営された乙訓郡には多くの古墳が存在する。発掘調査によって、長岡京の造営の際に破壊された古墳が多く確認されており、その集成作業には奥村(1986)、山本(1996)の作業がある。これらの作業を参考に作成したのが第7表の古墳一覧表と第55図の古墳分布図である。第56図は、地形図に古墳の分布と条坊の位置を重ねたものである。これらの図表を基に、都城の造営による古墳の破壊／非破壊について見ていきたい。



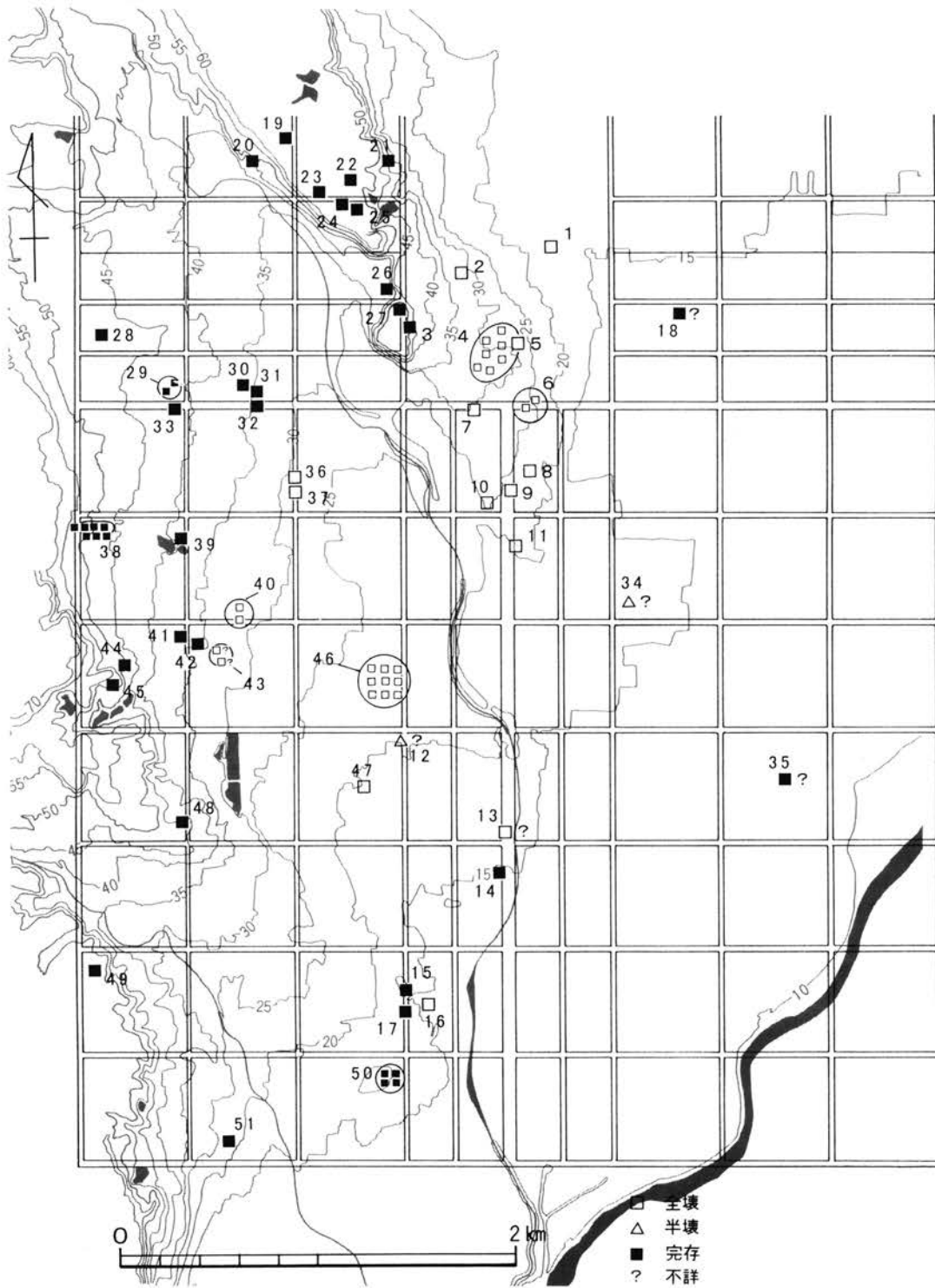
第55図 長岡京内の古墳(1) 番号は第7表に対応



第7表 長岡京内の古墳一覧表(○完存、△半壊、×全壊)

地区	番号	古墳名	墳形	規模	現状	造都	造都以前	備考	報告
宮城	1	山開古墳	円墳	径約22.5m	×	×	○	周濠埋土中に長岡京期の土器類が含まれ、長岡京造営に伴い埋め立てられた	平良1976
	2	中ノ段古墳	不詳	不詳	×	×	○	長岡宮造営に伴い周濠を埋める	中畷1980
	3	稲荷社古墳	円墳	径23m	○	○	○		向日市教委1995
	4	山畑古墳群	方墳×7 (内1は前方後円墳か)	一辺10~10数mの方墳×2。1辺25m前後の方墳または全長60mの前方後円墳	×	×	×	奈良時代建物(乙訓郡衙)に伴う整地作業によって埋没(1号墳)	高橋他1978、石尾他1982
	5	大極殿古墳	前方後円墳(円墳)	後円部(円墳)径13~14m	×	×	○	長岡京期の整地土が、周濠中央部のくぼみを最終的に埋没させている	山中1986a
	6	南開古墳群	方墳×2	一辺12~14m	×	×	○	周濠上部の土層中に長岡京期の瓦小片混じる	高橋他1979
南面街区	7	御塔道古墳			×	×	○?		小林・中山他1972
	8	円山遺跡	方墳×2	不詳	×	×	?	長岡京期の掘立柱建物が古墳の上にある。埋没時について言及なし	松崎1995
	9	法華寺古墳群	方墳?×4	一辺5~6m	×	×	○	長岡京の造営によって破壊か	國下1998
	10	西小路古墳	前方後方墳または帆立貝式古墳	不詳	×	×	○?	長岡京期の造成によって破壊された古墳か	向日市教委1995
	11	南小路古墳	円墳	径約20m	×	×	○?	前方後円墳なら全長30m。削平時期は不詳	秋山1989
	12	東羅古墳	円墳	径約10m	×	×	×	古墳上に掘立柱建物。長岡京期までに埋没	山本1990
	13	丸藪古墳	前方後円墳?	不詳	×	×	○?	朱雀大路路面上。長岡京の造営によって破壊か	原1990
	14	神足古墳	方墳?	一辺10m前後	△	○	○	勝龍寺城土壘SA16303内にほぼ完存	岩崎1985a・1986
	15	恵解山古墳	前方後円墳	全長約120m	○	○	○	周濠内から平安京の遺物出土	三上1975・1977、山本他1981・1990
	16	南栗ヶ塚古墳	方墳	15.5×18.5m	×	×	○	周辺の遺跡の様相から平安時代に壊された可能性もある	岩崎他1983
17	西ノ口古墳	円墳		△	○?	○		平良1989	
東街区	18	狐山古墳	円墳	径7.5~8.5m	△	○?	○?	不詳	向日市教委1995
西面街区	19	妙見山古墳	前方後円墳	全長115m	×	○	○		梅原1955
	20	牛廻り古墳	円墳	径40m	×	○	○	「塚の現状を見るに、もと径二十三間を測りたる完好なる封土は」	梅原1931、平良1989
	21	西垣内古墳	円墳	径8m	×	○?	○	劔拔式石形石棺出土	平良1989
	22	芝山ノ内古墳	円墳か?	径15~20m	×	○	○	「古墳は此の部に営まれたる径五六十尺の間にある円墳なるが」	梅原1931
	23	大牧1号墳	円墳か?		×	○?	○	土師質亀甲形陶棺	梅原1923、向日市教委1995
	24	大牧2号墳			×	○?	○	陶棺	梅原1923、向日市教委1995
	25	五塚原古墳	前方後円墳	全長94m	○	○	○		梅原1923・堤他1968

西 面 街 区	26	北山古墳	前方後円墳?		×	○	○	「字北山ナル竹藪中に存セシ瓢形墳ナリ。此ノ古墳ハ明治十七年ノ頃開墾破壊シテ後 略 全ク跡ヲ絶テルモ」	梅原1920
	27	元稲荷古墳	前方後方墳	全長84m	○	○	○		西谷1985
	28	井ノ内車塚古墳	前方後円墳	全長37m	△	○	○		堤他1968
	29	小西古墳群	方墳×2	一辺11~12m	×	○?	○?	埋没時期不詳。「かつて周辺にはいくつものマウンドがあった」	木村1990
	30	南内畑古墳	不詳		×	○	○	「鷹司様御領分乙訓郡井内村之図」に「塚」・「親王塚」と記されている、現在痕跡なし	山本1991
	31	下東ノ口古墳	不詳		×	○	○	同上	山本1991
	32	親王御塚古墳	不詳		×	○	○	同上	山本1991
	33	稲荷塚古墳	前方後円墳	全長46m	○	○	○	長岡京期に石材の抜き取り、墳丘は完存	福永1995・97
左 京 街 区	34	鴨田遺跡	方墳	一辺7m程度	×	×	×?	削平時期は不明；松崎氏御教示、長岡京造営以前に削平か	松崎1986
	35	茅原の塚古墳	円墳	径6m	○?	○?	○?	不詳	平良1989
右 京 街 区	36	今里庄ノ淵古墳	帆立貝式古墳	全長約40m	×	×	○	長岡京期に周濠を埋め立て	高橋他1980、石尾1985
	37	今里車塚古墳	前方後円墳	後円部径46.5m	×	△	○	西二坊大路造営に際して墳丘の一部を削平し、周濠を埋めた。地積図および『山州志』の車塚の地名があるので、長岡京期の破壊は部分的か	高橋他1980、木村1992、山本他1996、岩崎1998・1999
	38	長法寺七つ塚古墳群	円墳・方墳・帆立貝式古墳7基	10~20mの円墳・方墳、20m以上の帆立貝式古墳	△	○	○		堤他1968、原他1986・山本1988
	39	薬師堂古墳	不詳		×	○?	○	組合式家形石棺	平良1989
	40	舞塚古墳群	帆立貝式古墳、円墳	全長39m、径約15m	×	×	○	周濠内から長岡京期の遺物少量出土	高橋1979、山口博1983、山口博他1984、小田桐他1984
	41	細塚古墳	前方後円墳		×	○?	○		堤他1968
	42	今里大塚古墳	前方後円墳?	不詳	△	○	○	前方部および周濠の埋積時期は13C末~14C	岩崎1985b、木村1989
	43	宇津久志古墳群	方墳×2	一辺7~8m	×	×	?	埋没年代不詳。周囲の状況より、長岡京期には破壊か	白川1990
	44	力池古墳			×	○?	○	横穴式石室、刀、須恵器	平良1989
	45	南平尾古墳			×	○?	○	横穴式石室	平良1989
	46	開田古墳群	方墳×7、不明×2	一辺9~12m	×	×	○	2号墳と4号墳の共有溝に10数枚の和同開珎と神功開寶、古墳破壊に伴う地鎮か	山本1993
47	塚本古墳	前方後円墳	全長約30m	×	△?	○	周濠内および削平された後円部上から長岡京期の遺物出土。ただし「東塚本」の地名があることから墳丘の一部は残存していた模様。六条条間小路上に位置する	木村1984a・1985、竹井1988	
48	天神山古墳			△	○?	○	石材残存	平良1989	
49	西明寺古墳	円墳	径6m	△	○?	○	横穴式石室、提瓶	平良1989	
50	境野古墳群	円墳×4	径25~30m	△	○	○	葺き石・版築確認	林1981	
51	里後古墳			△	○?	○	全壊	平良1989	



第56図 長岡京内の古墳(2) 番号は第7表に対応

a. 宮城内の様相

宮城内に位置する古墳は、稲荷社古墳を除いて、すべて発掘調査によって確認された埋没古墳である。山畑古墳群や大極殿古墳は、朝堂院付近に位置しており、一部、奈良時代に整地されているが、すべて長岡宮の造営の際には破壊され、埋没している。南開古墳群や山開古墳、中ノ段古墳は、周濠内の埋土に長岡京期の遺物が混じっているため、少なくとも、長岡宮の造営が最終

的な埋没の契機になったと判断される。一方、破壊から免れ得た稲荷社古墳は、元稲荷古墳と同じく北山に立地している。ここは向日丘陵の中でも急峻な地形となっており、周囲とは比高差約20mの高所をなしている。そういった地形的な制約のゆえに、宮城内といえども官衙施設を配置され得ず、当該古墳は破壊されえなかったと考えられる。

宮城内の古墳は徹底的に破壊されて諸施設に供されているが、その地形が官衙施設に適さない場合は、破壊から免れている。

#### b. 宮城南面街区の様相

南面街区の古墳には、向日丘陵上の先端部に位置するものと沖積平野に位置するものの二様がある。前者は、周囲の平野よりも一段高くなっており、しかも、宮城に南接しているという一等地のため、すべての古墳が造都の際に破壊された埋没古墳である。法華寺古墳群や西小路古墳、南小路古墳、御塔道古墳、円山遺跡内方墳がこれである。

後者の、沖積地に位置するものには、丸藪古墳、神足古墳、恵解山古墳、南栗ヶ塚古墳、西ノ口古墳がある。丸藪古墳は、地中に埋没していた古墳である。その一部が発掘調査によって検出され、方墳もしくは前方後円(方)墳と推定されている。その埋没時期は、遺物の出土や遺構の切り合い関係からは不明で、朱雀大路路面上に位置していることから、少なくとも長岡京期には破壊されていたと考えられている(原 秀樹氏私信)。神足古墳は、勝龍寺城の土塁によって一部破壊されていたが、墳丘や主体部(木棺)が完存しており、造都の際の破壊から免れた古墳である。恵解山古墳・南栗ヶ塚古墳・西ノ口古墳は、隣接して造られており、破壊されているのは南栗ヶ塚古墳だけである。この古墳の北・東・南側で行われた右京第473・39・126次調査(以下、右京・左京・宮内第〇次調査をそれぞれR・L・P〇と略す)では、西一坊坊間西小路の側溝と判断される南北溝を確認している(岩崎他1983、岩崎1984・1996)ので、南栗ヶ塚古墳は長岡京の造営によって破壊されたと判断される。とは言っても、この古墳の周辺には、平安時代の大規模な掘立柱建物跡や溝などが検出され、第3次山城国府の可能性が指摘されている南栗ヶ塚遺跡が分布しており(中川1992)、平安時代の開発によって破壊された可能性も否定できない。恵解山古墳は、西一坊大路の路面上に位置しているが、その墳丘は完存している。西一坊大路は恵解山古墳の北側で工事が中断され、古墳より南への延伸を止めたと考えられる。

宮城南面街区では、向日丘陵上は徹底的に古墳が破壊されているのに対して、沖積平野上は造都による破壊が部分的である。また、恵解山古墳が西一坊大路の造営により破壊されていないので、この辺りが長岡京造営範囲の南端近くに位置していると言えよう。

#### c. 宮城西面街区の様相

宮城西面街区の古墳は大きく二大別され、一は、向日丘陵の西辺部に造られた一群、二は、向日丘陵の西側の下位に広がる沖積平野に立地するものである。前者には元稲荷古墳・北山古墳・五塚原古墳があり、同一の丘陵尾根線上に造られている。その地形が街区を造るのに適さなかったためか、京の造営による破壊から免れている。

後者には、向日丘陵の西裾に位置する牛廻り古墳、大牧1・2号墳と井ノ内稲荷塚古墳周辺の

古墳群がある。牛廻り古墳、大牧1・2号墳は、向日丘陵の西側の平地部分に位置しており、現状はすべて全壊状態である。しかし、大牧1・2号墳には陶棺出土の伝承があり、牛廻り古墳の「塚の現状を見るに、もと径二十三間を測りたる完好なる封土は(以下略)」(梅原1931)といった記載から、これらの古墳は近代まで封土が残っており、少なくとも造都の際の破壊から免れた古墳と判断される。

南内畑古墳、下東ノ口古墳、親王御塚古墳は、現在ではその痕跡が全く認められないが、「鷹司様御領分乙訓郡井内村之図」に「塚」、「親王塚」と記されているので、少なくとも江戸時代には塚として認識されていたことが分かり(山本1991)、長岡京の造営に際して破壊が及ばなかった古墳と言えよう。稲荷塚古墳は、長岡京の建設に際して石室の石材が抜き取られているが、墳丘は全く壊されていない。この古墳に近接する小西1・2号墳は、発掘調査によって確認された埋没古墳である。破壊された時期は確定できないが、東に位置する2号墳は盛り土が完全に削平されていたのに対して、1号墳は約1.5mの墳丘が残存していたこと、報告文にあるように、「土地の古老によればかつて周辺にはいくつものマウンドがあった」(木村1990)という聞き取りなどからも、近年までいくつかの封土が残存していたことが分かり、長岡京造営による破壊を免れた古墳と判断される。また、井ノ内車塚古墳の墳丘も現存している。

以上のように、宮城西面街区では、長岡京期に破壊された古墳は、全く見つかっていない。比較的稠密に古墳が分布する北辺部と西三坊大路以西は、ほとんどの古墳が近年に至るまで完存していたと判断され、この地区に造都工事がさほど及んでいなかったと推測される。

#### d. 宮城東面街区の様相

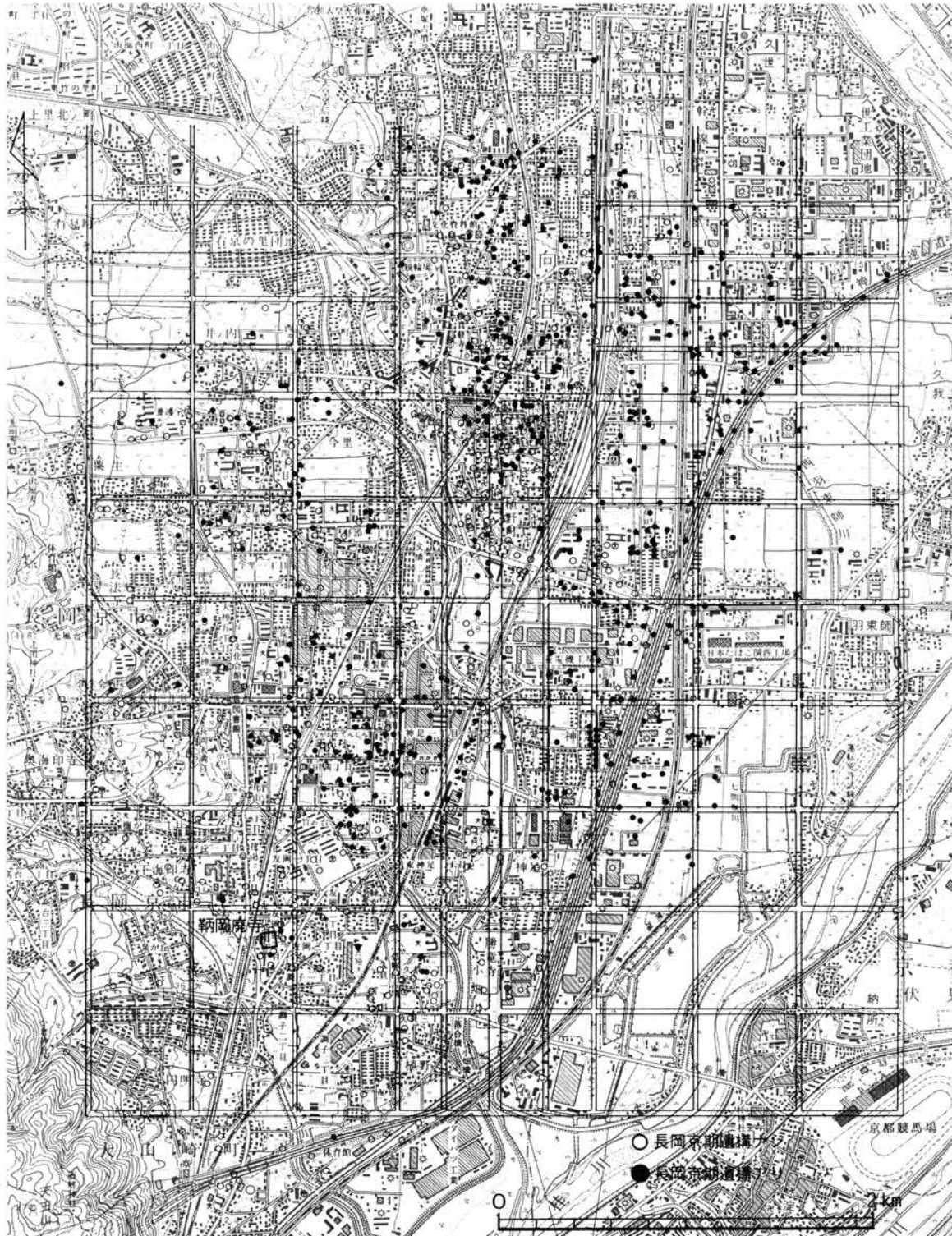
東面街区には狐山古墳があるが、古墳であるかどうかを含めて、その詳細は不明である。古墳であったとすれば、墳丘がほぼ完存しており、周辺では長岡京期の遺構が多数検出されているので、園地内に残されたために、破壊から免れた古墳と判断される。

#### e. 右京街区の様相

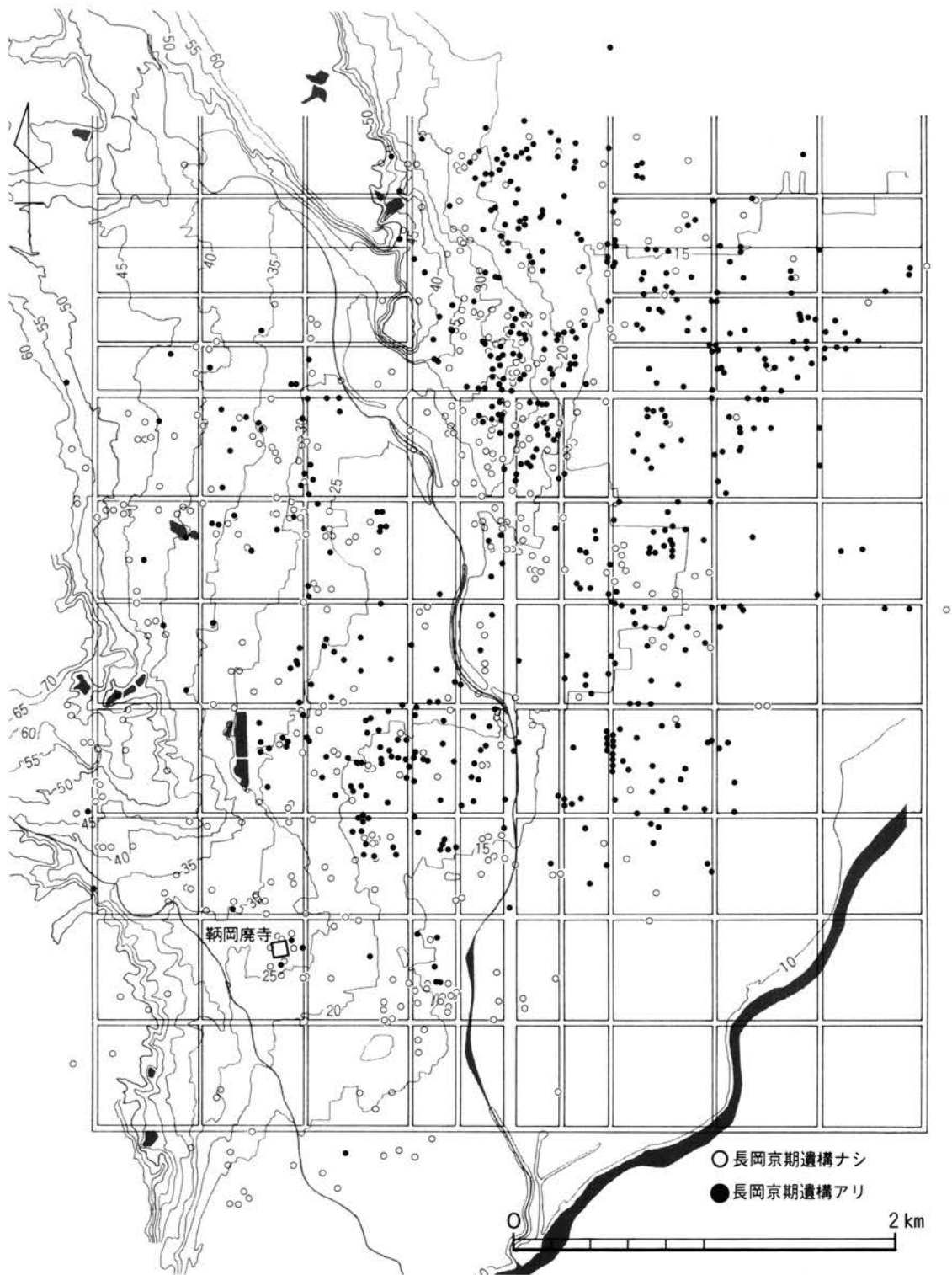
右京街区は、長岡京の西に連なる西山から東に延びる丘陵が張り出し、その丘陵上と裾部に多くの古墳が分布している。造都の際に破壊された古墳には、今里車塚古墳、今里庄ノ瀨古墳、舞塚古墳群、開田古墳群、塚本古墳がある。今里車塚古墳は、西二坊大路の造営に際して墳丘の一部が削平され、周濠が埋められたことが判明している。今里庄ノ瀨古墳や舞塚古墳群は、長岡京の造営により完全に周濠を埋め立てられている。開田古墳群は、周濠内に十数枚の和同開珎と神功開寶が埋納されており、造都の際の古墳破壊に伴う祭祀として注目される。六条条間小路上には、塚本古墳がある。この古墳も周濠内より長岡京期の遺物が出土しており、造都の際に埋め立てられた古墳であるが、周辺に「東塚本」という地名があることから、墳丘の一部は残存していた可能性が指摘されている(木村1984 a)。右京街区で、現在まで墳丘が残存し、長岡京の造営によって壊されていない古墳は、京域西辺に位置する長法寺七ツ塚古墳、細塚古墳、力池古墳、南平尾古墳、京城南辺の境谷古墳や里後古墳などがある。これらの古墳は、西三坊大路以西もしくは京城南辺部に位置しており、その分布はゾーンをなしているため、それぞれの古墳が個別の事

情で破壊から免れた結果とは考えにくく、より広範な理由——条坊の造営がそこまで至らなかったためと判断される。

以上のように、西三坊大路以東で、かつ、七条大路以北の古墳が、長岡京の造営によって破壊もしくはその一部に手が加えられているのに対して、西三坊大路以西及び京城南辺の古墳は全く破壊されていない。七条大路以北の古墳が残存しているのは、宮城南面街区との状況と合致し、



第57図 長岡京期の遺構分布(1)



第58図 長岡京期の遺構分布(2)

長岡京の造営工事が七条大路以南にまで至らなかったためと考えられる。

#### f. 左京街区の様相

左京街区は低平な沖積平野に位置しており、古墳がほとんど造られなかったためか、現地表面で確認できる古墳や埋没古墳はほとんど知られていない。ここには、茅原の塚古墳、鴨田古墳が

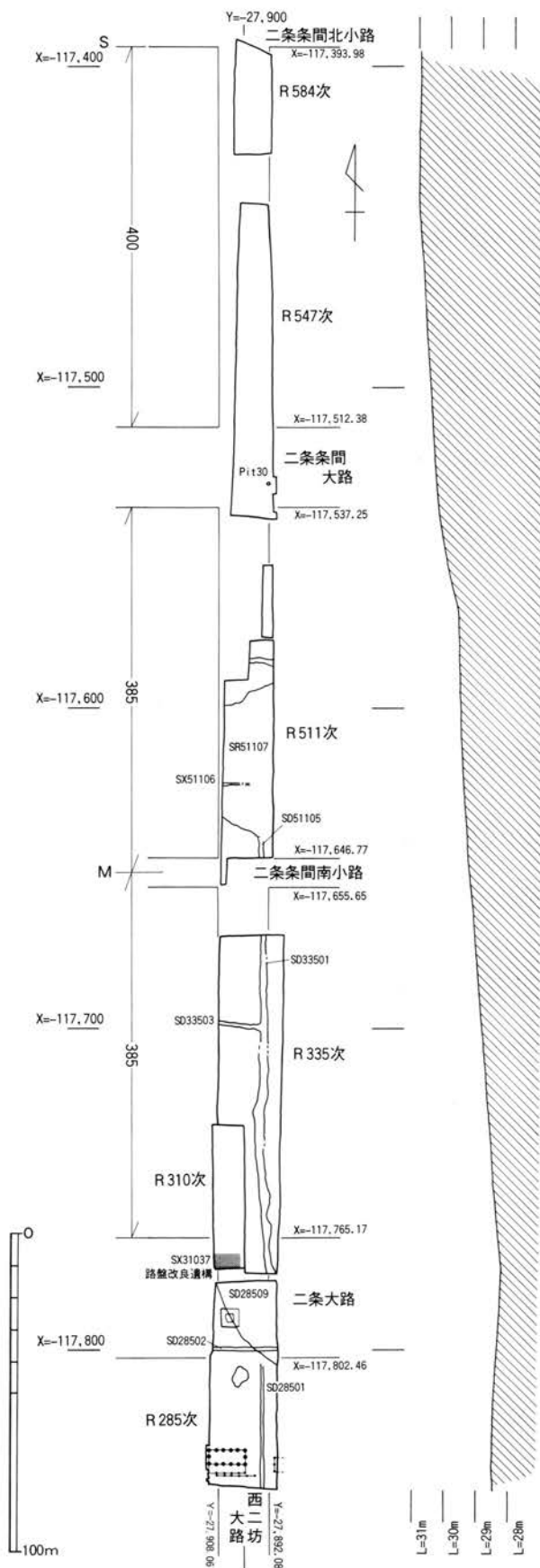
ある。茅原の塚古墳はその詳細は全く不明で、古墳であるかどうか確認できていない。鴨田古墳は布留期の小方墳で、完全に地表下に埋没していたが、その埋没時期は不明である。また、長岡京の造営によって、墳丘が削られたり、周溝が埋め立てられたかどうか、確認できていない。このように現時点では、長岡京の造営に関わって破壊された古墳を左京街区では確認できていない。

以上、長岡京の宮内・各街区に分けて、造都工事による古墳の破壊／非破壊を検討したが、これらを総合すると、西は西三坊大路以東、南は七条大路近辺より北側、西北部は大きく見積もって北一条大路近辺より南まで、長岡京の造営が進捗していたものと推定される。

### (3)長岡京期の遺構分布と京果ての様相

次いで、長岡京期の遺構の分布から、長岡京の造営範囲及び進捗状況を検討したい。長岡京期の遺構を検出した調査地点を集成したのが第57図である。調査地点の偏りや長岡京期の遺構の有無が地形的な要因である場合の理解を助けるため、同ドットを地形図上に重ねたのが第58図である。

調査地点は、国土座標によるX・Y値によって表示しているのに、国土座標表示がなされていない調査に関しては、図示していない。長岡京期の遺構の有無は、報告書内の記述をそのまま記しているが、南栗ヶ塚遺跡周辺の調査に関しては、その後の報文(木村1994)を基に修正している。また、河道内堆積層内から長岡京期の遺物が出土している場合は、その流路が長岡京期にそこを流れていた可能性は否定できないが、長岡京期の自然流路の存在だけでは条坊施



第59図 北西部の調査(1)



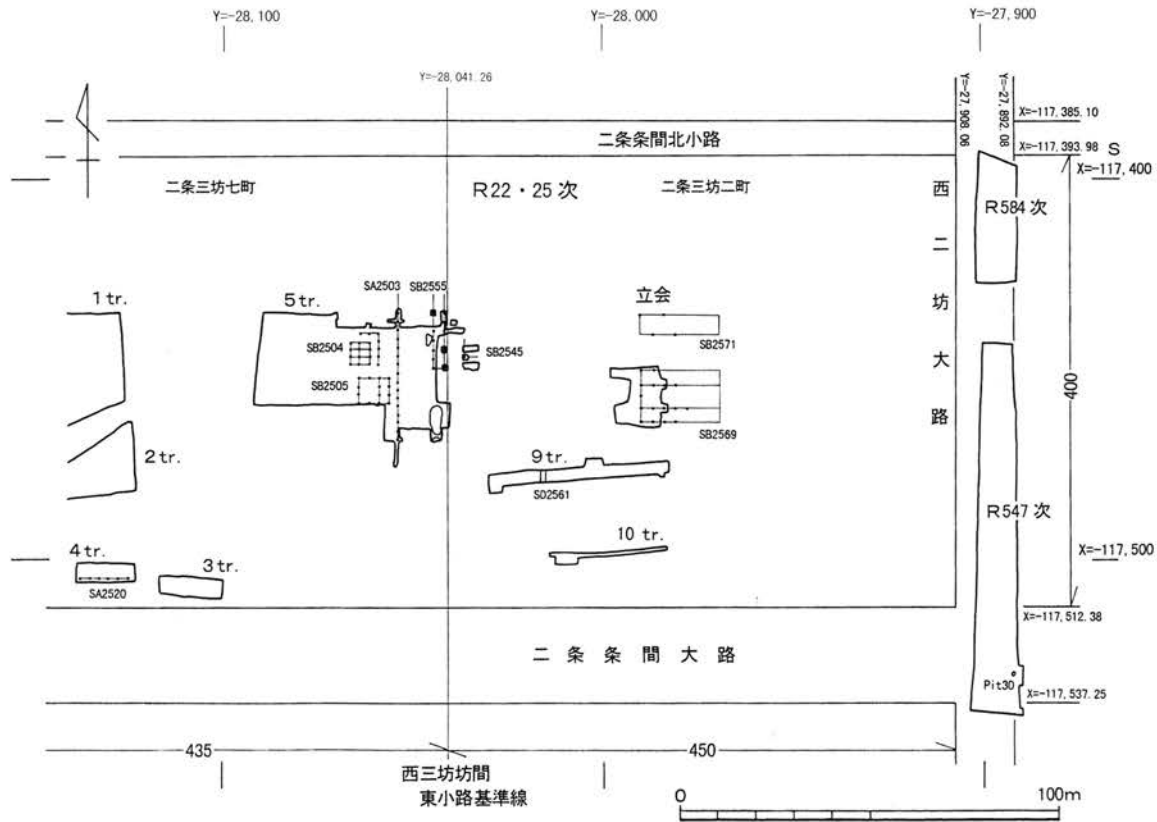
工の有無をそのまま反映しないし、遺物がその上流からの流れ込みである可能性も否定できないから、長岡京期の遺構としてカウントしていない。データは平成11年3月末時点で集成している。それぞれの地区に分けて、長岡京期の遺構分布の様相と“京終”近くの条坊施工の状況を見ていきたい。各図には、前節で見た大路付加型条坊モデルの条坊位置を示している。

#### a. 北西部の様相

宮城西面街区は、その北半部ではほとんど調査がなされていないが、発掘調査により長岡京期の遺構が検出されているのは、宮城に西接する向日丘陵上と二条条間北小路以南である。

まず、西二坊大路の敷設状況を見ておこう。西二坊大路上に道路建設が計画され、ほぼ全域にわたって調査が実施されている。第59図は、二条大路以北の調査を一覧にしたものである(石尾他1991ほか)。この図にあるように、隣接する宅地内の様相は分からないが、西二坊大路東側溝は、二条条間南小路の交差点付近まで確認できている。その北側には、人為的に埋め立てられた様相を示す自然流路S R51107があり、出土遺物から、長岡京造営段階に埋め立てられたことが指摘されている。また、S X51106は、東西方向に穿たれた杭列で、長岡京期～平安時代前期の土器が出土しており、長岡京期の可能性がある(石尾他1996)。それに対して、十四町中央以北の、R547次調査より北側では、長岡京期の遺構や造作事業は確認できず、主として、中世・弥生時代と判断される自然流路が確認されているだけである(柴1997、八木1998)。第59図の右側に、遺構の検出レベルを図示している。これを見ると、二条大路付近が28.5m程度で最も低く、ここから北と南に向けて徐々に高くなっている。十四町の中央より北では、勾配がやや急になって、十五町中央から二条条間北小路にかけては、標高31m近辺ではほぼ平坦になり、二条大路より約2.5m高い微高地をなしている。さて、長岡京期の遺構や造作が確認できているのは、十四町中央より南側に限られており、勾配がやや急になる地点とほぼ一致している。そのため、十四町中央より北側にも、本来は長岡京に関する遺構があったのが、現在にいたるまでに高い部分が削平を受けて、遺構が消失してしまったと考えられる。推定二条条間大路位置で検出したピット54730に注目すると、このピットは深さ約20cmで、ピット内から三枚の銭貨(万年通寶、神功開寶、不明)が出土<sup>(注22)</sup>した。奈良時代のもので報告されているが、同調査では他に奈良時代の遺構は検出されていないし、長岡京内で出土する銭貨の約2/3は万年通寶と神功開寶であり(松崎1992)、しかも、このピットが西二坊大路東側溝延長上の二条条間大路上で検出されていることから、都城造営に伴う祭祀遺構の可能性<sup>(注23)</sup>がある。もしこの考えが妥当であるならば、側溝底にさらに坑を掘って埋納されていたために、この遺構は削平を受けても残存していたと考えられ、削平によって、二条条間大路の側溝等が消失したと言える。実際、R547次調査の調査担当者は、「平安時代以前の遺構のほとんどが自然流路(洪水)によって削平されている」(柴1997)と、その所見を示している。

隣接した二条三坊二・七町で実施された、R22・25次(山本1997)調査では大規模な掘立柱建物跡が検出されている(第60図)。身舎が桁行四間以上、梁間二間の東西棟の南北両側に庇がつくもので、身舎の柱間は十尺、庇の出は十三尺で、桁行七間に復原されている。この掘立柱建物跡は、二町域のほぼ中央に位置し、貴族の邸宅の正殿もしくは離宮に伴う中心建物と推定されている。



第60図 北西部の調査(2) 右京二条三坊二・七町

二町域と七町域の間には、幅8～9mの空閑地が南北に分布しており、ほぼ西三坊坊間東小路位置にあたるが、側溝等は確認されていない。この空閑地が、二町域と七町域の間に敷設された小路であるのか、二・七町域の二町を占有した宅地内通路であるのかに関わらず、西三坊坊間東小路を意識したことには変わりなく、しかも、二町域のほぼ中心位置に大規模な掘立柱建物跡が位置しているので、この宅地、もしくは離宮が凸状に“京外”に位置していないとすれば、周囲の条坊に規制されていることは確実と言えよう。この宅地、もしくは離宮の様相から、少なくとも二条条間北小路以南の東西条坊路は敷設されていたと推定される。このように、西二坊大路近辺では、先の二条三坊二・七町の宅地の様相を考えると、少なくとも、二条条間北小路までの条坊路が敷設されていたと考えられる。

この地区の古墳の残存状況を見ると、造都の際に古墳は全く破壊されていない。北一条大路近辺以北に位置する古墳の全てが墳丘を保持していたのは、この付近まで造都の工事が及んでいなかったためと判断される。一方、長岡京期の遺構の分布を見ると、二条条間北小路までの条坊路が整備されていたものと推測される<sup>(注24)</sup>。さらに、二条大路と西三坊大路の交差点の北西に位置する稲荷塚古墳なども破壊されずに残っていることは、次の「西辺の様相」で見ると、西三坊大路以西が造営されていなかったことと関連しているであろう。二条三坊二町では、大形の掘立柱建物跡が検出されているので、全く宅地班給がなされていなかったわけではないが、二条大路近辺の勅使塚古墳などの小古墳がそのまま残っているのは、この近辺に条坊が施工されていたとしても、宅地としての利用がかなり部分的だったためと思われる。

## b. 西辺の様相

発掘調査による条坊遺構の分布状況を見ると、西三坊大路はR 83(山口博他1984)およびR 178(岩崎1985 b)次調査で、東側溝と判断される南北溝が検出されているだけで、西三坊大路以西の条坊遺構は確認されていない。古墳の破壊／非破壊で見たように、西三坊大路近傍以西の古墳がおしなべて、長岡京の造営に際して破壊されていないことと一致する。西三坊大路以西でもR 191(小田桐1987)やR 351(千喜良1992)で掘立柱建物跡、R 240(石尾1987)やR 246(小田桐1988)では井戸などの長岡京期の遺構が確認できているが、これらは面的に広く分布する様相は呈しておらず、かなり限定的なものである。そのため、西三坊大路以西の条坊路は造営されていなかったと判断される。そうすると、西三坊大路は長岡京の実質的な西京極大路と言えようが、比較的高低差のある丘陵が六条条間小路付近で東南に張り出しているため(第58図)、西三坊大路をこの丘陵上に敷設することは、現実的には無理である。実際、この丘陵上での西三坊大路の計画線位置付近で発掘調査がなされているが、長岡京期の遺構は全く確認されていない。このように、地形的な制約のために、西三坊大路は六条条間小路付近で南への建設を取りやめて、京域を東側へ縮小していると判断される。

この丘陵から、なだらかな台地がさらに南東方向に向けて大きく張り出しているが、この丘陵上の七条三坊五町には、長岡京の「京下七寺」の一つと判断されている鞆岡廃寺がある。鞆岡廃寺は、田辺氏の氏寺として7世紀代に創建され、宝菩提院廃寺、乙訓寺とともに、長岡京造営の際にはそのまま京内に残されて、「京下七寺」として、朝廷の用を勤めていたと考えられている(小田桐1986)。「京下七寺」は、延暦9(790)年9月に、皇太子安殿親王罹病に際して誦経させており(『続日本紀』)、長岡京内には七寺があったことが知られる。この記事の内容が正しいとするならば、「京下七寺」は、まさに「京内」に位置していたこととなり、その寺院の位置は「京内」であったと言える。そうすると、鞆岡廃寺の周辺には長岡京期の遺構が稠密に分布していることが期待される。ところが、この台地上では多くの調査がなされているが、長岡京期の遺構はほとんど確認されていない<sup>(注25)</sup>。R 217とR 70次調査がその少ない例である。R 217では、甕掘付穴を伴った掘立柱建物跡や溝・土坑が検出されており(木村1987)、R 70では、西三坊坊間西小路位置で東西溝、南北を正しく向く溝が検出されている程度である(高橋他1982)。多くの発掘調査で検出した遺構の大半は、奈良～平安時代初頭にかけての集落遺構で、ほとんどが真南北を向いていない。これは、鞆岡廃寺が建てられている方向が、北で西に13°45′振れていることも関係している<sup>(注26)</sup>のであろう。そういった遺構群の中に、一部、真東西を意識した構造物が造られており、長岡京期の可能性が指摘されている<sup>(注27)</sup>。長岡京の造営に先立ち、京内に編入される百姓は立ち退きを迫られているので、この鞆岡廃寺周辺の住民も立ち退かされたのであろうか。机上では、次の三つの可能性が考えられる。

一. 京内に位置しており、遺物を長岡京期とその前後の時期とに分離することが不可能であるだけで、実際には長岡京期の遺構が分布しているという考え。しかし、京内に位置しているのならば、都城の建設に先立って住民は立ち退きさせられて、条坊路が設けられ、新たにそこに班給さ

れた住民が条坊路と同じく真南北を意識した建物を数多く建てたことが期待される。ところが、実際はそのような様相ではない。

二、京外に位置しており、従来の集落が立ち退かされることなく、長岡京期にもそのまま集落を営んでいた。この場合、集落遺構が真南北を意識する必要はないが、鞆岡廃寺が「京下七寺」の一つに数えられないこととなる。

三、当初は京外であったのが、ある時点で京内に「編入」された場合。当初は京外であるので、一般住民が立ち退かされることはなく、そのまま生活を行っていたが、ある時点で京内に編入されると、急遽、条坊路の整備が行われ、真南北を意識した建物に変わっていく。

三は、鞆岡廃寺が「京下七寺」であることや、真南北を向かない遺構群が主体であることを説明できる。真南北を向く建物が非常に少ない点は、京内に編入されたのが遷都後十分に遅かったため、宅地を班給し、新たに建物を建てるだけの時間がなかったと考えることで理解できよう。実際、「京下七寺」が文献に出てくるのは、延暦9年9月であり、この直前に京内に編入されたとするならば、この周辺に長岡京期の遺構がさほど分布していないことも解釈できよう。その一方で、鞆岡廃寺の西方でR70次調査が実施されており、真東西溝と真南北溝を検出している。南北溝は、西三坊坊間西小路位置にあたり、東西溝は長岡京期のものと考えられている。このように、鞆岡廃寺周辺でも条坊路と判断される遺構が検出されており、条坊の整備にも遅ればせながら着手されていたと言えよう。

以上のように考えるならば、このなだらかな丘陵上は、当初は京外、ある時点から京内に編入されたと言えよう。

### c. 南辺の様相

長岡京期の遺構を検出した調査の分布を見ると、七条大路をやや南に越えたあたりが、長岡京期の遺構が分布する南限である。恵解山古墳のある久貝周辺を見ると、七条大路と西一坊大路が交差するあたりで、平安時代前期の大形の掘立柱建物跡が広範囲にわたって検出されており、第三次山城国府と推定されている所である(中川1992)。西一坊大路上には、恵解山古墳が現存している。この古墳の南側で、R121・139次調査が西一坊大路近辺で調査されているが、関連の遺構は確認されていない(木村1984b、山本他1985)。そのため、西一坊大路は、少なくとも恵解山古墳より南への造営は中断されたと判断され、八条条間北小路まででその造営を止めている。その一本東側の西一坊坊間西小路は、R39次調査で南北溝S D3904が同小路西側溝位置で検出され、R126次調査では、S D3904の南約80mの延長上でS D12601を検出している(岩崎1984)。この条坊側溝は、今までに確認された最南端の条坊遺構と言えるが、この位置は東西条坊路で言うと、八条条間小路近辺にあたる。このように、西一坊大路・西一坊坊間西小路を見ても、条坊路は齊一的に同じ位置まで造営されているわけではない。

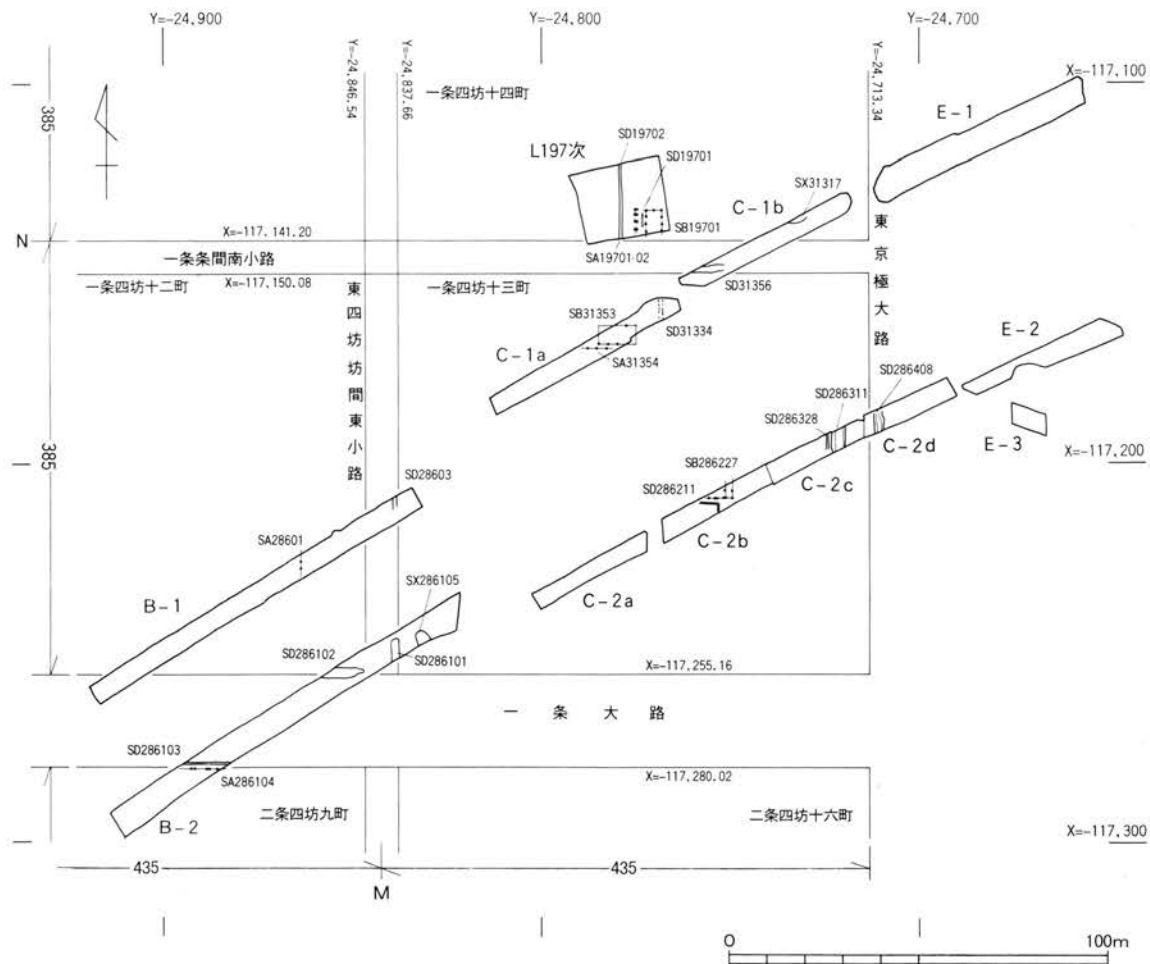
大山崎町内では、九条および京外で、長岡京期と判断される遺構が確認されている。R368では土師器を納めた土坑が確認されている(中川他1999)が、周辺地では同時期の遺構が検出されていないので、京域内の様相ではない。また、R525(古閑1997)やR578(古閑1998)では、長岡京期

前後の掘立柱建物跡が検出されているが、周辺での類例が少なく、出土遺物の量もわずかで、確実に長岡京期の遺構とは言えない状況である。

以上のように、長岡京の南辺は七条大路近辺で都の造作をほぼ中断しており、部分的に八条条間小路近辺まで造られている。それより南では、長岡京期の遺構がわずかに分布しているが、京内に編入されていた様相を示すものではない。

d. 東辺の様相

東京極に近い位置での調査には、今回報告した名神P.A.工区に先立って当調査研究センターが実施した名神京都工区の一連の調査、京都市埋蔵文化財研究所が実施した外環状線建設に伴う発掘調査がある。ともに、道路敷地内に調査トレンチを順次設定し、東京極を確定することを一つの目的としているが、確実にそれと判断されるものは確認できていない。第61図は、名神京都工区が発掘調査と周辺での調査を図示している(鍋田他1995、北田1989)。ここでの一連の調査では、東京極大路に東辺を画される町々が調査されており、長岡京の条坊呼称で言うと、左京一条四坊十二・十三・十四町に当たる。図中には、前節で検討した大路付加型モデルによる条坊ラインを図示してある。L313次調査C 1-b トレンチのSD31356は、報文では遺物の出土もなく、「明確な遺構と考えがたい」とあるが、一条条間南小路の南側溝位置にあたり、当該条坊側溝の

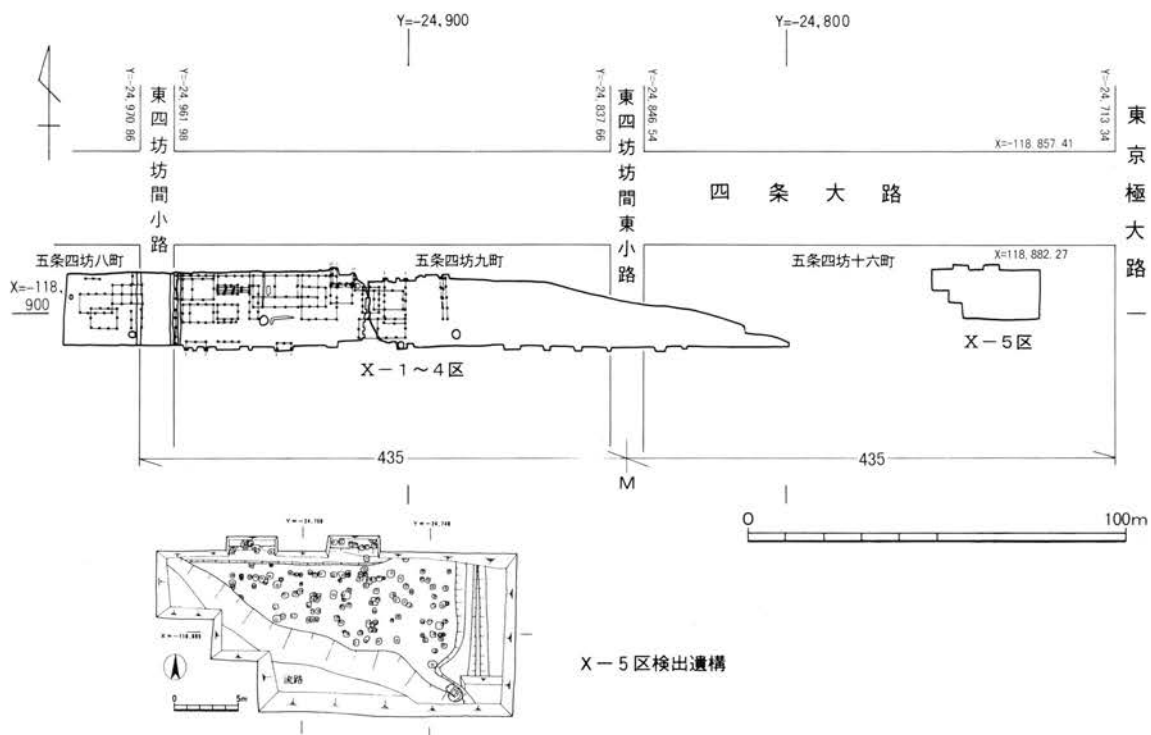


第61図 東辺の様相(1) 左京一条四坊十二・十三・十四町

残欠とも考えられるので、図中に示している。

東京極大路の位置は、東四坊坊間東小路の基準線が路面中央に位置するので、そこから435尺を東に割り付けて、東京極大路西側溝位置を図示している。この東京極大路位置の西側に位置する町では、掘立柱建物跡や柵列などが検出されているので、少なくとも、この十三・十四町域の東を画する溝(=東京極大路西側溝)が設定されていたと考えられる。また、東京極大路よりも東側では、明確な長岡京期の遺構が確認できていないので、何らかの“境界”が設定されていたことが推定され、東京極大路が施工されていた可能性が高い。東京極大路近傍位置には、S D 286311およびS D 286408の二条の南北溝がある。報告者の鍋田氏は、出土遺物の時期とその検出位置が同氏の主張する平城京型条坊モデルに合致することから、S D 286311を東京極大路西側溝と積極的に判断している(鍋田他1995)。図中の他の条坊側溝を見ると、条坊モデルと条坊遺構の検出位置がほぼ合致しているのに対して、S D 286311はそのズレがやや大きいと思われる。前節で検討した条坊モデルで考える限り、S D 286311よりもS D 286408を東京極大路西側溝と判断する方がよかろう。ところが、S D 286408は、溝中から古墳時代の土器片が出土しており、古墳時代の溝と報告されているため、その帰属時期が長岡京期でないという問題がある。現時点では、推定東京極大路近辺で南北溝が検出されている例は他にはないので、いずれかの溝を東京極大路西側溝と断定することは難しい。このように、東面街区の一条大路近辺では、東京極大路までの条坊路が造営されて、ほぼ完成していたと言えよう。

次に、左京街区での状況を見ておきたい。第62図は京都市埋蔵文化財研究所が実施した外環状



第62図 東辺の様相(2) 左京五条四坊八・九・十六町

線道路建設に先立つ一連の調査のうち、東四坊坊間小路より東側の調査に関するものである(長宗他1991、吉崎他1993)。この調査地の北側に四条大路があり、調査地は左京五条四坊八・九・十六町にあたる。詳細な報告はなされていないが、報文によると、X-1～4地区では、長岡京期の遺構は弥生時代・奈良時代の遺構とほぼ同一面で確認できたこと、中央部が最も低く東西に向けて微高地をなしていること、東部の微高地には北で西にやや振れる方位を有する奈良時代の掘立柱建物跡が分布すること、十六町の宅地には通路が確保されて、小規模な建物が重複して建てられていることが知られる。X-5地区は東京極大路近辺に設定したトレンチであるが、東京極大路の推定地は西羽東師川の旧流路の流域が広いことが東側の調査によって判明していたので、「西羽東師川の影響を受けていない部分を確認し、そこに調査区を設定し」ている。この調査区では、X-1～4地区の奈良時代掘立柱建物跡を検出した東側の微高地とはほぼ同じ標高で、中世流路の肩と奈良時代および長岡京期の遺構群を確認している。調査面積が狭く、建物には復原されていないが、X-1～4地区の奈良時代掘立柱建物跡の方位とは違って、真北を意識した柱穴掘形と柱並びが見て取れるので、少なくともその一部は、長岡京期である可能性が非常に高い。

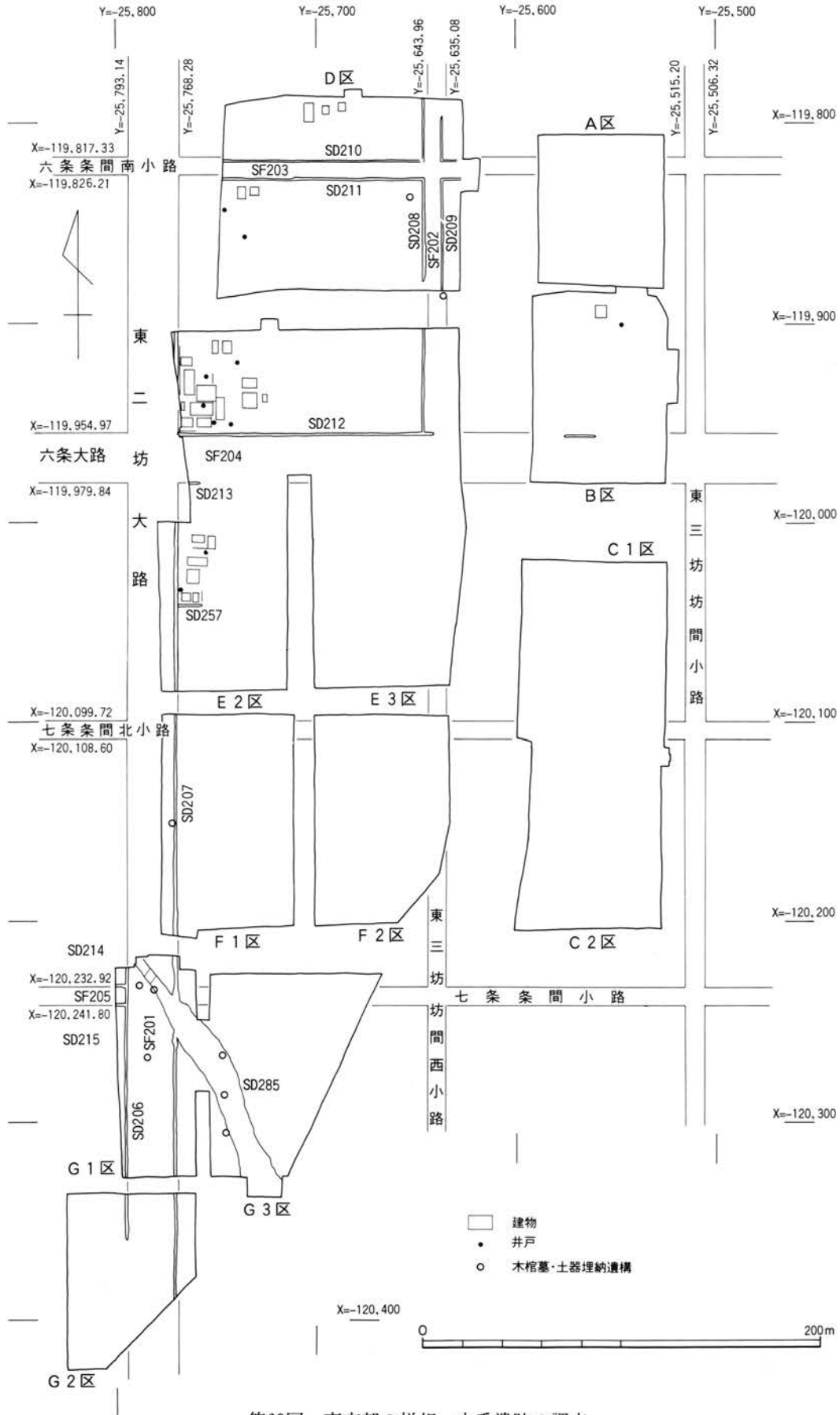
さて、長岡京期の遺構に着目すると、九町のほぼ中央に南北の柵列があり、この西側に通路状の空地が見て取れる。これより東側は遺構の分布はなく、空地をなしている。ここは中央部より微高地をなしていて、奈良時代の建物群が見つかる<sup>(注28)</sup>ので、後世の削平のために長岡京期の遺構のみが消失したとは考えられない。そのため、この東側には、東四坊坊間東小路などの条坊路をはじめとして、掘立柱建物跡などの宅地関連の構造物は当初から造られていなかったと判断される。すなわち、九町の中央以西は条坊路・宅地が整備されているのに対して、これより東側は条坊路の造営を中断して、そのままにしているのである。

京外に眼を転じると、X-5地区は上述のように、長岡京期に建物が存在していた可能性が高い。そうすると、九町中央付近からX-5地区に至るまでは、長岡京期の構造物が全く無く、京外には長岡京期の構造物があったという、奇妙な状況が現出するのである。これは、長岡京建設予定地内の土地利用が制限されていた結果と考えられないであろうか。条坊路を敷設することが計画されているがゆえに、空地として残されていたのだが、最終的に条坊路が施工されなかったのであろう。このように、空地として残されていた状況は、八・九町には小規模な建物が建て替えられている事実から、比較的長期間にわたって存続していたことが知られる。

以上、左京域においては、東京極大路近辺までの建設が完了していることが分かった。そして、四条大路近辺の調査例を検討することで、東京極大路の手前で中断された条坊路の建設は、比較的長期間にわたって中断されていること、長岡京廃都決定時に造営工事がとり止めになったのではないこと、都城建設範囲は工事が中断した後も都城が建設されることと意識されていたということが確認できた。

#### e. 東南部の様相

長岡京の東南部は、桂川が斜めに横切り、現地形では、五条以南が斜めに三角に欠けている。ここでは、京都市埋蔵文化財研究所が実施した水垂遺跡・左京六・七条三坊(以下「水垂遺跡」)



第63図 東南部の様相 水垂遺跡の調査



と呼称する)の調査成果が重要である(長宗他1998)。水垂遺跡での一連の調査で、左京六・七条三坊付近の条坊側溝の施工のあり方が判明した(第63図)。東二坊大路西側溝は、七条条間南小路の南側約100mで消滅し、東三坊坊間西小路は、六条条間南小路までは両側溝が造られているが、それ以南は西側溝のみで、六条大路以南では西側溝も消滅する。六条条間南小路は、東三坊坊間西小路交差点までは造られるが、それより東側では検出できていない。六条大路は、東二坊大路交差点までは両側溝が、それより東側では北側溝だけとなり、東三坊坊間西小路より東では北側溝も消滅する。七条条間小路は東二坊大路までは造られるが、それより東では消滅する。これらの条坊側溝を検出した標高はほぼ同じで、「道路未検出部分は後世の削平などによって消滅したのではなく、京域造営当初から施工されていない」と結論づけている。

東二坊大路と七条条間小路の交差点には橋が架かり、川が北西から南東に向かって流れている。この川跡内から多量の土師器や土製品が投棄されて、疫病や悪霊が京内に入り込まないように「京果ての祭り」が執り行われたことが判明した。これらの祭祀具は出土層位から3回程度執り行われたと推定されており、延暦10(791)年銘の木簡が中層から出土しているので、延暦10年以前から、この地が京果ての祭祀場と意識されていたことが分かる。また、宅地の利用では、六条三坊四町の南西部で多くの掘立柱建物跡を検出している。建物の建て替えが認められることから、比較的長期間にわたって宅地として利用されていたことが推測されるため、遷都後の遅くない時点にこの地の条坊側溝が造作され、宅地として班給されたものと判断される。祭祀場の木簡からは、少なくとも延暦10年以前に、宅地利用のあり方から考えると、遷都後の遅くない時期に、条坊路の造作が中断されたこととなる。ここでも、平安京遷都を決定した際に、長岡京造営工事が中断されたのではない点が重要である。

このように、水垂遺跡のあり方から、長岡京遷都決定以前に条坊の造営が中断されて、実質的にここが「京果て」と意識されていたこと、この中断は比較的長期間にわたっていて、その後、造営工事が再開されなかったことが知られる。これは先に見た、外環状線の一連の調査で見た四条大路南側の東京極大路近辺の様相と一致する。水垂遺跡で確認できた小路の造営中断は、長岡京造営当時も桂川が北東-西南に流れていたために、その氾濫源が大きく長岡京の東南部に分布し、条坊路を建設しようにも建設できなかったためと考えられる。いわば、不意の中断といった状況ではなく、準備された中断、計画に組み入れられた中断と言えよう。このような水垂遺跡で確認できた「計画に組み入れられた中断」は、長岡京の東南部分全体の条坊計画と施工のあり方を示していると判断される。

以上の状況と、東辺の様相および長岡京期の遺構が検出された地点の分布から、南は四条あたりまでがほぼ東京極大路までの条坊が施工されており、四～五条付近からはほぼ現存の桂川に平行して、条坊の施工が中断されていたものと判断される。

#### f. 北辺の様相

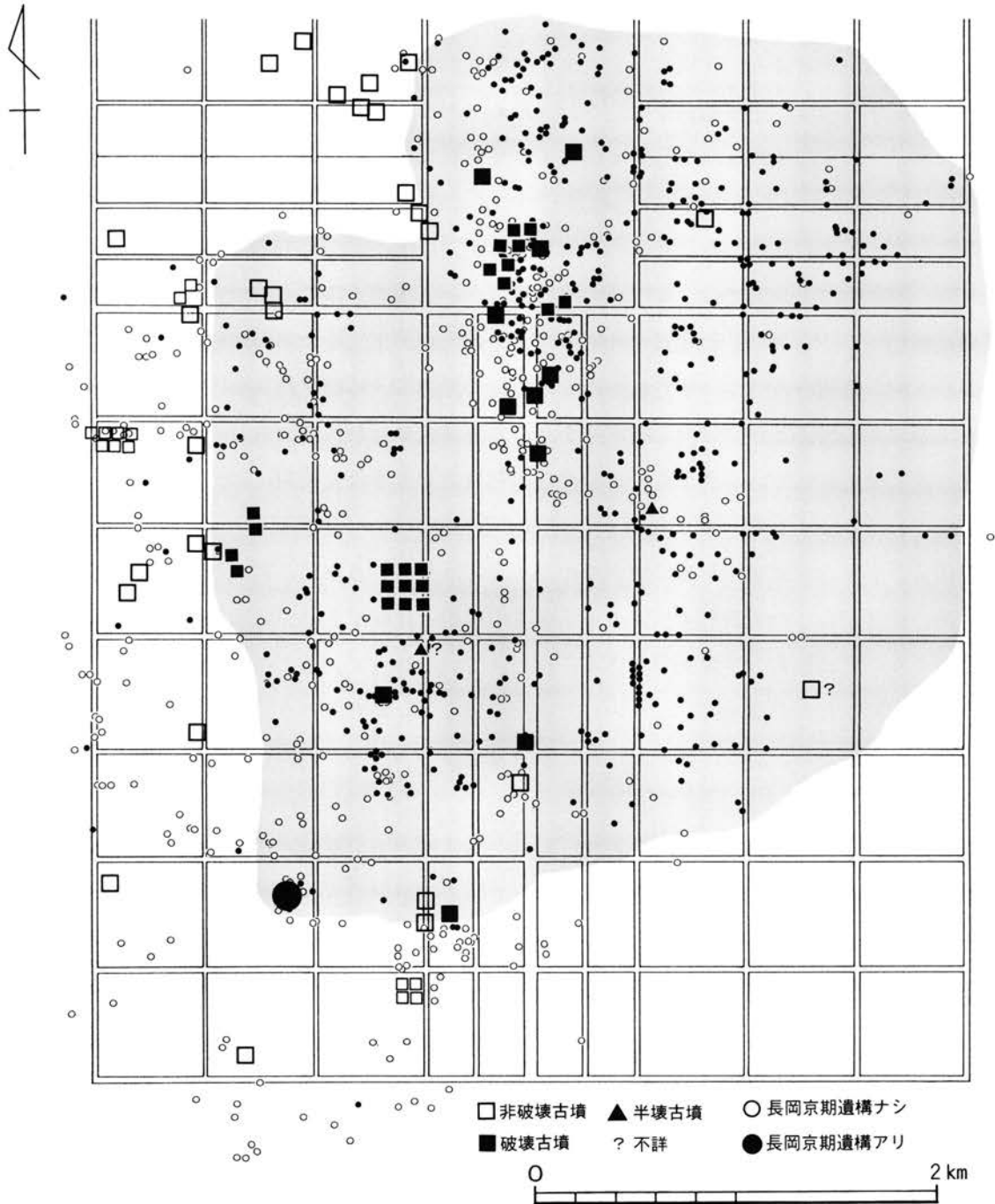
京域の北辺部については、まだまだ不確定な要素が多い。これは、近年の調査成果により、北京極大路が北にずれたことや一条条間大路が小路クラスであったことが判明したためである。そ

のため、長岡京の北限に関しても再考を促される状況に至っている。京の北部の確定については、まさに今後の調査の進展を待つ必要がある。

長岡京期の遺構を検出した地点の分布を概観すると、大まかには、「北京極大路」近辺までの造作は行われていたものと言え、宮域北部は、少なくとも、北京極大路の1町分北側までが何らかの形で、宮内として組み込まれていたと言えよう。

(4)長岡京の施工範囲、およびその計画と平安遷都

a. 長岡京の施工範囲とその計画



第64図 長岡京の造営範囲

前節と前々節で検討した古墳の残存状況と長岡京期の遺構の分布から、長岡京の造営範囲を示したのが第64図である。大まかには、西北部・東南部を除き、東西は東京極大路から西三坊大路まで、南北は北京極大路付近から六条大路～七条大路までの範囲がほぼ完成していたと言える。西北部の宮城西面街区は、せいぜい一条大路以南までが施工されていた状況である。これらの知見をもとにすると、長岡京が実際に施工された範囲は、長岡京が平城京や平安京とほぼ同じ計画——東西八坊、南北十条の計画であったとすると、その5/8程度が実際に造営されていたと考えられる。さて、ここで問題となってくるのは、発掘調査により所々で観察される造営工事の中断は、長岡京廃都決定のために中断されたのではないという点である。総論としては、長岡京廃都・平安遷都決定により、長岡京造営工事が中断されたことは明らかである。もし、単純に、長岡京が完成する以前に平安遷都が決定されたため、ある時点で都城の造営工事が一斉に中断され、そのために、西三坊大路以西や七条大路以南が検出されないのならば、施工が完了した条坊路の外側には、「造りかけの条坊路」や「破壊しつつある古墳」が所々に分布していることが期待される。ところが先に指摘したように、長岡京廃都決定以前に、造営工事を中断している例が散見される。水垂遺跡の調査では、東二坊大路の建設を七条条間小路の南側で止めており、そこが長期間にわたって「京果て」と意識されていた。そのため、東二坊大路の建設は、平安京遷都決定に関わって、急遽、造営が中断されたのではないのである。外環状線における調査では、中断された工事のすぐ横までが京域内に組み込まれ、宅地班給が行われている。その宅地では掘立柱建物跡が建て替えられている点から、この近辺の都城造営工事は長期間にわたって中断されていたと推定される。また、西三坊大路近辺に分布する古墳には、「破壊途中」のものが認められず、都城造営工事＝古墳破壊を不意に取りやめた状況ではない。さらに、宮城西面街区の北辺部では条坊路の造営がなされておらず、宮城東面街区の様相と比較すると、意図的に造営工事を行っていないように思われる。造営工事が盛んに行われている時点で、急に長岡京廃都が決定され、造営工事が中断されたのならば、こういった状況にはならないであろう。そのため、平安遷都決定以前のある時点から、比較的長期間にわたる造営工事の中断が、長岡京の至るところでなされていたと推測される。

以上のことから、長岡京の造営にあたっては、ある地点まで都城の造営が進んでくると、工事を中断し、その状況を長期間にわたって放置していることが明らかとなった。この理由には、次の二様の場合が想定される。一は、何らかの理由により、その地点で工事がストップし、たまたま、その状況が長期間放置された場合である。それぞれの地点で生じた個別の事情が偶然積み重なったという考えである。二は、当初から、その地点で工事を中断することが計画されていたという考えである。

筆者は、二の立場を採りたい。造営工事を長期間にわたって中断させた「何らかの理由」が、それぞれの箇所で個別に生じ、それが累積したとは考えにくいからである。また、西三坊大路近辺に位置する古墳の残存状況も、大路の東と西で大きく異なっており、もし個別の東西条坊路の建設が個々の事情により中断されたのならば、こういった斉一的な状況にはならないであろう。

さらに、七条大路と西京極大路の交差点付近に位置している西山田遺跡でも、水垂遺跡と同様、流路内に多量の土器や土馬が廃棄されており、京果ての祀りを執り行った所と考えられている(山本他1984)。水垂遺跡の祭祀とともに、広く、七条大路近辺が京果て=京の南限と意識されていた証左となろうが、こういった意識は、それぞれの条坊路の建設工事が個別の事情で中断されたような状況下では現れないであろう。<sup>(注29)</sup>これらの理由により、当初より、その地点で造営工事を中断することが事前に「計画」されていたと考えたい。

造営工事が中断された理由をこのように考えた場合、元々の計画が、一、「その大きさの都」が計画されていた場合と、二、「より大きな都」が計画されていた場合の二様が想定される。一は、工事の最終目的を達成したための中断であり、二は、造営手順の中に織り込まれた中断であったと言えよう。

この問題を検討するに当たって、各都城の四至の決定について検討したい。まず、平安京を見ると、『類聚国史』107左右京職の延暦16(797)年4月己未条に、造西寺次官笠朝臣江人の名があるので、この時点で東寺・西寺の造営が始まっていたと考えられる。<sup>(注30)</sup>『日本後紀』弘仁7(816)年8月16日には「夜大風。倒羅城門。」とあり、遷都直後の早い段階で羅城門が完成していた。これらの記事から、平安遷都直後に平安京の南辺が確定していたと判断される。平城京は、文献からではよく分からない。興福寺は左京三条七坊にあり、中金堂院の北面回廊基壇上で、三条条間南小路側溝と判断される溝を検出している(高瀬・箱崎他2000)。この溝間は、小尺の20尺と判断され、和銅6(713)年の度量衡改正以後の造営であることが判明した。養老4(720)年10月には「造興福寺仏殿司」が置かれているので、713~720年の間にこの地に遷ったと考えられる。以上のことから条坊側溝は遷都後早い時期、10年を経ずに掘削されていたと推定され、興福寺のある外京の東端付近まで、平城京における都城の施工が完了していたと判断される。京の南辺付近では、左京九条三坊十坪の調査では、4時期に亘る建物群が検出されている(田辺他1986)。報告によると、Ⅱ期の井戸S E 3615の井戸枠木材の伐採年代は、年輪年代法によると、721年と推定されており、伐採後間もなく井戸枠に用いられたとすると、それより古いⅠ期は、平城京遷都後の比較的早い段階である可能性が指摘されている。<sup>(注31)</sup>もし、伐採材が井戸枠としてすぐに使用されたとするならば、京の南辺もまた、遷都後の比較的早い段階で決定されていたものと推定される。これらの事例から、平城京も遷都後の早い段階で、四至までの建設もしくは、その計画範囲が確定されていたと推定される。<sup>(注32)</sup>

このように、平城京・平安京の建設にあたっては、京の四至が遷都直後の早い段階に決定されていたと考えられる。それに対して、長岡京では、北京極大路についてはよく分かっていないが、八条条間小路以南や西三坊大路以西では条坊遺構が確認されていないし、東京極大路も、せいぜいその一部しか造営されていなかった。長岡京ではこのように、京の四至がほとんど造られていなかったと考えられる。また、それぞれの小路・大路は、ある条坊路まで一斉に造られて、そこで造営を止めている状況でもない。水垂遺跡で見られるように、条坊路の建設を平面的に見て凸凹に止めていると判断され、そのため、先述の西三坊大路を除いて、いずれかの条坊路が京の四

至を限る「京極路」として代替されていたとも考えられない。こういった点から、元々は、さらに大きな都が計画されており、中断すべき地点までの建設が完了したために、予定通り工事が中断されたと考えられる。中断後のある時点で工事を再開し、当初に計画された大きさの都を完成させようとしたのであろう。先に個別の事例で見たように、中断後に造都工事が再開された様子は認められない。とすると、実際に施工された長岡京の条坊範囲——東西八坊、南北十条のうちの8分の5程度は、長岡京の第一期造営計画がほぼ完了したものと考えられる。このように考えると、長岡京の施工面積が平城京の8分の5程度しかない点や、京の四至を確定していない点、長岡京を廃して遷都した平安京は、平城京とほぼ同じ面積に復されている点が理解できるのではないだろうか。

長岡京を造営するに際して採られた計画は、平城京・平安京とほぼ同じ京域を造成するという計画であったが、最初から京の端までを造るのではなく、段階を踏んで造っていくというものである。一段階目は、全体計画の2分の1強の範囲の完成が最優先され、二段階目は、残りの範囲、京の四至を決定し、平城京と同程度の都を建設するというものであった。それがたまたま、第一期分の施工範囲が完了した時点で長岡京が廃されたのであろう。

清水みき氏は、史料に見える長岡京の造営記事が二時期に分かれることに着目し、延暦5(786)年中頃までの遷都に伴う一連の造営を前期造営、延暦8(789)年以降を後期造営と考えている(清水1986a)。『続日本紀』延暦5年5月3日には、「新遷京都。公私草創。百姓移居。多未豊贍。於是。詔賜左右京及東西市人物。各有差。」とあり、百姓が新京内に多く住んでいたことが分かる。左右京・東西市人に物を賜って、慰撫していることから、この時期に都城の造営が一段落したものと推測される。これを第一期造営分がほぼ完了したためと考えたい。そのため、清水氏の言う前期・後期造営をそれぞれ第一期・第二期造営分に相当するものとし、以下の論を進めたい。

#### b. 長岡京の遷都と廃都

従来、長岡京の廃都については、その理由がさまざまに論じられ、古代史の一つの謎となってきた。皇太子を廃されて、淡路国に流された早良親王の怨霊に悩まされた桓武天皇が長岡京を捨てたとする考え(怨霊説：喜田1979、佐伯1958)、長岡京が水害に対して極めて弱い地形であることが判明し、それを改造するためには新たな都を建設するのに匹敵するほどの巨額な費用が必要であったため改造をあきらめて新都の建設を決意したという考え(水害説；小林1975)、桓武は平城京内にある諸大寺の伝統勢力を脱するために平城からの遷都を第一義としたが、その意図が種継の意図(長岡遷都)と偶然に一致したために、長岡京への遷都が実現したが、長岡京が地理的に手狭であったために、平安京へと遷都したという考え(地形狭隘説；安井1956)、新王朝の創設の気概を持って天皇に即位した桓武天皇は、中国の天命思想に則り、新王朝は新都を造営すべきと考え、長岡京に遷都したとする考え(天命説；滝川1967)、新王朝を起こすほどの気概を持って長岡京に遷都したにも係わらず、その地が早良親王の祟りや大雨などの災厄のために穢れたものとなり、それをやり直すために平安京への遷都を決意したという考え(新王朝創始説；清水1995)、

などが提出されている。

先に見たように、長岡京は、平城京や平安京と違って、二段階に分けて造営計画が実行されたという点を手掛かりに、長岡京遷都と廢都の事情に迫ってみたい。

まず、前期造営の2分の1強の大きさの都造りはどう考えればよいであろうか。桓武天皇は、平城京を廢するに当たっては長岡京の完成までの迅速さを優先させたために、最低限必要な範囲の造営を行ったと考えたい。長岡の地は、平城京と同等の都を造営するには狭隘な地であったが、「水陸交通の便」に長じ、都の資材を運搬してくる難波京にも近いという長所があり、第一期分として計画された都の狭小さは、都が完成するまでの日時を短縮することを保証したと考えられる。桓武天皇は、長岡京遷都に際して平城京を廢することを第一義とし、優先させたのではなかろうか。そのため、京の四至はあえて確定せず(東京極に関しては、その施行範囲を明示していたと思われるが)、宮城と京の中心部分を重点的に建設させたのであろう。そのため、計画通りの地点で条坊路の建設を取りやめ、条坊路施行範囲は京内として宅地班給がなされたのであろう。

ところが、平城京の解体も順調に進み、反対勢力も平城京にはもはや天皇が戻らないことを納得せざるをえない状況に至ると、手狭な長岡京は、桓武天皇にとってはやや不満なものに思えてきた。新王朝に匹敵するほどの気概をもって造営した都城(清水1995)が、先の都よりも手狭では、桓武天皇としても納得できないものである。また、平城京派にとっても、長岡京の狭隘さは、桓武天皇への攻撃材料であったのであろう。こういった事情の中で、第二期分の後期造営が開始され、平城京並の大きさの都城へと整備する工事が行われたのであろう。と同時に、数年間にわたる長岡宮の使用にあたって宮城内の不備が目立ってきたために、宮城の大改造も行われることとなり、あわせて、条坊計画の変更も行われたようである。<sup>(注33)</sup>

前節で見たように、近年の調査成果により、北一条大路以北の計画は、それ以南の計画と異なっていると判断せざるをえない状況となった。北一条大路以南は385尺割り付けで、同大路以北は450尺割り付けになっている。山中氏は、一条条間大路～北京極大路の4町分を北辺官衙と呼称し、その地区出土の軒瓦の型式の差異から、南部(一条条間大路～北一条大路)は延暦8年前後、北部(北一条大路～北京極大路)は延暦10年前後に整備された(北辺坊の成立)とした(山中1992b)。山中氏の主張がすべて正しいとは言えないであろうが、一条条間大路以北の整備が後期造営であるならば、それ以南の前期造営分とは条坊計画が異なっていたと言え、まさに、長岡京造営に際して工事の中断や計画の変更がなされた証左と言えよう。そして、このような条坊計画の変更は、それ以前に完了していた条坊との整合性を図ることも多大な労力を必要とし、こういった難問も長岡京を廢した理由の一つと考えられる。

ところが、二期分の造営が実際に開始されると、地形の制約から平城京と同程度の大きさの都城を造営するには、莫大な経費が必要であることが明らかとなってきた。しかも、工事がさほど進捗しないうちに、延暦11(792)年八月九日に大水害が起こり、都の治水のためにもさらなる出費が必要であることが分かってきた(小林1975)。そのため、和氣清麻呂薨伝に「長岡新都、經十載未成功、費不可勝計。清麻呂潜奏。令上託遊獵相葛野地、更遷上都。」とあるように、和氣清

麻呂は「長岡京の大改造に経費を費やすより、『新しい土地』を選んでもう一度造都を継続した方がよろしいでしょう」と述べ(清水1995)、平安京を新たに建造することとなったのである。

長岡京を廃するに当たっては、近隣の盆地に遷されるということもあり、平城京を廃するほどには反対勢力も存在しなかった。そのため、平安京の都造りは、長岡京造営時ほどには急ぐ必要もなく、第一期・第二期造営に分ける必要はなかったのである。

#### (5)まとめ

この小論では、長岡京関連遺構と古墳の分布状況を基に長岡京の造営工事の進捗状況を検討した。長岡京が、平城京や平安京と同じ規模の京域が計画されていたとするならば、約8分の5程度の範囲にわたって造営が完了し、宅地が給付されていたものと推定される。しかしその造営工事中断は、周辺の宅地内の状況や土地の利用状況から判断すると、長岡京廃都決定に伴って中断されたものではなくて、事前に予定された中断を意味するものであった。このことと、平城京や平安京とは異なり、長岡京では都城の四至が遷都直後にほとんど造営されていないことから、長岡京造営が二段階にわたって行われたと論じた。前期造営の第一期分は、遷都後の都城の体裁を早急に整えることを目的としており、宮城を中心に、七条大路以北と西三坊大路以東の京域を整備するものであった。京域の四至を決定し、平城京や平安京と同じ規模の都城を完成させるための作業は、二期分以降に委ねられたものであった。ところが実際には、後期造営に際して、条坊計画の変更と宮城内の再整備に多大な労力を要し、しかも、都城に適さない地形を均したり、水害に強い都市基盤を整備するには、莫大な費用が必要であることが判明した。そのため、桓武天皇は和氣清麻呂の意見を聴き、長岡京の廃都を決断し、平安京へと都を遷した、と論じた。

以上、発掘調査による知見から、推論に推論を重ねて長岡京への遷都と廃都の事情に関して私見を述べた。この考えは、先学の考えを否定するものではなく、長岡京を廃するに当たって、桓武天皇が思いめぐらしたさまざまな理由のうちの一つであったと考える。桓武天皇が、平城京を廃するに当たって長岡京を急いで造営した事情が、後々に、長岡京を廃する原因の一つとなったのである。<sup>(注35)</sup>

## 第7節 二条三坊十五町の宅地班給をめぐって

### (1)建物配置とその構造

今回の調査では、十五町の宅地において、検出した遺構は道路側溝・築地塀・掘立柱建物跡・掘立柱塀・井戸・溝・土坑等。建物は10棟、建物相互に重複関係はないが、条坊道路の方向に等しいものとやや東に振れをもつものがある。

**建物配置** 1町全域を占有する1つの宅地として使用する。広さはおよそ東西121m・南北114m、面積にして14,000㎡ほどである。四周の道路に面して築地塀がめぐる。北と東に門はなく、南築地に門が開く。建物は四行八門の宅地分割線にのっとり、かつ建物の柱筋を揃えて計画的に配置される。身舎の桁行の基本を5間と定め、柱間寸法は身舎を桁行・梁間とも8尺、庇は原則として9尺に統一する。建物の大小を問わずこれほど徹底した例はほかにない。建物の格式は庇

第8表 中心建物の規模

町名	宅地規模	建物名	桁行 (間)	梁行 (間)	庇	柱間寸法 (尺)			面積 (m <sup>2</sup> )
						桁行	梁行	庇	
左京二条二坊十町	1町	SB26500	7	3	NS	10	10	15	378
左京二条三坊十五町	1町	SB363081	5	2	NES	8	8	9	150
左京四条四坊三町	1/2町?	SB14	5	2	N	8.3	8.3	8.3	94
左京四条四坊三町	1/2町?	SB24	5	2	S	8	8	9.3	91
左京五条三坊十五町	?	SB02	7	2	S	8	8	10.5	134
左京五条三坊十六町	?	㊸	5	2	N	6.8	8.7	9	81
右京二条三坊二町	1町	SB2569	7	2	NS	10	10	13	290
右京四条二坊八町	1/2町	SB05	5	2	S	9	8	9	101

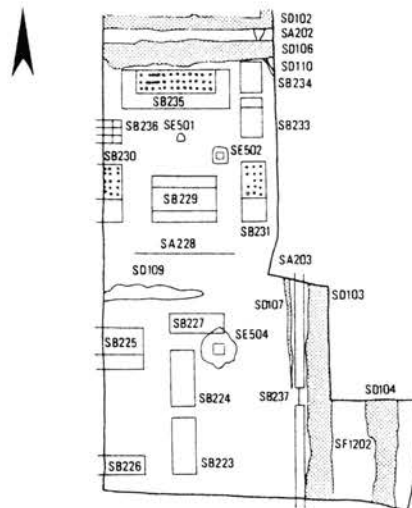
であらわす規格品であって、工期短縮に有効である。10尺を設計の基本単位とする「東院」は、格上の設計方式である。

左京第139次調査(久世・上村1988)の小建物を除きすべて庇付建物であることも十五町の大きな特徴である。無庇建物が多い(140棟中107棟、76%)長岡京の掘立柱建物跡の特徴(山中1986c)と異り、庇付建物が平城京・長岡京に比べ格段に多い(桁行5間以上では70%以上)平安京に近い(南1994)。長岡京の掘立柱建物跡の典型は桁行3間、梁間2間であって、桁行の柱間数は5間20%、4間9%、3間50%、2間8%という(山中1986c)。十五町の建物が長岡京では断然大形の庇付建物群で構成されていることになる。ちなみに平城京での建物規模の平均値は、桁行総長27.32尺、梁間総長14.86尺、大規模宅地である左京三条二坊十五坪では各々32.85尺、16.72尺(本中1988)、これに比べて十五町では各44.67尺、26.33尺、平城京左京三条二坊十五町より大きい。

**正殿** 正殿建物SB363081の規模は桁行総長49尺(14.7m)、梁間総長34尺(10.2m)、150m<sup>2</sup>である。長岡京で検出された正殿クラスの建物の規模を比べると、左京二条二坊十町「東院」、右京二条三坊二町例が断然大きく、十五町例がそれに次ぎ、以下100m<sup>2</sup>前後が平均的な大きさである。身舎桁行7間、柱間寸法10尺の両庇付建物が最上級の正殿であり、以下身舎桁行・柱間寸法・庇の3要素で格付けできる。十五町正殿より小さな建物は原則として片庇である。

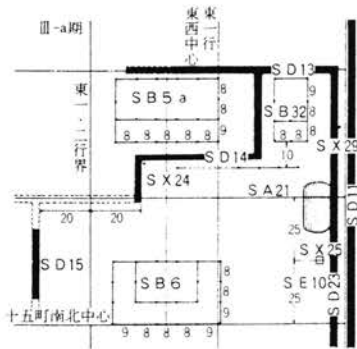
長岡京では格式の高い正殿はまだ余りみつかっていないが、またそうした建物はもともと極めて少ないともいえるのである。それにしても、SB363081は他の建物と同じ桁行5間であり、十五町で際立って立派な建物にはみえない。先の平城京左京三条二坊十五坪の正殿は桁行9間、梁間2間、柱間寸法10尺等間の両庇付建物であって、その格差は大きい。SB363081は、大規模宅地の正殿としては少し気になるところである。あるいは、宅地の東南区の広場に本格的な正殿を建てる予定だったのであろうか。

**酒造施設** 甕据付穴をもつ建物は平城宮造酒司で多数検



第65図 平城京右京二条三坊四坪 (鐘方・久保他1994より)





第66図 平安京右京二条三坊十五町(平尾1987より)

出され、酒倉と考えられている(菅原1992)。甕据付穴をもつ建物は長岡京でもいくつか知られているが(堀内1992)、大甕は液体貯蔵容器であって、それだけではまさしく甕倉である。酒造施設とするには、井戸とか、精米・洗米、麴造、もろみ仕込、圧縮絞り等の作業場が必要である(菅原1992)。その意味で、甕倉を含む複数の建物と井戸・広場がセットをなす十五町は、平城宮造酒司(島田1988・浅川1994)・平城京右京二条三坊四坪(鐘方・久保他1994)とともに酒造施設とする要件を備えている。甕倉建物 S B 363079の東に位置する S B

363078は作業室、建物 S B 363082は大炊殿、建物 S B 363080は管理棟であろうか。井戸 S E 363084は最も格式高い横板井籠組井戸であり、底には礫と木炭を厚さ30cmほど詰め、浄水に対する周的な配慮がうかがえる。建物配置の基本は平城京右京二条三坊四坪に近いが、公的施設の大規模な酒造専用区画とみられる四坪に対して、十五町は甕据付穴も少なく、邸宅の厨で行われた小規模な酒造である。広場を囲む複数の建物と井戸からなるこうした配置は、酒造施設の基本的な配置とみられ、平安京に引き継がれる。平安京右京二条三坊十五町(平尾1987)は最もよく似た配置であり、北の東西棟建物の身舎西寄りに4行8列の甕据付穴がある(堀内1992)。

当時の貴族の生活に酒が必需品だったことは『続日本紀』に頻出する宴会記事を引くまでもなく、またそうした社交の場で地酒ならぬ家酒の目利きに華が咲いたのであろう。時に自慢の酒を天皇に献上することもあったのである(『続日本紀』宝亀6年10月13日条)。京内宅地でまみつかる酒造施設は、こうした当時の貴族生活の一端をうかがわせるものである。ちなみに、必ずしも一般化はできないが、長屋王の家政機関に「酒司」があった(奈良国立文化財研究所編1991)。

**双堂** 建物 S B 362116・S B 362117は、囲郭の中に同じ桁行の建物を前後に並べた双堂である。双堂とは、うしろが正堂、前が礼堂で、奈良時代から始まり、金堂などの中心的な建物には用いられなかったが、平安時代にはかなり多くなり、両堂の屋根が一体化して、奥行の深い本堂形式ができる(太田1987)、という。

建物 S B 362116・S B 362117は、柱掘形・柱径ともに十五町の建物の中で最も大きく、建物 S B 362117の柱抜き穴から出土した桧皮・漆喰によって桧皮葺屋根、白壁塗りの重厚な建物に復原できる。さらに正堂建物 S B 362116南側柱筋の中央の間にガラス玉10個を入れた二彩陶小壺を埋納している(S K 362100)のであって、地鎮もしくは鎮壇具とみられる。

『西大寺資材流記帳』には、

十一面堂院

檜皮葺雙堂二字 長十一丈五尺  
廣十丈五尺蓋頭在龍舌廿八枚

四王院

檜皮葺雙堂二字 各長十二丈雙廣八丈六尺  
蓋頭龍舌廿八枚

とある。規模は巨大であるが、屋根は桧皮葺であった。

東大寺法華堂は、『東大寺要録』に、

五間一面 在礼堂

五間檜皮葺礼堂一字

とある(福山1982)。これは、礼堂が無庇であるほかは、十五町の双堂と同じ構造である。

宅地の中に仏堂を建てることは、慶滋保胤の『池亭記』や大江公仲の家地(『平安遺文』1338号、嘉保2年正月10日大江公仲処分状案)その他にみられる。遺跡としても、長屋王邸東内郭中区の瓦葺建物S B 4300は仏堂(町田1991)と推定され、また長岡京左京二条三坊三町出土の「供養」墨書土器は官人宅で行われた仏事に使用したものとみられている(清水1986)。仏堂と特定する根拠はなかなかみずかしいが、居住者の信仰を直接示す仏教施設として注意すべき問題であろう。

**各区画の性格** 宅地を4分割した東北区が中心的な施設である。正殿の北側の建物群が厨であって、季節的に酒造等を行ったものとみられる。

東南区は儀式・行事のための正殿前面の広場として利用され、西南区は作業場とその管理棟の区画であろう。

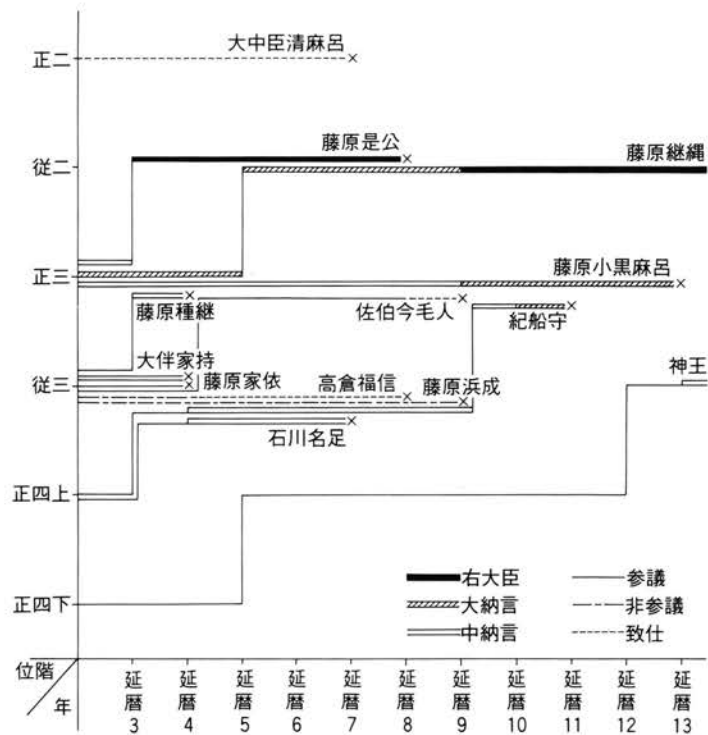
西北区は、当初西南区と別種の作業場と管理棟の区画であったが、のちに一画に仏教施設(双堂)が建てられる。居住者の精神生活をうかがえる施設である。

## (2)十五町邸宅の居住者をめぐって

**宅地班給** 延暦3(784)年5月、桓武天皇は使を遣わして新京の地を相せしめ、翌月造長岡宮使を任命、同じ年の11月に早くも新京に遷った。突貫工事としても、都造りがどの程度進んでいたのか明かでないが、その間の6月23日には上級貴族達に正税68万束を与えて、邸宅造営を援助している。長岡京に宅地班給記事は残されていないが、その頃には宅地班給も進んでいたはずである。宅地班給基定については藤原京と難波京とに明文規定があり、平安京は難波京に準じたものと考えられるが(秋山1975・平良1981)、平城京については藤原京準拠説(大井1966)と難波京準拠説(平良1981)とがある。ここではそれを繰り返さないが、それに関わる点を付け加えておく。天皇が居住する内裏がこの問題を考える上で1つの手懸りになる。内裏は住宅の格付けの頂点に位置する最上級の住宅であって、これこそが宅地班給の最高基準であったとみなし得る。内裏の規模は、不明な藤原宮を除き、平城宮・難波宮・長岡宮・平安宮とも一辺180~160mで一定している。面積でいえば27,000㎡前後、1町14,400㎡の約2倍の広さである。官衙配置の判明している平城宮では、内裏関連官衙を含めた広さは2町四方、4町にあたる。律令国家では宮の全体が天皇の機関であり、直接的には宮内省被管の官司が奉仕するのは確かなところであるが、朝堂院と分離した内裏に「公的」内郭と「私的」後宮とが存在するのであって、他と区別された天皇の住宅の具体的結果としての内裏の意味は十分有効であろう。平安時代の「法の如き一町家」の源が内裏にあることはすでに指摘した(平良1981)ところであって、宅地班給規定は、天皇を頂点とする貴族以下の住宅の格付けの理念であった。この論理の可否の鍵は藤原宮の内裏が握っていることになる。解明を期待したい。

もちろん、規定はあくまでも規定であって、実際の宅地班給にあたっては、位階のみでなく官

職もまた考慮されたことであろう。同じ貴族とはいえ、三位以上と四位・五位との間には著しい格差があったし、同じく「通貴」とされた四位と五位にも実は大きな違いがあった。令外の議政官である参議に四位の者は任命されたが、五位の者が任じられることはなかった。死去した場合、三位以上は「薨」、四位・五位は「卒」と定められた(『喪葬令』)が、『続日本紀』に卒去の記事が載るのは原則として四位のみであった。ちなみに、四位相当官15人に対し、五位相当官は約120人(『官位令』)である。



第67図 長岡京遷都時の公卿の昇進

令制では一括されることの多い四位・五位は、実際には大きな格差があったとみるべきである。

**遷都時の公卿** 長岡京左京二条三坊十五町の居住者は誰か。ここでの前提は難波京の宅地班給規定、1町宅地=三位以上であり、四位の参議を対象に加えた。

延暦3年、長岡遷都時の公卿は、右大臣従二位藤原是公、大納言正三位藤原種継、中納言正三位藤原種継、中納言正三位藤原種継、中納言従三位大伴家持、参議従三位藤原家依、参議従三位佐伯今毛人、参議従三位石川名足、参議従三位紀船守、参議正四位下神王、さらに議政官ではない弾正尹従三位高倉福信、大宰員外帥従三位藤原浜成、そしてすでに致仕していた正二位大中臣清麻呂の13人である。このうち、大中臣清麻呂は延暦7年平城京右京二条の邸で死去するまで平城京を離れなかったようである。藤原浜成は長く大宰府にあり、延暦元年の氷上川継事件に連坐して都に帰ることなく、延暦9年任地で死去した。延暦4年に致仕、同8年に死去した高倉福信も平城京に留っていた可能性が高い。残りの11人は長岡京に住居を構えていたとみられるが、藤原種継は延暦4年暗殺され、藤原家依・大伴家持も同年中に死去、石川名足は延暦7年に死去しているのであって、十五町の居住者からは除外してよい。神王は平安京で右京に住んでいた可能性が高く(平良他1980)、長岡京でも同様とみて省いておく。

**藤原四家の宅地** 藤原氏は不比等の子の代に四家に分かれる。長男武智麻呂の南家、二男房前の北家、三男宇合の式家、四男麻呂の京家である。居住地の手懸りのある平城京を参考にしながら、彼等の長岡京の宅地を検討してみよう。新京の班給宅地の占定にあたっては、古京の宅地との関係が当然基準の中に考慮されたものと考えられるからである(平良他1980)。

当時廟堂の中樞を握っていたのは、右大臣是公・大納言種継を出す南家であった。南家の祖武智麻呂は左京の人であって、平城宮の南に邸を構え南卿と呼ばれていた(『家伝』下)。是公は平

城京田村第に居住(『続日本紀』延暦3年閏9月17日条)、田村第は左京四条二坊九・十・十一・十二・十三・十四・十五・十六坪を占める藤原仲麻呂の邸宅(岸1966)であって、是公が南家の嫡流としてこれを伝領していたのである。長岡京でも左京四条二坊あたりに宅地を得ていたと考えよう。

継繩の邸宅については手懸りになる史料がある。維摩会が行われた「長岡神足家」(『日本逸史』延暦20年10月丁巳条、『扶桑略記』延暦21年10月条)である。維摩会を主催するのは藤原氏の氏上であって(土橋1989)、延暦20・21年段階の氏上は廟堂の首班、右大臣継繩である。したがって、神足家は継繩第と考えてよい。ちなみに、長岡京の時代、天皇の高椅津(山崎津)行幸の際、継繩第に立寄っている(『続日本紀』延暦6年8月24日条)。神足は長岡宮から山崎へ朱雀大路を南下する道筋にあたり、継繩第を神足家に当てることに不都合はない。神足家の位置を特定するのはむずかしいが、大字神足の範囲は朱雀大路を挟み左京六条一坊・二坊、七条一坊・二坊と右京六条一坊、七条一坊におおむね相当する。右京七条一坊一町に神足家をあてる説(山本他1980)があるが、是公の邸宅と同じく南家の宅地は左京に班給されたとみられるので、神足家は左京六条一坊もしくは七条一坊にあったものと考えておきたい。

式家良継の邸宅は平城京右京四条二坊にあって、寺(弘福院)に改造している(『公卿補任』)。長岡京建設を主導した種継は良継の甥であって、延暦4年9月23日夜陰に襲撃され、翌日邸宅で死去した。『日本霊異記』下巻第38によれば、襲撃現場は長岡宮の島町だったという。島町は現在の島坂(石塔寺の前の坂)に比定されており(中山1983)、そこはちょうど長岡宮の若犬養門(皇嘉門)のあたり、この門を出れば右京の二条大路である。種継の邸宅が右京であればまさに帰路にあたる場所である。種継は清成の子であるが、清成の兄良継亡きあと式家を代表する出世頭であって、平城京良継邸のあたりに長岡京で宅地を班給されたものとみたい。

北家は南家に対する呼称であって、房前は北卿とも称された(『続日本紀』天平宝字4年8月7日条)。房前の邸が南家武智麻呂の邸の北方にあった可能性が高いが、場所はわからない。房前の二男永手は長岡大臣、永手の甥内麻呂は後長岡大臣と呼ばれた。この長岡は、『行基年譜』に「長岡院 在菅原寺西岡」とみえる長岡と同じ所であろう。菅原寺(喜光寺)は平城京右京三条三坊九・十・十四・十五・十六町にあり(『行基年譜』)、長岡院は同四坊にあったものとみられる。永手・内麻呂の邸宅もまた菅原寺の西の岡=長岡にあって、それに因んで長岡大臣・後長岡大臣と称されたのであろう。房前の四子清河は良継と同じ平城京右京四条二坊に邸宅を構え、のちに寺(濟恩院)に改造する(『類聚国史』第180 仏道7諸寺)。北家の大納言小黒麻呂の邸宅の手懸りはないが、上と同様右京の四条以北にあった可能性が高い。

京家については、その祖麻呂邸が平城京左京二条二坊五町で発掘されている(奈良国立文化財調査研究所編1991)。京家浜成が不遇のうちに大宰府で死去したことは前掲のとおりであって、その後京家が権力の中枢に登ることはなかった。

以上の粗っばい整理によれば、南家と京家は左京、北家と式家は右京に住み分けが行われていたものとみられるのである。

佐伯今毛人 さて、十五町の居住者、残る候補は佐伯今毛人と紀船守の2人に絞られる。佐伯今毛人は左京の人(『大日本古文書』巻25天平勝宝5年6月15日丹裏古文書第34号造東大寺司解)、紀船守は左右京いずれに居住していたか直接の史料はないが、子の梶長が平城京左京二条五坊七町に家地1町を所有(『平安遺文』第1巻延暦23年6月10日僧綱牒、延暦23年6月20日東大寺家地相換券文)、これが父船守の宅地を伝領したものと考えられる。五坊は平城京の外京であって、長岡京には存在しないが、船守の宅地が左京にあった可能性は高いといえる。

十五町の居住者について、史料から推測し得ることは以上のとおりであるが、ここで注目されるのが十五町西北区で検出された双堂である。これは居住者の仏教信仰の深さを示すものであって、佐伯今毛人の姿と美事に重なってくるのである。

佐伯今毛人<sup>(注37)</sup>は、右衛士督従五位下人足の子、養老3(719)年に生まれる。天平15(743)年東大寺造営に加わり、次官を経て、天平勝宝7(755)年造東大寺司長官となり、以後3度の造東大寺司長官や怡土城専知官・造西大寺長官等を務め造営事業を采配した。その間、撰津大夫・大宰大式・左大弁・皇后宮大夫等を歴任、延暦3(784)年5月長岡村に遣されて京地を相し、同6月藤原種継・紀船守・石川垣守等とともに造長岡宮使に任じられた。それより前延暦元年6月佐伯氏では前例のない従三位に叙され、同3年12月参議、同4年6月正三位にまで進み、同8(789)年正月致仕、翌9年10月3日死去した。時に72歳。聖武天皇が名づけて「東大寺居士」と称したほどに今毛人の生涯の大半は東大寺の造営にあてられた。写経・誦経を行い仏教に深く帰依し、宝亀7(776)年には兄真守とともに平城京左京五条六坊の地を大安寺から購入、佐伯院(香積寺)を建立した。今毛人は、渦巻く幾多の政争の中にあって、技術官僚としての高い矜持と厚い信仰心をもって慎み深く生き、佐伯氏としては前例のない公卿に列したのである。彼の不幸は、宝亀10(779)年将来を託すべき息子三野(右京大夫従四位下)に先立たれたことであつた。彼の心はいっそう深く仏教に傾斜していったに違いない。

十五町の双堂は前掲のとおり東大寺法華堂と同じ間口5間の堂であって、「東大寺居士」と称された今毛人であれば、東大寺法華堂をなぞった双堂を邸宅に建てることは大いに理解できるところである。さらに1つ、今毛人が建てた佐伯院の金堂は、延喜5(905)年の「佐伯院付属状」(『平安遺文』第1巻)に、

五間檜皮葺堂舎壹宇 金色薬師丈六像壹軀

同色脅士日光月光菩薩像貳軀 檀相十一面觀音像壹軀

とある。双堂であつたかどうか判らないが、間口の規模と屋根の葺方は十五町の双堂と同じである。

十五町の宅地には整然とした計画で建物が配置されるが、柱間寸法を揃えた規格品を使い工期短縮に技術のほどを駆使している。一方で、正殿は1町敷地の建物としては質素といえるほどであり、さらには自ら住まう建物より立派な仏堂(双堂)を建てているのであって、そこには信仰心が厚く実直な性格の居住者の姿が彷彿とするではないか。佐伯今毛人は、この邸宅の居住者にふさわしい風貌を備えている<sup>(注38)</sup>。

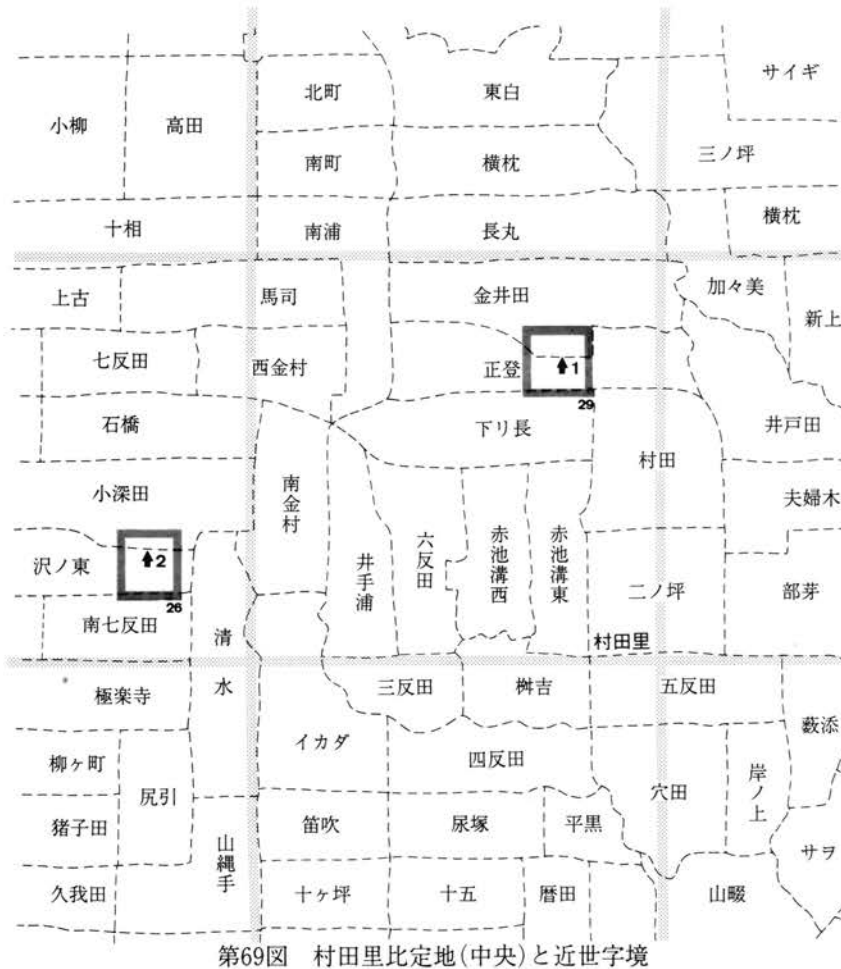
### 第8節 平安時代以降の条里地割遺構をめぐって

今回の調査地では、長岡京廃都後の遺構も多く検出された。とくに、村田里18坪に顕著にみられた5.5m間隔の南北方向の素掘り溝は、画一性のない平安時代初頭の区画溝や、小溝などとは異なり、幾度も掘削されており、おおよそ12～13世紀の瓦器が出土する点で、山中氏のいうM型溝群の典型といってよく、条里型地割による長地型の耕作単位を示唆する(山中1988)。

しかし、一方で29坪では、それとは若干異なる溝群が検出された。29坪の溝群は、条里一坪の方格に規制されたというよりは、東四坊坊間西小路および二条条間大路南側溝を境界として掘削されていたものと見られ、その遺存地割に規制されていたことが良くわかる。先述したように29・30坪の境界にあたるS D385229からは、9世紀後葉を前後する各種土器が出土しており、その時点までには長岡京廃都後の条里型地割が掘削されていたことを示すものとしてみてきた。一方、B地区、二条条間大路南側溝でも後の九条村田里29坪の範囲から、9世紀後葉～10世紀前葉頃の各種土器が出土している。条坊制による遺構と条里型地割を示す遺構の両者に、ほぼ同じ



第68図 村田里29坪検出遺構平面図



第69図 村田里比定地(中央)と近世字境

時期の遺物がみられることをどう解釈すれば良いのであろうか。近年、長岡京の一部の遺構の埋土上層からも、9世紀後葉から10世紀初頭を前後する土器が出土することが明らかとなってきている(原1993)。例えば、東二坊大路西側溝と二条大路南側溝を検出した左京第162次調査(渡辺1989)では、二条大路南側溝上層から9世紀後葉～10世紀前葉の土器が数点出土しており、本調査地同様、この時期に埋め戻しが行われた地点とみることができる。

条里付付の文献上の初見として貞観4(862)年10月15日の太政官符案(『平安遺文』第134号)があることはすでに述べた。藤原良房が、故左大臣と故川辺女王の所有していた乙訓郡八条榎小田里33坪・同衾手里4坪などの土地を貞観寺田とさせた文書で、山中章氏によると、故左大臣と故川辺女王の所有していた乙訓郡八条榎小田里33坪・同衾手里4坪などの端数の多い小規模な土地は、長岡京の条坊では左京三条三坊五町の一部とそれに面する東三坊坊間西小路と三条大路の路面にその面積が一致することが判明した(山中1997b)。山中氏の考察は、桓武の寵臣・親王への田地の下賜とその伝領の実態を探り、高級貴族の新・旧両京での宅地位置や土地所有関係を推し量るものであった。山中氏の言うように旧京における寵臣・親王等への賜田が条里型地割とは異なり、条坊制の遺存地割に規制されていたとすれば、条坊制の遺存地割に規制された耕作溝の検出された本調査地九条村田里29坪の平安～中世遺構の様相も、そのような桓武の寵臣達への賜田に伴う、条坊区画による土地所有の一端を反映していたものとみることができよう。29坪と30坪の坪界溝SD385229は、先述したように9世紀後葉に一気に埋没させられており、9世紀後葉のある時点で条里型地割による土地の区画表示が否定された可能性を考えることができる。また、29坪の西隣の20坪は、発掘調査によって大阪層群の礫層の表出が認められた。水稻耕作に適さないものとみられ、荒廃田とされていた可能性がある。20坪における銅印(3)や井戸SE399421に置かれた櫃(206～209)、特徴的な「井」字状結紐文を持つ陰刻花文の緑釉硬陶(744～746・

1880・1882～1884)など、一般集落から出土しない遺物群の様相から憶測すれば、村田里20坪も、荒廃田に設定された賜田であった可能性も高いのではなかろうか。

貞観4(862)年の太政官符案にみられるように、承和11(844)年には収公が行われたことがわかるが、延喜2(902)年の太政官符(『類従三代格』校班田事)によれば、承和11年は不班であったことがわかる。乙訓郡、とくに旧京に存在した多くの賜田などは、班田収授の実施に支障をきたす複雑な土地所有関係を作り出したといえる。平安時代初頭にはすでに班田の行き詰まりにより、公営田が設置され、勅旨田や親王賜田などが増大した。律令的土地制度の崩壊期であったことから、上述した貞観4年の太政官符案にみられる誤収公は、しばしば起こり得た事態であったに違いない。

九条村田里29坪の二条条間大路南側溝に規制された土地関係は、中世以降も続いたと見られ、小字金井田と正登を隔てる近世字界も条里型地割に則らず、29坪の範囲のみ二条条間大路南側溝の位置に歪められたままとなる(第69図矢印1)。このことは先述した左京第162次調査における9世紀後葉～10世紀前葉の土器を出土した二条大路南側溝でも同様である。左京第162次調査は条里型地割で言えば、村田里の西に並ぶ九条弓弦羽里の26坪の範囲にあたる。小字小深田と沢の東の近世字界は26坪と27坪の坪界には位置せず、条里型地割による土地区画に規制されていないことがわかる。

以上の推測から敷衍すれば、長岡京廃都後、おそらく桓武天皇の寵臣・親王等への田地の下賜によって、条坊地割に規制された土地区画が初期荘園の形成とともに存続し、はるか近世の小字字界の歪みに現れていると憶測することもできるのである。



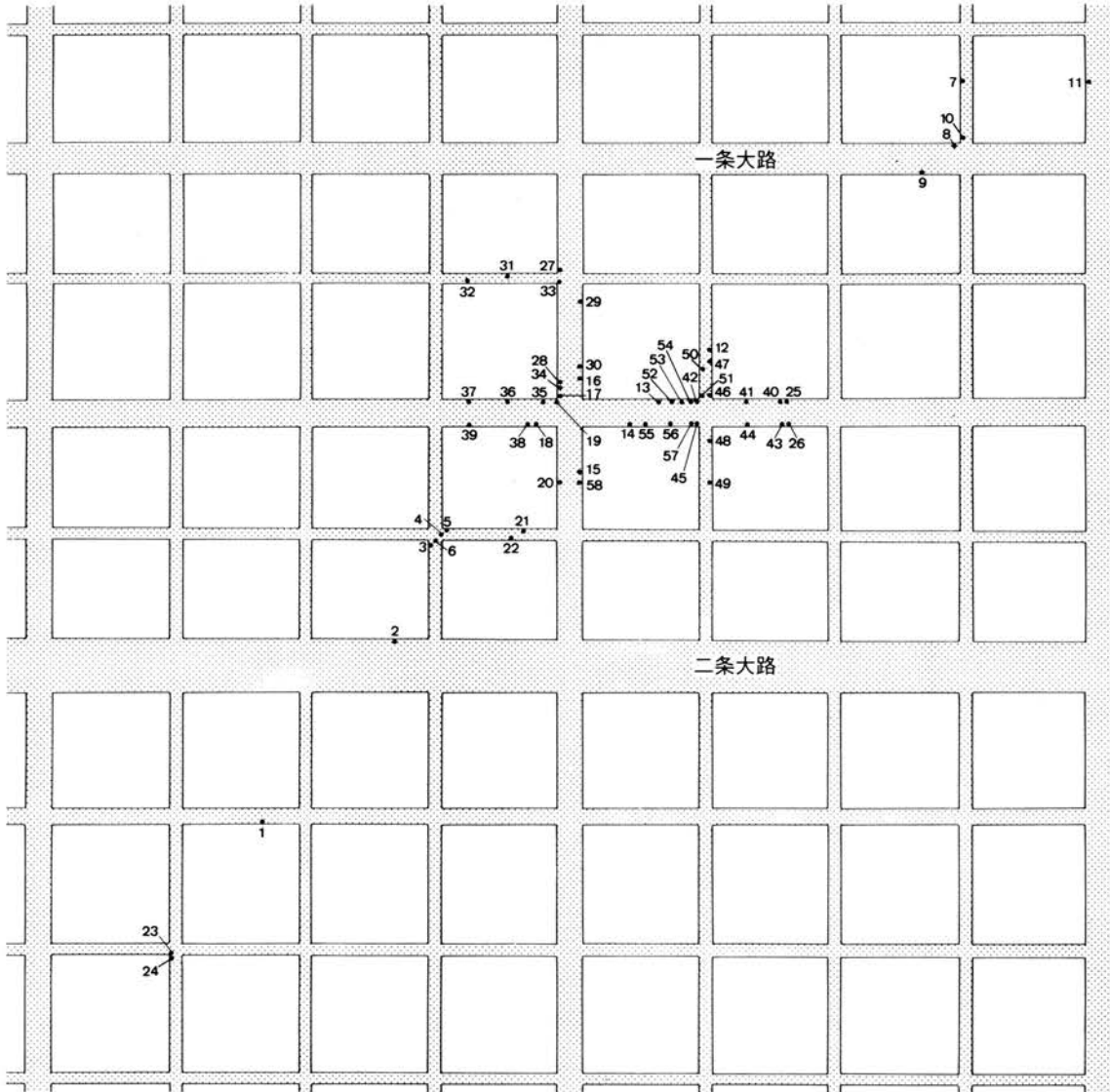
## 第6章 総括

平成5年度以降、平成9年度まで名神高速道路パーキングエリア建設予定地の調査を行い、平成10・11年度に整理作業および報告書作成を行ってきた。以下に時期ごとに要約したい。

長岡京以前の遺構として、弥生時代の方形周溝墓・環壕・水田区画が検出された。今回の一連の調査では、弥生時代の竪穴式住居跡は一切検出されなかった。集落居住域は北西から南東に走る環壕の北東側に位置しているものと思われる。水田の経営時期については、出土遺物がみられないため、推測の域をでないが、その小規模・不定形な畦畔をもつ平面形態からも弥生時代と考えて大過ないものと思われる。方形周溝墓の中心主体の具体的状況は、削平により不明であるが、築造時期は出土土器が畿内第Ⅲ～Ⅳ様式を中心としているため、第Ⅳ様式後半の時期に埋没する環壕や溝群より先行する。また、Ⅳ様式の遺構・包含層からは、打製石剣・磨製石剣や石鏃など、石製武器の出土例が目立っている。畿内各地において周辺集落間との抗争が激化した時期とも考えられる。B-5b地区で検出された方形周溝墓S T 385619周溝内木棺墓からは、組合式木棺痕跡を検出し、その中からいわゆる鉄剣形磨製石剣の鋒や剣身・石鏃および、その破片を多数確認した。周溝内の埋葬主体であったことを考慮すれば、この被葬者は、方形周溝墓の中心主体部被葬者に従属する立場とされたのであろう。近畿地方におけるこのような弥生時代中期の石鏃・石剣の遺存例は10例を越えるほどであるが、この中で、方形周溝墓の周溝から、従属的な周辺主体として検出された意義は大きい。この木棺墓の内部土壌を脂肪酸分析に供したところ、女性の消化器官に特有の脂肪酸を検出することができた(付編脂肪酸分析参照)。被葬者は女性である可能性が高いと考えられるに至った。被葬者は、壮絶な最期を遂げた男性戦士と漠然と認識されていたが、戦闘を指揮した巫女的性格の持ち主であろうか、興味は尽きない。天候の不順や、それによる作物の凶作などによって引き起こされた社会的不安定を解消するために必要とされた持衰のような、社会の外在的立場の人間同様、当時の巫女的性格をもつ女性指導者も同様の社会的立場とみる考えもあながち暴論とはいえない(大林1979)。

長岡京期の条坊路については、第70図に名神高速道路に伴う発掘調査における長岡京条坊路主要検出地点を示しておく。二条条間大路を広範囲に検出し、東四坊まで施行されていたことが明らかとなった。それにくらべて東三坊大路はかなり削平されて検出されたため、東三坊両側溝の当時の掘削深を50～60cmと見積もったとしても、二条条間大路両側溝の掘削が1.5m以上に及んでいたことが明らかである。また、一条大路と東四坊坊間東小路、二条条間大路と東四坊坊間西小路・東三坊大路、二条条間南小路と東三坊坊間東小路、三条条間小路と東三坊坊間西小路の各交差点を検出することができた。

二条三坊十五町は、宅地の大部分が調査対象地となり、1町ほぼ全域の調査を行うことができ

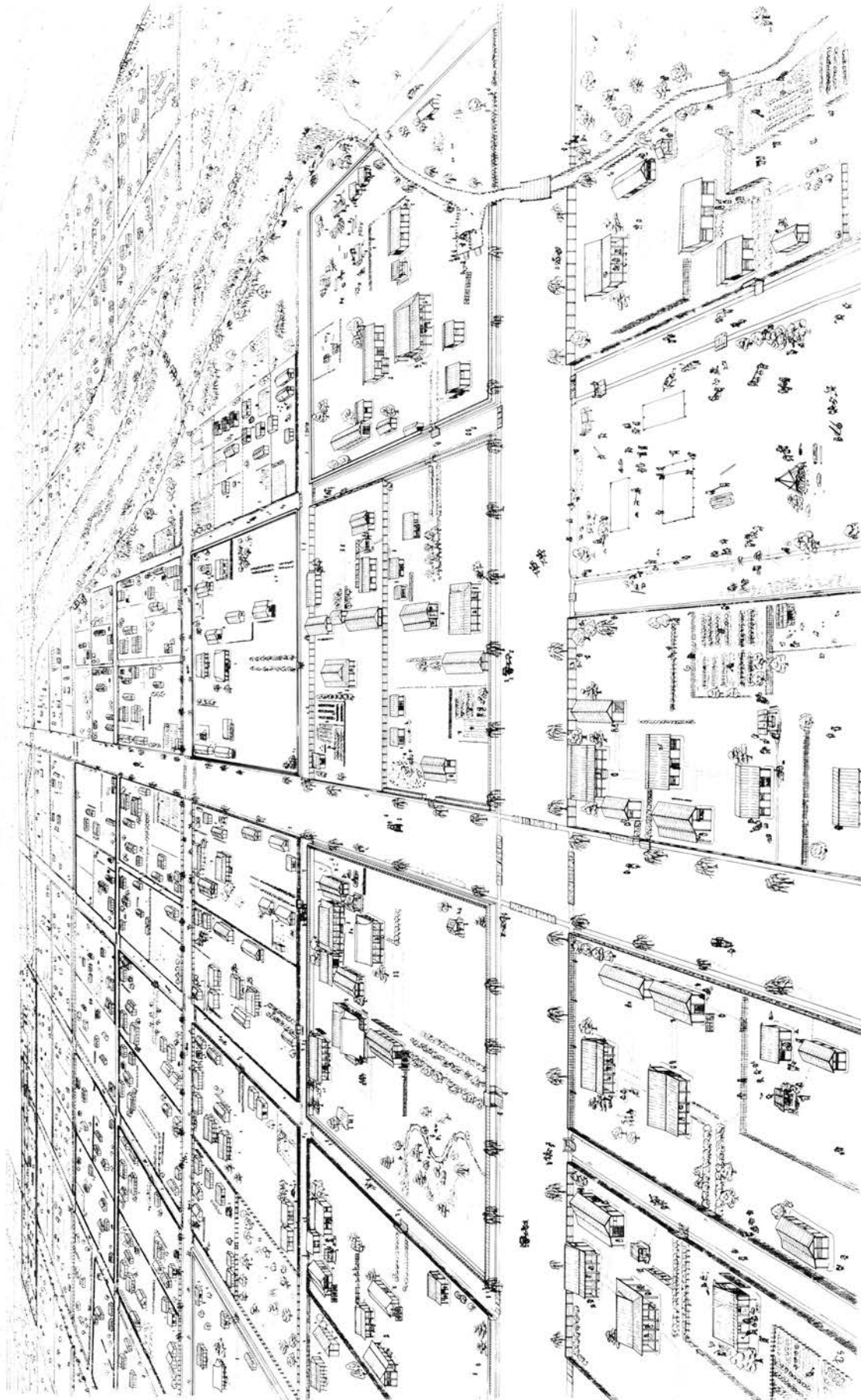


第70図 名神高速道路関連遺跡検出条坊路側溝(座標報告地点(第15表参照))

た。その結果、1町規模の班給が行われたことが判明した。造東大寺司長官や左大辨・太宰大弐を歴任し、造長岡宮使を務めた参議正三位佐伯朝臣今毛人の邸宅とも推察された(平良1996)。

当該調査地における宅地利用は、1町あるいは2分の1町規模であり、それより小さな分割は認められなかった。このことは宮城東面街区が小分割を必要としない階級の宅地や官外官衙などによって形成されたためとしうる(山中1992 a)。ただし、1町規模を占有する二条四坊七町の宅地をみても、家令・書吏などの公的職員を擁する家政機関や、位分資人など、多くの従業者を想定しうる建物跡群が認められないことから、その主人を公卿など高級貴族とするには無理がある。むしろ水運を利用していた現業的官司の可能性も捨てきれない。また、左京二条三坊一町は1町を占有する宅地であり、車持氏の邸宅と推察されている(清水1986 b)ことから、2分の1町規模の二条三坊十四町や二条四坊六町は、おそらく五位あるいはそれ以下の官人層の宅地となろうか。

長岡京廢都後の遺構からは、9世紀後葉前後の有孔荅鈕の銅印や櫃、特徴的な陰刻花文の緑釉硬陶など貴重な資料を得た。「貞観4年太政官符案」(『平安遺文』第134号)から想定される乙訓



第71図 長岡京二条三・四坊から北方を望む(未調査地は想像による)  
(平良泰久・野島 永原案 村上優美子作図)

郡条里地割の再施行に続く親王賜田の増加、不班の実態は、律令的土地制度の崩壊期の様相を示すものであり、調査地で検出されたような条坊地割に規制された平安時代前期以降の耕作溝群の存在は、桓武天皇による親王賜田の推定地の一条件として認識しうる。

現在から60年前、平成12年と同じ庚辰の年に山城国乙訓郡の条里地割を復原した吉田敬市博士は、「山城乙訓郡の條里」（『紀元二千六百年記念史學論文集』京都帝国大學文學部）のなかで、乙訓地域が「幾多の工場が続々と設立され工場地と化し、又住宅地と変じ、古人が残した歴史的業績も全く其の跡を絶つに至るのも遠くはあるまい。」と結んだ。歴史的文化遺産としての遺存地割が消滅していく様を予見し、乙訓郡における遺跡の消失を憂えた。本報告をもって古人の歴史的業績の記録とするには甚だ心許ないが、今後の乙訓地域における歴史研究の一助となれば望外の喜びといえよう。

注1 (財)京都市埋蔵文化財研究所 平尾政幸氏にご教示いただいた。感謝したい。

注2 鍬の出土する埋葬主体部が、鳥根県友田遺跡・愛媛県持田町三丁目遺跡・兵庫県新方遺跡・同駄坂舟隠遺跡・岡山県四辻土壙墓のように短期間に多く、集中して作られる場合があること。埋葬主体の形状や周溝墓における埋葬場所が一定しないことから、犠牲王の可能性は低い。別論文において論述予定。

注3 通常ブランディングチップと呼ばれるが、ブランディングは刃潰し加工を指し、整形加工を含まない。チップの概念も個人の石器の法量に関する考え方の違いによって異なり、大きさの区別にはほとんどの場合根拠がない。これらのことから二次加工剥片と命名した。

注4 石鍬は報文中などで、石鍬未製品や粗製尖頭器と呼ばれるものがある場合があるが、その分類が何に基づくか、出土遺物内で検証されたことはほとんどない。

注5 土坑資料はほとんど全てが、資料化されておらず詳細な研究に至っていない。森本 晋(1991)では資料の重要性をいち早く喚起している。

注6 domestic production。石器の終焉の問題についても、石斧や石庖丁等の流通物としての石器の消滅と石材消費地にある遺跡のドメスティック・プロダクションの消滅の2つの観点からの研究が必要である。

注7 「理解するとは、すなわち解釈することである・・・解釈とは(たいていの人が思いこんでいるように)絶対的価値をもったものではない。つまり、時間を越えた領域において発揮される精神の運動ではない・・・。」(S・ソントク1971 117頁より)

注8 雲宮遺跡のまとめで述べたように弥生時代の遺物は資料提示がなく、見た見ていないといった部分で多くの研究がなされ、一定のコンセンサスが形成されている。また、資料批判なしに石器組成論が論じられている。石器研究の戦略を変更する必然性を示したが、すでにいく人かで試みられているが、反証可能性(Falsifiability)の確立、技術形態学の導入、場の機能・作業工程復原の視点の導入を提唱したい。

- 注9 中島皆夫氏により集成がなされ、長岡京連絡協議会での発表がなされた。未刊。
- 注10 集落論ではないが、乙訓出土の古式土師器に検討を加えた中塚良氏による研究がある(中塚1986)。
- 注11 以下の叙述で、右京・左京・宮内第〇次調査をそれぞれR・L・P〇と略記する。
- 注12 山中論文(1992 a)以後は、京全体を北に二町分上げて考えるようになったので、現在の条坊呼称では北に二町分の北辺坊がある。
- 注13 長岡京が北京極大路以北にも延びるのは、現時点では、宮域の北部においてのみ確認されているので、京域幅全体にわたり、そうであったかどうかは、判断しがたい。また、北京極大路の北に都城が拡張されていたのか、北苑等の施設があったのかも判断しがたい。現時点では、本文中のように考えておきたい。
- 注14 この場合、大極殿梁間は四間五十五尺ではなくて、四間五十六尺に設計されていたと考える。岩松(1998)参照。
- 注15 ただし、東四坊大路=東京極大路は現在までに未確認であり、84尺であるかどうかは不明である。
- 注16 二条条間大路の北側は基本形の385尺より15尺大きい400尺で計画されている。
- 注17 実際には平城京の都城モデルはかなり原理的なものであって、それに対する疑義やその修正案が提出されている。例えば、本中(1989)の「これに対して小路(坊間東・西小路、条間北・南小路；引用者注)は一層多彩であり、とりわけ基準となる計画寸法を見いだすことができない。・・・(中略)・・・すなわち、坪境小路は条間・坊間路よりも一級下位の道路であり、大路や条間・坊間路で囲まれた各宅地の状況に合わせて幅員が決定されたことがうかがえる。周辺の土地利用状況に規制される度合いは、大路、条間・坊間路よりもさらに大きかったものと思われる。実際の検出例にみられる小路の多彩な偏度と幅員は、以上のような理由に起因したものととらえることができる」と述べていることや、山中(1992 a)の坊(条)間路、坊(条)間小路は、計画線の両側から均等に割り取る中心型以外に、いずれかの側溝と計画線が一致する東・西・南・北側溝型があるという指摘、武田(1997)は「総じて言えることは、平城京の道路(条坊)や宅地(坪)がある程度厳格な規格のもと計画的に造営されていたという従来のイメージにくらべると、実際には条坊の坪の規模については予想以上にバリエーションが多く、結果としてはあまり規格性のある造営の状況ではなかったということであろうか。」と述べている。ここでは、その都城モデルの不備を認識した上で、450尺毎の基準線が条坊路の中心に設定されるという従来の定説を踏まえて、一応、平城京型と呼称した。
- 注18 五条条間南小路～六条大路にかけての五町のうち、四町の南北幅が450尺で割り付けられており、割付幅が異なっているとも考えられる。
- 注19 ただ、施工時と言っても、原点に近い位置から“順に”造り始めて、しかも変更を加えるべき条坊路が未着手の段階であるならば、同じ結果になるであろうが、この考えは実際的ではないだろう。
- 注20 近年、武田和哉氏は平城京の条坊制の現状と問題点を総括的に整理しているが、その中で、京域の東を限る東四坊大路の幅を45大尺と推定している(武田1997)。この45大尺は、小尺に換算すると54尺で、長岡京の西二(三)坊大路幅と合致する。この西二(三)坊大路は、規格性の高い長岡京の南北条坊路にあって、他の大路幅84尺に対して、かなり異質なものである。特に西三坊大路以西の条坊

路が現時点では確認されていない点を重視すると、この西三坊大路が事実上の京域の西を限る“西京極大路”として機能していた可能性も視野に入れるべきであろう。

- 注21 L435・436次調査では、左京北一条三坊二・三町で大規模な建物跡・条坊側溝が確認されており、出土した木簡や墨書土器から「東院」と考えられている(『読売新聞』平成12年4月1日朝刊)。この調査では、北一条条間南小路などの条坊側溝や条坊を壊して建てられた掘立柱建物跡が調査されており、長岡京の北辺の構造と変遷を知る上で、重要な知見が得られている(『長岡京左京北一条三坊二町・三町跡——左京第435・436次調査現地説明会資料』(財)向日市埋蔵文化財センター・古代学協会)。詳細な報告書の刊行が待たれるものである。
- 注22 ピット54730の検出した深さは、R547次の調査担当である柴 暁彦(当調査研究センター)の教示による。また、ピットの年代観は銭貨の鋳造年代によるもので、他の確証は無いとのことであった。
- 注23 今回報告の左京第361次調査では、東三坊大路路面上の、二条条間北小路南側溝延長線上で、和同開珎・万年通寶を検出している(本報告書 p.34、図版第13参照)。
- 注24 後述の水垂遺跡での調査で明らかとなったように、条坊側溝の敷設状況は、「一律に〇〇小路まで」とか、「両側溝が同じ位置まで敷設されている」といったものではないので、ここで言うのは大まかなものである。
- 注25 周辺の調査では、後述の奈良時代の遺構以外にも古墳時代の遺構などが多く見つかっているので、長岡京期の遺構のみが削平されて全く見つからないということは考えられない。
- 注26 R129次調査のSD12902の方位で、この溝は、西辺回廊の内側溝と推定されている(小田桐1985)。
- 注27 近辺での調査を見ると、R430次調査で検出した遺構群は、古墳時代は $N14^{\circ}W$ 、奈良時代は $N3^{\circ}W$ と $N1^{\circ}W$ の二群、平安時代は $N3^{\circ}E$ 、近世は $N4^{\circ}E$ というように変遷する(岩崎1995)。また、R387次調査の平安時代掘立柱建物跡SB38719・21は $N4^{\circ}30'W$ 、R420次調査では奈良時代以降の掘立柱建物跡SB42006が $N14^{\circ}W$ である(中島皆夫1994)。このように、長岡京期以外の遺構は、真南北を指向していない。
- 注28 これらの柱穴内からは奈良時代の遺物が出土しており、時期認定の上で問題はなく、柱穴の残存高も比較的良好であったとのことである(長宗繁一氏ご教示による)。
- 注29 水垂遺跡の条坊路のあり方は、南に流れる桂川のために建設が中断されたことは明らかである。そのため、この例は「個別の事情による造営の中断」であるが、ここで問題にしているのは、「京果て」という意識が個別の事情では生じないという点である。
- 注30 安井氏によると、延暦15(796)年に造寺司を任じており、東寺・西寺の創建をこの時期としている(安井1956)。
- 注31 ただし、報告者は、土器の年代観ではI期が奈良時代前半、II期が奈良時代中頃で、年輪年代法で推定される井戸杵伐採年代とは合わない、と慎重な態度を採っている。とは言っても、I期の土器は、前半でも古い時期のものであり、「平城京造営当初まで遡るのは困難であるとしても、比較的早い時期にこのあたりの宅地が形成されていたとも言える」と述べており、遷都後の早い時期にあたる可能性が高いことを示唆している。

- 注32 和銅7(714)年12月己卯条には、新羅の使節を「三椅」に迎えており、宝亀10(779)年4月庚子条では、唐客を「京城門外三橋」に迎えており、「椅」は「橋」と同義で、同じ場所と判断される。また、天平勝宝6(754)年2月4日の鑑真和尚入京に際しては、「羅城門外」まで出迎えており、「三橋」まで出迎えていた可能性が指摘されている。金子裕之氏によると、京外「三橋」で外国使節を迎えることが恒例化していたと考えられている(金子1985)。もしそうならば、和銅7年段階では、羅城門や羅城の完成は見ていないとしても、京内/京外の意識がすでにあつたものと思われ、京内に取り込まれる範囲が予め決められていたと考えられる。
- 注33 条坊計画が長岡京の造営時に変更されている点に関して、足利健亮氏は、長岡京のマスタープランが揺れ動き、そのため、「大極殿・朝堂院・内裏と二条大路の間が近すぎて、非常にへんてこ」になったと論じている(足利1999)。
- 注34 P373次調査が一条条間大路が宮城に取り付く位置で行われており、遷都直後には東面大垣が一条条間大路の北側にも造営されていること、後期段階には宮城門が設営されたことが判明した。そのため、北辺官衙南部は、少なくとも当初から宮域内に取り込まれていたと言える。
- 注35 小稿は、平成9年度科学研究費補助金(奨励研究B)の成果の一部である。小論の内容は、今までの、長岡京の発掘調査に携わる技師・調査員の方々の報告作業を集成したものであり、そういった方々のまじめな努力に全面的に負うものである。また、現在の乙訓地域の担当者とは、日常的に議論を交わし、大いに教示を得た。特に、松崎俊郎・長宗繁一・山本輝雄・原 秀樹・柴 暁彦氏には、調査の事実関係についてお教えいただいた。興福寺葺中五百樹氏には貴重な資料を戴いた。ここに記して感謝する。
- 注36 福山(1982)には、「永観2年の分付帳に、五間一面庇瓦葺正堂一字 五間檜皮葺礼堂一字とある」と記す。これによれば、正堂は瓦葺である。
- 注37 佐伯今毛人については、竹内・山田・平野編(1961)および角田(1963)を参考にした。
- 注38 本節は、平良(1996)文献から、第1節を省き、第2・3節は一部を削除したほか、ほぼそのまま再録したものである。全調査終了以前に執筆したものであり、第3章の事実記載における解釈と齟齬をきたす部分がある。調査成果の全てを考慮し得なかったこととあわせ、了承いただきたい。

#### 参考文献

- 赤澤 威・小田静夫・山中一郎 1980『日本の旧石器』(立風書房)
- 秋山浩三 1987「長岡京跡第150次(7ANDSB地区)～左京南一条二坊八町～発掘調査概要」(『向日市埋蔵文化財調査報告書』第21集 向日市教育委員会)
- 秋山浩三 1989「長岡京跡第198次(7ANFMZ-3地区)～左京三条一坊四町、西小路遺跡、南小路古墳～発掘調査概要」(『向日市埋蔵文化財調査報告書』第27集 (財)向日市埋蔵文化財センター・向日市教育委員会)
- 秋山浩三 1990「長岡京跡左京第227次(7ANDSB-2地区)～左京南一条二坊八町、石田遺跡～発掘調査概要」(『向日市埋蔵文化財調査報告書』第30集 (財)向日市埋蔵文化財センター・向日市教育委員会)
- 秋山浩三 1991「長岡宮跡第237次(7AN7L地区)～北辺官衙(南部)、森本遺跡、岸ノ下遺跡～発掘調査概要」

- (『向日市埋蔵文化財調査報告書』第32集 (財)向日市埋蔵文化財センター・向日市教育委員会)
- 秋山浩三他 1986「長岡京跡左京第120次(7ANFZN-2地区)～二条大路・東二坊第一小路・東二坊坊間小路  
交差点～発掘調査概要」(『向日市埋蔵文化財調査報告書』第18集 向日市教育委員会)
- 秋山浩三他 1989「長岡宮跡第204・208次(7AN11J・11K地区)～北辺官衙(北部)、殿長遺跡～発掘調査概要」  
(『向日市埋蔵文化財調査報告書』第25集 (財)向日市埋蔵文化財センター・向日市教育委員会)
- 秋山国三 1975「平安京の宅地配分と班田制について」(『京都「町」の研究』 法政大学出版局)
- 浅川滋男 1994「造酒司地区の調査 第241次」(『1993年度平城宮跡発掘調査部発掘調査概報』 奈良国  
立文化財研究所)
- 足利健亮 1999「歴史地理学から見た廃都と建都」(『年報 都城』10 (財)向日市埋蔵文化財センター)
- 尼崎市教育委員会 1982 『田能遺跡発掘調査報告書』尼崎市文化財調査報告書 第15集
- 石井清司 2000「松熊遺跡」(『新修亀岡市史』資料編第1巻)
- 石尾政信 1985「長岡京跡右京第171次発掘調査概要(7ANITT-10)」(『京都府遺跡調査概報』第15冊 (財)  
京都府埋蔵文化財調査研究センター)
- 石尾政信 1987「長岡京跡右京第240次発掘調査概要(7ANGAR-4地区)」(『京都府遺跡調査概報』第23冊  
(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター)
- 石尾政信 1996「長岡京跡左京第329次 P A工区A-2地区(7ANVKN-3)」(『京都府遺跡調査概報』第69冊  
(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター)
- 石尾政信他 1982「長岡宮跡第109次(7AN14M地区)～朝堂院西第一堂・第二堂～発掘調査概要」(『向日市  
埋蔵文化財調査報告書』第8集 向日市教育委員会)
- 石尾政信他 1991「長岡京跡右京第285・310・335次(7ANIFC.GSN地区)発掘調査概要」(『京都府遺跡調査  
概報』第45冊 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター)
- 石尾政信他 1992「長岡京跡左京第241・267・268次 向日工区(7ANFWD-2.XKM-2.XYT.WIR-2.WSS-2  
地区)」(『京都府遺跡調査概報』第51冊 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター)
- 石尾政信他 1996「長岡京跡右京第511次(7ANGKN地区)発掘調査概要」(『京都府遺跡調査概報』第69冊  
(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター)
- 岩崎 誠 1984「右京第126次(7ANQUD-2地区)調査概報」(『長岡京市埋蔵文化財センター年報』昭和58  
年度 (財)長岡京市埋蔵文化財センター)
- 岩崎 誠 1985 a 「長岡京跡右京第163次(7ANMKI地区)調査概要—勝龍寺城跡・神足遺跡・神足古墳—」  
(『長岡京市文化財調査報告書』第15冊 長岡京市教育委員会)
- 岩崎 誠 1985 b 「長岡京右京第178次(7ANIOK地区)調査概報」(『長岡京市埋蔵文化財センター年報』昭  
和59年度 (財)長岡京市埋蔵文化財センター)
- 岩崎 誠 1986「長岡京跡右京第163次(7ANMKI地区)調査概要—右京六条一坊四町・勝龍寺城跡・神足遺  
跡・神足古墳—」(『長岡京市文化財調査報告書』第17冊 長岡京市教育委員会)
- 岩崎 誠 1991「弥生時代 神足遺跡」(『長岡京市史』資料編1 長岡京市史編さん委員会)
- 岩崎 誠 1995「右京第430次(7ANNGK-4地区)調査概報」(『長岡京市埋蔵文化財センター年報』平成5年  
度 (財)長岡京市埋蔵文化財センター)
- 岩崎 誠 1996「右京第473次(7ANQKS-2地区)調査概報」(『長岡京市埋蔵文化財センター年報』平成6年  
度 (財)長岡京市埋蔵文化財センター)
- 岩崎 誠 1998「長岡京跡右京第582次・今里車塚古墳第9次(7ANISF-1地区)調査概要—長岡京跡右京三  
条二坊十三町・今里車塚古墳・今里遺跡—」(『長岡京市文化財調査報告書』第38冊 長岡京市教



育委員会)

- 岩崎 誠 1999「右京第582次(7ANISF-1地区)調査略報」(『長岡京市埋蔵文化財センター年報』平成9年度 (財)長岡京市埋蔵文化財センター)
- 岩崎 誠他 1983「長岡京跡右京第39次(7ANQMK地区)調査概要」(『長岡京市文化財調査報告書』第11冊 長岡京市教育委員会)
- 岩松 保 1996 a「長岡京跡左京第330次 PA工区A-3地区(7ANVST-3)」(『京都府遺跡調査概報』第69冊 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター)
- 岩松 保 1996 b「長岡京跡左京第336次 PA工区A-1地区(7ANVKN-4)」(『京都府遺跡調査概報』第69冊 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター)
- 岩松 保 1996 c「長岡京条坊計画試論—均等宅地型モデルの場合—」(『京都府埋蔵文化財情報』第61号 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター)
- 岩松 保 1997「長岡京跡左京第384次(7ANVKN-9)」(『京都府遺跡調査概報』第78冊 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター)
- 岩松 保 1998「長岡宮の地割り計画」(『古代中世の社会と国家 大阪大学文学部日本史研究室創立50周年記念論文集』上巻 清文堂)
- 岩松 保 1999「長岡京条坊計画再論—大路付加型モデルの場合—」(『国家形成期の考古学—大阪大学考古学研究室10周年記念論集』大阪大学考古学研究室編)
- 上村和直 1986「京都・長岡京跡(2)」(『木簡研究』第8号 木簡学会)
- 梅原末治 1920「向日町向神社付近ノ古墳」(『京都府史蹟勝地調査会報告』第2冊 京都府)
- 梅原末治 1922「西中筋村石剣発見ノ遺跡」(『京都府史蹟勝地調査会報告』第3冊 京都府)
- 梅原末治 1923 a「日置発見ノ石剣」(『京都府史蹟勝地調査会報告』第4冊 京都府)
- 梅原末治 1923 b「寺戸五塚原付近ノ古墳」(『京都府史蹟勝地調査会報告』第5冊 京都府)
- 梅原末治 1931「乙訓郡にて新に発掘せられたる二古墳」(『京都府史蹟勝地調査会報告』第12冊 京都府)
- 梅原末治 1955「向日町妙見山古墳」(『京都府史蹟勝地調査会報告』第21冊 京都府)
- 梅本康広 1994 a「長岡京跡左京第351次調査」(『長岡京連絡協議会資料』No.94-10)
- 梅本康広 1994 b「長岡京跡(推定)東院跡(長岡京左京第328次調査)」(現地説明会資料 (財)向日市埋蔵文化財センター)
- 梅本康広 1996 a「長岡宮跡第316次(7ANBKD)第2調査区(補足調査)」(『長岡京連絡協議会』No.96-05)
- 梅本康広 1996 b「長岡宮跡第316次(7ANBKD)第4調査区」(『長岡京連絡協議会』No.96-08)
- 梅本康広 1999「久々相遺跡第5次(7AKBUU-2地区)~久々相遺跡北部~発掘調査略報」(『向日市埋蔵文化財調査報告書』第49集 (財)向日市埋蔵文化財センター・向日市教育委員会)
- 愛媛県埋蔵文化財調査センター 1995『持田町3丁目遺跡』
- 大井重二郎 1966『平城京と条坊制度の研究』(初音書房)
- 大阪府文化財センター 1980『瓜生堂』
- 大阪府文化財センター 1982『亀井遺跡』
- 大阪府文化財センター 1983『亀井』
- 大阪府文化財センター 1984『山賀(その三)』
- 太田博太郎 1987「双堂」(『国史大辞典』8 吉川弘文館)
- 大林太良 1979「持衰」(『ゼミナール日本古代史(上)』光文社)

- 小笠原好彦・西 弘海・吉田恵二 1976「土器」(『平城宮発掘調査報告』Ⅶ 奈良国立文化財研究所学報 第26冊 奈良国立文化財研究所)
- 岡本健児 1983「高知県発見の銅剣・銅弋・石剣について」(『高知の研究』1 地質・考古編)
- 奥村清一郎 1986「長岡京の造営によって壊された古墳」(『長岡京古文化論叢』中山修一先生古稀記念事業会)
- 小田桐 淳 1985「長岡京跡右京第129次(7ANNSN-2地区)調査概要—右京八条三坊八町・鞆岡廃寺—」(『長岡京市埋蔵文化財調査報告書』第2集 (財)長岡京市埋蔵文化財センター)
- 小田桐 淳 1986「鞆岡廃寺の沿革」(『長岡京古文化論叢』中山修一先生古稀記念事業会)
- 小田桐 淳 1987「右京第191次(7ANPHI-2地区)調査概報」(『長岡京市埋蔵文化財センター年報』昭和60年度 (財)長岡京市埋蔵文化財センター)
- 小田桐 淳 1988「右京第246次(7ANJSH地区)調査略報」(『長岡京市埋蔵文化財センター年報』昭和61年度 (財)長岡京市埋蔵文化財センター)
- 小田桐 淳 1993「右京第387次(7ANNNT地区)調査概報」(『長岡京市埋蔵文化財センター年報』平成3年度 (財)長岡京市埋蔵文化財センター)
- 小田桐 淳他 1984「第83093次(7ANIMK地区)立会調査概報」(『長岡京市埋蔵文化財センター年報』昭和58年度 (財)長岡京市埋蔵文化財センター)
- 尾上 実・森島康雄・近江俊秀 1995「緑釉陶器」(『概説 中世の土器・陶磁器』中世土器研究会編)
- 小畑弘己 1996「狩猟・漁撈社会の階層制—文化の埋葬と社会—」(『東アジアにおける社会・文化構造の異化過程に関する研究』熊本大学)
- 荊木美行 1990「第2章 笠置町略史」(『笠置町と笠置山・その歴史と文化』笠置町教育委員会)
- 上村和直 1986「京都・長岡京跡(2)」(『木簡研究』第8号 木簡学会)
- 神原英朗 1973「四辻土壙墓遺跡・四辻古墳群—県営山陽新住宅市街地開発事業内埋蔵文化財発掘調査概要—」3 山陽町教育委員会
- 鐘方正樹・久保清子他 1994「平城京右京二条三坊四坪・菅原東遺跡の調査 第273-1・276次」(『奈良市埋蔵文化財調査概要報告書』平成5年度 奈良市教育委員会)
- 金子裕之 1985「平城京と祭場」(『国立歴史民俗博物館研究報告 本篇』第7集 国立歴史民俗博物館)
- 金田章裕 1978「平安初期における嵯峨野の開発と条里プラン」(『追手門学院大学文学部紀要』第12号 追手門学院大学文学部)
- 金田章裕 1986「山城国乙訓郡の条里プランと16世紀の坪付図」(『長岡京古文化論叢』中山修一先生古稀記念事業会)
- 兼康保明 1996「弥生時代の弑殺をめぐる」(『横田健一先生還暦記念 日本史論叢』横田健一先生還暦記念会)
- 加納敬二 1984「長岡京跡・東土川遺跡」(『昭和57年度京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所)
- 関西大学 1968『摂津加茂』
- 岸 俊男 1966「藤原仲麻呂の田村第」(『日本古代政治史研究』塙書房)
- 喜田貞吉 1915「山城北部の條里を調査し太秦廣隆寺の舊地に及ぶ」(『歴史地理』25巻1・2号)
- 喜田貞吉 1979「帝都 長岡京」(『都城の研究 喜田貞吉著作集』第5巻 平凡社)
- 北田栄造 1989「長岡京左京南一条四坊跡」(『長岡京跡・大藪遺跡発掘調査概報』昭和63年度 京都市文化観光局)

- 木村泰彦 1984 a 「長岡京跡右京第106次調査概要(7ANKHT地区)」(『長岡京市埋蔵文化財調査報告書』第1集 (財)長岡京市埋蔵文化財センター)
- 木村泰彦 1984 b 「長岡京跡右京第121次調査概要(7ANQNK地区)」(『長岡京市埋蔵文化財調査報告書』第1集 (財)長岡京市埋蔵文化財センター)
- 木村泰彦 1985 「右京第173次(7ANKHT-3地区)調査概要」(『長岡京市埋蔵文化財センター年報』昭和59年度 (財)長岡京市埋蔵文化財センター)
- 木村泰彦 1987 「右京第217次(7ANRQZ地区)調査略報」(『長岡京市埋蔵文化財センター年報』昭和60年度 (財)長岡京市埋蔵文化財センター)
- 木村泰彦 1989 「長岡京跡右京第322次(7ANIOK-2地区)調査概要—今里大塚古墳第2次調査—」(『長岡京市文化財調査報告書』第22冊 長岡京市教育委員会)
- 木村泰彦 1990 「右京第315次(7ANGHD-4地区)調査略報」(『長岡京市埋蔵文化財センター年報』昭和63年度 (財)長岡京市埋蔵文化財センター)
- 木村泰彦 1992 a 「右京第352次(7ANITT-13地区)調査概報」(『長岡京市埋蔵文化財センター年報』平成2年度 (財)長岡京市埋蔵文化財センター)
- 木村泰彦 1992 b 「長岡京の鉸具」(『長岡京古文化論叢』Ⅱ 中山修一先生喜寿記念事業会)
- 木村泰彦 1994 「右京第419次(7ANROZ-2地区)調査概報」(『長岡京市埋蔵文化財センター年報』平成4年度 (財)長岡京市埋蔵文化財センター)
- 木村泰彦 1995 「甕据付穴を持つ建物についての再検討」(『長岡京連絡協議会』No.95-05)  
(財)京都市埋蔵文化財研究所 1998『大藪遺跡発掘調査現地説明会資料』
- 日下雅義・都出比呂志・高橋美久二編 1991『長岡京市史』資料編 付図長岡京市遺跡地図 (長岡京市史編さん委員会)
- 久世康博・上村和直 1988 「長岡京左京<sup>マ</sup>一条三坊・二条三坊」(『京都市埋蔵文化財調査概要』昭和60年度 (財)京都市埋蔵文化財研究所)
- 國下多美樹 1990 a 「長岡宮跡第207次(7AN12H地区)～北辺官衙(南部)、森本遺跡～発掘調査概要」(『向日市埋蔵文化財調査報告書』第29集 (財)向日市埋蔵文化財センター・向日市教育委員会)
- 國下多美樹 1990 b 「長岡京跡左京第169次(7ANEJS-7地区)～左京南一条二坊十四町・南一条条間大路、鶏冠井遺跡～発掘調査概要」(『向日市埋蔵文化財調査報告書』第30集 (財)向日市埋蔵文化財センター・向日市教育委員会)
- 國下多美樹 1997 「長岡京期の諸問題～長岡京期土器の供給体制」(『向日市埋蔵文化財調査報告書』第45集 (財)向日市埋蔵文化財センター・向日市教育委員会)
- 國下多美樹 1998 「長岡京跡左京第416次(7ANFMZ-7地区)～朱雀大路、法華寺古墳群、西小路遺跡～発掘調査概要」(『向日市埋蔵文化財調査報告書』第46集 (財)向日市埋蔵文化財センター・向日市教育委員会)
- 國下多美樹他 1997『向日市埋蔵文化財調査報告書』第45集 ((財)向日市埋蔵文化財センター・向日市教育委員会)
- 國下多美樹・秋山浩三 1992 「長岡京跡左京第196・214次(7ANEGZ-1・2地区)～東二坊大路・二条大路交差点、左京二条三坊四町、左京三条三坊一町、鶏冠井清水遺跡～発掘調査概要」(『向日市埋蔵文化財調査報告書』第34集 (財)向日市埋蔵文化財センター・向日市教育委員会)
- 久保弘幸・藤田 淳編 1990『七日市遺跡』(Ⅰ) (兵庫県教育委員会)
- 神戸市教育委員会 1994『出会遺跡第27次発掘調査報告書』

- 古閑正浩 1996「京都府乙訓地域の韓式系土器・カマド形煮炊具の様相」(『韓式系土器研究』VI 韓式土器研究会)
- 古閑正浩 1997「長岡京跡右京第525次(7ANSTD-2地区)調査略報」(『大山崎町文化財年報』平成8年度大山崎町教育委員会)
- 古閑正浩 1998『長岡京右京第578次調査概報』(『大山崎町埋蔵文化財調査報告書』第17集 大山崎町教育委員会)
- 児島隆人・藤田 等 1973「磨製有樋式石剣」(『嘉穂地方史』先史編 嘉穂町教育委員会)
- 小林 清 1975『長岡京の新研究 (全)』(比叡書房)
- 小林 清・中山修一・梶 晴雄 1972『長岡京跡 京都西山電報電話局増設用地埋蔵文化財発掘調査概報』(個人出版)
- 酒井龍一 1974「石庖丁の生産と消費をめぐる二つのモデル」(『考古学研究』第21巻2号 考古学研究会)
- 佐伯有清 1958「長岡・平安遷都事情新考—その建議者達を中心として—」(『日本歴史』第125号 日本歴史学会)
- 佐原 真 1967「山城における弥生文化の成立—畿内第I様式の細別と雲ノ宮遺跡出土土器の占める位置—」(『史林』第50巻5号)
- 佐原 真・藤尾慎一郎編 1996『倭国乱る』(国立歴史民俗学博物館)
- 柴 暁彦 1997「長岡京跡右京第547次(7ANGTE-3・GKN-2)発掘調査概要」(『京都府遺跡調査概報』第77冊 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター)
- 島田敏男 1988「造酒司地区の調査 第182次」(『平城宮跡発掘調査部発掘調査概報』昭和62年度 奈良国立文化財研究所)
- 清水みき 1986 a 「長岡京造営論—二つの画期をめぐる—」(『ヒストリア』第110号 大阪歴史学会)
- 清水みき 1986 b 「墨書土器「車宅」をめぐる」(『長岡京古文化論叢』中山修一先生古稀記念事業会)
- 清水みき 1995「桓武朝における遷都の論理」(『日本古代国家の展開』上巻 思文閣出版)
- 白石 純 1995『津島東3丁目遺跡第1地点清水谷遺跡』(加計学園埋蔵文化財調査室)
- 白川成明 1990「右京第321次(7ANIUS-2地区)調査略報」(『長岡京市埋蔵文化財センター年報』昭和63年度 (財)長岡京市埋蔵文化財センター)
- 新庄 良 1993「長岡京跡左京第262次(7ANDID-3地区)～左京一条二坊五町(南一条二坊七町)・一条大路(南一条条間大路)～発掘調査概要」(『向日市埋蔵文化財調査報告書』第37集 (財)向日市埋蔵文化財センター・向日市教育委員会)
- 新庄 良他 1992「長岡京跡左京第260・272次(7ANDID-2・4地区)～南一条第一小路、左京南一条二坊七・八町、石田遺跡～発掘調査概要」(『向日市埋蔵文化財調査報告書』第33集 (財)向日市埋蔵文化財センター・向日市教育委員会)
- 菅原正明 1992「甕倉出現の意義」(『国立歴史民俗博物館研究報告』第46集 国立歴史民俗博物館)
- 杉原和雄 1979『古代のまつりとくらし』(丹後郷土資料館)
- 杉原荘介・戸沢充則・安蒜政雄 1983『佐賀県多久三年山における石器時代の遺跡』(明治大学文学部考古学研究室)
- 関 雅美 1990『ポパーの科学論と社会論』(頸草書房)
- 瀬戸谷皓・宮村良雄他 1989『駄坂・舟隠遺跡群』(豊岡市教育委員会)
- 第二阪和国道内遺跡調査会 1970『池上・四ツ池』
- ソントク・S(高橋康也他訳) 1971『反解釈』(竹内書店新社AL選書)

- 平良泰久 1974「日置遺跡出土の有樋式石剣」(『京都考古』第2号 京都考古刊行会)
- 平良泰久 1976「長岡京跡昭和50年度発掘調査概要」(『埋蔵文化財発掘調査概報』1976 京都府教育委員会)
- 平良泰久 1981「都城の宅地」(『埋蔵文化財発掘調査概報』1981-1 京都府教育委員会)
- 平良泰久 1986「乙訓の初期須恵器」(『長岡京古文化論叢』 中山修一先生古希記念事業会)
- 平良泰久 1989『京都府遺跡地図 第2版』第4分冊(京都府教育委員会)
- 平良泰久 1996「長岡京の貴紳の家」(『京都府埋蔵文化財論集』第3集 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター)
- 平良泰久他 1980「平安京跡(右京一条三坊九町)昭和54年度発掘調査概要」(『埋蔵文化財発掘調査概報』1980-3 京都府教育委員会)
- 高瀬要一・箱崎和久 2000『興福寺 第1期境内整備事業にともなう発掘調査概報』Ⅱ 奈良国立文化財研究所
- 高橋健二 1923「銅矛銅剣考(11)」(『考古学雑誌』第13巻第6号 考古学研究会)
- 高橋照彦 1995「緑釉陶器」(『概説 中世の土器・陶磁器』 中世土器研究会)
- 高橋美久二 1977「長岡京跡昭和51年度発掘調査概要」(『埋蔵文化財発掘調査概報』1977 京都府教育委員会)
- 高橋美久二 1979「長岡京跡昭和53年度発掘調査概要 下水道西幹線今里地区立合調査」(『埋蔵文化財発掘調査概報』1979 京都府教育委員会)
- 高橋美久二他 1978「長岡宮跡第73次(7AN14J地区)調査報告」(『向日市埋蔵文化財調査報告書』第4集 向日市教育委員会)
- 高橋美久二他 1979「長岡宮跡第68次(7AN10B地区)発掘調査報告」(『向日市埋蔵文化財調査報告書』第3集 向日市教育委員会・長岡京跡発掘調査研究所)
- 高橋美久二他 1980「長岡京跡右京第26次発掘調査概要」(『埋蔵文化財発掘調査概報』1980-2 京都府教育委員会)
- 高橋美久二他 1982「長岡京跡右京第70次(7AN01R地区)調査概要」(『長岡京市文化財調査報告書』第9冊 長岡京市教育委員会)
- 滝川政次郎 1967「革命思想と長岡遷都」(『京制並に都城制の研究 法制史論叢』第2冊 角川書店)
- 竹井治雄 1988「長岡京跡右京第266次発掘調査概要(7ANKHT-Ⅲ地区)」(『京都府遺跡調査概報』第27冊 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター)
- 竹井治雄 1996 a「長岡京跡左京第331次 PA工区B-2 b.D-2 b地区(7ANVST-4)」(『京都府遺跡調査概報』第69冊 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター)
- 竹井治雄 1996 b「長岡京跡左京第337次 PA工区B-5地区(7ANVKN-5)」(『京都府遺跡調査概報』第69冊 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター)
- 竹井治雄・中川和哉 1995「長岡京跡第303・314・315次 PA工区(7ANVKN.WSS-4地区)」(『京都府遺跡調査概報』第61冊 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター)
- 竹内理三・山田英雄・平野邦雄編 1961「佐伯今毛人」(『日本古代人名辞典』第3巻 吉川弘文館)
- 武田和哉 1997「平城京条坊制事情」(『立命館大学考古学論集』Ⅰ 立命館大学考古学論集刊行会)
- 竹原一彦 1980「長岡京跡左京第36次(7ANDII)発掘調査略報」(『長岡京』18 長岡京跡発掘調査研究所)
- 田代 弘・村尾政人他 1986『太田遺跡』(『京都府遺跡調査報告書』第6冊 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター)

- 田辺征夫・安田龍太郎・巽淳一郎 1982「土器」(『平城宮発掘調査報告』XI 奈良国立文化財研究所30周年記念学報 第40冊 奈良国立文化財研究所)
- 田辺征夫他 1986『平城京左京九条三坊十坪発掘調査報告』(奈良国立文化財研究所)
- 谷口 悌・田代 弘・迫 慶喜 2000『池上遺跡発掘調査報告書』(八木町教育委員会)
- 種定淳介 1990「銅剣形石剣試論(上)」(『考古学研究』第36巻第4号 考古学研究会)
- 種定淳介 1990「銅剣形石剣試論(下)」(『考古学研究』第37巻第1号 考古学研究会)
- 玉城玲子 1986「15世紀後半の乙訓における惣国について」(『長岡京古文化論叢』中山修一先生古稀記念事業会)
- 千喜良淳 1992「右京第351次(7ANJNM-3地区)調査概報」(『長岡京市埋蔵文化財センター年報』平成2年度 (財)長岡京市埋蔵文化財センター)
- 辻 純一 1994「長岡京条坊復元における一考察」(『京都市埋蔵文化財研究所 研究紀要』第1号 (財)京都市埋蔵文化財研究所)
- 堤圭三郎他 1968「向日丘陵地周辺遺跡分布調査概要」(『埋蔵文化財発掘調査概報』1968 京都府教育委員会)
- 塚田良道 1990「弥生時代における二上山サヌカイトの獲得と石器生産」(『古代学研究』第122号 古代学研究会)
- 角田文衛 1963『佐伯今毛人』(吉川弘文館)
- 寺沢 薫・武末純一 1998『最新邪馬台国事情』(白馬社)
- 土橋 誠 1989「維摩会に関する基礎的考察」(『古代史論集』下巻 塙書房)
- 戸原和人 1978「長岡京跡左京14次調査 7ANEJS地区」(『長岡京 長岡京跡発掘調査研究所ニュース』9・10号 長岡京跡発掘調査研究所)
- 戸原和人他 1995 a 「長岡京跡左京第286・304・313・317次調査 PA工区(7ANWSA-2.3・VNR.WSG地区)」(『京都府遺跡調査概報』第61冊 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター)
- 戸原和人他 1995 b 「長岡京跡左京第303・314・315次調査」(『京都府遺跡調査概報』第61冊 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター)
- 戸原和人他 1996「名神高速道路関係遺跡平成6年度発掘調査概要」(『京都府遺跡調査概報』第69冊 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター)
- 戸原和人他 1997「長岡京跡左京第361・362・363次(7ANVKN-6.7.8)」(『京都府遺跡調査概報』第74冊 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター)
- 戸原和人・岸岡貴英 1995「長岡京跡第334次 PA工区B-3地区(7ANVKN-2)」(『京都府遺跡調査概報』第69冊 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター)
- 豊中市教育委員会 1972『勝部遺跡』
- 豊中市教育委員会 1995『豊中市埋蔵文化財年報』VOL.3
- 豊浦町教育委員会 1984『史跡・中ノ浜遺跡』
- 中川和哉 1992「第3次山城国府跡に関する新提言—平安時代の瓦が出土する遺跡—」(『長岡京古文化論叢』II 中山修一先生喜寿記念事業会)
- 中川和哉 1993「銅剣形石剣の新事例」『京都府埋蔵文化財情報』第50号 ((財)京都府埋蔵文化財調査研究センター)
- 中川和哉 1996「長岡京跡左京第333次 PA工区B-4地区(7ANVST-5)」(『京都府遺跡調査概報』第69冊 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター)

- 中川和哉 1998 a 「弥生時代石器研究の実践」(『京都府埋蔵文化財情報』第67号 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター)
- 中川和哉 1998 b 「桂川右岸における石剣の出土例」(『京都府埋蔵文化財情報』第68号 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター)
- 中川和哉他 1999 『京都府遺跡調査報告書 下植野南遺跡』第25冊 ((財)京都府埋蔵文化財調査研究センター)
- 中川和哉他 2000 「池上遺跡第5次」(『京都府遺跡調査概報』第91冊 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター)
- 中川和哉・田畑直彦 1997 『京都府遺跡調査報告書 雲宮遺跡』第22冊 ((財)京都府埋蔵文化財調査研究センター)
- 中島信親 1999 「長岡宮跡第373次(7ANDST-5地区)」(『長岡京連絡協議会』No.98-12)
- 中島皆夫 1994 「右京第420次(7ANNMC-3地区)調査概報」(『長岡京市埋蔵文化財センター年報』平成4年度 (財)長岡京市埋蔵文化財センター)
- 中島皆夫 2000 「右京第624次(7ANRUI-3地区)調査略報」(『長岡京市埋蔵文化財センター年報』平成10年度 (財)長岡京市埋蔵文化財センター)
- 中馬陽太郎 1980 「長岡京跡第7909次(7ANBNK地区)立合調査概要」(『向日市埋蔵文化財調査報告書』第6集 向日市教育委員会)
- 中塚 良 1986 「乙訓地域における古式土師器の様相」(『長岡京古文化論叢』Ⅱ 中山修一先生喜寿記念事業会)
- 中塚 良 1993 「長岡宮跡第270次(7AN12M地区)～北辺官衙(南部)、岸ノ下遺跡～発掘調査概要」(『向日市埋蔵文化財調査報告書』第36集 (財)向日市埋蔵文化財センター・向日市教育委員会)
- 中塚 良 1998 「長岡宮跡第369次(7ANBHS地区)」(『長岡京連絡協議会』No.98-09)
- 中塚 良 1999 「長岡京左京第421次(7ANDTD-3地区)第1調査区(第1トレンチ)」(『長岡京連絡協議会』No.98-11)
- 長宗繁一他 1991 「長岡京跡左京四条三・四坊」(『京都市埋蔵文化財調査概要』昭和62年度 (財)京都市埋蔵文化財研究所)
- 長宗繁一他 1998 『水垂遺跡 長岡京左京六・七条三坊 京都市埋蔵文化財研究所調査報告』第17冊 ((財)京都市埋蔵文化財研究所)
- 中山修一 1974 「室町時代の地名図の発見」(『乙訓文化』31 乙訓の文化遺産を守る会)
- 中山修一 1981 「長岡京の条坊」(『京都府埋蔵文化財情報』第2号 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター)
- 中山修一 1983 「長岡京の史脈」(『向日市史』上巻 向日市)
- 鍋田 勇 1993 「長岡京条坊制地割計画の再考」上・下 (『京都府埋蔵文化財情報』第48・49号 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター)
- 鍋田 勇 1995 「E-2地区(名神高速道路関係遺跡平成5年度発掘調査概要)」(『京都府遺跡調査概報』第61冊 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター)
- 鍋田 勇他 1995 「長岡京跡左京第286・304・313・317次 京都工区」(『京都府遺跡調査概報』第61冊 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター)
- 奈良国立文化財研究所編 1991 『平城京長屋王邸宅と木簡』(吉川弘文館)
- 西口陽一 1986 「人・硯・石剣」(『考古学研究』第32巻4号 考古学研究会)

- 西谷眞治 1985『元稲荷古墳』(西谷眞治先生還暦祝賀会)
- 野島 永 1997「長岡京跡左京第385次(7ANVK-10・VST-6)」(『京都府遺跡調査概報』第78冊 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター)
- 野島 永 1998 a「資料紹介 長岡京の古櫃について」(『京都府埋蔵文化財情報』第67号 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター)
- 野島 永 1998 b「長岡京の大規模宅地—名神桂川パーキング・エリアの調査から—」(『京都府埋蔵文化財情報』第68号 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター)
- 野島 永 1998 c「長岡京跡左京第399次(7ANVK-11・7ANVST-7)」(『京都府遺跡調査概報』第84冊 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター)
- 能勢町教育委員会 1998『原田遺跡発掘調査報告書』
- 朴東百・秋淵植 1988『陝川苧浦里B古墳群』昌原大學博物館學術調査報告 第二冊 (昌原大學博物館)
- 畑中幸子(監修) 1978『世界の民族』第一巻 (平凡社)
- 長谷川達也 1985「長岡京跡左京第118次発掘調査概要(7ANDK-3.EJS-3地区)」(『京都府遺跡調査概報』第15冊 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター)
- 林 亨 1981「境野古墳群1号墳第1次(TSN地区)発掘調査概要」(『大山崎町埋蔵文化財調査報告書』第2集 大山崎町教育委員会)
- 原 秀樹 1990「右京第307次(7ANMMB-4地区)調査略報」(『長岡京市埋蔵文化財センター年報』昭和63年度 (財)長岡京市埋蔵文化財センター)
- 原 秀樹 1993「旧都長岡京における平安時代の開発」(『杉山信三先生米寿記念論集 平安京歴史研究』杉山信三先生米寿記念論集刊行会)
- 肥後弘幸 1993「豊谷墳墓群」(『埋蔵文化財調査概報』1992 京都府教育委員会)
- 肥後弘幸他 1989『志高遺跡』(『京都府遺跡調査報告書』第12冊 京都府教育委員会)
- 平井 勝 1991『弥生時代の石器』(ニュー・サイエンス社)
- 平尾政幸 1987「平安京右京二条三坊」(『平安京跡発掘調査概報』昭和61年度 京都市文化観光局)
- 枚方市文化財研究調査会 1980「星ヶ丘西遺跡」(『枚方市文化財年報』I)
- 福永伸哉他 1995「井ノ内稲荷塚古墳第2次調査概要—長岡京跡右京第478次調査」(『長岡京市文化財調査報告書』第33冊 長岡京市教育委員会)
- 福永伸哉他 1997「井ノ内稲荷塚古墳」II(『長岡京市文化財調査報告書』第37冊 長岡京市教育委員会)
- 福山敏男 1982「東大寺法華堂の建立」(『寺院建築の研究』 中央公論美術出版)
- 堀内明博 1992「長岡京出土特殊建物遺構に関する2・3の覚え書き—所謂甕据付穴付掘立柱建物の類型別分析について—」(『長岡京古文化論叢』II 中山修一先生喜寿記念事業会)
- 本中 真 1988「宅地利用の実際」(『季刊考古学』特集古代の都城 第22号 雄山閣出版)
- 本中 真 1989「考察 条坊遺構と地割」(『平城京右京八条一坊十三・十四坪発掘調査報告 奈良国立文化財研究所学報』第46冊 奈良国立文化財研究所)
- 前島己基 1973「浜田市鰐石遺跡」(『季刊文化財』第22号 文化庁)
- 町田 章 1991「平城京」(『新版古代の日本』第6巻 近畿II 角川書店)
- 松江市教育委員会 1983『松江圏都市計画事業事業乃木地区区画整理事業区域内埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書』
- 松崎俊郎 1986「長岡京跡左京第149次(7ANFKW-2地区)」(『長岡京連絡協議会』No.86-03)
- 松崎俊郎 1987「長岡宮跡第181次(7AN11I地区)～北辺官衙(北部)・殿長遺跡～」(『向日市埋蔵文化財調



- 査報告書】第21集 向日市教育委員会)
- 松崎俊郎 1989「長岡京跡左京第121次(7ANEJS-4地区)～南一条条間大路・東二坊大路交差点～発掘調査概要」(『向日市埋蔵文化財調査報告書』第27集 (財)向日市埋蔵文化財センター・向日市教育委員会)
- 松崎俊郎 1990「長岡京跡左京第141次(7ANEUK-2地区)～左京南一条三坊五町・南一条第二小路、鶏冠井遺跡～発掘調査概要」(『向日市埋蔵文化財調査報告書』第30集 (財)向日市埋蔵文化財センター・向日市教育委員会)
- 松崎俊郎 1992「乙訓地域出土の皇朝銭」(『長岡京古文化論叢』Ⅱ 中山修一先生喜寿記念事業会)
- 松崎俊郎 1993「長岡京跡左京第285次(7ANDTK-4地区)～左京一条三坊四町(南一条三坊二町)・一条大路(南一条条間大路)・東二坊大路交差点～発掘調査概要」(『向日市埋蔵文化財調査報告書』第36集 (財)向日市埋蔵文化財センター・向日市教育委員会)
- 松崎俊郎 1994「長岡京跡左京第289次(7ANFTB-5地区)～左京五条二坊八町(左京四条二坊六町)・五条条間北小路(四条第二小路)・東二坊坊間小路交差点～発掘調査概要」(『向日市埋蔵文化財調査報告書』第38集 (財)向日市埋蔵文化財センター・向日市教育委員会)
- 松崎俊郎 1995「長岡京跡左京第354次(7ANFMM-4地区)～左京三条一坊三町(三条一坊一町)・東一坊坊間西小路(東一坊第一小路)、円山遺跡～発掘調査概要」(『向日市埋蔵文化財調査報告書』第39集 (財)向日市埋蔵文化財センター・向日市教育委員会)
- 松本秀人・常盤井智行 1984「大島遺跡の武器形石製品」(『京都考古』第31号 京都考古刊行会)
- 丸川義広・上村和直 1989「長岡京左京一条三坊・二条三坊」(『京都市埋蔵文化財調査概要』昭和61年度 (財)京都市埋蔵文化財研究所)
- 三上貞二 1975『恵解山古墳周濠調査概報』(『長岡京市文化財調査報告』第2冊 長岡京市教育委員会)
- 三上貞二 1977『恵解山古墳周濠第二次調査概報』(『長岡京市文化財調査報告』第3冊 (長岡京市教育委員会)
- 御堂島正 1991「石鏃と有舌尖頭器の衝撃剝離」(『古代』第92号 早稲田大学考古学会)
- 南 孝雄 1994「平安京掘立柱建物跡の特性～庇付き建物の展開～」(『京都市埋蔵文化財研究所 研究紀要』第1号 (財)京都市埋蔵文化財研究所)
- 宮村良雄 1995「土井ヶ浜遺跡の「英雄」」(『古代但馬と日本海』)
- 向日市教育委員会 1995『向日市遺跡地図(第3版)』
- 本 弥八郎 1983「桂川右岸沖積平野部の遺構」(『長岡京』第27号 長岡京跡発掘調査研究所)
- 百瀬正恒 1995「京都・長岡京跡(3)」(『木簡研究』第17号 木簡研究会)
- 百瀬正恒 1986「長岡京の土器」(『長岡京古文化論叢』中山修一先生古稀記念事業会)
- 百瀬正恒他 1998「長岡京左京第418次(7ANVKC-1地区)」(『長岡京連絡協議会』No.98-09)
- 百瀬正恒他 1999「長岡京左京第418次(7ANVKC-1地区)」(『長岡京連絡協議会』No.98-11)
- 百瀬正恒・長宗繁一他 1997『長岡京左京出土木簡』1 (京都市埋蔵文化財調査報告 第16冊 (財)京都市埋蔵文化財研究所)
- 百瀬正恒・丸川義広・長宗繁一 1991「長岡京左京二条三坊」(『昭和62年度京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所)
- 森本 晋 1991「ごみの捨て方—石器製作と廃棄 弥生時代河内の事例—」(『考古学研究』第38巻第3号 考古学研究会)
- 八木厚之 1998「長岡京跡右京第584次発掘調査概要(7ANGND-1地区)」(『京都府遺跡調査概報』第80冊

- (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター)
- 安井良三 1956「平安遷都試考」(『文化史学』第12号 文化史学会)
- 山口 均 1998「向日市立会第98092次(7ANDKD・DSD地区)」(『長岡京連絡協議会』No.98-09)
- 山口 博 1983「長岡京跡右京第105次発掘調査概要(7ANIMK・INC-Ⅱ地区)」(『京都府遺跡調査概報』第8冊 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター)
- 山口 博他 1984「長岡京跡右京第83・105次発掘調査概要(7ANINC-2・3.IHT.IFK.IMK地区)」(『京都府遺跡調査概報』第9冊 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター)
- 山中 章 1986a「長岡宮跡第158・165次(7AN9N-1・2地区)～大極殿院北面回廊・大極殿古墳～発掘調査概要」(『向日市埋蔵文化財調査報告書』第18集 向日市教育委員会)
- 山中 章 1986b「長岡宮跡第159次(7AN1C地区)～東一坊大路～発掘調査概要」(『向日市埋蔵文化財調査報告書』第18集 向日市教育委員会)
- 山中 章 1986c「長岡京の建築遺構と宅地の配置」(『長岡京古文化論叢』 中山修一先生古希記念事業会)
- 山中 章 1987「長岡宮の造営と瓦」(『長岡京古瓦聚成』 向日市教育委員会)
- 山中 章 1987・1988「長岡京廢都以後の土地利用」(『向日市文化資料館研究紀要』第2・3号 向日市文化資料館)
- 山中 章 1988「長岡京跡上層の中世小溝群について」(『条里制研究』第4号 条里制研究会)
- 山中 章 1990a「古代都城の交通―交差点からみた条坊の機能―」(『考古学研究』第37巻第1号 考古学研究会)
- 山中 章 1990b「長岡宮跡第214次(7AN2B地区)～東辺官衙・一条大路～発掘調査概要」(『向日市埋蔵文化財調査報告書』第29集 (財)向日市埋蔵文化財センター・向日市教育委員会)
- 山中 章 1991a「長岡宮跡第249次(7AN8F地区)～朝堂院北東官衙～発掘調査概要」(『向日市埋蔵文化財調査報告書』第31集 (財)向日市埋蔵文化財センター・向日市教育委員会)
- 山中 章 1991b「古代都城の橋と道路」(『月刊 考古学ジャーナル』No.332 ニューサイエンス社)
- 山中 章 1992a「古代条坊制論」(『考古学研究』第38巻第4号 考古学研究会)
- 山中 章 1992b「長岡宮城南面と北辺の造営」(『条里制研究』第8号 条里制研究会)
- 山中 章 1992c「長岡京東院跡」(『古代文化』第44巻第1号 古代學協會)
- 山中 章 1994「初期平安京の造営と構造」(『古代文化』第46巻第1号 古代學協會)
- 山中 章 1997a「宮内官司と宮外諸司」(『都城における行政機構の成立と展開』古代都城制研究集會 第2回報告集 奈良国立文化財研究所)
- 山中 章 1997b「長岡京東北部の条坊と条里」(『空から見た古代遺跡と条里』 条里制研究会)
- 山中 章他 1983「長岡宮跡第117次(7AN11E地区)～北辺官衙～発掘調査概要」(『向日市埋蔵文化財調査報告書』第10集 向日市教育委員会)
- 山中 章他 1984「長岡京跡左京第89次(7ANEJS-2地区)～左京南一条三坊三町・鶏冠井遺跡第3次～発掘調査概要」(『向日市埋蔵文化財調査報告書』第13集 (財)向日市埋蔵文化財センター・向日市教育委員会)
- 山本輝雄 1988「長法寺七ツ塚古墳群」(『長岡京市文化財調査報告書』第21冊 長岡京市教育委員会)
- 山本輝雄 1990「右京第301次(7ANKTR-4地区)調査略報」(『長岡京市埋蔵文化財センター年報』昭和63年度 (財)長岡京市埋蔵文化財センター)
- 山本輝雄 1991「古墳時代」(『長岡京市史』資料編1 長岡京市史編さん委員会)

- 山本輝雄 1993「右京第376次(7ANKAN地区)調査略報」(『長岡京市埋蔵文化財センター年報』平成3年度  
(財)長岡京市埋蔵文化財センター)
- 山本輝雄 1996「都城と古墳」(『長岡京連絡協議会』No.95-05)
- 山本輝雄 1997『長岡京跡右京第22・25次調査報告書——長岡京跡右京二条三坊二・七町、上里遺跡』  
(『長岡京市埋蔵文化財調査報告書』第11集 (財)長岡京市埋蔵文化財センター)
- 山本輝雄他 1980「長岡第九小学校建設に伴う発掘調査概要 長岡京右京第10・28次調査(7ANMMB地区)」  
(『長岡京市文化財調査報告書』第5冊 長岡京市教育委員会)
- 山本輝雄他 1981「恵解山古墳第3次発掘調査概要」(『長岡京市文化財調査報告書』第8冊 長岡京市教育委員会)
- 山本輝雄他 1984「長岡京跡右京第104次調査概要(7ANOND地区)」(『長岡京市埋蔵文化財調査報告書』第1集 (財)長岡京市埋蔵文化財センター)
- 山本輝雄他 1985「長岡京跡右京第139次(7ANQNK-2地区)調査概要—右京八条一坊十五町・西一坊大路—」  
(『長岡京市埋蔵文化財調査報告書』第2集 (財)長岡京市埋蔵文化財センター)
- 山本輝雄他 1990『史跡恵解山古墳』(『長岡京市文化財調査報告書』第25冊 長岡京市教育委員会)
- 山本輝雄他 1996「右京第488次(7ANITT-15地区)調査略報」(『長岡京市埋蔵文化財センター年報』平成6年度 (財)長岡京市埋蔵文化財センター)
- 吉崎 伸 1990『中久世遺跡発掘調査概報』平成元年度 (京都市文化観光局)
- 吉崎 伸他 1993「長岡京跡左京四条三・四坊、羽束師志水町遺跡」(『京都市埋蔵文化財調査概要』昭和63年度 ((財)京都市埋蔵文化財研究所)
- 吉田敬市 1940「山城乙訓郡の條里」(『紀元二千六百年記念史學論文集』京都帝国大學文學部)
- 吉田 広 1993「銅剣生産の展開」(『史林』七十六卷六号)
- 米倉二郎 1966「山城の条里と平安京」(『史林』第39卷第3号)
- 渡辺 博 1988「長岡宮跡第154次(7AN6E地区)～北辺官衙(北辺)・北京極大路～発掘調査概要」(『向日市埋蔵文化財調査報告書』第22集 向日市教育委員会)
- 渡辺 博 1989「長岡京跡第162次(7ANEKD地区)～左京二条二坊十五町、二条条間大路・東二坊大路交差点～発掘調査概要」(『向日市埋蔵文化財調査報告書』第27集 (財)向日市埋蔵文化財センター・向日市教育委員会)
- 渡辺 博 1990「長岡京跡左京第185次(7ANDKG-5地区)～左京南一条二坊九・十町、石田遺跡～発掘調査概要」(『向日市埋蔵文化財調査報告書』第30集 (財)向日市埋蔵文化財センター・向日市教育委員会)

## 付 編 自然科学的方法による分析結果

### 1. 東土川遺跡木棺墓検出赤色顔料分析

元興寺文化財研究所

東土川遺跡木棺墓から検出された赤色顔料とみられる試料の分析について報告します。

#### I. 分析内容

対象は土壌サンプル2種である。

方形周溝墓 S T 385619 周溝内木棺墓

木棺墓(S T 385628)①・・・No.①、 木棺墓(S T 385628)②・・・No.②

No.①、および②のうち、最も赤色であるとみられる部位について非破壊の元素分析を実施した。比較対照として赤色を呈していない部位についても調べた。また、乾燥・湿潤両方の状態での顕微鏡写真撮影も行った。

#### II. 使用機器及び測定条件

・実体顕微鏡(オリンパス光学工業(株)SZH-ILLD)

・エネルギー分散型ケイ光X線分析装置(XRF)(セイコーインスツルメンツ(株)製 SEA5230)

試料の微小領域にX線を照射し、その際に試料から放出される各元素に固有のケイ光X線を検出することにより元素を同定する。

分析条件:モリブデン管球使用、真空条件下、コリメータ 0.1mm、管電圧50kV

#### III. 分析結果

サンプルNo.①および②の、赤色味を帯びた部分と黄土色部分とのいずれからも鉄(Fe)・アルミニウム(Al)・ケイ素(Si)・カリウム(K)・チタン(Ti)を検出した。部位によってはルビジウム(Rb)も検出した。いずれも土壌に含まれる成分である(図1・2)。水銀(Hg)は検出されなかった。

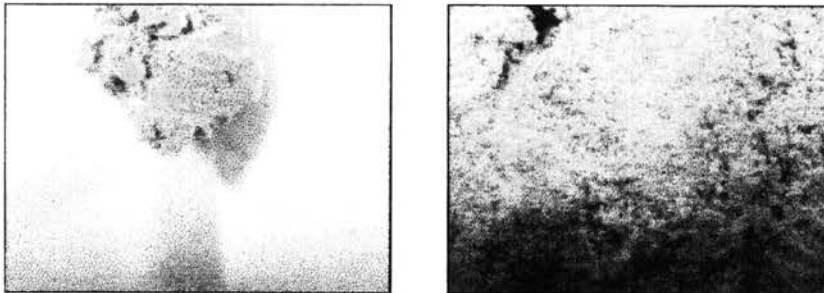
当該サンプルからでは、赤色味部分が赤色顔料として意図的に用いられたものなのか、赤味を帯びた土壌なのかは不明である。赤色顔料であるとすれば、ベンガラ(酸化第2鉄:Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>)とみられる。水銀朱(硫化水銀:HgS)は含まれないと考えられる。

また、赤色味部分の顕微鏡写真(巻頭図版5 写真1・2)では、湿潤時に比較的赤味が強く見える。出土土塊には赤色が比較的是っきりしていたのは水気を含んでいたためとみられる。

[測定条件]

	A	B
測定装置	SEA5230	SEA5230
測定時間 (秒)	180	180
有効時間 (秒)	175	177
試料室雰囲気	真空	真空
コリメータ	φ 0.1 mm	φ 0.1 mm
励起電圧 (kV)	50	50
管電流 (μA)	1000	1000
コメント	11-130 (財) 京都府 No.① 土壌サンプル 赤色部	11-130 (財) 京都府 No.① 土壌サンプル 黄土色部

[試料像]



[スペクトル]

視野: [X,Y] 6.25, 4.67 (mm), [X,Y] 6.25, 4.67 (mm)

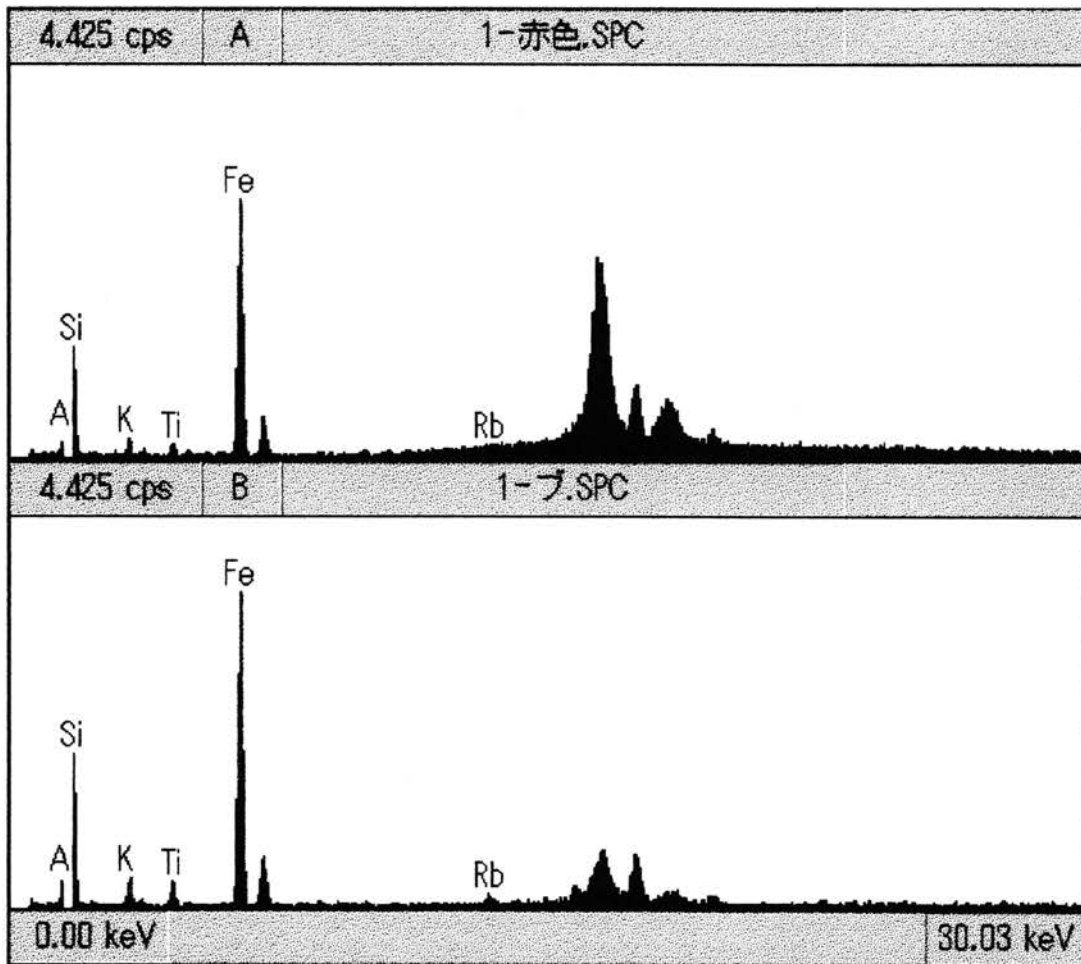
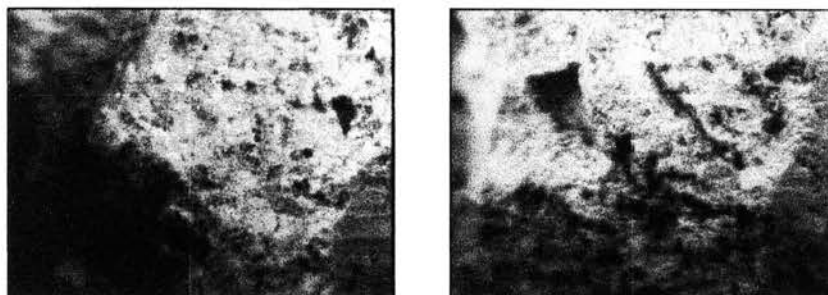


図1 No.①土壌サンプルのXRFのスペクトル

[測定条件]

	A	B
測定装置	SEA5230	SEA5230
測定時間 (秒)	180	180
有効時間 (秒)	177	177
試料室雰囲気	真空	真空
コリメータ	φ 0.1 mm	φ 0.1 mm
励起電圧 (kV)	50	50
管電流 (μA)	1000	1000
コメント	11-130 (財) 京都府 No.② 土壤サンプル 赤色部	11-130 (財) 京都府 No.② 土壤サンプル 黄土色部

[試料像]



[スペクトル]

視野: [X,Y] 6.25, 4.67 (mm), [X,Y] 6.25, 4.67 (mm)

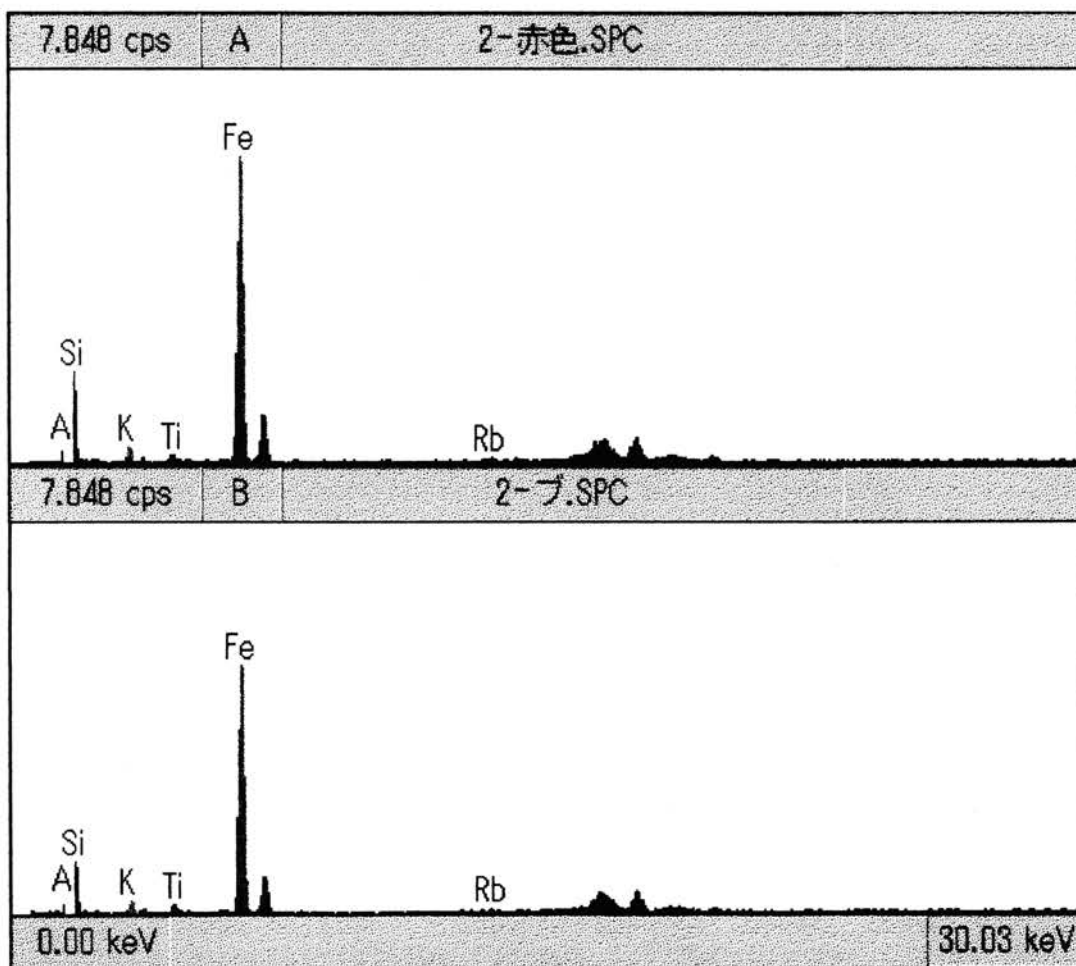


図2 No.②土壤サンプルのXRFのスペクトル

## 2. 東土川遺跡から出土した遺構・遺物に残存する脂肪の分析

帯広畜産大学生物資源科学科 中野益男  
(株)ズコーシャ総合科学研究所 中野寛子・門 利恵・長田正宏

動植物を構成している主要な生体成分にタンパク質・核酸・糖質(炭水化物)および脂質(脂肪・油脂)がある。これらの生体成分は環境の変化に対して不安定で、圧力・水分などの物理的作用を受けて崩壊してゆくだけでなく、土の中に棲んでいる微生物による生物的作用によっても分解してゆく。これまで生体成分を構成している有機質が完全な状態で遺存するのは、地下水位の高い低地遺跡・泥炭遺跡・貝塚などごく限られた場所にすぎないと考えられてきた。

最近、ドイツ新石器時代後期にバター脂肪が存在していたこと<sup>(注1)</sup>、古代遺跡から出土した約2千年前のトウモロコシ種子<sup>(注2)</sup>、約5千年前のハーゼルナッツ種子<sup>(注3)</sup>に残存する脂肪の脂肪酸は安定した状態に保持されていることがわかった。このように脂肪は微量ながら比較的安定した状態で千年・万年という長い年月を経過しても変化しないで遺存することが判明した<sup>(注4)</sup>。

脂質は有機溶媒に溶けて、水に溶けない成分を指している。脂質はさらに構造的な違いによって誘導脂質・単純脂質および複合脂質に大別される。これらの脂質を構成している主要なクラス(種)が脂肪酸であり、その種類、含量ともに脂質中では最も多い。その脂肪酸には炭素の鎖がまっすぐに延びた飽和型と鎖の途中に二重結合をもつ不飽和型がある。動物は炭素数の多い飽和型の脂肪酸、植物は不飽和型の脂肪酸を多く持つというように、動植物は種ごとに固有の脂肪酸を持っている。ステロールについても、動物性のはコレステロール、植物性のはシトステロール、微生物はエルゴステロールというように動植物に固有の特徴がある。従って、出土遺物の脂質の種類およびそれらを構成している脂肪酸組成と現生動植物のそれとを比較することによって、目に見える形では遺存しない原始古代の動植物を判定することが可能となる。

このような出土遺構・遺物に残存する脂肪を分析する方法を「残存脂肪分析法」という。この「残存脂肪分析法」を用いて東土川遺跡から出土した土壌および土壌内遺物の性格を解明しようとした。

### 1. 石器および土壌試料

京都市南区久世東土川町に所在する東土川遺跡は弥生時代中期後半のものと推定されている。この遺跡から出土した埋葬主体と思われる方形周溝墓S T385619木棺内から採取した石剣・石鏃と土壌試料を分析した。試料No. 1～No. 5は木棺内から出土した石剣や石鏃、No. 6～No. 15は木棺内土壌でNo. 6を北木口から、No. 7を中央北寄りの棺底から、No. 8～No. 15をほぼ中央の西側から東側に向かってNo. 8・No. 10・No. 12・No. 14を上層、No. 9・No. 11・No. 13・No. 15を下層から、それぞれ採取した(表1)。

## II. 残存脂肪の抽出

石器試料1～21gに試料が浸漬する量、土壌試料300～913gに3倍量のクロロホルム-メタノール(2:1)混液を加え、超音波浴槽中で30分間処理し残存脂肪を抽出した。処理液を濾過後、残渣に再度クロロホルム-メタノール混液を加え、再び30分間超音波処理をする。この操作をさらに2回繰り返して残存脂肪を抽出した。得られた全抽出溶媒に1%塩化バリウムを全抽出溶媒の4分の

表1 試料の残存脂肪抽出量

試料No.	試料名	湿重量(g)	全脂質(mg)	抽出率(%)
1	石器 1	1.8	<0.1	<0.0001
2	" 4	21.5	0.2	0.0009
3	" 10	1.9	<0.1	<0.0001
4	" 12	2.0	<0.1	<0.0001
5	" 18	1.2	<0.1	<0.0001
6	北木口	535.4	9.1	0.0017
7	棺底 a	913.0	9.6	0.0011
8	セクション1 上	546.7	10.6	0.0019
9	" 1 下	438.2	9.0	0.0021
10	" 2 上	532.0	9.1	0.0017
11	" 2 下	553.2	9.9	0.0018
12	" 3 上	400.9	8.7	0.0022
13	" 3 下	305.3	7.3	0.0024
14	" 4 上	386.4	7.8	0.0020
15	" 4 下	300.3	6.4	0.0021

1容量加え、クロロホルム層と水層に分配し、下層のクロロホルム層を濃縮して残存脂肪を分離した。

残存脂肪の抽出量を表1に示す。抽出率は石器試料No. 2が0.0009%、他のすべての石器試料が0.0001%以下、土壌試料が0.0011～0.0024%、平均0.0019%であった。この値は全国各地の遺跡から出土した土壌・石器・土器等の試料の平均抽出率0.0010～0.0100%に比べ、石器試料はさらに低く、土壌試料はこの範囲内ではあるが低めであった。

残存脂肪をケイ酸薄層クロマトグラフィーで分析した結果、脂肪は単純脂質で構成されていた。このうち遊離脂肪酸が最も多く、次いでグリセロールと脂肪酸の結合したトリアシルグリセロール(トリグリセリド)、ステロールエステル、ステロールの順に多く、微量の長鎖炭化水素も存在していた。

## III. 残存脂肪の脂肪酸組成

分離した残存脂肪の遊離脂肪酸とトリアシルグリセロールに5%メタノール性塩酸を加え、125℃封管中で2時間分解し、メタノール分解によって生成した脂肪酸メチルエステルを含む画分をクロロホルムで分離し、さらにジアゾメタンで遊離脂肪酸を完全にメチルエステル化してから、ヘキサノール-エチルエーテル-酢酸(80:30:1)またはヘキサノール(85:15)を展開溶媒とするケイ酸薄層クロマトグラフィーで精製後、ガスクロマトグラフィーで分析した。<sup>(注5)</sup>

残存脂肪の脂肪酸組成を図1-1と1-2に示す。残存脂肪から8種類の脂肪酸を検出した。このうちパルミチン酸(C16:0)・ステアリン酸(C18:0)・オレイン酸(C18:1)・リノール酸(C18:2)・アラキジン酸(C20:0)・ベヘン酸(C22:0)・リグノセリン酸(C24:0)の7種類の脂肪酸をガスクロマトグラフィー-質量分析により同定した。

試料中の脂肪酸組成パターンを見ると、炭素数18までの中級脂肪酸の中で主要な脂肪酸はすべての試料中でパルミチン酸であった。次いで多いのは試料No. 14を除くすべての試料中でステアリン酸であった。試料No. 14ではパルミチン酸に次いでオレイン酸が多かった。一般に考古遺物にはパルミチン酸が多く含まれている。これは長い年月の間にオレイン酸、リノール酸といった不飽和脂肪酸の一部が分解し、パルミチン酸を生成するため、主として植物遺体の土壌化に伴う腐植物から来ていると推定される。ステアリン酸は動物体脂肪や植物の根に比較的多く分布している。オレイン酸の分布割合の高いものとしては、動物性脂肪と植物性脂肪の両方が考えられ、



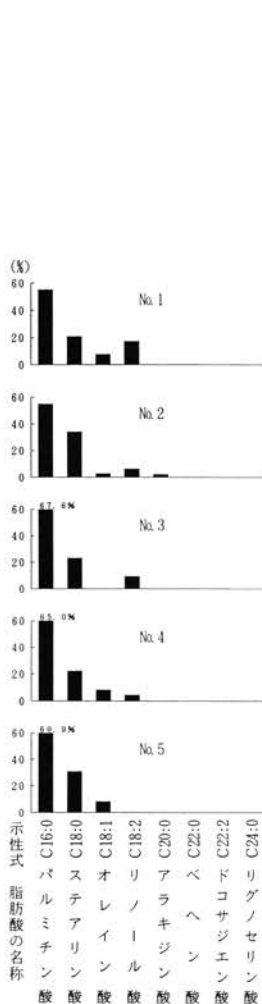


図 1-1 試料中に残存する脂肪の脂肪酸組成

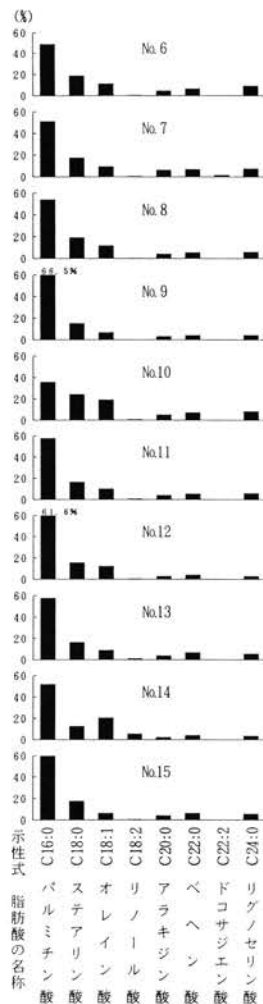


図 1-2 試料中に残存する脂肪の脂肪酸組成

植物性脂肪は特に根・茎・種子に多く分布するが、動物性脂肪の方が分布割合は高い。オレイン酸はまた、ヒトの骨のみを埋葬した再葬墓試料などにも多く含まれている。リノール酸は主として植物種子・葉に多く分布する。また、試料No. 6やNo. 7に見られるような全脂肪酸がほぼ谷状に分布するパターンは、試料中に動物性脂肪が含まれている場合の典型的なものである。

一方、高等動物、特に高等動物の臓器・脳・神経組織・血液・胎盤に特徴的にみられる炭素数20以上のアラキジン酸・ベヘン酸・リグノセリン酸などの高級飽和脂肪酸はそれら3つの合計含有率が試料No. 2で約2%、No. 6・No. 7・No. 10で約20~21%、No. 8・No. 9・No. 11~No. 15で約10~16%であった。No. 1・No. 3~No. 5では炭素数20以上の高級脂肪酸は検出されなかった。通常の遺跡出土土壤中でのアラキジン酸・ベヘン酸・リグノセリン酸の高級飽和脂肪酸3つの含有率は約4~10%であるから、試料No. 6・No. 7・No. 10の高級飽和脂肪酸はやや多く、他の棺内土壌試料のそれはわずかに多く、石器試料には高級飽和脂肪酸はほとんど含まれていなかった。高級飽和脂肪酸含有量が多い場合としては、試料中に高等動物の血液・脳・神経組織・臓器等の特殊な部分が含まれている場合と、植物の種子・葉などの植物体の表面を覆うワックスの構成成分が含まれている場合とがある。高級脂肪酸が動物・植物のどちらに由来するかはコレステロールの分布割合によって決めることができる。概して、動物に由来する場合はコレステロール含有量が多く、植物に由来する場合はコレステロール含有量が少ない。

以上、東土川遺跡のすべての試料中では主要な脂肪酸はパルミチン酸で、次いで多いのは棺内土壌試料No. 14を除いてステアリン酸であることがわかった。No. 14ではパルミチン酸・オレイン酸の順に多かった。高級飽和脂肪酸は石器試料にはほとんど含まれず、棺内北木口試料No. 6・棺底試料No. 7・棺内土壌試料No. 10に通常の遺跡出土土壌の植物腐植土中でよりもやや多く、他の棺内土壌試料中ではわずかに多いことがわかった。

IV. 残存脂肪のステロール組成

残存脂肪のステロールをヘキサノール-エチルエーテル-酢酸(80:30:1)を展開溶媒とするケイ酸薄層クロマトグラフィーで分離・精製後、ピリジン-無水酢酸(1:1)を窒素気流下で反応させてアセテート誘導体にする。得られた誘導体をもう一度同じ展開溶媒で精製してから、ガスクロマトグラフィーにより分析した。残存脂肪の主なステロール組成を図2に示す。残存脂肪から6~20種類のステロールを検出した。このうちコプロスタノール・コレステロール・エルゴステロール・カンペステロール・スチグマステロール・シトステロールなど8種類のステロールをガスクロマトグラフィー-質量分析により同定した。

試料中のステロール組成をみると、動物由来のコレステロールは試料No. 1に約17%、No. 2とNo. 3に約25~27%、No. 4とNo. 5に約44~48%、No. 9を除くすべての棺内試料No. 6~No. 15に約7~14%、No. 9に約5%分布していた。通常一般的な植物腐植土中にはコレステロールは2~6%分布している。従って、コレステロール含有量は試料No. 2~No. 5に非常に多く、No. 1にもかなり多く、No. 9を除くすべての棺内試料にも多めで、No. 9では通常の遺跡出土土壌中の植物腐植土並みであった。

植物由来のシトステロールは試料No. 3に約31%、他のすべての試料中に約7~16%分布していた。通常の遺跡出土土壌中にはシトステロールは30~40%、もしくはそれ以上に分布している。

したがって、試料No. 3のシトステロール含有量は通常の遺跡出土土壌中の植物腐植土並みで、他の全ての試料中ではそれよりも少なめであった。

クリ・クルミ等の堅果植物由来のカンペステロール・スチグマステロールは、カンペステロールがすべての試料中に約2~10%、スチグマステロールが試料No. 10で検出されず、No. 1とNo. 2に約12~15%、他のすべての試料中に約2~8%分布していた。通常の遺跡出土土壌中にはカンペステロール・スチグマステロールは1~10%分布している。従って、すべての試料中でのカンペステロール含有量は通常の遺跡出土土壌中の植物腐植土並みで、スチグマステロール含有量は試料No. 1とNo. 2でやや多く、他のすべての試料中で植物腐植土並みか少なめであった。

微生物由来のエルゴステロールは試料No. 5とNo. 10で検出されず、No. 4とNo. 7に約14~15%、No. 3・No. 9・No. 15に約6~9%、他のすべての試料中に約1~4%分布していた。エルゴステ

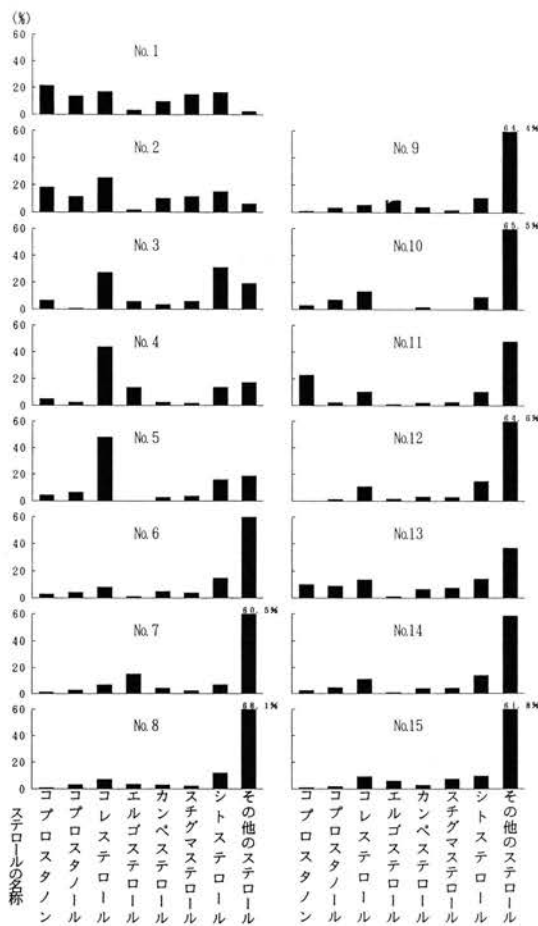


図2 試料中に残存する脂肪のステロール組成

ロールは通常人為的に酵母等の微生物が添加された場合には10%以上分布しているが<sup>(注6)</sup>、一般的な遺跡出土土壌中には数%分布している。従って、試料No. 4とNo. 7のエルゴステロール含有量はかなり多く、No. 3・No. 9・No. 15のそれもやや多く、他のすべての試料中のそれは通常の遺跡出土土壌中の植物腐植土並みであった。

哺乳動物の腸および糞便中に特異的に分布するコプロスタノールは、試料No. 1とNo. 2に約11~14%、No. 5・No. 10・No. 13・No. 14に約5~9%、No. 6~No. 9に約3~4%、他のすべての試料中に約1~2%分布していた。コプロスタノールは通常の遺跡出土土壌中には分布していないが、1~2%程度の量は検出されることがある。また、コプロスタノールの分布により試料中での哺乳動物の存在を確認することができる他に、通常コプロスタノールが10%以上含まれていると、試料中に残存している脂肪の動物種や性別、また遺体の配置状況などが特定できる場合がある<sup>(注7)</sup>。今回は試料No. 1とNo. 2にコプロスタノールが10%以上含まれてはいたが、コプロスタノールとコレステロールの分布比はヒト男性の4.25やヒト女性の2.75に近い値ではなかった。しかし、コプロスタノール含有率が5%以上であるような試料中には哺乳動物由来の脂肪が残存して

表2 試料中に分布するコプロスタノール、コプロスタノールとコレステロールの割合

試料No.	コプロスタノール+コプロスタノン(%) (A)	コレステロール(%) (B)	A/B
1	35.64	17.19	2.07
2	29.63	25.27	1.17
11	25.20	10.26	2.46
13	19.33	13.65	1.42

いた可能性が高い。特に、試料No. 1とNo. 2はコプロスタノール含有量が多いことから哺乳動物の腸もしくは糞便と接触していた可能性が強いと推定される。その他に今回はコプロスタノールの主要な代謝産物であるコプロスタノンが試料No. 1・No. 2・No. 11・No. 13に約10~22%と多いので、コプロスタノールとコプロスタノンの和とコレステロールの分布比を算出した。その値を表3に示す。分布比は試料No. 1が2.07、No. 2が1.17、No. 11が2.46、No. 13が1.42で、4試料の平均値は1.78であった。特に、棺内土壌試料でコプロスタノンの多い試料No. 11の値は2.46で、この付近に腹部があったとすると女性の値に非常に近い。

一般に動物遺体の存在を示唆するコレステロールとシトステロールの分布比の指標値は土壌で0.6以上<sup>(注8)</sup>、土器・石器・石製品で0.8~23.5<sup>(注9・10)</sup>である。試料中のコレステロールとシトステロールの分布比を表3に示す。表からわかるように試料No. 6・No. 8・No. 9の分布比は0.6以下で、他の

表3 試料中に分布するコレステロールとシトステロールの割合

試料No.	コレステロール(%)	シトステロール(%)	コレステロール/シトステロール
1	17.19	16.35	1.05
2	25.27	15.31	1.65
3	27.44	31.14	0.88
4	44.08	13.58	3.25
5	48.06	15.91	3.02
6	8.22	14.77	0.56
7	6.94	6.89	1.01
8	7.10	12.04	0.59
9	5.42	10.87	0.50
10	13.54	9.19	1.47
11	10.26	10.41	0.99
12	10.85	14.93	0.73
13	13.65	14.43	0.95
14	11.23	13.92	0.81
15	9.36	9.55	0.98

すべての試料のそれは0.6以上であった。試料No. 6・No. 8・No. 9の分布比も0.6以下ではあるが0.5以上であり、ほぼ0.6に近い値であった。従って、すべての試料中に動物遺体もしくは動物由来の脂肪が残存している可能性が高い。

以上、東土川遺跡の試料中に含まれている各種ステロール類は、動物由来のコレステロールが石器試料No. 2~No. 5に非常に多く、No. 1にかなり

多く、ほぼすべての棺内土壌試料にも多く、哺乳動物の腸もしくは糞便由来のコプロスタノールが石器試料No. 1とNo. 2にかなり多く、石器試料No. 5・棺内土壌試料No. 10・No. 13・No. 14にも多く、微生物由来のエルゴステロールが石器試料No. 4と棺内土壌試料No. 7にかなり多く、石器試料No. 3・棺内土壌試料No. 9・No. 15にやや多く、堅果植物由来のスチグマステロールが石器試料No. 1とNo. 2にやや多く、その他は通常の遺跡出土土壌中の植物腐植土並みか少なめに含まれていることがわかった。コレステロールとシトステロールの分布比は棺内土壌試料No. 6・No. 8・No. 9が0.6以下ではあるが0.5以上ではほぼ0.6に近く、他のすべての試料は0.6以上で、すべての試料中に動物遺体もしくは動物由来の脂肪が残存している可能性が高いことを示していた。コプロスタノールの主要な代謝産物であるコプロスタノン<sup>(注10)</sup>を元のコプロスタノールに組み入れてコレステロールとの分布比を求めると、腹部に相当すると考えられる試料No. 11のその値は2.46で、女性の値の2.75に近く、棺内には女性が埋葬されていた可能性が考えられる。

#### V. 脂肪酸組成の数理解析

残存脂肪の脂肪酸組成をパターン化し、重回帰分析により各試料間の相関係数を求め、この相関係数を基礎にしてクラスター分析を行って各試料の類似度を調べた。

同時に京都府鹿谷遺跡・滋賀県尼子遺跡・北落古墳群ほか遺跡・尼子南遺跡・小川原遺跡・上出A遺跡・大阪府大庭寺遺跡・西大井遺跡・本町遺跡・蛍池遺跡・宮の前遺跡(その2)・服部遺跡・向出遺跡・兵庫県寺田遺跡・玉津田中遺跡・静岡県原川遺跡・宮城県摺萩遺跡の各試料およびヒトの体脂肪・ヒトの骨油試料に残存する脂肪との類似度も比較した。

補足ながらそれぞれの遺跡試料の分析評価をあげると鹿谷遺跡出土土壌からの試料はヒト遺体を直接埋葬した土壌墓である可能性が高いと判定した。<sup>(注11)</sup> 尼子遺跡で出土した古墳の東側周溝に残存する脂肪はヒト遺体を直接埋葬した場合に残存する脂肪と類似していると判定した。<sup>(注12)</sup> 北落古墳群ほか遺跡で出土した土壌に残存する脂肪はヒト遺体を直接埋葬した場合に残存する脂肪と類似していると判定した。<sup>(注13)</sup> 尼子南遺跡で出土した遺構に残存する脂肪はヒト遺体を直接埋葬した場合に残存する脂肪と類似していると判定した。<sup>(注14)</sup> 小川原遺跡で出土した土壌に残存する脂肪は土壌によりヒトの骨のみを埋葬した場合とヒト遺体を直接埋葬した場合のいずれかに残存する脂肪と類似していると判定した。<sup>(注15)</sup> 上出A遺跡で出土した埋設土器に残存する脂肪はヒト遺体を直接埋葬したことに関わる遺跡の試料の脂肪と類似していると判定した。<sup>(注16)</sup> 大庭寺遺跡・西大井遺跡・本町遺跡・蛍池遺跡・宮の前遺跡(その2)・服部遺跡・向出遺跡から出土した土壌にはそれぞれヒト遺体を直接埋葬した場合と類似の脂肪が残存していると判定した。<sup>(注17-23)</sup> また同様にして寺田遺跡から出土した土壌は土壌墓と判定した。<sup>(注24)</sup> 玉津田中遺跡では出土した木棺内人骨の腹部あたりに存在した銅剣の先端部分に残存する脂肪はヒトの体脂肪と類似しており、この銅剣は副葬品ではなく遺体に突き刺さったものであったと判定した。<sup>(注25)</sup> 静岡県原川遺跡では出土した土器を幼児埋葬用甕棺と判定した。<sup>(注26)</sup> 宮城県摺萩遺跡から出土した土壌は再埋葬と判定した。<sup>(注27)</sup>

そして、あらかじめデータベースの脂肪酸組成と試料中のそれとでクラスター分析を行い、そ

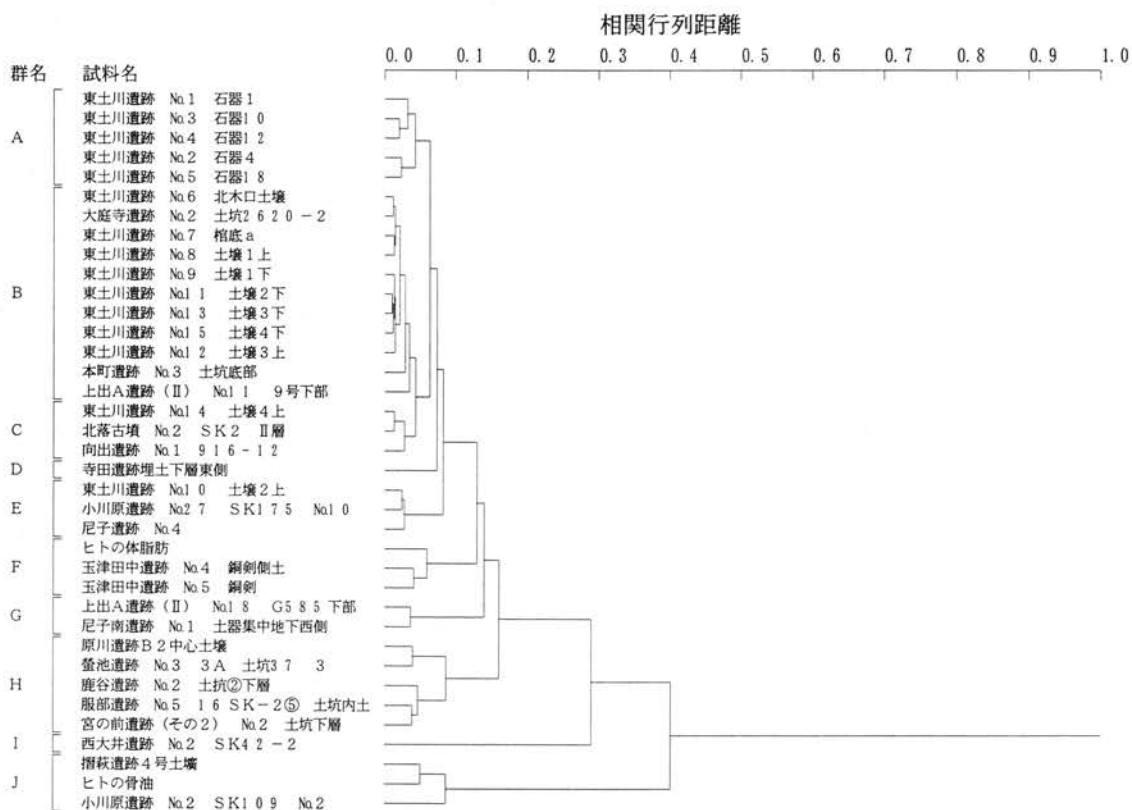


図3 試料中に残存する脂肪の脂肪酸組成樹状構造図

の中から出土状況を考慮して類似度の高い試料を選び出し、再びクラスター分析によりパターン間距離にして表したのが図3である。

図からわかるように、東土川遺跡の試料No. 1～No. 5は相関行列距離0.05以内の所にあり、それらのみでA群を形成し互いに非常によく類似していた。東土川遺跡の試料No. 6～No. 9・No. 11～No. 13・No. 15は大庭寺遺跡・本町遺跡・上出A遺跡の試料と共に相関行列距離0.05以内でB群を形成し非常によく類似していた。東土川遺跡の試料No. 14は北落古墳群ほか遺跡、向出遺跡の試料と共に相関行列距離0.05以内でC群を形成し非常によく類似していた。東土川遺跡の試料No. 10は小川原遺跡、尼子遺跡の試料と共に相関行列距離0.05以内でE群を形成し非常によく類似していた。他の対照試料はD群、F～J群を形成した。これらの群のうちA～H群は相関行列距離0.2以内の所にあり、互いに類似していた。A～H群の中でもA～E群は相関行列距離0.1以内の所にあり、互いによく類似していた。次いでF群、G群、H群の順に類似していた。

以上、東土川遺跡のすべての試料はよく類似しており、それらの試料中に残存する脂肪はヒト遺体を直接埋葬したことに関わる遺跡の試料やヒトの体脂肪と類似していることがわかった。また、石器試料No. 1～No. 5はそれらのみで非常によく類似していることもわかった。

#### VI. 脂肪酸組成による種特異性相関

残存脂肪の脂肪酸組成から種を特定するために、中級脂肪酸(炭素数16のパルミチン酸から炭素数18のステアリン酸・オレイン酸・リノール酸・リノレン酸まで)と高級脂肪酸(炭素数20のアラキジン酸以上)との比をX軸に、飽和脂肪酸と不飽和脂肪酸との比をY軸にとり種特異性相関

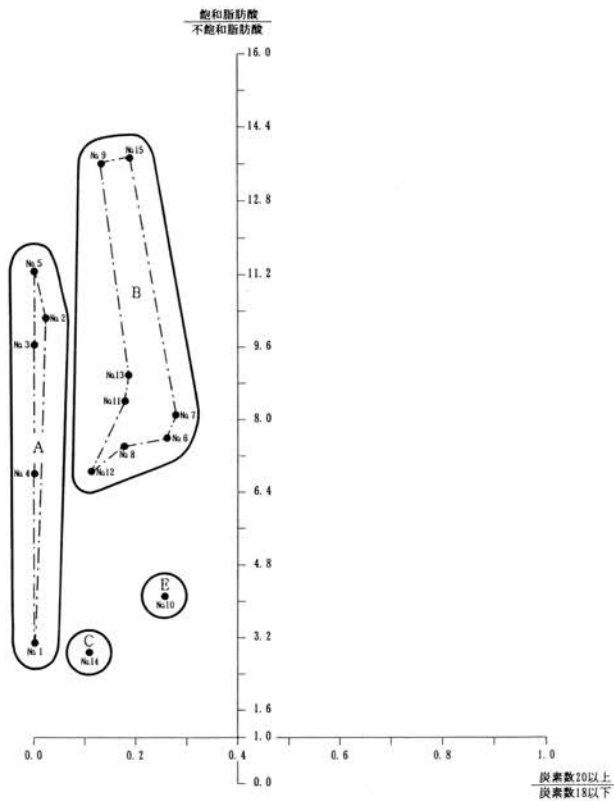


図4 試料中に残存する脂肪の脂肪酸組成による種特異性相関

を求めた。この比例配分により第1象限の原点から離れた位置に高等動物の血液・脳・神経組織・臓器などに由来する脂肪、第1象限から第2象限の原点から離れた位置にヒト胎盤、第2象限の原点から離れた位置に高等動物の体脂肪、骨油に由来する脂肪がそれぞれ分布する。第2象限から第3象限にかけての原点付近に植物と微生物、原点から離れた位置に植物腐植、第3象限から第4象限にかけての原点から離れた位置に海産動物に由来する脂肪が分布する。

試料の残存脂肪から求めた種特異性相関を図4に示す。図からわかるように、東土川遺跡のすべての試料は第2象限内でA、B、C、E群を形成した。これらすべての群の分布位置は試料中に残存する脂肪が高等動物の体脂肪や骨油に由来することを示唆している。

以上、東土川遺跡のすべての試料中に残存する脂肪は、高等動物の体脂肪や骨油に由来することがわかった。

## VII. 総括

東土川遺跡から出土した土壌および土壌内遺物の性格を判定するために、土壌内から採取した石剣・石鏃と土壌試料の残存脂肪分析を行った。残存する脂肪の脂肪酸分析、ステロール分析、脂肪酸組成の分布に基づく数理解析の結果、方形周溝墓S T 385619木棺内のすべての石剣・石鏃および土壌試料に残存する脂肪はヒト遺体を直接埋葬したことに関わる遺跡の試料やヒトの体脂肪と類似していることがわかった。高級飽和脂肪酸が棺内北木口試料No. 6と棺底試料No. 7に多く、コプロスタノールやコプロスタノンが棺内中央試料に多いことから、試料No. 6とNo. 7採取地点付近にヒト遺体の頭部、No. 11とNo. 13採取地点付近に腹部が位置している可能性も推測された。コプロスタノールの主要な代謝産物であるコプロスタノンをコプロスタノールに組み入れてコレステロールとの分布比を求めると、腹部に相当する棺内試料No. 11の値は2.46で女性の値に近く、棺内には女性が埋葬されていた可能性も推測された。また、石器試料No. 1とNo. 2には哺乳動物の腸もしくは糞便由来のコプロスタノールがかなり多く、これらの石器はヒト遺体の腹部と接触していた可能性がある。今回の分析試料は土壌外から採取した対照試料がないが、動物性脂肪の特徴であるコレステロールやコプロスタノールが通常よりはかなり多い試料が存在したために、遺構や遺物の判定が困難ではなかった。通常は対照試料が1点以上あることが望ましい。

注および引用文献・参考文献

- (1) R.C.A. Rottländer and H.Schlichtherle 1979 Food identification of samples from archaeological sites, *Archaeo Physika*. Vol.10 p.260
- (2) D.A.Priestley, W.C.Galinat and A.C.Leopold 1981 Preservation of polyunsaturated fatty acid in ancient Anasazi maize seed, *Nature*. Vol.292 p.146
- (3) R.C.A.Rottländer and H.Schlichtherle 1983 Analyse frü hgeschichtlicher Geä fB - inhale, *Naturwissenschaften*.Vol.70 p.33
- (4) 中野益男 1984「残存脂肪分析の現状」『歴史公論』第10巻(6) p.124
- (5) M.Nakano and W.Fischer 1977 The Glycolipids of *Lactobacillus casei* DSM 20021, *Hoppe-Seyler's Z.Physiol.Chem.* Vol.358 p.1439
- (6) 中野益男・福島道広・中野寛子・中岡利泰・根岸 孝 1987「残存脂肪分析法による原始古代の生活環境-とくに東北地方の縄文時代前期遺跡から出土したクッキー状炭化物の栄養化学的同定(第7報)」『日本農芸化学会東北支部北海道支部合同秋期大会講演要旨』 p.15
- (7) 中野益男 1995「残留脂肪酸による古代復元」『新しい研究法は考古学になにをもたらしただか』田中琢・佐原 眞編 クバプロ p.148
- (8) 中野益男・伊賀 啓・根岸 孝・安本教傳・畑 宏明・矢吹俊男・佐原 眞・田中 琢 1984「古代遺跡に残存する脂質の分析」『脂質生化学研究』第26巻 p.40
- (9) 中野益男 1986「真脇遺跡出土土器に残存する動物油脂」『真脇遺跡』能都町教育委員会・真脇道跡発掘調査団 p.401
- (10) 中野益男・根岸 孝・長田正宏・福島道広・中野寛子 1987「ヘロカルウス遺跡の石器製品に残存する脂肪の分析」『ヘロカルウス遺跡』北海道文化財研究所調査報告書第3集 p.191
- (11) 中野寛子・明瀬雅子・長田正宏・中野益男「鹿谷遺跡から出土した土壌に残存する脂肪の分析」(未発表) 京都府埋蔵文化財調査研究センター
- (12) 中野寛子・明瀬雅子・長田正宏・中野益男 「尼子遺跡から出土した道構に残存する脂肪の分析」(未発表) 滋賀県文化財保護協会
- (13) 中野寛子・明瀬雅子・長田正宏・中野益男 1994「北落古墳群ほか遺跡から出土した土坑に残存する脂肪の分析」『北落古墳群1』ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書 XXI-4 滋賀県教育委員会・滋賀県文化財保護協会 p.83
- (14) 中野益男・中野寛子・長田正宏 「尼子南遺跡から出土した遺構に残存する脂肪の分析」(未発表) 滋賀県文化財保護協会
- (15) 中野益男・中野寛子・菅原利佳・長田正宏「小川原遺跡から出土した遺構に残存する脂肪の分析」(未発表) 滋賀県文化財保護協会
- (16) 中野益男・中野寛子・長田正宏 「上出A遺跡から出土した土坑に残存する脂肪の分析」(未発表) 滋賀県文化財保護協会
- (17) 中野寛子・明瀬雅子・長田正宏・中野益男 1998「大庭寺遺跡から出土した土坑に残存する脂肪の分析」『大庭寺・伏尾遺跡』大阪府文化財調査研究センター発掘調査報告書 第27集 p.407
- (18) 中野寛子・明瀬雅子・長田正宏・中野益男 1994「西大井遺跡から出土した土壌に残存する脂肪の分析」『西大井遺跡発掘調査概要・1992年度一'92-1区の調査』大阪府教育委員会 p.37
- (19) 中野益男・中野寛子・菅原利佳・長田正宏 「本町遺跡から出土した土坑に残存する脂肪の分析」(未発表) 大阪府豊中市教育委員会

- (20) 中野益男・中野寛子・菅原利佳・長田正宏 1994「宮の前・蛍池遺跡採集土壌の残存脂肪分析」『宮の前遺跡・蛍池東遺跡・蛍池遺跡・蛍池西遺跡』1992・1993年度発掘調査報告書 大阪府文化財センター p.167
- (21) 中野益男・中野寛子・長田正宏 「宮の前遺跡(その2)から出土した土坑に残存する脂肪の分析」(未発表) 大阪府文化財調査研究センター
- (22) 中野益男・中野寛子・長田正宏 「服部遺跡から出土した遺構・遺物に残存する脂肪の分析」(未発表) 大阪府豊中市教育委員会
- (23) 中野益男・中野寛子・長田正宏 「向出遺跡残存脂肪酸分析委託」(未発表) 大阪府文化財調査研究センター
- (24) 中野益男・中野寛子・福島道広・長田正宏 「寺田遺跡土壙墓状遺構に残存する脂肪の分析」(未発表) 兵庫県芦屋市教育委員会
- (25) 中野益男・福島道広・中野寛子 「玉津田中遺跡第4号木棺から出土した青銅器に残存する脂質について」(未発表) 兵庫県教育委員会
- (26) 中野益男・幅口 剛・福島道広・中野寛子・長田正宏 1988「原川遺跡の土器棺に残存する脂肪の分析」『原川遺跡Ⅰ』静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告 第17集 静岡県 埋蔵文化財調査研究所 p.79
- (27) 中野益男・福島道広・中野寛子・長田正宏 1990「摺萩遺跡の遺構に残存する脂肪の分析」『摺萩遺跡』宮城県文化財調査報告書第132集 宮城県教育委員会・宮城県土木部水資源開発課 p.929



### 3. 京都府、東土川遺跡の自然科学分析

株式会社 古環境研究所

#### 1. 東土川遺跡における花粉分析

##### (1) はじめに

有機質の植物遺体のなかで花粉は最も保存性がよく土中に残存する。特に水成の堆積環境と保存環境では密度も高く、植生の復元に有効な手法である。

ここでは、東土川遺跡の埋葬施設の堆積物について花粉分析を行い、植生や特殊な植物の使われ方、堆積環境について検討を行う。

##### (2) 試料

試料は、東土川遺跡のST385619木棺墓の北木口、棺底、セクションの1上・1下・2上・2下・3上・3下・4上・4下の10点である。

##### (3) 方法

花粉粒の分離抽出は、基本的には(中村1973)を参考にし、試料に以下の順で物理化学処理を施して行った。

- 1) 5%水酸化カリウム溶液を加え15分間湯煎する。
- 2) 水洗した後、0.5mmの篩で礫などの大きな粒子を取り除き、沈澱法を用いて砂粒の除去を行う。
- 3) 25%フッ化水素酸溶液を加えて30分放置する。
- 4) 水洗した後、氷酢酸によって脱水し、アセトリシス処理(無水酢酸9:1濃硫酸のエルドマン氏液を加え1分間湯煎)を施す。
- 5) 再び氷酢酸を加えた後、水洗を行う。
- 6) 沈渣に石炭酸フクシンを加えて染色を行い、グリセリンゼリーで封入しプレパラートを作製する。

以上の物理・化学の各処理間の水洗は、1500rpm、2分間の遠心分離を行った後、上澄みを捨てるという操作を3回繰り返して行った。

検鏡はプレパラート作製後直ちに、生物顕微鏡によって300~1000倍で行った。花粉の同定は、(鳥倉1973)および(中村1980)をアトラスとし、所有の現生標本との対比で行った。結果は同定レベルによって、科、亜科、属、亜属、節および種の階級で分類した。複数の分類群にまたがるものはハイフン(-)で結んで示した。なお、科・亜科や属の階級の分類群で一部が属や節に細分できる場合はそれらを別の分類群とした。イネ属に関しては、(中村1974、1977)を参考にし、現生標本の表面模様・大きさ・孔・表層断面の特徴と対比して分類し、個体変化や類似種があることからイネ属型とする。

##### (4) 結果

分析の結果、各試料とも花粉密度が極めて低く、少数の花粉が検出された。出現した分類

表1 東土川遺跡における花粉分析結果

学名	分類群 和名	ST 619		ST619 セクション									
		北木口	棺底	1上	1下	2上	2下	3上	3下	4上	4下		
Arboreal pollen	樹木花粉												
<i>Pinus subgen. Diploxylon</i>	マツ属複維管束亜属												1
<i>Cryptomeria japonica</i>	スギ												1
<i>Castanea crenata-Castanopsis</i>	クリ・シイ属	1											1
<i>Quercus subgen. Lepidobalanus</i>	コナラ属コナラ亜属				1								1
<i>Quercus subgen. Cyclobalanopsis</i>	コナラ属アカガシ亜属							1					
Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉												
Moraceae-Urticaceae	クワ科-イラクサ科												1
Nonarboreal pollen	草本花粉												
Gramineae	イネ科	1			1	1				1	1		1
Cyperaceae	カヤツリグサ科												1
Cruciferae	アブラナ科				5							1	2
Lactuicoideae	タンポポ亜科				1		1						
<i>Artemisia</i>	ヨモギ属	1			1	2	1	5	1	3	1		3
Fern spore	シダ植物胞子												
Monolate type spore	単条溝胞子	2			3	1		4	1	3	2		7
Trilate type spore	三条溝胞子	1											2
Arboreal pollen	樹木花粉	1	0	0	1	0	1	0	2	0	0	0	2
Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
Nonarboreal pollen	草本花粉	2	0	7	3	3	5	1	6	2	6	6	6
Total pollen	花粉総数	3	0	7	4	3	6	1	9	2	8	8	8
Unknown pollen	未同定花粉	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Fern spore	シダ植物胞子	3	0	3	1	0	4	1	5	2	7	7	7

群は、樹木花粉5、樹木花粉と草本花粉を含むもの1、草本花粉5、シダ植物胞子2形態の計13である。これらの学名と和名および粒数を表1に示し、主要な分類群を図版第273に示す。以下に出現した分類群を記す。

#### 〔樹木花粉〕

マツ属複維管束亜属・スギ・クリ・シイ属・コナラ属コナラ亜属・コナラ属アカガシ亜属

#### 〔樹木花粉と草本花粉を含むもの〕

クワ科-イラクサ科

#### 〔草本花粉〕

イネ科・カヤツリグサ科・アブラナ科・タンポポ亜科・ヨモギ属

#### 〔シダ植物胞子〕

単条溝胞子・三条溝胞子

花粉数が少ないため各試料における差異の傾向はつかみにくいが、北木口は花粉が少なく、棺底では花粉が検出されない。セクション試料では樹木花粉のいずれも風媒花で、草本花粉はヨモギ属が各試料において出現する。他では1上でアブラナ科が他より多い。

#### (5) 考察

各試料とも花粉数が極めて少ないのは、試料となった堆積物が花粉の集積する水成の堆積環境

による生成でないことと、乾燥した保存状況によって分解が著しかったことが考えられる。棺底は元来花粉が堆積していなかった可能性が高い。北木口とセクション試料ではヨモギ属が出現し、試料となった堆積物の堆積時はヨモギ属が生育し、周囲はヨモギ属の好む樹木の少ない日当たりのよい乾燥した環境であったと推定される。

#### 引用文献・参考文献

- 中村 純 1973『花粉分析』古今書院 pp.82-110  
 金原正明 1993「花粉分析法による古あり、環境復原」『新版古代の日本』第10巻 古代資料研究の方法 角川書店 pp.248-262  
 島倉巳三郎 1973「日本植物の花粉形態」『大阪市立自然科学博物館収蔵目録第5集』p.60  
 中村 純 1980「日本産花粉の標徴」『大阪自然史博物館収蔵目録第13集』p.91  
 中村 純 1974「イネ科花粉について、とくにイネ(*Oryza sativa*)を中心として」『第四紀研究』13 pp.187-193  
 中村 純 1977「稲作とイネ花粉」『考古学と自然科学』第10号 pp.21-30.

## II. 東土川遺跡における寄生虫卵分析

### (1)はじめに

寄生虫卵は有機質の遺体のなかでは比較的保存性がよく、水成の堆積環境下ではよく残存し、人の活動等を知るうえで有効な手がかりになる。便所遺構等の糞便堆積物からは高密度に検出されることから、花粉分析と種実同定との併用によって食生活の復元を行うことが可能である。

ここでは、東土川遺跡の埋葬施設堆積物の寄生虫卵分析を行い、埋葬者の遺体から食生活の復元を試みる。

### (2)試料

試料は東土川遺跡のST385619木棺墓の北木口・棺底・セクションの1上・1下・2上・2下・3上・3下・4上・4下の10点で、花粉分析試料と同試料である。

### (3)方法

微化石分析法を基本に以下のように行った。

- 1)サンプルを採量する。
- 2)脱イオン水を加え攪拌する。
- 3)篩別により大きな砂粒や木片等を除去し、沈澱法を施す。
- 4)25%フッ化水素酸を加え30分静置。(2・3度混和)

表2 東土川遺跡における寄生虫卵分析結果

分類群	(1cc中)	ST 619		ST619 セクション								
		北木口	棺底	1上	1下	2上	2下	3上	3下	4上	4下	
学名	和名											
Helminth eggs	寄生虫卵	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
	明らかな消化残渣	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
	花粉数	12	0	3	1	0	4	1	5	2	7	

- 5) 水洗後サンプルを2分する。
- 6) 片方にアセトリシス処理を施す。
- 7) 両方のサンプルを染色後グリセリンゼリーで封入しそれぞれ標本を作製する。
- 8) 検鏡・計数を行う。

以上の物理・化学の各処理間の水洗は、1500rpm、2分間の遠心分離を行った後、上澄みを捨てるという操作を3回繰り返して行った。

#### (4) 結果と考察

分析の結果、ST385619木棺墓のいずれの試料からも寄生虫卵および明らかな消化残渣は検出されなかった。各試料とも花粉密度が極めて低く、有機質の遺体の分解される堆積環境であったと考えられ、当初から寄生虫卵が存在していなかったのかどうか不明である。

#### 引用文献・参考文献

Peter J. Warnock and Karl J. Reinhard 1992 Methods for Extracting Pollen and Parasite Eggs from Latrine Soils. *Journal of Archaeological Science*. 19 pp. 231-245

金原正明・金原正子 1992 「花粉分析および寄生虫」『藤原京跡の便所遺構—藤原京7条1坊—』 奈良国立文化財研究所 pp. 14-15

金子清俊・谷口博一 1987 「線形動物・扁形動物」『医動物学』新版臨床検査講座8 医歯薬出版pp. 9-55

金原正明・金原正子 1996 「新宮東山古墳群における寄生虫卵分析および花粉分析」『龍野市文化財調査報告16 新宮東山古墳群』 龍野市教育委員会 pp. 119-125

## 4. 京都府、長岡京跡(中央自動車道西宮線)の自然科学分析

株式会社 古環境研究所

### 1. 長岡京跡における植物珪酸体分析

#### (1)はじめに

植物珪酸体は、ガラスの主成分である珪酸( $\text{SiO}_2$ )が植物の細胞内に蓄積したものであり、植物が枯死した後も微化石(プラント・オパール)となって土壤中に半永久的に残っている。植物珪酸体(プラント・オパール)分析は、この微化石を遺跡土壌などから検出し、その組成や量を明らかにする方法であり、イネをはじめとするイネ科栽培植物の同定および古植生・古環境の推定などに応用されている。

長岡京跡(中央自動車道西宮線)の発掘調査では、調査区西側において弥生時代とみられる土層より小畦畔で区画された水田遺構が南北100m・東西80mの広範囲にわたって検出された。そこで、当該遺構における稲作の検証ならびに遺構が不明瞭な区域における稲作跡の探査を目的に植物珪酸体分析を行うことになった。

#### (2)試料

分析試料は、以下に示す60点である。中世の大畦畔と溝ではそれぞれ2点ずつの4点が採取された。弥生時代とされる土層では、水田遺構の水田面から9ヶ所18点、小畦畔から7ヶ所14点、遺構は検出されていないものの水田跡とみられる地点において5ヶ所10点、土坑2基より2点ずつの4点、溝2ヶ所で3点がそれぞれ採取された。方形周溝墓S T 384115の周溝では2点、長岡京期の築地地業溝S D 384104では2ヶ所において5点がそれぞれ採取された。

#### (3)分析法

植物珪酸体の抽出と定量は、「プラント・オパール定量分析法(藤原1976)」をもとに、次の手順で行った。

- 1) 試料土の絶乾(105℃・24時間)
- 2) 試料土約1gを秤量、ガラスビーズ添加(直径約40 $\mu\text{m}$ ・約0.02g)  
※電子分析天秤により1万分の1gの精度で秤量
- 3) 電気炉灰化法による脱有機物処理
- 4) 超音波による分散(300W・42KHz・10分間)
- 5) 沈底法による微粒子(20 $\mu\text{m}$ 以下)除去、乾燥
- 6) 封入剤(オイキット)中に分散、プレパラート作成
- 7) 検鏡・計数

検鏡は、おもにイネ科植物の機動細胞(葉身にのみ形成される)に由来する植物珪酸体(以下、植物珪酸体と略す)を同定の対象とし、400倍の偏光顕微鏡下で行った。計数は、ガラスビーズ個

数が400以上になるまで行った。これはほぼプレパラート1枚分の精査に相当する。

検鏡結果は、計数値を試料1g中の植物珪酸体個数(試料1gあたりのガラスビーズ個数に、計数された植物珪酸体とガラスビーズの個数の比率を乗じて求める)に換算して示した。また、おもな分類群については、この値に試料の仮比重(1.0と仮定)と各植物の換算係数(機動細胞珪酸体1個あたりの植物体乾重, 単位: 10-5g)を乗じて、単位面積で層厚1cmあたりの植物体生産量を算出した。換算係数は、イネは赤米、キビ族はヒエ、ヨシ属はヨシ、ウシクサ族はススキ、タケ亜科については数種の平均値を用いた。その値は、それぞれ2.94(種実重は1.03)・8.40・6.31・1.24・0.48である(杉山・藤原1987)。

(4)分析結果

採取された60試料について分析を行った結果、イネ・ヨシ属・ウシクサ族・タケ亜科の各分類群の植物珪酸体が検出された。これらの分類群について定量を行い、その結果を表1に示した。なお、おもな分類群については図版第274・275に顕微鏡写真を示す。

(5)稲作の可能性について

稲作跡(水田跡)の検証や探査を行う場合、通常、イネの植物珪酸体を試料1gあたりおよそ5,000個以上の密度で検出された場合に、そこで稲作が行われていた可能性が高いと判断している。また、植物珪酸体密度にピークが認められれば、上層から後代のものが混入した危険性は考えにくく、密度が基準値に満たなくても稲作が行われていた可能性は高いと考えられる。以上のことを基準として稲作の可能性について考察を行う。

1)小畦畔・田面?

弥生時代とされる水田遺構が検出された区域では、田面と小畦畔あわせて16ヶ所について分析を行った。イネの植物珪酸体はこのうちの75%にあたる12ヶ所より検出された。ただし、植物珪酸体密度はいずれも1,000個/g前後と低い値である。また、水田遺構は検出されていないものの、水田跡の可能性が示唆された区域においても5ヶ所について分析を行った。ここでもイネの植物珪酸体は80%にあたる4ヶ所より検出されたが、植物珪酸体密度は1,000個/g前後の低い値である。このように水田遺構が検出されたにもかかわらず植物珪酸体密度が低い場合、1)耕作期間

表1 長岡京跡のプラント・オパール分析結果

分類群 \ 試料		大畦畔				中世溝				小畦畔									
		1-1	1-2	2-1	2-2	3-1	3-2	5-1	5-2	8-1	8-2	9-1	9-2	11-1	11-2	13-1	13-2	21-1	21-2
イネ				14		12	6	7		7		7		6					
キビ族																			
ヨシ属								7			12			6					
ウシクサ族(ススキ属など)				7	7		6			6	7	6							
タケ亜科(おもにネザサ節)		19	13	63	28	36	26	75	101	28	68	73	81	71	40	26	14	67	26

推定生産量 (単位: kg/m <sup>2</sup> ・cm)		大畦畔				中世溝				小畦畔									
イネ				0.41		0.36	0.19	0.20		0.20		0.21		0.19					
(イネ初)				0.14		0.13	0.07	0.07		0.07		0.08		0.07					
キビ族																			
ヨシ属								0.43			0.79			0.41					
ウシクサ族(ススキ属など)				0.09	0.09		0.08			0.08	0.09	0.07							
タケ亜科(おもにネザサ節)		0.09	0.06	0.30	0.13	0.18	0.12	0.36	0.48	0.13	0.33	0.35	0.39	0.34	0.19	0.13	0.07	0.32	0.13

表2 長岡京跡のプラント・オパール分析結果

検出密度 (単位: ×100個/g)		田面																	
分類群 \ 試料		4-1	4-2	6-1	6-2	7-1	7-2	10-1	10-2	12-1	12-2	14-1	14-2	15-1	15-2	16-1	16-2	17-1	17-2
		イネ	8	14		7	7		7					14		6		7	6
キビ族																			
ヨシ属			7				7			7				7	6				
ウシクサ族(ススキ属など)			14				13			7									
タケ亜科(おもにネザサ節)	47	71	63	21	27	74	47	49	94	39	57	54	32	32	28	23	53	68	

推定生産量 (単位: kg/m <sup>2</sup> ・cm)																			
イネ	0.23	0.42		0.21	0.20		0.20					0.42		0.19		0.20	0.17		0.18
(イネ籾)	0.08	0.15		0.07	0.07		0.07					0.15		0.07		0.07	0.06		0.06
キビ族																			
ヨシ属			0.45				0.42			0.46			0.42	0.40					
ウシクサ族(ススキ属など)			0.18				0.17			0.09									
タケ亜科(おもにネザサ節)	0.23	0.34	0.30	0.10	0.13	0.35	0.23	0.24	0.45	0.19	0.28	0.26	0.15	0.15	0.13	0.11	0.25	0.33	

が非常に短かった、2) 稲藁の大部分が水田外に持ち出されていた、3) 稲の生産性が低かった、4) 検出された畦畔が疑似畦畔であったなどの理由が考えられる。なお、本調査区では、植物珪酸体密度が全体に非常に低いこと、分析地点によってはまったく検出されないところが存在すること、遺構の不明瞭な区域が存在することなどから、当該層準において検出された植物珪酸体は他所からの混入とみることもできる。したがって、田面および田面?において稲作が行われていた可能性を否定することはできないものの、検出された畦畔(水田遺構)が疑似畦畔である可能性も考えられる。

2) 大畦畔・中世溝(中世)

大畦畔からはイネを含めほとんど植物珪酸体が検出されず、わずかにタケ亜科が認められたのみである。植物珪酸体分析からは当該畦畔が水田遺構に伴うものであるかの議論は困難である。

中世の溝では、上部よりイネの植物珪酸体が検出された。したがって、本地点の近傍において稲作が行われていたか、当該溝そのものが水田遺構に付帯するものである可能性が考えられる。

表3 長岡京跡のプラント・オパール分析結果

検出密度 (単位: ×100個/g)		田面?										土坑				
分類群 \ 試料		20-1	20-2	22-1	22-2	23-1	23-2	24-1	24-2	25-1	25-2	18-1	18-2	19-1	19-2	
		イネ			7	7				7	14	20	7		7	
キビ族																
ヨシ属						7					7		7		19	
ウシクサ族(ススキ属など)		6				7			13	14			7	7	7	6
タケ亜科(おもにネザサ節)	52	74	68	48	50	56	46	81	54	66	126	99	48	58		

推定生産量 (単位: kg/m <sup>2</sup> ・cm)																
イネ			0.20	0.20					0.19	0.40	0.60	0.19		0.19		0.19
(イネ籾)			0.07	0.07					0.07	0.14	0.21	0.07		0.07		0.07
キビ族																
ヨシ属						0.43					0.43		0.42		1.21	
ウシクサ族(ススキ属など)	0.08				0.08				0.16	0.17			0.08	0.08	0.08	0.08
タケ亜科(おもにネザサ節)	0.25	0.35	0.33	0.23	0.24	0.27	0.22	0.39	0.26	0.32	0.60	0.47	0.23	0.28		

表4 長岡京跡のプラント・オパール分析結果

検出密度 (単位: ×100個/g)

分類群 \ 試料	SX115周溝		SX104				弥生溝			
	26-1	26-2	29-1	29-2	30-1	30-2	30-3	36	37-1	37-2
イネ			7		6	40		7		
キビ族										
ヨシ属	7	7							7	
ウシクサ族(ススキ属など)			14		6	7			7	7
タケ亜科(おもにネササ節)	119	124	42	27	36	101	54	81	48	41

推定生産量 (単位: kg/m<sup>2</sup>・cm)

イネ			0.20	0.18	1.18		0.20			
(イネ籾)			0.07	0.06	0.41		0.07			
キビ族										
ヨシ属	0.42	0.41						0.43		
ウシクサ族(ススキ属など)			0.17	0.07	0.08			0.08	0.08	
タケ亜科(おもにネササ節)	0.57	0.60	0.20	0.13	0.17	0.48	0.26	0.39	0.23	0.20

表5 植物珪酸体(プラント・オパール)の試料

No.	分類群	地点	試料名
1	イネ	田面	14-1
2	イネ	小畦畔	3-1
3	イネ	田面?	25-1
4	ヨシ属	田面	12-1
5	タケ亜科	田面	12-1
6	ウシクサ族(ススキ属)	田面	12-1

ここではイネの植物珪酸体は認められず、ヨシ属がわずかとタケ亜科がやや高い密度で検出された。このことから、本遺構は、水田土壌や灌漑水等の流入が無く、タケ亜科の生育が可能な比較的乾いた高い部分に立地していたと見られる。

#### 5) S D 384104

本地点では試料29-1・30-1・30-2よりイネの植物珪酸体が検出された。したがって、遺構構築時に下位の水田土壌が巻き込まれた可能性が考えられる。

#### 6) 弥生溝(S D 363121)

ここでは試料36よりイネの植物珪酸体が検出された。したがって、当該溝が水田遺構に付帯するものである可能性が考えられる。

#### (6) まとめ

長岡京跡において検出された弥生時代とされる水田遺構および遺構が不明瞭な区域について、植物珪酸体分析を行い稲作の検証および稲作跡の探査を試みた。その結果、水田遺構検出域ならびに水田跡の可能性が推定された区域では、田面、畦畔、溝の大半においてイネの植物珪酸体が検出されたことから、これらで稲作が行われていた可能性が推定された。ただし、植物珪酸体密度が極めて低いことや遺構の不明瞭な地点が多々存在することなどから、検出された畦畔が疑似畦畔である疑いも残された。また、中世の溝においてもイネの植物珪酸体が検出されたことから、当該溝が水田に伴うものである可能性が示唆された。

#### 引用文献・参考文献

- 杉山真二・藤原宏志 1987 「川口市赤山陣屋跡遺跡におけるプラント・オパール分析」『赤山—古環境編—』川口市遺跡調査会報告10 p. 281-298
- 藤原宏志 1976 「プラント・オパール分析法の基礎的研究(1)—数種イネ科栽培植物の珪酸体標本と定量分析法—」



『考古学と自然科学』9 p.15-29

藤原宏志 1979 「プラント・オパール分析法の基礎的研究(3)―福岡・板付遺跡(夜臼式)水田および群馬・日高遺跡(弥生時代)水田におけるイネ(*O. sativa* L.) 生産総量の推定―」『考古学と自然科学』12 p.29-41

藤原宏志・杉山真二 1984 「プラント・オパール分析法の基礎的研究(5)―プラント・オパール分析による水田址の探査―」『考古学と自然科学』17 p.73-85

## II. 長岡京跡における花粉分析

### (1) 試料

試料は、遺構面およびその下部の50点であり、都合58点を対象とした。柱状に切り取られた堆積物から各試料の採取を行った。試料番号はプラント・オパール分析試料と共通であり、地点と上位からの番号で示した。

#### 1) 大畦畔、中世溝

いずれも中世であり、大畦畔が1-1と1-2、中世溝が2-1と2-2である。

#### 2) 小畦畔

7地点であり、それぞれ上下の3-1・3-2・5-1・5-2・8-1・8-2・9-1・9-2・11-1・11-2・13-1・13-2・21-1・21-2の14点である。小区画の水田であるため、弥生時代と推定されている。

#### 3) 田面

9地点であり、それぞれ上下の4-1・4-2・6-1・6-2・7-1・7-2・10-1・10-2・12-1・12-2・14-1・14-2・15-1・15-2・16-1・16-2・17-1・17-2の18点であり、小畦畔と同じ小区画水田であり、弥生時代と推定されている。

#### 4) 田面?

5地点であり、それぞれ上下の20-1・20-2・22-1・22-2・23-1・23-2・24-1・24-2・25-1・25-2の10点である。

#### 5) 土坑

2地点で、18-1・18-2・19-1・19-2の4点である。水田の疑いもある。

#### 6) SD384104

長岡京期の築地であり、2地点で29-1・29-2・30-1・30-2・30-3の5点である。

#### 7) 弥生溝(SD363121)

2地点で、36・37-1・37-2の3点である。

### (2) 方法

花粉粒の分離抽出は、基本的には(中村1973)を参考にし、試料に以下の順で物理化学処理を施して行った。

1) 5%水酸化カリウム溶液を加え15分間湯煎する。

2) 水洗した後、0.5mmの篩で礫などの大きな粒子を取り除き、沈澱法を用いて砂粒の除去を行う。

- 3) 25%フッ化水素酸溶液を加えて30分放置する。
- 4) 水洗した後、氷酢酸によって脱水し、アセトリシス処理(無水酢酸9:1濃硫酸のエルドマン氏液を加え1分間湯煎)を施す。
- 5) 再び氷酢酸を加えた後、水洗を行う。
- 6) 沈渣に石炭酸フクシンを加えて染色を行い、グリセリンゼリーで封入しプレパラートを作製する。

以上の物理・化学の各処理間の水洗は、1500rpm、2分間の遠心分離を行った後、上澄みを捨てるという操作を3回繰り返して行った。

検鏡はプレパラート作製後直ちに、生物顕微鏡によって300~1000倍で行った。花粉の同定は、(島倉1973)および(中村1980)をアトラスとし、所有の現生標本との対比で行った。結果は同定レベルによって、科・亜科・属・亜属・節および種の階級で分類した。複数の分類群にまたがるものはハイフン(-)で結んで示した。なお、科・亜科や属の階級の分類群で一部が属や節に細分できる場合はそれらを別の分類群とした。イネ属に関しては、(中村1974・1977)を参考にし、現生標本の表面模様・大きさ・孔・表層断面の特徴と対比して分類し、個体変化や類似種があることからイネ属型とした。

### (3) 結果と考察

#### a. 分類群(図版第276・277)

出現した分類群は、樹木花粉23、樹木花粉と草本花粉を含むもの1、草本花粉22、シダ植物胞子2形態の計48である。これらの学名と和名および粒数を表1に示す。なお、花粉の比較的多く検出された地点は花粉総数を基数とする百分率の花粉ダイアグラムに示した。主要な分類群を写真に示す。以下に出現した分類群を示す。

#### 〔樹木花粉〕

モミ属・ツガ属・マツ属複維管束亜属・スギ・コウヤマキ・イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科・ヤマモモ属・クルミ属・サワグルミ・ハンノキ属・カバノキ属・ハシバミ属・クマシデ属-アサダ・クリ-シイ属・ブナ属・コナラ属コナラ亜属・コナラ属アカガシ亜属・ニレ属-ケヤキ・エノキ属-ムクノキ・アカメガシワ・カエデ属・トチノキ・ハイノキ属

#### 〔樹木花粉と草本花粉を含むもの〕

クワ科-イラクサ科

#### 〔草本花粉〕

ガマ属-ミクリ属・サジオモダカ属・オモダカ属・イネ科・イネ属型・カヤツリグサ科・ホシクサ属・ミズアオイ属・タデ属サナエタデ節・ソバ属・アカザ科-ヒユ科・ナデシコ科・キンポウゲ属・アブラナ科・ノブドウ・セリ科・シソ科・オオバコ属・タンポポ亜科・キク亜科・オナモミ属・ヨモギ属

#### 〔シダ植物胞子〕

単条溝胞子・三条溝胞子

b.花粉群集の特徴と植生

1)大畦畔・中世溝(中世)

大畦畔(1-1・1-2)では草本花粉のアブラナ科の出現率が高く、イネ属型を含むイネ科の出現率もやや高く、ソバ属が伴われる。他の草本花粉と樹木花粉は低率である。アブラナ科とソバ属は明らかな畑作要素であり、この時期はアブラナやソバなどの集約的な畑作が行われていたとみなされる。また、イネ属型を含むイネ科から水田の分布も推定される。

中世溝(1-1・1-2)では、樹木花粉と草本花粉がほぼ同じ割合で出現する。草本花粉ではイネ属型を含むイネ科が主に出現し、カヤツリグサ科・アブラナ科・ソバ属が出現する。樹木花粉ではコナラ属アカガシ亜属を主に、コナラ属コナラ亜属・クリーシイ属・スギ、マツ属複雑維管束亜属が伴われる。周囲はイネ科が生育し比較的人為性の高い植生が分布していたと推定される。イネ属型とソバ属の花の出現から、周囲で水田とソバなどの畑地が営まれていたこ

表1 長岡京における花粉分析結果

学名	分類群	和名	大畦畔		中世溝	
			1-1	1-2	2-1	2-2
Arboreal pollen		樹木花粉				
<i>Abies</i>		モミ属			3	2
<i>Tsuga</i>		ツガ属			2	2
<i>Pinus subgen. Diploxylon</i>		マツ属複雑維管束亜属	8	3	16	21
<i>Cryptomeria japonica</i>		スギ	7	4	34	33
Taxaceae-Cephalotaxaceae-Cupressaceae		イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科			2	3
<i>Myrica</i>		ヤマモモ属			1	
<i>Juglans</i>		クルミ属			1	
<i>Alnus</i>		ハンノキ属	7		7	6
<i>Betula</i>		カバノキ属			4	1
<i>Corylus</i>		ハシバミ属			1	
<i>Carpinus-Ostrya japonica</i>		クマシデ属-アサダ			2	6
<i>Castanea crenata-Castanopsis</i>		クリ-シイ属	6	1	29	41
<i>Fagus</i>		ブナ属	1		2	1
<i>Quercus subgen. Lepidobalanus</i>		コナラ属コナラ亜属	4	1	36	29
<i>Quercus subgen. Cyclobalanopsis</i>		コナラ属アカガシ亜属	13	2	87	94
<i>Ulmus-Zelkova serrata</i>		ニレ属-ケヤキ			1	2
<i>Celtis-Aphananthe aspera</i>		エノキ属-ムクノキ			3	1
<i>Aesculus turbinata</i>		トチノキ				1
Arboreal・Nonarboreal pollen		樹木・草本花粉				
Moraceae-Urticaceae		クワ科-イラクサ科	1	1	1	1
Nonarboreal pollen		草本花粉				
<i>Sagittaria</i>		オモダカ属	1		1	4
Gramineae		イネ科	59	15	139	134
<i>Oryza type</i>		イネ属型	1		4	1
Cyperaceae		カヤツリグサ科	14	1	27	22
<i>Eriocaulon</i>		ホシクサ属				1
<i>Polygonum sect. Persicaria</i>		タデ属サナエタデ節			1	
<i>Fagopyrum</i>		ソバ属	1		1	1
Chenopodiaceae-Amaranthaceae		アカザ科-ヒユ科	2		2	1
Caryophyllaceae		ナデシコ科	2	2	4	1
Cruciferae		アブラナ科	78	100	21	10
Umbelliferae		セリ科	3		6	3
Lactucoeidae		タンポポ科		1	2	4
Asteroidae		キク科			3	2
<i>Artemisia</i>		ヨモギ属	3	1	22	26
Fern spore		シダ植物胞子				
Monolate type spore		単条溝胞子	8	1	3	1
Trilate type spore		三条溝胞子	3	2	8	4
Arboreal pollen		樹木花粉	46	11	230	244
Arboreal・Nonarboreal pollen		樹木・草本花粉	1	1	1	1
Nonarboreal pollen		草本花粉	164	120	233	210
Total pollen		花粉総数	211	132	464	455
Unknown pollen		未同定花粉	2	1	3	5
Fern spore		シダ植物胞子	11	3	11	5
Helminth eggs		寄生虫卵	(-)	(-)	(-)	(-)

表2 長岡京における花粉分析結果

学名	分類群	和名	小畦畔															
			3-1	3-2	5-1	5-2	8-1	8-2	9-1	9-2	11-1	11-2	13-1	13-2	21-1	21-2		
Arboreal pollen		樹木花粉																
<i>Pinus subgen. Diploxylon</i>		マツ属複雑維管束亜属	2		1	1	6		1							1		
<i>Cryptomeria japonica</i>		スギ	2		5	2	4		2				1			3		
Taxaceae-Cephalotaxaceae-Cupressaceae		イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科							1									
<i>Juglans</i>		クルミ属											1					
<i>Betula</i>		カバノキ属			1									1				
<i>Corylus</i>		ハシバミ属	1															
<i>Carpinus-Ostrya japonica</i>		クマシデ属-アサダ							2							1		
<i>Castanea crenata-Castanopsis</i>		クリ-シイ属	1		5	3	2		6					1		2		
<i>Fagus</i>		ブナ属																
<i>Quercus subgen. Lepidobalanus</i>		コナラ属コナラ亜属			4	2	4		4		1	1				1		
<i>Quercus subgen. Cyclobalanopsis</i>		コナラ属アカガシ亜属			10		12	2	13	1		2	6	1		11		
<i>Ulmus-Zelkova serrata</i>		ニレ属-ケヤキ			1													
Nonarboreal pollen		草本花粉																
Gramineae		イネ科	12	1	24	4	24	4	8				3	2		5		
<i>Oryza type</i>		イネ属型			1													
Cyperaceae		カヤツリグサ科	1		14	5	2	1	3									
<i>Polygonum sect. Persicaria</i>		タデ属サナエタデ節														1		
Cruciferae		アブラナ科	13	3	9	7	13	2	15	10		4	9	7	7	17		
Umbelliferae		セリ科		1	2				1			1				1		
Lactucoeidae		タンポポ科		1			1											
Asteroidae		キク科					1		1									
<i>Artemisia</i>		ヨモギ属			5	2	9		4			1						
Fern spore		シダ植物胞子																
Monolate type spore		単条溝胞子	1		4	6	9	1	1	1			1	4	2	13		
Trilate type spore		三条溝胞子	1	1	2	1	6	6	1					3		4		
Arboreal pollen		樹木花粉	6	1	15	8	16	1	15	0	1	1	2	2	0	8		
Nonarboreal pollen		草本花粉	26	6	55	18	50	7	32	10	0	6	12	9	7	24		
Total pollen		花粉総数	32	7	70	26	66	8	47	10	1	7	14	11	7	32		
Unknown pollen		未同定花粉	1	1	0	1	0	0	1	0	0	0	1	0	0	1		
Fern spore		シダ植物胞子	2	1	2	5	12	15	2	1	0	0	1	7	2	17		
Helminth eggs		寄生虫卵	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)		

とが推定される。また、周囲には森林も分布し、カシ(コナラ属アカガシ亜属)を主に、ナラ類(コナラ属コナラ亜属)・クリーシイ属・スギ・ニヨウマツ類(マツ属複維管束亜属)の生育する照葉樹の優勢な森林であったとみなされる。

2) 小畦畔

小畦畔の各試料は花粉がほとんど検出されなかった。これらの試料は、概ねコナラ属アカガシ亜属を主にクリーシイ属・スギ・マツ属複維管束亜属の樹木花粉が出現し、アブラナ科・イネ科・カヤツリグサ科の草本花粉が出現する。花粉が少ないのは畦畔のやや乾燥した堆積環境によって花粉が分解された可能性が考えられる。また、中世以降に多いアブラナ科が出現することから、上位の耕作による攪乱ないし土壌生成作用によって移動した花粉が反映された可能性もある。

3) 田面

花粉が多く検出されたのは、17-1のみである。17-1では、樹木花粉と草本花粉がほぼ同じ割合で出現する。草本花粉ではイネ属型を含むイネ科が主に出現し、カヤツリグサ科、オモダカ属などが伴われる。樹木花粉ではコナラ属アカガシ亜属を主に、コナラ属コナラ亜属・クリーシイ属・スギ・マツ属複維管束亜属が伴われる。17-1以外の試料はいずれも花粉があまり検出されない。これらの試料では、概ねコナラ属アカガシ亜属を主にクリーシイ属・スギ・マツ属複維管束亜属の樹木花粉が出現し、アブラナ科・イネ科・カヤツリグサ科の草本が出現する。

17-1では周辺にイネ科が生育し比較的人為性の高い植生が分布していたと推定される。イネ属型およびオモダカ属の出現から水田の分布が示唆される。周辺地域には、カシ(コナラ属アカ

表3 長岡京における花粉分析結果

学名	分類群	和名	田面																	
			4-1	4-2	6-1	6-2	7-1	7-2	10-1	10-2	12-1	12-2	14-1	14-2	15-1	15-2	16-1	16-2	17-1	17-2
Arboreal pollen		樹木花粉																		
<i>Abies</i>		モミ属																	4	1
<i>Tsuga</i>		ツガ属																	1	
<i>Pinus subgen. Diploxylon</i>		マツ属複維管束亜属								1							3		9	
<i>Cryptomeria japonica</i>		スギ	3		4		3	1	1								1		23	3
<i>Sciadopitys verticillata</i>		コウヤマキ																	1	
Taxaceae-Cephalotaxaceae-Cupressaceae		イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科																	10	
<i>Myrica</i>		ヤマモモ属								1									1	
<i>Juglans</i>		クルミ属															1		1	
<i>Pterocarya rhoifolia</i>		サワグルミ																	2	
<i>Alnus</i>		ハンノキ属			1							1							1	
<i>Betula</i>		カバノキ属																1		4
<i>Corylus</i>		ハシバミ属																		
<i>Carpinus-Ostrya japonica</i>		クマシデ属-アサダ																		2
<i>Castanea crenata-Castanopsis</i>		クリ-シイ属							3	1	1		1		2		3		31	
<i>Fagus</i>		ブナ属			1														1	
<i>Quercus subgen. Lepidobalanus</i>		コナラ属コナラ亜属			4	1	3	2	5	1	2				2		1		35	
<i>Quercus subgen. Cyclobalanopsis</i>		コナラ属アカガシ亜属	5		8	1	10	4	12	5	5		3		1		2	2	84	
<i>Ulmus-Zelkova serrata</i>		ニレ属-ケヤキ																	2	
<i>Celtis-Aphananthe aspera</i>		エノキ属-ムクノキ																		1
Nonarboreal pollen		草本花粉																		
<i>Sagittaria</i>		オモダカ属							1										6	
Gramineae		イネ科	1		20		11		1		3			1	1		4		95	10
<i>Oryza type</i>		イネ属型																	6	
Cyperaceae		カヤツリグサ科	1		1		2		1	1									1	23
Chenopodiaceae-Amaranthaceae		アカザ科-ヒユ科																	2	
<i>Ranunculus</i>		キンポウゲ属																	1	
Cruciferae		アブラナ科	2		21	1	2	1	3		14			35		3	1	4	2	
Umbelliferae		セリ科							1	1									2	
Labiatae		シソ科	1																	
Lactucoeidae		タンポポ亜科	1																	
Asteroidae		キク亜科									1									2
<i>Xanthium</i>		オナモミ属																	1	
<i>Artemisia</i>		ヨモギ属			1	1	2	1	4		1		1				2	1	27	2
Fern spore		シダ植物胞子																		
Monoliate type spore		単葉薄胞子	1		8	1		4		1	1	1			1	1	3		7	7
Trilate type spore		三葉薄胞子	1								1	1			2	2	2		2	4
Arboreal pollen		樹木花粉	8	0	18	2	16	7	22	8	9	0	4	0	5	0	12	3	209	4
Nonarboreal pollen		草本花粉	6	1	43	1	17	2	11	3	18	0	1	1	36	0	9	3	169	16
Total pollen		花粉総数	14	1	61	3	33	9	33	11	27	0	5	1	41	0	21	6	378	20
Unknown pollen		未同定花粉	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2	0	3	0
Fern spore		シダ植物胞子	2	0	8	1	0	4	0	1	2	2	0	2	3	1	5	0	9	11
Helminth eggs		寄生虫卵	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)

ガシ亜属)を主に、ナラ類(コナラ属コナラ亜属)・クリーシイ属・スギ・ニヨウマツ類(マツ属複維管束亜属)の伴われる照葉樹林が分布していたと推定される。

17-1 以外の試料は花粉が少ないため、植生は推定しにくい。花粉が少ないことと中世以降に多いアブラナ科が出現することから、上位の耕作による攪乱ないし土壤生成作用によって移動した花粉が反映された可能性がある。

4) 田面 ?

20-1・20-2・23-1 から、花粉が多く検出された。20-1・20-2 では樹木花粉と草本花粉がほぼ同じ割合で出現し、草本花粉ではイネ属型を含むイネ科が主に出現し、カヤツリグサ科・オモダカ属などが伴われる。樹木花粉ではコナラ属アカガシ亜属を主に、コナラ属コナラ亜属・クリーシイ属・スギ・マツ属複維管束亜属・モミ属が伴われる。23-1 では樹木花粉の占める割合が高いほかは、20-1・20-2 とほぼ同じ特徴を示す。20-1・20-2・23-1 以外の試料はいずれも花粉があまり検出されず、概ねコナラ属アカガシ亜属を主にクリーシイ属・スギ・マツ属複維管束亜属の樹木花粉・アブラナ科・イネ科・カヤツリグサ科の草本花粉が出現する。

20-1・20-2・23-1 からは、周辺にイネ科が生育し比較的人為性の高い植生が分布し、イネ属型およびオモダカ属の出現から水田の分布が示唆される。周辺地域は、カシ(コナラ属アカガシ亜属)を主に、ナラ類(コナラ属コナラ亜属)・クリーシイ属・スギ・ニヨウマツ類(マツ属複維管束亜属)の伴われる照葉樹林が分布していたと推定される。

これら以外の試料は花粉が少ないため植生は推定しにくく、花粉構成において中世以降に多いアブラナ科が出現していることから、上位の耕作による、攪乱ないし土壤生成作用によって移動

表 4 長岡京における花粉分析結果

学名	分類群	和名	田面 ?										土坑					
			20-1	20-2	22-1	22-2	23-1	23-2	24-1	24-2	25-1	25-2	18-1	18-2	19-1	19-2		
Arboreal pollen		樹木花粉																
<i>Abies</i>		モミ属	14	4			4		1									1
<i>Tsuga</i>		ツガ属	3			1	1		1									
<i>Pinus subgen. Diploxylon</i>		マツ属複維管束亜属	18	6		1	5	1	5	1								1
<i>Cryptomeria japonica</i>		スギ	31	15	2		13	1	4	2				3	2			2
<i>Sciadopitys verticillata</i>		コウヤマキ																
Taxaceae-Cephalotaxaceae-Cupressaceae		イチイ科-イスガヤ科-ヒノキ科	6	8											2			
<i>Myrica</i>		ヤマモモ属					2					1						
<i>Pterocarya rhoifolia</i>		サワグルミ					1										1	
<i>Alnus</i>		ハンノキ属					3		1									
<i>Betula</i>		カバノキ属	3	3			1		1									
<i>Carpinus-Ostrya japonica</i>		クマシデ属-アサダ		2			1											
<i>Castanea crenata-Castanopsis</i>		クリ-シイ属	15	36	1		19		1	3							1	
<i>Fagus</i>		ブナ属	1	2			2											
<i>Quercus subgen. Lepidobalanus</i>		コナラ属コナラ亜属	27	29			15		3	1	2							
<i>Quercus subgen. Cyclobalanopsis</i>		コナラ属アカガシ亜属	88	71			96	5	19	13	1	2	12				1	3
<i>Ulmus-Zelkova serrata</i>		ニレ属-ケヤキ	1	1			2											
<i>Aesculus turbinata</i>		トチノキ					1											
Arboreal・Nonarboreal pollen		樹木・草本花粉																
Moraceae-Urticaceae		クワ科-イラクサ科																
Nonarboreal pollen		草本花粉																
<i>Typha-Sparganium</i>		ガマ属-ミクリ属	1															
<i>Alisma</i>		サジオモダカ属	1															
<i>Sagittaria</i>		オモダカ属	1															
Gramineae		イネ科	100	115		1	43	2	11	2	1		11	11				3
<i>Oryza type</i>		イネ属型	12	1			2	1	3	1								
Cyperaceae		カヤツリグサ科	18	31			4		2					3	1			5
<i>Monochoria</i>		ミズアオイ属	2	1														
<i>Polygonum sect. Persicaria</i>		タデ属サナエタデ節	2															
Chenopodiaceae-Amaranthaceae		アカザ科-ヒユ科		1														
Caryophyllaceae		ナデシコ科	1	1										1				
Cruciferae		アブラナ科	1			3	12	1		2			1				2	1
Umbelliferae		セリ科	1	11				3		2								2
Lactucoideae		タンポポ科	3					1										
Asteroidae		キク科		1														
<i>Artemisia</i>		ヨモギ属	43	39			22			8	3			4	1			1
Fern spore		シダ植物胞子																
Monolate type spore		単気嚢胞子	37	9	2		2	6	2	5			16	12	3		18	
Trilate type spore		三気嚢胞子	14	4	2			4	1	3			4	4	3		5	
Arboreal pollen		樹木花粉	207	178	3	2	165	8	36	20	4	2	21	4	1		7	
Arboreal・Nonarboreal pollen		樹木・草本花粉	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	0
Nonarboreal pollen		草本花粉	185	201	3	13	79	3	29	6	1	1	20	13	2		12	
Total pollen		花粉総数	393	379	6	15	244	11	65	26	5	3	41	17	3		19	
Unknown pollen		未同定花粉	3	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0		0	1
Fern spore		シダ植物胞子	51	13	4	0	2	10	3	8	0	1	20	16	6		23	
Helminth eggs		寄生虫卵	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)

した花粉が反映された可能性が考えられる。

5) 土坑

18-1・18-2・19-1・19-2の各試料とも花粉が少なく植生の復原はおよび花粉分析による遺構の性格は検討できない。

6) SD384104(長岡京期の築地)

樹木花粉ではコナラ属アカガシ亜属を主に、コナラ属コナラ亜属・クリーシイ属・スギ・マツ属複維管束亜属・モミ属が伴われる。草本花粉ではイネ科が主に出現し、カヤツリグサ科・ヨモギ属・オモダカ属などが伴われる。30-1・30-2・30-3ではイネ属型の出現率がやや高い。

これらは堆積物からは田面17-1・田面?20-1・20-2・23-1と同じ花粉構成および花粉組成を示し、同様の植生と環境が推定され、同様の植生と環境下で生成された堆積物と推定される。

7) 弥生溝(S D363121)

36は樹木花粉の占める割合が高く、コナラ属アカガシ亜属が優占し、コナラ属コナラ亜属・クリーシイ属が伴われる。草本花粉ではイネ科が主に出現する。36の時期は周囲にカシ(コナラ属アカガシ亜属)を主とする照葉樹林がやや多く分布していたと推定され、イネ科の草本の生育する開けた箇所も分布する。

37-1ではイネ属型を主とするイネ科の出現率がやや高く、周囲には36と同様の照葉樹林と水田ないしイネ科の多い人為性の高い植生が分布する。

(4) まとめ

以上の分析結果および検討を時期および遺構によってまとめる。

1) 中世(大畦畔・中世溝)

アブラナヤソバなどの集約的な畑作と水田の分布が推定される。森林植生としてはカシ(コナラ属アカガシ亜属)を主に、ナラ類(コナラ属コナラ亜属)・クリーシイ属・スギ・ニヨウマツ類(マツ属複維管束亜属)の生育する照葉樹の優勢な森林であったと推定される。

2) 弥生時代?(小畦畔・田面・田面?・土坑)

表5 長岡京における花粉分析結果

学名	分類群	和名	SX104					弥生溝		
			29-1	29-2	30-1	30-2	30-3	36	37-1	37-2
Arboreal pollen		樹木花粉								
<i>Abies</i>		モミ属		5	3	2	1	1	2	
<i>Tsuga</i>		ツガ属	1	3	3	2	1	8	1	
<i>Pinus subgen. Diploxylon</i>		マツ属複維管束亜属	1	9	2	3	3	2	13	1
<i>Cryptomeria japonica</i>		スギ	5	24	4	39	18		3	
Taxaceae-Cephalotaxaceae-Cupressaceae		イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科	3		3	15			1	
<i>Myrica</i>		ヤマモモ属	1	1						
<i>Pterocarya rhoifolia</i>		サワグルミ	2							
<i>Alnus</i>		ハンノキ属	1		1	1	1			
<i>Betula</i>		カバノキ属	1	1	3	1	1			
<i>Corylus</i>		ハシバミ属	1			1				
<i>Carpinus-Ostrya japonica</i>		クマシデ属-アサダ		2	1	8	5			
<i>Castanea crenata-Castanopsis</i>		クリ-シイ属	25	1	42	22	21	17		
<i>Fagus</i>		ブナ属	2		2	2				
<i>Quercus subgen. Lepidobalanus</i>		コナラ属コナラ亜属	5	22	4	35	19	18	30	1
<i>Quercus subgen. Cyclobalanopsis</i>		コナラ属アカガシ亜属	34	120	40	137	164	230	121	4
<i>Ulmus-Zelkova serrata</i>		ニレ属-ケヤキ			1	1			1	
<i>Celtis-Aphananthe aspera</i>		エノキ属-ムクノキ				1				
<i>Mallotus japonicus</i>		アカメガシワ				1				
<i>Acer</i>		カエデ属			1					
<i>Aesculus turbinata</i>		トチノキ				1	1			
<i>Symplocos</i>		ハイノキ属		1						
Nonarboreal pollen		草本花粉								
<i>Typha-Sparganium</i>		ガマ属-ミクリ属							1	
<i>Sagittaria</i>		オモダカ属		2	1	4	3	1		
Gramineae		イネ科	71	80	18	81	67	55	104	2
<i>Oryza type</i>		イネ属型		1	1	18	6		7	
Cyperaceae		カヤツリグサ科	3	5		16	7	1	11	
<i>Eriocaulon</i>		ホシクサ属				1				
<i>Polygonum sect. Persicaria</i>		タデ属サナエタデ節			1					
Chenopodiaceae-Amaranthaceae		アカザ科-ヒユ科		1		1			1	
Cruciferae		アブラナ科	1	1	3	2	1		2	1
<i>Ampelopsis brevipedunculata</i>		ノブドウ								
Umbelliferae		セリ科				1			4	
Labiatae		シソ科				2		2		
<i>Plantago</i>		オオバコ属					1			
Lactucoideae		タンポポ科		2			2	3	1	
Asteroidae		キク科	1	1	2	1	4	4		
<i>Artemisia</i>		ヨモギ属	16	31	17	16	28		22	3
Fern spore		シダ植物孢子								
Monolate type spore		単条溝孢子		1		2	8	12	45	2
Trilate type spore		三条溝孢子		1			3		7	3
Arboreal pollen		樹木花粉	48	221	58	294	240	275	196	7
Nonarboreal pollen		草本花粉	91	124	42	144	116	66	158	6
Total pollen		花粉総数	139	345	100	438	356	341	354	13
Unknown pollen		未同定花粉	0	3	0	0	0	1	5	0
Fern spore		シダ植物孢子	0	2	0	2	11	12	52	5
Helminth eggs		寄生虫卵	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)

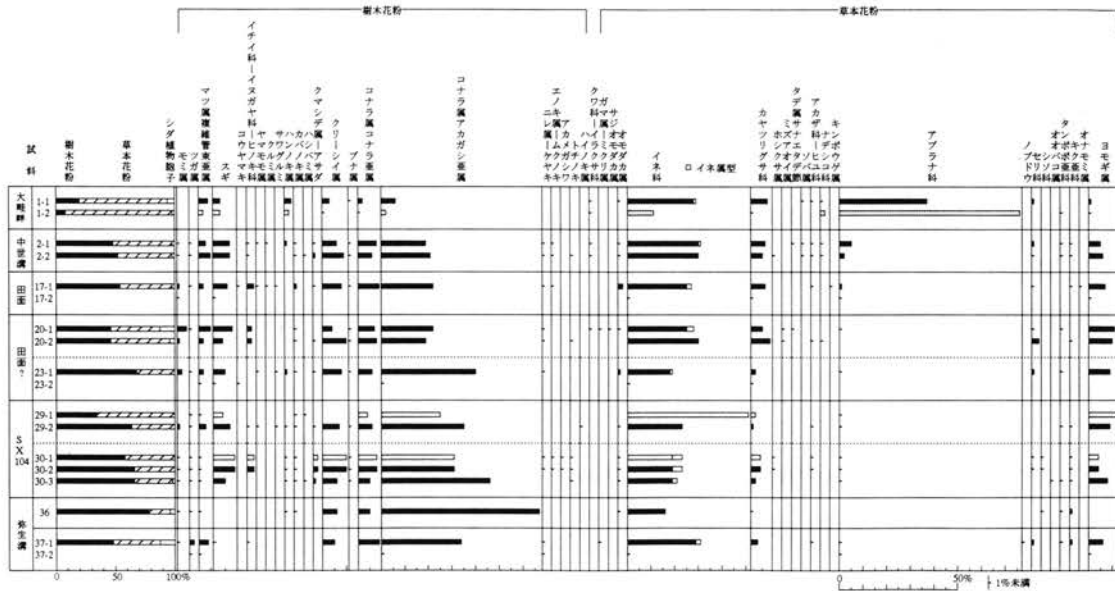


図1 長岡京跡における花粉ダイアグラム (花粉総数が基数)

田面17-1・田面?20-1・20-2・23-1から検出された花粉群集からは、周辺にイネ科が生育し比較的人為性の高い植生が分布し水田の分布も示唆される。周辺地域の森林植生は、カシ(コナラ属アカガシ亜属)を主に、ナラ類(コナラ属コナラ亜属)・クリーシイ属・スギ・ニヨウマツ類(マツ属複雑管束亜属)の伴われる照葉樹林が分布していたと推定される。

上記以外の試料は、花粉が少ないため植生は推定されず、花粉構成において中世以降に多いアブラナ科が出現していることから、上位の耕作による攪乱ないし土壌生成作用によって移動した花粉が反映された可能性もたれる。このことからみて、小畦畔・田面・田面?の遺構が上位の水田耕作の土壌生成作用によって下位に生成された二次的な土壌層位で、疑似的な水田跡である可能性がある。

土坑は花粉がほとんど検出されず、植生や遺構の性格の検討はできなかった。

### 3)長岡京期の築地地業溝(SD384104)

検出された花粉群集の構成と組成からは、2)弥生時代?で復原された植生および環境と変化はなく、同様の植生と環境下で生成された堆積物と推定される。

### 4)弥生時代(弥生溝(SD363121))

周囲にはカシを主とする照葉樹林と水田ないしイネ科の多い人為性の高い植生が分布する。

### 引用文献・参考文献

中村 純 1973 『花粉分析』古今書院 pp.82-110  
 金原正明 1993 「花粉分析法による古環境復原」『新版古代の日本第10巻古代資料 研究の方法』角川書店 pp.248-262  
 島倉巳三郎 1973 「日本植物の花粉形態」『大阪市立自然科学博物館収蔵目録第5集』 p.60  
 中村 純 1980 「日本産花粉の標徴」『大阪自然史博物館収蔵目録第13集』 p.91  
 中村 純 1974 「イネ科花粉について、とくにイネ(*Oryza sativa*)を中心として」『第四紀研究』13 pp.187-193  
 中村 純 1977 「稲作とイネ花粉」『考古学と自然科学』第10号 pp.21-30

### III. 長岡京跡におけるトイレ遺構(寄生虫・花粉・種実)分析

#### (1) はじめに

トイレ遺構等の糞便堆積物は、寄生虫卵密度・花粉組成・種実組成に特異性が認められ、分析を総合的に行うことによって、糞便の堆積物がわかり、トイレ遺構を示唆することが可能である。また、寄生虫の特異な生活史や食用とされた花粉や種実によって、食物や食生活の検討を行うことが可能である。

長岡京跡においては、トイレ遺構分析における寄生虫・花粉・種実の総合分析によって、環境と植生の復原を検討する。

#### (2) 試料

試料は遺構面およびその下部の10点であり、都合12点を対象とした。柱状に切り取られた堆積物から各試料の採取を行った。試料は方形周溝墓周溝 S T 384115(26-1・26-2)、粘土コネ土坑 S X 384088(27)と S X 384089(28)、路面土坑 S X 384092(31)、二条条間大路北側溝 S D 330003(32)と二条条間大路南側溝 S D 330002(33)、谷 S R 330016(34-1・34-2・35)、弥生時代 S T 384116(38・39)である。

#### (3) 寄生虫卵分析

##### a. 方法

微化石分析法を基本に以下のように行った。

- 1) サンプルを採量する。
- 2) 脱イオン水を加え攪拌する。
- 3) 篩別により大きな砂粒や木片等を除去し、沈澱法を施す。
- 4) 25%フッ化水素酸を加え30分静置。(2・3度混和)
- 5) 水洗後サンプルを2分する。
- 6) 片方にアセトリシス処理を施す。
- 7) 両方のサンプルを染色後グリセリンゼリーで封入しそれぞれ標本を作製する。
- 8) 検鏡・計数を行う。

以上の物理・化学の各処理間の水洗は、1500rpm、2分間の遠心分離を行った後、上澄みを捨てるという操作を3回繰り返して行った。

##### b. 結果

北側溝(32)と南側溝(33)から低密度の寄生虫卵が検出された。南側溝では回虫卵・鞭虫卵・肝

表1 長岡京跡トイレ遺構における寄生虫卵分析結果

学名	分類群 和名	(0.1cc中)		SX115	SX88	SX89	SX92	北側溝	南側溝	谷			SX116	
		26-1	26-2	27	28	31	32	33	34-1	34-2	35	38	39	
Helminth eggs	寄生虫卵													
<i>Ascaris</i>	回虫卵							1	8					
<i>Trichuris</i>	鞭虫卵								4					
<i>Clonorchis sinensis</i>	肝吸虫卵								6					
<i>Metagonimus-Heterophyes</i>	異形吸虫卵								1					
Total	計	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	1	19	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
	(1cc中に算定)							10	190					
	明らかな消化残渣	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)



表2 長岡京跡トイレ遺構における花粉分析結果

学名	分類群	和名	SX115		SX88	SX89	SX92	北側溝	南側溝	谷			SX116	
			26-1	26-2	27	28	31	32	33	34-1	34-2	35	38	39
Arboreal pollen		樹木花粉												
<i>Podocarpus</i>		マキ属							1	1	1	2		1
<i>Abies</i>		モミ属	8	12	2	5	8	8	11	14	2	9	3	8
<i>Tsuga</i>		ツガ属	2	4		15	4	7	5	2	1	1	1	2
<i>Pinus subgen. Diploxylon</i>		マツ属複維管束亜属	2	7	8	7	14	22	20	8	6	10	6	11
<i>Cryptomeria japonica</i>		スギ	23	64	15	39	59	44	86	40	19	30	42	34
<i>Sciadopitys verticillata</i>		コウヤマキ		2			2		1	1	2	1	1	3
Taxaceae-Cephalotaxaceae-Cupressaceae		イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科	8	13		1	7	12	17	13	11	5	13	12
<i>Myrica</i>		ヤマモモ属					4	3	1		1		2	1
<i>Juglans</i>		クルミ属		1				1	1	1				
<i>Pterocarya rhoifolia</i>		サワグルミ	1		1	1				1	1	1		
<i>Alnus</i>		ハンノキ属	1	2			1	1						1
<i>Betula</i>		カバノキ属		3	6	8	5	2	11	1	3	2	6	3
<i>Corylus</i>		ハシバミ属				1								
<i>Carpinus-Ostrya japonica</i>		クマシデ属-アサダ		6		5	6	5	11	9	1	4	2	2
<i>Castanea crenata-Castanopsis</i>		クリ-シイ属	17	34	20	16	24	24	51	48	25	17	20	38
<i>Fagus</i>		ブナ属	1	1	1	1	2	2	1	3	1	1	1	6
<i>Quercus subgen. Lepidobalanus</i>		コナラ属コナラ亜属	15	35	10	38	23	12	30	18	20	28	27	21
<i>Quercus subgen. Cyclobalanopsis</i>		コナラ属アカガシ亜属	50	144	50	116	163	113	235	162	112	333	142	129
<i>Ulmus-Zelkova serrata</i>		ニレ属-ケヤキ	2	3	1	2	3	2	6	1	2	2	6	1
<i>Celtis-Aphananthe aspera</i>		エノキ属-ムクノキ	1	15		3	1	1	2	9	6	19	4	5
<i>Mallotus japonicus</i>		アカメガシワ												1
<i>Zanthoxylum</i>		サンショウ属		1		1								
<i>Ilex</i>		モチノキ属						1						
<i>Aesculus turbinata</i>		トチノキ												1
<i>Vitis</i>		ブドウ属		2										
<i>Elaeagnus</i>		グミ属										1		
<i>Symplocos</i>		ハイノキ属				1								
<i>Styrax</i>		エゴノキ属							1					1
Ericaceae		ツツジ科					1							
<i>Sambucus-Viburnum</i>		ニワトコ属-ガマズミ属		2			1							
<i>Lonicera</i>		スイカズラ属									1			
Arboreal・Nonarboreal pollen		樹木・草本花粉												
Moraceae-Urticaceae		クワ科-イラクサ科	4	5				2		1	1	2		1
Leguminosae		マメ科		3										
Nonarboreal pollen		草本花粉												
<i>Typha-Sparganium</i>		ガマ属-ミクリ属		3						3	1	1	1	
<i>Alisma</i>		サジオモダカ属				2								
<i>Sagittaria</i>		オモダカ属	1	5			14	17	19	12	4	12	7	19
Gramineae		イネ科	101	90	48	178	144	155	163	95	124	87	124	102
<i>Oryza type</i>		イネ属型	6	10			4	23	19	33	28	24	2	34
Cyperaceae		カヤツリグサ科	23	14		8	24	30	57	68	26	5	68	57
<i>Aneilema keisak</i>		イボクサ	2	4						1		1		1
<i>Monochoria</i>		ミズアオイ属		1				1	6	3	5	1	6	8
<i>Polygonum sect. Persicaria</i>		タデ属サナエタデ節	2	3		1	5	2	4	5	1	9	1	2
Chenopodiaceae-Amaranthaceae		アカザ科-ヒユ科	1	1	1		5	6	2					
Caryophyllaceae		ナデシコ科	1	1		1	1	2	1	1	3	1		
<i>Ranunculus</i>		キンポウゲ属						1	1					
Cruciferae		アブラナ科			3		1	2	1					
<i>Ampelopsis brevipedunculata</i>		ノブドウ		3		1	1					1		1
<i>Haloragis-Myriophyllum</i>		アリノトウグサ属-フサモ属					1							
Umbelliferae		セリ科	23	6		2	4	8	5	10	7	2	3	3
Labiatae		シソ科		1										
<i>Plantago</i>		オオバコ属						1	1.00					
Valerianaceae		オミナエシ科		1				1		1.00				
<i>Actinostemma lobatum</i>		ゴキツル											3	
Lactucoideae		タンポポ科	5	1			1	2	2	1	4	1		
Asteroideae		キク亜科	4	3	1	1	7	2	5	2	3	1	5	7
<i>Xanthium</i>		オナモミ属		1			1							
<i>Artemisia</i>		ヨモギ属	28	38	18	35	36	31	28	16	5	3	16	24
<i>Carthamus tinctorius</i>		ベニバナ						2	1					
Fern spore		シダ植物胞子												
Monolate type spore		単条溝胞子	7		2	3	18	16	5	2	1	9	3	2
Trilate type spore		三条溝胞子	5	1	1	3			4	1	1	1	2	3
Arboreal pollen		樹木花粉	131	351	114	260	328	260	491	332	215	466	277	280
Arboreal・Nonarboreal pollen		樹木・草本花粉	4	8	0	0	0	2	0	1	1	2	0	1
Nonarboreal pollen		草本花粉	197	186	71	233	267	283	329	246	207	130	265	247
Total pollen		花粉総数	332	545	185	493	595	545	820	579	423	598	542	528
		(1cc中に算定)	3652	39240	1388	5916	21420	52320	144320	101904	81216	47840	69376	101376
Unknown pollen		未同定花粉	1	5	2	1	3	0	3	1	0	1	1	0
Fern spore		シダ植物胞子	12	1	3	6	18	16	9	3	2	10	5	5

吸虫卵・異形吸虫卵が4種同定された(図版第277)。

(4)花粉分析

a. 方法

花粉粒の分離抽出は、基本的には(中村1973)を参考にし、試料に以下の順に物理化学処理を施して行った。

- 1) 5%水酸化カリウム溶液を加え15分間湯煎する。
- 2) 水洗した後、0.5mmの篩で礫などの大きな粒子を取り除き、沈澱法を用いて砂粒の除去を行う。
- 3) 25%フッ化水素酸溶液を加えて30分放置する。
- 4) 水洗した後、氷酢酸によって脱水し、アセトリシス処理(無水酢酸9:1濃硫酸のエルドマン氏液を加え1分間湯煎)を施す。
- 5) 再び氷酢酸を加えた後、水洗を行う。
- 6) 沈渣に石炭酸フクシンを加えて染色を行い、グリセリンゼリーで封入しプレパラートを作製する。

以上の物理・化学の各処理間の水洗は、1500rpm、2分間の遠心分離を行った後、上澄みを捨てるという操作を3回繰り返して行った。

検鏡はプレパラート作製後直ちに、生物顕微鏡によって300~1000倍で行った。花粉の同定は、(島倉1973)および(中村1980)をアトラスとし、所有の現生標本との対比で行った。結果は同定レベルによって、科・亜科・属・亜属・節および種の階級で分類した。複数の分類群にまたがるものはハイフン(-)で結んで示した。なお、科・亜科や属の階級の分類群で一部が属や節に細分できる場合はそれらを別の分類群とした。イネ属に関しては、(中村1974・1977)を参考にし、現生標本の表面模様・大きさ・孔・表層断面の特徴と対比して分類し、個体変化や類似種があることからイネ属型とした。

b. 結果

出現した分類群は、樹木花粉31、樹木花粉と草本花粉を含むもの2、草本花粉25、シダ植物孢子2形態の計60である。これらの学名と和名および粒数を表2に示す。主要な分類群を図版第

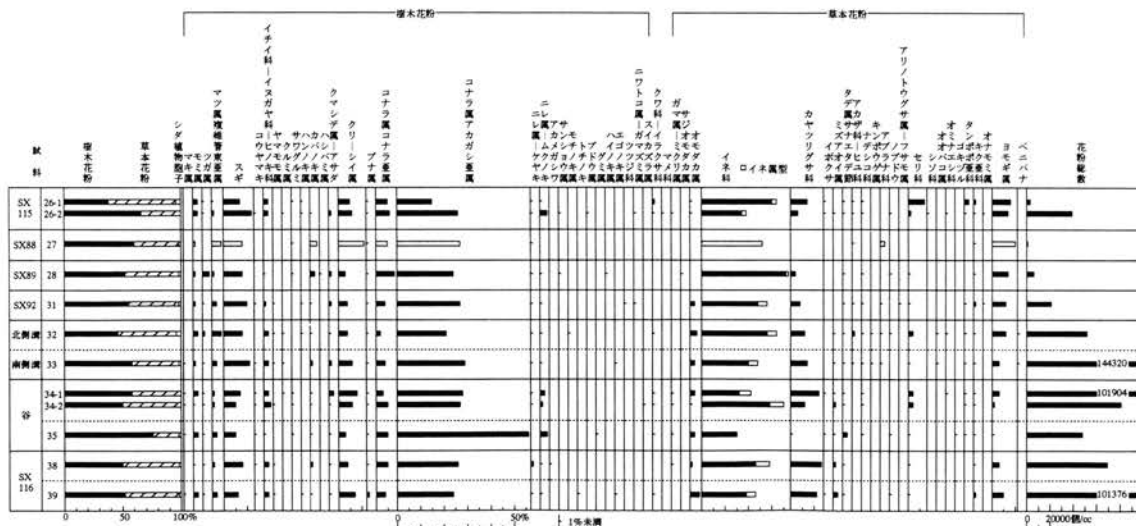


図2 長岡京跡トイレ遺構分析における花粉ダイアグラム (花粉総数が基数)

276・277に示す。以下に出現した分類群を示す。

〔樹木花粉〕

マキ属・モミ属・ツガ属・マツ属複雑管束亜属・スギ・コウヤマキ・イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科・ヤマモモ属・クルミ属・サワグルミ・ハンノキ属・カバノキ属・ハシバミ属・クマシデ属-アサダ・クリ-シイ属・ブナ属・コナラ属コナラ亜属・コナラ属アカガシ亜属・ニレ属-ケヤキ・エノキ属-ムクノキ・アカメガシワ・サンショウ属・モチノキ属・トチノキ・ブドウ属・グミ属・ハイノキ属・エゴノキ属・ツツジ科・ニワトコ属-ガマズミ属・スイカズラ属

〔樹木花粉と草本花粉を含むもの〕

クワ科-イラクサ科・マメ科

〔草本花粉〕

ガマ属-ミクリ属・サジオモダカ属・オモダカ属・イネ科・イネ属型・カヤツリグサ科・イボクサ・ミズアオイ属・タデ属サナエタデ節・アカザ科-ヒユ科・ナデシコ科・キンポウゲ属・アブラナ科・ノブドウ・アリノトウグサ属-フサモ属・セリ科・シソ科・オオバコ属・オミナエシ科・ゴキヅル・タンポポ亜科・キク亜科・オナモミ属・ヨモギ属・ベニバナ

〔シダ植物孢子〕

単条溝孢子・三条溝孢子

(5)種実同定

a. 方法

堆積物100ccを0.25mm目の篩を用いて水洗選別を行い、双眼実体顕微鏡下で観察した。同定は形態的特徴および現生標本との対比で行い、結果は同定レベルによって科・属・種の階級で示した。

b. 結果

草本18が同定された。学名・和名および粒数を表3に示し、主要な分類群を図版第278に示す。

表3 長岡京跡トイレ遺構における種実同定結果

学名	分類群	和名	部位	(100cc中)		SX115	SX88	SX89	SX92	北側溝	南側溝	谷			SX116	
				26-1	26-2	27	28	31	32	33	34-1	34-2	35	38	39	
<i>Potamogeton</i>		ヒルムシロ属	果实		42		1									
<i>Sagittaria</i>		オモダカ属	果实												5	2
Alismataceae		オモダカ科	種子	2						4		13		1	23	25
<i>Scirpus fluviatilis</i> A. Gray		ウキヤガラ	果实									8				
<i>Scirpus</i>		ホタルイ属	果实	1							2	1	2		15	17
<i>Cyperus</i>		カヤツリグサ属	果实													2
Cyperaceae		カヤツリグサ科	果实	1												
<i>Aneilema keisak</i> Hassk.		イボクサ	種子	5											1	2
<i>Monochoria vaginalis</i> Presl var. <i>plantaginea</i> Solms Laub.		コナギ	種子							35	46	78	20	8	38	253
<i>Boehmeria</i>		カラムシ属	種子	2												
<i>Polygonum</i>		タデ属	果实	4												
<i>Amaranthus</i>		ヒユ属	種子									1				
Caryophyllaceae		ナデシコ科	種子									23				2
<i>Duchesnea-Fragaria-Potentilla</i>		ヘビ仔コ属-キリンダ仔コ属 -キノシロ属	種子									5				
<i>Hydrocotyle</i>		チドメグサ属	果实												1	
Umbelliferae		セリ科	果实	2												2
<i>Mosla</i>		イヌコウジュ属	果实									1				
<i>Chara</i>		シャジクモ属	卵孢子			8	36	15	7			83				
Total		合計		0	59	9	36	15	46	161	100	22	9	83	305	

以下に同定根拠となる形態的特徴を記す。

a) ヒルムシロ属 *Potamogeton* 果実 ヒルムシロ科

茶褐色で楕円形を呈し、頂端に花柱が残る。果背に稜がある。長さ2.0mm、幅1.5mm。

b) オモダカ属 *Sagittaria* 果実 オモダカ科

淡褐色～黄褐色で歪んだ倒卵形を呈す。周囲は翼状となる。翼状部が傷んでおり、その概形が判別できないため、属レベルの同定にとどめる。長さ2.0mm、幅1.1mm。

c) オモダカ科 *Alismataceae* 種子

茶褐色で逆U字形を呈す。種皮は薄く、やや透き通る。長さ1.6mm、幅0.8mm。

d) ウキヤガラ *Scirpus fluviatilis* A. Gray 果実 カヤツリグサ科

黒灰色で倒卵形を呈す。表面は粗く、断面は三角形である。長さ3.3～3.4mm、幅1.6～1.8mm。

e) ホタルイ属 *Scirpus* 果実 カヤツリグサ科

黒褐色で、やや光沢がある。広倒卵形を呈し、断面は両凸レンズ形である。表面には横方向の微細な隆起がある。長さ1.7～1.8mm、幅1.1～1.2mm。

f) カヤツリグサ属 *Cyperus* 果実 カヤツリグサ科

黒褐色で狭倒卵形を呈す。表面はやや粗い。断面は三角形である。長さ1.0mm、幅0.5mm。

g) カヤツリグサ科 *Cyperaceae* 果実

黄褐色で倒卵形を呈す。断面は三角形である。長さ1.5mm、幅0.8mm。

h) イボクサ *Aneilema Keisak* Hassk. 種子 ツユクサ科

黒褐色～黒色で楕円形を呈す。腹部に一文字状のへそがあり、側面にくぼんだ発芽孔がある。長さ1.8～2.3mm、幅1.5～2.0mm。

i) コナギ *Monochoria vaginalis* Presl var. *plantaginea* Solms-Laub. 種子 ミズアオイ科

淡褐色で楕円形を呈す。表面には縦方向に8～10本程度の隆起があり、その間には横方向に微細な隆線がある。種皮は薄く透き通る。長さ0.9～1.1mm、0.3～0.4mm。

j) カラムシ属 *Boehmeria* 種子 イラクサ科

黄褐色でゆがんだ卵形を呈し、両端は尖る。表面はざらつき、種皮は厚くやや粗い。長さ2.7～2.8mm、幅1.8～1.9mm。

k) タデ属 *Polygonum* 果実 タデ科

黒褐色で頂端の尖る卵形を呈す。断面は両凸レンズ形で、表面には光沢がある。長さ2.1mm、幅1.3mm。

l) ヒユ属 *Amaranthus* 種子 ヒユ科

茶褐色で光沢がある。円形を呈し、一ヶ所に切れ込みへそがある。断面は両凸レンズ形である。径1.1mm。

m) ナデシコ科 *Caryophyllaceae* 種子

黒色で円形を呈し、側面にへそがある。表面全体に突起がある。径0.8mm。

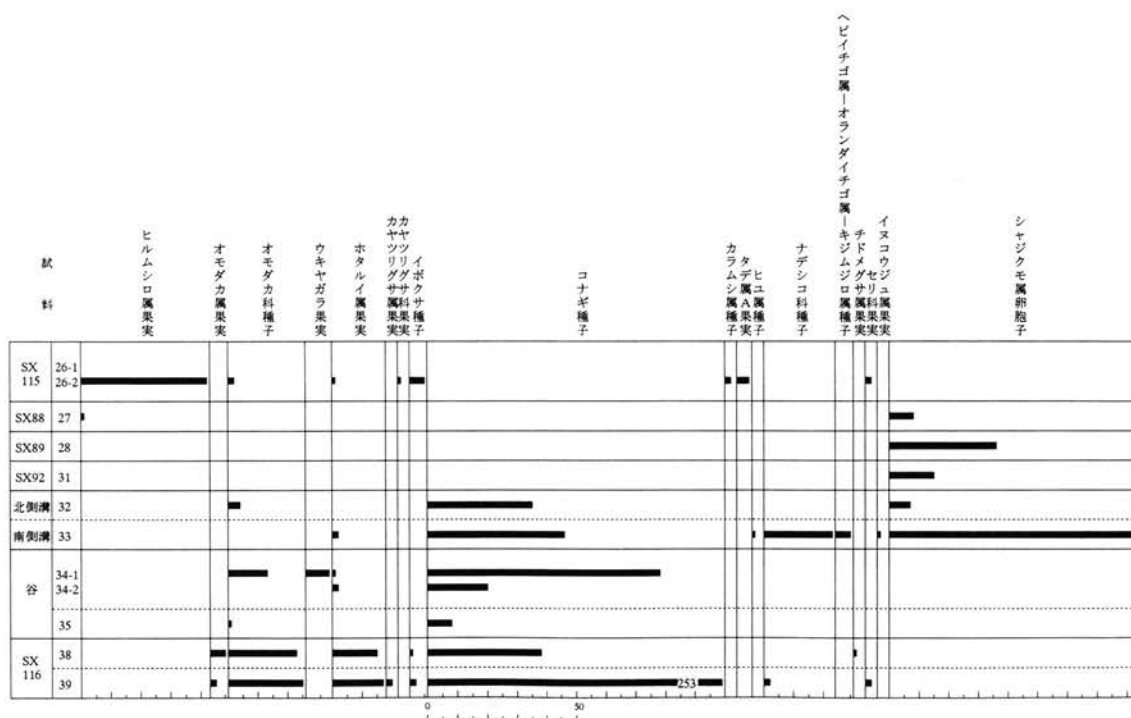


図3 長岡京跡トイレ遺構分析における種実検出図 (0.25mm篩500cc)

n)ヘビイチゴ属-オランダイチゴ属-キジムシロ属 *Duchesnea-Fragaria-Potentilla* 種子 バラ科

黄褐色で腎臓形を呈す。表面には斜めに白色の翼状のしわが走る。長さ0.9mm、幅0.6mm。

o)チドメグサ属 *Hydrocotyle* 果実 セリ科

淡褐色で半円形を呈す。断面は楕円形である。両面に明瞭な一本の円弧状の隆起が走る。長さ0.9mm、幅0.7mm。

p)セリ科 *Umbelliferae* 果実

淡褐色～黄褐色で楕円形を呈す。果皮はコルク質で厚く弾力があり、片面に3本の肥厚した隆起が見られる。断面は半円形である。長さ1.7mm、幅1.0mm。

q)イヌコウジュ属 *Mosla* 果実 シソ科

茶褐色で球形を呈し、下端にヘソがある。表面は網目模様である。径1.0mm。

r)シャジクモ属 *Chara* 卵胞子 シャジクモ科

黒色で楕円形を呈す。断面は円形で、表面には右下がりの螺旋状の隆起が8～10本程度ある。長さ0.5～0.6mm、幅0.2～0.3mm。

## (6)考察

### a. トイレ遺構の可能性について

各試料とも寄生虫卵は検出されないか低密度である。花粉構成および花粉組成は一般的に多い風媒花植物が主であり、食用および有用な植物はほとんど出現しない。種実遺体ではヒルムシロ属・オモダカ科・ホタルイ属・コナギ・シャジクモ属の水湿地植物ばかりであり、食用ないし有用な植物は出現しない。以上からみて、長岡京期の二条条間大路北側溝 S D330003(32)と南側溝

S D330002(33)は汚染的に寄生虫卵が含まれているが、他は認められない。いずれの遺構もトイレ遺構である蓋然性はない。

#### b. 植生と環境

復原される植生と環境を時期を基本に検討を行う。

1) 弥生時代(方形周溝墓周溝 S T384115(26-1・26-2)・谷 S R330016(34-1・34-2・35)・S T384116(38・39))

樹木花粉ではコナラ属アカガシ亜属を主に、コナラ属コナラ亜属・クリーシイ属・スギ・マツ属複維管束亜属が伴われる。草本花粉ではイネ属型を含むイネ科が主に出現し、カヤツリグサ科・オモダカ属などが伴われる。

イネ科が生育し比較的人為性の高い植生が分布し、イネ属型およびオモダカ属の出現からみて、水田の分布が示唆される。周辺地域にはカシ(コナラ属アカガシ亜属)を主に、ナラ類(コナラ属コナラ亜属)・クリーシイ属・スギ・ニヨウマツ類(マツ属複維管束亜属)の伴われる照葉樹林が分布していたと推定される。

方形周溝墓周溝 S T384115ではヒルムシロ属の果実が多く、浮葉植物であるヒルムシロ属が生育し、ヒルムシロ属の生育する1.5m前後の水深で滞水していたと推定される。

谷 S R330016(34-1・34-2・35)・S T384116(38・39)では、コナギ・オモダカ・ホタルイ属の種実が多く、これらの抽水植物が繁茂し、それらの生育する50cm内外に深さの滞水が考えられる。

2) 長岡京期(路面土坑 S X384092(31)・二条条間大路北側溝 S D330003(32)・二条条間大路南側溝 S D330002(33))

樹木花粉ではコナラ属アカガシ亜属を主に、コナラ属コナラ亜属・クリーシイ属・スギ・マツ属複維管束亜属が伴われる。草本花粉ではイネ属型を含むイネ科が主に出現し、カヤツリグサ科・オモダカ属などが伴われる。

イネ科を主に生育し人為性の高い植生が分布していた。周辺地域には水田とカシ(コナラ属アカガシ亜属)を主に、ナラ類(コナラ属コナラ亜属)・クリーシイ属・スギ・ニヨウマツ類(マツ属複維管束亜属)の伴われる照葉樹林が分布していたと推定される。

路面土坑 S X384092(31)では、シャジクモ属卵胞子が検出されるため、シャジクモ属が生育し、その生育に適した滞水した状態であったと推定される。

二条条間大路北側溝 S D330003(32)、二条条間大路南側溝 S D330002(33)では、コナギ種子・シャジクモ属卵胞子が検出され、これらの水湿地植物が生育し滞水していたとみなされる。

3) 粘土コネ土坑 S X384088(27)・S X84089(28)

樹木花粉ではコナラ属アカガシ亜属を主に、コナラ属コナラ亜属・クリーシイ属・スギ・マツ属複維管束亜属が伴われ、草本花粉ではイネ科が主に出現する。周囲はイネ科が主に生育し人為性の高い植生が分布していた。周辺地域にはカシ(コナラ属アカガシ亜属)を主に、ナラ類(コナラ属コナラ亜属)・クリーシイ属・スギ・ニヨウマツ類(マツ属複維管束亜属)の伴われる照葉樹林が分布していたと推定される。シャジクモ属卵胞子が検出されるため、粘土コネ土坑 S X

84088(27)・S X384089(28)は滞水していたと推定される。

引用文献・参考文献

- Peter J. Warnock and Karl J. Reinhard 1992 Methods for Extracting Pollen and Parasite Eggs from Latrine Soils, *Journal of Archaeological Science*. Vol. 19 pp. 231-245
- 金原正明・金原正子 1992 「花粉分析および寄生虫」『藤原京跡の便所遺構－藤原京7条1坊－』 奈良  
国立文化財研究所 pp. 14-15
- 金子清俊・谷口博一 1987 「線形動物・扁形動物」『医動物学』（新版臨床検査講座8）医歯薬出版 pp. 9-55
- 中村 純 1973 「花粉分析」 古今書院 pp. 82-110
- 金原正明 1993 「花粉分析法による古環境復原」『新版古代の日本』第10巻（古代資料研究の方法）  
角川書店 pp. 248-262
- 島倉巳三郎 1973 「日本植物の花粉形態」『大阪市立自然科学博物館収蔵目録』第5集 p. 60
- 中村 純 1980 「日本産花粉の標徴」『大阪自然史博物館収蔵目録』第13集 p. 91
- 中村 純 1974 「イネ科花粉について、とくにイネ(*Oryza sativa*)を中心として」『第四紀研究』13  
pp. 187-193
- 中村 純 1977 「稲作とイネ花粉」『考古学と自然科学』第10号 pp. 21-30
- 笠原安夫 1985 『日本雑草図説』養賢堂 p. 494
- 笠原安夫 1988 「作物および田畑雑草種類」『弥生文化の研究』第2巻 雄山閣出版 pp. 131-139
- 松谷暁子 1983 「エゴマ・シソ」『縄文文化の研究』第2巻 雄山閣出版株式会社 pp. 50-62
- 南木睦彦 1992 「低湿地遺跡の種実」『月刊考古学ジャーナル』No. 355 ニューサイエンス社 pp. 18-22
- 南木睦彦 1993 「葉・果実・種子」日本第四紀学会編『第四紀試料分析法』東京大学出版会 pp. 276-283

## 5. 長岡京跡・東土川遺跡 花粉分析および植物珪酸体分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

## I. 目的

水田ならびに土壌内の土壌について、花粉分析ならびに植物珪酸体分析を行い、当時の植生や栽培植物などの情報を得ることが目的である。今回分析対象とする土壌は、縄文時代?とみられる土壌で、水田遺構の下位にあたる。また、水田遺構の時代は不明である。また、試料採取地の層序や平面的位置等の情報が整理段階にあるため、ここでは分析結果のみの報告とし、総合的解析は情報が整備された時点で行う。

## II. 試料

試料は、送付されたすべての試料(花粉分析10点、植物珪酸体5点)を分析した。送付資料については、表1にまとめる。試料に「土壌」と記載があるのは、時代不明(縄文時代?)の土壌である。その他の試料は、水田耕土と思われる層位を平面的に採取してある。

表1 分析試料一覧

試料番号	注 記
・花粉分析用	
a 土壌1	長岡京 L362 A-6 a 西壁サンプル① S D362102(南側溝)南 951201
b 土壌2	長岡京 L362 A-6 a 西壁サンプル② S D362102(南側溝)南 951231
c 土壌3	名神 P A L362 A-6 a 西壁サンプル③ S D362134トレンチ 951205
d 土壌1	
e 土壌1	
f 土壌4	
g 土壌5	
h 土壌6	
i 土壌7	
j 土壌8	
・植物珪酸体分析用	
1 土壌1	
2	長岡京 L362 A-6 a・b 水田畦サンプル④ 951206
3 土壌5	
4 土壌6	
5 土壌7	



表2 花粉分析結果

種類	試料番号	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j
<b>木本花粉</b>											
マキ属			3	2	-	-	-	-	-	-	-
モミ属	1	50	70	-	-	-	-	-	-	-	1
ツガ属	6	54	107	-	-	1	-	-	-	-	-
マツ属	11	100	72	1	-	-	-	-	-	-	1
コウヤマキ属	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
スギ属	2	36	26	-	-	-	-	-	-	-	-
イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
ヤマモモ属	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クマシデ属-アサダ属	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-
ハンバミ属	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
カバノキ属	-	2	6	-	-	-	-	-	-	-	-
ハンノキ属	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
コナラ属コナラ亜属	-	5	6	-	-	-	-	-	-	-	-
コナラ属アカガシ亜属	5	56	10	-	-	-	-	-	-	-	-
クリ属	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
シイノキ属	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ニレ属-ケヤキ属	1	3	2	-	-	-	-	-	-	-	-
トネリコ属	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
スイカズラ属	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
<b>草本花粉</b>											
イネ科	7	76	21	-	1	-	-	-	-	-	-
カヤツリグサ科	1	6	1	-	-	-	-	-	-	-	-
ミズアオイ属	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
サナエタデ節-ウナギツカミ節	2	1	3	-	-	-	-	-	-	-	-
ソバ属	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-
アカザ科	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-
キカシグサ属	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
オミナエシ属	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヨモギ属	-	22	21	-	-	-	-	-	-	-	-
他のキク亜科	-	2	1	1	2	-	-	-	-	-	-
不明花粉	-	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-
<b>シダ類胞子</b>											
シダ類胞子		78	65	66	11	18	1	3	4	-	5
<b>合計</b>											
木本花粉		30	316	307	1	0	1	0	0	0	2
草本花粉		11	114	48	1	3	0	0	0	0	0
不明花粉		0	2	2	0	0	0	0	0	0	0
シダ類胞子		78	65	66	11	18	1	3	4	0	5
総計(不明を除く)		119	495	421	13	21	2	3	4	0	7

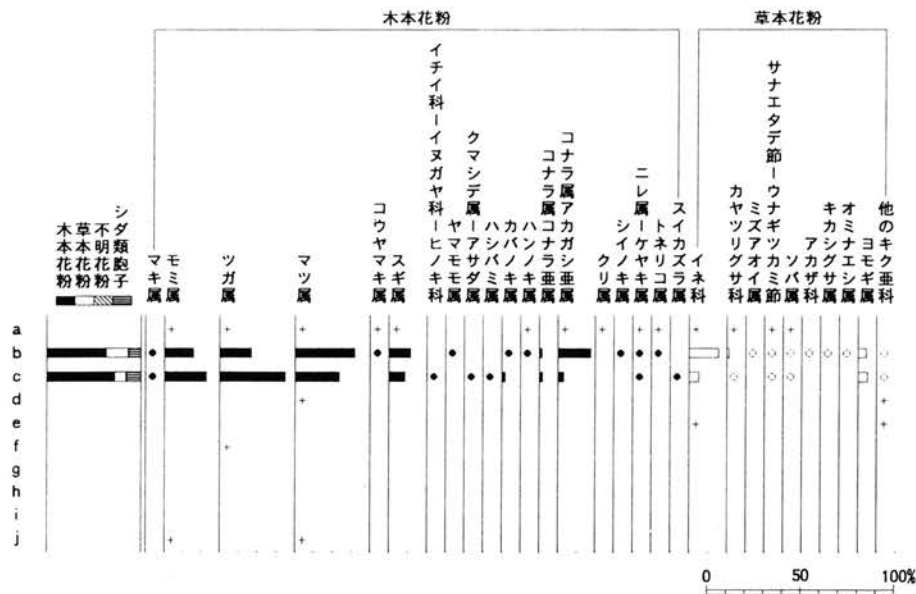


図1 花粉化石分布図  
 木本花粉はその総数、草本花粉は、総花粉・胞子数から不明花粉を除いた数を基数として百分率で表した。なお、○●は1%未満、+は木本花粉の基数が100個体未満の試料において検出された種類をしめす。

### III. 方法

#### (1)花粉分析

試料約10gについて、水酸化カリウムによる泥化・篩別・重液(臭化亜鉛:比重2.2)による有機物の分離、フッ化水素酸による鉍物質の除去、アセトリシス処理の順に物理・化学的処理を施し、花粉化石を濃集する。残渣をグリセリンで封入してプレパラートを作製し、光学顕微鏡下でプレパラート全面を操作し、出現する全ての種類(Taxa)について同定・計数する。

結果は、各種類毎の一覧表として示す。また、木本花粉は木本花粉総数、草本花粉・シダ類胞子は総花粉・胞子数から不明花粉を除いたものを基数とした百分率で出現率を算出し図示する。

#### (2)植物珪酸体分析

試料約5gについて、過酸化水素水(H<sub>2</sub>O<sub>2</sub>)と塩酸(HCl)による有機物と鉄分の除去、超音波処理(80W, 250KHz, 1分間)による試料の分散、沈降法による粘土分の除去、ポリタングステン酸ナトリウム(比重2.5)による重液分離を順に行い、物理・化学処理で植物珪酸体を分離・濃集する。これを検鏡し易い濃度に希釈した後、カバーガラスに滴下し、乾燥させる。その後、プリユウラックスで封入してプレパラートを作製する。

検鏡は光学顕微鏡下でプレパラート全面を走査し、出現するイネ科植物の葉部(葉身と葉鞘)の短細胞に由来する植物珪酸体(以下、短細胞珪酸体と呼ぶ)および葉身の機動細胞に由来する植物珪酸体(以下、機動細胞珪酸体と呼ぶ)を、同定・計数する。なお、同定には、(近藤・佐瀬1986)の分類を参考にした。

結果は、検出された植物珪酸体の種類と個数を一覧表で示す。また、各種類の出現傾向から、生育していたイネ科植物を検討するために、植物珪酸体組成図を作成する。出現率は、短細胞珪酸体と機動細胞珪酸体の各珪酸体毎に、それぞれの総数を基数として百分率で算出する。

### IV. 結果

#### (1)花粉分析

結果を表2・図版第279に示す。分析の結果、花粉化石が多く検出されたのは試料bとcのみであり、他の試料からはほとんど検出されない。

花粉化石群集は、双方とも近似し、木本花粉の割合が高い。木本花粉は、モミ属・ツガ属・マツ属・スギ属などの針葉樹が多く検出される。草本花粉ではイネ科やヨモギ属の割合が比較的高い。

#### (2)植物珪酸体

結果を表3に示す。以下に、結果を述べる。

##### ・試料1

植物珪酸体の検出個数は少ない。また、保存状態も極めて悪く、表面に多数の小孔(溶食痕)の認

表3 植物珪酸体分析結果

種類	試料番号	1	2	3	4	5
イネ科葉部短細胞珪酸体						
イネ族イネ属	-	-	6	-	-	-
タケ亜科	1	2	10	5	10	-
ヨシ属	1	-	1	1	3	-
ウシクサ族スキ属	2	-	1	-	1	-
不明キビ型	3	1	4	-	-	-
不明ヒゲシバ型	-	-	1	-	-	-
不明ダンチク型	4	-	2	1	2	-
イネ科葉身機動細胞珪酸体						
イネ族イネ属	-	-	4	-	-	-
タケ亜科	3	5	9	7	4	-
ヨシ属	1	-	1	2	1	-
ウシクサ族	5	1	3	-	1	-
不明	-	-	4	-	-	-
合計						
イネ科葉部短細胞珪酸体		11	3	25	7	16
イネ科葉身機動細胞珪酸体		9	6	21	9	6
総計		20	9	46	16	22

められる個体が多い。各試料から検出される種類は、タケ亜科・ヨシ属・ウシクサ族などである。

・試料2～5

各土壌試料では、植物珪酸体の検出個数が少なく、保存状態も極めて悪い。検出される種類は、タケ亜科・ヨシ属・ウシクサ族などである。また、試料5からは栽培植物のイネ属が認められる。

## V. 考察

### ・土壌1

花粉分析、植物珪酸体分析とも化石の保存が悪い。その原因として、微化石が取り込まれにくい堆積環境にあったか、もしくは二次的な分解、消失の影響を受けた等の理由が考えられるが、現時点でははっきりしない。したがって、微化石の状況から植物に関する情報を得るのは難しく、考察は差し控えた。

### ・水田遺構

この遺構も前者同様化石の保存が悪い。このように微化石の情報が少ないため、細かなところまでは言及できないが、古植生に関する知見を以下にまとめる。

今回花粉化石が比較的多く検出された試料b、cの結果をみると、モミ属・ツガ属・マツ属・スギ属等の針葉樹花粉化石が多い傾向にある。また、マキ属・アカガシ亜属・ヤマモモ属・シイノキ属など暖温帯要素の花粉化石も検出される。平安京における平安時代の花粉化石群集は、コナラ亜属・アカガシ亜属・クリ属-シイノキ属・スギ属が多く検出される(パリノ・サーヴェイ株式会社1991)。今回の結果をみると、暖温帯要素の花粉化石が出現し、これらが森林の構成要素となっていた点は平安京と近似するが、モミ属・ツガ属などの針葉樹が多い点で異なる。近畿地方では、縄文時代末～古墳時代のいわゆる「弥生の小海退」とよばれる寒冷期に、温帯針葉樹が増える傾向にある。このことから、今回検出された針葉樹は、気候の冷涼、多雨化に伴って山地部で増加した、温帯針葉樹林に由来する可能性がある。今回調査した水田の時代ははっきりしないが、針葉樹が多い点を考慮すれば、弥生時代～古墳時代頃の水田であることが示唆される。

検出された植物珪酸体は、数は少ないが、種類はほぼ同じである。当時のイネ科植物相としてタケ亜科・ヨシ属・ウシクサ族などが生育していたと推定される。なお、イネ属が検出された試料もあることから、土壌中に植物体が混在していたと思われる。しかし、層相や埋積状態が明確になっていない現段階では、検出されたイネ属が本層での稲作を示唆するものか否かは、慎重に判断するべきであろう。また、耕作土か否かを検討するためには、層位的に稲作の出現を明らかにすることも必要である。

### 引用文献・参考文献

- 近藤鍊三・佐瀬 隆 1986 「植物珪酸体分析, その特性と応用」『第四紀研究』25 pp. 31-64  
パリノ・サーヴェイ株式会社 1991 「平安京右京五条二坊九町・十六町発掘調査花粉・植物珪酸体分析報告」(『平安京右京五条二坊九町・十六町 京都市右京区西院三蔵町』京都文化博物館調査研究報告 第7集 京都府京都文化博物館) pp. 108-116

## 6. 京都府、長岡京跡・東土川遺跡の花粉分析

株式会社 古環境研究所

### I. 試料

試料は、長岡京跡・東土川遺跡の井戸 S E 399421 の井戸内曲物内の堆積物 1 点、井戸内櫃内の堆積物 1 点、井戸 S E 399503 の井戸内粘土層 1 点、長岡京二条条間大路北側溝 S D 330003 の 1 区下層、m 区下層、n 区中層 (3 a 層) の堆積物 3 点の計 6 点である。

### II. 方法

花粉粒の分離抽出は、基本的には(中村1973)を参考にして、水酸化カリウム処理、沈澱法による砂粒の除去、フッ化水素酸処理、アセトリシス処理の順に施して行い、石炭酸フクシンを加えて染色してグリセリンゼリーで封入しプレパラートを作製した。分類は、同定レベルによって、科・亜科・属・亜属・節および種の階級で計数を行った。イネ属に関しては、(中村1974・1977)を参考にして、現生標本の表面模様・大きさ・孔・表層断面の特徴と対比して分類しているが、個体変化や類似種があることからイネ属型とした。

### III. 結果と考察(図版第281)

#### (1) 井戸 S E 399421

井戸内曲物内と井戸内櫃内の花粉群集は、樹木花粉より草本花粉の占める割合が高い。草本花粉ではイネ属型を含むイネ科が優占し、ヨモギ属やチドメグサ亜科、ソバ属が伴われる。井戸内櫃内はオオバコ属が特徴的に多い。樹木花粉ではマツ属複雑管束亜属の出現率が高く、スギ・コナラ属アカガシ亜属などが伴われる。以上から、井戸 S E 399421 の時期は、周囲にイネ科を中心に草本が多く繁茂し、ヨモギ属・チドメグサ亜科さらにオオバコ属などが生育していたとみられる。チドメグサ亜科は畑作雑草であり、オオバコ属は典型的な人里植物である。栽培植物のソバ属やイネ属型が出現することから、周辺で畑や水田が営まれていたと推定される。周辺の森林はマツが多く、二次林化していたと考えられる。

#### (2) 井戸 S E 399503

井戸内粘土層の花粉群集は、やや樹木花粉の占める割合が高く、コナラ属アカガシ亜属が優占し、マツ属複雑管束亜属やスギが伴われる。草本花粉では、イネ属型を含むイネ科・ヨモギ属・カヤツリグサ科・ナス科が主に出現し、ソバ属が伴われる。以上から、近隣にカシ(コナラ属アカガシ亜属)などの照葉樹を主とする樹木が生育していたと推定される。また、イネ科を主にヨモギ属・カヤツリグサ科・ナス科が繁茂する比較的開けた環境も存在していたとみなされる。栽培植物のイネ属型やソバ属が出現することから、周辺に水田や畑も分布していたと考えられる。

表1 長岡京跡・東土川遺跡の花粉分析結果

学名	分類群	和名	井戸SE421		井戸SE503
			曲物内	櫃内	粘土層
Arboreal pollen		樹木花粉			
<i>Podocarpus</i>		マキ属		1	
<i>Abies</i>		モミ属	4	10	2
<i>Picea</i>		トウヒ属		1	
<i>Tsuga</i>		ツガ属	1	1	1
<i>Pinus subgen. Diploxylon</i>		マツ属複維管束亜属	38	34	34
<i>Cryptomeria japonica</i>		スギ	22	15	29
Taxaceae-Cephalotaxaceae-Cupressaceae		イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科	8	4	7
<i>Alnus</i>		ハンノキ属	1	1	1
<i>Betula</i>		カバノキ属	1	3	3
<i>Corylus</i>		ハシバミ属	1		
<i>Carpinus-Ostrya japonica</i>		クマシデ属-アサダ	1		4
<i>Castanea crenata</i>		クリ	13	11	6
<i>Castanopsis</i>		シイ属	6	6	10
<i>Fagus</i>		ブナ属	1		1
<i>Quercus subgen. Lepidobalanus</i>		コナラ属コナラ亜属	9	6	11
<i>Quercus subgen. Cyclobalanopsis</i>		コナラ属アカガシ亜属	18	16	63
<i>Ulmus-Zelkova serrata</i>		ニレ属-ケヤキ	1	1	1
<i>Celtis-Aphananthe aspera</i>		エノキ属-ムクノキ	2	1	2
<i>Melia</i>		センダン属			1
Celastraceae		ニシキギ科			7
<i>Acer</i>		カエデ属		1	2
<i>Diospyros</i>		カキ属			1
<i>Clethra barbinervis</i>		リョウブ			6
Ericaceae		ツツジ科		2	
<i>Sambucus-Viburnum</i>		ニワトコ属-ガマズミ属			1
<i>Lonicera</i>		スイカズラ属			9
Arboreal・Nonarboreal pollen		樹木・草本花粉			
Moraceae-Urticaceae		クワ科-イラクサ科	5	3	
Rosaceae		バラ科			13
Leguminosae		マメ科	1	7	2
Nonarboreal pollen		草本花粉			
<i>Alisma</i>		サジオモダカ属			1
<i>Sagittaria</i>		オモダカ属		1	1
Gramineae		イネ科	140	111	62
<i>Oryza type</i>		イネ属型	15	15	20
Cyperaceae		カヤツリグサ科	15	13	7
<i>Aneilema keisak</i>		イボクサ		1	
<i>Monochoria</i>		ミズアオイ属	1	1	2
<i>Polygonum sect. Persicaria</i>		タデ属サナエタデ節	2		1
<i>Rumex</i>		ギンギシ属	5	3	2
<i>Fagopyrum</i>		ソバ属	1	1	1
Chenopodiaceae-Amaranthaceae		アカザ科-ヒユ科	8	3	2
Caryophyllaceae		ナデシコ科			1
<i>Ranunculus</i>		キンボウゲ属		2	
Cruciferae		アブラナ科	2	1	
<i>Haloragis-Myriophyllum</i>		アリノトウグサ属-フサモ属			1
Hydrocetyloideae		チドメグサ亜科	8	21	3
Apiodeae		セリ亜科	1	1	3
Solanaceae		ナス科			20
<i>Plantago</i>		オオバコ属	3	59	1
Lactucoeidae		タンポポ亜科	1		1
Asteroideae		キク亜科	4	2	1
<i>Artemisia</i>		ヨモギ属	19	54	13
<i>Carthamus tinctorius</i>		ベニバナ	1		
Fern spore		シダ植物孢子			
Monolate type spore		単条溝孢子	5	4	
Trilate type spore		三条溝孢子	3		3
Arboreal pollen		樹木花粉	127	114	202
Arboreal・Nonarboreal pollen		樹木・草本花粉	6	10	15
Nonarboreal pollen		草本花粉	226	289	143
Total pollen		花粉総数	359	413	360
Unknown pollen		未同定花粉	3	4	7
Fern spore		シダ植物孢子	8	4	3
Helminth eggs		寄生虫卵			
<i>Ascaris</i>		回虫卵	1		
<i>Metagonimus-Heterophyes</i>		異形吸虫卵	1		
<i>Capillaria</i>		カピラリア			1
Total		計	2	(-)	1
		明らかな消化残渣	(-)	(-)	(-)

表2 長岡京跡・東土川遺跡の花粉分析結果

学名	分類群	和名	長岡京二条条間大路北側溝SD501		
			l区下層	m区下層	n区中層(3a層)
Arboreal pollen		樹木花粉			
<i>Abies</i>		モミ属	3	2	
<i>Tsuga</i>		ツガ属	1	3	
<i>Pinus subgen. Diploxylon</i>		マツ属複雑管束亜属	7	2	
<i>Cryptomeria japonica</i>		スギ	26	3	
Taxaceae-Cephalotaxaceae-Cupressaceae		イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科	8		
<i>Myrica</i>		ヤマモモ属	1		
<i>Pterocarya rhoifolia</i>		サワグルミ	1		
<i>Alnus</i>		ハンノキ属	1		
<i>Betula</i>		カバノキ属	1		
<i>Carpinus-Ostrya japonica</i>		クマシデ属-アサダ	1		
<i>Castanea crenata</i>		クリ	7		
<i>Castanopsis</i>		シイ属	15		
<i>Quercus subgen. Lepidobalanus</i>		コナラ属コナラ亜属	16	1	
<i>Quercus subgen. Cyclobalanopsis</i>		コナラ属アカガシ亜属	30	9	2
<i>Ulmus-Zelkova serrata</i>		ニレ属-ケヤキ	3		
<i>Celtis-Aphananthe aspera</i>		エノキ属-ムクノキ	1		
Arboreal・Nonarboreal pollen		樹木・草本花粉			
Moraceae-Urticaceae		クワ科-イラクサ科	3		
Rosaceae		バラ科	6		
Nonarboreal pollen		草本花粉			
Gramineae		イネ科	32		2
<i>Oryza type</i>		イネ属型	9		1
Cyperaceae		カヤツリグサ科	9	3	
<i>Monochoria</i>		ミズアオイ属	4		
<i>Polygonum sect. Persicaria</i>		タデ属サナエタデ節			1
<i>Fagopyrum</i>		ソバ属	1		
Apiodeae		セリ亜科	1		
Asteroideae		キク亜科	1		
<i>Artemisia</i>		ヨモギ属	11		
Fern spore		シダ植物孢子			
Monolate type spore		単条溝孢子	2		1
Trilate type spore		三条溝孢子	1	2	
Arboreal pollen		樹木花粉	122	20	2
Arboreal・Nonarboreal pollen		樹木・草本花粉	9	0	0
Nonarboreal pollen		草本花粉	68	3	4
Total pollen		花粉総数	199	23	6
Unknown pollen		未同定花粉	3	0	0
Fern spore		シダ植物孢子	3	2	1
Helminth eggs		寄生虫卵	(-)	(-)	(-)
		明らかな消化残渣	(-)	(-)	(-)

## (3)長岡京二条条間大路北側溝 S D 330003

1区下層からやや低密度の花粉が検出されたが、m区下層とn区中層(3a層)はほとんど花粉が検出されなかった。1区下層の花粉群集は、樹木花粉の占める割合が高く、コナラ属アカガシ亜属が優占しスギが伴われる。草本花粉では、イネ属型を含むイネ科・ヨモギ属・カヤツリグサ

科が主に出現する。以上から、近隣にカシ(コナラ属アカガシ亜属)などの照葉樹を主とする樹木が生育していた推定される。また、イネ科を主にヨモギ属、カヤツリグサ科が繁茂する比較的開けた環境も存在していたと推定される。樹木が多いのは植栽された可能性もある。

引用文献・参考文献

中村 純 1973 『花粉分析』 古今書院 pp.82-110

金原正明 1993 「花粉分析法による古環境復原」『新版古代の日本』第10巻 (古代資料研究の方法)  
角川書店 pp.248-262

中村 純 1974 「イネ科花粉について、とくにイネ(*Oryza sativa*)を中心として」『第四紀研究』13  
pp.187-193

中村 純 1977 「稲作とイネ花粉」『考古学と自然科学』第10号 pp.21-30

第9表 出土土器観察表

番号	次数	地区	遺構名	器種	器形	口径 (底径)	器高 (残存)	調整	色調	胎土造岩 物	残存率	備考
								内面/外面 〔文様〕を省 略)	内面/外面 〔色〕を省 略)	(凡例参照)	〔頸部 残存〕 (底部残 存)	(単位; cm)
1	L334	B-3	SR303016	縄文	甕	—	(9.5)	指痕/ナテ後指 痕.カスリ	淡黄灰褐/ 濁灰褐	4ミ以下長・ 石・雲多量	破片	晩期船橋.外 側ス
2	L303	B-1a	SR303016	弥生	壺	35.0	(5.4)	ナテ.ヨコナ/波 状.刻目.ハ	淡橙灰-暗 灰黄/淡橙 灰-暗灰黄	3.5ミ以下 長・石・チ 多量	1/8	
3	L337	B-5a	SR303016	弥生	壺	13.1	(5.8)	指痕.櫛波状/ 波状.ハ	淡黄灰白/ 淡黄灰白	極粗粒白・ 石	1/5	
4	L337	B-5a	SR303016	弥生	壺	20.3	(9.5)	指痕.ナテ/ヨコ ナテ.ハ.貼付突 帯2条	淡灰肌褐/ 淡橙褐	4ミ以下石・ 長・チ・赤	1/4	突帯断面三 角形
5	L334	B-3	SR303016	弥生	壺	19.2	(6.6)	ホリ痕.ヘナテ. ヨコナテ/ヨコナ テ.波状.凹線	淡焦茶褐/ 淡焦茶褐	2ミ以下長・ 石・チ・頁 岩・赤	1/4	
6	L337	B-5a	SD303012	弥生	壺	(5.7)	(15.2)	ハ.ヘラ当て/櫛 直線	灰白/灰白	3ミ以下長・ 石・チ・ク	1/1	
7	L337	B-5a	SR303016	弥生	壺	17.0	(3.8)	摩滅不明	淡灰白褐/ 淡灰白褐	3.5ミ以下 石・長・チ・ 赤	1/4	口縁端部黒 斑
8	L337	B-5a	SR303016	弥生	壺	13.4	(8.5)	ナテ/ナテ.強いナ テ.ハ.	暗灰褐/淡 灰褐	4ミ以下白・ 黒	1/4	粘土紐痕
9	L337	B-5a	SR303016	弥生	甕	18.5	25.65	ハ.指痕.ヨコナ テ/ハ	黒黄褐/黄 褐.黒褐	4ミ以下長・ 石・チ・角	(2/3)	
10	L334	B-3	SR303016	弥生	甕	17.35	(2.3)	ナテ/ナテ	淡肌灰/淡 茶肌	3ミ以下長・ 石・チ	1/4	
11	L334	B-3	SR303016	弥生	甕	16.7	(8.0)	ハ.指痕.ヨコナ テ後ハ/ヨコナテ. ナテ ハ	淡灰褐/暗 黒-明淡黄 褐	3ミ以下チ・ 長・雲・黒	3/4	
12	L337	B-5a	SR303016	弥生	高杯	12.9 (8.6)	14.2	ナテ.ヨコナスリ/ ナテ.凹線	乳白/乳白	3ミ以下長・ 石・チ・褐	1/12	
13	L334	B-3	SR303016	弥生	高杯	23.4	(3.6)	ヨコナテ/ヨコナ テ	淡赤灰褐/ 淡赤灰褐	2ミ以下長・ チ・雲	1/12	粘土紐痕
14	L337	B-5a	SD303012	弥生	高杯	(16.2)	(4.1)	ヨコナスリ/ヨコナ テ.強いヨコナ テ	濁淡灰/濁 晴灰	3ミ以下長・ 石・ク	(1/5)	
15	L334	B-3	SR303016	弥生	高杯	(11.6)	(4.8)	ナテ.ヨコナテ/ヨコ ナテ.ナテ.ヘラに よる沈線	暗灰褐/暗 灰褐	2ミ以下チ・ 石	(1/8)	円形透穴推 定15ヶ
16	L337	B-5a	SR303016	弥生	高杯	28.2	(2.7)	不明/不明	淡茶褐/淡 茶褐	6ミ以下石・ 長・チ・ク	1/8	
17	L334	B-3	SR303016	弥生	高杯	25.0	(3.8)	ナテ.ヨコナテ/ヨコ ナテ.ナテ	濁橙褐/濁 褐	3ミ以下長・ チ	1/8	外面ス・コ ナテ
18	L337	B-5a	SR303016	弥生	高杯	(7.8)	(6.9)	ヨコナキ.ホリ痕 /指痕.ミカキ	淡茶灰/淡 茶灰	3.5ミ以下 チ・黒・長・ ク・雲	(1/1)	
19	L337	B-5a	SD303010	弥生	高杯	—	(8.7)	ナテ.ホリ痕/ヘ ラナテ	乳白/乳白	2ミ以下長・ 石・角・チ	〔5/6 〕	穿孔3ヶ
20	L337	B-5a	SR303016	弥生	鉢	19.2	(4.25)	ナテ/扇形刺突. ハ	淡褐灰/橙 褐	2ミ以下白・ 黒	1/4	
21	L337	B-5a	SD303010	弥生	甕	(7.7)	(13.2)	ハ/ハ.ヘラナスリ	淡灰褐/暗 灰褐	3ミ以下チ・ 長・石	(1/2)	ス
22	L337	B-5a	SR303016	弥生	鉢	—	(5.7)	ナテ	淡明赤灰 褐	2ミ以下チ・ 長・石・ク	2/3	把手破片
23	L337	B-5a	SR303016	弥生	甕	(7.4)	(4.6)	ナテ/ナテハ	灰褐/暗茶 褐	5ミ以下砂 礫多量	(1/3)	底部黒灰
24	L337	B-5a	SR303016	弥生	甕	(8.0)	(3.5)	ナテ/ナテ	灰白/赤褐	5ミ以下砂 礫多量	(1/4)	



25	L337	B-5a	SR303016	弥生	壺	(6.2)	(6.2)	ヘラナテ <sup>○</sup> /タテクス <sup>○</sup> リ、 ヨコナテ <sup>○</sup>	淡黄灰白/ 淡黄灰白	3ミリ以下長・ 石	(1/1)	
26	L336	A-1	SD336012. 下層	弥生	壺	17.0	(4.3)	口縁部ヨコナテ <sup>○</sup> ?/ 口縁部ヨコナテ <sup>○</sup> ?タ テハ?	乳白/乳白	2ミリ以下長・ 石・珩・褐色 粒子多量・ 赤少量	1/4	
27	L336	A-1	SD336012. 下層	弥生	壺	14.5	24.0	ハヤヘラミカキ	灰白/灰白	3ミリ以下長・ 珩・赤	1/2 (1/1)	黒斑
28	L336	A-1	SD336012. 下層	弥生	壺	14.7	(3.3)	不明/不明	肌/やや濃 い肌	3ミリ以下珩・ 長・ク	1/6	
29	L336	A-1	SD336012. 下層	弥生	壺	14.0	(4.4)	不明/不明	乳褐/乳褐	3ミリ以下長・ 石・珩・赤	1/5	
30	L336	A-1	SD336012. 下層	弥生	壺	14.0	(10.7)	指痕/不明	淡肌褐/肌 褐	5ミリ以下石・ 赤・珩	1/5	
31	L336	A-1	SD336012. 下層	弥生	壺	(6.8)	(29.4)	指ナテ <sup>○</sup> . タテハク. ヨコ ナテ <sup>○</sup> /タテキ後タテハク	淡褐/黒斑	4ミリ以下長・ 石・赤	「1/6 」	外面ス. 底部 内面爪痕
32	L336	A-1	SD336012. 下層	弥生	壺	14.1	(3.5)	不明/ヘラクス <sup>○</sup> リ	橙褐/橙褐	3ミリ以下石・ 長・珩・赤	「3/4 」	口縁側面凹 線
33	L336	A-1	SD336012. 下層	弥生	壺	20.0	(11.7)	列点/凹線A	橙褐/橙褐	2ミリ以下長・ 石・珩・赤	1/5	
34	L336	A-1	SD336012. 下層	弥生	壺	20.0	(6.2)	ヨコハク/凹線. タテハ ク	暗黄褐/暗 黄褐	3ミリ以下長・ 石・珩・赤・ 雲母	1/4	凹線のつけ 方が特異
35	L336	A-1	SD336012. 下層	弥生	壺	11.8	(2.9)	櫛列点/列点. ナ テ <sup>○</sup>	橙褐/黄褐	2ミリ以下長・ 石・珩・赤	1/5	内外面の摩 滅激しい
36	L336	A-1	SD336012. 下層	弥生	壺	23.0	(5.7)	櫛列点/不明	乳褐/乳褐	4ミリ以下長・ 石・黒・赤・ 雲	1/5	
37	L336	A-1	SD336012. 下層	弥生	壺	14.2	(3.0)	不明/凹線	橙褐/橙褐	4ミリ以下長・ 石・珩・赤	1/3	
38	L336	A-1	SD336012. 下層	弥生	壺	21.6	(8.7)	櫛波状. ハク. 指 痕/凹線. ヨコ ナテ <sup>○</sup> . クス <sup>○</sup> リ. 櫛直 線	淡茶灰/淡 茶灰	3ミリ以下石・ 長・珩	1/2	外面一部ス
39	L336	A-1	SD336012. 下層	弥生	壺	8.0	7.5	ナテ <sup>○</sup> 上ケ/ヨコ ナテ <sup>○</sup> . クス <sup>○</sup> リ. 指痕	乳褐/黄褐	3ミリ以下長・ 石・赤	1/4	内面黒
40	L336	A-1	SD336012. 下層	弥生	壺	19.0	(9.5)	不明/不明	乳白-淡肌 褐/乳白- 淡肌褐	4ミリ以下長 多量・石・ 珩・赤少量	1/3	
41	L336	A-1	SD336012. 下層	弥生	壺	19.8	(7.5)	不明/口部に2 条の凹線	淡橙褐/淡 橙褐	3.5ミリ以下 長・石・赤・ 珩多量・雲 少量	1/8	
42	L336	A-1	SD336012. 下層	弥生	壺	24.8	(5.1)	不明/凹線. 不 明	灰白/灰白	3ミリ以下長・ 石・珩・赤	1/10	
43	L336	A-1	SD336012. 下層	弥生	水差	9.3	(24.0)	ナテ <sup>○</sup> . ハク/凹線上 部櫛直線/下部 櫛波状	淡灰褐. 頸 部橙褐/橙 褐	3ミリ石・長・ 珩・赤色	1/1	摂津型
44	L336	A-1	SD336012. 下層	弥生	壺	15.0	(8.6)	ヨコナテ <sup>○</sup> /タテハク後ナ テ <sup>○</sup> . 凹線	灰褐/灰褐	2ミリ以下長・ 石・黒・赤	1/4	
45	L336	A-1	SD336012. 下層	弥生	壺	—	(7.7)	不明/タテハク後ナ テ <sup>○</sup> ?凹線	橙褐/橙褐	3ミリ以下長・ 珩・赤	「1/6 」	頸部凹線
46	L336	A-1	SD336012. 中・ 下層	弥生	壺	13.6	(4.0)	ミカキ/不明	灰褐/橙褐	1ミリ以下長・ 石・珩・赤	1/5	
47	L336	A-1	SD336012. 下層	弥生	小鉢	3.35	3.35	不明/ナテ <sup>○</sup>	淡橙褐-淡 茶灰	2.5ミリ以下 長・石・珩・ク	1/1	
48	L336	A-1	SD336012. 下層	弥生	壺	—	(7.1)	不明/櫛	淡褐/淡褐	1.5ミリ以下 長・石・珩・ 黒	1/6	
49	L336	A-1	SD336012. 下層	弥生	壺	—	(8.7)	ナテ <sup>○</sup> /綾杉. 櫛. 廉状	灰白/淡黄 褐	5ミリ以下長・ 石・赤・黒	破片	
50	L336	A-1	SD336012. 下層	弥生	甕	30.6	(32.3)	ヨコハク/ハク. ナテ <sup>○</sup>	淡褐/淡褐 -淡橙褐	4ミリ以下長・ 珩・赤	1/5	Ⅲ様式古? 内外面ス

出土土器観察表

51	L336	A-1	SD336012. 下層	弥生	甕	14.0	(8.0)	ハケ後ナテ°. タテハケ. ヨコナテ°/タテハケ.ヨコ ナテ°	淡褐/淡褐	1.5ミ以下 長・石・赤	1/6	口縁端部ス
52	L336	A-1	SD336012. 下層	弥生	甕	16.0	(7.9)	不明/ヨコナテ°. タ キ.	灰褐/灰褐	4ミ以下長 ・チャ・赤・雲	1/4	
53	L336	A-1	SD336012. 下層	弥生	甕	15.2 (5.4)	23.0	タテハケ. ナテ°/タテハ ケ. タテハケ後ヨコナテ°	灰茶褐/灰 褐	2.5ミ以下 長・石・チャ	1/2	焼成後穿孔
54	L336	A-1	SD336012. 下層	弥生	甕	15.0	(18.0)	ナテ°. 指痕. ハケ./ ハケ	淡灰褐/淡 褐	3ミ以下長 ・石・チャ・赤	3/4 「1/4 」	外面ス
55	L336	A-1	SD336012. 下層	弥生	甕	16.3	(3.8)	指痕後ハケ. ヨコナ テ°/ヨコナテ°. ハケ	淡明灰褐/ 淡明灰褐	3ミ以下長 ・石・チャ・雲	1/8	
56	L336	A-1	SD336012. 下層	弥生	甕	16.0	(5.0)	ヨコナテ°/ヨコナテ°	淡褐/淡黄 褐	2.5ミ以下 長・石・赤	1/5	
57	L336	A-1	SD336012. 下層	弥生	甕	16.6	(9.2)	不明/ヨコナテ°. タ キの痕. 口縁部 に刻目	明肌/明肌	2ミ以下チャ ・長・石・角 ・赤・黒	1/6	体部外面ス
58	L336	A-1	SD336012. 下層	弥生	甕	16.0	(12.0)	指痕. ナテ°/ナテ°. タタキ	灰褐/灰褐	1ミ以下石	1/6	外面ス
59	L336	A-1	SD336012. 下層	弥生	甕	25.0	(7.5)	不明/刻目. ヨコナ テ°. タテハケ後タタキ	灰褐/灰褐	4.5ミ以下 長・石・チャ・ 赤	1/4	
60	L336	A-1	SD336012. 下層	弥生	甕	23.0	(7.0)	ナテ°?/口縁端部 に凹線?	肌褐/肌褐	3ミ以下長 ・石・チャ・赤	1/4	口縁端部外 面ス
61	L336	A-1	SD336012. 下層	弥生	甕	24.0	(8.1)	ヘラクスリ/不明	乳灰/乳灰	3ミ以下長 ・石・赤	1/8	
62	L336	A-1	SD336012. 下層	弥生	甕	26.0	(7.1)	不明/口縁部ヨ コナテ°	灰白/灰赤	4ミ以下長 ・石・チャ多量 ・赤少量	1/8	二次焼成
63	L336	A-1	SD336012. 下層	弥生	甕	27.2	(5.2)	不明/口縁部に 凹線の可能性	橙褐/橙褐	5ミ以下長 ・石・チャ・赤	1/8	
64	L336	A-1	SD336012. 下層	弥生	甕	18.4	(4.05)	ナテ°. 強いヨコナテ° /強いヨコナテ°. ナ テ°	淡茶灰/淡 橙褐-暗灰	1ミ以下長 ・石・チャ・赤 ・黒	1/8	
65	L336	A-1	SD336012. 下層	弥生	甕	18.0	(6.3)	ヨコナテ°. タテハケ/ヨ コナテ°. タテハケ	暗褐/暗褐	2ミ以下長 ・石・ク	1/6	外面ス
66	L336	A-1	SD336012. 下層	弥生	甕	19.0	(6.1)	ヨコナテ°. ナテ°/凹 線. ヨコナテ°. タテハケ	灰茶褐/灰 茶褐	1ミ以下石	1/4	外面全面ス
67	L336	A-1	SD336012. 下層	弥生	甕	15.8	(14.8)	板ナテ°/タタキ	淡灰褐/桃 褐	2.5ミ以下 石・長・チャ・ 赤	1/5	口縁部・体部 ス
68	L336	A-1	SD336012. 下層	弥生	鉢	43.0	(15.6)	指痕/櫛簾状. ナ テ°. ハケ	淡黄褐/淡 橙褐	5.5ミ以下 石・長・チャ・ 赤	1/2	ス
69	L336	A-1	SD336012. 下層	弥生	甕	36.6	(25.2)	不明/不明	淡肌褐/淡 肌褐	6ミ以下長 ・雲・石・チャ・ 赤	1/3	一部黒斑
70	L336	A-1	SD336012. 下層	弥生	高杯	18.6 (9.3)	(15.05)	ヨコナテ°. 指痕/ヨ コナテ°. 指痕. クスリ	橙灰-灰褐 /橙灰-灰 褐	2.5ミ以下 石・長・チャ・ 赤	2/3	
71	L336	A-1	SD336012. 下層	弥生	高杯	(11.8)	(5.7)	ホリ痕. クスリ/ク スリ. ヨコナテ°	乳白/乳白	3ミ以下長 ・石・チャ・赤	(1/3)	透穴17ヶ
72	L336	A-1	SD336012. 下層	弥生	高杯	(10.2)	(8.5)	ホリ痕. クスリ/ミ カキ. ナテ°	乳白/乳白	5ミ以下長 ・チャ・赤	(2/3)	断面濃灰
73	L336	A-1	SD336012. 下層	弥生	高杯	(13.0)	(12.6)	ホリ痕. クスリ/ミ カキ?クスリ?	灰褐. 橙灰 褐/灰褐. 橙灰褐	5ミ以下長 ・石・黒・雲	(1/4)	
74	L336	A-1	SD336012. 下層	弥生	高杯	(12.0)	(10.4)	ヘラクスリ/凹線	肌灰/肌灰	3ミ以下石 ・赤・黒	(1/1)	
75	L336	A-1	SD336012. 下層	弥生	高杯	(12.8)	(10.4)	ホリ痕/刻目. 凹線	肌灰/肌灰	5ミ以下長 ・石・チャ	(1/1)	
76	L336	A-1	SD336012. 下層	弥生	高杯	(6.6)	(4.0)	クスリ. ナテ°/タテミ カキ. 凹線	暗灰褐/淡 黄褐	1.5ミ以下 黒・雲母	(1/1)	幅広のミカキ

77	L336	A-1	SD336012. 下層	弥生	高杯	(8.3)	(6.4)	ホリ痕. 強いナテ/ナテ	灰白/灰白(黒斑)	3ミ以下長・石・黒	(1/1)	
78	L336	A-1	SD336012. 下層	弥生	高杯	(10.0)	(7.5)	ヨコウ. ホリ痕. ケスリ. ヨコナテ/タテハケ後ヨコナテ	淡褐-黒灰/淡褐	3ミ以下長・石・赤	(1/1)	外面一部ス
79	L336	A-1	SD336012. 下層	弥生	甕	(4.0)	(2.3)	ハケ/ハケ	淡茶灰/暗茶灰	5ミ以下長・石・赤	(1/1)	
80	L336	A-1	SD336012. 下層	弥生	甕	(3.6)	(2.2)	指痕. 爪痕. ハケ/ハケ	淡茶灰/淡茶灰	1ミ以下長・雲	(1/1)	一部ス
81	L336	A-1	SD336012. 下層	弥生	甕	(4.6)	(3.6)	ハケ/ハケ	淡茶灰/底部. 体部の1部黒斑	3ミ以下長・石・赤	(1/1)	体部黒斑
82	L336	A-1	SD336012. 下層	弥生	壺	(7.7)	(3.4)	不明/不明	淡橙褐/淡橙褐	3.5ミ以下長・石・赤	(1/1)	内面付着物. 底部外面被熱なし
83	L336	A-1	SD336012. 下層	弥生	甕	(7.8)	(4.7)	不明/不明	赤茶褐/ピンク. 底部. 体部黒斑	4ミ以下長・石・赤	(1/1)	底部黒斑
84	L336	A-1	SD336012. 下層	弥生	甕	(7.5)	(6.3)	指痕. ナテ/ハケ	淡暗茶灰/淡茶灰褐	3ミ以下長・赤・ク	(1/1)	黒斑
85	L336	A-1	SD336012. 下層	弥生	壺	(7.9)	(4.8)	指痕/不明	橙褐/橙褐(やや灰)	6ミ以下長・赤・石・ク多量	(1/1)	
86	L336	A-1	SD336012. 下層	弥生	壺	(7.7)	(5.5)	指痕/不明	橙褐/橙褐	1.5ミ以下長・石・赤・黒	(1/2)	黒斑
87	L336	A-1	SD336012. 下層	弥生	壺	(6.2)	(7.0)	ナテ. 指痕/ケスリ	淡黄褐/淡黄褐	2ミ以下長・石・赤	(2/3)	
88	L336	A-1	SD336012. 下層	弥生	壺	(8.8)	(8.3)	指痕/ミガキ	淡肌褐/乳褐	5ミ以下長・石・赤	(1/1)	
89	L336	A-1	SD336012. 下層	弥生	壺	(3.6)	(17.7)	不明/荒ハケ	明橙褐/明橙褐	3ミ以下長・赤	(1/1)	
90	L336	A-1	SD336012. 下層	弥生	甕	(6.8)	(13.4)	荒いハケ. 指痕. 爪痕/ハケ?	灰白/淡黄褐	5ミ以下長・石・赤	(1/1)	外面ス
91	L336	A-1	SD336012. 下層	弥生	甕	(8.0)	(15.8)	ナテ. 指痕/ハケ	淡黄褐/淡黄褐	5ミ以下長・赤・石	(1/1)	外面全面ス
92	L336	A-1	SD336012. 中・下層	弥生	壺	21.0	(5.2)	ナテ. 列点/不明	橙褐/橙褐	4ミ以下長・赤	1/3	
93	L336	A-1	SD336012. 上・下層	弥生	甕	16.5	24.3	タテハケ. ナメハケ/タテハケ. タキ後タテハケ	赤褐/橙褐	2ミ以下長・石・赤・黒	1/2	
94	L336	A-1	SD336012. 中・下層	弥生	甕	14.1	(20.6)	ハケの痕跡/不明	橙褐/橙褐	3ミ以下長	4/5	内面ハケ
95	L336	A-1	SD336012. 中・下層	弥生	甕	(5.0)	(25.0)	円板充填. 爪痕. ナテ. 指痕/ケスリ. タテハケ	濃灰褐/濃灰褐	4ミ以下長・石多量・赤	(1/1)	外面一部ス. 頸部なし
96	L336	A-1	SD336012. 中・下層	弥生	甕	16.0 (5.0)	25.9	ナテ/凹線刻目. ナテ. ケスリ	灰褐/灰褐	5ミ以下長・石	2/3 (1/1)	胴部列点文
97	L336	A-1	SD336012. 中・下層	弥生	甕	27.6	(31.7)	ナテ. 指痕/不明	灰褐/灰褐	11ミ以下長・石・赤・褐	(1/4)	外面コケ・ス
98	L336	A-1	SD336012. 中・下層	弥生	甕	25.4	(33.5)	ナテ. ハケ/刻目. ナテ. ハケ. 指痕. 突帯. ケスリ	淡褐灰-橙褐/淡褐灰-橙褐	4ミ以下長・石・赤・黒・ク	1/3	
99	L336	A-1	SD336012. 中・下層	弥生	甕	(8.1)	(17.4)	不明/ハケ	淡茶灰/橙褐-淡茶灰. 黒斑	2.5ミ以下長・茶・ク	(1/2)	
100	L336	A-1	SD336012. 中・下層	弥生	甕	(4.0)	14.4	タテハケ. ナメハケ/タテハケ. タキ後タテハケ	赤褐/橙褐	2ミ以下長・石・赤・黒	(1/2)	
101	L336	A-1	SD336012. 中層	弥生	壺	21.9 (7.2)	(36.0)	櫛列点. ナテ/櫛直線. 櫛波状. ミガキ	乳白/乳白	3ミ以下長・赤・石	1/8 (1/1)	

## 出土土器観察表

102	L336	A-1	SD336012. 中層	弥生	壺	(4.6)	(7.8)	ナテ. 強いナテ/ミ ガキ. 凹線	橙褐/淡褐	4ミリ以下長・ 石・黒	1/3	透穴
103	L336	A-1	SD336012. 中層	弥生	甕	25.65	42.3	ナテ/刻目. ハ	橙褐/橙褐	5ミリ以下長・ 珩・赤	3/4 (1/1)	外面ス
104	L336	A-1	SD336012. 中層	弥生	甕	16.0	(5.8)	ナテ. タテハ/凹 線. ヨコナテ. タテハ 後タテ	暗灰褐/淡 褐	2ミリ以下	1/4	外面全体ス
105	L336	A-1	SD336012. 中層	弥生	甕	13.4	(6.1)	不明/櫛列点	淡褐/淡褐	2ミリ以下長・ 石・珩・赤	1/3	口縁内部ス. 近江系
106	L336	A-1	SD336012. 中層	弥生	高杯	16.8	(4.8)	不明/凹線. ヨコ ガキ	灰褐/灰褐	1ミリ以下長・ 石・珩・黒	1/7	
107	L336	A-1	SD336012. 中層	弥生	鉢	(12.0)	(6.4)	不明/不明	乳白/乳白	2.5ミリ以下 長・石・珩・ 赤	1/3	
108	L336	A-1	SD336012. 上・ 中層	弥生	台付 鉢	16.0 (16.3)	12.0- 12.4	ナテ/ハミガキ	淡肌褐/淡 灰褐	2ミリ以下長・ 石・珩・褐	3/4 (1/1)	穿孔4ヶ. 外 面黒斑
109	L336	A-1	SD336012. 中層	弥生	高杯	(7.0)	(5.0)	沁り痕/不明	肌白/肌白	1ミリ以下長・ 石・珩・赤	(1/2)	
110	L336	A-1	SD336012. 中層	弥生	高杯	(7.0)	(5.7)	沁り痕. ケスリ/ク スリ. ナテ	灰褐/灰褐	1.5ミリ以下 長・雲・赤	(3/4)	
111	L336	A-1	SD336012. 下層	弥生	高杯	(8.0)	(7.0)	ケスリ. 沁り痕/タ テミガキ. ヨコナテ	暗黄褐/暗 黄褐	1.5ミリ以下 長・石・珩・ 赤	(9/10)	
112	L336	A-1	SD336012. 中・ 下層	弥生	高杯	(9.0)	(3.3)	不明/不明	橙褐/橙褐	2ミリ以下長・ 石・珩・赤	(1/4)	
113	L336	A-1	SD336012. 中層	弥生	高杯	(12.1)	(4.3)	ケスリ/ミガキ. ナテ	淡褐/淡褐	1.5ミリ以下 長・石・珩・ 黒・赤	(1/3)	
114	L336	A-1	SD336012. 中層	弥生	高杯	(12.0)	(4.5)	指ナテ?ケスリ?/タ テハ. ミガキ	灰褐/灰褐	2ミリ以下長・ 石・珩・黒・ 赤	(1/4)	
115	L336	A-1	SD336012. 中層	弥生	高杯	(12.6)	(10.0)	沁り痕/凹線	橙黄/橙黄	6ミリ以下石・ 黒・赤	(1/1)	透穴4ヶ
116	L336	A-1	SD336012. 中層	弥生	壺	(8.0)	(4.1)	指痕/不明	淡橙褐/淡 橙褐	4.5ミリ以下 長・石・珩・ 赤	(1/1)	底部中心にス ス(赤化)
117	L336	A-1	SD336012. 中層	弥生	甕	(4.8)	(4.8)	不明/不明	灰白/灰白	3ミリ以下長・ 石・珩・赤	(1/3)	
118	L336	A-1	SD336012. 中層	弥生	壺	(9.8)	(7.7)	指痕/指痕	灰黒/赤灰	4.5ミリ以下 長・石・珩・ 赤	(2/5)	内外面の摩 滅激しい
119	L336	A-1	SD336012. 中層	弥生	甕	(4.6)	(6.5)	不明/ハ	淡褐/灰褐	3.5ミリ以下 長・石・珩・ 赤	1/2	
120	L336	A-1	SD336012. 中層	弥生	壺?	(9.7)	(14.2)	不明/不明	淡褐/淡褐	4.5ミリ以下 長・石・珩・ 赤	(1/5)	底面. 黒斑
121	L336	A-1	SD336012. 中層	弥生	壺	13.0	(3.7)	不明/不明	淡橙灰/淡 橙褐	4ミリ以下長・ 石・珩・赤	1/4	
122	L336	A-1	SD336012. 中層	弥生	壺	16.7	(5.2)	ハケスリ. 指痕/ 指痕. ハ	明茶灰肌/ 明茶灰肌	3ミリ以下長・ 珩・ク	1/8	
123	L336	A-1	SD336012. 中層	弥生	壺	20.0	(4.3)	櫛波状/櫛波 状. ヨコナテ	暗灰褐/暗 灰褐	2.5ミリ以下 長・石・珩	1/5	内外面被熱
124	L336	A-1	SD336012. 中層	弥生	壺	16.9	(2.5)	ナテ. 強いヨコナテ/ 強いヨコナテ. ナ テ	淡橙褐/淡 肌褐	2ミリ以下長・ 石・珩	1/7	
125	L336	A-1	SD336012. 中・ 下層	弥生	壺	20.0	(6.0)	櫛列点/波状. ヨ コナテ. 櫛沈線	橙褐/橙褐	2ミリ以下長・ 珩・赤・雲 母・石少量	1/3	
126	L336	A-1	SD336012. 中層	弥生	壺	—	(7.2)	不明/貼付突帯	乳褐. 橙褐/ 橙褐	2.5ミリ以下 長・石・珩・ 赤	[1/4 ]	
127	L336	A-1	SD336012. 中層	弥生	壺	19.2	(8.1)	不明/凹線	灰褐/橙褐	1.5ミリ以下 長・石・珩・ 赤	1/3	

128	L336	A-1	SD336012. 中層	弥生	甕	16.0	(7.1)	ヨコナテ/ヨコナテ, ナテ	淡茶灰/淡橙褐	6ミリ以下長・ク多量・3以下下	1/6	
129	L336	A-1	SD336012. 中層	弥生	甕	16.0	(8.9)	不明/不明	淡茶灰/淡茶灰	3ミリ以下長・石・チャ・ク	1/6	
130	L336	A-1	SD336012. 中層	弥生	高杯	16.0	(6.6)	ヘリミカキ/凹線B. 不明	淡乳褐/淡乳褐	2ミリ以下雲・石・長・チャ・赤	1/4	
131	L336	A-1	SD336012. 上層	弥生	高杯	18.6 (12.0)	20.5	ホリ痕. ケスリ, ヨコナテ/凹線. タテミカキ?ヨコナテ	橙褐/橙褐	4ミリ以下長・石・赤・雲母	2/3 (3/4)	
132	L336	A-1	SD336012. 上層	弥生	高杯	(15.0)	(3.3)	不明/不明	橙褐/橙褐	4.5ミリ以下長・石・チャ・赤	(1/4)	内外面の摩減激しい
133	L336	A-1	SD336012. 上・中層. SK336011	弥生	甕	(5.4)	(12.6)	指痕. ナテ/不明	淡肌褐/淡肌褐	5ミリ以下長・石・チャ・黒	(1/1)	内外面の摩減激しい
134	L336	A-1	SD336012	弥生	甕	30.4	(10.9)	不明/回転ナテ	淡橙褐/淡橙褐	5ミリ以下赤・石・チャ	1/5	外面ス
135	L336	A-1	SD336012	弥生	壺	14.8	(2.5)	ナテ/ヨコナテ	橙褐/橙褐	1ミリ以下長・石・チャ・赤	1/4	外面黒斑
136	L336	A-1	SD336012	弥生	壺	12.1	14.3	ナテ. 指痕. ハウ/櫛直線. 櫛波状. 櫛列点. ハウ	暗灰/黄灰褐	6ミリ以下石・長・チャ・赤	1/3	穿孔2ヶ
137	L336	A-1	SD336012	弥生	壺	16.0	(8.4)	ヨコナテ. ナテ/ヨコナテ. 指痕	乳白/乳白	1ミリ以下長・チャ・赤	1/5	穿孔2ヶ
138	L336	A-1	SD336012	弥生	甕	15.6	(18.3)	不明/ヨコナテ. 体部に沈線3-5条	淡褐/淡褐	5.5ミリ以下長・石・チャ・赤	1/4	外面ス
139	L336	A-1	SD336012	弥生	甕	12.4	(6.5)	ナテ/タテハク. タテハク後ヨコナテ	淡褐/淡褐	4ミリ以下長・石・チャ	1/3	内外面ス
140	L336	A-1	SD336012	弥生	壺	(7.0)	(1.8)	不明/指痕	灰褐(黒斑)	3ミリ以下長・石・黒	(1/1)	外面は火を受けて黒く変色
141	L336	A-1	SD336012	弥生	壺	(5.6)	(2.0)	ナテ?/ナテ?	黄茶褐/黄茶褐	4ミリ以下長・角・雲母	(1/2)	被熱. 生駒西麓産
142	L336	A-1	SD336012	弥生	甕	(4.6)	(6.8)	不明/不明	黒灰/橙褐. 黒斑	3ミリ以下長・石・茶・ク	(1/2)	
143	L336	A-1	SD336012	弥生	高杯	20.0	(2.7)	ヨコナテ/タテミカキ. ヨコナテ?櫛. 凹線	灰白/灰白	1.5ミリ以下長・石・チャ	1/2	
144	L336	A-1	SD336012	弥生	鉢	27.0	(4.3)	ヨコミカキ/凹線? 不明	乳白/乳白	2ミリ以下長・石・チャ・赤	1/12	
145	L336	A-1	SD336012	弥生	高杯	23.3	(5.0)	ヨコミカキ/凹線. 不明	灰白/灰白	長・石・チャ・黒・赤	1/6	
146	L336	A-1	SD336012	弥生	高杯	(14.6)	(16.7)	ホリ痕. ヨコナテ/ヨコナテ. ヘリミカキ. ヘリケスリ	淡褐/淡褐	2ミリ以下長・石・チャ・頁岩・赤	1/6	円盤充填
147	L336	A-1	SD336012	弥生	壺	(9.8)	(3.3)	指痕. ナテ?/ハウ. ナテ	淡褐/淡褐	6ミリ以下長・石・チャ・赤	(1/4)	
148	L336	A-1	SD336012	弥生	壺	(9.8)	(5.6)	ナテ/ケスリ?	灰褐/明黄褐	7.5ミリ以下長・石・チャ	(1/1)	
149	L303	B-1a	SD303014	弥生	壺	17.1	(3.0)	櫛列点. ナテ/ナテ	淡黄褐/淡橙褐	3.5ミリ以下小石?	1/10	
150	L303	B-1a	SD303014	弥生	甕	17.4	(4.7)	ナテ. ヨコナテ/刻目. 不明	乳白/淡黄褐	2ミリ以下長・石・チャ・角	1/6	
151	L303	B-1a	SD303014	弥生	甕	20.1	30.25	不明. 口縁ヨコナテ/ヨコナテ. タテハウ	淡黄褐/黄褐-黒褐	5ミリ以下長・石・チャ	1/36 (1/2)	外面ス
152	L303	B-1a	SD303015	弥生	蓋	(17.0)	5.25	ミカキ/ナテ. ミカキ. 北ナテ	淡黄褐-黒褐/淡黄褐-黒褐	2ミリ以下長・石・チャ	5/8	外面一部ス
153	L303	B-1a	SD303015	弥生	高杯	(12.4)	(3.5)	ヘリケスリ. ヨコナテ/ヨコナテ. ハウ	淡黄褐/淡黄褐	2.5ミリ以下長・石・チャ・赤	(1/6)	
154	L303	B-1a	SD303015	弥生	壺	18.3	(9.2)	不明. 櫛列点/ヨコナテ. 不明	淡橙褐/淡橙褐	4.5ミリ以下長・石・チャ	1/5	

## 出土土器観察表

155	L303	B-1a	SD303015	弥生	甕	30.1	(5.3)	ナテ°.ヨコナテ°/ヨコナテ°.ナテ°	淡白黄褐/淡白黄褐	3.5ミ以下長・石・珩・赤	1/4	口縁端部外面ス. 215と同一個体?
156	L303	B-1a	SD303015	弥生	甕	27.9	(5.3)	ヨコナテ°/刻目.ヨコナテ°	淡黄褐/黒褐.黒斑	1.5ミ以下長・赤	1/12	
157	L303	B-1a	SD303015	弥生	甕	13.9 (4.5)	24.15	タテハ°.ヨコナテ°/ヨコナテ°.タテハ°	茶灰褐-暗灰/暗橙褐-暗灰	4ミ以下長・石・珩	1/1 (1/2)	
158	L303	B-1a	SD303015	弥生	甕	16.4	(10.3)	不明/ヨコナテ°.タテハ°	淡橙肌/淡橙肌	3ミ以下長・石・珩・赤	1/2	C形態
159	L303	B-1a	SD303015	弥生	甕	(7.8)	(6.0)	指痕.ナテ°/ナテ°?	淡灰肌/淡肌茶褐-黒斑	2ミ以下長・石・珩・赤・3ミ石少量	(1/1)	
160	L303	B-1a	SD303011	弥生	壺	21.0	(2.4)	円形浮.櫛列点/凹線.円形浮.ナテ°	白灰褐/白灰褐-黒褐	2ミ以下粗粒砂多量	1/8	
161	L303	B-1a	SD303011	弥生	壺	12.8	(4.5)	ナテ°.櫛列点/口縁端部に沈線・波状	淡肌褐/淡肌褐	5ミ以下長・石・珩・雲	1/1	
162	L303	B-1a	SD303011	弥生	壺	15.0	(2.8)	ナテ°/ナテ°	乳白灰/乳白灰	4ミ以下石・珩・粗粒砂	1/3	口縁外部ス
163	L303	B-1a	SD303011	弥生	甕	14.2	(2.7)	不明/ヨコナテ°.不明	淡灰褐/淡灰褐	2ミ以下長・石・珩・赤	1/5	
164	L303	B-1a	SD303011	弥生	甕	17.8	(2.4)	ヨコハ°/ナメ方向のハ°	褐/黒褐	2ミ以下長・石多量	1/12	近江系.外面ス
165	L334	B-3	SD303011	弥生	壺	39.4	(2.3)	ナテ°後ハ°/刻目.ナテ°後ハ°	淡黄肌/淡黄肌	3ミ以下長・石・珩	1/10	
166	L303	B-1a	SD303011	弥生	器台	28.4 (21.6)	21.8	ナテ°/口縁部端面に凹線と円形浮文の貼付	明淡黄褐/明淡黄褐	5ミ以下長・石・珩・ク	1/2 (1/4)	体部・裾部互いの穿孔4ヶ
167	L303	B-1a	SD303011	弥生	甕	17.8	(8.1)	不明/刻目.ナテ°.タテキ	淡褐-灰褐/淡褐-灰褐	1.5ミ以下長・珩・赤・頁岩	1/5	後期
168	L303	B-1a	SD303011	弥生	甕	17.8	(7.9)	不明/ヨコナテ°.タテハ°	褐/淡褐	2ミ以下長・石・1ミ褐	1/16	外面ス.煮沸用
169	L303	B-1a	SD303011	弥生	甕	26.8	(4.7)	不明/不明	淡褐/淡褐	2ミ以下長・石・珩	1/12	
170	L385	B-5b	SD303011	弥生	鉢	23.3	(5.8)	ナテ°.ヨコナテ°/ヨコナテ°.ナテ°.ミカキ?	淡黒/乳白	1.5ミ以下長・石・褐・珩	1/8	
171	L303	B-1a	SD303011	弥生	壺	(6.0)	(4.2)	不明/タテハ°	淡灰褐/淡灰褐	3ミ以下長・石・珩・赤	(7/8)	外面ス
172	L303	B-1a	SD303011	弥生	甕	(8.0)	(5.4)	指痕/不明	暗褐/暗褐	6ミ以下長・石・珩	1/2	
173	L303	B-1a	SD303010	弥生	壺	24.4	(2.5)	刺突/簾状	乳白/乳白	2ミ以下長・石・雲・珩多量	1/8	
174	L303	B-1a	SD303010	弥生	甕	(4.9)	(2.0)	指痕/タテハ°	淡濁灰褐/淡茶褐	3ミ以下長・石多量	(1/2)	
175	L303	B-1a	SD303010	弥生	甕	(6.0)	(2.8)	指痕.ヘラクス°リ.ナテ°/ナテ°	淡橙褐/乳白.黒斑	2ミ以下長・石・褐色砂粒	(1/2)	
176	L303	B-1a	SD303010	弥生	甕	(3.0)	(3.3)	ナテ°/指痕	淡乳灰/淡乳灰	3ミ以下長・珩多量	(1/1)	
177	L303	B-1a	SD303013	弥生	壺	15.7	(5.0)	ヨコナテ°.漆°り痕/沈線2条.ヨコナテ°.エビ°ナテ°	淡橙褐/淡橙褐	2ミ以下長・石・珩・赤・角?	1/4	
178	L303	B-1a	SD303013	弥生	甕	15.4	(6.0)	ヨコナテ°/ヨコナテ°.ハケ	淡褐灰/淡褐灰	3ミ以下長・石・珩多量	1/6	
179	L303	B-1a	SD303013	弥生	壺	(9.4)	(4.0)	ナテ°/ヘラクス°リ後ナテ°?ナテ°	灰白/乳白	3ミ以下長・石・珩・雲・褐色斑粒	(1/5)	

180	L303	B-1a	SD303009	弥生	壺	18.4	(3.2)	ナテ°/沈線2条.タテハウ	乳白/淡白黄褐	0.5ミ以下長・石・ナ・黄橙斑粒	1/8	
181	L303	B-1a	SD303009	弥生	壺	12.3	(5.9)	ヨコナテ°/ヨコナテ°.ミカキ	淡褐灰/淡黄褐	2ミ以下長・石	1/8	
182	L303	B-1a	SD303009	弥生	高杯	14.6	(2.8)	ナテ°/ナテ°	淡濁灰褐/橙褐-桃褐	3ミ以下長・石・ナ・赤・ク	1/7	
183	L303	B-1a	SD303009	弥生	高杯	18.6	(2.15)	ナテ°/ナテ°	明肌/橙褐	3ミ以下長・石・ナ・赤・ク	1/6	
184	L334	B-3	SD303009	弥生	壺	14.4	(4.7)	ナテ°/口縁部列点	暗褐/暗褐	3ミ以下長・石・ナ	1/4	
185	L303	B-1a	SD303009	弥生	蓋	4.5	(1.9)	指痕/指痕	橙褐/暗褐	4ミ以下長・石・ナ多量	3/4	ナミ径4.5
186	L303	B-1a	SD303009	弥生	甕	(7.4)	(5.6)	不明/ナス°リ.不明	褐/褐-黒褐	2ミ以下長・石・ナ・角	(1/1)	
187	L303	B-1a	SD303009	弥生	甕	(6.0)	(4.5)	ナテ°/指痕.タテハウ	灰褐/灰褐-黒	5ミ以下長・石・ナ・ク	(1/1)	接合痕
188	L303	B-1a	SD303008	弥生	壺	14.2	(6.6)	ホ°リ痕.ナテ°.波状/波状.ナテ°.凹線	淡褐-淡黄褐/淡褐-淡黄褐	3ミ以下長・石・ナ・赤・希に5ミナ	1/6	
189	L385	B-5b	SD303008	弥生	壺	19.8	(2.8)	ナテ°.ハウ.列点/波状	淡茶灰/焦げ茶-黒	4ミ以下石・長・黒・ク	1/5	
190	L385	B-5b	SD303008	弥生	甕	21.2	(7.8)	ハウ.ナテ°アケ°/ヘラ沈線.櫛平行.櫛波状	淡灰黄褐/淡灰黄褐	4.5ミ以下石・ナ・長	1/3	
191	L385	B-5b	SD303008	弥生	壺	17.0	(4.1)	ヨコナテ°.ハウ/凹線	淡褐/淡褐	4ミ以下石・長・赤・黒	1/8	黒斑
192	L385	B-5b	SD303008	弥生	器台	(12.8)	(5.3)	ナテ°/ハウ.凹線	橙褐/橙褐	4ミ以下ナ・長・石・ク・雲	(1/9)	
193	L385	B-5b	SD303008	弥生	壺	14.9	(5.4)	ハウ/ハウ	乳灰褐/乳灰褐	2.5ミ以下石・ナ黒・雲	1/3	口縁部沈線2本
194	L385	B-5b	SD303008	弥生	壺	14.6	(4.5)	ナテ°.摩滅.不明/摩滅.不明	淡黄褐/橙褐	3.5ミ以下ナ・ク・石・長	1/5	
195	L385	B-5b	SD303008	弥生	壺	11.7	(3.7)	摩滅.不明/摩滅.不明	橙褐/橙褐.黒	2ミ以下ナ・長・石・ク	1/6	口縁部朱漆.黒光沢
196	L385	B-5b	SD303008	弥生	壺	13.7	(11.0)	ナテ°/ハウ.ナテ°	淡橙灰/淡橙灰	4ミ以下ナ・長・石	1/1	
197	L385	B-5b	SD303008	弥生	高杯	19.8	(4.5)	ミカキ/摩滅.不明	橙褐/橙褐	4.5ミ以下ナ・長・石・ク・黒	1/1	
198	L385	B-5b	SD303008	弥生	高杯	25.0	(3.2)	ナテ°/摩滅.不明	淡茶褐/淡茶褐	2ミ以下石・長・ナ・ク・赤	1/12	
199	L303	B-1a	SD303008	弥生	甕	27.0	(2.6)	ナテ°/刻目.突帯	淡黄濁褐/淡黄濁褐	2ミ以下長・石・ナ・赤	1/12	粘土紐凸帯
200	L385	B-5b	SD303008	弥生	甕	13.8	(5.1)	ハウ.ナテ°/ナテ°	黒/赤黒	4ミ以下石・長・ク・ナ	1/7	
201	L385	B-5b	SD303008	弥生	壺	18.8	(6.0)	不明/不明	淡茶褐/淡茶褐	5ミ以下石・長・赤	1/3	
202	L385	B-5b	SD303008	弥生	蓋	5.6	(2.2)	摩滅.不明/摩滅.不明	淡黄褐/淡黄褐	3ミ以下長・ナ・石・赤	1/3	ナミ部
203	L385	B-5b	SD303008	弥生	壺	—	(4.0)	ナテ°/櫛簾状	淡褐/淡褐	2.5ミ以下石・長・ナ・雲	破片	
204	L385	B-5b	SD303008	弥生	壺	—	(2.5)	円形浮/櫛列点	淡黄灰/淡黄灰	2ミ以下ナ・長・石・黒	破片	口縁部.破片
205	L385	B-5b	SD303008	弥生	壺	(7.4)	(4.8)	ハウ/ヘラナス°リ.ナテ°	淡黄灰/濁茶灰	2ミ以下ナ・石・ク・長・黒	(1/4)	
206	L385	B-5b	SD303008	弥生	壺	(3.3)	(2.3)	ハウナテ°/タナキ	濁茶灰/濁茶灰	5ミ以下茶・長・石・黒	(1/1)	
207	L385	B-5b	SD303008	弥生	壺	(5.4)	(5.75)	摩滅.不明/摩滅.不明	淡白桃褐/淡白桃褐	3ミ以下ナ・ク・長	(1/3)	

出土土器観察表

208	L385	B-5b	SD303007・SD385623	弥生	器台	(17.4)	(13.0)	ナテ/凹線	淡灰茶褐/橙茶褐	2.5ミリ以下 長・石・チャ・ケツ・赤	(1/3)	
209	L334	B-3	SD303007	弥生	甕?	15.8	(2.1)	ナテ/列点.ヨコナテ	淡濁茶褐/淡濁茶褐	2.5ミリ以下 長・石・チャ	1/8	
210	L334	B-3	SD303007	弥生	甕	14.0	(4.4)	ヨコナテ/ヨコナテ.ナテハテ	黄褐/黄褐	2ミリ以下長 石・角・チャ	1/10	
211	L303	B-1a	B1a地区包含層	弥生	甕	16.9	(5.4)	指痕後ナテ.ヨコナテ/ヨコナテ.指痕後ナテ	淡赤灰褐/淡灰褐	1ミリ以下長 雲	1/6	
212	L303	B-1a	SD303008	弥生	壺	10.9	(6.2)	不明/口縁部に2本沈線.不明	黄褐/暗褐	2ミリ以下長 石	1/5	
213	L303	B-1a	B1a地区包含層	弥生	壺	16.8	(7.2)	ナテ.刻目/波状.凹線	淡黄褐/淡黄褐	2ミリ以下長 チャ・赤	1/4	
214	L303	B-1a	B1a地区包含層	弥生	壺	—	(9.1)	ナテ.指痕/ナテ.波状.櫛平行線(4本と3本)	灰白褐/淡肌	1ミリ以下長 石・チャ・赤・2ミリ	破片	
215	L303	B-1a	SD303015	弥生	甕	23.6	(4.3)	ナテ/ナテ	乳白/乳白	3ミリ以下長 石・チャ	1/8	155と同一個体?
216	L303	B-1a	B1a地区包含層	弥生	甕	25.0	(6.4)	ナテ.ヨコナテ/ヨコナテ.ナテ	淡橙灰褐/淡橙灰褐	3ミリ以下長 チャ	1/4	
217	L385	B-5b	SD303008	弥生	壺	—	(10.0)	ハテ目/沈線.波状.ハテ	淡茶褐色/淡濁褐色	3ミリ以下長 石・チャ・赤・ク	破片	
218	L336	A-1	SK336169	弥生	甕	17.2	(5.7)	ヨコナテ.ハテ後ナテ/刻目.ヨコナテ	淡濁褐/淡濁褐	3ミリ以下長 石・チャ・ケツ	1/2	外面ス
219	L336	A-1	SK336169	弥生	甕?	(6.5)	(3.0)	不明/ナテ.指痕	淡褐/橙褐	2.5ミリ以下 長・赤	(1/2)	外面ス
220	L336	A-1	SK336016	弥生	甕	19.8	(9.5)	不明/不明	淡肌褐/橙褐	4ミリ以下 石・長・チャ・赤	1/4	
221	L336	A-1	SK336016	弥生	甕	33.4	(15.4)	ナテ/指痕.ナテ	白肌/淡橙褐-淡肌褐	4.5ミリ以下 長・石・チャ・ク	1/4	
222	L336	A-1	SK336011	弥生	壺	20.0	(4.0)	不明/不明	肌/肌	3ミリ以下長 石・チャ・ク	1/6	
223	L336	A-1	ST336014	弥生	甕	17.7	32.8	ヨコナテ.ハテ/ナテ	黒灰褐/黄灰褐	4ミリ以下長 赤・チャ・石・角	1/4 (1/1)	内面底部指痕後ナテ
224	L336	A-1	SK336011	弥生	甕?	(3.7)	(2.4)	指痕後ナテ/不明	黒/淡茶褐	3ミリ以下長 石・チャ・赤	(1/1)	
225	L329	A-2	ST329011	弥生	壺	(5.0)	(2.4)	不明/不明	暗灰/淡茶褐-茶褐	3ミリ以下 長・石・チャ	(1/1)	
226	L329	A-2	ST329011	弥生	壺?	(4.1)	(3.0)	ナテ/ナテ	暗黒/赤褐-明橙赤褐	3ミリ以下白 2ミリ以下チャ	9/10	粘土巻き上げ痕
227	L329	A-2	SD329008	弥生	甕?	(5.4)	(2.6)	指痕/指痕	淡茶灰/明白茶灰	4ミリ以下長 チャ・雲	(1/1)	
228	L336	A-1	A1地区包含層	弥生	甕?	(4.8)	(2.9)	指痕/不明	濃褐/桃褐	8ミリ以下長 石・チャ	(1/2)	
229	L329	A-2	SD329009(SD361168?)	縄文	壺	12.0	(8.1)	不明/突帯に刻目を施す	濁灰褐/橙褐	2ミリ以下白 赤	破片	
230	L329	A-2	SD329009(SD361168?)	弥生	甕	12.5	(4.1)	強いヨコナテ/強いヨコナテ	淡褐灰/淡褐灰	5ミリ以下長 雲・褐・チャ	(1/2)	近江系
231	L336	A-2	SD329009(SD361168?)	弥生	甕	10.6	(5.7)	強いヨコナテ/強いヨコナテ	褐/褐	4.5ミリ以下 長・石・チャ・褐	(1/6)	外面沈線.近江系
232	L329	A-2	SD329009(SD361168?)	弥生	高杯	(12.5)	(9.7)	ホリ痕/ヨコナテ.不明	橙褐/橙褐	3ミリ以下長 石・チャ・ク	(1/1)	
233	L336	A-1	SD329009(SD361168?)	弥生	蓋	12.2	5.85	ヘラケスリ/ヘラケスリ	乳灰/乳灰	3ミリ以下 石・長・ク	2/5	ツマミ凹部.黒
234	L329	A-2	SB329005.P20(ST329011?)	弥生	甕	11.8	3.5	不明/不明	淡褐灰/暗灰	5ミリ以下長 石	(1/6)	
235	L329	A-2	SD329009(SD361168?)	弥生	甕	14.8	(6.0)	不明/不明	暗黒褐/暗黒褐	1ミリ以下長 チャ	1/8	



236	L336	A-1	A1地区包含層	弥生	甕	17.6	(7.5)	不明/刻目.不明	淡褐/黄褐	3ミ以下長・石・珩・赤	1/4	
237	L336	A-1	SD329009 (SD361168?)	弥生	水差	8.4 (4.95)	19.7	指痕.ハ/凹線.ミカキ	淡橙褐/淡橙褐	1ミ以下長・石・ク	7/10	
238	L361	A-4	SD329009 (SD361168?)	弥生	壺	(7.0)	(4.2)	ナテ/ナテ.ミカキ	淡灰赤褐/淡灰褐	3.5ミ以下珩・長・石	(1/2)	
239	L361	A-4	SD329009 (SD361168?)	弥生	甕?	(5.6)	(4.3)	ナテ/ナテ.指痕	黒褐-暗灰/黒褐-暗灰褐	2.5ミ以下石・長・雲・黒	(1/2)	
240	L361	A-4	ST361159 (4区)	弥生	壺	35.0	(17.1)	ハ/口縁端部に刻目・波状	淡橙褐-乳白/淡橙褐-乳白	3ミ以下長・石・珩・ク多量	1/10	
241	L361	A-4	ST361160	弥生	甕	17.0	(7.0)	ヨコナテ/ヨコナテ.ミカキ.タテ	黄褐-暗黄褐/黄灰褐	2ミ以下珩・石・長	1/4	口縁部下部ミカキ痕
242	L361	A-4	ST361160	弥生	不明	(12.2)	(4.7)	指痕/指痕.ナテ	赤褐/赤褐	2ミ以下石・長・珩	(5/12)	上部ホリ痕
243	L361	A-4	ST361159 (4区)	弥生	甕?	(6.0)	(6.6)	ナテ.指痕/ハ.ナテ	淡黄灰/淡肌褐	4ミ以下長・石・珩・赤・ケ	1/1	
244	L361	A-4	ST361159 (4区)	弥生	壺?	(5.0)	(3.7)	ハ/ハ	黒/淡黄褐	3ミ以下長・石・珩・赤	(1/1)	
245	L361	A-4	ST361160	弥生	壺?	(4.4)	(2.2)	ハ.タテ/ナテ後タテ.指痕後ナテ	淡黒灰/黒灰	4ミ以下長・石・珩	5/6	
246	L361	A-4	ST361160	弥生	壺?	(7.0)	(3.1)	指痕.ナテ/指痕.ナテ.ヘミカキ	灰褐/淡灰褐	4ミ以下長・石・雲・ク	(2/3)	
247	L361	A-4	ST361160	弥生	壺?	(4.5)	(1.95)	指痕.ナテ/指痕.ハ.ナテ	暗黒灰/灰褐	3ミ以下長・石・雲	(1/2)	
248	L361	A-4	ST363112 (SD361159.3区)	弥生	壺	7.2	13.7	ナテ.ナテ/ナテハケ.櫛平行線	淡茶褐/淡茶褐	極粗粒砂少量	7/8	口部穿孔
249	L363	A-6b	ST363113 (ST361123)	弥生	壺	18.9	(9.7)	ハ後ヨコナテ.刻目/ハ後櫛平行線.刻目	淡黄灰/暗灰褐	極細粒砂少量	3/4	
250	L363	A-6b	SD363111	弥生	壺	(4.4)	(11.8)	不明/不明.ハ	淡褐/褐	3ミ以下長・石・珩・赤	(1/2)	
251	L361	A-4	ST363113 (ST361123)	弥生	壺	(8.4)	(38.3)	ハ/ハ.ハ後ナテ.櫛直線.ミカキ	黄褐/黄褐-黒灰褐-黒褐	3.5ミ長・雲母・3ミ赤・2ミ黒	(1/1)	底部葉脈痕
252	L363	A-6b	ST363113 (ST361123)	弥生	壺	29.2	44.4	指痕.ナテ/ヨコナテ.口縁部に刻目.櫛直線.櫛波状	淡灰褐/淡灰褐	やや粗・中粒・細粒礫多量	7/10	口縁部・体部ス
253	L361	A-4	ST363113 (ST361123)	弥生	壺	21.6	(9.6)	ハ.不明/櫛.不明	淡橙褐/淡橙褐	6ミ以下長・ク多量	3/5	口縁部いびつ
254	L361	A-4	ST363113 (ST361123)	弥生	甕	18.6	35.3	ヨコナテ/ヨコナテ.ハケ	乳白-灰白/乳白-灰白	3ミ以下長・石・珩・黒	1/5	
255	L363	A-6b	ST363113 (ST361123)	弥生	甕	(4.4)	(5.0)	ナテ/ナテハ.底部ナテ	黒/淡褐-肌褐	2.5ミ以下長・珩・赤	(1/2)	外面ス
256	L361	A-4	ST363113 (ST361123)	弥生	甕	(5.0)	(6.5)	ハ/ヘナテ	暗黒灰/灰褐	4ミ以下長・珩・石・雲	(1/1)	
257	L363	A-6b	ST363113 (ST361123)	弥生	甕	(6.4)	(5.0)	不明/不明	橙茶褐/橙茶褐	7.5ミ以下長・石・珩・赤	(1/1)	
258	L363	A-6b	ST363113 (ST361123)	弥生	甕	(6.9)	(7.7)	指痕/ハ	淡黄灰/暗灰褐	細礫多量	(1/1)	
259	L363	A-6b	ST363113 (ST361123)	弥生	甕	(7.6)	(8.0)	指痕.不明/不明	淡褐/淡褐	3.5ミ以下長・石・珩・頁岩・赤・雲	(1/4)	
260	L363	A-6b	ST363106	弥生	壺	29.4	(20.6)	ナテ.突帯/ナテ	淡肌黄白/淡肌黄白	3ミ以下長・石・頁岩・赤	1/8	
261	L363	A-6b	ST363106	弥生	水差	8.25 (4.4)	16.1	底部指痕.ナテ/口縁に刻目.凹線.櫛.ヘナテ	淡黄灰褐/淡黄灰褐	4.5ミ以下長・石・珩	7/8 (1/1)	穿孔1ヶ

出土土器観察表

262	L363	A-6b	SD363104	弥生	壺	6.0	(24.5)	北 <sup>テ</sup> /不明	淡黄灰褐-肌/淡橙褐	5ミ以下黒?	1/1	
263	L361	A-4	A4地区包含層	弥生	壺	(4.4)	(2.2)	回転 <sup>テ</sup> /回転 <sup>テ</sup> . <sup>テ</sup>	黒褐/褐・黒灰	2ミ以下長・ <sup>テ</sup> ・ <sup>ク</sup> ・ <sup>雲</sup> ・ <sup>石</sup>	(3/5)	
264	L363	A-6b	SD363104	弥生	壺	(5.2)	(6.0)	ハケ/不明	濁暗灰褐/淡黄肌白	2ミ以下長・ <sup>石</sup> ・ <sup>テ</sup> ・ <sup>赤</sup>	(1/1)	
265	L385	B-5b	ST385623	弥生	甕	17.6	(4.6)	<sup>テ</sup> . <sup>ヘラ</sup> ス <sup>リ</sup> . <sup>ハ</sup> / <sup>テ</sup> . <sup>刻</sup> 目. <sup>突</sup> 帯C字刻目	淡黄褐/淡黄褐	4ミ以下石・長・ <sup>ク</sup> ・ <sup>赤</sup>	1/6	頸部粘土紐凸帯
266	L385	B-5b	ST385619	弥生	甕	17.8	20.65	<sup>テ</sup> . <sup>ヨコ</sup> <sup>テ</sup> / <sup>テ</sup> . <sup>タテ</sup> . <sup>ヨコ</sup> <sup>ハ</sup>	濃乳灰/濃乳灰	5ミ以下長・ <sup>石</sup> ・ <sup>テ</sup> ・ <sup>角</sup>	1/1	
267	L385	B-5b	ST385619	弥生	壺	13.6	(24.5)	摩滅不明/ヨコ <sup>キ</sup> 後 <sup>ハ</sup> ケ	灰白-肌茶白/淡肌茶白	2ミ以下石・長・ <sup>テ</sup> ・ <sup>赤</sup>	3/4	
268	L385	B-5b	ST385619	弥生	甕	16.9 (6.6)	25.5	指痕. <sup>ヨコ</sup> <sup>テ</sup> / <sup>ヨコ</sup> <sup>テ</sup> . <sup>タテ</sup> <sup>ミ</sup> <sup>カ</sup> <sup>キ</sup>	乳褐/乳褐	4.54ミ以下長・ <sup>石</sup> ・ <sup>テ</sup> ・ <sup>ク</sup>	1/3 (1/1)	
269	L385	B-5b	ST385619	弥生	壺	(5.6)	(4.1)	指痕/摩滅.不明	乳灰/乳白	2ミ以下 <sup>テ</sup> ・長・ <sup>ク</sup> ・ <sup>石</sup>	(1/1)	
270	L385	B-5b	ST385614	弥生	甕	(5.1)	(2.7)	摩滅.不明/摩滅.不明	淡黄灰/濁橙褐	3ミ以下長・ <sup>テ</sup> ・ <sup>石</sup> ・ <sup>ク</sup>	(1/3)	
271	L385	B-5b	ST385614	弥生	水差	10.5	(7.1)	摩滅.不明/摩滅.激. <sup>ハ</sup> ケ	淡灰褐/淡灰褐	4ミ以下 <sup>テ</sup> ・長・ <sup>ク</sup> ・ <sup>石</sup> ・ <sup>赤</sup>	1/1	ヌ
272	L385	B-5b	ST385614	弥生	水差	13.2	(45.0)	<sup>テ</sup> . <sup>指</sup> 痕/ <sup>テ</sup> . <sup>タテ</sup> <sup>ハ</sup> ケ	淡橙褐/淡橙褐	3ミ以下長・ <sup>テ</sup> ・ <sup>ク</sup> ・ <sup>石</sup>	1/3	摂津型
273	L385	B-8	ST385615	弥生	壺	9.8	17.5	<sup>テ</sup> . <sup>ハ</sup> . <sup>ヨコ</sup> <sup>テ</sup> / <sup>ヨコ</sup> <sup>テ</sup> . <sup>ハ</sup> ケ	淡灰褐/淡茶褐	1-2ミ長・ <sup>石</sup> ・ <sup>赤</sup> ・ <sup>黒</sup> ・ <sup>褐色</sup> 粒子	1/4	外面黒斑
274	L385	B-8	ST385615	弥生	甕	12.8	(5.5)	不明/口縁に刻目.不明	淡肌-淡白/淡肌	2ミ以下長・ <sup>石</sup> ・ <sup>テ</sup> ・ <sup>赤</sup>	1/5	
275	L385	B-8	ST385615	弥生	甕	17.2	(4.0)	ヨコ <sup>ハ</sup> ケ/不明	淡肌褐/淡肌褐	1.5ミ以下長・ <sup>石</sup> ・ <sup>赤</sup>	1/6	
276	L385	B-8	ST385615	弥生	甕	(6.0)	(8.0)	指痕. <sup>テ</sup> / <sup>タテ</sup> <sup>ハ</sup> ケ	淡黄褐-灰白/淡褐	3ミ以下長・ <sup>石</sup> ・ <sup>テ</sup> ・ <sup>赤</sup> ・ <sup>頁</sup> 岩	1/3	
277	L385	B-8	SD385336	弥生	壺	14.2	(13.0)	<sup>タテ</sup> <sup>ハ</sup> ケ.指痕/ <sup>タテ</sup> <sup>ハ</sup> ケ	淡桃-灰白/淡肌褐	3ミ以下長・ <sup>石</sup> ・ <sup>テ</sup> ・ <sup>赤</sup>	1/5	
278	L385	B-8	SD385336	弥生	甕	17.8	(7.15)	不明/不明	淡茶灰/淡茶灰	3ミ以下長・ <sup>石</sup> ・ <sup>テ</sup> ・ <sup>ク</sup>	1/36	282と同一個体?
279	L385	B-8	SD385336	弥生	甕	18.8 (6.0)	28.0	指痕.波状.櫛直線/櫛直線. <sup>タ</sup> <sup>テ</sup> <sup>ハ</sup> ケ	灰褐/灰褐	2ミ以下長・ <sup>石</sup> ・ <sup>テ</sup> ・ <sup>褐</sup> <sup>ク</sup>	1/2 (7/8)	ヌ
280	L385	B-5b	ST385616	弥生	高杯	22.8	15.8	<sup>ミ</sup> <sup>カ</sup> <sup>キ</sup> ? <sup>ヨコ</sup> <sup>テ</sup> . <sup>ハ</sup> ケ/ <sup>ヨコ</sup> <sup>テ</sup> . <sup>ミ</sup> <sup>カ</sup> <sup>キ</sup> ?	乳灰-淡暗褐/淡橙褐-淡暗褐	5ミ以下長・ <sup>石</sup> ・ <sup>テ</sup> ・ <sup>多</sup> 量	3/4	黒斑
281	L385	B-8	ST385616	弥生	壺	(6.8)	(4.0)	<sup>ハ</sup> ケ/ <sup>テ</sup>	灰/淡肌褐	2ミ以下長・ <sup>石</sup> ・ <sup>赤</sup> ・ <sup>テ</sup>	(3/4)	
282	L385	B-8	SD385336	弥生	甕	(5.4)	(13.45)	不明/不明	淡茶灰/濁淡橙褐	3ミ以下長・ <sup>石</sup> ・ <sup>テ</sup> ・ <sup>ク</sup>	(1/1)	278と同一個体?
283	L385	B-8	ST385616	弥生	甕?	(7.6)	(4.2)	不明/不明	灰白/淡褐	1ミ以下長・ <sup>石</sup> ・ <sup>テ</sup> ・ <sup>赤</sup>	(1/2)	
284	L385	B-8	ST385616	弥生	甕	(6.0)	(7.6)	<sup>テ</sup> / <sup>不明</sup> . <sup>テ</sup> 上げ	淡灰褐/淡灰褐	4ミ以下長・ <sup>石</sup> ・ <sup>テ</sup> ・ <sup>赤</sup>	(1/1)	
285	L385	B-8	SD385336	弥生	甕	16.7	26.4	不明/不明	灰褐/灰褐	5・25ミ以下長・ <sup>石</sup> ・ <sup>テ</sup>	1/16 (1/1)	
286	L399	B-6	ST399602	弥生	高杯	17.8	11.35	回転 <sup>テ</sup> /回転 <sup>テ</sup> . <sup>ヨコ</sup> <sup>テ</sup>	明淡褐/明淡褐	2ミ以下長・ <sup>石</sup>	1/1	
287	L399	B-6	ST399602	弥生	壺	11.6	20.3	剥離.不明/口縁竹管刺突. <sup>ハ</sup> ケ. <sup>テ</sup>	乳褐/乳褐	1ミ以下長・ <sup>石</sup> ・ <sup>テ</sup>	1/1	内面接合痕.後期
288	L333	B-4	SK333006	弥生	壺	17.0	(31.4)	<sup>ハ</sup> ケ/ <sup>ハ</sup> ケ	淡赤褐/淡赤褐	4ミ以下長・ <sup>石</sup> ・ <sup>テ</sup>	1/2	
289	L333	B-4	SK333006	弥生	鉢	19.2	7.9	<sup>ハ</sup> ケ. <sup>ヨコ</sup> <sup>テ</sup> / <sup>ヨコ</sup> <sup>テ</sup> . <sup>ハ</sup> ケ. <sup>ミ</sup> <sup>カ</sup> <sup>キ</sup> . <sup>テ</sup>	淡灰褐/暗淡灰褐-暗灰	3ミ以下長・ <sup>石</sup> ・ <sup>ク</sup> ・ <sup>角</sup> ・ <sup>黒</sup> 灰	1/2	

290	L399	B-6	ST399602	弥生	壺	(5.5)	(14.2)	ナテ°/指痕.タテハケ.タテミカキ	淡橙褐/淡橙褐	1ミ以下長・石・チャ・赤	1/8	
291	L330	A-3	SK330018	弥生	壺	7.2	20.9	ヨコナテ° 指痕/ヨコナテ° .タテナテ° .ヘラによる波状	黄褐-黒灰褐/淡黄褐.黒	3ミ以下長・石・チャ・赤	1/1	底部ス
292	L330	A-3	SK330018	弥生	壺	23.4	(24.0)	ナテ° 指痕/強いヨコナテ° .ハケ.突帯	乳白/乳白	4ミ以下長・石・チャ	1/4	
293	L330	A-3	SK330018	弥生	鉢	19.5 (6.1)	12.3- 11.2	ハケ.ナテ°/ヨコナテ° .ハケ	淡乳白/淡黄乳白	6-0.5ミ位砂粒	7/8	全体にいびつ
294	L384	A-5	ST384114	弥生	壺	17.0	(23.9)	ヨコナテ° 後タテにナテ° 上げ.ナテ°/ハケ後ナテ° 消	淡明茶褐/淡茶褐	3ミ以下長・石・チャ・赤	1/8	
295	L384	A-5	ST384114	弥生	甕	19.0	(4.0)	ナテ° .ヨコハケ.ヨコナテ° ./ヨコナテ° .刻目.ナメハケ	淡肌/淡肌	2ミ以下長・石・チャ	1/3	口縁部刻目
296	L330	A-3	SK330018	弥生	水差	8.6 (9.0)	23.0	ハケ.ヨコナテ°/刺し突列点.横直線.ハケ.ミカキ	淡白桃褐/淡白桃褐	1ミ以下長・石・褐・チャ	4/5	
297	L384	A-5	ST384114	弥生	壺	22.9	(28.0)	ナメ.タテハケ.ヨコハケ.指痕.ナテ°/刻目.タテハケ.横直線	淡茶褐/淡茶褐	0.5-4ミの小石多量	2/5	
298	L384	A-5	ST384115	弥生	壺	32.8	(4.0)	不明/不明	淡肌褐/淡肌褐	5ミ以下長・石・チャ・赤	1/10	
299	L384	A-5	ST384115	弥生	壺	9.4	(4.4)	ヨコナテ°/不明	淡黄褐/淡黄褐	2ミ以下長・石・チャ・赤	1/2	
300	L384	A-5	ST384114	弥生	甕	(6.4)	(9.5)	ナテ°/ミカキ.ヘラナテ°	淡黄褐/淡茶褐	2.5ミ以下長・石・チャ・赤・7ミ大ク	(1/1)	外面体部ス
301	L336	A-1	SD329009	土師器	壺	15.0	20.3	ヘラナテ°/ハケ.ナテ°	淡白桃褐/淡白桃褐	5ミ以下長・石・ク角	1/1	二重口縁壺
302	L336	A-1	SD329009	土師器	埴	頸径 7.0	(7.0)	指痕後ナテ°/不明	橙褐-茶褐/橙褐-茶褐	3.5ミ以下石・長・チャ・赤	[1/5]	
303	L384	A-5	ST384115	土師器	壺	頸径 10.4	(8.0)	ナテ° .指痕/ハケ.ヨコナテ°	桃茶褐/桃茶褐	3ミ以下長・石・チャ・赤	2/3	外面ス
304	L329	A-2	A地区包含層	土師器	甕	16.4	(3.0)	ナテ° .ヨコナテ°/ヨコナテ°	淡褐/淡褐	3ミ以下長・石・赤	1/8	布留式
305	L330	A-3	A地区包含層	土師器	甕	13.0	(10.4)	摩滅激しい/ハケ.摩滅激しい	淡黄灰褐/淡黄褐-黒褐	2ミ位以下黒・長・赤	1/1	
306	L329	A-2	A地区包含層	土師器	甕	18.5	(6.6)	ヨコナテ°/ヨコナテ° .ナテ° .指痕.ナテ° 後ハケ	赤褐/淡灰赤褐	4ミ以下石・長・チャ・雲	1/8	
307	L330	A-3	SD330010	須恵器	高杯	—	(16.7)	ホ°リ痕/ナテ°	淡灰-淡橙灰/淡灰-淡橙灰	4.5ミ以下長・チャ・赤・黒		破片
308	L329	A-2	SD329010	土師器	高杯	—	(6.6)	ホ°リ痕.ナテ°/ナテ°	淡赤褐/淡赤褐	5ミ以下白・細かな黒・雲	4/5	
309	L329	A-2	SD329009	土師器	高杯	—	(6.0)	ホ°リ痕/ナテ° 後ハケ?	赤褐/淡赤褐	2ミ以下長・ク	1/1	
310	L329	A-2	SD329010	土師器	高杯	—	(6.3)	ナテ°/ナテ°	赤褐/灰褐-赤褐	3ミ以下白・1ミ以下赤・雲・黒	1/1	
311	L329	A-2	SD329010	土師器	高杯	—	(6.1)	ホ°リ痕/不明	赤褐/赤褐	4ミ以下長・石・チャ	4/5	
312	L329	A-2	SD329010	土師器	高杯	(10.0)	(3.2)	指痕後ハケ.ナテ°/ナテ°	淡赤褐/淡赤灰褐	4ミ以下白・赤	1/5	
313	L330	A-3	SR330016	須恵器	高杯	—	(11.0)	ナテ°/回転ナテ°	灰/灰	1ミ以下長		破片
314	L330	A-3	SR330016	須恵器	高杯	—	(10.7)	ナテ°/リ.工具後回転ナテ°/工具後回転ナテ°	灰白黄/灰白黄-暗灰白黄	1ミ以下白・黒	1/1	

出土土器観察表

315	L361	A-4	SD329008	須恵器	杯身	12.6	(3.1)	ナテ/ナテ・ケスリ	灰/灰	1.5ミリ以下長	1/8	
316	L361	A-4	SD329008	須恵器	杯身	14.0	3.3	回転ナテ/回転ナテ・ケスリ	灰/暗灰	3ミリ以下長・黒	1/7	口縁部貼付
317	L363	A-6b	SD363116	須恵器	杯蓋	10.2	(3.75)	回転ナテ/回転ナテ・回転ヘラケスリ	青灰/灰褐・黒	1.5ミリ以下長	1/4	
318	L363	A-6b	SD363100	須恵器	杯蓋	10.6	(2.9)	回転ナテ/回転ナテ	明灰/明灰	2.5ミリ以下長	1/6	
319	L363	A-6b	SD362201	須恵器	杯蓋	10.6	(3.4)	回転ナテ/回転ナテ・ヘラケスリ	灰/灰	1ミリ以下長・黒	1/5	
320	L363	A-6b	SD362201	須恵器	杯蓋	11.2	3.45	ヨコナテ/ケスリ後ナテ・ケスリ	淡青灰/淡青灰	2.5ミリ以下長・黒	1/2	
321	L363	A-6b	SD362201	須恵器	杯蓋	11.8	3.2	ナテ/口縁ナテ・回転ナテ・底部未調整	濁灰褐/濁暗青灰・一部黒灰	4ミリ以下黒色溶融物	7/8	他の土器に付着して焼成・外面自然釉
322	L330	A-3	SD330017	須恵器	杯蓋	12.3	3.3	回転ナテ/回転ナテ・回転ヘラケスリ	淡青灰/淡青灰	1.5ミリ以下石・長	1/5	
323	L363	A-6b	SD363100	須恵器	杯蓋	12.4	(3.3)	回転ナテ/回転ナテ	灰/灰	1ミリ以下長	1/8	
324	L363	A-6b	SD363116	須恵器	杯蓋	14.8	(3.2)	回転ナテ/回転ナテ・回転ヘラケスリ	淡青灰/淡青灰	1.5ミリ以下長・黒	1/6	
325	L329	A-2	SD329009	須恵器	杯蓋	15.0	(3.1)	回転ナテ/回転ナテ	淡黄灰/淡黄灰	2.5ミリ以下黒・粗粒砂	1/12	
326	L362	A-6a	A地区包含層	須恵器	杯蓋	15.9	4.2	ヨコナテ/ヨコナテ・ケスリ後ナテ	灰褐/黒灰褐	3.5ミリ以下長	1/5	
327	L329	A-2	SD329009	須恵器	杯身	9.9	3.9	回転ナテ/回転ナテ・回転ヘラケスリ	暗紫青灰/暗紫青灰	1ミリ以下極粗砂粒	1/2	全体に歪み
328	L329	A-2	A地区包含層	須恵器	杯身	10.2	(4.1)	強いヨコナテ/強いヨコナテ・ナテ	淡青灰/淡青灰	1ミリ以下石	1/12	
329	L363	A-6b	SD362201	須恵器	杯身	11.0	3.2	ヨコナテ/ヨコナテ・ケスリ?	淡青灰/淡青灰	1ミリ以下長	7/8	
330	L384	A-5	A地区包含層	須恵器	杯身	12.4	(3.3)	ナテ/ヨコナテ・ケスリ	淡紫灰/紫灰	3ミリ以下長・石	1/5	
331	L329	A-2	SD329009	須恵器	杯身	11.9	(3.0)	回転ナテ/回転ナテ	青灰/青灰	細かな長	1/12	
332	L330	A-3	SR330016	須恵器	高杯	(7.4)	(6.4)	回転ナテ/強いヨコナテ・回転ナテ	灰/灰	1ミリ以下長	1/4	
333	L330	A-3	SR330016	須恵器	高杯?	(11.9)	(1.1)	回転ナテ/回転ナテ	灰白/灰白	極細長	(1/4)	
334	L330	A-3	SR330016	須恵器	高杯	(12.0)	(1.2)	回転ナテ・/回転ナテ	灰白/灰白	極細長	(1/6)	
335	L329	A-2	A地区包含層	須恵器	壺	15.3	(5.1)	ヨコナテ/凹線・波状	紫青灰/紫青灰	2.5ミリ以下長・石	1/4	
336	L334	B-3	SD303009	土師器	甕	15.6	(9.1)	指痕・ヨコナテ/ヨコナテ・ヨコナテ	淡茶灰/淡茶灰-暗茶灰	0.5-10ミリ石・長・赤・眞岩・赤・ク	1/1	
337	L385	B-5b	SD303009	土師器	甕	18.6	(10.5)	ヨコナテ・ヘラケスリ・指痕/ヨコナテ・ハケ	黒灰-淡黄褐/淡黄褐	5ミリ以下長・石・赤・赤・ク	1/4	
338	L385	B-5b	SD303009	土師器	甕	20.4	(11.4)	摩滅・不明/ヨコナテ・ハケ	肌茶褐/肌茶褐	5ミリ以下石・長・赤・赤・ク	1/8	
339	L385	B-5b	SD303009	土師器	甕	16.8	(8.5)	摩滅・不明/摩滅・不明	淡橙-橙/橙	5ミリ以下赤・赤・長・石	1/3	外面黒斑
340	L385	B-5b	SD303009	土師器	甕	16.0	(10.2)	ヨコナテ・指痕/ヨコナテ・ハケ	淡灰肌褐/淡灰肌褐	4ミリ以下石・長・赤・赤	1/4	
341	L385	B-5b	SD303009	土師器	甕	11.6	(9.8)	ハケ・ナテ/ハケ	乳灰/肌	1.5ミリ以下長・石・ク・赤・白・灰・褐・赤・黒	1/4	胴部外面黒斑
342	L385	B-5b	SD303009	土師器	埴	—	(7.6)	ヘラケスリ・ナテ/ハケ・ミカキ	淡明茶褐/淡明茶褐	7ミリ以下長・石・褐・ク・赤・白・灰・黒・透	7/8	

343	L334	B-3	SD303009	土師器	甕	15.2	(4.3)	ナテ <sup>+</sup> /不明	淡茶灰/淡茶灰	3.5ミ以下 チャ・長・雲	1/8	
344	L334	B-3	SD303009	土師器	甕	15.8	(3.7)	不明/ナテ <sup>+</sup> .ハケ	赤茶褐/淡赤茶	3ミ以下チャ・石・長・頁・雲・2ミ以下雲	1/6	
345	L385	B-5b	SD303009	土師器	甕	13.0	(5.6)	ナテ <sup>+</sup> .ナテ <sup>+</sup> 後指痕/ナテ <sup>+</sup> .ハケ	淡褐/淡褐	5ミ以下石・長・雲	2/3	
346	L385	B-5b	SD303009	土師器	甕	14.4	(4.0)	摩滅.不明/摩滅.不明	淡肌/淡肌	4ミ以下石・長・赤・ク	1/5	
347	L385	B-5b	SD303009	土師器	甕	16.8	(5.4)	ヨコナテ <sup>+</sup> /ヨコナテ <sup>+</sup> .ハケ	淡茶褐/淡茶褐	3ミ以下石・長・チャ	(1/8)	
348	L334	B-3	SD303009	土師器	壺	15.0	(4.9)	不明/ヨコナテ <sup>+</sup>	淡茶灰/淡茶灰	3ミ以下チャ・ク・長	1/6	
349	L385	B-5b	SD303009	土師器	椀	10.4	4.4	ハケ/ハケ(端部ナテ <sup>+</sup> )	明橙褐/明茶褐-明橙褐	3ミ以下角・赤・黒・白・透・灰・褐	1/1	外面黒斑
350	L385	B-5b	SD303009	土師器	椀	11.2	5.3	摩滅.不明/摩滅.不明	橙茶/橙茶	4ミ以下石・長・チャ・ク・赤	1/1	
351	L385	B-5b	SD303009	土師器	高杯	11.9	(5.5)	ハケ.ナテ <sup>+</sup> /ハケ(下半部ナテ <sup>+</sup> )	明橙茶褐/明橙茶褐	3ミ以下長・石・褐・白・シャ・黒・透	1/2	杯部外面黒斑
352	L385	B-5b	SD303009	土師器	ミチュウ壺	6.8	(2.6)	ナテ <sup>+</sup> ?/摩滅	淡明茶褐/明橙茶褐	3ミ以下長・チャ・赤	1/1	
353	L334	B-3	SD303009	土師器	ミチュウ土器	7.0	4.1	ナテ <sup>+</sup> /ヨコナテ <sup>+</sup>	赤茶灰/赤茶灰	3ミ以下長・チャ・ク	1/1	
354	L385	B-5b	SD303009	土師器	鉢?	12.3	(7.0)	ナテ <sup>+</sup> (上半ハケ)/ハケ	明赤茶褐-淡白褐/明赤茶褐-淡白褐	3ミ以下長・石・ク・雲・赤・褐・白・透・灰	1/1	焼成後底部穿孔
355	L385	B-5b	SD303009	土師器	高杯	12.7	(4.3)	ハケ/ハケ	明橙茶褐/明橙茶褐	3ミ以下長・石・チャ・角・シャ・赤・白・褐・透	1/8	
356	L385	B-5b	SD303009	土師器	高杯	21.7	(9.6)	ナテ <sup>+</sup> /ハラナテ <sup>+</sup> .ハラミカ <sup>+</sup> キ.ハラケス <sup>+</sup> リ	淡赤茶褐/淡赤茶褐	3ミ以下長・石・褐・シャ・赤・白・灰・透	(1/2)	外面黒斑
357	L334	B-3	SD303009	土師器	高杯	30.8	(4.8)	指痕.回転ナテ <sup>+</sup> /回転ナテ <sup>+</sup>	濃灰/淡灰	2.5ミ以下長・黒	1/6	口縁歪み
358	L385	B-5b	SD303009	土師器	高杯	25.4	(7.9)	ナテ <sup>+</sup> /ヨコハケ.ミカ <sup>+</sup> キ?	橙茶褐/淡褐	4ミ以下ク・赤・長・石・チャ・クツ	1/6	
359	L385	B-5b	SD303009	土師器	高杯	13.2	(4.7)	摩滅.不明/摩滅.不明	橙桃/橙茶-淡黄褐	1ミ以下赤・雲・長・石	1/3	
360	L385	B-5b	SD303009	土師器	高杯	16.4	(6.0)	摩滅.不明/摩滅.不明	淡黄褐/淡黄褐	5ミ以下長・石・雲・赤	1/3	
361	L334	B-3	SD303009	土師器	高杯	14.6	(4.7)	ナテ <sup>+</sup> /不明	淡茶灰/淡橙茶灰	2ミ以下長・チャ・赤少量	1/3	
362	L385	B-5b	SD303009	土師器	高杯	15.45	(5.1)	指痕.ヨコナテ <sup>+</sup> /ヨコナテ <sup>+</sup> .ナテ <sup>+</sup>	淡褐/淡褐	2ミ以下長・石・赤・ク	7/8	
363	L334	B-3	SD303009	土師器	高杯	—	(4.2)	不明/不明	橙褐-淡橙褐/橙褐-淡橙褐	3.5ミ以下石・長・チャ・ク	2/3	歪み
364	L385	B-5b	SD303009	土師器	高杯	—	(1.9)	摩滅.不明/板ナテ <sup>+</sup>	茶桃褐/茶桃褐	3ミ以下石・長・赤・クツ・チャ	[1/1]	
365	L385	B-5b	SD303009	土師器	高杯	—	(5.8)	ハケ.強いナテ <sup>+</sup> /ハケ	淡濁暗褐/淡濁暗褐	1.5ミ以下長・石・角・白・シャ・赤・褐・黒・透	(1/1)	脚部外面黒斑
366	L334	B-3	SD303009	土師器	高杯	(8.9)	(3.0)	ハケ.ヨコナテ <sup>+</sup> /ヨコナテ <sup>+</sup> .不明	橙褐/橙褐	2ミ以下長・チャ・ク・雲	(1/1)	

## 出土土器観察表

367	L385	B-5b	SD303009	土師器	高杯	—	(3.4)	ハケ/ハケ	明橙茶褐/明橙茶褐	4ミ以下長・石・ク・チャ・白・灰・赤・黒・透	(1/1)	外面黒斑?
368	L385	B-5b	SD303009	土師器	高杯	(8.8)	(5.5)	ケスリ. 指痕/ナテ	橙褐/橙褐	4ミ以下石・長・赤・チャ	(3/4)	
369	L385	B-5b	SD303009	土師器	高杯	(9.6)	(6.9)	摩滅. 不明/摩滅. 不明	淡黄肌-白肌/淡茶肌	2ミ以下長・赤・石	(3/4)	
370	L385	B-5b	SD303009	土師器	高杯	(9.8)	(6.0)	沫リ痕. 不明/摩滅. 不明	橙茶/橙茶	5ミ以下石・長・チャ・赤	2/3	
371	L385	B-5b	SD303009	土師器	高杯	(10.0)	(5.5)	指痕. ナテ/摩滅. 不明	淡肌褐/淡肌褐	4.5ミ以下石・長・チャ	(1/1)	
372	L385	B-5b	SD303009	土師器	高杯	(11.0)	(7.1)	ヘラケスリ/ナテ	橙茶/淡桃-淡肌茶褐	1ミ以下赤・チャ・長・石	(4/5)	
373	L385	B-5b	SD303009	土師器	高杯	—	(5.6)	ハケ/ハケ. ミカキ	淡橙/淡赤	0.1-2ミ白・チャ・透	(7/8)	脚端部黒斑
374	L334	B-3	SD303009	土師器	高杯	(9.3)	(6.0)	沫リ痕/不明	赤茶灰/赤茶褐	3ミ以下石・チャ・長・雲	(1/1)	底部内面ヘ痕
375	L385	B-5b	SD303009	土師器	高杯	(10.8)	(6.4)	ハケ/ハケ(端部ナテ)	淡茶褐/淡茶褐	3ミ以下長・石・ク・チャ・白・赤・灰・褐・透	(4/8)	外面黒斑
376	L385	B-5b	SD303009	土師器	高杯	(9.3)	(7.4)	ハケ/ハケ. ミカキ	明橙茶褐/明橙茶褐	0.1-3ミ白・シヤ・チャ・灰・透・長・ク	(7/8)	
377	L385	B-5b	SD303009	土師器	高杯	(12.1)	(7.3)	ハケ. ナテ/ハケ. ナテ	淡橙褐/乳白	1.5ミ以下長・石・チャ・ク・シヤ・黒・白・灰・透	1/3	黒斑
378	L334	B-3	SD303009	土師器	高杯	(10.4)	(9.2)	ヘラケスリ. ハケ. ナテ/ナテ. ハケ. ヘラナテ	明淡黄褐/淡茶灰-橙褐	2ミ以下長・チャ・雲	(1/1)	
379	L334	B-3	SD303009	土師器	高杯	(9.2)	(7.8)	沫リ痕. 指痕/ヘラナテ	橙褐/橙褐	1ミ以下長・チャ・石・赤・雲	(1/2)	
380	L385	B-5b	SD303009	土師器	高杯	(10.6)	(6.5)	ヘラケスリ/ナテ	淡茶/橙茶	3ミ以下角・長・赤・石	(1/2)	
381	L385	B-5b	SD303009	土師器	高杯	(14.2)	(8.6)	ハケ. ナテ/ハケ. ナテ	淡明茶褐/明赤茶褐	3ミ以下長・石・ク・チャ	(5/8)	脚端部黒斑
382	L385	B-5b	SD303009	須恵器	高杯	(10.3)	(2.9)	回転ナテ/回転ナテ. 刺突	青小豆/小豆	0.5ミ以下長少量	(1/6)	
383	L385	B-5b	SD303009	須恵器	高杯	(11.0)	(1.9)	回転ナテ/回転ナテ	暗紫灰/暗赤茶褐	2ミ以下石・チャ	(1/4)	
384	L385	B-5b	SD303009	須恵器	高杯	14.7 (11.3)	13.8	回転ナテ/ナテ. 回転ナテ. 波状. 回転ケスリ	淡青灰/淡青灰	2ミ以下長・石・黒	3/4	陶邑NO23. 内面自然釉
385	L385	B-5b	SD303009	須恵器	杯蓋	13.5	(4.3)	回転ナテ/回転ナテ. 回転ケスリ後ナテ	淡灰/淡灰	2ミ以下黒	1/4	
386	L385	B-5b	SD303009	須恵器	甕	14.0	(5.45)	回転ナテ/回転ナテ	灰白/濁暗灰	4ミ以下石・長・チャ	1/4	
387	L385	B-5b	SD303009	須恵器	甕	—	(9.3)	ナテ. 指痕. 回転ナテ/回転ナテ. 回転ケスリ. 指痕	明灰/暗灰	5ミ以下長	5/6	口縁欠損
388	L385	B-5b	SD303009	須恵器	炉形器台	28.0	(15.4)	指痕. 回転ナテ/回転ナテ. ナテ	淡青灰-青灰/淡青灰-黒灰	1ミ以下長・黒	1/4	
389	L385	B-5b	SD303008	土師器	罎	—	(6.3)	ヘラケスリ. ナテ/ハケ	淡灰黄褐/濃灰黄褐	3ミ以下長・石・チャ・赤	1/1	
390	L385	B-5b	SD303008	土師器	小壺	9.4	(7.4)	指痕. ナテ 上げ/摩滅. 不明	淡茶褐/淡茶褐	3ミ以下石・長・チャ	1/16	
391	L385	B-5b	SD303008	土師器	甕	10.4	(5.8)	ナテ. ハケ. ヘラケスリ/ナテ. ハケ. ナテヨコケ	橙黄褐/橙黄褐	4.5ミ以下長・チャ・石・ク	1/4	

392	L385	B-5b	SD303008	土師器	甕	(19.0)	(8.6)	ヨコハケスリ/指痕ナテ <sup>ナテ</sup>	淡灰褐/淡灰褐	4ミ以下石・長・チャ	(1/9)	外面ス
393	L385	B-5b	SD303008	土師器	甕	14.8	(15.8)	ヨコナテ <sup>ナテ</sup> .ヘラクスリ/ヨコナテ <sup>ナテ</sup> .ハケ	淡濁褐-濃茶/淡褐	4ミ以下石・長・チャ・ケ	1/4	ス
394	L385	B-5b	SD303008	土師器	高杯	15.0	(8.7)	摩滅.不明/摩滅.不明	乳淡肌/肌褐	7ミ以下チャ・石・長・赤	1/2	
395	L385	B-5b	SD303008	土師器	高杯	(11.0)	(5.4)	ナテ <sup>ナテ</sup> .指痕/摩滅.不明	淡黄褐/淡黄褐	3ミ以下長・チャ・赤	1/3	
396	L303	B-1a	SD303008	土師器?	不明	(10.0)	3.6	不明/不明	淡茶灰/淡茶灰	7ミ以下長・チャ・ケ	1/2	
397	L385	B-5b	SD303008	土師器	高杯	(7.9)	(7.1)	シホリ痕/ナテ <sup>ナテ</sup> .ヘラナテ <sup>ナテ</sup>	橙褐/橙褐	2ミ以下石・長・チャ・ケ	(1/3)	2穴
398	L385	B-5b	SD303008	土師器	高杯	(12.8)	(7.7)	ヘラクスリ.指痕/摩滅.不明	橙茶褐/橙茶褐	5ミ以下石・長・チャ・赤	「1/1」 (1/4)	
399	L385	B-5b	SD303008	土師器	高杯	(11.0)	(8.2)	シホリ痕.クスリ/摩滅.不明	淡黄白/淡肌褐	4ミ以下石・長・チャ・赤	「1/1」 (1/2)	黒斑
400	L385	B-5b	SD303008	土師器	高杯	(13.0)	(7.9)	ヘラクスリ.シホリ痕/摩滅.不明	淡橙褐/淡橙褐	5ミ以下石・長・チャ・赤	1/2	
401	L385	B-5b	SD303008	須恵器	瓏	—	(10.15)	回転ナテ <sup>ナテ</sup> /回転ナテ <sup>ナテ</sup> .タキ	灰-灰白/灰白-暗灰	2ミ以下長・石・チャ・黒	3/5	
402	L303	B-1a	SD303008	須恵器	杯蓋	11.7	(4.0)	回転ナテ <sup>ナテ</sup> /回転ナテ <sup>ナテ</sup> .回転ヘラクスリ	黄茶灰/黄茶灰	4ミ以下長・チャ	1/5	生焼.408と同一個体?
403	L385	B-5b	SD303008	須恵器	杯蓋	12.8	(4.15)	回転ナテ <sup>ナテ</sup> /回転ナテ <sup>ナテ</sup> .回転ヘラクスリ	青灰/青灰	3ミ以下長・石	1/4	
404	L385	B-5b	SD303008	須恵器	杯蓋	13.5	(4.7)	回転ナテ <sup>ナテ</sup> /回転ナテ <sup>ナテ</sup> .回転ヘラクスリ	暗紫青灰/濁暗青灰	1ミ以下長	1/5	
405	L385	B-5b	SD303008	須恵器	杯蓋	13.2	(3.6)	回転ナテ <sup>ナテ</sup> /回転ナテ <sup>ナテ</sup> .回転ヘラクスリ	青灰/青灰	0.5ミ以下長	1/4	
406	L385	B-5b	SD303008	須恵器	杯身	12.9	3.9	回転ナテ <sup>ナテ</sup> /回転ナテ <sup>ナテ</sup> .回転ヘラクスリ	灰白/灰白	3ミ以下黒	1/4	
407	L303	B-1a	SD303008	須恵器	杯身	12.85	3.5	回転ナテ <sup>ナテ</sup> /回転ナテ <sup>ナテ</sup> .回転ヘラクスリ	淡青灰/淡青灰	2ミ以下長・石	1/1	ロコは左回転
408	L303	B-1a	SD303008	須恵器	高杯	(7.2)	(3.5)	指痕.ナテ <sup>ナテ</sup> /ナテ <sup>ナテ</sup>	黄茶灰/黄茶灰	3ミ以下長・チャ	3/4	脚部のみ.生焼け.402と同一個体?
409	L385	B-5b	SD303008	須恵器	高杯	(10.6)	(6.75)	ナテ <sup>ナテ</sup> .シホリ痕/回転ナテ <sup>ナテ</sup> .刺突後ナテ <sup>ナテ</sup>	青灰/青灰-小豆	0.5ミ以下長少量	(4/5)	ヘラ記号?.菱形刺突3ヶ
410	L334	B-3	SD303007	土師器	壺	21.8	(4.1)	不明/ヨコナテ <sup>ナテ</sup>	淡肌褐/淡褐	3ミ以下長・石・チャ・赤	1/10	庄内式
411	L334	B-3	SD303007	土師器	甕	20.4	(7.6)	ヘラクスリ.ヨコナテ <sup>ナテ</sup> /ヨコナテ <sup>ナテ</sup> .タテハケ後ナテ <sup>ナテ</sup>	淡黄茶褐/淡黄茶褐	3.5ミ以下長・石・チャ・赤	1/7	
412	L334	B-3	SD303007	土師器	甕	16.6	(4.7)	ナテ <sup>ナテ</sup> .ヨコナテ <sup>ナテ</sup> .ハケ/ヨコナテ <sup>ナテ</sup> .タテハケ	橙褐/橙褐	6ミ以下長・石・チャ・赤	1/10	布留式
413	L334	B-3	SD303007	土師器	甕	14.9	(3.5)	ヨコナテ <sup>ナテ</sup> /ヨコナテ <sup>ナテ</sup>	淡灰肌/淡肌	3ミ以下長・石・チャ	1/8	A形態
414	L334	B-3	SD303007	土師器	甕	14.8	(5.4)	ヨコナテ <sup>ナテ</sup> /ヨコナテ <sup>ナテ</sup>	灰褐-明茶褐/灰褐-明茶褐	2.5ミ以下長・石・チャ・赤	1/16	
415	L334	B-3	SD303007	土師器	甕	11.8	(6.9)	ヨコハケ.ヘラクスリ/ヨコナテ <sup>ナテ</sup> .ナテ <sup>ナテ</sup>	淡黄褐/淡肌褐	3ミ以下長・石・頁岩・赤	1/8	
416	L334	B-3	SD303007	土師器	甕	12.8	(5.9)	不明/不明	淡橙褐/橙褐	5ミ以下長・石・チャ・赤	1/16 「1/4」	
417	L334	B-3	SD303007	土師器	甕	11.8	(8.0)	ヘラクスリ.ヨコナテ <sup>ナテ</sup> /ヨコナテ <sup>ナテ</sup> .タテハケ後ハケ	淡黄褐/黒	4ミ以下長・石・チャ・赤	1/4	外面ス
418	L334	B-3	SD303007	土師器	甕	13.8	(5.2)	ハケ後ナテ <sup>ナテ</sup> .ヨコナテ <sup>ナテ</sup> /ヨコナテ <sup>ナテ</sup> .タテハケ	淡褐/淡褐	7.5ミ以下長・石・チャ・赤	1/6	外面ス

出土土器観察表

419	L334	B-3	SD303007	土師器	甕	15.8	(4.2)	ヘラクスリ後ナテ <sup>°</sup> .ヨコハ <sup>°</sup> /ヨコナテ <sup>°</sup> .ハ <sup>°</sup> 後ヨコナテ <sup>°</sup>	淡褐-灰褐/淡黄褐	3.5ミ以下長・石・赤・雲	1/6	外面ス
420	L334	B-3	SD303007	土師器	甕	15.8	(3.8)	ヨコナテ <sup>°</sup> /ヨコナテ <sup>°</sup>	茶褐/茶褐	4ミ以下長・石・赤・赤	1/5	
421	L334	B-3	SD303007	土師器	壺	10.4	(4.4)	ヨコナテ <sup>°</sup> /タテハ <sup>°</sup> 後ヨコナテ <sup>°</sup>	橙茶褐/橙茶褐	4ミ以下長・石・赤・赤	1/4	
422	L334	B-3	SD303007	土師器	高杯	18.2	(4.7)	ヨコナテ <sup>°</sup> /ヨコナテ <sup>°</sup> .ナテ <sup>°</sup> 後ハ <sup>°</sup>	淡黄肌/黒褐	3.5ミ以下長・赤・石・長・ク	1/8	
423	L334	B-3	SD303007	土師器	高杯	17.0	(3.4)	ハ <sup>°</sup> 後ナテ <sup>°</sup> /ヨコナテ <sup>°</sup> .ナテ <sup>°</sup>	淡褐/淡褐-桃	3ミ以下長・石・赤・赤・雲	1/12	
424	L334	B-3	SD303007	土師器	高杯	12.2	(4.0)	ハ <sup>°</sup> 後ヨコナテ <sup>°</sup> /ヨコナテ <sup>°</sup> .指痕	橙褐/橙褐	2ミ以下長・石・赤	1/4	
425	L334	B-3	SD303007	土師器	高杯	—	(6.4)	ホ <sup>°</sup> リ痕.指痕/不明	赤褐/赤褐	2ミ以下長・ク・雲	1/5	脚部3ヶ穿孔
426	L334	B-3	SD303007	土師器	高杯	(10.1)	(6.2)	ヘラクスリ.ヨコナテ <sup>°</sup> /ナテ <sup>°</sup>	淡茶褐/淡茶褐	5ミ以下長・石・赤・赤	(1/4)	
427	L334	B-3	SD303007	土師器	高杯	(8.6)	(5.5)	ホ <sup>°</sup> リ痕.ヨコハ <sup>°</sup> /ヨコナテ <sup>°</sup> .ナテ <sup>°</sup>	茶褐/茶褐	3ミ以下長・石・赤・真岩	(1/2)	
428	L334	B-3	SD303007	須恵器	杯蓋	12.6	4.1	回転ナテ <sup>°</sup> /回転ナテ <sup>°</sup> .回転ヘラクスリ	灰褐/青灰	3ミ以下長	1/4	
429	L334	B-3	SD303007	須恵器	杯蓋	12.0	(4.3)	回転ナテ <sup>°</sup> /回転ナテ <sup>°</sup> .回転ヘラクスリ	青灰/明灰	2ミ以下長・黒	1/5	
430	L334	B-3	SD303007	須恵器	杯身	10.0	3.8	指痕.回転ナテ <sup>°</sup> /回転ナテ <sup>°</sup> .回転ヘラクスリ	淡灰褐/淡灰褐	1ミ以下長・真岩	1/2	
431	L334	B-3	SD303007	須恵器	杯身	9.8	4.5	回転ナテ <sup>°</sup> /回転ナテ <sup>°</sup> .回転ヘラクスリ	濃茶灰/濃灰	1ミ以下長	1/2	底部ヘラ記号
432	L334	B-3	SD303007	須恵器	杯身	12.0	4.0	回転ナテ <sup>°</sup> /回転ナテ <sup>°</sup> .回転ヘラクスリ後ナテ <sup>°</sup>	灰/灰	1-5ミ長・赤・真岩	1/1	底部ヘラ記号
433	L385	B-5b	SD303007	須恵器	杯身	9.4	(2.4)	回転ナテ <sup>°</sup> /回転ナテ <sup>°</sup> .回転ヘラクスリ	青灰/灰	1ミ以下長	1/8	口縁貼付
434	L334	B-3	SD303007	須恵器	臚	(4.7)	(9.7)	回転ナテ <sup>°</sup> /回転ナテ <sup>°</sup> .底部ヘラクスリ	淡灰/淡灰-暗灰	0.5-2ミ石	(1/1)	底部ヘラ記号.内側漆
435	L334	B-3	SD303007	須恵器	高杯	(8.8)	(2.9)	回転ナテ <sup>°</sup> /回転ナテ <sup>°</sup>	青灰/青灰	1ミ以下長・黒	(1/5)	透穴
436	L334	B-3	SD303007	須恵器	甕	21.0	(7.7)	ナテ <sup>°</sup> .回転ナテ <sup>°</sup> /回転ナテ <sup>°</sup> .タキ	青灰/青灰	2ミ以下長	1/3	
437	L334	B-3	SD303007	須恵器	甕	25.0	(5.5)	回転ナテ <sup>°</sup> /回転ナテ <sup>°</sup>	青灰/青灰	1.5ミ以下長・黒	1/16	自然釉:渋緑
438	L334	B-3	SD303007	須恵器	甕	21.8	(6.5)	回転ナテ <sup>°</sup> /回転ナテ <sup>°</sup> 後波状	青灰/青灰	1.5ミ以下長	1/2 「1/4」	
439	L385	B-5b	SD303007	須恵器	杯身	11.9	3.5	回転ナテ <sup>°</sup> /回転ナテ <sup>°</sup> .回転ヘラクスリ	青灰/濁青灰	1.5ミ以下長・石・赤	1/9	口縁貼付
440	L385	B-5b	SD303007	須恵器	杯身	11.4	3.8	回転ナテ <sup>°</sup> /回転ナテ <sup>°</sup> .回転ヘラクスリ	青灰/青灰	2ミ以下長	1/2	
441	L385	B-5b	SD303007	須恵器	杯身	9.8	3.2	回転ナテ <sup>°</sup> /回転ナテ <sup>°</sup> .ヘラ切り未調整?	青灰/青灰	4ミ以下長	1/2	
442	L385	B-5b	SD303007	須恵器	杯身	11.1	3.2	回転ナテ <sup>°</sup> /回転ナテ <sup>°</sup> .回転ヘラクスリ	青灰/暗灰	1ミ以下長	1/4	
443	L385	B-5b	SD303007	須恵器	杯身	11.5	3.2	ハ <sup>°</sup> 後回転ナテ <sup>°</sup> /回転ナテ <sup>°</sup> .ハ <sup>°</sup> 後回転ナテ <sup>°</sup> .回転ヘラクスリ	淡青灰-淡紫灰褐/淡紫灰	1ミ以下長・黒	3/8	外面自然釉
444	L385	B-5b	SD303007	須恵器	杯身	14.8	3.4	回転ナテ <sup>°</sup> /回転ナテ <sup>°</sup> .回転ヘラクスリ	青灰/濁青灰	1ミ以下長	1/4	
445	L385	B-5b	SD303007	須恵器	杯蓋	12.6	3.7	回転ナテ <sup>°</sup> /回転ナテ <sup>°</sup>	灰/灰	1ミ以下長	1/5	
446	L385	B-5b	SD303007	須恵器	臚	—	(7.5)	回転ナテ <sup>°</sup> /回転ナテ <sup>°</sup> .回転ヘラクスリ	青灰/青灰	2ミ以下長・黒	「1/1」	



447	L399	B-6	SD385606	須恵器	杯蓋	13.4	(4.0)	回転ナテ <sup>°</sup> . 回転カス <sup>リ</sup> /回転ナテ <sup>°</sup> . 回転カス <sup>リ</sup>	淡灰/暗灰-灰	1ミ以下長・石	1/12	
448	L385	B-5b	SD385606	須恵器	杯身	11.2	3.7	回転ナテ <sup>°</sup> /回転ナテ <sup>°</sup> . 回転ヘラス <sup>リ</sup>	青灰/青灰	1ミ以下長	1/4	
449	L385	B-5b	SD385606	須恵器	杯身	12.7	3.9	回転ナテ <sup>°</sup> /回転ナテ <sup>°</sup> . 回転ヘラス <sup>リ</sup>	紫灰/小豆	2.5ミ以下長	1/6	
450	L385	B-5b	SD385611	土師器	甕	14.2	(6.0)	ナテ <sup>°</sup> . ハケ/ナテ <sup>°</sup>	淡灰橙褐/淡灰橙褐	2ミ以下長・ク・雲	1/3	
451	L385	B-5b	SD385611	須恵器	甕	—	(6.55)	回転ナテ <sup>°</sup> /回転ナテ <sup>°</sup> . 回転カス <sup>リ</sup>	灰白/灰白	1ミ以下長・石	破片	胴部4/5
452	L385	B-8	SD385603	須恵器	甕	—	(9.7)	当て具痕/回転ヘラス <sup>リ</sup>	灰/灰	4.5ミ以下長	(1/1)	
453	L385	B-5b	SD385603	土師器	高杯	—	(4.6)	沁 <sup>リ</sup> 痕. 摩滅. 不明/摩滅. 不明	明橙褐/明橙茶褐	2ミ以下長・チャ・赤・黒	(1/3)	廻間Ⅱ式. 4穴
454	L385	B-5b	SD385603	須恵器	杯身	11.9	(3.8)	回転ナテ <sup>°</sup> /ナテ <sup>°</sup> . 回転ヘラス <sup>リ</sup>	淡青灰/淡青灰	1.5ミ以下長・白	2/3	
455	L385	B-5b	SD385601	須恵器	杯蓋	14.1	4.7	回転ナテ <sup>°</sup> /回転ナテ <sup>°</sup> . 回転ヘラス <sup>リ</sup>	淡青灰/淡青灰	3ミ以下長・黒	1/4	
456	L385	B-5b	SD385601	須恵器	壺	9.1	(13.7)	ヘラス <sup>リ</sup> . 回転ナテ <sup>°</sup> . ナテ <sup>°</sup> /回転ナテ <sup>°</sup> . カキ目・ヘラス <sup>リ</sup>	暗濁白/暗濁白	2ミ以下石・長・黒・白・灰・褐・透	3/8	外面黒斑
457	L385	B-5b	SD385601	須恵器	杯身	11.8	(3.5)	回転ナテ <sup>°</sup> /回転ナテ <sup>°</sup> . 回転ヘラス <sup>リ</sup>	暗灰/暗灰	4ミ以下長・チャ・白・灰・褐	1/4	
458	L385	B-5b	SD385601	須恵器	杯身	12.0	(2.8)	回転ナテ <sup>°</sup> /回転ナテ <sup>°</sup> . 回転ヘラス <sup>リ</sup>	淡灰/淡灰	3ミ以下長・黒・白・灰	1/4	器表面気孔
459	L385	B-8	SD385601	須恵器	甕	—	(7.1)	回転ナテ <sup>°</sup> /回転ナテ <sup>°</sup> . 回転ヘラス <sup>リ</sup>	灰白/灰白	1ミ以下長	1/1	穿孔
460	L399	B-6	SK399606	須恵器	壺	—	(4.75)	回転ナテ <sup>°</sup> /ナテ <sup>°</sup> . 回転ナテ <sup>°</sup>	灰/灰	1ミ以下長・黒	「1/2」	
461	L399	B-6	SK399606	須恵器	蓋(壺)	9.2	(4.8)	ヨコナテ <sup>°</sup> . 回転ナテ <sup>°</sup> /ヨコナテ <sup>°</sup> . カス <sup>リ</sup>	灰/灰	1ミ以下長・黒	3/4	
462	L303	B-1b	SD333004	須恵器	高杯	11.05	(7.9)	回転ナテ <sup>°</sup> /回転ナテ <sup>°</sup>	青灰/青灰	2ミ前後長・石	1/8	透窓2ヶ. 切口2本刻線
463	L303	B-1b	SD333004	須恵器	高杯	—	(13.2)	回転ナテ <sup>°</sup> /回転ナテ <sup>°</sup>	淡緑-橙褐/淡黄緑灰-淡緑	3ミ以下長・1ミ以下黒	1/1	自然釉付着
464	L334	B-3	B地区包含層	土師器	甕	頸径13.6	(6.9)	ナテ <sup>°</sup> /ナテ <sup>°</sup> 後タキ. 指痕	淡橙茶褐/淡灰褐-暗灰褐	2.5ミ以下長・石・ク・チャ・雲	1/6	一部ス
465	L385	B-5b	B地区包含層	土師器	高杯	14.2	(4.6)	ナテ <sup>°</sup> /回転ナテ <sup>°</sup>	白灰褐/白灰褐	1ミ以下石・長・赤	1/6	
466	L334	B-3	B地区包含層	土師器	高杯	15.9	(4.0)	ナテ <sup>°</sup> . ヨコナテ <sup>°</sup> /ヨコナテ <sup>°</sup> . ハケ. 指痕	赤褐/赤褐	4ミ以下長・石・雲	1/2	
467	L334	B-3	B地区包含層	土師器	高杯	12.0	(7.7)	ナテ <sup>°</sup> . ヨコナテ <sup>°</sup> . 脚部沁 <sup>リ</sup> 痕/ヨコナテ <sup>°</sup> . 指痕. ナテ <sup>°</sup>	明茶褐/明茶褐	1.5ミ以下長・石・チャ・黒	1/2	
468	L334	B-3	B地区包含層	土師器	椀	12.4	(4.4)	不明/不明	明淡桃褐/明淡桃褐	3ミ以下石・1ミ程チャ・ク	1/5	
469	L334	B-3	B地区包含層	土師器	小壺	5.45	5.7	ナテ <sup>°</sup> . 指痕. ヨコナテ <sup>°</sup> /ヨコナテ <sup>°</sup> . 指痕	淡黄灰褐/淡黄灰褐	3ミ以下長・石・チャ・ク・雲	1/1	手握ね
470	L334	B-3	B地区包含層	土師器	高杯	14.8	(3.4)	タテハケ. ヨコナテ <sup>°</sup> /ヨコナテ <sup>°</sup> . ナテ <sup>°</sup> 後タテハケ	橙褐/橙褐	3.5ミ以下角・チャ・長・石	1/8	
471	L334	B-3	B地区包含層	土師器	高杯	20.2	(6.2)	ヨコナテ <sup>°</sup> /不明	淡黄茶褐/淡黄茶褐	3ミ以下調・石・チャ・赤	1/4	
472	L334	B-3	B地区包含層	土師器	高杯	22.5	(7.9)	タテハケ. ヨコナテ <sup>°</sup> /ヨコナテ <sup>°</sup> . タテハケ	桃褐/桃褐	4ミ以下石多量・1ミ程長・チャ・ク・雲	1/7	

出土土器観察表

473	L334	B-3	B地区包含層	土師器	高杯	—	(6.0)	不明/不明	淡黄茶褐/淡黄茶褐	3ミリ以下長・石・珩・赤	3/4	
474	L334	B-3	B地区包含層	土師器	高杯	(8.8)	(5.95)	沁り痕・指痕/ハケ・ケ方向のナテ	橙褐/橙褐	1ミリ以下長・珩・ケ・頁岩	(1/4)	
475	L334	B-3	B地区包含層	須恵器	杯蓋	14.0	5.1	回転ナテ/回転ナテ・回転ヘラスリ	淡青灰/淡青灰	10ミリ以下長・黒多量	1/8	
476	L315	B-2a	B地区包含層	須恵器	杯蓋	14.2	3.9	回転ナテ/回転ナテ・回転ケスリ	淡青灰/淡青灰	4ミリ以下長	5/8	
477	L315	B-2a	B地区包含層	須恵器	杯蓋	14.0	4.4	回転ナテ/回転ナテ・回転ケスリ	灰白-淡青灰/灰白-淡青灰	1ミリ以下長少量	7/8	
478	L315	B-2a	B地区包含層	須恵器	杯蓋	11.5	(3.3)	回転ナテ/回転ナテ	明茶灰/淡茶灰-暗灰	0.5ミリ以下長・珩	1/6	
479	L334	B-3	B地区包含層	須恵器	杯蓋	11.4	4.2	回転ナテ/回転ナテ	青灰/淡灰	1-2ミリ石少量	1/3	
480	L399	B-7	B地区包含層	須恵器	杯身	13.0	(2.9)	ヨコナテ・回転ナテ/ヨコナテ・回転ナテ	灰/灰	1ミリ以下長・黒	1/6	
481	L331	B-2b	B地区包含層	須恵器	杯身	13.2	(3.6)	回転ナテ/回転ナテ・回転ヘラスリ	淡青灰/淡青灰	1ミリ以下長少量	1/6	
482	L399	B-6	B地区包含層	須恵器	杯身	12.9	(3.3)	ヨコナテ・回転ナテ/ヨコナテ・回転ナテ	灰/青灰	1ミリ以下長・石	1/8	
483	L333	B-4	B地区包含層	須恵器	甕	14.7	(4.9)	回転ナテ/回転ナテ	暗青灰/暗青灰	6ミリ小石・2.5ミリ以下細礫?	1/12	
484	L334	B-3	SR303016	須恵器	高杯	(9.2)	(4.3)	回転ナテ・ヨコナテ/ヨコナテ・回転ナテ	灰/暗灰	1ミリ以下長・黒	(1/4)	透穴4ヶ
485	L334	B-3	SR334015	韓式	甕?	—	—	格子目ケキ	灰/灰白	2ミリ以下長・石・珩・赤	破片	やや軟質
486	L334	B-3	B地区包含層	須恵器	不明	—	(4.7)	回転ナテ/波状	濁灰/暗灰	1ミリ以下長・ケ	破片	小型器
487	L334	B-3	B地区包含層	須恵器	甕	20.9	(6.1)	ケキ後ナテ・指痕/回転ナテ・ケキ	灰白/黄灰白	2ミリ以下長・黒	1/2	歪み
488	L334	B-3	B地区包含層	須恵器	杯	10.8	(3.7)	回転ナテ/回転ナテ・回転ヘラスリ	青灰/青灰	1ミリ以下長・黒	2/3	
489	L384	A-5	A地区二条条間大路北側溝(SD330003)	土師器	杯A	14.2	3.2	ナテ/ナテ・ヘラスリ後ナテ	桃褐/桃褐	1ミリ以下赤	1/4	Da形態・c'手法
490	L384	A-5	A地区二条条間大路北側溝(SD330003)	土師器	杯A	18.1	3.5	ヨコナテ/ヨコナテ・ヘラスリ	橙褐/橙褐	2ミリ以下長・石・ケ・雲	1/5	Ab形態・b'手法
491	L384	A-5	A地区二条条間大路北側溝(SD330003)	土師器	杯A	15.9	2.4	ナテ/ケスリ	淡黄茶褐/淡黄茶褐	2ミリ以下長・石・珩・ケ	3/8	Cc形態・c手法
492	L330	A-3	A地区二条条間大路北側溝(SD330003)	土師器	甕A	20.8	(5.7)	ハケ・ヨコナテ/ヨコナテ・指痕	淡白橙褐/淡白橙褐	極細長・石・ケ	1/8	口縁B形態
493	L384	A-5	A地区二条条間大路北側溝(SD330003)	須恵器	盤A	(9.0)	(7.2)	ナテ/ナテ・ケスリ後ナテ	灰白/黄灰白	1.5ミリ以下長・黒	(1/4)	断面の一部サンドイッチ状
494	L384	A-5	A地区二条条間大路北側溝(SD330003)	土師器	土馬	—	(8.4)	ナテ	乳白	雲・砂粒ほとんどない	2/3	頭部欠損
495	L330	A-3	A地区二条条間大路南側溝(SD330002)	土師器	杯A	19.0	(3.7)	ヨコナテ/ヘラスリ後ナテ	淡白黄褐/淡白黄褐	2ミリ以下長・黒	1/12	Ab形態・c手法
496	L384	A-5	A地区二条条間大路南側溝(SD330002)	土師器	杯A	15.7	(3.9)	ナテ/ヘラスリ	淡黄灰/淡黄灰	1ミリ以下長・ケ	1/5	Cc形態・b手法・底部ス
497	L384	A-5	A地区二条条間大路南側溝(SD330002)	土師器	皿A	15.4	2.6	ナテ/ヨコナテ・ケスリ	淡白黄褐灰/淡白黄褐灰	2ミリ以下長・雲少量	1/2	Cc形態・c'手法

498	L384	A-5	A地区二条条間 大路南侧溝 (SD330002)	土師 器	ⅢA	16.4	(2.3)	ナテ°/強くナテ°. 指痕後ナテ°	淡黄褐/淡 黄褐	2ミ以下長 少量・	1/10	Ca形態.e手 法
499	L384	A-5	A地区二条条間 大路南侧溝 (SD330002)	土師 器	ⅢA	15.5	2.45	ヨコナテ°/ヨコナテ°. クス°後ナテ°	淡白黄褐/ 淡白黄褐	1ミ以下雲	1/1	Cb形態.c'ま たはb'手法
500	L384	A-5	A地区二条条間 大路南侧溝 (SD330002)	土師 器	ⅢA	19.1	(2.1)	ナテ°.沈線/ナテ°	淡黄褐/淡 黄褐	1.5ミ以下 長	1/6	Ac形態.手法 不明.外面当 具痕
501	L384	A-5	A地区二条条間 大路南侧溝 (SD330002)	土師 器	ⅢA	19.7	2.3	ヨコナテ°/ヨコナテ°. クス°後ナテ°	淡白黄褐/ 淡白黄褐	1ミ以下雲	2/5	Bb形態.b'手 法
502	L384	A-5	A地区二条条間 大路南侧溝 (SD330002)	土師 器	ⅢA	20.9	2.75	ナテ°.沈線/ナテ°. クス°後ナテ°.クス° リ	淡白黄褐/ 淡白黄褐	5ミ以下ナ ク	1/2	Ba形態.b'手 法.口縁端部 ス
503	L384	A-5	A地区二条条間 大路南侧溝 (SD330002)	土師 器	椀A	12.3	3.45	ナテ°.沈線/強い ナテ°.ヘラクス°リ	淡灰褐/淡 灰褐	3ミ以下長・ ナク・雲・ク少 量	2/3	Cc形態.c手 法
504	L384	A-5	A地区二条条間 大路南侧溝 (SD330002)	土師 器	椀A	11.8	3.5	不明/不明	橙茶褐/橙 茶褐	2ミ以下長・ 石・ク(赤)	5/8	Cc形態.c手 法
505	L384	A-5	A地区二条条間 大路南侧溝 (SD330002)	土師 器	壺B	16.0	8.2	ナテ°/ナテ°.接合 部を指痕	淡黄灰-乳 白/淡黄灰 -乳白	3ミ以下白・ 長	2/5	
506	L384	A-5	A地区二条条間 大路南侧溝 (SD330002)	土師 器	鍋	19.6	(6.2)	指痕.ナテ°/指 痕.ナテ°	淡茶肌/淡 茶肌	1ミ以下長・ 石・ナク	1/8	
507	L384	A-5	A地区二条条間 大路南侧溝 (SD330002)	須恵 器	杯A	12.6	4.8	ナテ°.指痕.ヨコ ナテ°/ヨコナテ°.底部 ヘラナク	淡褐灰/暗 灰	粗粒砂少量	1/3	T形態
508	L384	A-5	A地区二条条間 大路南侧溝 (SD330002)	須恵 器	杯A	13.4	2.85	ナテ°/ヨコナテ°. ナテ°方向ナテ°	淡灰褐/淡 灰褐	1ミ以下長・ 黒	1/8	T形態
509	L330	A-3	A地区二条条間 大路南侧溝 (SD330002)	須恵 器	杯B	(11.6)	(4.0)	回転ナテ°/回転 ナテ°	灰白/青灰	2ミ石・1.5ミ 以下長・石	(1/3)	T形態?内面 底部を硯に 転用
510	L384	A-5	A地区二条条間 大路南侧溝 (SD330002)	須恵 器	蓋A	27.8	(2.3)	ナテ°.ヨコナテ°/クス° 後ヨコナテ°.ヨコ ナテ°	青灰-暗灰/ 青灰	4ミ以下小 石?	3/8	内面粘土痕 (2cm)
511	L330	A-3	A地区二条条間 大路南侧溝 (SD330002)	須恵 器	甕A	22.0	(5.55)	回転ナテ°.ナク/ 回転ナテ°.ナク	淡青灰/淡 青灰	1ミ以下長・ 黒	1/8	口縁不確実
512	L384	A-5	A地区二条条間 大路南侧溝 (SD330002)	須恵 器	椀	13.8	(3.4)	ナテ°/ナテ°	暗灰褐/黒 灰	1ミ以下長	1/5	
513	L384	A-5	A地区二条条間 大路南侧溝 (SD330002)	須恵 器	壺L	—	(11.7)	回転ナテ°/回転 ナテ°.回転ヘラクス°リ	濃灰-灰白/ 濃灰-灰 白	3ミ以下長・ 黒	1/4	体部径16.4
514	L384	A-5	A地区二条条間 大路南侧溝 (SD330002)	須恵 器	壺G	(4.6)	(11.8)	回転引き/回転 ヘラクス°リ	濃灰褐/濃 灰褐	4ミ以下長・ 石	(1/2)	
515	L330	A-3	A地区二条条間 大路南侧溝 (SD330002)	須恵 器	鉢A?	19.9	8.7	回転ナテ°/回転 ナテ°	灰白/灰 白.黒褐	3.5ミ以下 長	2/5	口径不確実
516	L384	A-5	A地区二条条間 大路南侧溝 (SD330002)	須恵 器	鉢D	16.4 (8.8)	12.5	回転ナテ°/灰転 ナテ°.高台貼付後 ナテ°	淡灰/淡灰 -茶灰	3ミ以下長 多量	1/2	
517	L330	A-3	A地区二条条間 大路南侧溝 (SD330002)	土師 器	土馬	—	(10.5)	指痕.ナテ°	淡灰黄褐	1ミ以下長・ 石・雲	1/2	
518	L330	A-3	A地区路面土坑 (SX330019)	土師 器	杯B	(16.0)	(1.7)	ナテ°?/ヨコナテ°. ナテ°.高台貼付	橙褐/橙褐	1ミ以下ナ ク.極細白・雲	(1/2)	
519	L330	A-3	A地区路面土坑 (SX330019)	土師 器	ⅢA	14.6	2.55	指痕.ナテ°/ヨコ ナテ°.指痕.クス°リ	淡褐/淡白 桃褐	0.5ミ以下 褐・角	1/2	Cb形態.c手 法.全体にい びつ

## 出土土器観察表

520	L330	A-3	A地区路面土坑 (SX330019)	土師器	碗A	14.0	(3.0)	不明/ヨコナテ	濁淡褐/濁淡褐	2ミリ以下ク多量・雲	1/6	
521	L330	A-3	A地区路面土坑 (SX330019)	土師器	高杯	—	(8.6)	ホリ痕なし(棒心製法)/ケスリ	赤褐/赤褐	1ミリ以下長	破片	
522	L384	A-5	A地区路面土坑 (SX330015-2)	土師器	ミチュ7鍋	10.5	(2.5)	未調整/未調整	淡灰褐/淡灰褐	0.5ミリ以下 チャ・赤	1/4	
523	L330	A-3	A地区路面土坑 (SX330019)	土師器	甕A	27.7	(8.5)	回転ナテ・ヨコナテ/ヨコナテ・回転ナテ	淡黄褐-黄褐/淡黄褐-黄褐	2ミリ以下長・石・ク	1/6	B形態. 口縁部成形に伴うクキ痕
524	L384	A-5	A地区路面土坑 (SX330015-2)	土師器	甕A	16.0	(6.5)	ヨコナテ/ヨコナテ・タテハケ	淡黄乳褐/淡黄乳褐	1.5ミリ砂粒	1/2	H形態
525	L330	A-3	A地区路面土坑 (SX330019)	土師器	甕A	21.0	(6.0)	回転ナテ・指痕/回転ナテ	淡灰褐/淡赤褐	1-3ミリ・長・砂粒多量	1/5	B形態
526	L330	A-3	A地区路面土坑 (SX330019)	土師器	甕A	24.0	(5.5)	ヨコナテ/ヨコナテ・指痕	明淡橙褐/明淡橙褐	2ミリ以下ク・長・雲・石	1/8	B形態
527	L330	A-3	A地区路面土坑 (SX330019)	緑釉	壺L	9.0	(1.65)	回転ナテ・ヨコナテ/ヨコナテ・回転ナテ	灰白/灰白	1ミリ以下長	1/6	釉:濁緑
528	L330	A-3	A地区路面土坑 (SX330019)	須恵器	蓋B	—	(1.4)	回転ナテ/回転ケスリ	灰/灰	極細白	破片	アマ1/1
529	L330	A-3	A地区路面土坑 (SX330019)	須恵器	蓋B	8.5	2.8	回転ナテ/回転ケスリ・回転ナテ	淡青灰/淡青灰	0.5ミリ以下長	1/1	外面自然釉:濁暗緑
530	L330	A-3	A地区路面土坑 (SX330019)	須恵器	蓋B	9.0	2.2	回転ナテ/回転ケスリ・回転ナテ	暗青灰/暗青灰	1ミリ以下長	1/3	全体にいびつ
531	L330	A-3	A地区路面土坑 (SX330019)	須恵器	蓋B	9.2	2.1	回転ナテ/回転ケスリ・回転ケスリ	灰/灰	極細長	1/5	
532	L330	A-3	A地区路面土坑 (SX330019)	須恵器	蓋B	10.0	(1.78)	回転ナテ/回転ナテ・回転ケスリ	濁灰/灰	1ミリ以下長	1/5	
533	L330	A-3	A地区路面土坑 (SX330019)	須恵器	蓋	—	(1.1)	回転ナテ/回転ケスリ	灰白/灰白	極細長	破片	アマ1/1
534	L330	A-3	A地区路面土坑 (SX330019)	須恵器	蓋A	15.6	(1.2)	回転ナテ/回転ナテ・回転ケスリ	灰/灰	極細長・黒	1/8	
535	L330	A-3	A地区路面土坑 (SX330019)	須恵器	蓋A	16.6	(1.2)	回転ナテ/回転ケスリ・回転ナテ	灰/灰	2ミリ以下長	1/8	
536	L330	A-3	A地区路面土坑 (SX330019)	須恵器	杯A	(12.8)	3.7	ヨコナテ/回転ナテ	黄灰/黄灰	1ミリ以下長	1/5	T形態
537	L330	A-3	A地区路面土坑 (SX330019)	須恵器	杯B	(12.0)	(1.4)	回転ナテ・/回転ナテ・高台貼付	灰/灰	5ミリ以下長・2ミリ以下黒・雲	(1/6)	
538	L330	A-3	A地区路面土坑 (SX330019)	須恵器	蓋B	23.2	3.1	回転ナテ/回転ナテ・ケスリ後ナテ・回転ケスリ	淡灰/淡灰	3ミリ以下長	2/3	中央部穿孔
539	L330	A-3	A地区路面土坑 (SX330019)	須恵器	円面硯	14.5 (21.8)	8.75	回転ナテ・ナテ/ナテ・ヘラケスリ	緑灰褐/緑灰褐	1ミリ以下黒	1/4 (1/5)	透穴窓7ヶ・焼成時土器片付着
540	L384	A-5	A地区路面土坑 (SX330015-1)	須恵器	壺G	(4.9)	(13.0)	ナテ/ナテ・強いナテ	灰/暗灰-淡緑灰	3ミリ以下長・黒多量	体部1/1	底部の座り加減悪い
541	L330	A-3	A地区路面土坑 (SX330019)	須恵器	壺G	(5.25)	(11.5)	回転ナテ・ヨコナテ/回転ナテ・回転ナテ	淡青灰/淡青灰	2ミリ以下黒・長	(1/1) 「2/3」	糸切り痕
542	L330	A-3	A地区路面土坑 (SX330019)	須恵器	壺G	6.4 (5.4)	18.5	回転ナテ/回転ナテ	淡青灰/青灰	1ミリ以下長	4/5	底部表面の糸切り痕
543	L330	A-3	A地区路面土坑 (SX330019)	弥生?	壺	10.6	(2.9)	回転ナテ/回転ナテ	灰白/灰白	1-5ミリ石・長・チャ多量	1/5	
544	L330	A-3	A地区路面土坑 (SX330019)	須恵器	壺L	13.0	(2.4)	回転ナテ/回転ナテ	灰/灰	3ミリチャ・1ミリ以下黒・白・長	1/6	
545	L330	A-3	A地区路面土坑 (SX330019)	須恵器	平瓶	—	(3.55)	ナテ/ナテ	灰/灰	0.5ミリ以下長・黒	1/5	外面自然釉
546	L330	A-3	A地区路面土坑 (SX330019)	須恵器	甕A	26.0	(4.0)	回転ナテ/回転ナテ	灰白/灰	1ミリ以下長・黒・ク・石・雲	1/16	
547	L330	A-3	A地区路面土坑 (SX330019)	須恵器	壺?	19.7	(6.95)	回転ナテ/回転ナテ・ヘラケスリ	灰/暗灰	2.5ミリ以下長	1/5	

548	L330	A-3	A地区路面土坑 (SX330019)	須恵器	鉢D	29.6	(6.6)	ナテ <sup>*</sup> .回転ナテ <sup>*</sup> /ナテ <sup>*</sup> .回転ナテ <sup>*</sup>	灰/灰	1ミ以下長・黒	1/12	
549	L330	A-3	A地区路面土坑 (SX330019)	須恵器	壺	—	(12.8)	回転ナテ <sup>*</sup> .タキ/回転ナテ <sup>*</sup> .貼付突帯.工具痕	灰白/濁黄灰	2ミ以下ク・1ミ以下長	肩部1/4	九州系(肥前?)
550	L330	A-3	A地区路面土坑 (SX330019)	須恵器	甕	(10.6)	(9.9)	不明/不明	淡白黄褐/淡白黄褐	2ミ以下長・石	9/10	
551	L384	A-5	A地区路面土坑 (SX330015-1)	須恵器	盤A	43.0 (22.0)	(13.7)	不明/不明	淡黄灰褐/橙褐-灰褐-乳灰	2.5ミ以下長・ク	1/4(1/2)	
552	L330	A-3	A地区路面土坑 (SX330019)	須恵器	盤A	51.0	(8.05)	回転ナテ <sup>*</sup> /ナテ <sup>*</sup> . 回転ナテ <sup>*</sup>	灰/灰	2ミ以下長	1/8	
553	L399	B-6	B地区二条条間 大路北側溝上層 (SD330003)	土師器	杯A	13.2	3.1	ナテ <sup>*</sup> .ヨコナテ <sup>*</sup> /ヨコナテ <sup>*</sup> .不明瞭	濃茶褐/明橙褐	2ミ以下長・ク・石・ク	1/8	Ba形態.b'手法
554	L399	B-6	B地区二条条間 大路北側溝上層 (SD330003)	土師器	杯A	13.4	3.0	ヨコナテ <sup>*</sup> .指痕/ヨコナテ <sup>*</sup> .	濁淡褐/濁橙褐	3ミ以下長・ク・石・ク	1/8	Ba形態
555	L399	B-6	B地区二条条間 大路北側溝下層 (SD330003)	土師器	杯A	14.8	3.35	ナテ <sup>*</sup> /ヨコナテ <sup>*</sup> .クスリ後ナテ <sup>*</sup> .指痕	乳褐/乳褐	2ミ以下長・雲	1/2	Ba形態.b'手法
556	L399	B-6	B地区二条条間 大路北側溝下層 (SD330003)	土師器	杯A	14.9	2.9	ナテ <sup>*</sup> ヨコナテ <sup>*</sup> /ヨコナテ <sup>*</sup> .クスリ	明黒灰褐/明黒灰褐	2ミ以下黒	(1/8)	Cb形態.c手法
557	L399	B-6	B地区二条条間 大路北側溝上層 (SD330003)	土師器	杯A	15.6	(2.6)	ヨコナテ <sup>*</sup> .ナテ <sup>*</sup> /ヨコナテ <sup>*</sup> .ナテ <sup>*</sup> .クスリ	淡赤灰褐/淡赤灰褐	2ミ以下長・石・ク	1/9	Ca形態.c'手法
558	L399	B-6	B地区二条条間 大路北側溝下層 (SD330003)	土師器	杯A	15.4	3.2	回転ナテ <sup>*</sup> /回転ナテ <sup>*</sup>	淡橙白/橙-橙白	2ミ以下長・石・ク	1/3	Ca形態.c'手法
559	L399	B-6	B地区二条条間 大路北側溝下層 (SD330003)	土師器	杯A	16.2	3.2	摩滅.不明/ヨコナテ <sup>*</sup> .摩滅.不明	暗黄灰褐/浅黄橙	2ミ以下長・石	1/8	Ca形態
560	L399	B-6	B地区二条条間 大路北側溝下層 (SD330003)	土師器	杯A	16.0	(1.9)	摩滅.不明/摩滅.不明	暗赤灰褐/暗赤灰褐	0.5ミ以下雲・長・石・ク	1/8	Ba形態
561	L385	B-5b	B地区二条条間 大路北側溝 (SD330003)	土師器	杯A	16.6	4.1	摩滅.不明/摩滅.不明	淡茶褐/淡茶褐	1.5ミ以下石・長	1/2	Cc形態.c手法
562	L399	B-6	B地区二条条間 大路北側溝上層 (SD330003)	土師器	杯A	17.2	(4.0)	ナテ <sup>*</sup> /ナテ <sup>*</sup>	暗茶灰/明赤灰	4ミ以下長・石・ク・赤	1/2	Ca形態
563	L399	B-6	B地区二条条間 大路北側溝下層 (SD330003)	土師器	杯A	17.5	4.3	ヨコナテ <sup>*</sup> .ナテ <sup>*</sup> /ヨコナテ <sup>*</sup> .クスリ	暗灰褐/明赤灰褐	3ミ以下長・石・雲	1/3	Ba形態.c'手法
564	L399	B-6	B地区二条条間 大路北側溝下層 (SD330003)	土師器	杯A	17.9	3.5	ナテ <sup>*</sup> /クスリ	明赤褐/淡黄灰褐	3ミ以下長・石・ク・雲	1/3	Bb形態.c手法
565	L399	B-6	B地区二条条間 大路北側溝下層 (SD330003)	土師器	杯A	18.9	4.0	ヨコナテ <sup>*</sup> .ナテ <sup>*</sup> /ヨコナテ <sup>*</sup> .クスリ	淡赤褐/淡赤褐	1ミ以下長・雲・石	1/4	Ac形態.c手法
566	L399	B-6	B地区二条条間 大路北側溝下層 (SD330003)	土師器	杯A	19.0	(4.0)	ヨコナテ <sup>*</sup> /ヨコナテ <sup>*</sup> .クスリ?指痕	褐/褐	1ミ以下長・ク・赤・黒	(1/5)	Cb形態.c'手法
567	L399	B-6	B地区二条条間 大路北側溝下層 (SD330003)	土師器	杯A	19.2	(3.0)	ナテ <sup>*</sup> /クスリ	橙白/橙	1ミ以下長・石・ク	1/6	Cc形態.c'手法
568	L399	B-6	B地区二条条間 大路北側溝下層 (SD330003)	土師器	ⅢA	13.5	2.45	ヨコナテ <sup>*</sup> .ナテ <sup>*</sup> /ヨコナテ <sup>*</sup> .クスリ	淡黄橙/浅黄橙	細粒長・石・ク	1/3	Cb形態
569	L399	B-6	B地区二条条間 大路北側溝下層 (SD330003)	土師器	ⅢA	14.4	2.4	ナテ <sup>*</sup> /ナテ <sup>*</sup>	暗黄褐/明赤灰褐	細粒黒・雲	1/6	Bb形態
570	L399	B-6	B地区二条条間 大路北側溝下層 (SD330003)	土師器	ⅢA	14.8	2.0	ナテ <sup>*</sup> /ナテ <sup>*</sup> .クスリ	赤灰/赤灰	1ミ以下長・石・黒・雲	1/6	Cc形態.c'手法

## 出土土器観察表

571	L399	B-6	B地区二条条間 大路北側溝下層 (SD330003)	土師器	ⅢA	15.1	(2.1)	ヨコナテ <sup>+</sup> /ヨコナテ <sup>+</sup>	淡橙灰白/ 淡橙灰白	0.5ミ以下 長・石・ク・雲	1/8	Cc形態
572	L399	B-6	B地区二条条間 大路北側溝下層 (SD330003)	土師器	ⅢA	15.7	2.9	ナテ <sup>+</sup> .ヨコナテ <sup>+</sup> /ヨコナテ <sup>+</sup> .ヘラクスリ	淡明褐/淡明褐	1.5ミ以下 長・雲・石・ク	7/8	Cc形態. c手法
573	L399	B-6	B地区二条条間 大路北側溝上層 (SD330003)	土師器	ⅢA	15.7	2.6	ヨコナテ <sup>+</sup> .ナテ <sup>+</sup> /ヨコナテ <sup>+</sup> .指痕	淡明褐/淡明褐	1ミ以下長・ ク・石	1/8	Cb形態. 底部指痕
574	L399	B-6	B地区二条条間 大路北側溝下層 (SD330003)	土師器	ⅢA	16.5	2.3	ナテ <sup>+</sup> /ナテ <sup>+</sup> .クスリ	乳白褐/乳白褐	2ミ以下長・ 石・雲	1/5	Cb形態. b'手法
575	L399	B-6	B地区二条条間 大路北側溝下層 (SD330003)	須恵器	ⅢA	15.3	2.9	回転ナテ <sup>+</sup> .ヨコナテ <sup>+</sup> /ヨコナテ <sup>+</sup> .口縁部 ワミ上げ	淡灰/淡灰	2.5ミ以下 長・石・ク・雲	(1/2)	Bb形態
576	L399	B-6	B地区二条条間 大路北側溝上層 (SD330003)	土師器	ⅢA	16.0	2.55	ワミナテ <sup>+</sup> .ナテ <sup>+</sup> /ケ スリ後ナテ <sup>+</sup> .クスリ	明褐/暗褐 -黒褐	7ミ以下長・ 石・ク	1/3	Da形態. b'手法
577	L399	B-6	B地区二条条間 大路北側溝下層 (SD330003)	土師器	ⅢA	17.2	(1.9)	回転ナテ <sup>+</sup> /回転ナテ <sup>+</sup>	淡橙白/淡橙白	1ミ以下長・ 石・黒・雲	1/6	Da形態. c'手法
578	L399	B-6	B地区二条条間 大路北側溝下層 (SD330003)	土師器	ⅢA	17.2	2.4	ナテ <sup>+</sup> /ナテ <sup>+</sup> .クスリ. 指痕	淡黄灰/浅黄橙	2ミ以下雲・ 長・石	1/3	Ca形態. b'手法
579	L399	B-6	B地区二条条間 大路北側溝上層 (SD330003)	土師器	ⅢA	17.7	2.24	ヨコナテ <sup>+</sup> .ナテ <sup>+</sup> /ヨコナテ <sup>+</sup> .クスリ	淡乳褐/淡乳褐	1ミ以下長・ 石・雲・ク	1/6	Ab形態
580	L399	B-6	B地区二条条間 大路北側溝上層 (SD330003)	土師器	ⅢA	17.9	(3.15)	ヨコナテ <sup>+</sup> .ナテ <sup>+</sup> /ヨコナテ <sup>+</sup> .ナテ <sup>+</sup>	明灰褐/明赤灰褐	細粒長・石・ 雲・ク	1/3	Aa形態. b'手法. 内外の摩減激しい
581	L399	B-6	B地区二条条間 大路北側溝下層 (SD330003)	土師器	ⅢA	18.1	(3.1)	ヨコナテ <sup>+</sup> .ナテ <sup>+</sup> /ヨコナテ <sup>+</sup> .ナテ <sup>+</sup>	明黄灰褐/ 明黄灰褐	2ミ以下雲・ ク長・石	1/3	Bb形態
582	L399	B-6	B地区二条条間 大路北側溝下層 (SD330003)	土師器	ⅢA	18.6	(2.35)	ヨコナテ <sup>+</sup> .クスリ/ヨコナテ <sup>+</sup> .クスリ	淡橙黄白/ 淡橙黄白	1ミ以下長・ ク・雲	(1/8)	Ac形態. c手法
583	L399	B-6	B地区二条条間 大路北側溝下層 (SD330003)	土師器	ⅢA	19.1	(2.3)	ナテ <sup>+</sup> /クスリ	暗橙/暗橙	2ミ以下長・ 石・雲・黒	1/6	Ac形態. c手法
584	L399	B-6	B地区二条条間 大路北側溝上層 (SD330003)	土師器	ⅢA	19.4	2.0	ヨコナテ <sup>+</sup> .ナテ <sup>+</sup> /ヨコナテ <sup>+</sup> .クスリ	黒灰褐/暗赤灰褐	細粒ミ以下 長・石・雲	1/8	Bc形態. c手法
585	L399	B-6	B地区二条条間 大路北側溝下層 (SD330003)	土師器	ⅢA	19.8	3.5	回転ナテ <sup>+</sup> .ナテ <sup>+</sup> / 回転ナテ <sup>+</sup> .ヘラクスリ	白褐/橙白	1ミ以下長・ 石・ク・赤・雲	1/12	Bc形態. c手法
586	L399	B-6	B地区二条条間 大路北側溝下層 (SD330003)	土師器	ⅢA	19.7	2.2	指痕. ナテ <sup>+</sup> /ヨコナテ <sup>+</sup> .ヘラクスリ	明橙褐/淡橙褐	1ミ以下長・ 石・ク	1/4	Ac形態. c手法
587	L399	B-6	B地区二条条間 大路北側溝上層 (SD330003)	土師器	ⅢA	19.3	3.0	ヨコナテ <sup>+</sup> .ナテ <sup>+</sup> /ヨコナテ <sup>+</sup>	淡明褐/淡明褐	2ミ以下長・ 石・ク	1/2	Ab形態. c手法
588	L399	B-6	B地区二条条間 大路北側溝下層 (SD330003)	土師器	ⅢA	19.6	(1.7)	ヨコナテ <sup>+</sup> /ヨコナテ <sup>+</sup> .ヘラクスリ	濁橙褐/濁橙褐	1.5ミ以下 長・石・ク	1/8	Ba形態. c手法
589	L399	B-6	B地区二条条間 大路北側溝下層 (SD330003)	土師器	ⅢA	20.1	2.4	ナテ <sup>+</sup> /ナテ <sup>+</sup> .クスリ	明赤灰褐/ 明赤灰褐	3ミ以下長・ 石・黒・赤・雲	1/3	Ba形態. b'手法
590	L399	B-6	B地区二条条間 大路北側溝上層 (SD330003)	土師器	ⅢA	20.2	2.2	摩減. 不明/摩減. 不明	橙褐/暗黄灰	3ミ以下長・ 石・ク・黒・赤	1/6	Ab形態
591	L399	B-6	B地区二条条間 大路北側溝下層 (SD330003)	土師器	ⅢA	20.9	2.2	ヨコナテ <sup>+</sup> /ヨコナテ <sup>+</sup> .ヘラクスリ	橙褐/橙褐	1ミ以下砂	1/8	Ab形態. c手法
592	L399	B-6	B地区二条条間 大路北側溝下層 (SD330003)	土師器	ⅢA	20.9	(1.95)	ヨコナテ <sup>+</sup> /ヨコナテ <sup>+</sup> .クスリ. ナテ <sup>+</sup>	乳白/乳白	細粒雲・長・ 石	1/8	Bb形態. c手法

593	L399	B-6	B地区二条条間 大路北側溝下 層(SD330003)	土師 器	ⅢA	21.4	2.8	回転ナテ、横ナテ /横ナテ、ヘラクスリ	淡橙褐色/ 暗淡褐色	1.5ミ以下 長・チ・石 ・ク・雲	1/8	内面、ス痕
594	L399	B-6	B地区二条条間 大路北側溝下 層(SD330003)	土師 器	ⅢA	21.6	2.6	ヨコナテ、ナテ/ヨコ ナテ、クスリ	淡灰褐/淡 灰褐	細粒ク・雲	1/16	Bb形態、b'手 法
595	L399	B-6	B地区二条条間 大路北側溝下 層(SD330003)	土師 器	ⅢA	22.0	2.1	ナテ/ナテ	明赤灰褐/ 明黒灰褐	砂粒微量	1/6	Cc形態、c'手 法
596	L399	B-6	B地区二条条間 大路北側溝下 層(SD330003)	土師 器	壺C	10.4	(3.4)	ナテ/ナテ、指痕	明黄灰/明 黄灰	2ミ以下長・ 石・チ・黒・ 雲	1/6	Da形態、e手 法
597	L399	B-6	B地区二条条間 大路北側溝下 層(SD330003)	土師 器	椀D?	9.6	(2.2)	ヨコナテ、ナテ/ヨコ ナテ、指痕	明褐/明褐	3ミ以下長・ 石・雲	1/6	Da形態、e手 法
598	L399	B-6	B地区二条条間 大路北側溝下 層(SD330003)	土師 器	壺C	12.0	(3.1)	ナテ/ナテ	橙白/橙	0.5ミ以下 長・石・黒・ 雲	1/8	Da形態、e手 法
599	L399	B-6	B地区二条条間 大路北側溝下 層(SD330003)	土師 器	壺C	10.0	3.9	ヨコナテ、ナテ/ヨコ ナテ、指痕	淡明褐/淡 明褐	1ミ以下長・ チ・石・ク	1/4	Da形態、e手 法
600	L399	B-6	B地区二条条間 大路北側溝下 層(SD330003)	土師 器	椀A	9.8	(3.1)	摩滅、不明/摩 滅、不明	暗黄灰褐/ 暗黄灰褐	微細ク・長・ 石	1/4	Cc形態、
601	L399	B-6	B地区二条条間 大路北側溝下 層(SD330003)	土師 器	椀A	12.0	(3.0)	ナテ/ナテ、指痕 後クスリ	明赤灰褐/ 明赤灰褐	砂粒微量	1/6	Cc形態、e手 法
602	L385	B-5b	B地区二条条間 大路北側溝 (SD330003)	土師 器	椀A	11.9	3.4	ナテ、ヨコナテ/ヨコ ナテ、指痕	乳灰/淡茶 褐	1.5ミ以下 角・褐色ク	3/8	Cc形態、c'手 法
603	L399	B-6	B地区二条条間 大路北側溝上 層(SD330003)	土師 器	椀C	12.1	(2.85)	ヨコナテ、ナテ/ヨコ ナテ、クスリ	淡赤灰褐/ 淡赤灰褐	2ミ以下長・ 石・ク	1/6	Ce形態、c'手 法
604	L399	B-6	B地区二条条間 大路北側溝下 層(SD330003)	土師 器	椀A	12.4	3.35	ヨコナテ/ヨコナテ、 指痕、ナテ	淡乳褐/淡 乳褐	1ミ以下長・ 雲・ク	1/4	Cc形態
605	L399	B-6	B地区二条条間 大路北側溝上 層(SD330003)	土師 器	椀A	12.2	(3.85)	摩滅、不明/摩 滅、不明	暗灰褐/暗 灰褐	3ミ以下赤・ 長	1/5	Cc形態
606	L399	B-6	B地区二条条間 大路北側溝下 層(SD330003)	土師 器	椀A	12.4	(2.7)	ヨコナテ/ヨコナテ、 指痕	淡褐/淡赤 褐	1.5ミ以下 長・雲	1/5	Da形態、e手 法
607	L385	B-5b	B地区二条条間 大路北側溝 (SD330003)	土師 器	椀A	12.4	3.7	ハ後ナテ、ヨコナテ /ヨコナテ、ハ後ヘ ナテ	明橙褐/淡 橙褐	2ミ以下長・ 石・褐	1/2	Ce形態、
608	L399	B-6	B地区二条条間 大路北側溝上 層(SD330003)	土師 器	椀A	12.6	3.05	ナテ/ナテ、クスリ	淡褐/淡褐	1ミ以下長・ 黒・ク	1/4	Cd形態、c'手 法
609	L399	B-6	B地区二条条間 大路北側溝 (SD330003)	土師 器	椀A	12.8	3.4	回転ナテ、ナテ/ 回転ナテ、クスリ	赤褐/淡褐	1ミ以下長・ 黒・チ	1/3	Cc形態、c手 法
610	L399	B-6	B地区二条条間 大路北側溝下 層(SD330003)	土師 器	椀A	12.4	(2.9)	ヨコナテ/ヨコナテ、	淡褐/淡褐	4ミ以下長・ 石・ク	1/3	Ca形態
611	L399	B-6	B地区二条条間 大路北側溝下 層(SD330003)	土師 器	椀A	13.0	3.7	ヨコナテ/ヨコナテ、 指痕	橙白-橙/ 橙白-橙	0.5ミ以下 長・石・雲	2/3	Cc形態、e手 法
612	L399	B-6	B地区二条条間 大路北側溝上 層(SD330003)	土師 器	椀A	13.4	3.3	摩滅、不明/摩 滅、不明	橙白/橙	3ミ以下長・ 石・チ・雲・ 赤	1/3	Cc形態、c手 法?
613	L399	B-6	B地区二条条間 大路北側溝下 層(SD330003)	土師 器	椀A	14.0	3.6	ナテ/ヨコナテ、指 痕	明黄灰褐/ 明赤灰褐	3ミ以下長・ 石・チ	1/4	Cc形態、e手 法
614	L399	B-6	B地区二条条間 大路北側溝下 層(SD330003)	土師 器	椀A	14.3	(2.8)	ヨコナテ、ナテ/ヨコ ナテ、クスリ	明灰褐/浅 黄橙	2ミ以下長・ 石・チ・ク	1/8	Cc形態

## 出土土器観察表

615	L399	B-6	B地区二条条間 大路北側溝下 層(SD330003)	土師 器	碗A	14.4	(3.25)	指痕、ナテ <sup>°</sup> /指 痕、ナテ <sup>°</sup>	淡橙桃/淡 橙桃	1ミリ以下長・ 石・ク	1/8	Ce形態.e手 法
616	L399	B-6	B地区二条条間 大路北側溝上 層(SD330003)	土師 器	碗A	14.2	3.6	指痕/指痕	淡赤褐/淡 褐	1ミリ以下長・ ク・雲	1/4	Cc形態.e手 法、ス
617	L399	B-6	B地区二条条間 大路北側溝下 層(SD330003)	土師 器	碗A	14.6	3.25	ヨコナテ <sup>°</sup> .ナテ <sup>°</sup> /ヨコ ナテ <sup>°</sup> .ナテ <sup>°</sup>	明赤灰褐/ 明赤灰褐	1ミリ以下長・ 石・ク・雲	1/3	Cb形態.c手 法
618	L399	B-6	B地区二条条間 大路北側溝下 層(SD330003)	土師 器	碗A	14.9	(3.4)	ナテ <sup>°</sup> /ナテ <sup>°</sup> .ナテ <sup>°</sup>	赤茶褐/赤 茶褐	1.5ミリ以下 長・石・ク・黒	1/2	Cc形態.c手 法
619	L399	B-6	B地区二条条間 大路北側溝下 層(SD330003)	土師 器	碗A	18.6	(3.25)	ヨコナテ <sup>°</sup> .ナテ <sup>°</sup> /ヨコ ナテ <sup>°</sup> .ナテ <sup>°</sup>	淡灰褐/淡 灰褐	1ミリ以下長・ 石・ク	1/8	Cc形態.c'手 法
620	L399	B-6	B地区二条条間 大路北側溝下 層(SD330003)	土師 器	壺B	15.6	(4.2)	ナテ <sup>°</sup> .ハク/ナテ <sup>°</sup> .指 痕	淡白褐/淡 白褐	1ミリ以下長・ 雲・ク	1/5	
621	L399	B-6	B地区二条条間 大路北側溝下 層(SD330003)	土師 器	壺B	15.4	(7.0)	ナテ <sup>°</sup> .指痕/ヨコ ナテ <sup>°</sup> .指痕	明赤褐/黄 灰褐	砂粒微量	1/6	
622	L399	B-6	B地区二条条間 大路北側溝下 層(SD330003)	土師 器	壺B	15.9	(6.0)	ナテ <sup>°</sup> /ナテ <sup>°</sup>	淡白黄灰/ 淡白黄灰- 灰	0.5ミリ以下 長・石	(1/8)	
623	L399	B-6	B地区二条条間 大路北側溝 (SD330003)	土師 器	壺B	15.4	(7.9)	ナテ <sup>°</sup> /ナテ <sup>°</sup> .指痕	乳白褐/乳 白褐	0.5ミリ以下 長・石・雲	1/5	
624	L399	B-6	B地区二条条間 大路北側溝下 層(SD330003)	土師 器	壺B	—	(6.3)	摩滅.不明/指 痕	明灰褐/明 赤灰-明赤 灰褐	3ミリ以下ク・ 赤・長	[1/3 ]	
625	L399	B-6	B地区二条条間 大路北側溝下 層(SD330003)	土師 器	壺E	—	(3.4)	摩滅.不明/摩 滅.不明	赤褐/赤褐	1ミリ以下長・ ク・雲	[1/8 ]	
626	L399	B-6	B地区二条条間 大路北側溝下 層(SD330003)	土師 器	壺E	(6.6)	(1.2)	回転ナテ <sup>°</sup> /回転ナ テ <sup>°</sup>	淡赤褐/淡 褐	1ミリ以下長・ ク・雲	(1/4)	
627	L385	B-5b	B地区二条条間 大路北側溝 (SD330003)	土師 器	高杯	19.4	(4.0)	ナテ <sup>°</sup> /ナテ <sup>°</sup> .ヘラミカ キ	淡橙茶褐/ 淡橙茶褐	2ミリ以下石・ 長・雲・赤	1/5	
628	L385	B-5b	B地区二条条間 大路北側溝 (SD330003)	土師 器	高杯	—	(3.3)	ナテ <sup>°</sup> /ナテ <sup>°</sup>	赤褐/赤褐	砂粒微量	破片	脚柱部断面7 角形
629	L385	B-5b	B地区二条条間 大路北側溝 (SD330003)	土師 器	高杯	—	(9.2)	棒抜き取り痕/ 面取り	濃桃/濃桃	2ミリ以下長・ 石・赤	破片	脚柱部断面7 角形
630	L385	B-5b	B地区二条条間 大路北側溝 (SD330003)	土師 器	高杯	(12.2)	(18.3)	ナテ <sup>°</sup> /ナテ <sup>°</sup> .ヘラミカ キ	淡茶肌褐/ 白肌/淡茶 肌-白肌	1ミリ以下長・ 石・赤	(1/2)	脚柱部断面9 角形
631	L399	B-6	B地区二条条間 大路北側溝上 層(SD330003)	土師 器	甕A	17.6	(4.6)	ナテ <sup>°</sup> /ナテ <sup>°</sup> .クテハク	赤褐/赤褐	1ミリ以下長・ 黒・雲	1/6	C形態
632	L399	B-6	B地区二条条間 大路北側溝下 層(SD330003)	土師 器	甕A	17.2	(7.3)	ヨコナテ <sup>°</sup> .ナテ <sup>°</sup> .指 痕/ヨコナテ <sup>°</sup> .ハク	明黒灰褐/ 明黒灰褐	2ミリ以下長・ 石・ク・雲	1/4	C形態
633	L399	B-6	B地区二条条間 大路北側溝下 層(SD330003)	土師 器	甕A	17.0	(4.0)	摩滅.不明/ヨコ ナテ <sup>°</sup> .ハク	明黄灰/淡 茶灰-褐	3ミリ以下長・ 石・黒	1/4	A形態
634	L399	B-6	B地区二条条間 大路北側溝上 層(SD330003)	土師 器	甕A	17.0	(2.1)	ナテ <sup>°</sup> /ナテ <sup>°</sup> .ナ テ <sup>°</sup> .指痕	明灰褐/明 黒灰褐	細粒・雲・砂	1/12	B形態
635	L399	B-6	B地区二条条間 大路北側溝上 層(SD330003)	土師 器	甕A	17.8	(4.3)	ヨコナテ <sup>°</sup> .ナテ <sup>°</sup> /ヨコ ナテ <sup>°</sup> .指痕	淡赤褐/淡 赤褐	1ミリ以下長・ 石	1/4	C形態
636	L399	B-6	B地区二条条間 大路北側溝下 層(SD330003)	土師 器	甕A	18.0	(4.8)	ナテ <sup>°</sup> .ヨコナテ <sup>°</sup> /ヨコ ナテ <sup>°</sup> .ハク	淡黒褐/暗 茶褐	2ミリ以下長・ 石・ク・赤	1/5	C形態



637	L399	B-6	B地区二条条間 大路北側溝下 層(SD330003)	土師 器	甕A	19.6	(4.9)	ナテ <sup>+</sup> .ケス <sup>+</sup> リ/ナテ <sup>+</sup> ハ ケ	明灰褐-黒 灰褐/明灰 褐	3ミリ以下長・ 石・チャ	1/6	B形態
638	L399	B-6	B地区二条条間 大路北側溝上 層(SD330003)	土師 器	甕A	22.2	(6.25)	ヨコナテ <sup>+</sup> .ナテ <sup>+</sup> /ヨコ ナテ <sup>+</sup> .ナテ <sup>+</sup> ハ	暗灰褐/暗 灰褐	0.5ミリ以下 長・石・チャ・ 雲	?	C形態
639	L399	B-6	B地区二条条間 大路北側溝下 層(SD330003)	土師 器	甕A	23.0	(13.1)	ヨコハ <sup>+</sup> .ナテ <sup>+</sup> /ヨコ ナテ <sup>+</sup> .ハ <sup>+</sup> .指痕	黒茶褐/明 橙褐	2.5ミリ以下 長・チャ・石・ク	(1/8)	C形態
640	L399	B-6	B地区二条条間 大路北側溝 (SD330003)	土師 器	甕A	18.75	(13.4)	ナテ <sup>+</sup> .ハ <sup>+</sup> .指痕/ナ テ <sup>+</sup> .ナテ <sup>+</sup> ハ	暗褐/黒褐	3ミリ以下長・ 石・チャ・雲	(1/4)	E形態
641	L385	B-5b	B地区二条条間 大路北側溝上 層(SD330003)	土師 器	甕A	16.3	(13.2)	ヘリナテ <sup>+</sup> .ハ <sup>+</sup> .ヨコ ナテ <sup>+</sup> /ヨコナテ <sup>+</sup> .ハ <sup>+</sup>	淡乳灰/淡 乳灰	2.5ミリ以下 長・石・チャ少 量	7/8	C形態
642	L399	B-6	B地区二条条間 大路北側溝上 層(SD330003)	土師 器	甕A	24.6	(5.1)	ヨコハ <sup>+</sup> .ナテ <sup>+</sup> /摩 滅.不明	淡赤褐/淡 赤褐	2ミリ以下長・ 石・ク	1/6	A形態?
643	L399	B-6	B地区二条条間 大路北側溝上 層(SD330003)	土師 器	甕A	25.2	(5.0)	ヨコハ <sup>+</sup> .ヨコナテ <sup>+</sup> /ナ テ <sup>+</sup> .ナテ <sup>+</sup> ハ.指痕	乳褐/乳褐	砂粒微量	1/16	B形態
644	L399	B-6	B地区二条条間 大路北側溝 (SD330003)	土師 器	甕A	28.0	(6.95)	ヨコナテ <sup>+</sup> .指痕.ハ <sup>+</sup> /ヨコナテ <sup>+</sup> .指痕. 回転ナテ <sup>+</sup>	淡褐/淡褐	2ミリ以下石・ ク・赤・黒・雲	1/8	B形態
645	L385	B-5b	B地区二条条間 大路北側溝 (SD330003)	土師 器	甕A	27.4	(5.1)	ヨコハ <sup>+</sup> .ヘリナス <sup>+</sup> リ/ナ テ <sup>+</sup> .ハ <sup>+</sup>	淡黄褐/淡 黄褐	3.5ミリ以下 長・石・赤	1/6	A形態
646	L399	B-6	B地区二条条間 大路北側溝下 層(SD330003)	土師 器	甕A	29.8	(3.0)	ナテ <sup>+</sup> /ナテ <sup>+</sup>	淡橙灰白/ 淡橙灰白	1ミリ以下長・ 石・ク	1/8	A形態
647	L399	B-6	B地区二条条間 大路北側溝下 層(SD330003)	土師 器	甕A	32.6	(3.6)	ハ <sup>+</sup> 後ナテ <sup>+</sup> .ナテ <sup>+</sup> /ハ 後ナテ <sup>+</sup>	淡黄褐/淡 褐	1ミリ以下長・ 雲少量	1/32	C形態
648	L399	B-6	B地区二条条間 大路北側溝下 層(SD330003)	土師 器	甕A	28.9	(2.2)	ハ <sup>+</sup> 後ナテ <sup>+</sup> /ヨコ ナテ <sup>+</sup> .ナテ <sup>+</sup> .列点	明灰褐/明 灰褐	3ミリ以下長・ 石・チャ・雲	1/12	E形態
649	L399	B-6	B地区二条条間 大路北側溝下 層(SD330003)	土師 器	ミチュ 7鍋	6.5	2.0	指痕/指痕	淡赤褐/淡 褐	1ミリ以下長・ 雲	9/10	
650	L399	B-6	B地区二条条間 大路北側溝下 層(SD330003)	土師 器	ミチュ 7鍋	8.6	(1.7)	ヨコナテ <sup>+</sup> .ナテ <sup>+</sup> /ヨコ ナテ <sup>+</sup> .指痕	明灰褐/明 褐	1ミリ以下長・ 石・雲	1/6	
651	L399	B-6	B地区二条条間 大路北側溝下 層(SD330003)	土師 器	土竈	—	—	ナテ <sup>+</sup> .指痕	淡赤褐	細粒雲・長	1/10	
652	L399	B-6	B地区二条条間 大路北側溝下 層(SD330003)	土師 器	製塩 土器	11.1	(4.0)	ヨコナテ <sup>+</sup> .指痕/ナ テ <sup>+</sup> .指痕	乳白/赤灰 褐	3ミリ以下長・ 石・チャ	1/6	
653	L399	B-6	B地区二条条間 大路北側溝下 層(SD330003)	黒色	杯	19.6	(3.5)	ヨコナテ <sup>+</sup> /ヨコナテ <sup>+</sup> .ヘ リナス <sup>+</sup> リ	暗茶褐/淡 黒	1.5ミリ以下 長・チャ・石・ク	1/8	
654	L399	B-6	B地区二条条間 大路北側溝下 層(SD330003)	土師 器	土馬	—	(3.5)	ナテ <sup>+</sup>	明茶肌	0.5ミリ以下 長・雲	破片	頭部のみ
655	L399	B-6	B地区二条条間 大路北側溝下 層(SD330003)	土師 器	土馬	—	(2.2)	ナテ <sup>+</sup>	淡赤褐	1ミリ以下ク・ 黒	破片	頭部のみ
656	L385	B-5b	B地区二条条間 大路北側溝 (SD330003)	土師 器	土馬	—	(5.9)	工具痕.ナテ <sup>+</sup>	淡橙褐	1.5ミリ以下 褐	破片	頭部のみ
657	L399	B-6	B地区二条条間 大路北側溝下 層(SD330003)	土師 器	土馬	—	(6.0)	ナテ <sup>+</sup>	淡赤褐	1ミリ以下赤	破片	頸部脚部欠 損
658	L399	B-6	B地区二条条間 大路北側溝上 層(SD330003)	土師 器	土馬	—	(2.6)	ナテ <sup>+</sup>	淡乳赤褐	細粒ク	破片	肩部のみ

## 出土土器観察表

659	L385	B-5b	B地区二条条間 大路北側溝 (SD330003)	土師 器	土馬	—	(5.1)	ナテ		淡橙褐	3ミリ以下赤 多量	破片	肩部のみ
660	L399	B-6	B地区二条条間 大路北側溝下 層(SD330003)	土師 器	土馬	—	(2.4)	ナテ		淡褐	1ミリ以下長・ 石・ク	破片	脚部のみ
661	L399	B-6	B地区二条条間 大路北側溝上 層(SD330003)	土師 器	土馬	—	(4.4)	ナテ		明茶肌	2ミリ以下ク・ 雲	破片	脚部のみ
662	L399	B-6	B地区二条条間 大路北側溝上 層(SD330003)	須恵 器	杯A	11.4	(3.4)	ヨコナテ <sup>°</sup> ・回転ナテ <sup>°</sup> /ヨコナテ <sup>°</sup> ・回転ナ テ <sup>°</sup>	明灰/明灰	1ミリ以下長・ 石・黒	1/6	H形態	
663	L399	B-6	B地区二条条間 大路北側溝上 層(SD330003)	須恵 器	杯A	12.7	3.6	回転ナテ <sup>°</sup> ・ヨコナテ <sup>°</sup> /回転ナテ <sup>°</sup> ・ヨコ ナテ <sup>°</sup>	淡濁灰/濃 濁灰	1.5ミリ以下 長・ク・石・ク	3/8	H形態	
664	L399	B-6	B地区二条条間 大路北側溝下 層(SD330003)	須恵 器	杯A	14.0	3.9	回転ナテ <sup>°</sup> /回転ナ テ <sup>°</sup>	明紫灰/紫 灰	3ミリ以下長・ 石・ク	3/4	T形態	
665	L399	B-6	B地区二条条間 大路北側溝上 層(SD330003)	須恵 器	杯A	14.3	3.4	ヨコナテ <sup>°</sup> ・回転ナテ <sup>°</sup> /ヨコナテ <sup>°</sup> ・回転ナ テ <sup>°</sup>	淡明灰/淡 明灰	0.5ミリ以下 長・ク・石	1/8	H形態	
666	L399	B-6	B地区二条条間 大路北側溝上 層(SD330003)	須恵 器	碗A?	15.0	(4.0)	回転ナテ <sup>°</sup> /回転ナ テ <sup>°</sup>	灰/濃灰	0.5ミリ以下 長	1/8		
667	L399	B-6	B地区二条条間 大路北側溝上 層(SD330003)	須恵 器	蓋A	15.7	(2.0)	回転ナテ <sup>°</sup> /回転ナ テ <sup>°</sup>	淡灰白/淡 灰白	1ミリ以下長・ 黒	1/5		
668	L399	B-6	B地区二条条間 大路北側溝下 層(SD330003)	須恵 器	蓋A	17.4	(1.7)	回転ナテ <sup>°</sup> /回転ナ テ <sup>°</sup>	灰/明灰	1ミリ以下長・ 石・ク・雲	1/6		
669	L399	B-6	B地区二条条間 大路北側溝上 層(SD330003)	須恵 器	蓋A	17.6	(1.25)	回転ナテ <sup>°</sup> ・ヘクス リ/回転ナテ <sup>°</sup> ・ヨコ ナテ <sup>°</sup>	明灰/明灰	1ミリ以下長・ 石	1/6		
670	L399	B-6	B地区二条条間 大路北側溝下 層(SD330003)	須恵 器	蓋A	17.2	1.6	回転ナテ <sup>°</sup> /回転ナ テ <sup>°</sup>	淡明灰/淡 明灰	1.5ミリ以下 長・ク・石	(1/4)		
671	L399	B-6	B地区二条条間 大路北側溝下 層(SD330003)	須恵 器	蓋A	18.6	(1.8)	回転ナテ <sup>°</sup> /回転ナ テ <sup>°</sup>	淡青灰/淡 青灰	1ミリ以下長・ 黒	1/4	転用硯	
672	L385	B-5b	B地区二条条間 大路北側溝 (SD330003)	須恵 器	蓋A	18.8	(1.5)	回転ナテ <sup>°</sup> /回転ナ テ <sup>°</sup>	淡灰白/淡 灰褐	2ミリ以下ク・ 石・雲	1/6		
673	L399	B-6	B地区二条条間 大路北側溝上 層(SD330003)	須恵 器	杯B	12.2	4.6	ヨコナテ <sup>°</sup> ・回転ナテ <sup>°</sup> /ヨコナテ <sup>°</sup> ・回転ナ テ <sup>°</sup>	灰/灰	細粒長・石	1/3	N形態・貼付 高台	
674	L399	B-6	B地区二条条間 大路北側溝上 層(SD330003)	須恵 器	杯B	12.4	4.5	ヨコナテ <sup>°</sup> ・回転ナテ <sup>°</sup> /ヨコナテ <sup>°</sup> ・回転ナ テ <sup>°</sup>	明灰/明灰	3ミリ以下長・ 黒	1/3	H形態・貼付 高台	
675	L399	B-6	B地区二条条間 大路北側溝下 層(SD330003)	須恵 器	杯B	12.3	4.1	回転ナテ <sup>°</sup> /回転ナ テ <sup>°</sup>	明灰/明灰	1ミリ以下長・ 石	1/6	H形態	
676	L399	B-6	B地区二条条間 大路北側溝上 層(SD330003)	須恵 器	杯B	12.6	3.6	ヨコナテ <sup>°</sup> ・回転ナテ <sup>°</sup> /回転ナテ <sup>°</sup> ・ヨコ ナテ <sup>°</sup>	明灰/暗灰	2ミリ以下長・ 石	1/4	N形態・貼付 高台	
677	L399	B-6	B地区二条条間 大路北側溝上 層(SD330003)	須恵 器	杯B	15.6	4.95	ヨコナテ <sup>°</sup> ・回転ナテ <sup>°</sup> /ヨコナテ <sup>°</sup> ・回転ナ テ <sup>°</sup>	暗灰白/暗 灰白	2ミリ以下長・ 石・黒	1/3	T形態	
678	L399	B-6	B地区二条条間 大路北側溝下 層(SD330003)	須恵 器	杯B	15.9	6.3	回転ナテ <sup>°</sup> /回転ナ テ <sup>°</sup>	灰/灰	2ミリ以下長・ 石	1/3	T形態・貼付 高台	
679	L399	B-6	B地区二条条間 大路北側溝下 層(SD330003)	須恵 器	杯B	16.2	6.4	ヨコナテ <sup>°</sup> ・回転ナテ <sup>°</sup> /ヨコナテ <sup>°</sup> ・回転ナ テ <sup>°</sup>	明灰/暗灰	1ミリ以下長・ 黒	1/3	T形態・貼付 高台	
680	L399	B-6	B地区二条条間 大路北側溝上 層(SD330003)	須恵 器	杯B	(9.3)	(2.75)	回転ナテ <sup>°</sup> /回転ナ テ <sup>°</sup>	灰/灰	砂粒微量	1/4	N形態	

681	L399	B-6	B地区二条条間 大路北側溝下 層(SD330003)	須恵 器	杯B	(10.0)	(3.4)	回轉ナテ°/回轉ナ テ°	灰/灰	0.5ミ以下 白・黒	(1/8)	
682	L399	B-6	B地区二条条間 大路北側溝上 層(SD330003)	須恵 器	杯B	(11.3)	(2.3)	回轉ナテ°/回轉ナ テ°	明灰/明灰	細粒長・砂	(1/4)	
683	L399	B-6	B地区二条条間 大路北側溝上 層(SD330003)	須恵 器	杯B	(11.2)	(1.6)	回轉ナテ°/回轉ナ テ°・ヨコナテ°	明灰/明灰	1ミ以下長・ 石・黒	(1/2)	貼付高台
684	L399	B-6	B地区二条条間 大路北側溝下 層(SD330003)	須恵 器	杯B	(13.6)	(3.5)	回轉ナテ°/回轉ナ テ°・ヨコナテ°	明青灰/明 青灰	2ミ以下長・ チャ・石	(1/8)	
685	L399	B-6	B地区二条条間 大路北側溝上 層(SD330003)	須恵 器	杯B	15.5	5.7	ヨコナテ°/回轉ナ テ°	淡青灰/淡 青灰-淡褐	1.5ミ以下長・ チャ	破片	T形態。貼付 高台底面墨 書「伴」
686	L399	B-6	B地区二条条間 大路北側溝上 層(SD330003)	須恵 器	皿A	15.7	1.5	摩滅。不明/摩 滅。不明	灰白/灰白	1ミ以下長・ 石	1/8	
687	L399	B-6	B地区二条条間 大路北側溝上 層(SD330003)	須恵 器	皿A	15.8	0.9	回轉ナテ°・ヨコナ テ°/ヨコナテ°・回轉ナ テ°	暗乳白/暗 乳白	1ミ以下長・ チャ・ク	1/8	
688	L399	B-6	B地区二条条間 大路北側溝下 層(SD330003)	須恵 器	杯D	15.2	4.7	ヨコナテ°・回轉ナ テ°/ヨコナテ°・回轉ナ テ°	明灰/暗灰	1ミ以下長・ 黒	1/3	貼付高台
689	L399	B-6	B地区二条条間 大路北側溝上 層(SD330003)	須恵 器	壺蓋 B	5.4	2.4	回轉ナテ°・ヨコナ テ°/回轉ナテ°・ヨコ ナテ°	暗灰/淡灰	0.1ミ以下長・ チャ・石	1/4	
690	L385	B-5b	B地区二条条間 大路北側溝 (SD330003)	須恵 器	壺蓋 B	6.2	2.0	ナテ°/クスリ後ナ テ°・ナテ°	灰/灰	0.5ミ以下長 少量	1/3	
691	L399	B-6	B地区二条条間 大路北側溝上 層(SD330003)	須恵 器	壺蓋 B	10.0	(1.6)	ヨコナテ°・回轉ナ テ°/回轉ナテ°・回轉 ナテ°	淡紫灰/淡 青灰	2ミ以下長・ ク	3/8	
692	L399	B-6	B地区二条条間 大路北側溝上 層(SD330003)	須恵 器	壺蓋 B	15.1	(2.8)	ヨコナテ°・回轉ナ テ°/ヨコナテ°・回轉 ナテ°	灰白/灰白	0.5ミ以下長・ 石・ク	1/8	外面自然釉: 濁緑-濁緑褐
693	L399	B-6	B地区二条条間 大路北側溝下 層(SD330003)	須恵 器	壺H	12.8	(4.8)	ヨコナテ°・ナテ°/ヨコ ナテ°・ナテ°	明灰/明灰	殆ど無	1/3	
694	L399	B-6	B地区二条条間 大路北側溝下 層(SD330003)	須恵 器	壺L	9.8	(4.85)	回轉ナテ°/回轉ナ テ°	明灰/明灰	3ミ以下長・ 石	1/1	
695	L399	B-6	B地区二条条間 大路北側溝上 層(SD330003)	須恵 器	壺L	7.5	(3.6)	回轉ナテ°・ヨコナ テ°/回轉ナテ°・ヨコ ナテ°	淡緑灰/暗 濃灰	0.8ミ以下長・ チャ・石	7/8	
696	L385	B-5b	B地区二条条間 大路北側溝 (SD330003)	須恵 器	壺L?	—	(7.8)	回轉ナテ°/回轉ナ テ°・ヨコナテ°	淡青灰/淡 暗灰	0.5ミ以下長・ 石	破片	
697	L399	B-6	B地区二条条間 大路北側溝上 層(SD330003)	須恵 器	壺L	7.1	(6.6)	ヨコナテ°・回轉ナ テ°/ヨコナテ°・回轉 ナテ°	淡灰/灰	2ミ以下長・ 石・チャ・雲	1/12	
698	L399	B-6	B地区二条条間 大路北側溝下 層(SD330003)	須恵 器	壺M	(4.0)	(6.8)	回轉ナテ°/回轉ナ テ°	灰/灰-灰 白白	5ミ以下長・ 石・チャ	(1/1)	削出高台?
699	L399	B-6	B地区二条条間 大路北側溝上 層(SD330003)	須恵 器	壺M	(4.2)	(9.1)	回轉ナテ°/回轉ナ テ°	灰/灰-灰 白	3ミ以下長	(1/1)	貼付高台。口 縁部以外完 形
700	L399	B-6	B地区二条条間 大路北側溝上 層(SD330003)	須恵 器	壺L	—	(8.2)	回轉ナテ°/回轉ナ テ°・クスリ	淡青灰/淡 灰白	1ミ以下長	「1/2 」	
701	L399	B-6	B地区二条条間 大路北側溝下 層(SD330003)	須恵 器	甕A?	14.8	(2.7)	ヨコナテ°・回轉ナ テ°/ヨコナテ°・回轉 ナテ°	明灰/明灰	3ミ以下黒・ 雲	1/6	
702	L399	B-6	B地区二条条間 大路北側溝上 層(SD330003)	須恵 器	壺L?	12.0	(5.5)	ヨコナテ°・回轉ナ テ°/ヨコナテ°・回轉 ナテ°	明灰/明灰	5ミ以下長・ 石・ク	「1/1 」	口縁部殆ど 欠損

## 出土土器観察表

703	L399	B-6	B地区二条条間 大路北側溝上層 (SD330003)	須恵器	壺L?	(9.0)	(8.9)	回転ナテ <sup>+</sup> /回転ナテ <sup>+</sup> . 回転ケス <sup>リ</sup>	明灰/明黒灰	2ミ以下長	(2/3)	貼付高台. 自然釉
704	L399	B-6	B地区二条条間 大路北側溝上層 (SD330003)	須恵器	壺M?	(4.0)	(2.65)	回転ナテ <sup>+</sup> /回転ナテ <sup>+</sup> . ケス <sup>リ</sup>	灰/暗灰	1ミ以下長・石	(1/2)	削出高台
705	L399	B-6	B地区二条条間 大路北側溝上層 (SD330003)	須恵器	壺	(5.7)	(3.6)	回転ナテ <sup>+</sup> /回転ナテ <sup>+</sup>	灰白/灰白	砂粒微量	(2/3)	
706	L399	B-6	B地区二条条間 大路北側溝下層 (SD330003)	須恵器	壺L?	(7.2)	(3.2)	回転ナテ <sup>+</sup> /回転ナテ <sup>+</sup>	淡紫灰/淡灰	1ミ以下長・石・チャク	(5/8)	
707	L399	B-6	B地区二条条間 大路北側溝下層 (SD330003)	須恵器	壺G	(4.8)	(4.3)	摩滅. 不明/摩滅. 不明	明灰/灰	1ミ以下長・チャク・黒	(1/1)	
708	L399	B-6	B地区二条条間 大路北側溝下層 (SD330003)	須恵器	壺	(15.6)	(2.3)	回転ナテ <sup>+</sup> /回転ナテ <sup>+</sup>	灰/灰白	1ミ以下長・石・黒	(1/12)	
709	L399	B-6	B地区二条条間 大路北側溝上層 (SD330003)	須恵器	壺	(13.3)	(4.5)	回転ナテ <sup>+</sup> /回転ナテ <sup>+</sup>	灰/暗灰	ミ以下長・石・チャク	1/3	貼付高台
710	L399	B-6	B地区二条条間 大路北側溝上層 (SD330003)	須恵器	壺D	27.6	(12.2)	回転ナテ <sup>+</sup> /回転ナテ <sup>+</sup>	明淡灰/明淡灰	2.5ミ以下長・チャク・石・黒	1/4	
711	L385	B-5b	B地区二条条間 大路北側溝 (SD330003)	須恵器	平瓶?	(12.0)	(6.45)	回転ナテ <sup>+</sup> /回転ケス <sup>リ</sup>	淡青灰/淡青灰	2ミ以下長・石	(1/3)	
712	L399	B-6	B地区二条条間 大路北側溝上層 (SD330003)	原始灰釉	壺	28.6	(6.6)	ヨコナテ <sup>+</sup> ヨコナテ <sup>+</sup> . 回転ナテ <sup>+</sup> /回転ナテ <sup>+</sup>	灰白/灰白	1ミ以下長・石	1/4	釉: 淡緑灰
713	L399	B-6	B地区二条条間 大路北側溝上層 (SD330003)	須恵器	平瓶	9.7	(14.0)	ヨコナテ <sup>+</sup> . 回転ナテ <sup>+</sup> /ヨコナテ <sup>+</sup> . 回転ナテ <sup>+</sup> . 回転ケス <sup>リ</sup>	明灰/暗緑灰	2ミ以下長・石	1/3	胴部自然釉: 暗緑灰
714	L399	B-6	B地区二条条間 大路北側溝上層 (SD330003)	須恵器	平瓶	(18.1)	(7.8)	回転ナテ <sup>+</sup> /回転ナテ <sup>+</sup> . ケス <sup>リ</sup>	明灰/暗灰-灰白	4ミ以下長・石・黒	1/3	
715	L385	B-5b	B地区二条条間 大路南側溝 (SD330002)	土師器	皿A	15.7	3.1	ナテ <sup>+</sup> . ヨコナテ <sup>+</sup> /ヨコナテ <sup>+</sup> . ヘラケス <sup>リ</sup>	淡黄褐/淡黄褐	1ミ以下長・褐色ク・角・雲	5/8	Cc形態. b'手法. 外面黒斑
716	L399	B-6	B地区二条条間 大路南側溝下層 (SD330002)	土師器	皿A	17.7	2.4	回転ナテ <sup>+</sup> . /回転ナテ <sup>+</sup> . ヘラケス <sup>リ</sup> . 指痕	淡橙褐/暗淡褐	0.5ミ以下長・チャク・赤	1/8	Db形態. b手法
717	L315	B-2a	B地区二条条間 大路南側溝 (SD330002)	土師器	椀A	13.0	(3.6)	不明/ヘラケス <sup>リ</sup>	明淡黄褐/明淡黄褐	1ミ以下長・石・赤	1/6	Cb形態. c手法
718	L315	B-2a	B地区二条条間 大路南側溝 (SD330002)	土師器	高杯	—	(9.8)	ナテ <sup>+</sup> . 粘土巻き上げ痕/ミカキケス <sup>リ</sup> 後ナテ <sup>+</sup>	橙褐/橙褐	2ミ以下長・赤・石	破片	脚柱部断面8角形
719	L399	B-6	B地区二条条間 大路南側溝下層 (SD330002)	土師器	高杯	—	(9.0)	ホリ痕/ヘラケス <sup>リ</sup>	橙白/橙白	1ミ以下長・石・雲・チャク・雲	破片	脚柱部断面7角形
720	L399	B-6	B地区二条条間 大路南側溝下層 (SD330002)	土師器	高杯	—	(6.4)	ナテ <sup>+</sup> /ヘラケス <sup>リ</sup> . ヘラミカキ	淡橙褐/淡黒	2.5ミ以下長・石・ク・雲	破片	脚柱部断面7角形
721	L315	B-2a	B地区二条条間 大路南側溝 (SD330002)	須恵器	蓋B	7.8	(2.1)	回転ナテ <sup>+</sup> /回転ナテ <sup>+</sup>	灰/灰白	0.5ミ以下長・黒	1/5	外面自然釉
722	L315	B-2a	B地区二条条間 大路南側溝 (SD330002)	須恵器	蓋B	13.7	3.4	回転ナテ <sup>+</sup> /回転ナテ <sup>+</sup>	淡灰/淡灰	0.5ミ以下長・黒	7/8	自然釉
723	L399	B-6	B地区二条条間 大路南側溝下層 (SD330002)	須恵器	杯A	12.1	5.3	回転ナテ <sup>+</sup> /回転ナテ <sup>+</sup> . ヘラケス <sup>リ</sup>	灰白/灰白	1.5ミ以下長・黒	1/10	T形態
724	L315	B-2a	B地区二条条間 大路南側溝 (SD330002)	須恵器	杯B	14.1	4.85	回転ナテ <sup>+</sup> /回転ナテ <sup>+</sup> . 高台貼付	淡黄灰/淡黄灰	1ミ以下長・黒	1/2	T形態

725	L399	B-6	B地区二条条間 大路南側溝 (SD330002)	須恵 器	壺L	7.5	(6.6)	回転ナテ・回転ナ テ・回転ナテ・回 転ナテ	淡青灰/淡 青灰	2ミリ以下長・ 珩・石・黒	1/1	
726	L385	B-5b	B地区二条条間 大路南側溝 (SD330002)	須恵 器	壺M	(3.8)	(7.8)	回転ナテ・回転ナ テ・ヨコナテ	淡濁灰/淡 濁灰-淡灰 褐	1ミリ以下長・ 石	(1/1)	
727	L399	B-6	B地区二条条間 大路南側溝下 層(SD330002)	須恵 器	壺N	—	(20.7)	回転ナテ・回転ナ テ	暗紫灰/暗 紫灰	1ミリ以下長・ 石・ク	破片	胴部のみ
728	L385	B-5b	B地区二条条間 大路南側溝 (SD330002)	須恵 器	鉢D	21.8	16.9	回転ナテ・ヨコナ テ・回転ナテ・回転 ナテ・ヨコナテ	淡青灰-淡 紫褐/淡青 灰	1ミリ以下長・ 石	3/4	
729	L385	B-5b	B地区二条条間 大路南側溝 (SD330002)	須恵 器	平瓶	(8.8)	(5.6)	回転ナテ・回転ナ テ・ナテ・ヘリナテ	淡青灰/淡 青灰・淡灰 褐	1.5ミリ以下 長・石・黒	(1/1)	自然釉
730	L399	B-6	B地区二条条間 大路南側溝 (SD330002)	土師 器	皿C	8.0	(1.25)	ヨコナテ・ナテ・ヨコ ナテ・ナテ	淡灰褐/淡 灰褐	0.5ミリ以下 長	1/4	
731	L399	B-6	B地区二条条間 大路南側溝上 層(SD330002)	土師 器	皿A	14.0	2.9	ヨコナテ・ヨコナ テ	淡橙白/橙	2ミリ以下長・ 石・雲・珩・ 黒・赤	1/6	
732	L399	B-6	B地区二条条間 大路南側溝上 層(SD330002)	土師 器	壺B	15.9	(5.3)	ヨコナテ・ハケ後ナ テ・ヨコナテ・指痕	明赤灰褐/ 明黒灰褐	3ミリ以下長・ 石・雲	1/6	
733	L399	B-6	B地区二条条間 大路南側溝 (SD330002)	黒色	皿	13.2	(2.2)	ミカキ/ミカキ	暗黒灰/暗 黒灰	細かな石・ 白・雲	1/6	B類
734	L399	B-6	B地区二条条間 大路南側溝上 層(SD330002)	土師 器	甕A	18.0	(2.5)	ヨコナテ・タテナ テ・ナテ・指痕	暗黒灰/暗 黒褐	1ミリ以下長・ 石・雲	1/6	ス
735	L399	B-6	B地区二条条間 大路南側溝 (SD330002)	緑釉 須	皿	13.0	5.2	回転ナテ・回転ナ テ・回転ヘリナテ	明灰/暗灰	1ミリ以下長・ 石・雲・黒	1/8	貼付高台。I -w
736	L399	B-6	B地区二条条間 大路南側溝上 層(SD330002)	緑釉 須	皿	14.8	2.8	回転ナテ・回転ナ テ	明灰/暗灰 -灰	1ミリ以下長・ 石	1/6	削出高台
737	L399	B-7	B地区二条条間 大路南側溝 (SD330002)	須恵 器	皿	(6.6)	(1.35)	回転ナテ・回転ナ テ・底部糸切り 後回転ナテ	灰/灰	1ミリ以下長・ 黒	(1/2)	
738	L399	B-6	B地区二条条間 大路南側溝上 層(SD330002)	須恵 器	壺X?	23.0	(3.9)	ヨコナテ・回転ナ テ・ヨコナテ・回転ナ テ	淡灰褐/淡 赤灰	細粒1ミリ以下 長・石・褐	1/12	
739	L385	B-5b	B地区二条条間 大路南側溝 (SD330002)	灰釉 須	壺	(8.0)	(3.2)	回転ナテ・回転ナ テ	灰白/灰白	砂粒微量	(1/4)	貼付高台
740	L399	B-6	B地区二条条間 大路南側溝 (SD330002)	須恵 器	平瓶	—	(7.3)	回転ナテ・回転ナ テ	淡灰/黒灰	1ミリ以下長・ 石・珩・黒	「1/1 」	頸部のみ
741	L399	B-6	B地区二条条間 大路南側溝上 層(SD330002)	須恵 器	壺M	3.8	9.4	回転ナテ・回転ナ テ・凹線	明灰/明灰	1ミリ以下長・ 黒	1/1	完形。底部糸 切り
742	L399	B-6	B地区二条条間 大路南側溝上 層(SD330002)	須恵 器	壺M	(3.6)	(2.95)	回転ナテ・回転ナ テ・ナテ	明灰/明灰	細粒長・石	(1/1)	底部。糸切り 後ナテ
743	L399	B-6	B地区二条条間 大路南側溝 (SD330002)	須恵 器	甕A	(19.0)	(5.15)	回転ナテ・タテキ ・回転ナテ	黒灰/灰	3ミリ以下長・ 黒	(1/6)	
744	L399	B-6	B地区二条条間 大路南側溝上 層(SD330002)	緑釉 須	皿	16.1	3.28	回転ナテ・ミカキ ・回転ナテ・ナテ	暗灰/暗灰	1ミリ以下長・ 黒	1/4	削出高台。I -w
745	L399	B-6	B地区二条条間 大路南側溝上 層(SD330002)	緑釉	椀	17.5	(4.0)	回転ナテ・回転ナ テ	淡灰白/淡 灰白	1ミリ以下長	1/6	釉：乳黄緑
746	L399	B-7	B地区二条条間 大路南側溝 (SD330002)	緑釉	椀	(10.0)	(2.0)	回転ナテ・回転ナ テ・回転ナテ	灰/灰	0.5ミリ以下 長・黒	(1/2)	削出高台 I- w。内面陰刻 花紋

出土土器観察表

747	L399	B-6	B地区二条条間 大路南側溝 (SD330002)	緑釉	椀	(7.0)	(1.9)	ナテ <sup>°</sup> /ヘラクス <sup>°</sup> リ	明灰褐/明 灰褐	細粒長・石・ 雲	(1/4)	削出高台I- w. 釉:暗緑灰
748	L399	B-6	B地区二条条間 大路南側溝上 層(SD330002)	緑釉	椀	(7.0)	(1.8)	摩滅.不明/摩 滅.不明	淡乳褐/淡 黄褐	1ミ以下長・ 石・チャ	(3/4)	削出高台I- w
749	L399	B-6	B地区二条条間 大路南側溝上 層(SD330002)	緑釉	椀	(6.4)	(2.1)	ナテ <sup>°</sup> /ナテ <sup>°</sup> .回転ハ クス <sup>°</sup> リ	淡黒灰/淡 黒灰	細粒砂	1/1	貼付高台II- y2
750	L399	B-6	B地区二条条間 大路南側溝上 層(SD330002)	緑釉	椀?	(7.0)	(1.6)	回転ナテ <sup>°</sup> /回転ナ テ <sup>°</sup> .回転ヘラクス <sup>°</sup> リ	淡褐/淡褐	1ミ以下長・ 石	(1/3)	削出高台I- e. 釉:淡緑灰
751	L361	A-4	A地区東三坊大 路西側溝 (SD330001)	黒色	杯A	13.2	3.7	ミガキ/ヨコナテ <sup>°</sup> .底 部不明	黒/淡灰褐	2.5ミ以下長・ 石	1/3	Cc形態
752	L330	A-3	A地区東三坊大 路西側溝 (SD330001)	須恵 器	杯	—	—	回転ナテ <sup>°</sup> /回転ナ テ <sup>°</sup> .回転クス <sup>°</sup> リ	淡黄褐/淡 黄褐	0.5ミ以下長・ 石	破片	内面底部墨 書
753	L361	A-4	A地区東三坊大 路西側溝 (SD330001)	土師 器	甕A	19.2	(9.4)	ハケ.ヘラクス <sup>°</sup> リ.ヨコ ナテ <sup>°</sup> /ヨコナテ <sup>°</sup> .ハケ	淡濁茶褐/ 淡濁茶褐	1ミ以下長・ 石・チャ・角	1/8	A形態.ハケ 1.8-2.0ミ幅 9-10本
754	L361	A-4	A地区東三坊大 路西側溝 (SD330001)	土師 器	甕A	29.8	(6.6)	クス <sup>°</sup> リ後ナテ <sup>°</sup> .ヨコ ナテ <sup>°</sup> /ヨコナテ <sup>°</sup> .ハケ	淡黄褐/淡 黄褐	2.5ミ以下長・ 石	1/10	B形態.内面 滑らかにナテ <sup>°</sup> 仕上げ
755	L361	A-4	A地区東三坊大 路西側溝 (SD330001)	須恵 器	蓋A	16.2	(1.5)	回転ナテ <sup>°</sup> /回転ナ テ <sup>°</sup>	淡青灰/淡 青灰	0.5ミ以下長	1/12	
756	L361	A-4	A地区東三坊大 路西側溝 (SD330001)	須恵 器	蓋A	16.5	3.05	回転ナテ <sup>°</sup> /回転ナ テ <sup>°</sup>	灰/淡黄灰	2ミ以下長	1/5	内面全体ス または墨
757	L361	A-4	A地区東三坊大 路西側溝 (SD330001)	須恵 器	壺M	(4.4)	(7.0)	回転引き/回転 ナテ <sup>°</sup>	淡青灰/淡 青灰	5ミ以下長・ 黒	?	内面・割れ面 漆
758	L361	A-4	A地区東三坊大 路西側溝 (SD330001)	須恵 器	壺L	7.0	(6.5)	回転ナテ <sup>°</sup> /回転ナ テ <sup>°</sup>	淡灰/淡灰	1ミ以下長・ 黒少量	3/4	
759	L361	A-4	A地区東三坊大 路西側溝 (SD330001)	須恵 器	壺L	(6.5)	(15.8)	回転引き/回転 ナテ <sup>°</sup> .糸切り後 高台貼付	淡青灰/淡 青灰	2ミ以下長 極少量	7/8	底部外面ヘ 記号
760	L361	A-4	A地区東三坊大 路西側溝 (SD330001)	灰釉	壺L	(12.0)	(9.9)	回転ナテ <sup>°</sup> .指痕/ クス <sup>°</sup> リ	灰/茶灰	3ミ以下長・ 黒	(1/1)	貼付高台.猿 投
761	L361	A-4	A地区東三坊大 路西側溝 (SD330001)	灰釉	壺	(15.0)	(4.0)	回転ナテ <sup>°</sup> /回転ナ テ <sup>°</sup>	灰白/灰白	1ミ以下長	(1/4)	貼付高台. 釉:淡黄緑灰
762	L361	A-4	A地区東三坊大 路西側溝 (SD330001)	須恵 器	平瓶	(15.5)	(10.2)	回転引き/回転 ナテ <sup>°</sup>	暗紫灰/暗 灰	1ミ長少量	(1/3)	
763	L361	A-4	A地区東三坊大 路西側溝 (SD330001)	土師 器	土馬	—	10.1	ナテ <sup>°</sup> .指痕	乳白	2.5ミ以下 石・長	3/4	尾・後左脚 欠損
764	L361	A-4	A地区東三坊大 路東側溝 (SD329001)	土師 器	杯A	17.8	4.2	不明/クス <sup>°</sup> リ.ハケ	淡橙褐/淡 橙褐	0.5ミ以下長・ 石・チャ・ 褐	1/2	
765	L361	A-4	A地区東三坊大 路東側溝 (SD329001)	土師 器	甕A	18.0	(8.7)	ナテ <sup>°</sup> .ヨコナテ <sup>°</sup> /ヨコ ナテ <sup>°</sup> .ハケ	淡白黄褐/ 淡白褐灰	0.5ミ以下長・ 石	1/6	口縁B形態. 外面ス
766	L361	A-4	A地区東三坊大 路東側溝 (SD329001)	土師 器	甕A	23.2	(7.7)	不明/沈線.ハケ. 指痕	淡白黄褐/ 淡白褐	0.5ミ以下長・ 石	1/8	口縁B形態
767	L361	A-4	A地区東三坊大 路東側溝 (SD329001)	緑釉	火舎	(27.4)	(15.4)	ナテ <sup>°</sup> .回転ナテ <sup>°</sup> /ナ テ <sup>°</sup> .回転ナテ <sup>°</sup>	淡黄灰/淡 黄緑灰	5-1ミの長・ 石少量	(1/1)	底部以外に 緑釉:濁緑. 透穴
768	L361	A-4	A地区東三坊大 路東側溝 (SD329001)	須恵 器	壺L	(5.6)	(8.9)	回転引き/ナテ <sup>°</sup>	淡黄灰/淡 灰	極粗粒砂	(1/1)	高台ハケ痕?

769	L361	A-4	A地区東三坊大路東側溝 (SD329001)	須恵器	壺L	(7.2)	(1.6)	ナテ <sup>+</sup> /ナテ <sup>+</sup>	青灰/青灰	砂粒微量	(1/1)	粘土紐左巻き
770	L361	A-4	路面土坑 (SX361165)	須恵器	壺L?	(8.7)	(7.2)	回転ナテ <sup>+</sup> /指痕・回転ナテ <sup>+</sup> スリ, 回転ナテ <sup>+</sup>	灰/灰	2ミ以下長	(1/2)	
771	L361	A-4	路面包含層	土師器	杯A	13.6	3.9	不明/指痕, 不明	淡赤褐/淡赤褐	1ミ以下長・石・赤	1/4	Cb形態, e手法, 外面ス
772	L361	A-4	路面包含層	土師器	杯A	17.4	4.8	ヨコナテ <sup>+</sup> /ヨコナテ <sup>+</sup>	淡橙褐/淡橙褐	2.5ミ以下長・石・チャ・ク	1/5	Ba形態
773	L361	A-4	路面包含層	須恵器	杯A	9.9	3.45	回転ナテ <sup>+</sup> /回転ナテ <sup>+</sup> , 底部未調整	青灰/青灰	1ミ以下長・黒	1/5	底部未調整, 調整との境に段差
774	L361	A-4	路面包含層	須恵器	杯B	(12.0)	(4.5)	回転ナテ <sup>+</sup> /回転ナテ <sup>+</sup>	淡黄灰/淡黄灰	1ミ以下長・チャ	(1/7)	T形態, 貼付高台
775	L361	A-4	路面土坑 (SX361127)	須恵器	壺G	(6.4)	(16.6)	回転ナテ <sup>+</sup> /回転ナテ <sup>+</sup> , 底部糸切り	淡青灰褐/濃淡の青灰褐	1ミ以下長・赤	7/8	
776	L361	A-4	路面包含層	須恵器	壺L?	10.0	(6.8)	ヨコナテ <sup>+</sup> /ヨコナテ <sup>+</sup>	灰/灰	1.5ミ以下長・石・黒	1/4	
777	L361	A-4	路面土坑 (SX361143)	須恵器	甕B?	20.6	(8.3)	回転ナテ <sup>+</sup> , 指痕/回転ナテ <sup>+</sup> , 指痕	灰/灰	5ミ以下長	1/3	
778	L361	A-4	路面包含層	須恵器	円面硯	14.2	(2.8)	強いヨコナテ <sup>+</sup> /強いヨコナテ <sup>+</sup>	灰白/灰白	2ミ以下チャ	1/8	透窓20ヶ, 自然釉
779	L361	A-4	路面土坑 (SX361165)	土師器	土馬	—	(5.6)	指痕によるナテ <sup>+</sup>	淡褐-乳褐	1ミ以下長・雲・ク	破片	頭部のみ
780	L331	B-2b	B地区東三坊大路西側溝 (SD331001)	土師器	高杯	—	(10.7)	ヨコナテ <sup>+</sup> /ナテ <sup>+</sup> スリ, ヨコナテ <sup>+</sup> , 指痕	赤褐/赤褐	3ミ以下長・ク	破片	脚柱部断面8角形
781	L331	B-2b	B地区東三坊大路西側溝 (SD331001)	土師器	高杯	—	(11.0)	ホリ痕なし, 棒心製法/ナテ <sup>+</sup> スリ	淡黄灰褐/淡黄灰褐	2ミ以下白・黒	破片	脚柱部断面7角形
782	L331	B-2b	B地区東三坊大路西側溝 (SD331001)	土師器	甕A	21.8	(4.6)	ヨコナテ <sup>+</sup> 後ナテ <sup>+</sup> スリ/ヨコナテ <sup>+</sup> , タタキ	淡灰褐/淡灰褐	1ミ以下黒・白・雲	「1/5」	A形態
783	L331	B-2b	B地区東三坊大路西側溝 (SD331001)	須恵器	蓋A	16.7	(1.7)	回転ナテ <sup>+</sup> /回転ナテ <sup>+</sup>	暗青灰/暗青灰	0.5ミ以下長少量	1/10	
784	L331	B-2b	B地区東三坊大路西側溝 (SD331001)	須恵器	杯B	(9.5)	(1.0)	回転ナテ <sup>+</sup> /回転ナテ <sup>+</sup>	灰/灰	1ミ以下長・黒	(1/2)	外面一部ス
785	L331	B-2b	B地区東三坊大路西側溝 (SD331001)	須恵器	杯B	(10.0)	(1.7)	回転ナテ <sup>+</sup> /回転ナテ <sup>+</sup> , 高台貼付後回転ナテ <sup>+</sup>	灰白/灰白	細かな白・黒・雲	(1/6)	
786	L331	B-2b	B地区東三坊大路西側溝 (SD331001)	須恵器	杯B	(10.9)	(1.9)	回転ナテ <sup>+</sup> /回転ナテ <sup>+</sup>	灰白/黒灰	1ミ以下長・雲・黒	(1/5)	
787	L331	B-2b	B地区東三坊大路西側溝 (SD331001)	須恵器	杯B	(13.8)	(1.15)	回転ナテ <sup>+</sup> /回転ナテ <sup>+</sup>	暗灰/灰白	1ミ以下長・黒	(1/7)	
788	L331	B-2b	B地区東三坊大路西側溝 (SD331001)	須恵器	高杯	(7.6)	(5.1)	回転ナテ <sup>+</sup> /回転ナテ <sup>+</sup>	青灰/青灰	砂粒微量	(1/4)	
789	L331	B-2b	B地区東三坊大路西側溝 (SD331001)	緑釉	椀	(6.8)	(1.4)	回転ナテ <sup>+</sup> /高台ナテ <sup>+</sup> スリ後ナテ <sup>+</sup>	淡紫緑/淡白黄褐	2ミ以下黒	(3/5)	削出高台 I-j1
790	L331	B-2b	B地区東三坊大路西側溝 (SD331001)	緑釉須	椀	(7.8)	(2.3)	回転ナテ <sup>+</sup> /回転ナテ <sup>+</sup> スリ	淡灰-乳灰/淡灰-乳灰	0.5ミ以下長・黒	(1/2)	削出高台 I-j3, 内面ヘリ記号
791	L315	B-2a	B地区東三坊大路東側溝 (SD315003)	土師器	椀C	12.2	3.5	ヨコナテ <sup>+</sup> /ヨコナテ <sup>+</sup> , 指痕	乳白/淡桃褐	2ミ以下石・チャ・赤	7/8	Cc形態, e手法
792	L315	B-2a	B地区東三坊大路東側溝 (SD315003)	須恵器	杯B	12.8	4.3	回転ナテ <sup>+</sup> /回転ナテ <sup>+</sup>	灰/灰	0.5ミ以下長少量	1/16	T形態

## 出土土器観察表

793	L315	B-2a	B地区東三坊大路東側溝 (SD315003)	須恵器	杯B	18.2	6.2	回転ナテ <sup>*</sup> /回転ナテ <sup>*</sup> . 高台貼付	淡青灰/淡青灰	1ミリ以下長少量	1/2	H形態
794	L331	B-2b	B地区東三坊大路西側溝 (SD331001)	須恵器	杯A	(8.0)	(1.3)	回転ナテ <sup>*</sup> /回転ナテ <sup>*</sup>	灰色	0.5ミリ以下長・黒少量	(1/6)	墨書
795	L331	B-2b	B地区東三坊大路西側溝 (SD331001)	須恵器	杯A	—	(0.9)	ナテ <sup>*</sup> /ナテ <sup>*</sup>	灰白/灰白	0.5ミリ以下長・黒少量	破片	墨書
796	L315	B-2a	B地区東三坊大路東側溝 (SD315003)	土師器	土馬	—	(4.0)	北ナテ <sup>*</sup>	白肌灰	1ミリ以下長・石	1/2	頭部・脚部一部欠損
797	L303	B-1a	東四坊坊間西小路東側溝 (SD303002)	土師器	皿A	14.7	2.0	ヨコナテ <sup>*</sup> /ヨコナテ <sup>*</sup> . ハラスリ	橙褐-灰褐/橙褐	1-2ミリ長・石・チャク・雲	1/5	Cb形態・b手法
798	L303	B-1a	東四坊坊間西小路東側溝 (SD303002)	土師器	皿A	15.6	2.7	ヨコナテ <sup>*</sup> /ヨコナテ <sup>*</sup> . ハラスリ	淡橙褐-淡赤褐/淡橙褐-淡赤褐	1ミリ以下長・ク	3/4	Cc形態・b手法
799	L303	B-1a	東四坊坊間西小路東側溝 (SD303002)	土師器	皿A	19.5	2.4	ヨコナテ <sup>*</sup> /ヨコナテ <sup>*</sup> . 指痕. ハラスリ	淡桃褐/淡桃褐	1.5ミリ以下長・石・黒・赤	1/8	Bb形態・b手法
800	L385	B-8	東四坊坊間西小路東側溝 (SD385504)	土師器	皿A	20.6	2.1	ヨコナテ <sup>*</sup> /ヨコナテ <sup>*</sup> . 底部ナスリ	淡茶褐/淡茶褐	2ミリ以下赤・1ミリ以下長・石	1/4	Ab形態・b'手法
801	L385	B-8	東四坊坊間西小路東側溝 (SD385504)	須恵器	蓋A	13.6	2.6	回転ナテ <sup>*</sup> /回転ナテ <sup>*</sup>	青灰/青灰	砂粒微量	1/4	
802	L385	B-5b	東四坊坊間西小路東側溝 (SD303002)	須恵器	鉢D	17.7	13.9	ハケ. 回転ナテ <sup>*</sup> . ヨコナテ <sup>*</sup> /ハケ. ヨコナテ <sup>*</sup> . 回転ナテ <sup>*</sup>	淡紫灰/淡紫灰	1.5ミリ以下長・石	1/4	糸切り痕
803	L385	B-8	東四坊坊間西小路東側溝 (SD385504)	須恵器	鉢D	14.2 (6.0)	8.95	回転ナテ <sup>*</sup> /回転ナテ <sup>*</sup> . 底部糸切り後高台貼付	乳灰/乳灰	2ミリ以下黒・長	1/8 (1/1)	
804	L303	B-1a	東四坊坊間西小路東側溝 (SD303002)	土師器	甕A	24.6	(22.5)	指痕. ナスリ後ナテ <sup>*</sup> . ヨコナテ <sup>*</sup> /ヨコナテ <sup>*</sup> . 指痕. ナテハケ. ヨコハケ	淡赤褐-濃褐/淡黄褐-淡明赤褐	6ミリ以下長・石・チャク	2/3	B形態. 一部スス
805	L303	B-1a	東四坊坊間西小路路面包含層	土師器	杯A	15.6	2.9	ヨコナテ <sup>*</sup> . 口縁端部に沈線/ヨコナテ <sup>*</sup>	濃橙-淡橙/濃橙-淡橙	3.5ミリ長・石・ク	1/3	Ba形態. a手法?
806	L303	B-1a	東四坊坊間西小路路面包含層	土師器	皿A	20.8	2.5	ヨコナテ <sup>*</sup> /ヨコナテ <sup>*</sup>	黄褐/黄褐	2ミリ以下ク・雲	1/6	Cc形態. c'手法?
807	L303	B-1a	東四坊坊間西小路路面包含層	土師器	壺C	11.0	(2.9)	ヨコナテ <sup>*</sup> /ヨコナテ <sup>*</sup>	灰白/淡橙褐	1ミリ以下長少量	1/4	頭部・胴部のみ
808	L303	B-1a	東四坊坊間西小路路面包含層	須恵器	杯B	(9.9)	(2.6)	回転ナテ <sup>*</sup> /回転ナテ <sup>*</sup>	淡青灰/濃緑灰	砂粒微量	(1/8)	T形態?
809	L385	B-5b	路面土坑 (SX385548)	土師器	土馬	—	—	ナテ <sup>*</sup>	淡橙灰白	1ミリ以下長・石・雲	1/2	尾・脚部欠損
810	L385	B-5b	路面土坑 (SX385548)	土師器	碗A	13.0	3.4	ナテ <sup>*</sup> /ハラスリ	淡橙褐/淡橙褐	4ミリ以下ク・長・雲	1/1	Cc形態. c手法. 全体にいびつ
811	L385	B-5b	路面土坑 (SX385548)	土師器	碗A	12.4	3.2	ナテ <sup>*</sup> /ハラスリ	淡白桃褐/淡白桃褐	2ミリ以下石・長・ク・雲	1/2	Cc形態c手法. 全体にいびつ
812	L399	B-6	SD333004	土師器	甕A	24.7	(11.1)	摩滅. 不明/摩滅. 不明	淡赤褐/淡橙褐. 淡黄褐	5ミリ以下長・石・チャク	1/6	C形態
813	L399	B-6	SD333004	土師器	盤B	35.9	13.5	摩滅. 不明/摩滅. 不明	橙褐/橙褐	2.5ミリ以下長・石・ク・雲	1/16	
814	L385	B-8	埋甕遺構 (SK385552)	土師器	甕A	26.6	(25.5)	指痕後ハケ/ヨコナテ <sup>*</sup> /ヨコナテ <sup>*</sup> . ナテ <sup>*</sup> 後ハケ	淡茶黄白/淡茶黄白	3ミリ以下長・石・チャク	1/1	E形態. 外面スス



815	L385	B-8	埋甕遺構 (SK38552)	土師器	甕A	24.0	24.8	指痕、ハケ、ヨコハケ/ ヨコナデ、ハケ、指痕	淡橙茶灰/ 淡橙茶灰	1.5ミ以下 長・石・白・ 褐斑・黒	1/1	A形態、黒斑
816	L363	A-6b	二条条間北小路 北側溝 (SD362101)	土師器	蓋A	19.0	(2.5)	ヨコナデ、ミカキ	明黄褐/明 黄褐	0.5ミ以下 長・石	3/10	
817	L363	A-6b	二条条間北小路 北側溝 (SD362101)	土師器	ⅢA	15.2	(1.9)	ヨコナデ/ヨコナデ、ケ スリ	橙褐/橙褐	0.5ミ以下 長・石	1/8	Cb形態、b'手 法、
818	L363	A-6b	二条条間北小路 北側溝 (SD362101)	土師器	ⅢA	15.4	(2.3)	ナデ/ハラケスリ	淡桃褐/暗 黄灰	1ミ以下長・ 雲	1/4	Cc形態、c手 法
819	L363	A-6b	二条条間北小路 北側溝 (SD362101)	土師器	ⅢA	15.6	2.25	ヨコナデ/ヨコナデ、ハ ラケスリ	淡橙白/淡 橙褐	2ミ以下カ・ 1.5ミ以下 石・ヤ・雲	1/5	Cc形態、c手 法、
820	L363	A-6b	二条条間北小路 北側溝 (SD362101)	土師器	ⅢA	16.0	2.8	ヨコナデ/口縁部ヨ コナデ、以下不明	淡橙灰/濁 淡橙褐	2ミ以下長・ 石・1ミ以下 カ	1/32 (1/2)	Bb形態、a手 法
821	L363	A-6b	二条条間北小路 北側溝 (SD362101)	土師器	ⅢA	16.4	2.4	ヨコナデ/ヨコナデ、ハ ラケスリ	灰黄褐/淡 橙褐	0.5ミ以下 長・ヤ・ク	1/8	Ca形態、b'手 法、
822	L363	A-6b	二条条間北小路 北側溝 (SD362101)	土師器	ⅢA	18.8	(3.1)	ヨコナデ/ヨコナデ、ハ ラケスリ	橙乳白/淡 橙白	2ミ以下カ・1 ミ以下石多 量・雲	1/8	Bc形態、b手 法?
823	L363	A-6b	二条条間北小路 北側溝 (SD362101)	土師器	ⅢA	20.0	(2.5)	ヨコナデ/ヨコナデ	淡灰褐/淡 灰褐	1ミ以下石・ カ・雲	1/8	Bd形態、b手 法?
824	L363	A-6b	二条条間北小路 北側溝 (SD362101)	土師器	ⅢA	19.4	2.1	ナデ/指痕、ケスリ	淡橙灰褐/ 橙褐	2ミ以下長・ 赤	1/2	墨書土器、Ba 形態、c手法
825	L363	A-6b	二条条間北小路 北側溝 (SD362101)	土師器	ⅢA	16.8	2.7	ナデ/ナデ、ハラケス リ	桃褐-灰黄 /桃褐-灰 黄	0.5ミ以下 長・石・雲	5/8	Ca形態、b'手 法
826	L363	A-6b	二条条間北小路 北側溝 (SD362101)	土師器	碗A	12.4	(3.2)	ヨコナデ/ケスリ	灰褐/明橙 褐	1ミ以下石・ カ・雲	1/5	Bb形態、c手 法
827	L363	A-6b	二条条間北小路 北側溝 (SD362101)	土師器	碗C	12.9	(2.7)	ヨコナデ/ヨコナデ、 指痕	淡橙褐/淡 橙褐	5ミ以下長・ 石・ヤ・ク	1/6	Cc形態、e手 法
828	L363	A-6b	二条条間北小路 北側溝 (SD362101)	土師器	碗A	13.0	(3.2)	不明/不明	淡赤橙褐/ 濁赤橙褐	2ミ以下長・ 石・カ・雲	1/12 (1/4)	Cc形態、c手 法?
829	L363	A-6b	二条条間北小路 北側溝 (SD362101)	土師器	碗A	13.0	(3.1)	ヨコナデ/ケスリ	橙褐/橙褐	1ミ以下長・ 石・カ・雲	1/8	Cb形態、c手 法
830	L363	A-6b	二条条間北小路 北側溝 (SD362101)	土師器	高杯	—	(14.8)	粘土紐巻き上 げ、ヨコナデ/ケスリ	濃桃/濃桃 /ヤ・赤	1ミ以下長・ ヤ・赤	1/3	巻き上げ痕、 脚柱部断面7 角形
831	L362	A-6a	二条条間北小路 北側溝 (SD362101)	土師器	高杯	—	(7.9)	ホリ痕/ハラケスリ	茶褐/茶褐	1ミ以下長・ 石・雲・赤	破片	脚柱部断面9 角形
832	L363	A-6b	二条条間北小路 北側溝 (SD362101)	土師器	甕A	14.8	(4.35)	ナデ、ヨコナデ/ヨコ ナデ、ナデハケ	淡灰褐/淡 灰褐	0.5ミ以下 カ・雲	1/6	B形態
833	L363	A-6b	二条条間北小路 北側溝 (SD362101)	須恵器	杯B	16.8	(5.1)	ヨコナデ/ヨコナデ	淡青灰/青 灰	1ミ以下長・ 黒	1/5	N形態
834	L363	A-6b	二条条間北小路 北側溝 (SD362101)	原始 灰釉	蓋	19.2	5.85	ナデ/ヨコナデ、ハラ ケスリ?ナデ	青灰-黄灰 /淡茶	1.5ミ以下 長・黒	3/4	外面に釉、濁 緑
835	L363	A-6b	二条条間北小路 北側溝 (SD362101)	須恵器	壺G	8.0	(8.4)	回転ナデ/回転ナ デ	淡青灰/淡 青灰	1ミ以下長・ 石	「1/1 」	
836	L363	A-6b	二条条間北小路 北側溝 (SD362101)	須恵器	壺L	6.8	(3.7)	回転ナデ/回転ナ デ	暗灰/暗紫 灰	3ミ以下石・ 長・ヤ	「1/3 」	外面に自然 釉

## 出土土器観察表

837	L363	A-6b	二条条間北小路北側溝 (SD362101)	須惠器	甕	20.2	(4.1)	回転ナテ <sup>*</sup> /回転ナテ <sup>*</sup>	暗灰/暗青灰	2ミ以下長	1/6	
838	L363	A-6b	二条条間北小路北側溝 (SD362101)	緑釉	火舎	23.0	(9.3)	ヨコナテ <sup>*</sup> /ヨコナテ <sup>*</sup>	淡灰黄褐/淡褐灰	5ミ以下長・石・ヤ・雲	3/8	透窓は16ヶを想定
839	L363	A-6b	二条条間北小路南側溝 (SD362102)	土師器	杯A	19.0	4.0	ヨコナテ <sup>*</sup> /ヘラケス <sup>*</sup> リ	淡橙肌/淡橙肌	1ミ以下長・石・赤・雲	1/5	Bb形態.c手法
840	L363	A-6b	二条条間北小路南側溝 (SD362102)	土師器	皿A	16.6	1.8	ヨコナテ <sup>*</sup> /ヘラケス <sup>*</sup> リ	濁淡赤乳白/淡乳白	2ミ以下ク多量・石・雲	1/4	Cc形態.c手法
841	L363	A-6b	二条条間北小路南側溝 (SD362102)	土師器	皿A	17.2	2.2	ヨコナテ <sup>*</sup> /ヨコナテ <sup>*</sup> .ヘラケス <sup>*</sup> リ	淡桃肌/淡桃茶	1.5ミ以下長・石・赤	1/7	Cc形態.c手法
842	L363	A-6b	二条条間北小路南側溝 (SD362102)	土師器	碗A	12.0	3.4	ヨコナテ <sup>*</sup> /ヘラケス <sup>*</sup> リ	白肌/淡肌-淡橙	1ミ以下長・石・赤	1/5	Cc形態.c手法
843	L363	A-6b	二条条間北小路南側溝 (SD362102)	土師器	甕A	23.4	(7.0)	ヘラケス <sup>*</sup> リ.ヨコナテ <sup>*</sup> /ヨコナテ <sup>*</sup> .ハケ	淡黄褐/淡茶褐	6ミ以下長・石・ヤ・赤	1/10	H形態
844	L363	A-6b	二条条間北小路南側溝 (SD362102)	須惠器	蓋A	20.4	(1.4)	回転ナテ <sup>*</sup> /回転ナテ <sup>*</sup>	淡灰/淡灰	2ミ以下長・石・ヤ	1/12	
845	L362	A-6a	二条条間北小路南側溝 (SD362102)	須惠器	鉢D	19.5	(8.0)	回転ナテ <sup>*</sup> /回転ナテ <sup>*</sup> .ヘラケス <sup>*</sup> リ	淡灰/淡灰	1ミ以下長	1/3	頸部径2.4
846	L361	A-4	路面土坑 (SX361166)	須惠器	杯B	(14.0)	(2.0)	回転ナテ <sup>*</sup> /回転ナテ <sup>*</sup> .回転ケス <sup>*</sup> リ	淡灰/淡灰白	1ミ以下ヤ・長	(1/3)	
847	L361	A-4	路面土坑 (SX361154)	須惠器	杯B	17.2	5.0	ナテ <sup>*</sup> .回転ナテ <sup>*</sup> /回転ナテ <sup>*</sup> .ナテ <sup>*</sup>	青灰/青灰	1ミ以下長	(1/2)	N形態.口縁端部屈曲外反
848	L361	A-4	路面土坑 (SX361153)	須惠器	壺M	(8.0)	(2.5)	回転ナテ <sup>*</sup> .回転ナテ <sup>*</sup>	灰/灰	1ミ以下ク・長	(1/4)	
849	L361	A-4	路面土坑 (SX361153)	須惠器	壺L?	(8.0)	(4.6)	回転ナテ <sup>*</sup> /回転ナテ <sup>*</sup>	灰白/暗灰	1.5ミ以下石・長・黒	(1/4)	外面に自然釉.底部ヘラで削り未調整
850	L330	A-3	二条条間大路面土坑 (SX330019)	須惠器	甕A	50.2 (32.0)	45.4	タケ/ナテ <sup>*</sup>	淡灰青色	粗・細礫	1/3	体部下半ヘラケス <sup>*</sup> リ
851	L399	B-6・7	B地区二条条間大路南側溝 (SD330002)	須惠器	甕B	21.1	45.6	青海波タケ.ナテ <sup>*</sup> /青海波タケ	淡灰青色	5ミ以下長・ヤ	4/5	
852	L315	B-2	B地区二条条間大路南側溝 (SD330002)	須惠器	甕B	22.4	(38.6)	平行タケ/同心円タケ	灰黄褐/灰白	2.5ミ以下長・ヤ	[1/3]	
853	L384	A-5	B地区二条条間大路南側溝 (SD330002)	瓦	平瓦	厚1.5-1.75	—	凹布目痕/凸繩目タケ	凹濁黄灰褐/凸濁灰黄	2.5ミ以下長・ヤ・石・雲	破片	
854	L384	A-5	B地区二条条間大路南側溝 (SD330002)	瓦	平瓦	厚1.85-2.0	—	凹布目痕/凸繩目タケ	凹淡黒灰/凸淡黒灰	1ミ以下長・石・雲	破片	
855	L399	B-6	B地区二条条間大路南側溝 (SD330002)	瓦	軒平瓦	厚(1.6)	—	凹ナテ <sup>*</sup> /凸布目痕.ヨコナテ <sup>*</sup> .ヘラケス <sup>*</sup> リ	凹青灰/凸青灰	ミ以下長・石・ヤ	破片	久米寺式(奈文研6561)
856	L385	B-5b	B地区二条条間大路南側溝 (SD330002)	瓦	軒平瓦	厚5.8	—	凹布目痕.ケス <sup>*</sup> リ.糸切り痕/凸ケス <sup>*</sup> リ.ナテ <sup>*</sup>	凹濁灰乳白/凸淡暗灰	1-5ミ長・石・ヤ	破片	平城宮式6726B
857	L399	B-6	B地区二条条間大路北側溝上層 (SD330003)	不明	不明	厚(1.4)	—	凹ヨコナテ <sup>*</sup> /凸刺突	淡青灰	0.1ミ-2ミ以下長・ヤ・石	破片	不明品.長屋王邸・上京龍泉府に類例
858	L399	B-6	B地区二条条間大路南側溝下層 (SD330002)	磚		厚8.0	—	不明/不明	灰白	2ミ以下長・ヤ・石	破片	

859	L399	B-7	B地区二条条間 大路南側溝 (SD330002)	瓦	平瓦	厚 (1.2)	—	凹布目痕/凸ナ テ	凹灰/凸灰	5ミリ以下長	破片	
860	L399	B-6	B地区二条条間 大路南側溝 (SD330002)	瓦	平瓦	厚 (1.4- 1.7)	—	凹縄目タキ/凸 布目痕. ナテ消	凹淡黄灰/ 白/凸淡黒 灰	6ミリ以下長・ 石・雲	破片	凸面へら痕
861	L331	B-2b	B地区東三坊大 路西側溝 (SD331001)	瓦	軒平 瓦	厚6.8	—	凹ナスリ. 布目痕 /凸ナスリ. 縄目タ キ	凹黒灰/凸 黄褐	3ミリ以下長・ 石・チャヤヤ 多	破片	長岡宮式 7757Ac
862	L331	B-2b	B地区東三坊大 路西側溝 (SD331001)	瓦	軒平 瓦	厚6.7	—	凹面?/凸縄目タ キ	凹灰/凸灰/ 瓦当面. 黒灰	2ミリ以下長・ 石	破片	均整唐草文 軒平瓦6695A
863	L331	B-2b	B地区東三坊大 路西側溝 (SD331001)	瓦	軒平 瓦	厚 (3.2)	—	凹面取り痕. 布 目痕/凸不明	凹淡黄白 灰褐/凸不 明	2ミリ以下長・ 石	破片	難波宮式. 重 画文軒平瓦 6273D?
864	L331	B-2b	B地区東三坊大 路西側溝 (SD331001)	瓦	軒平 瓦	厚.54	—	凹ナスリ. 布目痕 /凸ナスリ	凹灰白褐/ 凸灰白褐	1ミリ以下長	破片	難波宮式. 重 画文軒平瓦 6273D?
865	L331	B-2b	B地区東三坊大 路西側溝 (SD331001)	瓦	軒平 瓦	厚5.0	—	凹ナスリ. 布目 痕. 糸切り痕/ 凸ナスリ	凹暗青灰/ 凸暗青灰	0.5ミリ以下 長	破片	難波宮式 6573D
866	L333	B-4	B地区東三坊大 路西側溝 (SD331001)	磚	—	—	—	不明/不明	灰白	4ミリ以下長・ 石・チャ	破片	(一部淡肌・ 黒灰)
867	L331	B-2b	B地区東三坊大 路西側溝 (SD331001)	瓦	平瓦	厚2.6- 2.8	—	凹布目痕/凸ナ スリ	凹暗茶-黒 /凸乳灰	4ミリ以下長・ 石・チャ多量	破片	
868	L331	B-2b	B地区東三坊大 路西側溝 (SD331001)	瓦	平瓦	厚2.2- 2.5	—	凹布目痕/凸縄 目痕	凹灰褐-黒 /凸灰	1ミリ以下長・ 石・黒・雲	破片	
869	L331	B-2b	B地区東三坊大 路西側溝 (SD331001)	瓦	平瓦	厚1.7- 2.0	—	凹布目痕. 糸切 り痕/凸縄叩き	凹黒灰-暗 灰/凸黒灰 -暗灰	3ミリ以下長・ 石	破片	
870	L385	B-5b	水路SD333005	瓦	丸瓦	厚 1.75- 2.3	—	凹布目痕/凸コ ナテ. ナスリ	凹濁灰白 褐/凸濁淡 灰白褐	3ミリ以下長・ 石・雲	破片	
871	L333	B-4	水路SD333005	土師 器	杯A	16.0	4.3	ヨコナテ/ヨコナテ. ハ ラクスリ	淡乳白/淡 白赤褐	2.5ミリ以下 石・赤・チャク	3/4	Ab形態. b' 手 法
872	L334	B-3	水路SD333005	土師 器	杯A	16.5	3.1	ヨコナテ/ハラクスリ	黄褐/黄褐	1ミリ赤	1/10	Cb形態. c 手 法
873	L334	B-3	水路SD333005	土師 器	杯A	19.6	3.8	ヨコナテ. 底部ハ ケ?/ハラクスリ. タ キ?	淡肌褐/肌	1ミリ以下長・ 石・チャク・雲	1/8	Cb形態. c 手 法
874	L385	B-8	水路SD333005	土師 器	杯A	18.9	3.7	指痕. ヨコナテ/ヨ コナテ. ハラクスリ	淡白桃/淡 白桃	0.05ミリ以下 赤・雲	1/6	Bb形態. c' 手 法. ピンク系
875	L385	B-8	水路SD333005	土師 器	杯A	20.0	(3.8)	ヨコナテ/ヨコナテ. ハ ラクスリ後ナテ	淡白桃/淡 白桃	1ミリ以下褐 斑・雲	1/5	Ab形態. c 手 法. ピンク系
876	L334	B-3	水路SD333005	土師 器	ⅢLA	14.6	1.9	不明/不明	淡褐/淡褐	1.5ミリ以下 長・チャク	1/14	Ea形態
877	L334	B-3	水路SD333005	土師 器	ⅢLA	15.0	2.3	ヨコナテ/ヨコナテ. 指痕	淡茶褐/濁 茶褐	3ミリ以下白	1/8	Da形態
878	L385	B-8	水路SD333005	土師 器	ⅢLA	15.6	3.0	ヨコナテ/ヨコナテ. 底部ナスリ	乳桃灰/乳 桃灰	1ミリ以下石	2/3	Cb形態. c 手 法. 墨書 「田」
879	L333	B-4	水路SD333005	土師 器	ⅢLA	15.7	2.05	ヨコナテ/ヨコナテ. 指痕	淡茶褐-淡 黄褐/淡茶 褐-淡黄褐	1ミリ以下ク・ 雲	3/8	Ba形態. b 手 法. ス
880	L333	B-4	水路SD333005	土師 器	ⅢLA	17.3	2.15	ナテ/ハラクスリ?	淡灰褐/淡 灰褐	1ミリ以下赤	1/12	Bb形態. c 手 法. ナスリ方向 不明
881	L385	B-8	水路SD333005	土師 器	ⅢLA	17.6	2.0	ヨコナテ/不明	淡灰茶/淡 灰茶	1ミリ以下長・ 石・赤	1/6	Cc形態. c 手 法
882	L334	B-3	水路SD333005	土師 器	ⅢLA	19.6	(2.8)	ヨコナテ/ヨコナテ. ハ ラクスリ	淡橙褐/淡 橙褐	2ミリ以下ク・ 長・雲	1/8	Ab形態. b 手 法

出土土器観察表

883	L334	B-3	水路SD333005	土師器	皿A	16.8	2.6	ヨコナテ°/ヨコナテ°. 底部未調整	褐/褐	粗粒砂	3/5	Ba形態.e手法. 墨書
884	L385	B-8	水路SD333005	土師器	碗A	12.9	3.9	ヨコナテ°/ヨコナテ°. ヘラクスリ	淡橙灰/淡橙灰-橙褐	0.5ミリ以下長・ チャ・赤・雲	3/4	Cc形態.c手法. 穿孔.
885	L334	B-3	水路SD333005	土師器	碗A	11.7	2.75- 3.85	ヨコナテ°/ヘラクスリ	橙褐/橙褐	1ミリ以下長・ チャ・赤	3/4	Cb形態.c手法. 口縁かなりの歪み
886	L334	B-3	水路SD333005	土師器	杯A	13.1	3.25	ナテ°/ヘラクスリ	橙褐/橙褐	砂粒微量	2/5	Cc形態.c手法
887	L385	B-5b	水路SD333005	土師器	碗A	11.6	3.45	ヨコナテ°/ヨコナテ°. 底部未調整	橙褐/橙褐	2ミリ以下長・ 石・チャ・赤	1/1	Cc形態.c手法. 全体にいびつ
888	L334	B-3	水路SD333005	土師器	碗C	13.6	4.2	ヨコナテ°/指痕	淡灰褐/淡灰褐	細かな白・ 雲	1/4	Cb形態.e手法
889	L333	B-4	水路SD333005	土師器	杯A	12.2	3.0	ナテ°/?	淡黄褐/淡黄褐	2ミリ以下長・ 赤	1/8	Cc形態.c手法
890	L334	B-3	水路SD333005	土師器	碗C	15.0	(3.1)	ヨコナテ°/ヨコナテ°. 指痕後ナテ°	淡赤褐/赤褐	3ミリ以下白・ 赤	1/5	Ce形態
891	L334	B-3	水路SD333005	土師器	壺B	17.8	(4.2)	ヨコナテ°/ヨコナテ°. ナテ°	肌-淡肌灰/肌	1ミリ以下長・ 雲・ク	1/7	
892	L334	B-3	水路SD333005	土師器	壺B	19.1	(4.05)	ヨコナテ°/ヨコナテ°	暗肌褐/肌	2ミリ以下長・ 雲・ク	1/6	
893	L333	B-4	水路SD333005	土師器	蓋A	22.1	(3.7)	ナテ°/ナテ°. ミカキ	橙褐/橙褐	3ミリ以下長・ 石・チャ・赤・ク	1/4	
894	L333	B-4	水路SD333005	土師器	杯A?	19.5	(4.9)	ナテ°/指痕	橙褐/橙褐	1.5ミリ以下 チャ・ク・石	1/8	Aa形態.e手法
895	L333	B-4	水路SD333005	土師器	杯B	26.0	7.6	ナテ°/ミカキ	橙褐/橙褐	2ミリ以下長・ 石・褐・雲	1/12	Bb形態.底面 ヘラクスリ?
896	L334	B-3	水路SD333005	黒色	杯A	17.8	5.15	ミカキ.暗/ミカキ	黒褐/黒褐 -茶褐	3.5ミリ以下 チャ・1ミリ以下 雲	2/3	
897	L333	B-4	水路SD333005	黒色	碗	20.1	6.1	ミカキ.暗/ミカキ	黒褐/黒褐	2.5ミリ白	7/10	
898	L385	B-8	水路SD333005	須恵器	杯A	12.0	3.5	回転ナテ°/回転ナテ°. 底部ヘラクスリ 後未調整	濃灰褐/淡灰褐	1ミリ以下黒	7/10	H形態
899	L385	B-8	水路SD333005	須恵器	杯A	16.2	3.2	回転ナテ°/回転ナテ°. 底部ヘラ切り 後ナテ°	淡黄灰/乳灰- 灰黄褐-暗灰	2ミリ以下長・ 石・黒	1/2	T形態
900	L385	B-8	水路SD333005	須恵器	杯B	15.5 (10.6)	5.0	回転ナテ°/回転ナテ°	淡暗黄灰/ 淡暗黄灰	3ミリ以下長・ 石・黒	1/16 (1/5)	H形態
901	L385	B-8	水路SD333005	須恵器	蓋A	9.8	2.85	回転ナテ°/回転ナテ°. 回転クスリ	濃茶紫灰/ 濃茶紫灰	2ミリ以下長・ 黒	1/1	
902	L385	B-8	水路SD333005	須恵器	蓋A	13.8	1.8	回転ナテ°/回転ナテ°	濁灰/濁灰	1ミリ以下長・ 黒	1/3	外面自然釉
903	L385	B-8	水路SD333005	須恵器	皿A	21.0	2.35	不明/不明	灰白/灰白	2.5ミリ以下 小石	1/16	K形態
904	L385	B-8	水路SD333005	須恵器	壺L	6.0	16.1	回転ナテ°/回転ナテ°. 底部糸切り 痕	灰-暗灰/ 灰-暗灰	2.5ミリ以下 長・石・黒	1/1	
905	L334	B-3	水路SD333005	須恵器	壺L	—	(5.8)	回転ナテ°/回転ナテ°	灰-濁青灰/ 濁青灰	1ミリ以下頁 岩・長	破片	
906	L334	B-3	水路SD333005	須恵器	壺L	—	(8.1)	回転ナテ°/回転ナテ°	灰-深緑/ 濁灰-深緑	2ミリ以下長・ 頁岩	破片	自然釉.粘土 紐痕
907	L334	B-3	水路SD333005	須恵器	壺	(8.0)	(7.8)	回転ナテ°/回転ナテ°	淡灰白褐/ 淡灰白褐	3ミリ以下黒・ 白	(1/4)	
908	L334	B-3	水路SD333005	須恵器	壺?	(8.6)	(1.4)	回転ナテ°/回転ナテ°. 高台貼付	灰/濁灰	1ミリ以下長・ 頁・雲	(1/2)	
909	L334	B-3	水路SD333005	須恵器	壺	(9.6)	(1.5)	回転ナテ°/回転ナテ°. 高台貼付	灰/濁灰	1ミリ以下長・ 頁岩	1/4	
910	L334	B-3	水路SD333005	須恵器	壺	(8.8)	(4.2)	回転ナテ°/回転ナテ°. 高台貼付	明灰-暗灰/ 濁灰-橙灰	4ミリ以下長・ 頁岩	(4/5)	内面一部自然釉

911	L334	B-3	水路SD333005	須惠器	壺	(7.4)	(2.5)	回転ナテ <sup>+</sup> /回転ナテ <sup>-</sup> .指痕後回転ナス <sup>リ</sup>	濁灰/灰白-灰	1ミリ以下長・雲・頁岩	(2/3)	
912	L385	B-8	水路SD333005	須惠器	鉢E?	(11.5)	(4.9)	回転ナテ <sup>+</sup> /回転ナス <sup>リ</sup> .底部へ切り	暗青灰/暗青灰	1.5ミリ以下長・黒	(1/4)	
913	L385	B-5b	水路SD333005	須惠器	鉢D	23.0	(9.0)	回転ナテ <sup>+</sup> /回転ナテ <sup>-</sup>	濁灰/濁灰	1ミリ以下長・黒	1/8	ス
914	L333	B-4	水路SD333005	須惠器	横瓶	10.0	(5.0)	回転ナテ <sup>+</sup> .指痕/回転ナテ <sup>-</sup> .タキ	淡灰褐/暗灰	2ミリ以下長・黒	1/3	自然釉:暗茶緑
915	L334	B-3	水路SD333005	須惠器	壺K?	10.0	(5.9)	回転ナテ <sup>+</sup> /回転ナテ <sup>-</sup> .高台貼付	灰/濁灰	1ミリ以下長	1/8	外面自然釉
916	L333	B-4	水路SD333005	土師器	土馬	—	(5.0)	ナテ <sup>+</sup>	淡橙褐-肌	3ミリ以下チャ・赤	1/3	残存長9.0
917	L331	D-2a	二条三坊十三町宅地包含層	土師器	皿A	16.1	2.85	ヨコナテ <sup>+</sup> /ナス <sup>リ</sup>	茶褐/茶褐	砂粒微量	2/5	Cb形態.c手法.内外面ス
918	L331	D-2a	二条三坊十三町宅地包含層	須惠器	杯A	12.6	3.2	回転ナテ <sup>+</sup> /回転ナテ <sup>-</sup>	淡黄灰/淡黄灰	0.5ミリ以下長少量	1/8	H形態
919	L331	D-2a	二条三坊十三町宅地包含層	須惠器	杯A	11.3	3.35	回転ナテ <sup>+</sup> /回転ナテ <sup>-</sup> .底部タキ	淡灰褐/暗灰-淡灰褐	砂粒微量	9/10	T形態
920	L331	D-2a	二条三坊十三町宅地包含層	土師器	高杯	27.7	(2.45)	ヨコナテ <sup>+</sup> /ナテ方向のナテ <sup>-</sup> .ミカキ	茶褐/黒褐	砂粒微量	1/6	外面ス
921	L331	D-2a	二条三坊十三町宅地包含層	土師器	甕A	25.8	(5.85)	ヨコナテ <sup>+</sup> /ヨコナテ <sup>-</sup> .指痕.タテハ	淡褐/淡褐	1ミリ以下長・石・黒少量	1/6	B形態.内外面ス
922	L331	D-2a	二条三坊十三町宅地包含層	須惠器	蓋A	9.2	1.6	回転ナテ <sup>+</sup> /回転ナテ <sup>-</sup>	青灰/青灰	砂粒微量	1/2	
923	L331	D-2a	二条三坊十三町宅地包含層	須惠器	蓋A	15.9	(1.55)	回転ナテ <sup>+</sup> /回転ナテ <sup>-</sup>	淡青灰/淡青灰	砂粒微量	1/3	
924	L331	D-2a	二条三坊十三町宅地包含層	須惠器	蓋A	17.1	(2.05)	回転ナテ <sup>+</sup> /回転ナテ <sup>-</sup>	淡灰/淡灰	0.5ミリ以下長少量	1/6	
925	L331	D-2a	二条三坊十三町宅地包含層	須惠器	蓋A	20.8	(1.0)	回転ナテ <sup>+</sup> /回転ナテ <sup>-</sup>	青灰/青灰	0.5ミリ以下長・石・黒少量	1/7	
926	L331	D-2a	二条三坊十三町宅地包含層	須惠器	壺K?	8.5	(9.0)	回転ナテ <sup>+</sup> /回転ナテ <sup>-</sup>	暗灰/暗灰	砂粒微量	[1/3]	外面自然釉
927	L331	B-2b	二条三坊十四町宅地包含層	土師器	杯A	17.2	(3.55)	ヨコナテ <sup>+</sup> /ハラナス <sup>リ</sup>	淡橙灰/淡橙灰	1ミリ以下長・ク・雲	1/6	Cc形態.c手法
928	L331	B-2b	二条三坊十四町宅地包含層	土師器	皿A	14.4	2.1	ヨコナテ <sup>+</sup> /ハラナス <sup>リ</sup> .底面にハ	淡橙灰褐/淡橙灰褐	1ミリ以下赤	1/6	Cb形態.c'手法
929	L331	B-2b	二条三坊十四町宅地包含層	土師器	皿A	16.4	(2.6)	ヨコナテ <sup>+</sup> /ナス <sup>リ</sup>	淡褐/淡褐	1ミリ以下長	1/10	Cc形態.c手法
930	L331	B-2b	二条三坊十四町宅地包含層	土師器	皿A	17.4	2.7	ヨコナテ <sup>+</sup> /ヨコナテ <sup>-</sup> .ハラナス <sup>リ</sup>	橙褐/橙褐	砂粒微量	1/5	Cc形態.c'手法
931	L331	B-2b	二条三坊十四町宅地包含層	土師器	皿A	19.0	2.2	ヨコナテ <sup>+</sup> /ヨコナテ <sup>-</sup> .ハラナス <sup>リ</sup>	淡橙灰褐/橙褐	3ミリ以下ク多量	1/6	Bb形態.c'手法
932	L331	B-2b	二条三坊十四町宅地包含層	土師器	皿A	19.8	(1.65)	ヨコナテ <sup>+</sup> /ヨコナテ <sup>-</sup> .ミカキ	赤灰褐/赤灰褐	1ミリ以下白・赤・雲	1/8	Bb形態.c'手法
933	L331	B-2b	二条三坊十四町宅地包含層	土師器	皿A	23.4	2.2	ヨコナテ <sup>+</sup> /不明	褐灰/褐灰	2ミリ以下長・チャ	1/12	Bc形態.c手法?
934	L331	B-2b	二条三坊十四町宅地包含層	土師器	碗A	14.0	3.45	不明/ハラナス <sup>リ</sup>	淡橙黄褐/淡橙黄褐	1ミリ以下長・黒	3/8	Cc形態.c手法
935	L331	B-2b	二条三坊十四町宅地包含層	土師器	碗A	14.7	(2.7)	ヨコナテ <sup>+</sup> /ハラナス <sup>リ</sup>	淡黄灰-暗茶灰/淡茶灰-暗茶灰	0.5ミリ以下長・ク・石	1/9	Cc形態.c手法
936	L331	B-2b	二条三坊十四町宅地包含層	土師器	高杯	—	(8.8)	ホ <sup>リ</sup> 痕なし/ナス <sup>リ</sup>	淡褐/淡褐	2ミリ以下長	破片	脚柱部断面8角形
937	L331	B-2b	二条三坊十四町宅地包含層	土師器	高杯	—	(9.3)	ホ <sup>リ</sup> 痕なし.棒心製法/ナス <sup>リ</sup>	赤褐/赤褐	1ミリ以下長	破片	脚柱部断面8角形
938	L331	B-2b	二条三坊十四町宅地包含層	土師器	甕A	16.0	(5.9)	ハ <sup>リ</sup> 後ナテ <sup>+</sup> ?ヨコナテ <sup>+</sup> /ヨコナテ <sup>-</sup> .指痕後ナテ <sup>+</sup>	淡黄褐/淡黄褐	0.5ミリ以下長・石	1/6	A形態.頸部ス

出土土器観察表

939	L331	B-2b	二条三坊十四町宅地包含層	土師器	甕A	12.0	(4.7)	ハヤ、ヨコナテ°/ヨコナテ°、不明	赤灰褐/赤褐	1.5ミ以下石・雲・1ミ以下長	1/4	
940	L331	B-2b	二条三坊十四町宅地包含層	土師器	甕A	17.0	(5.0)	指痕後ナテ°、ヨコナテ°/ヨコナテ°、タテハ後ナテ°、ナテ°	橙褐/橙褐	0.5ミ以下黒・雲	1/2	B形態、全体に黒くナテ°痕
941	L331	B-2b	二条三坊十四町宅地包含層	土師器	甕A	20.6	(5.9)	ヨコナテ°、ヨコナテ°/ハ後ヨコナテ°、ハ後ナテ°、指痕多数	黒/淡茶褐	2ミ以下長・雲	1/8	B形態、外面スス
942	L331	B-2b	二条三坊十四町宅地包含層	土師器	甕A	19.2	(6.8)	ヨコナテ°、不明/ヨコナテ°、不明	赤褐-暗赤褐/赤褐-暗赤褐	4ミ以下長・ヤ	1/10	C形態
943	L331	B-2b	二条三坊十四町宅地包含層	土師器	甕A	18.0	(6.8)	ヨコナテ°、不明/ヨコナテ°、指痕、タテハ	淡褐灰/暗茶褐	0.5ミ以下ク・雲	1/8	B形態、外面一部スス
944	L331	B-2b	二条三坊十四町宅地包含層	土師器	甕A	26.2	(4.7)	ナテ°?口縁部ヨコナテ°/指痕後ナテ°、タテハ	乳白/乳灰-淡橙褐	0.5ミ以下長・石・角多量	1/5	C形態
945	L331	B-2b	二条三坊十四町宅地包含層	須惠器	壺	(6.6)	(3.7)	回転ナテ°/回転ナテ°	暗灰/黒灰	白多量	(1/2)	
946	L331	B-2b	二条三坊十四町宅地包含層	須惠器	杯A?	(11.0)	(2.1)	回転ナテ°/回転ナテ°、ナテ°	灰白-灰/灰白-灰	細かな白・黒・雲	(1/6)	
947	L331	B-2b	二条三坊十四町宅地包含層	須惠器	杯A	12.1	3.4	回転ナテ°/回転ナテ°、底部クスリ痕	淡青灰/淡青灰	0.2ミ以下黒	1/8	H形態、内面底部墨痕、転用硯
948	L315	B-2b	二条三坊十四町宅地包含層	須惠器	杯A	14.0	3.3	回転ナテ°/回転ナテ°	灰白/灰白	0.5ミ以下長・ヤ	3/8	T形態、口縁部炭化物?
949	L331	B-2b	二条三坊十四町宅地包含層	須惠器	杯A	14.2	4.0	回転ナテ°/回転ナテ°、底部未調整	淡灰/淡灰-暗灰	やや粗・粗粒砂・極粗粒砂	3/8	T形態
950	L331	B-2b	二条三坊十四町宅地包含層	須惠器	蓋A	13.5	1.3	回転ナテ°/回転ナテ°	淡青灰/淡青灰-濃灰	2-1ミ黒い小石少量	1/10	内面墨痕
951	L331	B-2b	二条三坊十四町宅地包含層	須惠器	蓋A	17.9	(0.65)	回転ナテ°/回転ナテ°	灰/灰	0.5ミ以下長	1/12	
952	L331	B-2b	二条三坊十四町宅地包含層	須惠器	蓋A	18.2	(1.1)	回転ナテ°/回転ナテ°	淡灰/淡灰	0.5ミ以下長・黒少量	1/12	
953	L331	B-2b	二条三坊十四町宅地包含層	須惠器	杯B	(8.2)	(0.9)	回転ナテ°/回転ナテ°	暗灰/暗灰	1ミ以下長	(1/5)	
954	L331	B-2b	二条三坊十四町宅地包含層	須惠器	杯B	(9.2)	(1.5)	回転ナテ°/回転ナテ°	茶灰/濁暗灰	砂粒微量	(1/5)	
955	L331	B-2b	二条三坊十四町宅地包含層	須惠器	杯B	12.7	4.3	回転ナテ°/回転ナテ°	淡黄灰/淡黄灰	0.5ミ以下長・石・ヤ少量	1/5	N形態
956	L331	B-2b	二条三坊十四町宅地包含層	須惠器	杯B	(9.4)	(1.9)	回転ナテ°/回転ナテ°、底部ヘラスリ	灰/灰	1ミ以下長	(1/2)	
957	L331	B-2b	二条三坊十四町宅地包含層	須惠器	杯B	(10.0)	(2.1)	回転ナテ°/回転ナテ°、高台貼付後回転ナテ°	灰/灰	0.5ミ以下細かな白・黒	(1/4)	
958	L331	B-2b	二条三坊十四町宅地包含層	須惠器	杯B	(11.0)	(1.6)	回転ナテ°/回転ナテ°、高台貼付	灰/灰	1ミ長	(1/6)	
959	L331	B-2b	二条三坊十四町宅地包含層	須惠器	杯B	(11.6)	(2.2)	回転ナテ°/回転ナテ°、高台貼付後ナテ°	灰/灰	1ミ以下長・黒	(1/6)	
960	L331	B-2b	二条三坊十四町宅地包含層	須惠器	円面硯	11.6	(2.1)	回転ナテ°/回転ナテ°	灰白/灰白	1ミ以下長・石・ヤ・雲	1/8	
961	L331	B-2b	二条三坊十四町宅地包含層	須惠器	杯B	20.0	(7.3)	回転ナテ°/回転ナテ°	淡青灰/淡青灰	0.5ミ以下長・黒	1/10	T形態
962	L331	B-2b	二条三坊十四町宅地包含層	須惠器	蓋	24.85	4.25	回転ナテ°/回転ナテ°	淡灰褐-黒灰褐/淡灰褐-黒灰褐	粗粒砂多量	1/4	中心に孔
963	L331	B-2b	二条三坊十四町宅地包含層	須惠器	壺H	12.4	6.3	回転ナテ°/回転ナテ°	淡灰-灰白/淡灰-灰白	砂粒微量	1/8	外面スス
964	L331	B-2b	二条三坊十四町宅地包含層	土師器	土馬	—	(6.0)	ナテ°	淡橙褐/淡橙褐	細かな赤・白・黒		破片

965	L331	B-2b	二条三坊十四町宅地包含層	緑釉	火舎	24.6	(2.7)	回転ナテ <sup>°</sup> /回転ナテ <sup>°</sup>	淡黄褐/濃緑黒-淡緑灰	2ミリ以下長少量	破片	透窓.釉:銀化した黒緑
966	L331	B-2b	二条三坊十四町宅地包含層	瓦	刻印平瓦	厚1.6-1.8	長(14.1)	凹布目痕.ヨコナテ <sup>°</sup> /凸縄目ヲキ	凹淡黒灰/凸淡黒灰	1ミリ以下長・石少量	破片	「理」刻印
967	L331	B-2b	二条三坊十四町宅地包含層	瓦	丸瓦	厚1.1-1.3	長7.8	凹布目痕/凸ナテ <sup>°</sup> 消(2条の凹線あり)	凹濁灰/凸濁灰	1ミリ以下長・黒・石	破片	
968	L384	A-5	SB384111(P6)	須恵器	壺	(8.5)	(10.5)	回転ナテ <sup>°</sup> /ケス <sup>°</sup> リ.高台貼付後ナテ <sup>°</sup>	淡青灰/淡青灰	2ミリ以下長	(1/1)	内面焼きひずみ
969	L384	A-5	SE384108(井戸側内)	須恵器	甕	25.7	(1.4)	強くナテ <sup>°</sup> /やや強くナテ <sup>°</sup>	淡黄灰/淡黄灰	1ミリ以下黒	1/6	
970	L384	A-5	SE384108(井戸側内)	須恵器	杯B?	(11.0)	(3.55)	?/ケス <sup>°</sup> リ後ナテ <sup>°</sup> .高台貼付後強くナテ <sup>°</sup>	灰/灰	1ミリ以下長・黒	(1/6)	T形態
971	L384	A-5	SE384108(井戸側内)	須恵器	横瓶	8.3	(7.8)	回転ナテ <sup>°</sup> /ナテ <sup>°</sup> .回転ナテ <sup>°</sup> .強いナテ <sup>°</sup>	暗青灰/暗青灰	1.5ミリ以下長・3ミリ以下黒	[1/3]	
972	L330	A-3	SD330010	土師器	皿A	15.4	(2.9)	ヨコナテ <sup>°</sup> /ヨコナテ <sup>°</sup> .ケス <sup>°</sup> リ	淡桃褐/淡桃褐	1ミリ以下長・石・雲	1/7	Cc形態. b'手法
973	L330	A-3	SD330010	土師器	皿A	15.6	2.6	ヨコナテ <sup>°</sup> /ヨコナテ <sup>°</sup> .ハラケス <sup>°</sup> リ	淡白茶灰/淡茶灰	細粒砂わずかに含	1/5	Bc形態. c手法
974	L330	A-3	SD330010	土師器	皿A	15.5	(2.95)	ヨコナテ <sup>°</sup> /ヨコナテ <sup>°</sup> .ハラケス <sup>°</sup> リ	淡橙褐/深紅桃褐	細かな長	1/8	Cd形態. b'手法
975	L330	A-3	SD330010	土師器	皿A	14.1	2.45	ヨコナテ <sup>°</sup> /ヨコナテ <sup>°</sup> .ハラケス <sup>°</sup> リ	淡黄褐/淡黄褐	極粗砂粒長・黒・雲	破片	Cc形態. c'手法
976	L330	A-3	SD330010.SX330019	土師器	皿A	19.6	2.4	ヨコナテ <sup>°</sup> /ヨコナテ <sup>°</sup> .ハラ切り	灰褐/灰褐	1.5ミリ以下長・石	2/5	Cb形態. a手法
977	L330	A-3	SD330010	土師器	蓋A	23.0	3.45	ヨコナテ <sup>°</sup> .ミカキ?/ヨコナテ <sup>°</sup> .ミカキ.ケス <sup>°</sup> リ	淡褐/淡褐	1ミリ以下長・黒	1/2	内外面の摩滅激しい
978	L330	A-3	SD330010	土師器	皿B	23.7	4.2	ヨコナテ <sup>°</sup> /ヨコナテ <sup>°</sup> .ミカキ	淡橙褐/淡橙褐	0.5ミリ以下長・赤	1/16	Bc形態
979	L330	A-3	SD330010	土師器	皿B	24.2	4.7	ヨコナテ <sup>°</sup> /ヨコ方向ミカキ.強いヨコナテ <sup>°</sup>	淡橙褐/橙褐	3ミリ以下長・石・黒	7/10	Bc形態
980	L330	A-3	SD330010	土師器	碗A	11.8	(3.2)	ナテ <sup>°</sup> ?/ケス <sup>°</sup> リ	橙灰褐/橙灰褐	1.5ミリ以下長・ク・1ミリ以下石・雲	1/10	Cd形態. c手法
981	L330	A-3	SD330010	土師器	甕	14.5	(3.5)	ナテ <sup>°</sup> .ハケ.ヨコナテ <sup>°</sup> /ヨコナテ <sup>°</sup>	淡黄褐/淡黄褐	1.5ミリ以下長・褐	(1/5)	B形態. c手法. 外面口縁部ス
982	L330	A-3	SD330010	須恵器	蓋B	9.3	(1.15)	回転ナテ <sup>°</sup> /回転ナテ <sup>°</sup>	淡青灰/淡青灰	1ミリ以下長	1/5	
983	L330	A-3	SD330010	須恵器	蓋A	13.3	2.5	回転ナテ <sup>°</sup> /回転ナテ <sup>°</sup>	淡黄灰.墨/淡黄灰-暗茶灰	1ミリ以下長	1/3	転用硯.内面中央部墨
984	L330	A-3	SD330010	須恵器	蓋A	16.0	(1.1)	回転ナテ <sup>°</sup> /回転ナテ <sup>°</sup>	淡青灰/淡青灰	2ミリ以下長・黒	(1/8)	
985	L330	A-3	SD330017(SD330011)	須恵器	杯B	(7.2)	(2.3)	回転ナテ <sup>°</sup> /回転ナテ <sup>°</sup>	青灰/青灰	1.5ミリ以下長・黒	(3/4)	
986	L330	A-3	SD330017(SD330011)	須恵器	杯B	(10.5)	(1.8)	回転ナテ <sup>°</sup> /回転ナテ <sup>°</sup>	明灰-灰白/明灰-灰白	0.5ミリ以下長	(1/4)	高台中部凹状
987	L330	A-3	SD330010	土師器	壺A	14.6	(5.0)	ナテ <sup>°</sup> /ミカキ.ヨコナテ <sup>°</sup>	暗淡赤褐/濃褐-明橙褐	2ミリ以下長	(1/12)	断面/淡橙褐
988	L330	A-3	SD330010	須恵器	盤	35.6	(6.4)	ナマケ.ヨコナテ <sup>°</sup>	淡灰/淡灰	7ミリ以下長・ク・石・黒	1/8	
989	L330	A-3	SD330010	土師器	高杯	26.0	—	ナテ <sup>°</sup> ミカキ.ヨコミカキ/ナテ <sup>°</sup> ミカキ.ヨコミカキ	橙灰褐/橙灰褐	3ミリ以下長・ク・赤	破片	
990	L330	A-3	SD330017(SD330011)	土師器	製塩	11.0	(6.0)	ヒ <sup>°</sup> ナテ <sup>°</sup> /ヒ <sup>°</sup> ナテ <sup>°</sup>	赤褐/赤褐	5ミリ以下長・ク	1/4	

## 出土土器観察表

991	L330	A-3	SD330017 (SD330003)	緑釉	高杯	26.4	(2.7)	ナテ <sup>+</sup> /ヨコナテ <sup>+</sup> . ナテ <sup>+</sup>	橙褐/明淡黄褐	1ミリ以下ク・雲	1/4	軟陶. 緑釉点在. 摩滅激しい
992	L330	A-3	SD330010	須恵器	鉢A	23.3	(9.2)	回転ナテ <sup>+</sup> /回転ナテ <sup>+</sup>	淡青灰/淡青灰	1ミリ以下長	1/32	鉄鉢模倣
993	L330	A-3	SD330010	須恵器	盤A	(17.4)	(7.6)	回転ナテ <sup>+</sup> /回転ナテ <sup>+</sup> . 底部ヘリ切り?	淡灰/淡灰	1ミリ以下長・黒・カ・ク	(1/5)	
994	L384	A-5	二条三坊十四町宅地包含層	土師器	皿C	9.8	1.7	不明/不明	淡乳褐色/淡乳褐色	0.5ミリ以下長・石・1.5ミリ以下赤	1/4	Ca形態?e手法?
995	L330	A-3	二条三坊十四町宅地包含層	土師器	碗A	18.0	(3.1)	ヨコナテ <sup>+</sup> /ヨコナテ <sup>+</sup> . ナテ <sup>+</sup> ?	淡橙褐/淡橙褐	1.5ミリ以下ク・石・ク・雲	1/8	Bc形態.c手法?
996	L384	A-5	二条三坊十四町宅地包含層	土師器	壺B	15.0	7.6	指痕. ヨコナテ <sup>+</sup> /ヨコナテ <sup>+</sup> . ヘラクス <sup>+</sup> リ. 指痕	淡灰-淡茶褐/淡灰-淡茶褐	2ミリ以下長・石・赤	1/3	ボタン状粘土浮文
997	L330	A-3	二条三坊十四町宅地包含層	須恵器	蓋A	12.0	(0.9)	回転ナテ <sup>+</sup> /回転ナテ <sup>+</sup>	淡青灰/淡青灰	0.5ミリ以下長	(1/7)	内面長さ1cm・幅1ミリの線刻
998	L330	A-3	二条三坊十四町宅地包含層	須恵器	蓋A	—	(2.15)	回転ナテ <sup>+</sup> /回転ナテ <sup>+</sup> . 回転クス <sup>+</sup> リ	灰/灰	極細長	破片	7mm1/1
999	L384	A-5	二条三坊十四町宅地包含層	土師器	杯A	11.0	3.3	ナテ <sup>+</sup> /ナテ <sup>+</sup>	淡橙褐/淡橙褐	0.5ミリ以下黒	3/5	Cb形態. 手法不明
1000	L330	A-3	二条三坊十四町宅地包含層	須恵器	杯B	(11.4)	(1.15)	回転ナテ <sup>+</sup> /回転ナテ <sup>+</sup> . クス <sup>+</sup> リ	灰/灰	0.5ミリ以下長・黒	(1/8)	貼付高台. 形態不明
1001	L384	A-5	二条三坊十四町宅地包含層	須恵器	杯B	21.5	8.55	ヨコナテ <sup>+</sup> /ヨコナテ <sup>+</sup>	暗青灰/緑青灰	1ミリ以下長少量	1/12	H形態. 外面全体自然釉
1002	L330	A-3	二条三坊十四町宅地包含層	土師器	高杯	—	(15.9)	沁 <sup>+</sup> り痕跡なし(棒心製法)/クス <sup>+</sup> リ	赤褐/赤褐	1ミリ以下長・石・ク	1/4	脚柱部断面7角形
1003	L363	A-6b	SB363079. SD363120	黒色	杯A	12.6	2.9	不明/不明	黒/淡茶褐	2ミリ以下長・石・ク多量	1/6	Cc形態
1004	L363	A-6b	SB363079. SD363120	土師器	杯A	15.0	3.15	ヨコナテ <sup>+</sup> /ヘラクス <sup>+</sup> リ	茶褐/茶褐-黄褐	2ミリ以下長・石・赤	1/6	Cc形態.c手法
1005	L363	A-6b	SB363078. P8	土師器	杯A	15.0	3.2	指痕. ヨコナテ <sup>+</sup> /ヨコナテ <sup>+</sup> . ヘラクス <sup>+</sup> リ	茶褐/茶褐	1.5ミリ以下長・石・赤・黒	1/16 (1/2)	Cc形態.c手法
1006	L363	A-6b	SB363078. P4	土師器	杯A	17.8	(3.3)	ヨコナテ <sup>+</sup> /ヨコナテ <sup>+</sup> . クス <sup>+</sup> リ	暗橙褐/暗橙褐	1.5ミリ以下長・ク・ク・雲	1/12	Bc形態.b手法
1007	L362	A-6a	SB362116. P4	土師器	杯B	(11.8)	(4.4)	ナテ <sup>+</sup> /ナテ <sup>+</sup>	淡赤灰褐/赤橙褐	3ミリ以下ク・長	(1/4)	貼付高台
1008	L363	A-6b	SB363080. P12	土師器	杯B	19.7	5.2	ナテ <sup>+</sup> . 口縁部に沈線/底部クス <sup>+</sup> リ後ナテ <sup>+</sup>	淡褐/淡褐	4ミリ以下長	(1/4)	Bc形態.c手法?
1009	L362	A-6a	SB362117. P22	土師器	皿A	14.6	2.5	ナテ <sup>+</sup> /ナテ <sup>+</sup> . ヘラミガキ	淡褐/淡褐	1ミリ以下長・石・赤	1/8	Cc形態.c手法
1010	L363	A-6b	SB363081. P14	土師器	皿A	16.4	2.4	ナテ <sup>+</sup> /不明	灰黒-暗褐/暗桃褐-暗褐	1ミリ以下長・石・雲	1/6	Cb形態.c手法?内外面ス
1011	L362	A-6a	SB362116. P10	土師器	皿A	17.8	2.55	ナテ <sup>+</sup> . 沈線/ヘラクス <sup>+</sup> リ	淡黄灰/淡黄灰	砂粒微量	1/6	Bc形態.c手法?
1012	L363	A-6b	SB363082. P2	土師器	碗A	10.9	(3.25)	ヨコナテ <sup>+</sup> /ヨコナテ <sup>+</sup> . クス <sup>+</sup> リ	淡茶褐/淡茶褐	1ミリ以下長・ク・ク・雲	1/8	Ca形態.c手法
1013	L363	A-6b	SB363078. P4	土師器	碗A	11.2	3.5	不明/不明	橙茶褐/橙茶褐	1ミリ以下長・石・ク・ク・雲	1/4	Cc形態.c手法?
1014	L363	A-6b	SB363079. P6	土師器	碗A	12.9	3.65	ナテ <sup>+</sup> /全面クス <sup>+</sup> リ	橙褐/橙褐	2ミリ以下長・ク・ク・ク・雲	3/4	Cc形態.c手法
1015	L363	A-6b	SB363078. P8	土師器	甕A	12.6	(7.3)	指痕. ナテ <sup>+</sup> . ヨコナテ <sup>+</sup> /ヨコナテ <sup>+</sup> . 体部ヨコナテ <sup>+</sup> . ナテ <sup>+</sup> ハク	橙褐/橙褐	0.5ミリ以下長・石・ク多量	1/4	B形態
1016	L362	A-6a	SB362117. P21	土師器	甕A	16.2	(8.2)	ヨコナテ <sup>+</sup> . 指痕/ハク	淡黄褐-乳褐/淡黄褐-乳褐	3ミリ以下赤・長・石	1/5	C形態. 外面全体いびつ



1017	L363	A-6b	SB363080.P15	土師器 盤B	21.2	4.7	ナテ°.口縁部に沈線/ナテ°.不明	淡黄褐灰/淡橙褐	2ミ以下長・石・赤・ク・雲	1/8	
1018	L363	A-6b	SB363079.P13	黒色 杯A	16.2	4.05	ミカキ.暗.口縁に一条の沈線/ナテ°後ミカキ	黒/口縁端部黒褐.濁淡褐	3.5ミ以下石・ク	1/1	
1019	L362	A-6a	SB362118.P12	黒色 杯A	13.3	3.8	ミカキ/ナテ°後ナテ°	黒褐/黒褐.1部橙褐	3ミ長・石	7/8	口縁端部1ヶ焼けコケ°痕
1020	L363	A-6b	SB363078.P4	黒色 ミニチュア7甕	11.1	(2.9)	ミカキ/不明	黒/赤褐-暗褐	2ミ以下長・石・雲	1/12	H形態
1021	L363	A-6b	SB363079.P12	須恵器 蓋A	10.5	(1.6)	ヨコナテ°/ヨコナテ°.ケス°リ	暗青灰/暗青灰	1ミ以下長・ナ多量	1/8	
1022	L362	A-6a	SB362117.P20	須恵器 蓋A	18.8	(1.3)	ヨコナテ°/ヨコナテ°.ケス°リ後ナテ°	青灰白/青灰白	0.5ミ以下長	1/10	
1023	L362	A-6a	SB362117.P22	須恵器 杯B	(11.7)	(2.5)	ヨコナテ°/ヨコナテ°.底面は未調整?	淡青灰/淡青灰	砂粒微量・3ミ以下長多量	(1/5)	
1024	L362	A-6a	SB362116.P10	須恵器 風字硯	—	(3.35)	ケス°リ/ケス°リ	灰/灰	1ミ以下黒・長	破片	脚部破片
1025	L362	A-6a	SB362117.P22	須恵器 円面硯	—	(9.9)	回転ナテ°/回転ナテ°/断面ケス°リ	濁橙灰/濁橙灰	0.5ミ以下長	破片	脚部破片
1026	L362	A-6a	SB362117.P4	須恵器 壺L	8.2	(6.4)	ヨコナテ°/ヨコナテ°.ナテ°	淡紫灰/濃紫青灰	0.8ミ以下長	[2/5]	内外面自然釉
1027	L363	A-6b	SB363080.P14	須恵器 壺L	(7.0)	(10.2)	回転ナテ°/ヘラケス°リ	灰-淡灰/灰-淡灰	3ミ以下長・黒多量	(1/1)	転用硯の可能性
1028	L362	A-6a	SA362120.P6	須恵器 壺L	(9.6)	(3.7)	ナテ°/ヨコナテ°	淡青灰/淡青灰	0.5ミ以下長・黒	(2/3)	貼付高台
1029	L363	A-6b	SB363080.P17	須恵器 甕A	23.7	(3.0)	回転ナテ°/回転ナテ°.ヘラケス°リ	淡灰/淡灰	1ミ以下長・黒	1/9	
1030	L363	A-6b	SB363080.P11	須恵器 甕	29.4	(9.5)	回転ナテ°/回転ナテ°.タタキ	灰/灰	0.5ミ以下黒	1/9	
1031	L384	A-5	SE384092	土師器 皿	9.0	1.9	ナテ°/ナテ°	明橙褐-赤肌/明橙褐-赤肌	5ミ以下長・ナ	1/3	Ca形態.e手法
1032	L363	A-6b	SE363084	土師器 椀A	13.5	(3.6)	ヨコナテ°/ヨコナテ°.ケス°リ	橙褐/暗橙褐	細かな長・雲・ク	1/8	c'手法Cc形態
1033	L384	A-5	SE384092	土師器 甕A	18.9	(6.3)	ヨコナテ°.ナテ°.指痕/タテハケ.ナテ°.指痕	淡橙褐/明淡黄褐	1ミ以下長・雲・赤	1/16	B形態.長岡京期
1034	L363	A-6b	SE363084	須恵器 杯B	(11.0)	(4.5)	回転ナテ°/回転ナテ°	乳灰/乳灰	0.5ミ以下長・黒	(1/5)	T形態
1035	L363	A-6b	SE363084	須恵器 壺L	(7.9)	(17.6)	ナテ°/ナテ°.ユビナテ°	暗青灰褐/暗青灰褐	1.5ミ以下長・黒	(1/1)	糸切り痕.自然釉
1036	L363	A-6b	SK363105	須恵器 蓋A	17.8	3.2	ヨコナテ°.指痕.ハケ°/ヨコナテ°	淡黄灰/淡褐灰	2ミ以下黒	7/8	口縁部付近に自然釉.焼き歪み
1037	L363	A-6b	SK363105	須恵器 杯B	17.8	6.4	回転ナテ°.ナテ°/回転ナテ°.ヨコナテ°.底部ケス°リ	淡濁青灰/淡濁青灰	2ミ以下長多量	1/4	T形態.高台中央くぼむ
1038	L363	A-6b	SK363105	灰釉 水滴	—	(3.75)	不明/施釉	淡明灰/淡明灰	0.5ミ以下長・黒	3/4	釉:淡灰緑
1039	L362	A-6a	SK362100	二彩 小壺蓋	4.9	(1.0)	回転ナテ°/回転ナテ°	肌/肌	砂粒なし	5/6	褐釉・緑釉
1040	L362	A-6a	SK362100	二彩 小壺	3.8	4.9	回転ナテ°/回転ナテ°	肌/肌	砂粒なし	1/1	褐釉・緑釉
1041	L363	A-6b	SD363104	土師器 杯A	13.8	4.1	ヨコナテ°/ヨコナテ°.不明	明橙褐/明橙褐	4ミ以下長・石	1/6	Cc形態.手法不明
1042	L362	A-6a	SD362130	土師器 杯A	16.5	(3.3)	不明/不明	淡黄褐/淡黄褐	4ミ以下長・赤	1/2	Bb形態.手法不明
1043	L362	A-6a	SD362105	土師器 蓋A	19.7	(2.3)	ナテ°/ミカキ	淡黄褐/淡黄褐	1ミ以下長・赤・雲・ク	1/12	
1044	L363	A-6b	SD363087	黒色 蓋A	22.6	5.3	ミカキ/ヨコナテ°.ナテ°	黒/黒	1ミ以下長・石・ナ	1/5	

## 出土土器観察表

1045	L362	A-6a	SD362105	土師器	蓋A	26.0	(3.9)	ヨナテ°/ミカキ	淡橙褐/淡橙褐	2ミ以下長・5・赤・ク	1/5	
1046	L362	A-6a	SD362105	土師器	蓋A	27.0	4.1	ヨナテ°/ヨナテ°・ミカキ	橙褐/黄褐	2ミ以下長	1/2	
1047	L363	A-6b	SD363087	土師器	杯A	19.8	(3.9)	ヨナテ°/不明	赤茶褐/赤茶褐	2ミ以下長・石・雲	1/10	Ba形態.手法不明
1048	L363	A-6b	SD363087	土師器	杯A	28.0	(6.3)	ヨナテ°/ミカキ	淡橙褐/淡橙肌	1ミ以下石・雲	1/9	Bc形態.e3手法
1049	L362	A-6a	SD362105	土師器	皿C	9.5	1.75	ヨナテ°.指痕/ヨナテ°.指痕	乳白/乳白	2.5ミ以下石・ヤ	1/8	Ca形態.e手法
1050	L363	A-6b	SD363087	土師器	皿A	14.4	2.1	ヨナテ°/指痕.ケスリ?	淡黄灰/橙褐	砂粒微量	1/6	Dc形態.c手法
1051	L363	A-6b	SD363087	土師器	皿A	15.1	1.9	不明/ケスリ.不明	橙褐/橙褐	1.5-2.0ミ以下長・石多量	1/8	Cc形態.c手法
1052	L363	A-6b	SD363087	土師器	皿A	15.6	2.8	ナテ°?不明/ヘラケスリ?不明	淡橙褐/淡橙褐	1ミ以下長・ヤ・雲	1/16	Cc形態.手法不明
1053	L362	A-6a	SD362111	土師器	皿A	16.0	3.0	ナテ°/ナテ°.ヘラケスリ	淡橙褐/淡橙褐	2.5ミ以下長・石・雲・ヤ	2/3	Cc形態.c手法
1054	L362	A-6a	SD362109	土師器	皿A	16.3	2.6	ヨナテ°/ヘラケスリ	淡灰褐/淡橙褐	1.5ミ以下長・石・ヤ	1/2	Cc形態.c手法
1055	L362	A-6a	SD362109	土師器	皿A	16.2	2.55	ナテ°/ヘラケスリ	淡橙褐/乳白	1ミ以下石・ク	1/10	Cc形態.c手法?
1056	L363	A-6b	SD363087	土師器	皿A	16.5	2.4	不明/ケスリ.不明	淡黄灰/淡黄灰	2ミ前後粗粒砂	3/8	Cb形態.c手法
1057	L362	A-6a	SD362105	土師器	皿A	16.8	(2.2)	指痕エ.ヨナテ°/ケスリ後ナテ°.ヨナテ°	淡橙褐色/淡橙褐色	2ミ以下長・石・ク	1/4	Cd形態.c手法
1058	L362	A-6a	SD362111	土師器	皿A	18.9	2.35	指痕.ヨナテ°/ヨナテ°.ヘラケスリ	淡赤灰褐/灰褐	2.5ミ以下長・石・雲・ク	1/8	Aa形態.b'手法
1059	L363	A-6b	SD363087	土師器	皿A	18.8	2.0	不明/ヨナテ°	赤茶/赤茶	0.5ミ以下長	1/7	Bb形態.c手法?
1060	L363	A-6b	SD363087	土師器	皿A	21.7	2.4	ヨナテ°/ヨナテ°.ヘラケスリ	明橙灰褐/明橙灰褐	2.5ミ以下長・石・赤・ク	1/2	Bc形態.b'手法
1061	L363	A-6b	SD363087	土師器	碗A	11.1	3.25	ナテ°/指痕.ヘラケスリ	淡橙褐/淡橙灰褐	2ミ赤	1/6	Cc形態.c手法
1062	L363	A-6b	SD363087	土師器	碗A	12.5	3.9	不明/ケスリ.不明	暗橙褐/暗橙褐	1-3ミ長多量	3/4	Cb形態.c手法
1063	L362	A-6a	SD362114	土師器	碗C	12.5	3.65	指頭ナテ°.ヨナテ°/ヨナテ°	橙褐/橙褐	1ミ以下長・ク少量	1/2	Cc形態.e手法
1064	L362	A-6a	SD362105	土師器	碗A	13.2	(2.5)	ナテ°/ナテ°	淡赤黄灰褐/淡赤褐	1ミ以下長・ク	1/8	Cc形態
1065	L362	A-6a	SD362105	土師器	碗A	14.1	3.5	指痕.ヨナテ°/ケスリ後ナテ°.ナテ°	淡黄褐/淡黄褐	1.5ミ以下長・石・ク	1/5	Cb形態.c手法
1066	L362	A-6a	SD362105	土師器	碗C	14.5	3.0	指痕後ヨナテ°/ヨナテ°.ケスリ後ナテ°	淡黄褐-乳褐/淡黄褐-乳褐色	1ミ以下赤・ク・雲	1/8	Cc形態.e手法
1067	L363	A-6b	SD363104	土師器	碗A	15.0	(3.1)	ヨナテ°/ヨナテ°.ケスリ	淡橙灰褐/明橙褐	1ミ以下長・ク・雲	1/5	Cc形態.c手法
1068	L362	A-6a	SD362134	土師器	甕A	12.7	(4.2)	ヘラケスリ.ヨナテ°/ヨナテ°.指痕.ハ	暗茶灰/灰褐	3ミ以下長・石・ヤ	1/3	E形態
1069	L362	A-6a	SD362105	土師器	壺F	10.9	(4.7)	?	淡赤黄灰褐/赤褐	2ミ長・ク	1/8	
1070	L363	A-6b	SD363104	土師器	甕A	22.4	(6.5)	指痕.ナテ°.ナテ°後ハ/ヨナテ°.ナテ°	淡黄白-灰褐/淡黄灰白	2ミ以下長・石・雲・褐	1/9	B形態
1071	L363	A-6b	SD363086	土師器	高杯	—	(15.3)	ホ°り痕/ケスリ.ヨナテ°.ナテ°	黄灰/黄灰-橙	0.5-1ミ赤	破片	脚柱部断面7角形
1072	L362	A-6a	SD362130	黒色	杯A	16.0	(3.7)	ヘラミカキ.ヨナテ°/ヨナテ°.ナテ°	暗黒/上部.暗黒.下部.濁灰褐	3ミ以下石・長・黒・雲	1/8	

1073	L362	A-6a	SD362105	黒色	杯A	21.4	6.1	ミカキ/ミカキ	黒/茶褐	2ミ以下長・石・珩・頁岩	1/10	
1074	L362	A-6a	SD362105	黒色	杯A	28.05	6	ミカキ/ミカキ	黒褐/黒褐.黄褐.淡赤橙褐	4ミ以下長	1/1	
1075	L363	A-6b	SD363087	黒色	杯A	12.25	3.5	不明/不明	黒/黒-茶褐	3ミ以下長・石	1/5	
1076	L363	A-6b	SD363087	黒色	杯A	12.0	3.75	ミカキ/不明	黒/茶褐	3ミ以下長・石	1/4	
1077	L363	A-6b	SD363087	黒色	碗A	12.5	3.6	ミカキ.暗/不明	黒/黒-茶褐	1ミ以下長・石	7/8	暗文数ヶ
1078	L362	A-6a	SD362105	須恵器	蓋A	—	(1.65)	不明/不明	灰白/灰白-濁灰	2ミ以下長・石・珩	1/5	珩径2.1
1079	L362	A-6a	SD362130	須恵器	蓋A	15.8	(0.8)	ヨコナテ°/ナテ°.ケスリ	青灰/青灰	2ミ以下長・褐・ク	1/8	転用硯
1080	L363	A-6b	SD363104	須恵器	杯A	13.3	3.3	回転ナテ°/ヨコナテ°.回転ナテ°	灰白黄/灰白黄	1ミ以下長	(1/5)	H形態
1081	L362	A-6a	SD362105	原灰釉	円面硯	(17.0)	(2.6)	ヨコナテ°/ヨコナテ°	緑灰褐/緑灰褐	2ミ前後中粒砂	(1/5)	透窓18ヶ.内外面に施釉
1082	L362	A-6a	SD362105. SD362111	須恵器	円面硯	26.8	9.4	ヨコナテ°/ヨコナテ°	淡青灰/淡青灰	5ミ以下長	(3/8)	透窓28ヶ
1083	L363	A-6b	SD363104	須恵器	壺L	7.3	(4.1)	回転ナテ°/回転ナテ°	灰/灰	2ミ以下長・雲	1/5	内外に自然釉:深緑
1084	L362	A-6a	SD362125	須恵器	壺M	—	(5.0)	回転ナテ°/回転ナテ°.ヘラクスリ	淡灰/淡灰	1ミ以下長	「1/1」	外面全体に釉:黒灰
1085	L363	A-6b	SD363087	須恵器	壺G	7.0	(3.3)	回転ナテ°/回転ナテ°	濁暗緑灰/濁暗緑灰	0.5ミ以下長	1/3	内面に指紋
1086	L363	A-6b	SD363087	須恵器	壺G	6.3	19.6	ナテ°/ナテ°	灰/暗灰	2ミ以下長・黒	1/6	糸切り底
1087	L363	A-6b	SD363087	土師器	壺A?	18.0	(5.8)	ナテ°.ヨコナテ°/不明	淡茶褐/淡茶褐	5ミ以下長・石・珩	1/4	G形態.外面にス
1088	L362	A-6a	SD362114	須恵器	甕A	27.4	(5.4)	強くナテ°/ケスリ後ヨコナテ°.タキ痕	淡黄褐/淡灰褐	1.5ミ以下石	1/5	
1089	L363	A-6b	SD363087	須恵器	甕	20.4	(5.3)	当て具痕.回転ナテ°/回転ナテ°.タキ	淡青灰/暗緑灰	2ミ以下長	1/6	
1090	L363	A-6b	SD363100	土師器	杯A	14.0	(2.9)	ナテ°.ヨコナテ°/ヨコナテ°.ケスリ	淡明橙褐/淡明橙褐	2ミ以下長・珩・ク・雲	1/8	Bc形態.c手法
1091	L362	A-6a	SD362103	土師器	杯A	19.1	3.8	ナテ°/ナテ°.ケスリ.指痕	橙褐/橙褐	1ミ以下長・石	1/2	Ba形態.b手法?外面底部ス
1092	L384	A-5	SD330004	土師器	皿C	9.4	1.9	ナテ°/ナテ°	淡灰褐/淡橙灰褐	0.5ミ以下長・雲	1/6	Ca形態.a手法(葉脈痕なし)
1093	L363	A-6b	SD362103	土師器	皿C	9.4	1.6	指痕.ヨコナテ°/ヨコナテ°.指痕	淡橙肌/淡橙肌	1ミ以下長・石	1/3	Ca形態.e手法
1094	L362	A-6a	SD362103	土師器	皿A	16.0	2.55	ヨコナテ°/ヨコナテ°.ケスリ後ナテ°	橙褐/橙褐	0.5ミ以下長・珩・1ミ以下粗粒砂	1/4	Cb形態.c手法
1095	L363	A-6b	SD363100	土師器	皿A	16.5	2.7	ヨコナテ°/ケスリ後ナテ°.ケスリ	淡黄灰/淡黄灰	1ミ以下長・石・褐	5/8	Cb形態.c?手法
1096	L384	A-5	SD330004	土師器	皿A	16.8	2.5	指痕後ナテ°/指痕後ナテ°.ヘラクスリ	淡茶/淡灰褐	1ミ以下長・石・珩・赤	1/7	Cc形態.c'手法
1097	L363	A-6b	SD363100	土師器	皿A	17.0	2.55	不明/ヘラクスリ	淡茶灰褐/淡茶灰褐	3ミ長・雲・ク	1/8	Cc形態.c手法
1098	L363	A-6b	SD362103	土師器	皿A	19.2	2.2	ヨコナテ°/ヨコナテ°.ヘラクスリ	淡肌/淡肌	2ミ以下赤	1/10	Ba形態.b'手法
1099	L363	A-6b	SD362103	土師器	杯C	9.7	3.9	ヨコナテ°/不明	淡灰橙褐/橙褐	0.5ミ以下長・赤・ク	1/2	Cc形態.e手法
1100	L363	A-6b	SD363100	土師器	碗A	11.8	(3.6)	ヨコナテ°/ヨコナテ°.ヘラクスリ	淡茶灰褐/淡茶灰褐	1ミ以下長・ク・雲	1/8	Cd形態.c手法

## 出土土器観察表

1101	L363	A-6b	SD363100	土師器	椀A	13.05	3.15	ナテ/ナテ?不明	淡橙褐/淡橙褐	2ミ以下カ・ チャ	7/8	c手法?Cc形態
1102	L363	A-6b	SD362103	土師器	壺E	8.8	(1.8)	回転ナテ/回転ナテ	暗橙褐/暗橙褐	砂粒微量	1/10	
1103	L363	A-6b	SD362103	土師器	壺E	9.3	(5.8)	回転ナテ/回転ナテ・ケスリ?	橙褐/橙褐	2ミ以下長・赤・ク	1/5	
1104	L363	A-6b	SD362103	土師器	蓋A	19.0	(2.3)	ヨコナテ?/ヨコナテ?	茶/茶	1ミ以下長・石	1/5	
1105	L363	A-6b	SD363100	土師器	蓋A	19.1	3.9	不明/不明	淡黄灰褐/淡黄灰褐	1ミ以下長・石・ク	1/2	
1106	L363	A-6b	SD362103	土師器	高杯	—	(14.95)	粘土紐巻き上げ痕/ケスリ・指痕	橙褐/暗橙褐	3ミ以下長・石多量・カ・雲	1/1	巻き上げ成形・脚柱部断面8角形
1107	L363	A-6b	SD363100	土師器	高杯	—	(11.3)	ナテ・/ケスリ・ナテ	灰褐-灰/黄褐	1ミ石	1/1	脚柱部断面7角形
1108	L384	A-5	SD330004	土師器	壺C	9.6	(3.2)	ナテ/ナテ・未調整	淡白褐/淡白褐	1ミ長	1/6	H形態
1109	L384	A-5	SD330004	土師器	壺B	15.8	(7.3)	ナテ・ヨコナテ/ヨコナテ・ボタン状浮・指痕	灰白/淡橙褐	1ミ以下長・石・チャ・赤	1/10	H形態・粘土紐接合痕残る
1110	L362	A-6a	SD362103	土師器	甕A	15.4	(6.8)	指痕後ナテ・ヨコナテ/ヨコナテ・ハケ	黄褐-乳白/黄褐-乳白	0.5以下赤・雲	1/8	A形態
1111	L363	A-6B	SD362103	土師器	高杯	16.0	(2.65)	ヨコナテ?/ヨコナテ?	黒色/黒色-茶褐色	3ミ以下長・石	1/6	A類・全面黒色ではない
1112	L363	A-6b	SD362103	須恵器	皿B	23.3	4.0	ヨコナテ?/ヨコナテ?	乳灰/乳灰	1ミ以下長・黒	1/10	
1113	L384	A-5	SX384089	須恵器	蓋A	13.5	3.0	ナテ・ヨコナテ/ヨコナテ	淡青灰/淡青灰	1ミ以下長	1/2	
1114	L363	A-6b	SD363100	須恵器	皿A	14.0	1.8	ヨコナテ/ヨコナテ・ナテ	淡青灰/淡青灰	1ミ以下長	7/8	T形態
1115	L363	A-6b	SD362103	須恵器	壺G	6.2	(8.0)	回転ナテ/回転ナテ	淡紫灰褐/淡紫灰褐	0.5ミ以下長	7/10	内外面に自然釉
1116	L362	A-6a	SD362103	須恵器	壺G	(4.6)	(11.0)	回転ナテ/ヘラ状工具でナテ後比ナテ?	淡青灰-灰白/淡青灰-灰白	極粗粒砂多量	(1/1)	
1117	L363	A-6b	SD363100	須恵器	甕A	37.9	(4.0)	ハケ・回転ナテ/回転ナテ・タタキ	淡灰/淡灰	4ミ以下長多量	1/8	内外に自然釉:暗緑灰
1118	L362	A-6a	SD362103	須恵器	甕A	40.6	(10.7)	ヨコハケ・指痕・同心円タタキ・ヨコナテ/ヨコナテ・タタキ	青灰/暗緑灰	3ミ以下長	「1/7」	内外に自然釉
1119	L363	A-6b	SD363100	土師器	椀	(5.7)	(3.2)	回転ナテ/回転ナテ	乳白/乳白	0.5ミ以下長	1/2	
1120	L363	A-6b	SD363100	須恵器	平瓶	13.2	(3.8)	回転ナテ/回転ナテ	青灰/青灰	1ミ以下長	1/4	
1121	L362	A-6a	SD362103	土製品	羽口	—	(4.6)	芯棒成形/不明	橙/茶褐	2ミ以下長・石	破片	先端部口径4.0・溶融物付着
1122	L362	A-6a	SK362124	土師器	杯A	15.4	(3.4)	ナテ/ナテ・ミカキ?	淡白黄褐/淡白黄褐	1.5ミ以下石・カ・赤	1/3	Ba形態・?手法
1123	L362	A-6a	SK362124	土師器	杯A	17.2	3.8	ヨコナテ/不明	淡白橙褐	1ミ以下長・雲	1/10	Dc形態・c手法?
1124	L362	A-6a	SK362124	土師器	皿A	20.8	2.95	指痕・ナテ/ヘラケスリ後ヨコナテ・ナテ	淡橙褐/淡橙褐	2ミ以下長・石・チャ・赤	3/4	Bc形態・c手法全体にいびつ
1125	L362	A-6a	SK362124	土師器	皿A	17.2	2.2	ナテ/不明	淡肌/肌白	2.5ミ以下石・長・チャ・赤	1/8	Ca形態・b'かc'手法?
1126	L362	A-6a	SK362124	土師器	椀A	12.15	3.4	ナテ・指痕/ナテ	淡黄橙/淡黄橙	1ミ以下?	7/8	Ec形態・口縁いびつ
1127	L362	A-6a	SK362124	土師器	椀A	13.2	3.7	不明/不明・ケスリ?	淡橙褐/淡橙褐	3ミ以下長・チャ	1/6	Cc形態・c手法?
1128	L362	A-6a	SK362124	須恵器	杯B	13.8	3.8	回転ナテ/回転ナテ	淡灰/濃灰	2ミ以下長・黒	1/8	H形態

1129	L362	A-6a	SK362124	須恵器	杯B	22.4	3.9	ヨコナテ <sup>°</sup> /ヨコナテ <sup>°</sup>	淡青灰/淡青灰	砂粒微量	1/12	T形態
1130	L362	A-6a	SK362124	須恵器	壺G	6.0	(6.8)	ホ <sup>°</sup> リ痕.回転ナテ <sup>°</sup> /回転ナテ <sup>°</sup>	濁青灰/濁青灰	1.5ミ以下長・黒	1/2	
1131	L362	A-6a	SK362124	須恵器	壺G	(4.65)	(19.6)	回転ナテ <sup>°</sup> /回転ナテ <sup>°</sup>	暗青灰/暗青灰	0.5ミ以下長多量	(1/2)	
1132	L362	A-6a	SK362133	土師器	壺EかF	(6.55)	(3.2)	ナテ <sup>°</sup> /ナテ <sup>°</sup>	赤黄褐/赤褐	1.5ミ以下1ミ以下粒砂	(2/3)	貼付高台
1133	L362	A-6a	SK362136	土師器	碗C	13.8	3.2	ナテ <sup>°</sup> /指痕.ケス <sup>°</sup> リ不明	明淡黄褐/明淡黄褐	0.5ミ以下長・赤	1/3	Dc形態
1134	L362	A-6a	SK362136	須恵器	壺G	(4.9)	(7.8)	回転ナテ <sup>°</sup> /回転ナテ <sup>°</sup> .ヘラケス <sup>°</sup> リ	淡灰/濁灰	4ミ以下長・黒	1/2	断面.赤茶
1135	L362	A-6a	SK362137	土師器	杯A	15.6	(3.2)	ヨコナテ <sup>°</sup> /ヘラケス <sup>°</sup> リ	淡茶褐/淡茶褐	1ミ以下石・長・赤	1/12	Bb形態.c手法
1136	L362	A-6a	SK362137	土師器	甕A	14.6	(6.2)	ナテ <sup>°</sup> .ヨコナテ <sup>°</sup> /ナテ <sup>°</sup> .タテハケ	淡黄茶褐/淡黄茶褐	1ミ以下石・長・赤	1/12 「1/5」	B形態
1137	L362	A-6a	SK362137	須恵器	杯B	15.2	5.3	回転ナテ <sup>°</sup> /回転ナテ <sup>°</sup>	灰/灰	1.5ミ以下長	1/10	T形態.貼付高台
1138	L363	A-6b	SK363085	土師器	皿A	17.4	3.3	ヨコナテ <sup>°</sup> /ケス <sup>°</sup> リ	明肌/明肌	1.5ミ以下長・石・赤	1/16	Bb形態.c手法
1139	L363	A-6b	SK363085	土師器	皿C	9.6	2.0	ヨコナテ <sup>°</sup> /ヨコナテ <sup>°</sup> .未調整	黒灰-淡褐/黒灰-淡褐	1.5ミ以下長・赤	1/2	Cc形態.口縁部にス
1140	L363	A-6b	SK363085	土師器	皿A	14.4	2.0	ヨコナテ <sup>°</sup> /不明	淡茶褐/明茶褐	1ミ以下長・石・赤	1/8	Ca形態
1141	L363	A-6b	SK363085	土師器	碗A	14.2	4.4	ヨコナテ <sup>°</sup> /指痕	淡灰乳白/淡茶褐	1.5ミ以下長・石・赤	1/5	Cc形態.e手法
1142	L363	A-6b	SK363085	黒色	皿A	22.8	(3.05)	不明/ヨコナテ <sup>°</sup> .不明	黒/黒-淡茶-茶褐	5ミ以下長・石・赤	1/6	
1143	L363	A-6b	SK363085	須恵器	蓋B	7.7	1.1	回転ナテ <sup>°</sup> /回転ナテ <sup>°</sup> .ヘラケス <sup>°</sup> リ	灰/灰	1ミ以下長	1/4	
1144	L363	A-6b	SK363085.上層	須恵器	蓋B	13.0	(2.0)	回転ナテ <sup>°</sup> /回転ナテ <sup>°</sup>	淡灰/淡灰	1ミ以下長・石・赤・黒	1/8	
1145	L363	A-6b	SK363085	須恵器	蓋	13.9	(3.2)	回転ナテ <sup>°</sup> /回転ナテ <sup>°</sup> .ヘラケス <sup>°</sup> リ	淡灰/淡灰	1.5ミ以下長・赤	1/3	
1146	L363	A-6b	SK363085	須恵器	杯B	(7.8)	(2.8)	回転ナテ <sup>°</sup> /回転ナテ <sup>°</sup> .底部ケス <sup>°</sup> リ	淡灰/灰	2ミ以下長多量	(1/4)	T形態
1147	L363	A-6b	SK363085	須恵器	壺	(8.8)	(3.8)	不明/不明.高台貼付	淡灰/淡灰	4ミ以下長・赤・雲	(1/2)	
1148	L363	A-6b	SK363085.上層	灰釉?	壺	21.8	(2.7)	回転ナテ <sup>°</sup> /回転ナテ <sup>°</sup>	淡肌褐/淡肌褐	1ミ以下長・石	1/8	釉:淡緑
1149	L363	A-6b	SK363085.上層	土師器	高杯	—	(12.5)	無/ケス <sup>°</sup> リ.ナテ <sup>°</sup>	淡橙褐/淡橙褐	1ミ以下長・石・赤	破片	脚柱部断面7角形
1150	L362	A-6a	二条三坊十五町宅地包含層	土師器	皿C	8.4	1.1	ナテ <sup>°</sup> /ナテ <sup>°</sup>	淡茶褐/淡茶褐	0.5ミ以下長・石・頁岩	1/4	Ca形態.e手法
1151	L362	A-6a	二条三坊十五町宅地包含層	土師器	皿C	11.4	1.9	指痕.ナテ <sup>°</sup> /ヨコナテ <sup>°</sup> .ヘラケス <sup>°</sup> リ	濁乳白/暗茶褐灰	0.5ミ以下長・赤・雲	1/3	Ca形態.e手法?口縁部外面にス
1152	L362	A-6a	二条三坊十五町宅地包含層	土師器	皿A	15.0	2.1	ナテ <sup>°</sup> /ヘラケス <sup>°</sup> リ	肌茶褐/肌茶褐	1ミ以下石・長・赤	1/5	c手法.色調.マーブル状胎土
1153	L363	A-6b	二条三坊十五町宅地包含層	土師器	皿A	17.3	2.4	ヨコナテ <sup>°</sup> /不明	淡橙褐/淡橙褐	2ミ以下長・石・赤	1/6	Dc形態.b'手法?
1154	L363	A-6b	二条三坊十五町宅地包含層	土師器	皿A	21.6	3.0	ヨコナテ <sup>°</sup> /ヨコナテ <sup>°</sup> .ヘラケス <sup>°</sup> リ	桃褐/桃褐	0.5ミ以下長・赤・雲	1/24	Aa形態.b手法
1155	L362	A-6a	二条三坊十五町宅地包含層	土師器	皿A	22.0	2.4	ナテ <sup>°</sup> /ナテ <sup>°</sup> .ヘラケス <sup>°</sup> リ	淡褐-淡茶褐/淡茶褐-淡茶褐	1.5ミ以下長・赤・石	1/8	Ac形態
1156	L362	A-6a	二条三坊十五町宅地包含層	土師器	碗C	11.6	(2.6)	ナテ <sup>°</sup> .ナマナテ <sup>°</sup> /指痕	淡橙褐/淡橙褐	1ミ以下長・石・赤	1/4	Cd形態.b'手法?

出土土器観察表

1157	L362	A-6a	二条三坊十五町宅地包含層	土師器	杯A	14.0	(3.0)	ナテ°/ヘラクス°リ	明茶褐/明茶褐	1ミ以下石・長・赤	1/4	Cc形態.c手法色調.マーブル状胎土
1158	L363	A-6b	二条三坊十五町宅地包含層	土師器	杯A	16.0	(2.5)	ヨコナテ°/ヘラクス°リ	暗黒橙褐/濁黒褐	1.5ミ以下長・雲	1/8	Db形態.c手法
1159	L363	A-6b	二条三坊十五町宅地包含層	土師器	蓋A	—	(2.1)	ナテ°/ナテ°	淡明黄褐/淡明黄褐	1ミ以下長・雲	1/10	ケマ最大径2.1
1160	L362	A-6a	二条三坊十五町宅地包含層	土師器	甕A	19.6	(4.5)	ハケ.ハケナテ°/ナテ°.ハケ	淡茶褐/淡黄茶褐	1.5ミ以下長・石・赤	1/8	B形態
1161	L363	A-6b	二条三坊十五町宅地包含層	土師器	甕A	26.4	(5.0)	ナテ°.ヨコハケ/ヨコナテ°.ナテハケ	淡褐-淡黄褐/淡褐-淡黄褐	1.5ミ以下長・石・赤	1/16	C形態
1162	L362	A-6a	二条三坊十五町宅地包含層	須恵器	蓋B	11.4	(2.2)	ヨコナテ°/クス°リ後ナテ°	青灰/青灰	0.5ミ以下長	1/7	外面に自然釉
1163	L362	A-6a	二条三坊十五町宅地包含層	須恵器	杯A	13.2	3.0	強いヨコナテ°/強いナテ°	淡灰/淡灰	1ミ以下長・長	1/8	H形態.全体に軟質
1164	L363	A-6b	二条三坊十五町宅地包含層	須恵器	杯B	(6.2)	(1.9)	回転ナテ°/回転ナテ°.高台貼付	青灰/青灰	1ミ以下長	(1/2)	T形態.貼付高台
1165	L362	A-6a	二条三坊十五町宅地包含層	須恵器	杯B	12.6	4.25	ヨコナテ°/ヨコナテ°	淡青灰/淡青灰	0.5ミ以下長	1/8	T形態.爪跡
1166	L362	A-6a	二条三坊十五町宅地包含層	須恵器	杯B	16.0 (11.0)	5.0	回転ナテ°/回転ナテ°	淡灰褐/淡灰褐	1ミ以下長	1/8	T形態
1167	L362	A-6a	二条三坊十五町宅地包含層	須恵器	杯B	(11.7)	(4.1)	ヨコナテ°/ヨコナテ°.底面は未調整?	淡青灰/淡青灰	3ミ以下長多量	(1/5)	T形態
1168	L362	A-6a	二条三坊十五町宅地包含層	須恵器	皿B	23.0	4.2	ヨコナテ°/ナテ°	淡青灰/淡青灰	0.5ミ以下長多量	1/6	T形態
1169	L362	A-6a	二条三坊十五町宅地包含層	須恵器	円面硯	(23.0)	(2.6)	ヨコナテ°/ヨコナテ°	灰/灰	3ミ前後極粗粒砂	(1/5)	透窓.表面に釉:濃緑
1170	L362	A-6a	二条三坊十五町宅地包含層	須恵器	壺G	5.9	(3.8)	ロコナテ°/回転ナテ°.ヨコナテ°	淡橙灰褐-淡青灰褐/淡橙灰褐	4ミ以下長	1/5	1171と同一個体?
1171	L362	A-6a	二条三坊十五町宅地包含層	須恵器	壺G	(5.0)	(5.8)	回転ナテ°.ナテ°/回転ナテ°	淡黄灰褐/淡橙灰褐	4ミ以下長	破片	1170と同一個体?
1172	L363	A-6b	二条三坊十五町宅地包含層	須恵器	杯B?	(9.25)	(3.7)	回転ナテ°/回転ナテ°.回転ヘラクス°リ	青灰/青灰	1ミ以下長	1/8	
1173	L363	A-6b	SK363089	土師器	杯A	17.1	3.9	不明.口縁部に1条沈線/全面ヘラクス°リ	淡黄褐/淡黄褐	1ミ以下長・長	1/4	Bb形態.c手法
1174	L363	A-6b	SK363089	土師器	杯A	17.2	(3.8)	不明/不明	淡橙褐/淡橙褐	1ミ以下長・長・雲	1/8	Cc形態.c手法
1175	L363	A-6b	SK363089.下層	土師器	杯A	17.6	3.9	ヨコナテ°/クス°リ	淡橙灰/淡橙	1ミ以下石・長・雲	1/8	Bb形態.c手法
1176	L363	A-6b	SK363089.下層	土師器	杯C	20.4	4.4	ヨコナテ°/ヨコナテ°.指痕	淡黄白褐/淡黄白褐	2ミ以下長・石・長・雲・ク	1/5	Bb形態.e手法
1177	L363	A-6b	SK363089	土師器	皿A	13.7	2.4	ヨコナテ°/ヨコナテ°.ヘラクス°リ	淡橙灰褐/淡灰褐	2ミ以下長・石・ク	1/8	Cc形態.b'手法?
1178	L363	A-6b	SK363089	土師器	皿A	14.0	1.95	不明/底部クス°リ	明橙灰/淡橙灰	3ミ石・1.5ミ以下石・長・雲	1/9	Cc形態.b'かc'手法
1179	L363	A-6b	SK363089	土師器	皿A	14.8	2.2	不明/不明	淡赤褐-肌/淡赤褐-肌	4ミ以下長・石・長・雲・ク	1/3	Cc形態.c手法?
1180	L363	A-6b	SK363089	土師器	皿A	14.7	2.6	ヨコナテ°/ヨコナテ°.ヘラクス°リ	淡暗橙灰/淡明橙灰	1.5ミ以下長・ク	1/8	Cc形態.c手法
1181	L363	A-6b	SK363089	土師器	皿A	15.1	2.75	ナテ°/口縁部ナテ°.クス°リ後ナテ°	明橙褐/明橙褐	2ミ以下長・石	1/2	Ca形態.c'手法
1182	L363	A-6b	SK363089	土師器	皿A	15.3	1.75	ヨコナテ°/ヨコナテ°.不明	濁桃白褐/濁桃橙褐	1ミ以下長・ク・雲	1/8	Bb形態.手法不明
1183	L363	A-6b	SK363089	土師器	皿A	15.6	2.2	ヨコナテ°/口縁のみヨコナテ°.クス°リ後ナテ°	淡黄褐/淡黄褐	2ミ以下長・石	2/3	Cb形態.c手法.焼け痕
1184	L363	A-6b	SK363089	土師器	皿A	15.6	2.6	ヨコナテ°/ヨコナテ°.ヘラクス°リ	橙黄褐/明橙褐	1.5ミ以下長・ク・雲・4ミ以下長	1/8	Cb形態.b'手法

1185	L363	A-6b	SK363089	土師器	ⅢA	15.8	2.2	ヨコナテ°/ヨコナテ°・ヘラクスリ	濁橙褐/黄褐	1.5ミ以下長・ク	1/5	Cc形態.c手法
1186	L363	A-6b	SK363089	土師器	ⅢA	16.0	2.2	ヨコナテ°/ヨコナテ°・ヘラクスリ?	淡橙白/淡橙白	4ミ以下石・ク・ク・雲	1/10	Cc形態.c手法?
1187	L363	A-6b	SK363089	土師器	ⅢA	16.0	2.75	ヨコナテ°/クスリ後ナテ°	淡黄褐-乳白/淡黄褐-乳白	1ミ以下長・石・雲	5/8	Cc形態.c'手法
1188	L363	A-6b	SK363089	土師器	ⅢA	15.8	2.1	ヨコナテ°/ヨコナテ°・ヘラクスリ	暗灰褐-赤灰褐/暗灰褐-赤灰褐	1.5ミ以下長・ク・雲	1/12	Cc形態.c手法
1189	L363	A-6b	SK363089	土師器	蓋A	19.6	3.35	ヨコナテ°/ヨコナテ°	淡黄赤褐/暗赤褐	2ミ以下長・雲・ク	1/8	
1190	L363	A-6b	SK363089	土師器	蓋A	20.2	(2.2)	ナテ°/ミカキ	黒黄褐/黒黄褐	2.5ミ長	1/4	
1191	L363	A-6b	SK363089	土師器	蓋A	20.5	(2.9)	ナテ°・北°ナテ°/ミカキ	黄褐/橙褐	1.5ミ以下長・石	5/8	
1192	L363	A-6b	SK363089	土師器	ⅢA	16.0	2.0	ナテ°・ヨコナテ°/ヨコナテ°・ヘラクスリ	濁乳白/濁乳白	1ミ以下石・ク・雲	1/3	Cb形態.b手法
1193	L363	A-6b	SK363089	土師器	ⅢA	16.6	2.45	ヨコナテ°/ヨコナテ°・ヘラクスリ	灰黄褐/灰黄褐	1.5ミ以下長・石・ク・赤・雲	1/6	Cc形態.b'手法
1194	L363	A-6b	SK363089	土師器	ⅢA	16.8	2.7	ヨコナテ°/ヨコナテ°・ヘラクスリ	淡橙灰褐/淡灰褐	3ミ以下長・石・ク・ク・雲・赤	1/5	Cc形態.b手法
1195	L363	A-6b	SK363089	土師器	ⅢA	16.8	2.3	ヨコナテ°/ヨコナテ°・ヘラクスリ.指痕	橙褐-黒褐/橙褐-黒褐	1ミ以下長・ク・雲	1/8	Cc形態.c'手法?
1196	L363	A-6b	SK363089	土師器	ⅢA	16.8	2.3	不明/不明	暗橙褐/暗橙褐	1.5ミ以下長・ク・赤・3.5ミ長	1/7	Cc形態.c'手法?
1197	L363	A-6b	SK363089.下層	土師器	ⅢA	16.7	1.8	ヨコナテ°/ヨコナテ°・ヘラクスリ	淡灰黄/淡灰黄-橙灰褐	0.5ミ以下赤・雲	1/9	Cc形態.手法不明
1198	L363	A-6b	SK363089	土師器	ⅢA	17.3	2.65	指痕.ナテ°/クスリ後ナテ°・ナテ°	乳白-肌/乳白-肌	1.5ミ以下長・石・ク	1/2	Cb形態.c手法
1199	L363	A-6b	SK363089	土師器	ⅢA	17.8	2.2	ヨコナテ°/ヨコナテ°・ヘラクスリ	灰黄/淡灰褐	1.5ミ以下長・石・黒・ク	1/16	Bc形態.c'手法
1200	L363	A-6b	SK363089	土師器	ⅢA	18.8	2.35	不明/不明	淡橙灰/淡橙褐	1ミ以下石・ク・ク・雲	1/8	Ca形態.手法不明
1201	L363	A-6b	SK363089.下層	土師器	ⅢA	18.8	2.3	ヨコナテ°/クスリ	淡黄灰-黄肌/淡黄灰-黄肌	砂粒微量	1/4	Bc形態.c手法
1202	L363	A-6b	SK363089	土師器	ⅢA	19.4	2.3	ヨコナテ°/ヨコナテ°・ヘラクスリ	淡濁橙灰/淡濁橙灰	1.5ミ以下長・石・ク・雲	1/2	Bb形態.c手法
1203	L363	A-6b	SK363089	土師器	ⅢA	19.7	2.0	ヨコナテ°/ヨコナテ°・ヘラクスリ	淡濁褐-淡灰褐/橙灰褐-淡橙灰褐	1.5ミ以下長・石・ク・雲	1/10	Bb形態.b手法
1204	L363	A-6b	SK363089	土師器	ⅢA	20.0	2.2	ナテ°/クスリ後ナテ°・ナテ°	淡灰褐/淡灰褐	1ミ以下長・石・雲	1/2	Ab形態.c手法
1205	L363	A-6b	SK363089	土師器	ⅢA	19.9	2.6	不明/不明	赤褐-濁橙褐/濁橙褐	1ミ以下長・雲	2/5	Bc形態.c手法
1206	L363	A-6b	SK363089.下層	土師器	ⅢA	19.5	2.5	ヨコナテ°/ヨコナテ°・ヘラクスリ	淡灰黄/淡橙灰黄	1.5ミ以下長・石・ク・雲	1/24	Bc形態.c'手法
1207	L363	A-6b	SK363089	土師器	ⅢA	20.0	2.8	不明/不明	淡橙灰/淡橙灰	2.5ミ以下ク・1ミ程石・ク・ク・雲	1/3	Ba形態.b'手法?
1208	L363	A-6b	SK363089	土師器	ⅢA	19.9	2.6	ヨコナテ°/ヨコナテ°・ヘラクスリ	黄褐/淡橙灰褐	1.5ミ以下長・ク・雲・3.5ミ以下ク	1/4	Bb形態.b'手法
1209	L363	A-6b	SK363089	黒色	腕A	10.8	3.3	ヘラミカキ.ヨコナテ°/ヨコナテ°・ヘラクスリ	暗黒/灰褐	2ミ以下長・石・雲	1/8	Cc形態.c'手法

出土土器観察表

1210	L363	A-6b	SK363089	土師器	碗A	11.0	3.4	ヨナテ <sup>+</sup> /ヘラケス <sup>リ</sup>	灰褐/灰褐	3.5ミリ以下長・石・珩・ク多量	1/8	Cc形態.c手法
1211	L363	A-6b	SK363089	土師器	碗A	11.7	(3.3)	不明/ケス <sup>リ</sup>	淡橙灰-暗灰/淡橙灰-淡黄灰	1ミリ以下長・石・ク	1/5	Cc形態.c手法
1212	L363	A-6b	SK363089	土師器	碗C	12.0	(2.85)	ヨナテ <sup>+</sup> /ヨナテ <sup>+</sup> .指痕.ヘラケス <sup>リ</sup>	淡橙白/淡橙褐	1.5ミリ以下石・ク・1ミリ以下雲	1/8	Cc形態.b'手法?
1213	L363	A-6b	SK363089.下層	土師器	碗A	12.2	(3.4)	ヨナテ <sup>+</sup> /ヘラケス <sup>リ</sup>	濁黄灰/濁黄灰	1ミリ以下石・珩・雲	1/6	Da形態.c'手法.口縁部にス
1214	L363	A-6b	SK363089	土師器	碗C	12.0	(3.1)	ヨナテ <sup>+</sup> ?/ヨナテ <sup>+</sup> ?指痕	乳灰/淡赤乳白	3ミリ以下長・石・赤・雲	1/9	Ce形態.e手法?
1215	L363	A-6b	SK363089.下層	土師器	碗A	12.8	2.95	ヨナテ <sup>+</sup> ?/ケス <sup>リ</sup>	淡橙灰褐/淡橙灰褐	1ミリ以下長・石・赤・雲	1/6	Cb形態.c手法
1216	L363	A-6b	SK363089	土師器	碗A	12.8	2.8	不明/不明	淡橙桃褐/淡橙桃褐	2ミリ以下ク多量・珩・雲	1/4	Cb形態.c手法?
1217	L363	A-6b	SK3630893	土師器	碗C	13.0	3.2	不明/指痕.不明	濁橙白/淡橙褐	1ミリ以下石・ク・黒・雲	1/12	Cd形態.e手法
1218	L363	A-6b	SK363089	土師器	碗A	13.1	3.9	ヨナテ <sup>+</sup> /指痕	淡橙褐/淡橙褐	2ミリ以下長・珩・ク・赤	1/6	Cb形態.e手法
1219	L363	A-6b	SK363089	土師器	碗A	13.2	3.5	ヨナテ <sup>+</sup> /全面ケス <sup>リ</sup> ?	橙褐/橙褐	1ミリ以下長・珩・赤・雲	1/8	Cc形態.c手法?
1220	L363	A-6b	SK363089	土師器	碗A	13.8	3.7	ヨナテ <sup>+</sup> /全面ヘラケス <sup>リ</sup> ?	橙褐/暗橙灰褐	1.5ミリ以下長・ク・雲	1/5	Cc形態.c手法?
1221	L363	A-6b	SK363089	土師器	碗A	13.9	3.45	ナテ <sup>+</sup> /口縁部ナテ <sup>+</sup> .ケス <sup>リ</sup>	淡橙褐/淡橙褐	1.5ミリ以下長・石多量	1/2	Cb形態.c手法.口縁に歪み
1222	L363	A-6b	SK363089	土師器	碗C	13.8	(3.8)	ナテ <sup>+</sup> /指痕	淡明黄褐/淡明黄褐	2ミリ以下長・ク	1/4	Cb形態.c手法
1223	L363	A-6b	SK363089	土師器	碗A	15.8	4.7	不明/不明	淡橙灰白/淡橙灰白	2ミリ以下ク多量・2.5ミリ以下石・雲	1/3	Cc形態.c手法?
1224	L363	A-6b	SK363089	土師器	碗	11.0	2.45	不明/ケス <sup>リ</sup>	黄白/黄白	1ミリ以下石・黒・0.5ミリ細粒雲・黒石	1/4	Cb形態.c手法
1225	L363	A-6b	SK363089	土師器	甕A	12.9	(9.2)	指痕.ヨナテ <sup>+</sup> /ヨナテ <sup>+</sup> .ハケ	橙褐-淡黄褐/橙褐-淡黄褐	0.5ミリ以下長・石・珩	1/4	A形態
1226	L363	A-6b	SK363089	土師器	甕A	13.2	(5.6)	ヨコハケ.ヨナテ <sup>+</sup> /ヨナテ <sup>+</sup> .タテハケ	濁淡灰褐/濁淡灰褐	1.5ミリ以下ク・2ミリ以下珩・雲	1/4	B形態
1227	L363	A-6b	SK363089.下層	土師器	甕A	17.6	(11.0)	ナテ <sup>+</sup> .ヨナテ <sup>+</sup> /ヨナテ <sup>+</sup> .ナテ <sup>+</sup>	濁灰褐-暗灰褐/濁灰褐	6ミリ以下火山岩質細片・長	1/2	G形態
1228	L363	A-6b	SK363089	黒色	杯A	19.9	5.1	ヘラミカ <sup>+</sup> キ.ヨナテ <sup>+</sup> /ヨナテ <sup>+</sup> .ヘラミカ <sup>+</sup> キ	暗黒/暗黒-灰褐	3ミリ以下長・石・雲・ク	1/4	Cc形態
1229	L363	A-6b	SK363089	黒色	碗A	13.8	(4.0)	不明/不明	黒/黒-淡茶褐	1ミリ以下長・石・珩	1/8	
1230	L363	A-6b	SK363089	黒色	碗A	12.9	3.4	ヘラミカ <sup>+</sup> キ.ヨナテ <sup>+</sup> /ヨナテ <sup>+</sup> .ヘラケス <sup>リ</sup>	暗黒/暗黒-灰褐	2ミリ以下長・珩・石・雲・ク	3/8	Cc形態.c'手法
1231	L363	A-6b	SK363089.下層	黒色	皿A	13.9	2.6	ヘラミカ <sup>+</sup> キ/ヨナテ <sup>+</sup> .ヘラケス <sup>リ</sup>	暗黒/灰褐	4ミリ以下石・ク・雲	1/3	Cc形態.c'手法
1232	L363	A-6b	SK363089	黒色	杯A	20.6	6.45	ヘラミカ <sup>+</sup> キ.暗/ミカ <sup>+</sup> キ	黒褐/黒黄褐-黒褐	0.7ミリ以下長	2/3	
1233	L363	A-6b	SK363089	須恵器	蓋A	17.0	(1.75)	回転ナテ <sup>+</sup> /回転ナテ <sup>+</sup> .回転ヘラケス <sup>リ</sup> .	灰白/灰白	2ミリ以下長	1/5	転用硯
1234	L363	A-6b	SK363089.下層	須恵器	蓋A	16.4	1.45	回転ナテ <sup>+</sup> /回転ナテ <sup>+</sup> .回転ケス <sup>リ</sup> .ヨコナテ <sup>+</sup>	灰/灰	1ミリ以下長	1/4	外面に墨痕
1235	L363	A-6b	SK363089.下層	須恵器	蓋A	18.0	(1.4)	回転ナテ <sup>+</sup> /回転ナテ <sup>+</sup>	淡灰白/淡灰白	1.5ミリ石・黒・白	1/10	



1236	L363	A-6b	SK363089	須恵器	蓋A	17.6	(0.7)	ナテ <sup>°</sup> /ナテ <sup>°</sup>	淡青灰/淡青灰	2ミ以下長少量	5/8	口縁部内面に沈線
1237	L363	A-6b	SK363089	須恵器	蓋A	19.2	1.8	ナテ <sup>°</sup> /ナテ <sup>°</sup> .ケス <sup>リ</sup> 後ナテ <sup>°</sup>	灰白/灰白	0.5ミ以下長	3/5	全体に歪んでいる
1238	L363	A-6b	SK363089	須恵器	蓋B	13.9	(2.5)	回転ナテ <sup>°</sup> /回転ナテ <sup>°</sup>	青灰/青灰	1ミ以下長・黒	1/9	
1239	L363	A-6b	SK363089	須恵器	壺G	(5.0)	(11.6)	回転引き.シホ <sup>リ</sup> 痕/回転引き.底部糸切り	灰/暗濁灰	1ミ以下長・長・2ミ程赤	(1/2)	粘土紐巻き上げ痕9本.肩部に自然釉
1240	L363	A-6b	SK363089	須恵器	壺G	(4.5)	(11.6)	回転引き.シホ <sup>リ</sup> 痕/回転引き.底部糸切り	濁灰/暗濁灰	1.5ミ以下長・長・赤	(1/1)	外面に肩部自然釉
1241	L363	A-6b	SK363089	須恵器	壺M	3.7 (4.1)	9.75	手シホ <sup>リ</sup> 痕.回転ナテ <sup>°</sup> /回転ナテ <sup>°</sup>	青灰白/濃青灰-青灰白	1ミ以下長	1/4	貼付高台.ヘ <sup>リ</sup> 記号
1242	L363	A-6b	SK363089	須恵器	壺D	—	(7.2)	回転ナテ <sup>°</sup> /ケス <sup>リ</sup>	淡灰白/淡灰	細かな黒		破片
1243	L363	A-6b	SK363089	須恵器	壺	(7.05)	(5.4)	回転ナテ <sup>°</sup> /回転ナテ <sup>°</sup> .高台貼付	灰白/灰白	3ミ以下長・長・赤・雲	(1/1)	
1244	L363	A-6b	SK363089.下層	須恵器	壺?	(6.2)	(2.5)	回転ナテ <sup>°</sup> /回転ナテ <sup>°</sup>	乳白/乳白	粗・1ミ以下長・黒・雲	(1/1)	
1245	L363	A-6b	SK363090.下層	土師器	杯A	15.7	(3.3)	ヨコナテ <sup>°</sup> /ヘ <sup>リ</sup> ケス <sup>リ</sup>	淡茶灰/橙褐	1ミ以下長・石・赤	1/10	Cc形態.c手法
1246	L363	A-6b	SK363090.最下層	土師器	杯A	16.7	3.9	ヨコナテ <sup>°</sup> /ヘ <sup>リ</sup> ケス <sup>リ</sup>	淡褐灰/淡橙褐	砂粒微量	1/6	Cb形態c手法
1247	L363	A-6b	SK363090.最下層	土師器	杯A	16.8	4.8	?/ヨコナテ <sup>°</sup> .ケス <sup>リ</sup>	橙褐/橙褐	細砂少量	3/10	Ba形態.c手法
1248	L363	A-6b	SK363090.下層	土師器	杯A	17.2	3.65	底部指痕後ナテ <sup>°</sup> .ヨコナテ <sup>°</sup> /ヨコナテ <sup>°</sup> .ケス <sup>リ</sup> 後ナテ <sup>°</sup>	白灰褐/灰褐	1.5ミ以下長・赤	2/3	Ba形態.b手法 口縁端部にス
1249	L363	A-6b	SK363090.最下層	土師器	杯A	17.3	4.0	底部ミガキかゆの痕跡.ヨコナテ <sup>°</sup> /ケス <sup>リ</sup> ?	黄橙褐/黄橙褐	2ミ以下長・石・赤	7/8	Bc形態.c手法?全体に歪み
1250	L363	A-6b	SK363090.下層	土師器	杯A	17.5	3.65	指痕後ナテ <sup>°</sup> .ヨコナテ <sup>°</sup> /ヨコナテ <sup>°</sup> .ケス <sup>リ</sup>	淡黄灰褐/淡橙褐	2ミ以下長・長・赤・雲	6/7	Ba形態.b手法
1251	L363	A-6b	SK363090.最下層	土師器	杯A	17.6	3.8	ヨコナテ <sup>°</sup> /ヨコナテ <sup>°</sup> .ケス <sup>リ</sup> 後ナテ <sup>°</sup> .ナテ <sup>°</sup>	淡黄褐-肌/淡黄褐-橙	0.5ミ以下長・石・赤・赤少量	1/2	Cc形態.c手法?
1252	L363	A-6b	SK363090.下層	土師器	杯A	18.0	4.19	ヨコナテ <sup>°</sup> /ヨコナテ <sup>°</sup> .ケス <sup>リ</sup>	淡灰褐/淡褐	1-2ミク多量・1ミ長・赤・微細な雲	1/3	Bc形態?.b手法?
1253	L363	A-6b	SK363090	土師器	杯A	18.2	3.4	ヨコナテ <sup>°</sup> /ヨコナテ <sup>°</sup> .ヘ <sup>リ</sup> ケス <sup>リ</sup>	淡灰褐/橙褐	1-2ミク・石・赤・長・極細雲	1/3	Bc形態.c手法
1254	L363	A-6b	SK363090.下層	土師器	杯A	18.4	4.15	不明/ナテ <sup>°</sup> .底部未調整	淡橙灰褐-淡黄灰/淡橙灰褐	3ミ以下長・石・赤	7/10	Aa形態.a手法
1255	L363	A-6b	SK363090.下層	土師器	杯A	18.6	3.05	指痕後ヨコナテ <sup>°</sup> .口縁部ヨコナテ <sup>°</sup> /不明	濁橙褐/橙褐	3ミ以下長・雲少量	1/10	Ac形態c手法?
1256	L363	A-6b	SK363090.最下層	土師器	杯A	18.6	3.35	ヨコナテ <sup>°</sup> /ヨコナテ <sup>°</sup> .ヘ <sup>リ</sup> ケス <sup>リ</sup>	明橙灰褐/明橙灰褐	2ミ以下長・石・赤	1/24	Bb形態.b手法
1257	L363	A-6b	SK363090.最下層	土師器	杯A	18.6	4.3	口縁端部に沈線?不明/不明	淡橙褐/淡橙褐	5ミ以下長・石・赤	3/8	Db形態
1258	L363	A-6b	SK363090.下層	土師器	杯A	18.9	3.85	ヨコナテ <sup>°</sup> /c手法ヘ <sup>リ</sup> ケス <sup>リ</sup> 後ナテ <sup>°</sup>	淡黄橙褐/淡黄橙褐	2.5ミ以下長・石・雲	1/4	Ba形態c手法
1259	L363	A-6b	SK363090.下層	土師器	杯A	19.4	4.5	ナテ <sup>°</sup> /c手法ヘ <sup>リ</sup> ケス <sup>リ</sup> 後ナテ <sup>°</sup> ?	橙褐-黒灰褐/赤橙	2.5ミ以下長・石・雲	5/8	Cb形態.c手法
1260	L363	A-6b	SK363090	土師器	杯A	19.7	4.0	指痕.ナテ <sup>°</sup> /不明.ケス <sup>リ</sup> ?	淡黄褐/橙褐	1.5ミ以下長・石	1/5	Bc形態.b手法
1261	L363	A-6b	SK363090	土師器	杯A?	19.8	(4.0)	ヨコナテ <sup>°</sup> /ヨコナテ <sup>°</sup> .ケス <sup>リ</sup>	淡黄灰白褐/淡赤灰白褐	2ミ以下長・石・赤・雲	1/8	Ba形態.c手法

出土土器観察表

1262	L363	A-6b	SK363090. 下層	土師器	蓋A	18.6	(2.2)	ナテ. 口縁部に一条の沈線/ナテ. ミカキ	橙褐/橙褐	3.5ミリ長・石	5/8	
1263	L363	A-6b	SK363090. 下層	土師器	蓋A	19.8	(2.5)	ヨコナテ/ヨコナテ. ヘラクスリ	暗淡黄褐/明淡黄褐	3ミリ以下長・石・ク	1/7	
1264	L363	A-6b	SK363090. 下層	土師器	杯B	16.0	5.0	ヨコナテ. 不明/ヨコナテ. 不明. 高台貼付	暗赤橙褐/暗赤橙褐	3ミリ以下長・石・ク	1/8	Cc形態. 手法不明
1265	L363	A-6b	SK363090	土師器	杯B	17.2	(3.35)	不明/不明. 高台貼付後ヨコナテ	黄褐/黄褐	1ミリ以下石多量	1/8 (2/3)	Cb形態
1266	L363	A-6b	SK363090. 下層	土師器	杯B	17.9 (10.6)	7.05	ヨコナテ/ヨコナテ. ナテ. 高台貼付	淡灰褐-淡桃褐/淡灰褐-橙褐	1ミリ以下長・赤	1/2	Cb形態. 全体に歪み
1267	L363	A-6b	SK363090. 最下層	土師器	杯B	18.0	4.8	不明. ナテ/ミカキ?ヨコナテ	淡橙褐/淡橙褐	1ミリ以下長	1/1	Bc形態
1268	L363	A-6b	SK363090. 下層	土師器	杯B	21.3 (12.7)	6.5	ミカキ. ヨコナテ/ヨコナテ. ヘラクスリ. 高台貼付	淡橙褐/淡灰褐	2ミリ以下長・茶・ク・雲	2/3	全体に歪み
1269	L363	A-6b	SK363090. 下層	土師器	蓋A	28.3	(2.8)	ヨコナテ/ヨコナテ. ミカキ?	濁淡橙灰茶/淡灰茶	1.5ミリ以下長・ナ・黒・ク・赤・雲	1/4	
1270	L363	A-6b	SK363090. 下層	土師器	杯B	27.2	(8.1)	ヨコナテ/ミカキ	淡赤橙褐/赤橙褐	3.5ミリ以下長・石・雲	1/4	Bc形態. 口縁に歪み. 外面に凸凹
1271	L363	A-6b	SK363090. 下層	土師器	杯B	27.7 (15.1)	10.45	ヨコナテ?/ヘラミカキ. 高台貼付後ナテ	淡茶灰-橙褐/橙褐-淡橙灰	3ミリ以下長・石・ナ・赤	2/3	Bb形態
1272	L363	A-6b	SK363090	土師器	蓋A	—	(1.9)	ヨコナテ/ヨコナテ. ナテ	橙褐/橙褐	長細粒	1/1	ナミ径3.0
1273	L363	A-6b	SK363090. 下層	土師器	皿C	9.4	2.0	ヨコナテ/ヨコナテ. 指痕	淡黄灰白褐/淡黄褐	2ミリ以下長・石・ク・雲	3/5	Ca形態e手法
1274	L363	A-6b	SK363090	土師器	皿C	10.1	1.9	ヨコナテ/ヨコナテ. 指痕	茶褐-灰褐/茶褐	1ミリ以下長・石・赤	1/3	Cb形態e手法
1275	L363	A-6b	SK363090. 最下層	土師器	皿C	10.7	2.0	ヨコナテ/不明	橙褐/橙褐	2ミリ以下長・石	1/5	Cb形態. c手法口縁端部スス. 焼きひずみ
1276	L363	A-6b	SK363090	土師器	皿A	13.6	2.1	ヨコナテ/ヨコナテ. ヘラクスリ	淡茶灰褐/淡茶灰褐	2ミリ以下長・ク・雲	1/12	Cc形態. b手法
1277	L363	A-6b	SK363090. 最下層	土師器	皿A	13.8	2.35	指痕後ヨコナテ. ヨコナテ/指痕. ヨコナテ	黄褐/濃黄褐	2ミリ以下長・2ミリ白	1/8	Bc形態. c'手法
1278	L363	A-6b	SK363090	土師器	皿A	14.5	(2.7)	ヨコナテ/ヨコナテ. 底部不明	明茶灰/明茶灰	1ミリ以下長・ク少量	1/6	Ba形態. b手法
1279	L363	A-6b	SK363090	土師器	皿A	15.0	2.65	ナテ/ナテ	淡赤橙/橙黄褐	3.5ミリ以下長・石・ナ・4ミリ以下白	5/8	Cb形態. c手法?
1280	L363	A-6b	SK363090. 最下層	土師器	皿A	15.4	2.7	ヨコナテ/口縁ヨコナテ. ナテ後ナテ	淡黄褐-肌/淡黄褐-肌	1.5ミリ以下ク多量	5/8	Cc形態. c'手法
1281	L363	A-6b	SK363090. 最下層	土師器	皿A	15.5	2.4	ナテ/ナテ	淡黄灰褐/淡黄灰褐	2ミリ以下長・石・ク	3/4	Cc形態. c. 手法?
1282	L363	A-6b	SK363090. 下層	土師器	皿A	15.6	2.25	ヨコナテ/ヘラクスリ	橙褐/橙褐	2ミリ以下長・石・ク	1/4	Cc形態. c手法
1283	L363	A-6b	SK363090. 下層	土師器	皿A	15.8	2.25	ナテ/不明. 底部指痕後ナテ?	淡橙褐/淡橙褐	1ミリ以下雲・ク多量	1/4	Cb形態. c手法?
1284	L363	A-6b	SK363090. 下層	土師器	皿A	15.85	2.25	指痕後ナテ. ヨコナテ/ヨコナテ. ナテ後ナテ	赤橙/赤橙	1.5ミリ以下長・石・ク	7/8	Dc形態. c'手法
1285	L363	A-6b	SK363090	土師器	皿A	16.0	1.9	ヨコナテ/ヨコナテ. ナテ	灰褐/赤褐	3ミリ長・石・1ミリ長・石・ク	1/3	Cc形態
1286	L363	A-6b	SK363090	土師器	皿A	16.0	2.2	ヨコナテ/ヨコナテ. ヘラクスリ	淡茶褐/淡褐	1ミリ以下長・石・赤	1/5	Cc形態. c手法

1287	L363	A-6b	SK363090. 下層	土師器	ⅢA	16.1	2.5	ヨコナテ°/ヨコナテ°、口縁以下ヘラクスリ	淡橙灰-淡橙褐/淡橙灰-淡橙褐	1.5ミ以下長・石・赤	1/2	Cc形態. b'手法
1288	L363	A-6b	SK363090. 最下層・下層	土師器	ⅢA	16.1	2.8	ナテ°/口縁のみナテ°、ヘラクスリ	淡橙褐/淡橙褐	4ミ長	1/5	Cc形態. c手法
1289	L363	A-6b	SK363090	土師器	ⅢA	16.3	2.4	ヨコナテ°/口縁部ヨコナテ°、ヘラクスリ後ナテ°	淡橙褐/淡橙褐	3ミ以下長・石	5/8	Cc形態. b'手法
1290	L363	A-6b	SK363090	土師器	ⅢA	16.4	2.5	ヘラクスリ、ナテ°、ヨコナテ°/ヨコナテ°、ヘラクスリ、指痕	茶褐/茶褐	1ミ以下石・長・赤	1/2	Cc形態. b'手法
1291	L363	A-6b	SK363090. 最下層	土師器	ⅢA	16.5	2.7	ナテ°/不明	淡橙黄褐/淡橙黄褐	1.5ミ以下ク多量	3/4	Cc形態. c手法?
1292	L363	A-6b	SK363090	土師器	ⅢA	16.3	2.4	不明/ヨコナテ°、ヘラクスリ	茶褐/茶褐	2ミ以下長・石・赤・雲	1/6	Ca形態. c'手法
1293	L363	A-6b	SK363090	土師器	ⅢA	16.5	2.1	ヨコナテ°/ヨコナテ°、ヘラクスリ?指痕.	橙褐/橙褐	1ミ以下長・茶・赤・雲	1/5	Cc形態. c手法?
1294	L363	A-6b	SK363090. 下層	土師器	ⅢA	16.5	2.35	ヨコナテ°/ヨコナテ°	淡橙灰/淡橙灰	1.5ミ以下長・赤・赤・雲少量	1/2	Cc形態. 手法不明
1295	L363	A-6b	SK363090. 最下層	土師器	ⅢA	16.4	(2.3)	ナテ°?/不明	淡橙褐/淡橙褐	1.5ミ以下粒砂?	1/6	Bc形態. c手法?
1296	L363	A-6b	SK363090	土師器	ⅢA	16.7	2.7	指痕. ナテ°/不明	橙褐-淡黄灰褐/橙褐	砂粒微量	2/5	Bc形態. c手法?
1297	L363	A-6b	SK363090	土師器	ⅢA	16.8	2.35	ヨコナテ°/ヨコナテ°、ヘラクスリ	淡濁灰褐/濁橙灰褐	1.5ミ以下長・石・赤・黒	1/3	Cb形態. c手法
1298	L363	A-6b	SK363090. 下層	土師器	ⅢA	16.85	2.6	ヨコナテ°/口縁ヨコナテ°?クスリ、底部指痕	橙褐/橙褐	1ミ以下多量	7/8	Cc形態. b'手法
1299	L363	A-6b	SK363090. 下層	土師器	ⅢA	16.8	2.5	ナテ°/ヘラクスリ後ナテ°?底部指痕	黄橙褐/黄橙褐	3ミ以下長・石・赤	1/3	Cc形態. c手法
1300	L363	A-6b	SK363090. 最下層	土師器	ⅢA	16.8	1.7	ヨコナテ°/ヨコナテ°、ヘラクスリ	淡橙灰褐/橙褐	2ミ以下ク・雲・3ミ以下赤	1/12	Cc形態. b'手法
1301	L363	A-6b	SK363090. 下層	土師器	ⅢA	16.9	2.65	ヨコナテ°/クスリ	橙/橙	1.5ミ程の石少量・1ミ以下黒	1/8	Cb形態. c手法
1302	L363	A-6b	SK363090. 下層	土師器	ⅢA	17.0	(2.35)	不明/不明	橙褐/橙褐	1ミ以下石・赤・雲	1/8	Bb形態. 手法不明
1303	L363	A-6b	SK363090. 下層	土師器	ⅢA	17.3	2.29	ナテ°/不明. 底部未調整	淡橙褐-乳灰/淡橙褐	2.5ミ以下長・石・赤・赤	1/8	Cc形態?手法不明
1304	L363	A-6b	SK363090	土師器	ⅢA	17.85	2.0	指痕後ナテ°/ナテ°、クスリ	淡橙褐/淡橙褐-肌	1ミ以下長・雲・1ミ以下白	3/4	Bb形態. b'手法
1305	L363	A-6b	SK363090	土師器	ⅢA	17.8	2.15	不明/不明	黄褐/淡茶褐	1ミ以下赤・長・石	1/5	Cc形態. a手法
1306	L363	A-6b	SK363090	土師器	ⅢA	17.9	2.6	ヨコナテ°/ヨコナテ°、クスリ後ナテ°	淡黄橙/淡黄橙	0.5ミ以下石・長	5/8	Cc形態. c手法?
1307	L363	A-6b	SK363090	土師器	ⅢA	18.8	2.2	ヨコナテ°、ヨコナテ°、クスリ	淡黄灰白/淡黄灰白	2ミ以下長・石・赤	1/8	Bb形態. b'手法
1308	L363	A-6b	SK363090	土師器	ⅢA	18.7	2.6	ミカキ/不明. 底部ヘラクスリ	淡橙灰-淡灰褐/橙褐-淡黄褐	2ミ以下長・石・赤	1/4	Cb形態. b手法?
1309	L363	A-6b	SK363090. 下層	土師器	ⅢA	19.8	2.6	ナテ°、口縁部に浅い沈線/ヨコナテ°、クスリ	淡薄橙褐/淡橙褐	2ミ以下ク多量	1/2	Ba形態. b'手法口縁に歪み
1310	L363	A-6b	SK363090	土師器	ⅢA	19.0	2.85	ヨコナテ°/ヘラクスリ後ナテ°	橙褐/橙褐	2ミ以下石・赤・雲	1/8	Cc形態. c手法後ナテ°
1311	L363	A-6b	SK363090	土師器	ⅢA	19.4	2.6	ヨコナテ°/ヨコナテ°、指痕後クスリ	橙赤褐/橙赤褐	2ミ以下長・石・赤・雲	1/5	Bb形態?c'手法
1312	L363	A-6b	SK363090. 最下層	土師器	ⅢA	19.8	(2.7)	ヨコナテ°/クスリ後ナテ°	淡灰黄褐-肌/淡灰黄褐-肌	2ミ以下長・赤	1/5	Bb形態. 手法不明. 内外の底部に凹凸

出土土器観察表

1313	L363	A-6b	SK363090	土師器	ⅢA	19.8	2.35	ヨコナテ <sup>°</sup> /ヨコナテ <sup>°</sup> .ヘラクス <sup>°</sup> リ	淡赤褐/淡灰褐	3ミ以下長・石・チャク多量	1/2	Bc形態.b手法
1314	L363	A-6b	SK363090.最下層	土師器	ⅢA	19.7	2.5	ヨコナテ <sup>°</sup> /ヨコナテ <sup>°</sup> .ヘラクス <sup>°</sup> リ	淡赤褐/淡明褐	2.5ミ以下長・チャク・赤・雲	1/5	Bb形態.b手法
1315	L363	A-6b	SK363090.下層	土師器	ⅢA	19.8	2.35	ナテ <sup>°</sup> /口縁部ナテ <sup>°</sup> .ヘラクス <sup>°</sup> リ	黄灰褐/黄灰褐	1.5ミ赤多量・3ミ以下粒砂?	1/2	Bb形態.cかc'手法
1316	L363	A-6b	SK363090.下層	土師器	ⅢA	20.15	2.1	ナテ <sup>°</sup> /口縁端部以下ヘラクス <sup>°</sup> リ	淡桃茶灰/淡茶-淡黄灰褐	2.5ミ以下長・石・赤	1/2	Bb形態.c手法
1317	L363	A-6b	SK363090	土師器	ⅢA	20.0	2.8	ヨコナテ <sup>°</sup> /ヨコナテ <sup>°</sup> .ケクス <sup>°</sup> リ.指痕後クス <sup>°</sup> リ.	褐/明褐	0.5長・1ミ石・極細雲・チャク少量・	1/5	Bc形態.c手法
1318	L363	A-6b	SK363090.最下層	土師器	ⅢA	20.4	2.4	ナテ <sup>°</sup> .口縁に沈線/口縁部ナテ <sup>°</sup> .クス <sup>°</sup> リ後ナテ <sup>°</sup>	明橙褐/明橙褐	3ミ以下小石?	3/10	Ba形態.b'手法
1319	L363	A-6b	SK363090	土師器	ⅢA	20.6	2.4	ヨコナテ <sup>°</sup> /ヨコナテ <sup>°</sup> .ヘラクス <sup>°</sup> リ	茶褐/茶褐	1ミ以下長・赤	1/6	Ac形態.c手法
1320	L363	A-6b	SK363090.下層	土師器	ⅢA	20.5	2.35	不明/ヨコナテ <sup>°</sup> .ヘラクス <sup>°</sup> リ	橙黄褐/橙黄褐	3.5ミ以下長・チャク・雲	1/10	Bc形態.b'手法
1321	L363	A-6b	SK363090.下層	土師器	ⅢA	21.1	2.6	ヨコナテ <sup>°</sup> /ヨコナテ <sup>°</sup> .ヘラクス <sup>°</sup> リ	橙灰褐/橙灰褐	2ミ以下長・石・ク	1/3	Ac形態.b'手法
1322	L363	A-6b	SK363090.下層	土師器	ⅢA	21.2	2.3	ヨコナテ <sup>°</sup> /ヨコナテ <sup>°</sup> .ヘラクス <sup>°</sup> リ	淡褐/淡褐	2ミ以下長・石・雲・赤	1/4	Ba形態.c手法
1323	L363	A-6b	SK363090.最下層	土師器	ⅢA	21.2	2.8	不明/底面指痕.不明	乳白/乳白	4ミ以下長・石・チャク	7/8	Bc形態.c手法
1324	L363	A-6b	SK363090.最下層	土師器	ⅢA	21.5	(2.9)	指痕.ヨコナテ <sup>°</sup> /ヨコナテ <sup>°</sup> .クス <sup>°</sup> リ後ナテ <sup>°</sup>	淡灰褐-肌/淡灰褐-肌	中粒砂・雲母?	1/5	Bb形態.b'手法
1325	L363	A-6b	SK363090.下層	土師器	ⅢA	21.4	1.85	不明/不明	濁橙灰褐/淡明橙灰	3.5ミ以下長・石・チャク・赤・雲	1/3	Bb形態.b'手法?
1326	L363	A-6b	SK363090.下層	土師器	ⅢA	21.7	2.4	底部指痕後ナテ <sup>°</sup> .ナテ <sup>°</sup> .口縁部に沈線.ナテ <sup>°</sup>	乳白/乳白	1ミ以下長・石少量	1/2	Ba形態.手法不明
1327	L363	A-6b	SK363090.下層	土師器	ⅢA	21.6	2.1	ヨコナテ <sup>°</sup> /ヨコナテ <sup>°</sup> .ヘラクス <sup>°</sup> リ	橙褐/橙褐	0.5-2ミ程長・石・チャク・雲	1/5	Bb形態.b'手法
1328	L363	A-6b	SK363090.最下層	土師器	ⅢA	22.0	2.1	ナテ <sup>°</sup> /クス <sup>°</sup> リ	橙褐/橙褐	0.8ミ以下長・石少量	1/6	Bc形態.c手法
1329	L363	A-6b	SK363090	土師器	椀C	10.7	(2.5)	不明/ヨコナテ <sup>°</sup> .不明	黄褐/黄褐	1-2ミ黒多量	1/6	Cc形態.b手法?
1330	L363	A-6b	SK363090	土師器	椀C	11.4	(2.7)	ヨコナテ <sup>°</sup> .ナテ <sup>°</sup> /ヨコナテ <sup>°</sup> .指痕	淡明赤褐/淡明赤褐	2ミ以下長・チャク・雲	1/8	Cd形態e手法
1331	L363	A-6b	SK363090	土師器	椀A	11.4	3.05	ナテ <sup>°</sup> .口縁部ヨコナテ <sup>°</sup> /口縁部ヨコナテ <sup>°</sup> .ヘラクス <sup>°</sup> リ	淡橙褐/淡橙褐	2ミ以下長・チャク・雲	1/7	Cb形態.c'手法
1332	L363	A-6b	SK363090.最下層	土師器	椀C	11.95	(3.6)	指痕/ヨコナテ <sup>°</sup> .指痕後クス <sup>°</sup> リ?	橙褐/淡褐	2ミ以下長・ク・雲	1/6	Cc形態.c手法?
1333	L363	A-6b	SK363090.最下層	土師器	椀C	12.0	(3.45)	ヨコナテ <sup>°</sup> /ヨコナテ <sup>°</sup> .ヘラクス <sup>°</sup> リ.	淡橙白褐/淡橙白褐	1ミ以下長・ク	1/4	Cb形態.c手法
1334	L363	A-6b	SK363090.下層	土師器	椀A	11.9	(3.8)	不明/不明.クス <sup>°</sup> リ?	淡橙灰褐-乳灰/淡橙灰褐-乳灰	3ミ以下石・チャク・雲少量	1/2	Cb形態.c手法?
1335	L363	A-6b	SK363090.下層	土師器	椀A	12.2	(2.9)	ヨコナテ <sup>°</sup> /ヨコナテ <sup>°</sup> .ケクス <sup>°</sup> リ	明淡黄褐/淡黄褐	1ミ以下長・チャク・雲・ク	1/6	Cc形態.c'手法
1336	L363	A-6b	SK363090.下層	土師器	椀C	12.1	3.55	ヨコナテ <sup>°</sup> /ヨコナテ <sup>°</sup> .指痕	橙褐-淡橙褐/橙褐-淡橙褐	2.5ミ以下長・石・ク・雲	1/2	Cc形態e手法
1337	L363	A-6b	SK363090.下層	土師器	椀C	12.1	3.7	指痕.不明/クス <sup>°</sup> リ?不明	黄褐/淡黄灰褐	1.5ミ以下雲・ク・粒砂	1/4	Cc形態.c手法?

1338	L363	A-6b	SK363090. 下層	土師器	椀C	12.2	3.4	ヨコナテ <sup>°</sup> /口縁部のみヨコナテ <sup>°</sup> . 指痕	橙褐-淡橙褐/橙褐-淡橙褐	3ミリ以下長・石・チャ・雲・ク	1/4	Cc形態e手法?
1339	L363	A-6b	SK363090. 最下層	土師器	椀C	12.5	3.4	ヨコナテ <sup>°</sup> /ヘラクス <sup>°</sup> リ	淡橙褐/淡橙褐	1ミリ以下長・チャ・黒・ク	1/3	Cc形態.c手法
1340	L363	A-6b	SK363090. 最下層	土師器	椀A	12.7	3.0	ヨコナテ <sup>°</sup> /不明. 底部クス <sup>°</sup> リ	濁橙褐/濁橙褐	0.5ミリ以下長・ク・雲	1/9	Cc形態.c手法?
1341	L363	A-6b	SK363090. 下層	土師器	椀A	12.8	3.55	ナテ <sup>°</sup> /ナテ <sup>°</sup> . ミカ <sup>°</sup> キ. 指痕	黄褐/黄褐	1ミリ以下長・石・赤・雲	1/10	Ec形態e手法
1342	L363	A-6b	SK363090. 最下層	土師器	椀A	13.0	3.2	ヨコナテ <sup>°</sup> /ヨコナテ <sup>°</sup>	橙褐/橙褐	1ミリ以下粗粒砂・雲	5/8	Cc形態
1343	L363	A-6b	SK363090. 下層	土師器	椀C	13.3	3.2	不明/指圧痕. 不明	黄褐/黄褐	2ミリ以下長・石	2/5	Cb形態e手法
1344	L363	A-6b	SK363090	土師器	椀C	11.0	(2.85)	不明/ヨコナテ <sup>°</sup> . ヘラクス <sup>°</sup> リ	明灰褐/橙褐	1.5ミリ以下石多量・長・チャ	1/8	Cb形態.b'手法
1345	L363	A-6b	SK363090	土師器	椀C	11.4	3.7	ヨコナテ <sup>°</sup> /ヨコナテ <sup>°</sup> . 指痕	淡茶灰/明茶灰	2.5ミリ以下長・石・チャ多量	1/5	Cc形態e手法
1346	L363	A-6b	SK363090. 最下層	土師器	椀A	11.4	(2.7)	指痕後ナテ <sup>°</sup> . ヨコナテ <sup>°</sup> /不明	淡黄褐/淡黄褐	1ミリ以下赤・雲・粗粒砂	1/6	Cc形態.c手法?
1347	L363	A-6b	SK363090	土師器	椀A	11.9	3.5	不明/不明	暗橙褐/暗橙褐	1ミリ以下長・石・赤・黒	1/16	Cc形態.手法不明
1348	L363	A-6b	SK363090	土師器	椀C	12.0	(3.55)	ヨコナテ <sup>°</sup> /ヨコナテ <sup>°</sup> . 不明	明淡黄褐/明淡黄褐	2ミリ以下長・ク	1/7	Cc形態.c手法?
1349	L363	A-6b	SK363090	土師器	椀A	11.9	(2.7)	ヨコナテ <sup>°</sup> /ヘラクス <sup>°</sup> リ	淡橙灰/淡濁橙褐	2ミリ以下長・石・ク	1/5	Cc形態.c手法
1350	L363	A-6b	SK363090. 最下層	土師器	椀A	12.0	3.8	ヨコナテ <sup>°</sup> /ヨコナテ <sup>°</sup> . ヘラクス <sup>°</sup> リ?	濁橙褐/淡橙白褐	1ミリ以下長・ク・雲	1/5	Cc形態.c手法?
1351	L363	A-6b	SK363090. 最下層	土師器	椀A	12.1	(3.4)	ヨコナテ <sup>°</sup> /ヨコナテ <sup>°</sup> . ヘラクス <sup>°</sup> リ	淡茶灰/淡茶灰	2ミリ以下長・ク	1/8	Ca形態.c手法
1352	L363	A-6b	SK363090	土師器	椀A	12.2	3.75	ヨコナテ <sup>°</sup> /ヨコナテ <sup>°</sup> . 指痕	橙褐/淡橙褐	0.5ミリ以下長・雲・黒・赤少量	1/3	Cc形態.c手法
1353	L363	A-6b	SK363090. 下層	土師器	椀A	12.2	3.45	ナテ <sup>°</sup> . 口縁部ヨコナテ <sup>°</sup> /ヘラクス <sup>°</sup> リ	暗橙褐/淡暗橙褐	3ミリ以下長・チャ・ク	1/8	Cc形態c手法
1354	L363	A-6b	SK363090. 下層	土師器	椀A	12.4	3.4	ヨコナテ <sup>°</sup> /口縁部ヨコナテ <sup>°</sup> . ヘラクス <sup>°</sup> リ	淡橙灰/淡橙灰	2.5ミリ以下長・ク・雲	1/4	Cc形態.c'手法
1355	L363	A-6b	SK363090	土師器	椀A	12.6	(2.6)	ヨコナテ <sup>°</sup> /ヨコナテ <sup>°</sup> . 不明	濁赤灰褐/濁赤灰褐	2ミリ以下長・石・ク・雲	1/8	Cc形態c手法?
1356	L363	A-6b	SK363090. 下層	土師器	椀A	12.8	3.9	ヨコナテ <sup>°</sup> /指痕. ヘラクス <sup>°</sup> リ	淡濁橙褐/淡濁橙褐	3ミリ以下長・ク・雲	2/5	Cc形態.c手法
1357	L363	A-6b	SK363090. 最下層	土師器	椀A	13.2	3.85	指痕後ヨコナテ <sup>°</sup> /ヘラクス <sup>°</sup> リ	淡赤橙褐/淡赤橙褐	2ミリ以下ク・チャ・長	1/2	Cb形態
1358	L363	A-6b	SK363090. 下層	土師器	椀A	13.1	(3.5)	不明/不明	淡橙灰-橙褐/橙褐-淡橙灰	1.5ミリ以下長・石・ク	1/3	Cc形態.c手法?
1359	L363	A-6b	SK363090	土師器	椀A	13.5	3.8	ヨコナテ <sup>°</sup> /ヨコナテ <sup>°</sup> . ケクス <sup>°</sup> リ	赤褐/赤褐	2ミリ以下長	5/6	Cc形態.c'手法
1360	L363	A-6b	SK363090. 下層	土師器	椀A	13.4	3.65	不明/不明	ピンク/ピンク	1ミリ以下粒砂・赤	1/4	Cb形態
1361	L363	A-6b	SK363090. 下層	土師器	椀A	13.5	3.5	ヨコナテ <sup>°</sup> . 口縁端部のみヨコナテ <sup>°</sup> /指痕. ヘラクス <sup>°</sup> リ	橙褐/橙褐	1.5ミリ以下長・チャ・石・赤・雲・ク	1/3	Cc形態.c手法
1362	L363	A-6b	SK363090	土師器	椀A	13.4	3.2	ヨコナテ <sup>°</sup> /ヘラクス <sup>°</sup> リ	茶褐/茶褐	0.5ミリ以下長・石・雲・赤	1/8	Cb形態.c手法
1363	L363	A-6b	SK363090. 下層	土師器	椀A	13.8	3.4	ナテ <sup>°</sup> . ヨコナテ <sup>°</sup> /口縁ヨコナテ <sup>°</sup> . ヘラクス <sup>°</sup> リ	暗橙褐/暗橙褐	2.5ミリ以下長・石・チャ・雲	1/4	Cc形態.c'手法
1364	L363	A-6b	SK363090	土師器	椀A	14.0	2.9	ヨコナテ <sup>°</sup> /ヨコナテ <sup>°</sup> . ヘラクス <sup>°</sup> リ	橙褐/淡橙白褐	0.5ミリ以下長・石・ク	1/5	Ca形態.c'手法

出土土器観察表

1365	L363	A-6b	SK363090	土師器	碗A	14.0	(2.9)	ヨコナテ <sup>*</sup> /ヨコナテ <sup>*</sup> .ヘラクス <sup>*</sup> リ	明灰褐/明橙灰褐	1ミリ以下長・石・雲	1/7	Cc形態.c手法
1366	L363	A-6b	SK363090.最下層	土師器	碗A	14.1	3.4	不明/不明	淡黄灰/淡黄褐	0.5ミリ以下褐・雲	1/5	Cb形態.c手法?
1367	L363	A-6b	SK363090.下層	土師器	碗A	14.0	4.7	ナテ <sup>*</sup> .指痕/c手法ヘラクス <sup>*</sup> リ後ナテ <sup>*</sup>	灰黄褐/淡橙褐	1.5ミリ以下長・石・ク・ク	7/8	Cb形態.c手法
1368	L363	A-6b	SK363090	土師器	碗A	14.0	3.5	ナテ <sup>*</sup> 後荒くヘラミカ <sup>*</sup> キ.ヨコナテ <sup>*</sup> /ヨコナテ <sup>*</sup> .クス <sup>*</sup> リ.指痕	淡赤褐/淡赤褐	4ミリ以下長・雲・ク・ク	1/2	Cb形態.c手法
1369	L363	A-6b	SK363090	土師器	碗C	14.4	(2.8)	ヨコナテ <sup>*</sup> /ヨコナテ <sup>*</sup> .指痕	赤褐/赤褐	1.5ミリ以下長・ク・ク	1/8	Cc形態e手法
1370	L363	A-6b	SK363090.下層	土師器	碗A	14.8	3.65	ナテ <sup>*</sup> /c手法ヘラクス <sup>*</sup> リ後軽くナテ <sup>*</sup>	黄褐/橙褐	4.5ミリ以下長・ク	1/4	Cb形態.c手法
1371	L363	A-6b	SK363090.下層	土師器	碗A	14.8	4.35	ナテ <sup>*</sup> /不明	淡橙黄灰-肌/淡橙黄灰-肌	細粒砂少量	1/4	Bd変形形態.手法不明
1372	L363	A-6b	SK363090.下層	土師器	碗A	15.2	3.9	ヨコナテ <sup>*</sup> .ナテ <sup>*</sup> /ヨコナテ <sup>*</sup> .ヘラクス <sup>*</sup> リ	淡橙灰白褐/淡赤橙褐	4ミリ以下長・雲・ク・ク	1/6	Cc形態.c'手法
1373	L363	A-6b	SK363090	土師器	碗C	16.0	(2.4)	ヨコナテ <sup>*</sup> /ヨコナテ <sup>*</sup> .指痕	明淡黄褐/淡赤黄褐	1ミリ以下長・雲・ク	1/8	Cc形態e手法
1374	L363	A-6b	SK363090	土師器	壺E	7.25	(4.65)	ヨコナテ <sup>*</sup> /ヨコナテ <sup>*</sup> .ナテ <sup>*</sup>	黄褐/黄褐	2ミリ以下長・石・ク	[1/5]	
1375	L363	A-6b	SK363090.下層	土師器	高杯	33.4 (16.5)	23.3	ナテ <sup>*</sup> /ミカ <sup>*</sup> キ.クス <sup>*</sup> リ.ナテ <sup>*</sup>	淡橙褐/橙赤褐	2ミリ以下長・石・ク・黒・雲	1/36 (1/3)	断面7面
1376	L363	A-6b	SK363090.下層	土師器	盤B	36.0	11.6	口縁部ナテ <sup>*</sup> .他は不明/ヨコナテ <sup>*</sup> .ミカ <sup>*</sup> キ?	橙褐/橙褐	3ミリ以下長・石・ク	2/3	
1377	L363	A-6b	SK363090.最下層	土師器	甕A	17.7	(10.4)	指痕後ヨコナテ <sup>*</sup> .ヨコナテ <sup>*</sup> /指痕後ヨコナテ <sup>*</sup> .ハク	濁橙褐/暗赤橙-橙褐	2ミリ以下長・ク・石・角	7/8	A形態
1378	L363	A-6b	SK363090	須恵器	甕A	18.0	(7.2)	ナテ <sup>*</sup> .ヨコナテ <sup>*</sup> /ヨコナテ <sup>*</sup> .ナテ <sup>*</sup> 後クハク	灰黄白/淡明橙黄灰白	2ミリ以下長・ク	1/5	C形態
1379	L363	A-6b	SK363090	土師器	甕A	21.0	(6.6)	ナテ <sup>*</sup> .ヨコナテ <sup>*</sup> /ヨコナテ <sup>*</sup> .ナテ <sup>*</sup> 後ハク	淡黄赤褐/赤褐	3ミリ以下長・多量・2ミリ以下石・雲	1/7	D形態
1380	L363	A-6b	SK363090	土師器	甕A	28.8	(20.1)	ヘラクス <sup>*</sup> リ.ヨコナテ <sup>*</sup> /ヨコナテ <sup>*</sup> .指痕.ハク	淡褐/茶褐	1ミリ以下長・石・雲・赤	1/9	C形態.外面にス
1381	L363	A-6b	SK363090.下層	黒色?	甕A	10.3	8.5	指痕.ミカ <sup>*</sup> キ/ヨコナテ <sup>*</sup>	黒/黒褐-黄橙褐	3ミリ以下長少量	1/2	H形態
1382	L363	A-6b	SK363090.下層	黒色?	甕A	12.4	9.9	指痕.ミカ <sup>*</sup> キ.指痕後ナテ <sup>*</sup> /ナテ <sup>*</sup> .不明	黒褐/橙褐-黒褐-黄橙褐	2.5ミリ以下長・石・雲・4ミリ白	1/1	H形態
1383	L363	A-6b	SK363090	土師器	甕A	11.3	(5.25)	ヒナテ <sup>*</sup> .ヨコナテ <sup>*</sup> /ヨコナテ <sup>*</sup> .体部不明	淡濁褐/淡茶褐-淡桃褐	1ミリ以下長・石	1/8	B形態
1384	L363	A-6b	SK363090.最下層	土師器	甕A	11.3	(4.4)	ヨコナテ <sup>*</sup> /ヨコナテ <sup>*</sup>	赤褐/黄白	1ミリ以下長・石・黒	1/8	A形態?.内外面にス
1385	L363	A-6b	SK363090	土師器	甕A	14.8	(6.3)	ナテ <sup>*</sup> .ヨコナテ <sup>*</sup> /ヨコナテ <sup>*</sup> .指痕	淡明橙白褐/黄褐	1ミリ以下ク	1/8	C形態
1386	L363	A-6b	SK363090.最下層	土師器	甕A	16.1	(1/6)	ナテ <sup>*</sup> .ヨコナテ <sup>*</sup> /ヨコナテ <sup>*</sup>	明灰褐/濁灰褐	2ミリ以下長・石・ク・ク	1/6	C形態
1387	L363	A-6b	SK363090	土師器	甕A	16.0	(2.2)	ヨコナテ <sup>*</sup> 後ハク.ヨコナテ <sup>*</sup> /ヨコナテ <sup>*</sup> .ヨコナテ <sup>*</sup> 後ハク	明灰褐-赤橙/明灰褐-赤橙	2ミリ以下石多量・ク・長	1/7	B形態
1388	L363	A-6b	SK363090.最下層	土師器	甕A	17.1	(4.0)	ナテ <sup>*</sup> .ヨコナテ <sup>*</sup> /ヨコナテ <sup>*</sup> .ナテ <sup>*</sup>	淡肌/濁茶褐	1ミリ以下長・石・赤	1/8	B形態
1389	L363	A-6b	SK363090.最下層	土師器	甕A	16.3	(11.1)	指痕後ナテ <sup>*</sup> .ヨコナテ <sup>*</sup> /ヨコナテ <sup>*</sup> .ハク	淡黄褐/淡橙褐.一部黒褐	3ミリ以下長・石・角・褐色粒	1/2	B形態.外面にス
1390	L363	A-6b	SK363090.最下層	黒色	杯A	12.5	(3.6)	不明/不明	黒/黒-灰褐	1.5ミリ以下長・石	1/4	

1391	L363	A-6b	SK363090. 下層	黒色	杯A	16.4	(4.35)	ミカキ. 暗/ヨコナテ	黒/灰褐-黒	2ミ以下石 多量・長・雲	1/5	
1392	L363	A-6b	SK363090. 下層	黒色	杯A	16.9	4.25	ヨコナテ. ミカキ/ヨコナテ	暗黒/暗黒-淡赤灰褐-淡黄灰褐	4ミ以下長・石・雲・チャ	1/1	
1393	L363	A-6b	SK363090. 最下層	黒色	蓋A	16.3	3.7	不明/ヘラミカキ	黒褐/淡橙褐-淡橙灰	3.5ミ石・1.5ミ以下長・石・チャト	1/10 (1/2)	A類. 畿内系II類
1394	L363	A-6b	SK363090. 最下層	須恵器	杯A	14.9	3.15	回転ナテ/回転ナテ. ケスリ	濁灰/濁灰	2ミ以下長	1/3	N形態
1395	L363	A-6b	SK363090. 下層	須恵器	蓋A	17.2	2.0	回転ナテ/回転ナテ. ケスリ後ナテ. ナテ	灰白/灰白	4ミ以下長	1/2	
1396	L363	A-6b	SK363090. 下層	須恵器	杯B	15.3	5.1	ナテ/ナテ. 高台貼付. 底部未調整	淡青灰/淡青灰	1ミ以下長・チャ?	1/1	T形態. 底部外面にヘラ記号
1397	L363	A-6b	SK363090	須恵器	蓋A	9.3	(1.5)	回転ナテ/回転ナテ	灰黄白/灰黄白	1ミ以下長・チャ	1/8	
1398	L363	A-6b	SK363090. 最下層	須恵器	蓋B	11.1	3.5	回転ナテ/回転ナテ. ヘラケスリ後ナテ	明灰/白灰	1ミ以下長・黒	1/4	
1399	L363	A-6b	SK363090. 下層	須恵器	蓋B	8.6	4.8	回転ナテ/回転ナテ	淡青灰白/緑灰褐	1ミ以下長少量	1/1	外面全体に釉
1400	L363	A-6b	SK363090	須恵器	甕A	17.6	(4.2)	ナテ後タキ. 回転ナテ/回転ナテ. タタキ	灰/灰	3ミ以下長	1/7	
1401	L363	A-6b	SK363090. 最下層	須恵器	壺G	6.8	19.25	回転引き/回転引き. 口縁ヨコナテ. 底部糸切り	青灰/青灰	0.5ミ以下長	1/1	比較的粗雑な作り
1402	L363	A-6b	SK363090. 下層	須恵器	鉢D	15.2	11.1	ヨコナテ/ヨコナテ	淡灰-灰白/淡灰-灰白	4ミ以下長・石・チャ・黒	3/4	
1403	L363	A-6b	SK363090	須恵器	鉢D	(7.9)	(3.4)	回転ナテ. 回転ヘラケスリ/回転ナテ. 底部糸切り	青灰/青灰	1ミ以下黒	1/3	
1404	L363	A-6b	SK363090. 最下層	須恵器	鉢E	(9.2)	(9.2)	回転ナテ/回転ナテ. 回転ヘラケスリ. 底部ヘラ切り	淡青灰/淡青灰	0.5ミ以下長・黒少量	1/7	
1405	L363	A-6b	SK363105	土師器	杯A	14.2	3.45	ナテ. ヨコナテ/ヨコナテ. ヘラケスリ.	濁赤褐/淡灰黄褐	5ミ以下石・ク・雲	1/5	Ba形態. b手法
1406	L363	A-6b	SK363105	土師器	杯A	15.9	(2.7)	不明/ヨコナテ. 不明	黄灰-橙灰/黄灰-橙	0.5-1ミ石・黒	1/8	Bb形態. 手法不明
1407	L363	A-6b	SK363105	土師器	碗A	16.2	(3.5)	ヨコナテ/ヨコナテ. ヘラケスリ	茶褐-黒褐/茶褐-黒褐	1ミ以下長・石・黒	1/8	Cb形態. cかc'手法
1408	L363	A-6b	SK363105	土師器	杯A	18.0	3.8	ヨコナテ/ヨコナテ. ケスリ	明橙褐/明橙褐	5ミ石・2ミ以下長・石・ク・雲	7/8	Bb形態. b'手法
1409	L363	A-6b	SK363105	土師器	杯B	20.2	6.2	ナテ/ナテ. ミカキ	肌/橙褐	2ミ以下長	1/4	Db形態. e3手法
1410	L363	A-6b	SK363105	土師器	杯B	(10.8)	(1.3)	不明/不明	明橙褐/明橙褐	1ミ以下長・雲	1/8	
1411	L363	A-6b	SK363105	土師器	皿A	14.0	2.4	ケスリ. ヨコナテ/ヨコナテ	淡褐/赤桃褐(ピンク系)	砂粒微量	2/3	Ca形態. a手法(葉脈痕なし)
1412	L363	A-6b	SK363105	土師器	皿A	14.8	2.05	ナテ. ヨコナテ/ヨコナテ. ケスリ	淡明桃褐-暗褐/淡明桃褐	1ミ以下長・ク・雲	1/4	Ca形態. b手法
1413	L363	A-6b	SK363105	土師器	皿A	15.4	2.1	ヨコナテ/ヨコナテ. ヘラケスリ	淡肌-黒/肌	1ミ以下長・石・赤・黒	1/6	Ca形態. c'手法?
1414	L363	A-6b	SK363105	土師器	皿A	15.4	2.1	ヨコナテ/ケスリ?	橙褐/橙褐	1.5ミ長・石	1/4	Da形態. bかb'手法
1415	L363	A-6b	SK363105	土師器	皿A	15.9	(2.4)	ヨコナテ/ヨコナテ. 不明	肌/淡黄褐	2ミ以下長・石・雲	1/5	Cd形態. cかc'手法

## 出土土器観察表

1416	L363	A-6b	SK363105	土師器	ⅢA	16.2	2.65	ヨコナテ°/ヨコナテ°、ヘラクス°リ	淡灰褐/淡灰褐	3ミリ以下長・石・チャク多量	1/2	Ca形態.b手法
1417	L363	A-6b	SK363105	土師器	ⅢA	16.4	(2.7)	ヨコナテ°/不明	淡茶褐/淡茶褐	1.5ミリ以下長・石	1/5	Cc形態.c手法?
1418	L363	A-6b	SK363105	土師器	ⅢA	16.6	(2.2)	不明/不明	黄褐/黄褐	1ミリ以下石・黒多量	1/6	Cc形態
1419	L363	A-6b	SK363105	土師器	ⅢA	16.8	2.9	ヨコナテ°/ヘラクス°リ	淡茶褐/淡茶褐	3ミリ以下長・石・0.5ミリ以下チャク・赤	1/9	Bc形態.a手法
1420	L363	A-6b	SK363105	土師器	ⅢA	19.4	3.0	ヨコナテ°/ヨコナテ°、ヘラクス°リ	肌/淡橙茶褐	3ミリ以下長・石・赤・チャク	1/6	Bc形態.b手法
1421	L363	A-6b	SK363105	土師器	ⅢA	19.6	1.9	ヨコナテ°/クス°リ	赤橙褐/赤橙褐	1ミリ以下長・石	1/8	Bc形態.c手法
1422	L363	A-6b	SK363105	土師器	ⅢA	19.8	2.75	ヨコナテ°/ヨコナテ°、ヘラクス°リ	橙褐/橙褐	4ミリ長・石・チャク多量	1/5	Ba形態.b手法
1423	L363	A-6b	SK363105	土師器	ⅢA	19.9	(2.1)	ナテ°/ナテ°	淡橙褐/淡橙褐	1ミリ以下長	1/10	Ba形態.b手法?
1424	L363	A-6b	SK363105	土師器	ⅢA	21.7	2.8	ヨコナテ°/ヘラクス°リ	淡肌茶褐/淡明茶褐	1ミリ以下長・石・赤	1/4	Bc形態.c手法
1425	L363	A-6b	SK363105	土師器	ⅢA	22.0	2.4	ヨコナテ°/ヨコナテ°?	赤茶褐/赤茶褐	1ミリ以下長・石・0.5ミリ以下赤	1/8	Ac形態.c手法?
1426	L363	A-6b	SK363105	土師器	椀A	13.5	(3.4)	ヨコナテ°/クス°リ	暗灰/橙-赤褐	1ミリ程雲多量	1/6	Cc形態.c手法
1427	L363	A-6b	SK363105	土師器	椀A	13.7	3.5	ナテ°、ヨコナテ°/ヨコナテ°、ヘラクス°リ	淡明黄灰褐/濁赤褐	2ミリ以下長・チャク・雲	1/6	Cc形態.c手法
1428	L363	A-6b	SK363105	土師器	椀A	13.7	3.3	ヨコナテ°/クス°リ	黄褐-橙/黄褐-橙	砂粒微量	1/8	Cc形態.c手法
1429	L363	A-6b	SK363105	土師器	椀A	14.7	(2.7)	不明/不明	橙褐/橙褐	1ミリ以下長・石・雲	1/8	Cc形態.手法不明
1430	L363	A-6b	SK363105	土師器	椀A	12.0	3.0	ハ?ナテ°/ヨコナテ°、クス°リ	淡肌茶褐/橙茶褐	2ミリ以下カ・1ミリ以下長・石・雲	1/4	Cc形態.c手法
1431	L363	A-6b	SK363105	土師器	椀A	11.4	3.4	ナテ°/全面クス°リ	橙褐/橙褐	1ミリ以下長・石	3/8	Bc形態.c手法.口縁部内面にス
1432	L363	A-6b	SK363105	土師器	椀A	11.4	(3.8)	ヨコナテ°/ヘラクス°リ	淡赤褐/淡赤褐	2ミリ以下長・チャク・雲	1/8	Cc形態.c手法
1433	L363	A-6b	SK363105	土師器	椀C	11.7	(3.1)	ヨコナテ°/ヨコナテ°、未調整	淡灰褐/淡赤褐	1.5ミリ以下長・石・チャク	1/6	Cb形態.e手法
1434	L363	A-6b	SK363105	土師器	椀A	12.1	(3.0)	不明/クス°リ	暗褐/暗褐	1ミリ以下石	1/8	Cc形態.c手法口縁部にス
1435	L363	A-6b	SK363105	土師器	椀A	12.5	3.15	ヨコナテ°/ヨコナテ°、クス°リ	濁淡橙褐-濁暗灰/濁淡橙褐	1ミリ以下石少量	1/2	Ca形態.c手法
1436	L363	A-6b	SK363105	土師器	椀A	12.5	3.5	ナテ°、ヨコナテ°/ヨコナテ°、クス°リ	淡明橙褐/赤褐	2ミリ以下長・石・カ・雲	3/8	Cc形態.b手法
1437	L363	A-6b	SK363105	土師器	椀A	13.0	(3.1)	ヨコナテ°/ヨコナテ°、ヘラクス°リ	淡褐(桃肌)/淡褐(桃肌)	1ミリ以下長・石	1/8	Cc形態.c手法
1438	L363	A-6b	SK363105	土師器	椀A	13.4	3.4	ヨコナテ°/ヨコナテ°?	茶褐/茶褐	2ミリ以下長・石・チャク・赤	1/7	Cb形態.c手法?
1439	L363	A-6b	SK363105	土師器	高杯	22.0	(1.9)	不明/不明	淡肌褐/淡黄褐	1.5ミリ以下長・石・チャク・赤	1/10	
1440	L363	A-6b	SK363105	土師器	不明	—	—	不明/ヘラクス°リ	乳白/黄橙	2ミリ以下長・ク	破片	墨書.破片
1441	L363	A-6b	SK363105	土師器	高杯	—	(6.7)	ホ°リ痕/クス°リ	淡灰褐-橙灰褐/淡灰褐-橙灰褐	2.5ミリ長・石・チャク多量	破片	脚柱部断面7角形



1442	L363	A-6b	SK363105	土師器	壺B	15.4	9.8	指痕.ナテ/回転ナテ.ナテ	黄橙褐/黄橙褐	2リ以下長・石・ク・1リ以下粒砂	1/4	
1443	L363	A-6b	SK363105	土師器	甕A	22.9	(8.7)	ヨコナテ/ヨコナテ.指痕	暗褐/暗褐	3リ以下長・石多量	1/8	C形態
1444	L363	A-6b	SK363105	土師器	甕A	24.4	(11.1)	指痕.ヨコナテ/ヨコナテ.ナテ	淡白褐-黒/淡白褐	4リ以下長・石・赤	1/5	B形態
1445	L363	A-6b	SK363105	黒色	甕A	13.1	(5.5)	指痕.ヨコナテ/ヨコナテ.ハテ	暗黒/濁黄赤褐-暗赤褐	1リ以下長・石・雲・ク	3/8	H形態
1446	L363	A-6b	SK363105	黒色	甕A	14.4	(3.7)	ヨコナテ.ナテ/ヨコナテ.ナテ	黒/肌茶褐-黒	1リ以下長・石・赤・黒	1/6	H形態
1447	L363	A-6b	SK363105	黒色	碗A	12.8	4.0	ミカキ/不明	黒/黒-淡褐	1.5リ以下長・赤・雲	1/4	Cb形態
1448	L363	A-6b	SK363105	黒色	杯A	16.8	4.6	ミカキ.暗/ヨコナテ	黒/橙褐	3リ以下長・石	3/8	Cc形態
1449	L363	A-6b	SK363105	黒色	杯B	21.8	(3.7)	ヨコナテ.ナテ/ヨコナテ.ナテ	黒/肌茶褐-黒	1リ以下長・石・赤・黒	1/6	H形態
1450	L363	A-6b	SK363105	黒色	杯B	(11.6)	(0.9)	ナテ/ナテ.高台貼付	暗黒/濁茶褐	3リ以下長・石・雲	1/5	
1451	L363	A-6b	SK363105	黒色	杯B	11.6	3.5	不明/不明.底部ナテ	黒/黒-橙褐	1リ以下長・石	1/16	
1452	L363	A-6b	SK363105	黒色	杯B	18.9	5.6	ミカキ/不明	黒/暗褐-褐	極粗粒砂含む	1/6	Ca形態
1453	L362	A-6a	SB362116.P15	瓦	平瓦	厚1.7-1.9	—	凹布目痕/縄目タキ	凹乳灰/凸乳灰	3リ以下長・白・赤・石	破片	
1454	L362	A-6a	SB362116.P15	瓦	平瓦	厚1.5-1.7	—	凹不明/凸不明	凹乳灰/凸乳灰	5リ以下長・赤・白・石	破片	
1455	L362	A-6a	SB362116.P18 抜取	瓦	平瓦	厚1.9-2.3	—	凹糸切り痕.布目痕/凸縄目タキ.指痕	凹淡乳青灰/凸淡乳青灰	3リ以下長・白・黒・赤	破片	
1456	L362	A-6a	SB362116.P15	瓦	平瓦	厚1.6-1.9	—	凹布目痕/凸縄目タキ	凹暗乳灰/凸暗乳灰	10リ以下長・赤・黒・石	破片	
1457	L362	A-6a	SB362117.P22	瓦	平瓦	厚1.7-1.8	—	凹布目痕/凸縄目タキ	凹暗灰/凸暗灰	4リ以下長・石・赤・白・黒	破片	断面.乳茶灰
1458	L362	A-6a	SB362117.P22	瓦	丸瓦	厚1.4-1.5	—	凹布目痕/凸ナテ消	凹黒灰/凸黒灰	5リ以下白・長・石・角	破片	
1459	L362	A-6a	SB362117.P22	瓦	丸瓦	厚1.1-1.3	—	凹布目痕/凸ナテ消/玉縁部.ヨコナテ	凹濃灰/凸灰	5リ以下長・白・石・赤	破片	
1460	L362	A-6a	SB362117.P23	瓦	丸瓦	厚1.7-3.1	—	凹布目痕/凸縄目タキ.	凹黒灰/凸黒灰	5リ以下長・石・黒・ク	破片	
1461	L363	A-6b	SB363081.P21	瓦	丸瓦	厚2.0	—	凹布目痕/凸不明	凹乳茶灰/凸乳茶灰	3リ以下長・赤	破片	
1462	L362	A-6a	SD362111	瓦	平瓦	厚1.5-1.9	—	凹不明/凸布目痕	凹淡乳灰/凸淡乳灰	3リ以下長・石・白・赤	破片	
1463	L362	A-6a	SD362111	瓦	平瓦	厚1.9	—	凹布目痕/凸縄目タキ	凹明乳灰/凸明乳灰	3リ以下長・石・白・赤	破片	
1464	L362	A-6a	SD362111	瓦	平瓦	厚1.9	—	凹布目痕/凸縄目タキ	凹暗灰/凸暗灰	5リ以下長・赤・角・石・雲	破片	
1465	L362	A-6a	SD362111	瓦	丸瓦	厚1.2-1.5	—	凹布目痕/凸縄目タキ.ナテ消	凹黒灰/凸黒灰	4リ以下白・長・赤・石	破片	
1466	L362	A-6a	SD362111	瓦	平瓦	厚1.4-1.8	—	凹布目痕/凸縄目タキ	凹黄褐/凸淡桃褐.黄褐	2リ以下長・白・石・赤・黒	破片	
1467	L363	A-6b	SD362101	瓦	平瓦	厚2.0	—	凹糸切り跡.布目跡/凸縄目タキ	凹淡黄茶褐/凸灰	3.5リ長・石・赤	破片	

## 出土土器観察表

1468	L363	A-6b	SD362101	瓦	平瓦	厚1.8-2.4	—	凹布目痕、ナテ消、クスリ/凸部、縄目タキ後ナテ消	凹灰/凸灰	5ミリ長	破片	
1469	L363	A-6b	SD362101	瓦	平瓦	厚2.0	—	凹布目痕、糸切り痕/凸縄目タキ	凹暗灰/凸暗灰	5ミリ以下長・石	破片	
1470	L363	A-6b	SD363100	瓦	丸瓦	厚2.1	—	凹縄目タキ、ナテ消/凸布目痕	凹黒灰/凸黒灰	3ミリ以下長・石・珩・頁岩	破片	玉縁部、厚1.3/弧高6.2/幅12.0/長5.1
1471	L363	A-6b	SK363090	瓦	鬘斗瓦	厚1.6	—	凹布目痕/凸不明	凹黒灰/凸黒灰	1ミリ以下長・石・珩	破片	
1472	L363	A-6b	SK363090	瓦	丸瓦	厚1.2-1.4	—	凹布目痕/凸ヨナテ、クスリ、	凹灰白黄/凸灰	2ミリ以下長・石・珩・黒・雲	破片	玉縁部、厚1.1-1.3/長5.5
1473	L363	A-6b	SK363090	瓦	刻印丸瓦	厚1.2-1.75	—	凹布目痕、/凸タキ後ヨナテ、側面模骨痕	凹淡明黄橙/凸淡明黄橙	4ミリ以下長・石・珩・雲	破片	【修】刻印
1474	L363	A-6b	二条三坊十五町宅地包含層	瓦	平瓦	厚2.1-2.4	—	凹布目跡/凸縄目タキ	凹灰白褐/凸灰白褐	3ミリ以下長・珩	破片	
1475	L336	A-1	SB336005.P157	土師器	杯A	18.0	4.0	不明/不明	淡白黄褐/淡桃褐	3ミリ以下赤	1/2	Cc形態、手法不明
1476	L336	A-1	SB336005.P126	土師器	杯A	19.0	3.75	指痕/不明	黄褐/明黄褐	粗粒砂	1/4	Bb形態、c手法
1477	L329	A-2	SB329004.P15	土師器	杯A	21.2	(3.8)	ナテ/強いナテ	淡肌/黄褐	1.5ミリ以下赤	1/12	Aa形態、ロコ使用?
1478	L336	A-1	SB336005.P159	土師器	皿A	16.8	2.7	ナテ/ナテ、クスリ	淡褐灰/淡橙褐	2ミリ以下ク・長	1/5	Ba形態、c手法
1479	L336	A-1	SB336005.P124	土師器	皿A	18.7	2.7	不明/不明	淡橙褐/淡橙褐	3.5ミリ以下長・	1/7	Bc形態、c手法
1480	L329	A-2	SB329004.P15	土師器	皿A	19.7	2.45	ナテ/クスリ、ナテ	赤褐-橙褐/赤褐-橙褐	2ミリ以下長・雲	1/12	Bd形態、c手法
1481	L329	A-2	SB329004.P16	土師器	皿C	11.8	(2.0)	不明/クスリ	暗褐/黒褐-橙褐	0.5ミリ以下長・石・珩	1/4	Cc形態
1482	L336	A-1	SB336005.P159	土師器	碗A	12.2	(3.0)	不明 /クスリ	淡茶褐/淡茶褐	1ミリ以下長・石・珩・赤	1/8	Cc形態、c手法
1483	L336	A-1	SB336005.P164	土師器	碗A	12.2	3.55	ナテ/クスリ	赤褐/赤褐	4ミリ以下長・石	1/2	Ca形態、c'手法、全体に摩滅激しい
1484	L336	A-1	SB336005.P159	土師器	碗A	12.7	3.5	ナテ/ナテ	淡黄褐/淡橙褐-淡黄褐	1ミリ以下黒・雲	2/5	Ca形態、e手法外面に調整不明
1485	L336	A-1	SB336005.P104	土師器	碗A	13.6	(3.6)	ナテ/クスリ	淡茶褐/茶褐	1ミリ以下長・雲	1/4	Cc形態、c手法
1486	L336	A-1	SB336005.P104	土師器	甕A	17.0	(6.8)	ナテ、ヨコナテ、タテハケ	淡褐/淡褐	2.5ミリ以下長・石・珩・赤	1/4	A形態、外面にコケ・ス
1487	L336	A-1	SB336002.SK136	土師器	甕A	15.4	(5.3)	指痕/不明	淡黄褐-淡桃褐/淡黄褐-淡桃褐	1ミリ以下赤・ク	1/5	B形態
1488	L336	A-1	SB336005.SK167	土師器	甕A	18.0	(6.6)	ナテ/ヨコナテ、ハケ	淡褐/淡茶褐	2.5ミリ以下長・石・珩・赤	1/5	A形態、外面にコケ・ス
1489	L336	A-1	SB336005.P121	土師器	甕A	27.3	(8.3)	1条の凹線、ヨコハケ、ナテ/ヨコナテ	乳白/乳白	3ミリ以下長・赤	1/4	A形態、外面に一部黒褐
1490	L329	A-2	SX361064	須恵器	杯B	(8.8)	(2.0)	回転ナテ/回転ナテ	淡灰/淡灰-暗灰	1ミリ以下長	(1/6)	断面、暗灰
1491	L329	A-2	SX361064	須恵器	壺	—	(2.6)	回転ナテ/回転ナテ	灰/淡灰	1ミリ以下黒	「1/2」	一部自然釉
1492	L336	A-1	SA336007.P132	須恵器	壺G	(4.1)	(8.9)	ナテ/ナテ	暗青灰/暗青灰	3ミリ以下長・黒	(1/3)	全体いびつ

1493	L336	A-1	SB336005.P104.P164	須恵器	平瓶	(15.2)	(11.4)	ヨコナテ <sup>+</sup> /上部ヨコナテ <sup>+</sup> 下部ヘラクス <sup>+</sup> リ	暗青灰/暗青灰	5ミリ以下長	(1/1)	自然釉
1494	L329	A-2	SB329004.P16	土師器	ミニチュア竈	—	(5.5)	指痕/指痕.ヨコナテ <sup>+</sup>	淡橙乳褐/淡橙乳褐	2ミリ以下長・石・雲		破片
1495	L361	A-4	SX361064-B	土師器	土馬	—	(3.6)	ナテ <sup>+</sup>	淡灰褐	2ミリ以下長・ク		破片 胴部
1496	L336	A-1	SB336005.P161	瓦	平瓦	厚(1.4)	—	凹布目痕.クス <sup>+</sup> リ/凸縄目タキ.ケ	凹暗青灰/凸暗青灰	1ミリ以下長		破片
1497	L336	A-1	SB336005.P159	瓦	平瓦	厚1.4-1.7	—	凹布目痕/凸縄目タキ	凹乳灰/凸黒灰	3ミリ以下長・チャ・ク		破片
1498	L336	A-1	SB336002.P135	瓦	平瓦	厚1.7-2.0	—	凹タテクス <sup>+</sup> リ/凸摩滅	凹黄茶灰/凸黄混灰	3ミリ以下長・石・チャ		破片 凸面に変形.反り気味.
1499	L329	A-2	SA329006.P19	瓦	平瓦	厚2.7-3.0	—	凹布目痕/凸縄目タキ	凹暗灰/凸白灰-青灰	3-13ミリの長・石		破片 厚み2.7-3.0cm
1500	L336	A-1	SX336095	土師器	杯A	12.8	3.5	ナテ <sup>+</sup> /ヨコナテ <sup>+</sup>	淡褐/淡褐	5ミリ以下長・石・チャ	1/5	Cd形態
1501	L336	A-1	SX336095	須恵器	蓋A	13.8	(1.5)	ナテ <sup>+</sup> .回転ナテ <sup>+</sup> /回転ナテ <sup>+</sup>	青灰/青灰	1ミリ以下長	1/6	
1502	L336	A-1	SX336095	須恵器	蓋A	16.8	(2.5)	回転ナテ <sup>+</sup> /回転ナテ <sup>+</sup> .回転ヘラクス <sup>+</sup> リ	青灰/青灰	1ミリ以下長	1/8	内面に墨.転用硯?
1503	L329	A-2	SK336158(SD329009上面)	土師器	杯A	16.2	3.1	ナテ <sup>+</sup> /クス <sup>+</sup> リ	黄肌/黄肌	1ミリ以下長	1/2	Cc形態.c手法
1504	L329	A-2	SK336158(SD329009上面)	土師器	杯A	16.5	(2.5)	ヨコナテ <sup>+</sup> /ヨコナテ <sup>+</sup> .クス <sup>+</sup> リ	赤褐/淡褐	1ミリ以下赤・砂粒多量に	1/8	Ca形態.c手法
1505	L336	A-1	SK336158(SD329009上面)	土師器	杯A	17.6	3.4	ナテ <sup>+</sup> /ヘラクス <sup>+</sup> リ	淡褐/淡褐	1ミリ以下長・石・チャ	1/8	Bb形態.c手法
1506	L329	A-2	SK336158(SD329009上面)	土師器	杯A	17.7	(3.5)	ヨコナテ <sup>+</sup> /ヨコナテ <sup>+</sup> .ヘラクス <sup>+</sup> リ	淡灰褐/淡灰褐	2.5ミリ以下長	1/12	Aa形態.c手法
1507	L329	A-2	SK336158(SD329009上面)	土師器	ⅢA	14.8	2.3	指痕.ナテ <sup>+</sup> /ヘラクス <sup>+</sup> リ	淡褐黄灰/淡褐黄灰	極粗粒砂	1/3	Cb形態.a手法
1508	L336	A-1	SK336158(SD329009上面)	土師器	ⅢA	15.2	2.3	指痕.ナテ <sup>+</sup> /クス <sup>+</sup> リ後ナテ <sup>+</sup> .ヘラクス <sup>+</sup> リ	淡褐/淡褐	1ミリ以下長・石・雲・赤	1/4	Cc形態.b'手法内外にコケ・ス
1509	L336	A-1	SK336158(SD329009上面)	土師器	ⅢA	16.3	2.5	ナテ <sup>+</sup> /ナテ <sup>+</sup> .ヘラクス <sup>+</sup> リ	褐/褐	1.5ミリ以下長・石・赤	1/4	Cd形態.b手法
1510	L329	A-2	SK336158(SD329009上面)	土師器	ⅢA	15.8	2.1	ヨコナテ <sup>+</sup> /ヨコナテ <sup>+</sup> .ヘラクス <sup>+</sup> リ	暗灰褐/暗灰褐	2ミリ以下長・石・チャ	1/10	Bd形態.c手法
1511	L329	A-2	SK336158(SD329009上面)	土師器	ⅢA	16.25	2.05	ナテ <sup>+</sup> /ナテ <sup>+</sup> .クス <sup>+</sup> リ	黄肌/黄肌	2.5ミリ以下長	3/4	Cc形態.c手法口縁いびつ
1512	L329	A-2	SK336158(SD329009上面)	土師器	ⅢA	17.4	1.9	ナテ <sup>+</sup> /不明	淡灰褐/淡灰褐	1.5ミリ以下長・赤	1/10	Bc形態.c手法
1513	L329	A-2	SK336158(SD329009上面)	土師器	ⅢA	18.8	1.9	ナテ <sup>+</sup> /ナテ <sup>+</sup>	淡黄白褐/淡黄白褐	1ミリ以下長・チャ	1/10	Ac形態.c手法
1514	L336	A-1	SK336158(SD329009上面)	土師器	ⅢA	19.6	2.45	ナテ <sup>+</sup> /ヘラクス <sup>+</sup> リ	淡褐/淡褐	1ミリ以下長・石・赤	1/4	Cb形態.c手法
1515	L336	A-1	SK336158(SD329009上面)	土師器	ⅢA	20.8	3.0	ナテ <sup>+</sup> /ヘラクス <sup>+</sup> リ	淡茶褐/淡茶褐	2ミリ以下長・石・赤	?	Bc形態.c手法
1516	L329	A-2	SK336158(SD329009上面)	土師器	ⅢA	21.0	2.4	ナテ <sup>+</sup> /ナテ <sup>+</sup> .クス <sup>+</sup> リ	乳白/乳白	細かな長・雲・チャ	2/5	Bc形態.b手法
1517	L329	A-2	SK336158(SD329009上面)	土師器	ⅢA	20.5	1.7	ナテ <sup>+</sup> /不明	濃赤褐/濃赤褐	細かな長・雲	1/16	Bd形態.c手法
1518	L329	A-2	SK336158(SD329009上面)	土師器	ⅢA	24.0	3.1	不明/不明	乳白/乳白	3ミリ以下長・赤・ク	1/36	Da形態.(手法不明)
1519	L329	A-2	SK336158(SD329009上面)	土師器	椀A	10.9	(2.8)	ヨコナテ <sup>+</sup> /ヨコナテ <sup>+</sup> .ヘラクス <sup>+</sup> リ	灰褐/淡褐	0.5ミリ以下長・雲・赤	1/6	Cc形態.c手法
1520	L329	A-2	SK336158(SD329009上面)	土師器	椀A?	12.0	(2.2)	ヨコナテ <sup>+</sup> /ヨコナテ <sup>+</sup> .指痕後クス <sup>+</sup> リ	淡橙褐/淡橙褐	1ミリ以下白・赤	1/8	Cc形態.c手法
1521	L336	A-1	SK336158(SD329009上面)	土師器	椀A	12.2	(3.2)	細かいハケ.ナテ <sup>+</sup> /ナテ <sup>+</sup>	淡褐/淡褐	1ミリ以下長・石・赤・雲	1/8	Cc形態.c手法?
1522	L329	A-2	SK336158(SD329009上面)	土師器	椀A	12.0	(2.3)	ヨコナテ <sup>+</sup> /ヨコナテ <sup>+</sup> .ナテ <sup>+</sup>	淡橙褐/淡橙褐	1ミリ以下赤・雲	1/8	Cb形態

## 出土土器観察表

1523	L336	A-1	SK336158 (SD32 9009上面)	土師器	椀A	12.6	3.0	ハ後テ <sup>+</sup> /ヘラケス <sup>+</sup> リ後テ <sup>+</sup>	淡茶褐/淡茶褐	1.5ミ以下長・石・赤・雲	1/8	Cc形態.c手法
1524	L336	A-1	SK336158 (SD32 9009上面)	土師器	椀A	13.2	3.5	テ <sup>+</sup> /ヘラケス <sup>+</sup> リ	淡褐/淡褐	2ミ以下長・石・赤	1/5	Cc形態.c手法
1525	L336	A-1	SK336158 (SD32 9009上面)	土師器	椀A	13.2	(3.4)	ハケ.ヨコテ <sup>+</sup> /ヘラケス <sup>+</sup> リ	淡褐/淡褐	1ミ以下赤・長・雲	1/5	Cc形態.c手法
1526	L329	A-2	SK336158 (SD32 9009上面)	土師器	椀A	13.6	(3.0)	テ <sup>+</sup> /ケス <sup>+</sup> リ	乳白/乳白	1ミ以下雲・褐	1/10	Cc形態
1527	L336	A-1	SK336158 (SD32 9009上面)	土師器	皿B?	(21.6)	(2.5)	不明/不明	淡褐.黒灰部分	1.5ミ以下長・石・褐	1/8	
1528	L329	A-2	SK336158 (SD32 9009上面)	土師器	壺B	15.6	(3.5)	ヨコテ <sup>+</sup> /不明	淡黄褐/黒	1ミ以下長・雲		破片
1529	L329	A-2	SK336158 (SD32 9009上面)	須恵器	杯B	14.3	5.5	回転テ <sup>+</sup> /回転テ <sup>+</sup>	淡青灰/暗青灰	1-3ミの礫少量	1/12	H形態
1530	L336	A-1	SK336158 (SD32 9009上面)	須恵器	杯B	(10.7)	(2.6)	テ <sup>+</sup> /テ <sup>+</sup>	灰/灰.高台青灰	2ミ以下長・ク	(3/4)	粘土紐左巻き.H形態
1531	L329	A-2	SK336158 (SD32 9009上面)	須恵器	皿A	17.0	2.35	ヨコテ <sup>+</sup> /ヨコテ <sup>+</sup> .ヘラケス <sup>+</sup> リ	黄褐-淡灰褐/淡灰褐	2ミ以下キ少量	1/12	T形態
1532	L329	A-2	SK336158 (SD32 9009上面)	須恵器	杯A	11.55	3.75	回転テ <sup>+</sup> /回転テ <sup>+</sup>	淡青灰/淡青灰	4ミ以下極粗流砂多い	3/5	墨書「向川太」.底面に気泡.N形態
1533	L329	A-2	SX361064	須恵器	杯A	13.9	3.55	指痕.回転テ <sup>+</sup> /回転テ <sup>+</sup> .ヘラ切り後未調整	淡灰-暗灰/淡灰-暗灰	1-3ミ長少量	1/6	T形態
1534	L329	A-2	SK336158 (SD32 9009上面)	須恵器	蓋A	18.6	(2.6)	回転テ <sup>+</sup> /回転テ <sup>+</sup>	青灰/青灰	砂粒微量	2/5	
1535	L336	A-1	SK336158 (SD32 9009上面)	須恵器	蓋A	19.4	3.3	ヨコテ <sup>+</sup> /回転ケス <sup>+</sup> リ.回転ヨコテ <sup>+</sup>	淡灰/淡灰	2.5ミ以下長	3/4	全体いびつ
1536	L329	A-2	SK336158 (SD32 9009上面)	須恵器	蓋A	20.0	(2.0)	回転テ <sup>+</sup> /回転テ <sup>+</sup>	淡青灰/淡青灰	砂粒微量	1/5	
1537	L336	A-1	SK336158 (SD32 9009上面)	須恵器	蓋A	20.4	(2.1)	回転テ <sup>+</sup> /回転テ <sup>+</sup>	淡灰/淡灰	3ミ以下長・石・黒	1/6	
1538	L336	A-1	SK336158 (SD32 9009上面)	須恵器	蓋A	17.7	(1.6)	テ <sup>+</sup> /テ <sup>+</sup>	灰/灰-青灰	3ミ以下石・長	2/5	口縁に墨書
1539	L329	A-2	二条四坊二町宅地包含層	土師器	杯A	16.2	(3.1)	ヨコテ <sup>+</sup> /ヨコテ <sup>+</sup> .ケス <sup>+</sup> リ	淡褐/赤褐	1ミ以下長・石・黒	1/8	Ba形態.c手法?
1540	L329	A-2	二条四坊二町宅地包含層	土師器	椀A	14.0	(4.1)	テ <sup>+</sup> .ヨコテ <sup>+</sup> /ヨコテ <sup>+</sup> .テ <sup>+</sup> .ケス <sup>+</sup> リ	淡赤褐/淡黄褐	2ミ以下白	1/8	Cc形態.C手法?
1541	L329	A-2	二条四坊二町宅地包含層	土師器	高杯	—	(11.1)	ホ <sup>+</sup> リ痕/ケス <sup>+</sup> リ	赤褐/赤褐	1-3ミ砂礫多量に	破片	粘土の巻き上げ痕跡が明瞭
1542	L329	A-2	SD329010	須恵器	壺M	(3.1)	(4.7)	回転テ <sup>+</sup> /回転テ <sup>+</sup>	淡暗灰/淡暗灰	1ミ以下長石	(1/3)	断面.暗茶
1543	L329	A-2	二条四坊二町宅地包含層	須恵器	壺	(6.0)	(3.0)	回転テ <sup>+</sup> /回転テ <sup>+</sup> .高台貼付後回転テ <sup>+</sup>	淡灰/灰	3ミ以下白	(1/3)	
1544	L329	A-2	SK336158 (SD32 9009上面)	須恵器	甕	17.3	(2.4)	回転テ <sup>+</sup> /回転テ <sup>+</sup>	淡青灰/濃青灰	6.5ミ以下長	1/5	
1545	L329	A-2	SK336158 (SD32 9009上面)	須恵器	甕B	20.6	(5.3)	回転テ <sup>+</sup> /回転テ <sup>+</sup>	青灰/青灰	1-2ミ極砂粒	1/10	
1546	L329	A-2	SD329008	須恵器	甕A	—	(15.8)	回転テ <sup>+</sup> /回転テ <sup>+</sup> .タキ後テ <sup>+</sup>	乳白/乳白	3ミ以下長・赤・ク	1/36	
1547	L329	A-2	二条四坊二町宅地包含層	須恵器	不明	—	—	回転テ <sup>+</sup>	淡灰	2ミ以下長・黒	破片	墨書
1548	L329	A-2	二条四坊二町宅地包含層	須恵器	不明	—	—	回転テ <sup>+</sup>	淡灰	2ミ以下長・黒	破片	墨書
1549	L329	A-2	二条四坊二町宅地包含層	土製品	鞆羽口	—	—	不明/不明	赤褐/濁暗灰-濁暗紫灰	1-5ミ白・雲	破片	復元直径8.0
1550	L303	B-1b	二条四坊二町宅地包含層	土師器	杯A	14.6	4.1	不明/不明	淡黄褐/乳白	砂粒微量	3/8	Cc形態.e手法?

1551	L303	B-1b	二条四坊二町宅地包含層	土師器	掛堀型土器	7.55	3.4	指痕/指痕	淡褐/淡橙灰褐	1.5ミ以下長・石・黒・ク	1/1	外面の一部にス
1552	L303	B-1b	二条四坊二町宅地包含層	土師器	ミチュ7竈	(9.2)	(5.6)	全体に摩滅.不明	淡茶褐-淡灰濁緑/淡茶褐-淡灰緑	1ミ以下長・石・赤	2/3	
1553	L303	B-1b	二条四坊二町宅地包含層	灰釉	壺	—	(8.2)	回転ナテ°/回転ナテ°・回転ナスリ	淡灰/淡緑灰	4ミ以下長・石・黒多量	1/4	釉:淡緑黄
1554	L399	B-7	SB399518.P9	土師器	甕A	22.0	(4.5)	ヨコナテ°・ナテ°/ヨコナテ°・ナテ°	淡褐/淡褐	1ミ以下長	1/7	A形態
1555	L399	B-7	SB399518	須恵器	杯B	12.6	4.4	回転ナテ°/回転ナテ°	淡紫灰/青灰	細粒長・石	1/6	H形態
1556	L399	B-7	SB399518.P4	須恵器	杯B	(8.8)	(1.15)	回転ナテ°/回転ナテ°	灰/灰	2ミ以下長・石	(1/3)	
1557	L399	B-7	SB399518.P5	須恵器	杯B	(10.0)	(1.78)	回転ナテ°/回転ナテ°	灰/灰	1ミ以下長・黒	(1/7)	
1558	L399	B-7	SB399518.P4	須恵器	蓋A	18.2	2.8	回転ナテ°/回転ナテ°	灰/灰	1ミ以下長	1/4	
1559	L399	B-7	SB399518.P7	須恵器	壺K	(7.0)	(5.15)	回転ナテ°/回転ナテ°	灰/暗灰	1.5ミ以下長・黒	(1/4)	
1560	L399	B-7	SB399518.P513(P1)	灰釉須	蓋	—	(2.2)	回転ナテ°/回転ナテ°	明灰白緑/明淡灰白緑	4ミ以下長	破片	釉:淡濁深緑
1561	L399	B-7	SB399415.P14	土師器	皿A	16.0	2.1	ヨコナテ°・回転ナテ°/ヨコナテ°・回転ナテ°	淡褐/淡褐	細かな長・黒・雲・ク	1/8	Cc形態
1562	L399	B-7	SB399415.P12	須恵器	皿A	15.0	1.65	ヨコナテ°・回転ナテ°/ヨコナテ°・回転ナテ°	灰/灰	3ミ以下長・ク・黒	1/4	T形態
1563	L399	B-7	SB399415.P12	須恵器	椀B	15.0	(4.6)	ヨコナテ°・回転ナテ°/ヨコナテ°・回転ナテ°	灰/灰	1.5ミ以下長・黒	1/8	
1564	L399	B-7	SB399415.P12	須恵器	杯B	(9.0)	(1.3)	回転ナテ°/回転ナテ°	灰/灰	0.5ミ以下長・黒	(1/7)	
1565	L399	B-7	SB399415.P5	土師器	高杯	—	(8.1)	シホ°り痕/クスリ	赤褐-淡灰/赤褐-淡褐	ミ以下長・石・ク	1/2	側面に縦沈線
1566	L399	B-7	SB399415.P12	須恵器	蓋A	—	(1.42)	回転ナテ°/回転ナテ°	灰/灰	1ミ以下長・黒	破片	転用硯
1567	L333	B-4	SE333002	土師器	皿C	9.1	2.5	指痕・ヨコナテ°/ヨコナテ°・指痕・底部未調整	橙赤褐/橙赤褐	1ミ以下長・石・ク	1/1	内面ス
1568	L333	B-4	SE333002	土師器	高杯	28.8	(1.7)	ヨコナテ°/ヨコナテ°	淡黄褐/淡黄褐	1.5ミ以下長・褐・石	1/16	
1569	L333	B-4	SE333002	須恵器	壺L	7.55	(6.1)	回転ナテ°/回転ナテ°	淡青灰/淡青灰	1ミ以下長	1/1	
1570	L333	B-4	SE333002	須恵器	壺L	5.8	(5.3)	回転ナテ°/回転ナテ°	淡青灰/淡青灰	1ミ以下長・黒	1/4	口頸部残存7/10
1571	L333	B-4	SE333002	須恵器	壺A	12.8	(8.2)	回転ナテ°/回転ナテ°	青灰/淡灰	0.5ミ以下長少量	1/4	蓋を重ねて焼いた痕跡
1572	L333	B-4	SE333002	土師器	高杯	—	(8.2)	芯棒成形/クスリ	淡褐/淡褐	1ミ以下長・ク	破片	脚柱部断面7角形
1573	L333	B-4	SE333002	須恵器	蓋A	16.5	(1.2)	回転ナテ°/回転ナテ°	淡青灰/淡青灰	1ミ以下長	1/8	
1574	L333	B-4	SE333002	須恵器	杯B	12.6	3.7	回転ナテ°/回転ナテ°・高台貼付・底部未調整	暗黒灰/暗黒灰	1ミ以下長少量	1/1	H形態・底部爪跡
1575	L333	B-4	SE333002	須恵器	杯B	(11.6)	(1.95)	回転ナテ°/回転ナテ°・高台貼付	淡灰/淡灰	1ミ以下長・黒	(1/5)	
1576	L333	B-4	SE333002	須恵器	甕B?	21.1	(7.1)	回転ナテ°/回転ナテ°・クキ後回転ナテ°	灰/暗青灰	0.5-1.0粗粒砂	1/10	

## 出土土器観察表

1577	L315	B-2a	SK315011. 上層	土師器	蓋	—	(1.9)	不明/ナテ	黄褐/黄褐	1ミ以下長・石多量	破片	マミ径2.1
1578	L315	B-2a	SK315011. 上層	土師器	皿A	16.0	2.4	不明/指痕. ナテ. ヘラクスリ	淡褐/淡褐	1ミ以下石・0.5ミ以下赤	1/8	Cc形態. b手法
1579	L315	B-2a	SK315011. 上層	土師器	皿A	15.8	2.65	ヨコナテ?/ヘラクスリ?	淡橙褐/橙褐	1ミ以下長少量	1/8	Bc形態. c手法?
1580	L315	B-2a	SK315011. 上層	土師器	皿A	16.4	2.1	ヨコナテ/ヘラクスリ	黄褐/黄褐	1ミ以下黒少量	1/10	Cc形態. c手法
1581	L315	B-2a	SK315011. 上層	土師器	皿A	16.3	2.35	ヨコナテ/クスリ	淡灰褐/淡黄灰褐	1-2ミ以下長・赤・雲	1/10	Cb形態. c手法
1582	L315	B-2a	SK315011. 上層	土師器	皿A	17.1	2.15	ヨコナテ/クスリ	淡褐-暗灰/淡褐	0.5ミ以下長・赤・雲	1/8	Cc形態. c手法
1583	L315	B-2a	SK315011. 上層	土師器	皿A	16.4	2.8	ヨコナテ/不明	淡灰褐-乳白/淡灰褐-乳白	0.5ミ以下長・雲	1/6	Ca形態. a手法
1584	L315	B-2a	SK315011. 上層	土師器	皿A	18.5	(1.9)	ヨコナテ/ヘラクスリ	淡褐/茶褐	2ミ以下長・石・赤	1/6	Bb形態. c手法
1585	L315	B-2a	SK315011. 上層	土師器	皿A	20.4	2.25	ヨコナテ. 沈線一条/ヨコナテ. クスリ	淡桃灰褐/淡桃灰褐	1ミ以下赤	1/8	Ba形態b手法
1586	L315	B-2a	SK315011. 上層	土師器	高杯	—	(11.6)	漆り痕. ナテ/クスリ. ナテ	黄褐/黄褐	1ミ以下石・黒多量	破片	脚柱部断面7角形
1587	L315	B-2a	SK315011. 上層	土師器	甕A	11.9	(5.2)	指痕. ヨコナテ/ヨコナテ. 不明	橙褐-暗橙褐-赤褐/橙褐-赤褐	5ミ以下長・石・雲・赤	3/8	B形態
1588	L315	B-2a	SK315011. 上層	土師器	甕A	20.0	(3.7)	ナテ. ハ後ヨコナテ/タテハ後ヨコナテ. ナテ	黄灰/淡黄褐	1ミ以下石・黒	1/8	A形態
1589	L315	B-2a	SK315011. 上層	土師器	甕A	20.0	(4.9)	不明/不明	灰黄/暗黄褐	2ミ以下長・石多量	1/12	B形態
1590	L315	B-2a	SK315011. 上層	須恵器	蓋	—	(1.9)	回転ナテ/回転ナテ	灰/淡緑灰	砂粒微量	破片	マミ径2.8
1591	L315	B-2a	SK315011. 上層	須恵器	蓋A	14.0	2.6	回転ナテ/回転ナテ	淡緑灰/黄灰	0.5ミ以下長少量	1/3	外面にス
1592	L315	B-2a	SK315011. 上層	須恵器	蓋A	13.9	(0.8)	回転ナテ/回転ナテ	灰/灰	0.5ミ以下長・黒少量	1/3	
1593	L315	B-2a	SK315011. 上層	須恵器	蓋A	14.1	(1.4)	回転ナテ/回転ナテ	淡青灰/淡青灰	0.5ミ以下長少量	1/4	転用硯
1594	L315	B-2a	SK315011. 上層	須恵器	杯B	9.7	4.35	回転ナテ/回転ナテ. 高台貼付	淡灰/淡灰	1.5ミ以下長少量	1/5 (1/2)	N形態
1595	L315	B-2a	SK315011. 上層	須恵器	皿A	14.6	1.8	回転ナテ/回転ナテ	淡灰/淡緑灰	1ミ以下長	1/4	T形態. 口縁中心部に沈線一条
1596	L315	B-2a	SK315011. 上層	須恵器	杯B	15.65	5.8	回転ナテ/回転ナテ. 高台貼付	淡青灰/淡青灰	1ミ以下長少量	3/8	G形態. 底部に土器片付着
1597	L315	B-2a	SK315011. 上層	須恵器	壺L?	(7.8)	(5.25)	回転ナテ/回転ナテ	青灰/青灰	1ミ以下石多量	(1/2)	
1598	L315	B-2a	SK315011. 中・下層	土師器	皿A	13.6	2.3	不明/ヘラクスリ	茶褐-淡茶褐/茶褐-淡茶褐	0.5ミ以下長・石・赤	1/10	Cc形態. c手法
1599	L315	B-2a	SK315011. 中・下層	土師器	皿A	19.9	(2.3)	ヨコナテ/ヘラクスリ	茶褐/茶褐	1ミ以下長・赤	1/7	Aa形態. c手法
1600	L315	B-2a	SK315011. 中・下層	土師器	高杯	34.0	(3.9)	不明/ヘラクスリ	淡肌茶褐/淡茶褐	1.5ミ以下長・石・赤	1/6	
1601	L315	B-2a	SK315011. 中・下層	土師器	高杯	(14.0)	(4.7)	ヨコナテ/ヘラミカキ	淡茶褐/淡茶褐	2ミ以下長・石・雲・赤	(1/4)	
1602	L315	B-2a	SK315011. 中・下層	須恵器	蓋A	11.0	2.4	回転ナテ/回転ナテ. 回転ヘラクスリ	淡灰/淡灰	砂粒殆ど含まない	1/3	転用硯. 蓋裏面に墨痕
1603	L315	B-2a	SK315011. 中・下層	須恵器	壺L	(14.6)	(26.0)	回転ナテ/回転ナテ	灰/灰	2ミ以下長・黒	(1/8) 「1/3」	
1604	L315	B-2a	SK315011. 中・下層	須恵器	杯A	12.9	4.1	回転ナテ/回転ナテ	灰白/灰白	0.5ミ以下長	1/6	T形態

1605	L315	B-2a	SK315011. 中・下層	須恵器	杯A	16.1	4.2	回転ナテ/回転ナテ	淡黄灰/淡黄灰	0.5ミ以下長・黒	1/5	H形態
1606	L315	B-2a	SK315012	須恵器	皿A	15.0	1.6	回転ナテ/回転ナテ	暗灰/暗灰	砂粒殆ど含まない	1/2	T形態
1607	L315	B-2a	SK315012	須恵器	皿A	14.8	1.6	回転ナテ/回転ナテ	灰白/灰白	0.5ミ以下長・黒	1/10	T形態
1608	L399	B-7	SX399594	土師器	皿C	9.0	1.75	ヨコナテ・ナテ・指痕/ヨコナテ・ナテ・指痕	淡赤灰褐/淡灰褐	2ミ以下長・石・雲・赤	1/1	Da形態.e手法
1609	L399	B-7	SX399594	土師器	皿C	9.4	1.8	ヨコナテ・ナテ・指痕/ヨコナテ・ナテ・指痕	淡灰褐/淡灰褐	2ミ以下長・石・雲・赤	1/1	Da形態.e手法
1610	L399	B-7	SX399594	土師器	皿C	9.2	1.9	ヨコナテ・ナテ・指痕/ヨコナテ・ナテ・指痕	淡灰褐/淡灰褐	2ミ以下長・石・雲・赤	1/1	Da形態.e手法
1611	L399	B-7	SX399594	土師器	皿C	9.1	1.75	ヨコナテ・ナテ・指痕/ヨコナテ・ナテ・指痕	明灰褐/明黒灰褐	2ミ以下長・石・雲・赤	1/1	Da形態.e手法
1612	L399	B-7	SX399594	土師器	皿C	9.1	1.85	ヨコナテ・ナテ・指痕/ヨコナテ・ナテ・指痕	淡赤灰褐/淡赤灰褐	1ミ以下長・石・雲・赤	1/1	Da形態.e手法
1613	L399	B-7	SX399594	土師器	皿C	9.1	2.2	ヨコナテ・ナテ・指痕/ヨコナテ・ナテ・指痕	淡灰褐/淡灰褐	2ミ以下長・石・雲・赤	1/1	Da形態.e手法
1614	L399	B-7	SX399594	土師器	皿C	9.15	1.9	ヨコナテ・ナテ・指痕/ヨコナテ・ナテ・指痕	淡灰褐/明灰褐	1ミ以下長・石・雲・赤	1/1	Ba形態.e手法
1615	L399	B-7	SX399594	土師器	皿C	9.5	2.2	ヨコナテ・ナテ・指痕/ヨコナテ・ナテ・指痕	淡灰褐/明褐	2ミ以下長・石・雲・赤	1/1	Ca形態.e手法
1616	L399	B-7	SX399594	土師器	皿C	9.1	1.75	ヨコナテ・ナテ・指痕/ヨコナテ・ナテ・指痕	淡灰褐/淡灰褐	1ミ以下長・石・雲・赤	1/1	Ca形態.e手法
1617	L399	B-7	SX399594	土師器	皿C	8.9	1.85	ヨコナテ・ナテ・指痕/ヨコナテ・ナテ・指痕	淡灰褐/明灰褐	1ミ以下長・石・雲・赤	1/1	Da形態.e手法
1618	L399	B-7	SX399594	土師器	皿C	9.0	1.9	ヨコナテ・ナテ・指痕/ヨコナテ・ナテ・指痕	淡灰褐/淡灰褐	2ミ以下長・石・雲・赤	1/1	Da形態.e手法
1619	L399	B-7	SX399594	土師器	皿C	8.9	1.85	ヨコナテ・ナテ・指痕/ヨコナテ・ナテ・指痕	淡灰褐/淡灰褐	2ミ以下長・石・雲・赤	1/1	Da形態.e手法
1620	L399	B-7	SX399594	土師器	皿C	9.5	1.78	ヨコナテ・ナテ・指痕/ヨコナテ・ナテ・指痕	淡灰褐/淡灰褐	0.5ミ以下長・石・雲・赤	1/1	Da形態.e手法
1621	L399	B-7	SX399594	土師器	皿C	9.0	1.7	ヨコナテ・ナテ・指痕/ヨコナテ・指痕	淡灰褐/淡灰褐	1ミ以下石・雲・赤・長	1/2	Ea形態.e手法
1622	L399	B-7	SX399594	土師器	皿C	9.1	1.65	ヨコナテ・ナテ・指痕/ヨコナテ・指痕後ナテ	淡赤灰褐/淡赤灰褐	1-2ミ以下赤・長・雲・石	1/1	Ca形態.e手法
1623	L399	B-7	SX399594	土師器	皿C	8.9	1.45	ヨコナテ・ナテ・指痕/ヨコナテ・指痕後ナテ	明褐/淡灰褐	1ミ以下長・赤・赤・雲・1-3ミ石	1/1	Da形態.e手法
1624	L399	B-7	SX399594	土師器	皿C	9.2	1.65	ヨコナテ・ナテ・指痕/ヨコナテ・指痕後ナテ	淡灰褐/淡灰褐	1ミ以下長・石・赤・赤・雲	1/1	Da形態.e手法
1625	L399	B-7	SX399594	土師器	皿C	9.2	1.85	ヨコナテ・ナテ・指痕/ヨコナテ・指痕後ナテ	明褐/明黄灰褐	1ミ以下長・石・赤・雲・1-2ミ赤	1/1	Da形態.e手法
1626	L399	B-7	SX399594	土師器	皿C	9.0	1.8	ヨコナテ・ナテ・指痕/ヨコナテ・指痕後ナテ	淡黄灰褐/淡黄褐	1ミ以下長・石・赤・赤・雲	1/1	Da形態.e手法
1627	L399	B-7	SX399594	土師器	皿C	9.4	1.85	ヨコナテ・ナテ・指痕/ヨコナテ・指痕後ナテ	暗黄灰褐/淡灰褐	1ミ以下長・石・赤・1ミ赤・雲	1/1	Da形態.e手法

## 出土土器観察表

1628	L399	B-7	SX399594	土師器	ⅢC	9.1	1.6	ヨコテ <sup>+</sup> .ナテ <sup>+</sup> .指痕/ヨコテ <sup>+</sup> .指痕後ナテ <sup>+</sup>	淡黄灰褐/淡黄灰褐	1-2ミ長・1ミ以下石・赤・雲・ナ	1/1	Da形態.e手法
1629	L399	B-7	SX399594	土師器	ⅢC	9.2	1.7	ヨコテ <sup>+</sup> .ナテ <sup>+</sup> .指痕/ヨコテ <sup>+</sup> .指痕後ナテ <sup>+</sup>	淡黄褐/淡黄褐	1ミ以下長・赤・ナ・石・雲	1/1	Ca形態.e手法
1630	L399	B-7	SX399594	土師器	ⅢC	9.1	1.8	ヨコテ <sup>+</sup> .ナテ <sup>+</sup> .指痕/ヨコテ <sup>+</sup> .指痕後ナテ <sup>+</sup>	淡黄灰褐/淡赤灰褐	細かな長・石・ナ・雲・赤	1/1	Ba形態.e手法
1631	L399	B-7	SX399594	土師器	ⅢC	9.3	1.75	ヨコテ <sup>+</sup> .ナテ <sup>+</sup> .指痕/ヨコテ <sup>+</sup> .指痕後ナテ <sup>+</sup>	淡黄灰褐/淡灰褐	1ミ以下長・石・ナ・雲・赤	1/1	Da形態.e手法
1632	L399	B-7	SX399594	土師器	ⅢC	9.2	1.85	ヨコテ <sup>+</sup> .ナテ <sup>+</sup> .指痕/ヨコテ <sup>+</sup> .指痕後ナテ <sup>+</sup>	暗黄灰褐/暗黄灰褐	1ミ以下長・石・ナ・雲・赤・黒	1/1	Da形態.e手法
1633	L399	B-7	SX399594	土師器	ⅢC	9.2	1.75	ヨコテ <sup>+</sup> .ナテ <sup>+</sup> .指痕/ヨコテ <sup>+</sup> .指痕後ナテ <sup>+</sup>	淡赤灰褐-淡黄灰褐/淡赤灰褐	1ミ以下長・石・ナ・雲・赤	1/1	Ca形態.e手法
1634	L399	B-7	SX399594	土師器	ⅢC	9.3	1.9	ヨコテ <sup>+</sup> .ナテ <sup>+</sup> .指痕/ヨコテ <sup>+</sup> .指痕後ナテ <sup>+</sup>	淡灰褐/淡赤灰褐	1ミ以下長・石・赤・ナ・雲・黒	1/1	Ba形態.e手法
1635	L399	B-7	SX399594	土師器	ⅢC	9.1	1.9	ヨコテ <sup>+</sup> .ナテ <sup>+</sup> .指痕/ヨコテ <sup>+</sup> .指痕後ナテ <sup>+</sup>	淡灰褐-暗黄灰褐/淡灰褐	1ミ以下長・ナ・石・赤・雲・黒	1/1	Da形態.e手法
1636	L399	B-7	SX399594	土師器	ⅢC	9.1	1.75	ヨコテ <sup>+</sup> .ナテ <sup>+</sup> .指痕/ヨコテ <sup>+</sup> .指痕後ナテ <sup>+</sup>	淡灰褐/淡灰褐	1ミ以下ナ・赤・雲・長・石	1/1	Da形態.e手法
1637	L399	B-7	SX399594	土師器	ⅢC	9.0	1.8	ヨコテ <sup>+</sup> .ナテ <sup>+</sup> .指痕/ヨコテ <sup>+</sup> .指痕後ナテ <sup>+</sup>	淡灰褐/淡灰褐	1ミ以下長・ナ・赤・雲	1/2	Da形態.e手法
1638	L399	B-7	SX399594	土師器	ⅢC	9.2	1.75	ヨコテ <sup>+</sup> .ナテ <sup>+</sup> .指痕/ヨコテ <sup>+</sup> .指痕後ナテ <sup>+</sup>	淡褐/淡灰褐	1ミ以下長・ナ・赤・雲・石	1/2	Ca形態.e手法
1639	L399	B-7	SX399594	土師器	ⅢC	8.9	1.75	ヨコテ <sup>+</sup> .ナテ <sup>+</sup> .指痕/ヨコテ <sup>+</sup> .指痕後ナテ <sup>+</sup>	淡灰褐/淡灰褐	1ミ以下石・長・ナ・赤・雲	1/1	Da形態.e手法
1640	L399	B-7	SX399594	土師器	ⅢC	9.3	1.6	ヨコテ <sup>+</sup> .ナテ <sup>+</sup> .指痕/ヨコテ <sup>+</sup> .指痕後ナテ <sup>+</sup>	淡灰褐-暗/淡灰褐	1ミ以下石・長・ナ・赤・雲	1/1	Da形態.e手法
1641	L399	B-7	SX399594	土師器	ⅢC	9.1	1.75	ヨコテ <sup>+</sup> .ナテ <sup>+</sup> .指痕/ヨコテ <sup>+</sup> .指痕後ナテ <sup>+</sup>	明褐/明褐	1-2ミ長・ナ・雲	1/1	Da形態.e手法
1642	L399	B-7	SX399594	土師器	ⅢC	9.3	1.75	ヨコテ <sup>+</sup> .ナテ <sup>+</sup> .指痕/ヨコテ <sup>+</sup> .指痕後ナテ <sup>+</sup>	明褐/明褐	1-2ミ長・1ミ以下赤・ナ・雲	1/1	Da形態.e手法
1643	L399	B-7	SX399594	土師器	ⅢC	9.2	1.65	ヨコテ <sup>+</sup> .ナテ <sup>+</sup> .指痕/ヨコテ <sup>+</sup> .指痕後ナテ <sup>+</sup>	淡灰褐/淡灰褐	1ミ以下長・石・ナ・赤・雲	1/2	Da形態.e手法
1644	L399	B-7	SX399594	土師器	ⅢC	9.2	1.85	ヨコテ <sup>+</sup> .ナテ <sup>+</sup> .指痕/ヨコテ <sup>+</sup> .指痕後ナテ <sup>+</sup>	淡褐/淡灰褐	1ミ以下長・ナ・雲・赤	1/4	Da形態.e手法
1645	L399	B-7	SX399594	土師器	ⅢC	9.3	1.9	ヨコテ <sup>+</sup> .ナテ <sup>+</sup> .指痕/ヨコテ <sup>+</sup> .指痕後ナテ <sup>+</sup>	淡赤灰褐/淡赤灰褐	1ミ以下長・石・ナ・赤	1/1	Da形態.e手法
1646	L399	B-7	SX399594	土師器	ⅢC	9.0	1.95	ヨコテ <sup>+</sup> .ナテ <sup>+</sup> .指痕/ヨコテ <sup>+</sup> .指痕後ナテ <sup>+</sup>	明褐/明褐-淡灰褐	1ミ長・ナ・1-2ミ以下長・雲・赤	1/1	Db形態.e手法
1647	L399	B-7	SX399594	土師器	ⅢC	9.4	1.65	ヨコテ <sup>+</sup> .ナテ <sup>+</sup> .指痕/ヨコテ <sup>+</sup> .指痕後ナテ <sup>+</sup>	淡灰褐/淡灰褐	1ミ以下長・ナ・赤・雲	1/5	Da形態.e手法
1648	L399	B-7	二条四坊三町宅地包含層	土師器	椀A	18.6	(4.2)	ヨコテ <sup>+</sup> .ナテ <sup>+</sup> /ヨコテ <sup>+</sup> .ナテ <sup>+</sup>	赤褐/赤褐	1ミ以下長・石・ク	1/3	Bb形態.c'手法
1649	L315	B-2a	二条四坊三町宅地包含層	土師器	甕A	16.6	(6.2)	指痕.ヨコテ <sup>+</sup> .ナテ <sup>+</sup> /ヨコテ <sup>+</sup> .ナテ <sup>+</sup> 後ナテ <sup>+</sup>	灰褐/淡黄灰褐	1ミ以下長・石・雲・赤	1/4	A形態



1650	L399	B-7	二条四坊三町宅地包含層	須惠器	蓋A	13.6	2.7	回転ナテ°/回転ナテ°	淡紫灰/淡紫灰	0.5ミ以下長・黒	1/8	
1651	L399	B-7	二条四坊三町宅地包含層	須惠器	蓋A	14.0	(1.0)	回転ナテ°/回転ナテ°	灰/灰	1ミ以下白	1/6	
1652	L399	B-7	二条四坊三町宅地包含層	須惠器	蓋A	14.3	(1.7)	回転ナテ°/回転ナテ°・回転ヘラクス°リ	灰/明灰	3ミ以下長・石	1/4	
1653	L399	B-7	二条四坊三町宅地包含層	須惠器	蓋A	16.0	(1.15)	回転ナテ°/回転ナテ°	明灰/明灰	2ミ以下長・黒	1/6	
1654	L399	B-7	二条四坊三町宅地包含層	須惠器	蓋A	19.2	(1.1)	回転ナテ°/回転ナテ°	灰白/灰白	細粒長	1/6	
1655	L399	B-7	二条四坊三町宅地包含層	須惠器	杯B	(10.0)	(1.95)	回転ナテ°/回転ナテ°	灰/灰	1.5ミ以下長・黒	(1/8)	
1656	L315	B-2a	二条四坊三町宅地包含層	須惠器	杯B	13.8	4.6	回転ナテ°/回転ナテ°	淡青灰/淡青灰	0.5ミ以下長少量	1/3	T形態
1657	L399	B-7	二条四坊三町宅地包含層	須惠器	杯B	(11.0)	(2.8)	回転ナテ°/回転ナテ°	灰/灰	1ミ以下長・黒	(1/6)	
1658	L399	B-7	二条四坊三町宅地包含層	須惠器	杯B	19.0	5.4	ヨコナテ°・回転ナテ°/ヨコナテ°・回転ナテ°	灰/灰白	1ミ以下長	1/6	H形態
1659	L399	B-7	二条四坊三町宅地包含層	須惠器	皿A	14.8	1.8	回転ナテ°/回転ナテ°	淡灰/灰白	1ミ以下長・石・赤・雲	1/4	T形態
1660	L399	B-7	二条四坊三町宅地包含層	須惠器	壺L	(7.9)	(8.0)	回転ナテ°/回転ナテ°	紫灰/灰	2ミ以下長・石・雲	(2/3)	
1661	L315	B-2a	二条四坊三町宅地包含層	須惠器	壺M	(5.1)	(8.6)	回転ナテ°/回転ナテ°	不明/暗灰-淡青灰	1ミ以下長	(1/1)	頸部付近に自然釉
1662	L399	B-7	二条四坊三町宅地包含層	須惠器	壺G	(4.6)	(6.3)	巻き上げ痕/指ナテ°	淡灰/青灰-淡灰	3ミ以下長・石・黒	(1/1)	
1663	L333	B-4	二条四坊三町宅地包含層	須惠器	壺G	(4.75)	(16.7)	回転ナテ°/回転ナテ°	淡灰/淡灰	0.5ミ以下長・黒	「1/1」 (1/1)	体部自然釉
1664	L333	B-4	二条四坊三町宅地包含層	須惠器	壺M	(4.0)	(5.9)	回転ナテ°/回転ナテ°・回転クス°リ	明青灰/暗青灰	0.5ミ以下長少量	(1/3)	
1665	L385	B-8	SE385537	土師器	杯A	17.7	3.9	ヨコナテ°/ヨコナテ°・ケス°リ後ヘラナテ°・指痕後ヘラナテ°	濁淡灰/明淡橙褐	1ミ以下長・赤・雲	3/8	Bc形態.b'手法
1666	L385	B-8	SE385537	土師器	皿A	16.0	2.9	指痕・ヨコナテ°/ヨコナテ°・ヘラクス°リ	淡橙褐/明淡橙褐	1.5ミ以下長・赤・赤	1/4	Bc形態.b'手法
1667	L385	B-8	SE385537	土師器	皿A	15.9	2.7	ヨコナテ°/ヨコナテ°・ナテ°	淡褐/淡褐	1ミ以下長・赤	1/4	Da形態.a手法(葉脈痕なし)
1668	L385	B-8	SE385537	土師器	碗A	17.0	(3.5)	不明/不明	肌/肌	5ミ以下ケ・1ミ以下長・石・赤	1/8	Bc形態
1669	L385	B-8	SE385537	土師器	碗A	12.4	3.8	ヨコナテ°/ヨコナテ°・ヘラクス°リ	淡濁褐/淡濁褐	1.5ミ以下長・石・赤・雲	3/8	Cc形態.c'手法
1670	L385	B-8	SK385550	土師器	杯A	18.0	3.7	不明/不明	淡茶褐/淡茶褐	3.5ミ以下長・石・赤	1/12	Ba形態
1671	L385	B-8	SK385550	土師器	皿A	15.0	2.45	ヨコナテ°/ヨコナテ°・ヘラクス°リ	茶褐/茶褐	1ミ以下長・石・赤	1/7	Cc形態.c手法
1672	L385	B-8	SK385550	土師器	碗A	12.8	3.6	ヨコナテ°/ヨコナテ°・ヘラクス°リ	淡茶褐/淡茶褐	2ミ以下長・石・赤・雲	1/2	Cc形態.c手法
1673	L385	B-8	SK385550	土師器	高杯	(12.2)	(4.5)	泳°リ痕/ナテ°	淡茶灰/茶	1ミ以下長・石・赤	(1/8)	
1674	L385	B-8	SD333004	土師器	壺B	17.6	(5.7)	不明/不明	淡茶/淡黄茶褐	2ミ以下長・石・赤	1/5	
1675	L385	B-8	SK385517	土師器	皿A	15.4	2.2	ヨコナテ°/ヨコナテ°・ヘラクス°リ	肌白/淡黄褐	1ミ以下長・石・赤	1/7	Cc形態.c手法
1676	L385	B-8	SK385517	土師器	皿A	19.4	2.85	ヨコナテ°/ヘラクス°リ	淡黄茶褐/淡茶	1ミ以下長・石・赤	1/10	Ca形態.b'手法
1677	L334	B-3	SE334007	土師器	碗A	12.8	(2.4)	ヨコナテ°/ヘラクス°リ	淡茶灰/淡茶灰	1ミ前後雲	1/8	Cc形態.c手法

## 出土土器観察表

1678	L334	B-3	SE334007	須恵器	椀A	12.0	(3.25)	ヨコナテ°/ヨコナテ°・ナテ°	淡灰白肌/淡灰白肌	1ミリ以下長・石・ヤ	(1/8)	
1679	L334	B-3	SE334007	土師器	甕A	22.0	(5.3)	ヨコナテ°/ヨコナテ°	橙褐/橙褐	1ミリ以下長・ヤ・雲	1/12	A形態
1680	L334	B-3	SE334007	土師器	杯B	16.5	4.9	指痕・暗・ヨコナテ°/ヨコナテ°・ヘラミガキ	橙褐/橙褐	1.5ミリ白・黒・2ミリヤ・頁岩	1/4	
1681	L334	B-3	SE334007	土師器	皿A	14.7	1.6	ナテ°・ヨコナテ°/ヨコナテ°・指痕	褐-赤褐/褐-赤褐	1ミリ前後雲	3/5	Ba形態・底部指痕
1682	L334	B-3	SE334007	須恵器	蓋A	11.9	(0.9)	回転ナテ°/回転ナテ°・回転カスリ	灰/灰	0.5ミリ以下長	1/12	
1683	L334	B-3	SE334007	須恵器	杯B	(10.0)	(2.4)	回転ナテ°/回転ナテ°・高台貼付	灰/灰	2ミリ以下長・石・ヤ	(1/1)	
1684	L334	B-3	SE334007	緑釉須	皿	(5.4)	(1.35)	回転ナテ°/回転ナテ°	灰色/灰色	1ミリ以下長	(1/5)	削出高台 I - w. 硬陶
1685	L334	B-3	SE334007	須恵器	甕	(3.3)	(4.4)	回転ナテ°/回転ナテ°・ヘラコシ	灰-青灰/灰-青灰	2-5ミリ長・ヤ・石	1/1	外面に自然釉
1686	L334	B-3	SE334007	須恵器	鉢D	19.8	(9.0)	回転ナテ°/回転ナテ°	淡灰/暗灰	2.5-9ミリ長・黒	1/3	
1687	L334	B-3	SE334007	須恵器	壺?	15.4	(4.7)	ナテ°・ヨコナテ°/ヨコナテ°・ナテ°	濁灰/濁灰	5ミリ以下長・黒石	1/4	
1688	L334	B-3	SE334007	須恵器	壺L?	(6.2)	(5.0)	回転ナテ°/回転ナテ°スリ・高台貼付	明灰/明灰	2ミリ以下長・ヤ・頁岩	(1/4)	
1689	L334	B-3	SE334007	須恵器	壺L	(6.9)	(6.9)	回転ナテ°/回転ナテ°スリ・回転ナテ°・底部糸切り	灰/灰	1.5ミリ以下長	(1/1)	
1690	L334	B-3	SR334010	土師器	杯A	12.0	2.92	ヨコナテ°/ヨコナテ°・カスリ	淡赤褐/淡赤褐	1ミリ以下白	1/6	Cb形態・b'手法・口縁外面にス
1691	L334	B-3	SR334010	土師器	杯A	17.2	3.2	不明/不明	淡灰褐/淡灰褐	2ミリ以下長・緑灰色粒	1/2	Cb形態
1692	L334	B-3	SR334010	土師器	椀A	15.8	(3.4)	ヨコナテ°/ヨコナテ°・ヘラカスリ	淡肌/淡肌	1ミリ以下長・赤	1/6	Cc形態'・c手法
1693	L334	B-3	SR334010	土師器	皿A	15.6	2.3	指痕後ヨコナテ°/ヘラカスリ	淡赤褐/淡赤褐	赤・石・雲・ヤ	1/4	Cc形態・c手法
1694	L334	B-3	SR334010	土師器	皿A	16.3	2.3	ヨコナテ°/ヨコナテ°・ヘラカスリ	淡褐/淡褐	1ミリ以下長・赤	1/6	Ca形態・b'手法
1695	L385	B-5b	SX385538	土師器	皿A	16.6	1.9	ナテ°/ヘラカスリ・ナテ°	濁淡褐/濁淡褐	1ミリ以下長・ヤ・雲	1/6	Aa形態・b手法
1696	L334	B-3	SR334010	土師器	高杯	—	(5.1)	ソマリ痕・指痕/カスリ	黄褐/黄褐	3ミリ以下長・石・ヤ・赤	3/4	脚柱部断面6角形
1697	L334	B-3	SR334010	土師器	高杯	—	(15.1)	不明/カスリ	淡褐/淡褐	2ミリ以下長・石・赤	破片	脚柱部断面7角形
1698	L334	B-3	SR334010	土師器	甕A	15.8	(3.6)	ハヤ・ヨコナテ°/ヨコナテ°・ヘラ沈線	淡褐-黄褐/淡褐	1ミリ以下長・石	1/5	F形態
1699	L334	B-3	SR334010	土師器	甕A	17.4	(5.0)	ヨコナテ°/ヨコナテ°	淡褐-黄褐/褐	2ミリ以下長・石・ヤ	1/6	C形態・外面にス
1700	L334	B-3	SR334010	土師器	甕A	21.0	(3.7)	ナテ°・ハヤ・ヨコナテ°/ヨコナテ°	黄褐/黄褐	2ミリ以下長・石・ヤ	1/8	B形態・外面にス
1701	L334	B-3	SR334010	土師器	甕A	20.8	(5.4)	ヘラカスリ後ナテ°・ハヤ/不明	淡褐/淡褐	3.5ミリ以下長・石・ヤ	1/8	A形態・外面にス
1702	L334	B-3	SR334010	土師器	甕A	20.0	(7.8)	ナテ°・ヨコナテ°/ヨコナテ°	褐/褐	3ミリ以下長・石・ヤ・赤	1/36	D形態・外面にス
1703	L334	B-3	SR334010	土師器	甕A	23.2	(4.0)	ヘラカスリ・ヨコナテ°/ヨコナテ°	淡褐-淡桃褐/淡桃褐-淡桃褐	3ミリ以下長・石・ヤ・黒	1/10	A形態
1704	L385	B-5b	SX385538	土師器	土馬	—	(6.3)	指痕・指でナテ°アケ	淡橙灰白	砂粒殆どなし	破片	
1705	L334	B-3	SR334010	土師器	土馬	—	高6.8	ナテ°・指の痕跡・粘土紐による手網貼付	淡黄灰/淡黄灰	2ミリ以下長・石	破片	
1706	L334	B-3	SR334010	須恵器	杯A	11.6	(3.2)	回転ナテ°/回転ナテ°スリ・回転ナテ°	灰/灰	2ミリ以下長	1/8	T形態

1707	L385	B-5b	SD303007. SX385538	須恵器	杯A	10.7	(3.9)	回転ナテ°/回転ナテ°	淡青灰-淡赤茶褐/淡青灰-暗青灰	0.5-2ミ以下長・石・ナ?	3/8	T形態
1708	L334	B-3	SR334010	須恵器	杯A	13.3	2.8	回転ナテ°/回転ナテ°、ナテ°、ヘラクスリ	青灰/青灰	1ミ以下長・黒	1/16	T形態
1709	L334	B-3	SR334010	須恵器	杯B	(7.6)	(2.5)	回転ナテ°/回転ナテ°スリ、高台貼付	灰/暗灰	1ミ以下長	(1/4)	
1710	L334	B-3	SR334010	須恵器	杯B	16.4	5.9	回転ナテ°/回転ナテ°、高台貼付	淡灰/淡灰	2ミ以下黒	1/10 (1/6)	H形態
1711	L334	B-3	SR334010	須恵器	杯B	(12.4)	(2.2)	回転ナテ°/回転ナテ°、ヨコナテ°	灰白/灰白	1ミ以下長・石・黒	(1/4)	
1712	L385	B-5b	SX385538	須恵器	杯?	9.0	(2.6)	回転ナテ°/回転ナテ°	淡灰白/淡灰白	2.5ミ以下長て	1/3	
1713	L334	B-3	SR334010	緑釉須?	椀?	(5.5)	(1.5)	回転ナテ°/回転ナテ°、底部糸切り	灰/灰	1ミ以下長	(1/3)	糸切高台Ⅲ-i. 硬陶
1714	L334	B-3	SR303016	緑釉須	椀	12.6	4.4	回転ナテ°/回転ナテ°、底部クスリ	灰/灰	1ミ以下長少量	1/6	削出高台Ⅰ-e. 硬陶
1715	L334	B-3	SR334010	緑釉須	椀	(8.0)	(2.2)	回転ナテ°/回転ナテ°スリ、回転ナテ°、高台貼付	灰/灰	1ミ以下長・頁岩	(1/2)	削出高台Ⅱ-w1. 硬陶
1716	L334	B-3	SR334010	緑釉須	椀	(6.5)	(1.6)	回転ナテ°/回転ナテ°スリ	明灰白/淡橙褐	1ミ程ナ・長・頁岩	(1/1)	削出高台Ⅰ-j3. 硬陶
1717	L334	B-3	SR334010	緑釉須	皿?	(6.3)	(1.7)	回転ナテ°/回転ナテ°、高台クスリ出し	淡灰褐/淡灰褐	1ミ以下長少量	(1/2)	削出高台Ⅰ-j1
1718	L334	B-3	SR334010	緑釉	皿?	(6.6)	(1.85)	回転ナテ°/回転ナテ°、高台クスリ出し	青灰/青灰	1ミ以下長・黒	(1/3)	削出高台Ⅰ-j3. 硬陶. 釉: 暗黄灰
1719	L334	B-3	SR334010	灰釉須	椀	16.0	(3.7)	回転ナテ°/回転ナテ°、沈線	青灰/青灰	1ミ以下長・黒	1/12	
1720	L385	B-5b	SX385538	灰釉	蓋	13.0	7.5	回転ナテ°、指痕/回転ナテ°	灰白/緑灰	1ミ以下長	1/2	釉: 淡濁黄緑灰
1721	L334	B-3	SR334010	土師器	壺蓋	—	(1.6)	ナテ°/ヘラクスリ、ナテ°	淡黄褐/淡黄褐	2.5ミ以下石・長	(1/4)	ワミ径6.6
1722	L334	B-3	SR334010	須恵器	蓋B	14.5	(3.15)	回転ナテ°/回転ナテ°	暗灰/暗灰	1ミ以下長・石・ナ・角	1/6	
1723	L334	B-3	SR334010	須恵器	壺M	(6.2)	(8.1)	回転ナテ°/回転ナテ°スリ、糸切り	灰白/暗灰	2ミ以下長・頁岩	(1/1)	
1724	L334	B-3	SR334010	須恵器	壺L?	(10.0)	(2.3)	ナテ°、回転ナテ°/回転ナテ°、ナテ°	淡青灰/淡青灰	2.5ミ以下長・黒	(1/6)	貼付高台. 底部ヘラ記号
1725	L334	B-3	SR334010	須恵器	壺	(11.4)	(5.1)	回転ナテ°/回転ナテ°スリ、回転ナテ°、高台貼付	灰/暗灰	1ミ以下長・ナ・頁岩	(1/7)	
1726	L334	B-3	SR334010	須恵器	壺L	(10.9)	(23.6)	回転ナテ°/回転ナテ°、回転ナテ°スリ、高台貼付	淡灰/淡灰	4ミ以下ナ・長	(1/1)	自然釉
1727	L334	B-3	SR334010	須恵器	壺A	11.4	(14.8)	タキ、回転ナテ°/回転ナテ°、タキ	淡灰/淡灰	0.5-1ミ長	1/2	
1728	L385	B-5b	SX385538	須恵器	風字硯	—	2.1	全面クスリ	淡灰褐/暗青灰	2ミ以下白・灰	7/8	全長13.3. 自然釉
1729	L334	B-3	SR334010	緑釉?	椀	13.8 (6.6)	4.05	回転ナテ°/回転ナテ°	淡灰/淡黄灰	1-5ミ小石少量	2/5	糸切高台Ⅲ-i. 硬陶. 釉剥落顕著
1730	L334	B-3	SR303016	緑釉	椀	(10.3)	(1.4)	不明/不明	淡黄灰/淡黄灰	砂粒殆どなし	(1/6)	削出高台Ⅰ-w. 軟陶. 釉: 淡黄緑
1731	L334	B-3	SR334010	緑釉	皿	(6.0)	(2.1)	施釉/施釉	青灰/青灰	2ミ以下長	(1/4)	削出高台Ⅰ-j3. 硬陶. 釉: 洗緑
1732	L334	B-3	SR334010	須恵器	壺G	(5.4)	(3.9)	回転ナテ°/回転ナテ°スリ	明灰/暗灰	1ミ以下長・頁岩	(1/4)	
1733	L385	B-5b	SX385538	須恵器	壺	(9.6)	(8.7)	回転ナテ°/回転ナテ°ヘラクスリ	灰/灰	1.5ミ以下長・黒	1/5	外面に自然釉: 緑灰

## 出土土器観察表

1734	L334	B-3	SR334010	白磁	椀	(6.6)	(2.4)	回転ナテ/回転ナテ <sup>°</sup> .高台ナス <sup>°</sup> り出し	乳灰/乳灰	砂粒殆どなし	(1/2)	11世紀後半
1735	L334	B-3	SR334010	土師器	羽釜	22.0	(3.4)	不明/不明	淡茶褐-茶褐/淡茶褐-茶褐	3.5ミ以下石・長・チャ・赤	1/8	
1736	L303	B-1a	二条四坊七町宅地包含層	土師器	杯A	14.9	3.4	ヨコナテ <sup>°</sup> /ヘラクス <sup>°</sup> リ	淡灰褐/淡灰褐	3ミ以下長・チャ・ク・雲	1/4	Bb形態.c手法
1737	L385	B-5b	二条四坊七町宅地包含層	土師器	杯A	16.0	3.9	ナテ <sup>°</sup> .ヨコナテ <sup>°</sup> /ヨコナテ <sup>°</sup> .ヘラクス <sup>°</sup> リ	淡橙乳白/淡橙褐	2.5ミ以下長・褐色ク	1/1	Bb形態.c手法
1738	L303	B-1a	二条四坊七町宅地包含層	土師器	皿A	15.6	2.2	ヨコナテ <sup>°</sup> /ヨコナテ <sup>°</sup> .ヘラクス <sup>°</sup> リ	淡赤灰褐/橙赤灰褐	2ミ以下長・石・ク・雲	1/5	Cb形態.c手法
1739	L385	B-5b	二条四坊七町宅地包含層	土師器	皿A	16.5	2.8	ナテ <sup>°</sup> /ナテ <sup>°</sup> .クス <sup>°</sup> リ	乳赤褐/淡赤褐	1.5ミ以下ク・長・雲	3/4	Cb形態.c手法
1740	L303	B-1a	二条四坊七町宅地包含層	土師器	皿A	15.1	1.95	ヨコナテ <sup>°</sup> /ヨコナテ <sup>°</sup> .ヘラクス <sup>°</sup> リ	淡灰黄/淡灰黄	2ミ以下長・石・ク	1/3	Cb形態.b手法
1741	L303	B-1a	二条四坊七町宅地包含層	土師器	皿A	15.6	(2.0)	ヨコナテ <sup>°</sup> /ヨコナテ <sup>°</sup> .ヘラクス <sup>°</sup> リ	淡橙褐/淡橙褐	2ミ以下長・石・ク	1/8	Bc形態.手法不明
1742	L303	B-1a	二条四坊七町宅地包含層	土師器	皿A	16.0	1.8	ヨコナテ <sup>°</sup> /ヨコナテ <sup>°</sup> .指痕	乳白/橙褐	1.5ミ以下長・チャ・石・赤	1/9	Cb形態
1743	L303	B-1a	二条四坊七町宅地包含層	土師器	皿A	15.7	1.75	ヨコナテ <sup>°</sup> /ヨコナテ <sup>°</sup> .ヘラクス <sup>°</sup> リ	淡赤褐/淡赤褐	1.5ミ以下長・チャ・赤	1/6	Cb形態.c手法
1744	L303	B-1a	二条四坊七町宅地包含層	土師器	皿A	18.7	(2.4)	ヨコナテ <sup>°</sup> /不明	淡橙褐/淡橙褐	2.5ミ以下長・チャ・ク	1/8	Cc形態.手法不明
1745	L303	B-1a	二条四坊七町宅地包含層	土師器	椀C	11.95	(3.8)	ヨコナテ <sup>°</sup> /ヨコナテ <sup>°</sup> .ナテ <sup>°</sup>	淡赤灰褐/淡橙赤褐	7ミ以下長・石・ク・雲	1/4	Cc形態.c手法?
1746	L385	B-5b	二条四坊七町宅地包含層	土師器	杯A	12.25	3.6	ナテ <sup>°</sup> /ナテ <sup>°</sup> .ヘラクス <sup>°</sup> リ.指痕	橙褐/淡橙褐	1.5ミ以下長・赤・雲	1/3	Cd形態.B手法
1747	L385	B-5b	二条四坊七町宅地包含層	土師器	杯A	12.6	(3.3)	摩滅.不明/摩滅.不明	淡橙褐/淡橙褐	2ミ以下長・ク・雲	1/2	Cc形態.C手法
1748	L334	B-3	二条四坊七町宅地包含層	土師器	甕A	15.0	(4.8)	ハケ.ヨコナテ <sup>°</sup> /不明	暗褐/赤褐	1.5ミ以下チャ・ク・黒・雲	1/6	C形態
1749	L385	B-5b	二条四坊七町宅地包含層	土師器	甕A	13.6	(13.95)	ナテ <sup>°</sup> .ヨコナテ <sup>°</sup> .ハケ/ヨコナテ <sup>°</sup> .ハケ	淡灰肌/白肌	3ミ以下長・石・チャ・赤	2/3	B形態.漆
1750	L385	B-5b	二条四坊七町宅地包含層	土師器	甕A	24.0	(6.5)	ナテ <sup>°</sup> .ヘラクス <sup>°</sup> リ.ヨコナテ <sup>°</sup> /ナテ <sup>°</sup> .ハケ	淡橙茶褐/橙茶褐	3ミ以下石・長・赤	1/2	A形態
1751	L334	B-3	二条四坊七町宅地包含層	須恵器	杯B	16.5	5.2	回転ナテ <sup>°</sup> /回転ナテ <sup>°</sup>	明青灰/青灰	2.5ミ長	1/5	K形態
1752	L334	B-3	二条四坊七町宅地包含層	須恵器	杯B	15.1	5.4	回転ナテ <sup>°</sup> /回転ナテ <sup>°</sup>	明青灰/明青灰	3ミ以下小石?	1/6	T形態
1753	L385	B-5b	二条四坊七町宅地包含層	須恵器	鉢A	27.0	(7.1)	回転ナテ <sup>°</sup> /回転ナテ <sup>°</sup>	青灰/青灰	2ミ以下長	1/8	
1754	L334	B-3	二条四坊七町宅地包含層	須恵器	蓋A	17.8	(1.55)	回転ナテ <sup>°</sup> /回転ナテ <sup>°</sup>	灰/灰	1ミ以下長・チャ	1/16	
1755	L334	B-3	二条四坊七町宅地包含層	須恵器	杯B	(10.0)	(2.3)	回転ナテ <sup>°</sup> /回転ナテ <sup>°</sup> .高台貼付	淡灰褐/淡灰褐	細かな黒・チャ・長	1/4	
1756	L385	B-5b	二条四坊七町宅地包含層	須恵器	杯B	(9.1)	(3.7)	回転ナテ <sup>°</sup> /回転ナテ <sup>°</sup> .回転ヘラクス <sup>°</sup> リ未調整	暗青灰/暗青灰	0.5ミ以下長	1/2	N形態
1757	L303	B-1a	二条四坊七町宅地包含層	須恵器	円面硯	15.5	(2.5)	回転ナテ <sup>°</sup> /回転ナテ <sup>°</sup>	淡青灰/淡青灰	1ミ以下長・黒	1/8	上面に墨痕殆どない.透窓16ヶ
1758	L334	B-3	二条四坊七町宅地包含層	須恵器	壺M	3.7	(3.3)	回転ナテ <sup>°</sup> /回転ナテ <sup>°</sup>	暗灰/暗灰	1ミ以下長	「1/2」	
1759	L334	B-3	二条四坊七町宅地包含層	土師器	壺B	9.8	(3.95)	ナテ <sup>°</sup> .ヨコナテ <sup>°</sup> /ヨコナテ <sup>°</sup> .ハケ.指痕	凹凸淡橙褐	2ミ以下長・チャ・ク・雲	1/7	
1760	L333	B-4	二条四坊三町宅地包含層	瓦	軒丸瓦	—	—	不明/不明	凹凸黄灰褐	2ミ以下長	破片	
1761	L333	B-4	二条四坊三町宅地包含層	瓦	軒丸瓦	—	—	不明/不明	凹凸淡黒灰	6ミ以下長・黒	破片	
1762	L333	B-4	二条四坊三町宅地包含層	瓦	軒平瓦	厚4.2-5.0	—	凹ナテ <sup>°</sup> /凸縄目ナテ <sup>°</sup>	凹淡黄褐/凸黒灰褐	6ミ以下長・チャ	破片	

1763	L315	B-2a	二条四坊三町宅地包含層	瓦	軒平瓦	厚6.8	—	凹ケスリ、布目痕/凸コ方向ケスリ、縄目タキ	凹淡明茶灰/凸黒灰	6ミ以下長・黒	破片	長岡宮式7757Aa
1764	L333	B-4	二条四坊三町宅地包含層	瓦	平瓦	厚2.2-2.5	—	凹ケスリ/凸縄目タキ	凹淡黒灰/凸黒灰褐	4ミ以下長多量	破片	
1765	L334	B-3	二条四坊三町宅地包含層	瓦	丸瓦	厚2.8	—	凹布目痕/凸不明	凹黒/凸暗灰	4ミ以下長・石・珩	破片	
1766	L315	B-2a	二条四坊三町宅地包含層	瓦	平瓦	厚1.8-2.0	—	凹面布目痕、ケスリ/凸縄目タキ、ケスリ	凹暗灰/凸暗灰	5ミ以下長・珩	破片	弦深6.5
1767	L315	B-2a	二条四坊三町宅地包含層	瓦	平瓦	厚2-2.2	—	凹布目痕/凸縄目タキ	凹淡灰黄褐/凸暗灰	2ミ以下長・石	破片	
1768	L385	B-8	SB385516	瓦	丸瓦	厚1.8-2.2	—	凹布目跡、ケスリ/凸ナテ	凹灰/凸灰白	1ミ以下長・黒	破片	
1769	L337	B-5a	二条四坊七町宅地包含層	瓦	軒丸瓦	厚1.2-3.2	—	不明/不明	凹乳灰/凸乳灰	3ミ以下長・石・珩	瓦当4/5	
1770	L334	B-3	二条四坊七町宅地包含層	瓦	軒丸瓦	厚3.9	—	瓦当裏ヘラケスリ	凹黒/凸黒	2ミ以下長・石多量	破片	
1771	L303	B-1a	二条四坊七町宅地包含層	瓦	軒平瓦	厚4.4	—	凹ケスリ、布目痕/凸ケスリ	凹青灰/凸青灰	3ミ以下長・黒	破片	均整唐草文軒平瓦、平城宮式6721Ga
1772	L385	B-5b	二条四坊七町宅地包含層	瓦	軒平瓦	厚(2.5)	—	不明/不明	凹淡黄灰白/凹黄灰	1ミ以下	破片	長岡宮式6721D
1773	L385	B-5b	SB385511.P13	瓦	丸瓦	厚1.4-1.6	—	凹ナテ消/凸布目痕、ケスリ	凹黒灰/凸黒灰	2ミ以下	破片	
1774	L385	B-5b	SB385511.P24	瓦	丸瓦	厚1.45-1.55	—	凹布目痕/凸縄目タキ、ナテ消	凹濁灰肌/凸淡灰肌褐	5ミ以下	破片	
1775	L334	B-3	SX385538	瓦	丸瓦	厚2.2-2.4	—	凹布目痕、ナテ消/凸ナテ消	凹灰、黒斑/凸灰	3ミ以下長・石・珩	破片	
1776	L334	B-3	SX385538	瓦	鬚斗瓦?	厚2.1	—	凹布目痕、ケスリ/凸不明	凹暗茶灰/凸暗茶灰	3ミ以下長・石・珩・頁岩・雲	破片	
1777	L385	B-5b	SB385511.P24	瓦	平瓦	厚1.4-1.7	—	凹ナテ消/凸縄目タキ	凹淡黒灰/凸淡黒灰-灰	4ミ以下	1/2	
1778	L331	B-2b	村田里16坪包含層	須恵器	杯	11.6	(3.2)	回転ナテ/回転ナテ	淡青灰/淡青灰	1.5ミ以下長・黒多量	1/8	
1779	L331	B-2b	村田里16坪包含層	須恵器	杯	12.4	(3.0)	回転ナテ/回転ナテ	淡青灰褐/暗青灰	0.5ミ以下長少量	1/5	
1780	L331	B-2b	村田里16坪包含層	須恵器	碗	16.0	(4.5)	回転ナテ/回転ナテ、回転ヘラケスリ	淡灰/淡青灰	0.5ミ以下長	1/5	
1781	L331	B-2b	村田里16坪包含層	磁器	碗	9.8	5.2	回転ナテ/回転ナテ	乳白/乳白	砂粒微量	1/3	呉須で菊を描出
1782	L331	B-2b	村田里16坪包含層	須恵器	壺	13.0	(2.7)	回転ナテ/回転ナテ	灰/暗灰	0.5ミ以下長	1/8	
1783	L331	B-2b	村田里16坪包含層	灰釉	碗	(8.0)	(2.2)	回転ナテ/回転ナテ、貼付高台	淡緑/灰白	0.5ミ以下黒	(1/4)	有段輪高台、釉:金茶
1784	L331	B-2b	村田里16坪包含層	灰釉	碗	(9.0)	(2.7)	施釉/回転ヘラケスリ、高台ケスリだし	淡灰白/淡灰白	1ミ程長・珩・2.5ミ石	(1/4)	貼付輪高台、釉:淡緑
1785	L331	B-2b	村田里16坪包含層	須恵器	甕	39.0	(5.3)	回転ナテ/回転ナテ、指痕、タテハ	暗灰/暗灰	1.5ミ以下長少量	1/5	内外面に自然釉
1786	L384	A-5	SE384108(17坪)	灰釉?	甕	28.3	(7.5)	回転ナテ/回転ナテ	灰/淡茶黄	2.5ミ以下長・黒	1/16「1/8」	
1787	L384	A-5	SE384108(17坪)	須恵器	甕	—	(42.0)	タキ/タキ、ハ	灰/灰	1-3ミ長・黒	2/3	自然釉:淡緑
1788	L363	A-6b	SE363115(18坪)	土師器	皿	10.8	1.9	指痕、コナテ、指痕	淡黄灰/淡黄灰	4ミ以下長・石・珩	1/1	
1789	L363	A-6b	SE363115(18坪)	黒色	碗	—	(3.7)	ヘラミカキ/ヘラミカキ	黒/黒	1ミ以下石・長	1/36	B類

## 出土土器観察表

1790	L363	A-6b	SE363115(18坪)	須恵器	蓋A	10.8	(1.05)	回転ナテ <sup>+</sup> /回転ナテ <sup>+</sup>	濁灰黄/濁灰黄	1ミリ以下長・雲	1/8	
1791	L363	A-6b	SE363115(18坪)	灰釉須	椀	(6.4)	(2.45)	回転ナテ <sup>+</sup> /回転ナテ <sup>+</sup> .高台貼付後回転ナテ <sup>+</sup>	灰白黄/灰白黄	2ミリ以下長・黒	(1/3)	貼付高台
1792	L363	A-6b	SE363115(18坪)	灰釉須	椀	(6.4)	(4.15)	ヨコナテ <sup>+</sup> /ヨコナテ <sup>+</sup> .底部糸切り後高台貼付	淡黄灰/淡黄灰	砂粒微量	(1/1)	
1793	L363	A-6b	村田里18坪包含層	灰釉須	椀	(5.2)	(1.9)	回転ナテ <sup>+</sup> /回転ナテ <sup>+</sup>	灰褐/灰褐	1ミリ以下長少量	(1/2)	貼付高台
1794	L362	A-6a	村田里18坪包含層	緑釉須	椀	(5.5)	(1.3)	回転ナテ <sup>+</sup> /回転ナテ <sup>+</sup>	淡灰白/淡灰白	1ミリ以下長	(1/4)	削出高台 I-e. 硬陶. 釉: 濁緑
1795	L363	A-6b	村田里18坪包含層	緑釉	椀	(6.4)	(2.4)	ミカキ後施釉/施釉	淡黄灰/淡黄灰	1ミリ以下石・長	(3/4)	削出高台 I-e. 軟陶. 釉: 淡緑
1796	L330	A-3	村田里18坪包含層	緑釉	椀	(8.8)	(2.45)	回転ナテ <sup>+</sup> /回転ナテ <sup>+</sup> スリ.高台ナテ <sup>+</sup> 出し	灰/灰/底部.淡灰褐	0.5ミリ以下長・黒	(1/2)	削出高台 I-w. 軟陶. 重焼痕. 釉: 淡緑
1797	L362	A-6a	村田里18坪包含層	灰釉	椀	(6.6)	(2.1)	不明/回転ナテ <sup>+</sup>	淡黄灰褐/淡黄灰	2ミリ以下長・黒	(1/8)	貼付高台
1798	L363	A-6b	村田里18坪包含層	灰釉?	椀	(8.0)	(2.3)	回転ナテ <sup>+</sup> /回転ナテ <sup>+</sup> .高台貼付	乳白/乳白	3ミリ以下長・黒	(1/4)	貼付高台.内面に施釉?
1799	L329	A-2	村田里19坪包含層	須恵器	杯A	13.2	4.0	回転ナテ <sup>+</sup> /回転ナテ <sup>+</sup>	淡青灰/淡青灰	2-4ミリ礫	3/10	H形態.口縁に歪み
1800	L336	A-1	村田里19坪包含層	緑釉須	椀	(6.4)	(1.2)	ヘラミカキ後ナテ <sup>+</sup> /ナテ <sup>+</sup>	淡黄褐/淡黄褐	1ミリ以下長	(1/1)	削出高台 I-j1. 硬陶
1801	L336	A-1	村田里19坪包含層	緑釉須	椀	(7.6)	(0.6)	ナテ <sup>+</sup> /回転ナテ <sup>+</sup> スリ.回転ヘラナテ <sup>+</sup>	肌褐/肌褐	1ミリ以下長・チャ	(1/5)	削出高台 I-j3. 硬陶
1802	L336	A-1	村田里19坪包含層	緑釉須	椀	(6.3)	(1.7)	ナテ <sup>+</sup> .回転ナテ <sup>+</sup> /ナテ <sup>+</sup> .回転ナテ <sup>+</sup>	淡灰/淡灰	2.5ミリ以下長	(1/4)	貼付高台 II-w. 硬陶
1803	L361	A-4	村田里19坪包含層	緑釉須	皿	(7.0)	(1.1)	回転ナテ <sup>+</sup> /回転ナテ <sup>+</sup>	灰白/灰白	0.5ミリ以下黒・長	(1/4)	貼付高台 II-w1. 硬陶
1804	L361	A-4	村田里19坪包含層	緑釉	椀	15.0	(2.1)	回転ナテ <sup>+</sup> /回転ナテ <sup>+</sup>	淡緑/淡緑	2ミリ以下長	1/16	硬陶. 釉: 濁緑
1805	L361	A-4	村田里19坪包含層	緑釉	椀	(6.0)	(1.55)	回転ナテ <sup>+</sup> /回転ナテ <sup>+</sup>	淡黄灰-淡灰/淡黄灰-淡灰	0.5ミリ以下長	(1/6)	貼付高台 II-w2. 硬陶. 重焼痕. 釉: 濃緑
1806	L361	A-4	村田里19坪包含層	緑釉	椀	(7.2)	(1.1)	回転ナテ <sup>+</sup> /回転ナテ <sup>+</sup>	濃緑/濃緑	砂粒含まず	(1/16)	貼付高台 II-w2. 硬陶. 重焼痕. 釉: 濁緑
1807	L361	A-4	村田里19坪包含層	緑釉	平瓶	—	—	細かいケスリ/ナテ <sup>+</sup>	淡緑/淡緑	砂粒含まず	破片	硬陶. 重焼痕
1808	L336	A-1	村田里19坪包含層	須恵器	不明	—	—	ナテ <sup>+</sup> /回転ナテ <sup>+</sup>	灰/灰	砂粒含まず	破片	墨書. 破片
1809	L361	A-4	村田里19坪包含層	須恵器	壺M	—	(5.5)	回転ナテ <sup>+</sup> /回転ナテ <sup>+</sup>	灰/灰	1ミリ以下長・黒	1/5	胴部(1/5)
1810	L361	A-4	村田里19坪包含層	白磁	椀	17.0	(2.9)	回転ナテ <sup>+</sup> /回転ナテ <sup>+</sup> .回転ナテ <sup>+</sup>	淡黄灰/淡黄灰	砂粒含まず	1/10	
1811	L399	B-7	SE399421(20坪)	土師器	皿	13.0	(2.0)	指痕後ナテ <sup>+</sup> .ナテ <sup>+</sup> .ヨコナテ <sup>+</sup> /ヨコナテ <sup>+</sup> .指痕後ナテ <sup>+</sup>	明茶褐/明茶褐	1ミリ以下長・チャ・雲・赤	1/5	
1812	L399	B-7	SE399421(20坪)	土師器	皿	13.2	(2.0)	ナテ <sup>+</sup> .ヨコナテ <sup>+</sup> /ヨコナテ <sup>+</sup> .ナテ <sup>+</sup>	灰褐/灰褐	細かな雲	1/4	ての字口縁
1813	L399	B-7	SE399421(20坪)	土師器	皿	16.5	(2.1)	ナテ <sup>+</sup> .ヨコナテ <sup>+</sup> /ヨコナテ <sup>+</sup> .指痕後ナテ <sup>+</sup>	明黒褐/黒	細かな長・石・雲	1/5	内外にタール状の物
1814	L399	B-7	SE399421(20坪)	土師器	甕	14.5	(4.5)	指痕後ナテ <sup>+</sup> .ヨコナテ <sup>+</sup> /ヨコナテ <sup>+</sup> .指痕後ナテ <sup>+</sup> .部分的にハケ	淡灰褐/淡灰褐	細かな長・チャ・雲・黒	1/5	

1815	L399	B-7	SE399421(20坪)	緑釉	椀	13.0	4.2	回転ナテ <sup>+</sup> /ミカ <sup>+</sup> キ、ケス <sup>+</sup> リ	明灰褐/淡灰褐	1-2ミリ長・チャ・ク	1/3	削出高台 I-j3. 軟陶. 釉: 淡緑
1816	L399	B-7	SE399421(20坪)	緑釉須	椀	(6.6)	(1.15)	回転ナテ <sup>+</sup> /回転ケス <sup>+</sup> リ	暗灰褐-暗灰/黒-暗灰褐	砂粒含まず	(1/1)	削出高台 I-j3. 硬陶. 釉発色なし
1817	L399	B-7	SE399421(20坪)	灰釉	皿	(7.0)	(1.6)	回転ナテ <sup>+</sup> /回転ナテ <sup>+</sup>	明灰/明灰	細かな長・黒少量	(1/4)	三日月高台. 重焼のため高台地面に釉
1818	L399	B-7	SE399421(20坪)	灰釉	大甕	50.2	(12.0)	回転ナテ <sup>+</sup> . 指痕/櫛波状. 板タキ	暗灰/暗灰	3ミリ以下長	1/8	釉: 深緑-赤褐
1819	L399	B-7	SE399503(20坪)	須恵器	皿?	15.1	(1.8)	回転ナテ <sup>+</sup> /回転ナテ <sup>+</sup>	明灰/明灰	1ミリ以下長・チャ・赤	1/5	
1820	L399	B-7	SE399503(20坪)	土師器	皿	12.4	(2.25)	指痕後ナテ <sup>+</sup> . ナテ <sup>+</sup> . ヨコナテ <sup>+</sup> /ヨコナテ <sup>+</sup> . 指痕後ナテ <sup>+</sup>	暗灰褐/暗灰褐	1-2ミリ赤・1ミリ以下長・チャ・黒	1/4	
1821	L399	B-6	SE399503(20坪)	土師器	皿	14.6	2.65	ヨコナテ <sup>+</sup> . ナテ <sup>+</sup> /ヨコナテ <sup>+</sup> . 指痕	明灰褐/明灰褐	0.5ミリ以下長・赤	1/1	
1822	L399	B-7	SE399503(20坪)	土師器	皿	14.6	4.7	指痕. ヨコナテ <sup>+</sup> /ナテ <sup>+</sup> . 指痕	明灰褐/明灰褐	0.5ミリ以下長・石・雲	2/3	
1823	L399	B-7	SE399503(20坪)	須恵器	杯A	14.0	3.6	ヨコナテ <sup>+</sup> . ナテ <sup>+</sup> /ヨコナテ <sup>+</sup> . 回転ナテ <sup>+</sup>	灰褐/灰褐	1ミリ以下長・黒・赤	3/5	
1824	L399	B-7	SE399503(20坪)	緑釉須	椀	(5.1)	(1.7)	回転ナテ <sup>+</sup> /回転ナテ <sup>+</sup> . 底部静止糸切り	明黄灰褐/淡黄灰褐	0.5ミリ以下長・チャ・赤・黒	(2/3)	糸切高台 III-i. 軟陶
1825	L399	B-7	SE399503(20坪)	緑釉須	椀	(6.6)	(1.8)	回転ナテ <sup>+</sup> /ミカ <sup>+</sup> キ、ケス <sup>+</sup> リ	明灰褐/明灰褐	1ミリ以下長・石・チャ・赤・黒	(2/3)	削出高台 I-j3. 軟陶
1826	L399	B-7	SE399503(20坪)	緑釉須	皿	(7.7)	(1.6)	回転ケス <sup>+</sup> リ/回転ケス <sup>+</sup> リ	暗灰/暗灰	砂粒微量	(3/4)	削出高台 I-j3. 硬陶. 重焼痕
1827	L399	B-7	SE399503(20坪)	緑釉須	椀	(7.0)	(2.2)	回転ナテ <sup>+</sup> /ミカ <sup>+</sup> キ、ケス <sup>+</sup> リ	暗黄灰褐/暗黄灰褐	0.5-1ミリ長・石・チャ・赤・黒	(1/1)	削出高台 I-j3. 軟陶
1828	L399	B-7	SE399503(20坪)	緑釉須	皿	13.55(6.3)	2.95	回転ナテ <sup>+</sup> /回転ナテ <sup>+</sup>	灰/灰	1ミリ以下長・黒	5/6	削出高台 I-j3. 重焼痕. 内面底部は硯に転用?. 墨
1829	L399	B-6	SE399503(20坪)	須恵器	鉢	17.6	14.3	回転ナテ <sup>+</sup> . 指痕/回転ナテ <sup>+</sup> . 回転ヘラケス <sup>+</sup> リ	明茶褐/灰褐	3ミリ以下長・チャ	1/1	完形
1830	L399	B-7	SE399503(20坪)	緑釉	椀	(6.9)	(2.95)	回転ナテ <sup>+</sup> /回転ナテ <sup>+</sup> . 回転ヘラケス <sup>+</sup> リ	暗灰/暗灰	細かな長	(2/3)	削出高台 I-w. 硬陶. 重焼痕
1831	L399	B-7	SE399503(20坪)	緑釉須	椀	(6.3)	(1.8)	工具後ケス <sup>+</sup> リ/工具後ケス <sup>+</sup> リ	灰-淡白黄灰/灰-淡白黄灰	0.5-2ミリ長	(1/1)	削出高台 I-j3. 重焼痕. 釉: 淡緑
1832	L399	B-7	SE399503(20坪)	緑釉	椀	(6.7)	(1.5)	ナテ <sup>+</sup> /ケス <sup>+</sup> リ	明灰褐/明灰褐	細かな長・チャ・赤・黒	(1/4)	削出高台 I-w. 陰刻花紋. 釉: 淡緑灰
1833	L399	B-7	SE399503(20坪)	緑釉	皿	14.6	2.3	ヨコナテ <sup>+</sup> . 回転ナテ <sup>+</sup> /ヨコナテ <sup>+</sup> . 回転ナテ <sup>+</sup>	暗黄緑/暗黄緑	1ミリ以下長・黒	2/5	削出高台 I-j1. 硬陶. 釉: 緑
1834	L399	B-7	SE399503(20坪)	緑釉須	椀	(7.7)	(1.8)	回転ナテ <sup>+</sup> /回転ナテ <sup>+</sup> . 回転ケス <sup>+</sup> リ	暗灰/暗灰	砂粒微量	(2/3)	削出高台 I-w. 硬陶. 釉: 黄
1835	L333	B-4	SD333007(20・21坪境)	土師器	杯A	16.3	(3.0)	ヨコナテ <sup>+</sup> /ヨコナテ <sup>+</sup> . ヘラケス <sup>+</sup> リ	肌-淡白黄褐/乳白	2ミリ以下長・石・チャ・ク	1/8	Ba形態. b'手法
1836	L333	B-4	SD333007(20・21坪境)	須恵器	椀A	(8.0)	(1.95)	回転ナテ <sup>+</sup> /回転ナテ <sup>+</sup>	灰/濁灰	1ミリ以下石	(1/5)	

出土土器観察表

1837	L333	B-4	SD333007(20・21坪境)	緑釉	椀	(6.3)	(1.15)	回転テ°/回転テ°	灰/灰	1ミ以下石・黒	(1/1)	削出高台 I-w. 硬陶. 釉: 黄褐. 底部-1/3
1838	L333	B-4	SD333007(20・21坪境)	須恵器	杯B	(8.0)	(1.5)	回転テ°/回転テ°	濁灰/濁灰	1ミ以下白	(1/5)	
1839	L333	B-4	SD333007(20・21坪境)	須恵器	杯B	(7.8)	(1.75)	回転テ°/回転テ°	灰/灰	1ミ以下長・黒	(1/5)	
1840	L333	B-4	SD333007(20・21坪境)	須恵器	杯B	(9.0)	(1.4)	回転テ°/回転テ°	灰/灰	1ミ以下長	(1/4)	
1841	L333	B-4	SD333007(20・21坪境)	須恵器	杯B	(10.0)	(1.85)	回転テ°/回転テ°	灰/灰	4ミ以下白	(1/4)	
1842	L333	B-4	SD333007(20・21坪境)	須恵器	杯B	(10.0)	(1.3)	回転テ°/回転テ°	灰/灰	1ミ以下長	(1/5)	
1843	L333	B-4	SD333007(20・21坪境)	須恵器	椀B	(11.0)	(2.5)	回転テ°/回転テ°	灰白褐/灰	1ミ以下長・石・黒	(1/8)	
1844	L333	B-4	SD333007(20・21坪境)	須恵器	杯B	(9.6)	(3.8)	回転テ°/回転テ°	青灰/青灰	1ミ以下白	(1/8)	
1845	L333	B-4	SD333007(20・21坪境)	須恵器	杯B	(11.6)	(1.7)	回転テ°/回転テ°	灰/灰	砂粒微量	(1/8)	
1846	L333	B-4	SD333007(20・21坪境)	須恵器	椀B	(12.0)	(2.8)	回転テ°/回転テ°	灰/灰	1ミ以下長	(1/8)	
1847	L333	B-4	SD333007(20・21坪境)	須恵器	杯B	(11.4)	(1.1)	回転テ°/回転テ°	灰/灰	3ミ以下長・黒	(1/4)	
1848	L333	B-4	SD333007(20・21坪境)	緑釉須	椀	(6.2)	(1.6)	回転テ°/回転テ°	淡青灰/淡青灰	0.5ミ以下長・黒	(9/10)	削出高台 I-j1. 硬陶
1849	L333	B-4	SD333007(20・21坪境)	緑釉須	椀	(6.0)	(1.4)	回転テ°/回転テ°	淡青灰/淡青灰	0.5ミ以下長	(1/6)	削出高台 I-j1. 硬陶
1850	L333	B-4	SD333007(20・21坪境)	緑釉須	椀	(7.4)	(2.2)	ミカ°/回転テ°	淡灰/淡灰	1ミ以下長	(1/2)	削出高台 I-e. 硬陶
1851	L333	B-4	SD333007(20・21坪境)	緑釉	椀	(5.0)	(2.2)	回転テ°/回転テ°	淡橙灰/淡橙灰-橙灰	0.3ミ以下長・キ	(1/2)	糸切高台 III-i. 硬陶. 釉: 淡緑
1852	L333	B-4	SD333007(20・21坪境)	須恵器	壺L	(6.0)	(2.0)	回転テ°/回転テ°	濁灰-灰白/濁灰-灰	1ミ以下長・黒	(1/4)	糸切高台
1853	L333	B-4	SD333007(20・21坪境)	須恵器	円面硯	8.2	(1.8)	回転テ°/回転テ°	淡灰-茶褐/暗灰-茶褐	1ミ以下黒多量	1/4	透窓6ヶ
1854	L333	B-4	SD333007(20・21坪境)	須恵器	円面硯	15.5	(3.2)	回転テ°/回転テ°	濁青灰/濁青灰	砂粒微量	1/16	墨痕なし. 外面に線刻. 透窓
1855	L333	B-4	SD333007(20・21坪境)	須恵器	蓋A	17.0	2.8	回転テ°/回転テ°	濁灰/濁灰	0.3ミ以下長多量	1/5	
1856	L333	B-4	SD333007(20・21坪境)	須恵器	壺A	14.0	(2.0)	回転テ°/回転テ°	灰/灰	1ミ以下長	1/6	
1857	L333	B-4	SD333007(20・21坪境)	須恵器	鉢D	19.5	(4.5)	回転テ°/回転テ°	淡青灰/暗灰	1ミ以下長・石	1/10	
1858	L333	B-4	SD333007(20・21坪境)	須恵器	風字硯	—	(1.3)	クスリ°/クスリ°	淡青灰/淡青灰	0.4ミ以下長		破片
1859	L333	B-4	SD333007(20・21坪境)	緑釉	椀	(6.7)	(1.7)	回転テ°/回転テ°	橙褐/橙褐	1ミ以下長	(1/4)	削出高台 I-e. 軟陶. 釉: 淡黄緑灰. 底部へ記号
1860	L333	B-4	SD333007(20・21坪境)	緑釉	椀	(6.5)	(1.9)	回転テ°/ヘラクスリ	淡灰/淡灰	砂粒微量	(1/1)	削出高台 I-j3. 釉: 淡緑
1861	L333	B-4	SD333007(20・21坪境)	緑釉	椀	(7.0)	(0.5)	回転テ°/回転テ°	灰/灰	2ミ以下白・黒	(1/6)	削出高台 I-e. 硬陶. 釉: 淡緑灰
1862	L333	B-4	SD333007(20・21坪境)	緑釉	椀	(8.6)	(2.1)	回転テ°/回転テ°	淡緑灰/淡緑灰	0.8ミ以下長	(3/8)	削出高台 I-w. 硬陶. 釉: 淡黄緑



1863	L333	B-4	SD333007(20・21坪境)	緑釉	椀	(7.55)	(2.7)	線刻. 刺突. 回転ナテ°/回転ナテ°	緑灰/緑灰	0.2ミ以下長	(1/3)	削出高台 I-w. 硬陶. 釉: 濃黄緑
1864	L399	B-6	SK399505(20坪)	須恵器	壺G	—	(4.5)	回転ナテ°/回転ナテ°	灰/灰	2ミ以下長	「3/4」	
1865	L399	B-6	SK399505(20坪)	緑釉	皿	(6.8)	(1.3)	回転ナテ°/回転ナテ°	灰/灰	細かな長	(1/4)	貼付高台 II-w1. 硬陶. 釉: 淡黄緑
1866	L399	B-6	SK399505(20坪)	須恵器	壺	(12.2)	(1.4)	回転ナテ°/回転ナテ°	灰/灰-淡灰	1ミ以下長	(1/8)	底部糸切り
1867	L399	B-6	SK399505(20坪)	土師器	甕	21.0	(5.6)	ヨコナテ°, 回転ナテ°/ヨコナテ°, 回転ナテ°	暗黒/暗黒	1ミ以下長・石	1/8	
1868	L399	B-7	村田里20坪内包含層	須恵器	蓋	—	(3.7)	回転ナテ°/回転ナテ°	淡灰褐/灰白	0.5ミ以下長・黒	1/8	
1869	L333	B-4	村田里20坪内包含層	緑釉須	椀	(6.1)	(1.8)	回転ナテ°/回転ナテ°	灰/灰	1ミ前後長・黒	(1/4)	削出高台 I-w. 硬陶
1870	L399	B-7	村田里20坪内包含層	緑釉須	椀	(6.6)	(2.0)	ナテ°/ナスリ	淡褐/淡褐	1ミ以下長・ク	(1/2)	削出高台 I-j3. 軟陶
1871	L333	B-4	村田里20坪内包含層	須恵器	壺M?	(4.0)	(2.7)	回転ナテ°/回転ナテ°	灰/濁灰	1ミ以下長・石	(1/4)	
1872	L399	B-7	村田里20坪内包含層	須恵器	壺	(8.9)	(2.75)	回転ナテ°/回転ナテ°・ナスリ	明灰/暗灰	1ミ以下長	1/3	底部. 糸切り後ナテ°
1873	L399	B-7	村田里20坪内包含層	須恵器	壺	(5.8)	(3.1)	回転ナテ°/回転ナテ°	灰/灰白	1ミ以下長・黒	(1/1)	
1874	L399	B-7	村田里20坪内包含層	須恵器	椀	(8.2)	(4.8)	回転ナテ°/回転ナテ°	灰/灰白	1ミ以下長・石	(1/4)	貼付高台
1875	L399	B-7	村田里20坪内包含層	須恵器	壺	(12.8)	(5.8)	回転ナテ°/ナスリ	淡灰白/淡灰白	1ミ以下長	1/4	貼付高台
1876	L399	B-7	村田里20坪内包含層	緑釉	椀	(6.7)	(1.5)	ナテ°/ナテ°	淡褐/淡褐	1ミ以下長・石・黒	(1/2)	削出高台 I-j1
1877	L399	B-7	村田里20坪内包含層	緑釉	椀	(7.4)	(2.1)	ナテ°/回転ナテ°, 回転ナスリ	淡橙褐/淡橙褐	1ミ以下長・黒	(1/3)	削出高台 I-j3. 軟陶. 釉: 淡緑
1878	L399	B-7	村田里20坪内包含層	土師器	椀	13.0	(3.2)	ヨコナテ°, ナテ°/ヨコナテ°, 回転ナテ°	淡褐/淡褐	1ミ以下黒	1/5	Da形態
1879	L399	B-7	村田里20坪内包含層	緑釉	椀	16.0	(3.3)	ヨコナテ°, 回転ナテ°/ヨコナテ°, 回転ナテ°	灰/灰	1ミ以下長・黒	1/8	硬陶. 釉: 深緑
1880	L399	B-7	SD399599	緑釉	皿	(9.6)	(2.6)	回転ナテ°/回転ナテ°	灰/灰	細粒長・石・褐	(1/2)	削出高台 I-w. 釉: 淡緑白
1881	L399	B-7	村田里20坪内包含層	緑釉	椀	(9.0)	(3.15)	ナテ°/ナテ°	淡赤褐/淡赤褐	1ミ以下黒	(1/5)	貼付高台 II-w1. 軟陶. 釉: 淡緑
1882	L333	B-4	SD333007(20・21坪境)	緑釉	椀	(9.9)	(4.0)	線刻. 刺突/線刻. 刺突	青灰/青灰	0.5ミ以下長少量	(3/4)	貼付高台 II-w1
1883	L399	B-6・7	村田里20坪内包含層	緑釉	蓋	13.0	(5.35)	回転ナテ°/回転ナテ°, 回転ヘラナスリ, ナテ°	灰/灰	1ミ程長・黒少量	1/2	釉: 淡緑黄
1884	L399	B-6・7	村田里20坪内包含層	緑釉	皿	(7.0)	(1.7)	回転ナテ°/回転ナテ°	灰/灰	砂粒微量	(1/3)	削出高台 I-w. 硬陶. 釉: 淡緑. 内面に陰刻花紋
1885	L315	B-2a	村田里20坪内包含層	緑釉	皿?	(6.8)	(1.4)	回転ナテ°/回転ナテ°	乳灰/乳灰	0.5ミ以下長・黒多量	(1/2)	貼付高台 II-w1. 硬陶. 内面に陰刻花文. 黒笹90号窯?
1886	L315	B-2a	村田里20坪内包含層	緑釉	皿?	(7.8)	(1.8)	回転ナテ°/回転ナテ°	淡橙/淡橙	1ミ以下黒多量	(1/12)	削出高台 I-w. 硬陶. 重焼痕. 釉: 淡緑
1887	L399	B-6・7	村田里20坪内包含層	緑釉	皿	(8.0)	(1.3)	回転ナテ°/回転ナテ°	灰/灰	1ミ以下長・黒	(1/5)	削出高台 I-w. 硬陶. 釉: 淡緑. 黒笹90・89号窯?

出土土器観察表

1888	L399	B-7	村田里20坪内 包含層	緑釉	皿	14.0	2.65	回転ナテ°/回転ナ テ°	灰/灰	細粒長	1/10	削出高台 I - e. 釉:淡黄 緑. ㊦記号. 石作
1889	L399	B-7	村田里20坪内 包含層	灰釉	皿	(7.4)	(2.4)	回転ナテ°/回転ナ テ°	灰白/灰白	1ミ以下長・ 黒	(1/5)	貼付高台. 釉:淡緑. 美 濃
1890	L399	B-7	村田里20坪内 包含層	灰釉	?	34.2	(2.4)	ヨコナテ°. 回転ナテ° /ヨコナテ°. 回転ナ テ°	灰白/淡灰 白	2ミ以下長・ 黒	1/10	釉:淡灰褐: 深緑
1891	L399	B-7	村田里20坪内 包含層	土師 器	甕	11.4	(4.9)	ナテ°. ヨコナテ°/ヨコ ナテ°. 指痕. ナテ°	褐-黒褐/ 暗褐	4ミ以下長・ 1ミ以下石・ 雲・赤	1/6	B形態°口縁・ 頸部にス
1892	L399	B-6・7	村田里20坪内 包含層	須恵 器	蓋A	13.6	2.3	回転ナテ°/回転ナ テ°	灰/灰	1ミ以下長・ 黒	1/3	貼付高台
1893	L333	B-4	村田里20坪内 包含層	須恵 器	蓋A	14.2	(1.4)	回転ナテ°/回転ナ テ°. 回転クスリ	灰/灰	1-2ミ長多 量	1/6	表面自然釉: 暗黒灰
1894	L399	B-7	村田里20坪内 包含層	須恵 器	杯	12.0	(2.7)	回転ナテ°/回転ナ テ°	灰/暗灰	細かな白	(1/6)	外面に自然 釉
1895	L333	B-4	村田里20坪内 包含層	須恵 器	杯B	(7.5)	(1.9)	回転ナテ°/回転ナ テ°. 回転クスリ	灰/灰	1ミ前後長 多量	(1/4)	貼付高台
1896	L399	B-6	村田里20坪内 包含層	須恵 器	杯	12.2	(3.5)	回転ナテ°/回転ナ テ°	灰白/灰	砂粒微量	1/8	
1897	L399	B-6	村田里20坪内 包含層	須恵 器	杯B	(9.6)	(1.2)	回転ナテ°/回転ハ ラクスリ. 回転ナテ°	青灰/青灰	砂細粒微量	(1/8)	貼付高台
1898	L399	B-7	村田里20坪内 包含層	須恵 器	杯B	(9.8)	(3.0)	回転ナテ°/回転ナ テ°	灰/暗灰	0.5ミ以下 白	(1/6)	貼付高台
1899	L399	B-6・7	村田里20坪内 包含層	須恵 器	杯B	(9.6)	(3.8)	回転ナテ°/回転ナ テ°	青灰/暗青 灰	1ミ以下砂 粒	(1/12)	貼付高台
1900	L399	B-6・7	村田里20坪内 包含層	緑釉 須	椀	(5.7)	(2.2)	回転ナテ°/回転ナ テ°. 回転クスリ	淡黄灰/淡 黄灰	0.1ミ以下 長・黒	(1/1)	貼付高台 II - w1. 軟陶
1901	L399	B-6・7	村田里20坪内 包含層	緑釉	椀	(6.3)	(1.7)	回転ナテ°/回転ナ クスリ	暗灰-淡赤 灰褐/暗灰 -淡赤灰褐	0.5ミ以下 長・黒	(1/2)	削出高台 I - w. 硬陶. 釉無 し
1902	L399	B-6	村田里20坪内 包含層	須恵 器	椀 (皿)	(7.0)	(0.8)	回転ナテ°/回転ナ テ°	灰/灰	0.5ミ以下 長・黒	(1/3)	削出高台
1903	L399	B-6	村田里20坪内 包含層	須恵 器	椀	(6.0)	(1.5)	回転ナテ°/回転ナ テ°. 回転クスリ	暗灰/灰	砂粒微量	(1/2)	削出高台
1904	L399	B-7	村田里20坪内 包含層	須恵 器	椀	(6.6)	(2.4)	回転ナテ°/回転ハ ラクスリ	淡灰白/淡 灰白	1ミ以下砂 粒	(1/2)	貼付高台. 重 焼痕
1905	L399	B-7	村田里20坪内 包含層	須恵 器	椀	(6.6)	(2.1)	回転クスリ/回転 ナテ°. 回転クスリ	灰/灰	1ミ以下長・ 黒	(1/3)	削出高台
1906	L399	B-6	村田里20坪内 包含層	緑釉 須	椀	(8.0)	(1.7)	回転ナテ°/回転ナ テ°. 回転ハクス リ. クスリ成形	灰白/灰	1ミ以下黒 少量	(1/2)	貼付高台 II - w1. 重焼痕
1907	L399	B-7	村田里20坪内 包含層	緑釉 須	椀	(5.9)	(1.8)	クスリ/クスリ. 回 転クスリ	灰/淡灰	1ミ以下長・ 黒	(1/1)	削出高台 I - j3
1908	L399	B-6	村田里20坪内 包含層	緑釉 須	椀	(6.3)	(1.82)	回転クスリ/回転 クスリ	灰/灰	0.5ミ以下 長・黒	(1/2)	削出高台 I - j3. 自然釉: 深緑
1909	L399	B-6	村田里20坪内 包含層	緑釉	椀	(7.8)	(1.1)	回転ナテ°/ミカキ?	明褐/明褐	1ミ以下黒・ 白	(1/4)	削出高台 I - j3. 硬陶. 釉 なし
1910	L399	B-7	村田里20坪内 包含層	須恵 器	椀	(5.4)	(1.2)	回転ナテ°/回転ハ ラクスリ	青灰/暗青 灰	1ミ以下砂 粒	(1/2)	削出高台
1911	L333	B-4	村田里20坪内 包含層	緑釉 須	椀	(7.1)	(1.8)	回転ナテ°/回転ナ テ°	暗灰/暗灰	0.5ミ以下 黒・長多量	(1/4)	削出高台 I - j1
1912	L333	B-4	村田里20坪内 包含層	須恵 器	椀	13.2	(3.1)	回転ナテ°/回転ナ テ°. 回転クスリ	暗灰-黒灰/ 暗灰-黒 灰	1ミ以下長	1/6	
1913	L333	B-4	村田里20坪内 包含層	緑釉 須	椀	(7.9)	(3.3)	回転ナテ°/回転ナ テ°	淡黄灰/淡 黄灰	1ミ以下長・ 黒	(1/4)	削出高台 I - j1

1914	L333	B-4	村田里20坪内 包含層	緑釉 須	椀	(7.2)	(2.3)	線刻. 回転テ <sup>+</sup> / 回転テ <sup>+</sup>	青灰/青灰	0.5ミリ長・黒	(1/5)	削出高台 I - w
1915	L399	B-6・7	村田里20坪内 包含層	灰釉	椀	(7.7)	(2.6)	回転テ <sup>+</sup> /回転テ <sup>+</sup> . 回転テ <sup>+</sup> スリ. 高台貼付	淡灰白/淡灰 白	0.5ミリ以下 長・黒	(1/2)	貼付高台
1916	L399	B-7	村田里20坪内 包含層	須惠 器	壺	(7.8)	(3.2)	回転テ <sup>+</sup> /回転テ <sup>+</sup> テ <sup>+</sup> . 底部静止糸 切り	暗灰/黒灰	3ミリ以下長・ テ <sup>+</sup>	(2/3)	
1917	L333	B-4	村田里20坪内 包含層	須惠 器	壺	(7.8)	(4.2)	回転テ <sup>+</sup> /回転テ <sup>+</sup> テ <sup>+</sup> . 底部糸切り	淡灰/淡灰	3ミリ以下長・ 黒	(7/10)	糸切り痕
1918	L333	B-4	村田里20坪内 包含層	須惠 器	壺M	4.1	(2.7)	回転テ <sup>+</sup> /回転テ <sup>+</sup> テ <sup>+</sup>	淡灰/淡灰	0.3ミリ長	1/3	
1919	L333	B-4	村田里20坪内 包含層	須惠 器	壺G	6.8	(5.1)	回転テ <sup>+</sup> /回転テ <sup>+</sup> テ <sup>+</sup>	灰白/灰白	砂粒微量	1/3	
1920	L399	B-7	村田里20坪内 包含層	須惠 器	壺	(4.4)	(5.0)	回転テ <sup>+</sup> /回転テ <sup>+</sup> テ <sup>+</sup> . 底部糸切り	明灰/明灰	1ミリ以下白	(1/3)	
1921	L399	B-6・7	村田里20坪内 包含層	須惠 器	皿C	18.0 (16.3)	2.0	回転テ <sup>+</sup> /回転テ <sup>+</sup> テ <sup>+</sup>	灰/灰	0.5ミリ以下 長	1/3 (1/4)	内面墨痕. 転 用硯
1922	L399	B-7	村田里20坪内 包含層	須惠 器	播鉢	8.7	(4.4)	回転テ <sup>+</sup> /回転テ <sup>+</sup> テ <sup>+</sup>	淡灰/淡灰	0.5-1ミリ長・ テ <sup>+</sup> . 黒	1/5	
1923	L399	B-7	村田里20坪内 包含層	須惠 器	甕	(15.3)	(3.45)	回転テ <sup>+</sup> /回転テ <sup>+</sup> テ <sup>+</sup>	明灰/明灰	1ミリ以下長・ 石・黒	1/4	口縁に歪み
1924	L399	B-6	村田里20坪内 包含層	須惠 器	甕	14.7	(2.5)	回転テ <sup>+</sup> /回転テ <sup>+</sup> テ <sup>+</sup>	灰/黒灰	1ミリ以下白・ 黒	1/6	
1925	L399	B-6・7	村田里20坪内 包含層	須惠 器	不明	—	(7.6)	回転テ <sup>+</sup> /回転テ <sup>+</sup> テ <sup>+</sup>	灰/灰-黄 茶	0.5ミリ以下 長・黒	破片	取手1つ残存
1926	L333	B-4	村田里20坪内 包含層	須惠 器	杯A?	—	—	不明/不明	乳灰色	砂粒微量	破片	墨書
1927	L333	B-4	村田里20坪内 包含層	緑釉	蓋	天井部 9.1	(1.4)	回転テ <sup>+</sup> . 線刻/ 回転テ <sup>+</sup> . 回転テ <sup>+</sup> スリ. 線刻. 刺突	淡緑灰/淡 緑灰	砂粒微量	1/36	削出突帯. 硬 陶. 釉: 淡緑
1928	L333	B-4	村田里20坪内 包含層	緑釉	椀?	15.3	(2.95)	回転テ <sup>+</sup> /回転テ <sup>+</sup> テ <sup>+</sup>	暗緑灰/暗 緑灰	砂粒微量	1/12	硬陶. 釉: 濃 黄緑
1929	L333	B-4	村田里20坪内 包含層	緑釉	椀	(7.5)	(1.4)	回転テ <sup>+</sup> . 線刻. 刺突/回転テ <sup>+</sup>	淡灰/淡灰	0.5ミリ以下 長	(1/4)	貼付高台 II - w1. 硬陶. 釉: 濃黄緑
1930	L399	B-6	村田里20坪内 包含層	緑釉	椀	(6.6)	(2.0)	回転テ <sup>+</sup> /回転テ <sup>+</sup> テ <sup>+</sup> スリ. 高台テ <sup>+</sup> りだし	淡灰/淡灰	砂粒微量	(2/3)	削出高台 I - w. 硬陶. 釉: 淡緑. 重焼 痕. 底部へテ <sup>+</sup> 記 号
1931	L399	B-6	村田里20坪内 包含層	緑釉	椀	(6.7)	(1.8)	回転テ <sup>+</sup> /ミカキ. 高台テ <sup>+</sup> りだし. 回転テ <sup>+</sup>	灰/灰	極細かな白	(1/2)	削出高台 I - w. 硬陶. 釉: 淡緑. 底部へテ <sup>+</sup> 記号
1932	L399	B-6・7	村田里20坪内 包含層	緑釉	椀	(7.1)	(2.05)	回転テ <sup>+</sup> /回転テ <sup>+</sup> スリ	淡褐/淡褐	1ミリ以下長・ 黒	(1/3)	削出高台 I - w. 軟陶. 釉: 淡緑. 重焼痕
1933	L315	B-2a	村田里20坪内 包含層	緑釉	椀	(9.8)	(2.1)	施釉/施釉	淡灰/淡灰	1ミリ以下長・ 黒	1/4	貼付高台 II - w1. 釉: 薄黄 緑
1934	L399	B-6	村田里20坪内 包含層	緑釉	椀	(5.4)	(1.7)	回転テ <sup>+</sup> /回転テ <sup>+</sup> テ <sup>+</sup> . 静止糸切り	青灰/青灰	1ミリ以下砂 粒	(1/1)	糸切高台 III - i. 硬陶. 釉: 暗緑. 高台以 外に施釉
1935	L399	B-7	村田里20坪内 包含層	緑釉	椀	(9.2)	(2.7)	回転テ <sup>+</sup> /回転テ <sup>+</sup> スリ. 高台テ <sup>+</sup> り だし	灰-淡黄褐 /淡黄褐	1ミリ以下赤・ テ <sup>+</sup>	(1/4)	削出高台 I - e. 軟陶. 釉: 淡黄緑
1936	L333	B-4	村田里20坪内 包含層	灰釉?	椀	(7.1)	(3.0)	施釉/不明	淡灰/淡灰	0.5ミリ以下 長少量	(1/1)	貼付高台. 釉: 淡灰黄
1937	L399	B-7	村田里20坪内 包含層	灰釉	椀	(7.2)	(2.2)	回転テ <sup>+</sup> /回転テ <sup>+</sup> テ <sup>+</sup> . 回転テ <sup>+</sup> スリ	緑灰/灰白	細かな石・ 白	(1/2)	貼付高台. 釉: 淡緑灰
1938	L399	B-7	村田里20坪内 包含層	灰釉	椀	(7.6)	(2.0)	回転テ <sup>+</sup> /回転テ <sup>+</sup> テ <sup>+</sup> . 高台貼付	淡灰白/淡 灰白	1ミリ以下砂 粒	(1/4)	貼付高台. 釉: 淡緑灰

出土土器観察表

1939	L333	B-4	村田里20坪内 包含層	灰釉	椀	(8.9)	(2.4)	ナテ/ナテ・回転 ナテ	乳灰/乳灰	1ミ以下長 少量	(1/16)	貼付高台。 釉:淡緑灰。 美濃
1940	L399	B-6	村田里20坪内 包含層	灰釉	皿	(9.6)	(1.5)	回転ナテ/回転 ナテ	灰白/灰白 -淡黄灰	砂粒微量	(1/6)	貼付高台。重 ね焼き痕
1941	L333	B-4	村田里20坪内 包含層	灰釉	皿	14.8	(2.2)	ナテ/ナテ・ケス リ	乳灰/乳灰	0.5ミ以下 長	1/8	釉:淡緑灰。 美濃
1942	L333	B-4	村田里20坪内 包含層	灰釉	皿	(7.1)	(1.3)	ナテ/ナテ	乳灰/乳灰	黒	(1/5)	釉:淡緑黄灰 (I新-II古)
1943	L333	B-4	村田里20坪内 包含層	灰釉	皿	(6.7)	(1.95)	回転ナテ/回転 ナテ	乳灰/乳灰	1ミ前後黒 少量	(1/4)	釉:淡黄灰褐 (II新)
1944	L333	B-4	村田里20坪内 包含層	灰釉	皿	(7.5)	(1.45)	ナテ/ナテ	乳灰/乳灰	1ミ以下長・ 黒	(1/12)	釉:暗緑黄灰 (I新-II古)
1945	L333	B-4	村田里20坪内 包含層	灰釉	段皿	(7.1)	(1.95)	回転ナテ/回転 ナテ	乳灰/乳灰	0.5ミ以下 長・赤少量	(1/5)	貼付高台。 釉:淡緑黄灰 (II古)
1946	L399	B-7	村田里20坪内 包含層	灰釉	壺	28.8	(7.2)	回転ナテ/ヨコ ナテ・回転ナテ	灰白/灰白	砂粒微量	1/8	釉:暗緑灰
1947	L399	B-7	村田里20坪内 包含層	灰釉	甕	34.2	(5.3)	回転ナテ/回転 ナテ・波状	灰/黒灰	細かな石・ チャ・白	1/16	釉:淡緑
1948	L385	B-8	SE385536 (29 坪)	須恵 器	杯A	14.0	3.0	回転ナテ/不明	肌白-灰白 /肌白-灰 白	1ミ以下長	1/12	
1949	L385	B-8	SE385536 (29 坪)	緑釉 須	椀	12.6	4.4	回転成形後ミ カキ/回転成形後 ミカキ	淡黄土乳 白/淡黄土 乳白	1ミ以下長・ 石・チャ・角	7/8	
1950	L385	B-8	SE385536 (29 坪)	緑釉	椀	13.4	4.4	回転成形。ヨコ ナテ/ヨコナテ・回転 成形	濁暗乳白- 淡灰/濁暗 乳白-淡灰	0.5-1.0ミ 長・石・チャ・ 褐	7/8	削出高台 I - j3. 墨書
1951	L385	B-8	SE385536 (29 坪)	緑釉 須	椀	13.0	4.4	回転成形後ミ カキ。ヨコナテ/ヨコ ナテ・回転成形後 ヘラミカキ	淡明灰-淡 乳灰/淡明 灰-淡乳灰	1ミ以下長・ 石・チャ	3/4	削出高台 I - j1. 重焼痕
1952	L385	B-8	SE385536 (29 坪)	緑釉 須	椀	(5.7)	(1.7)	回転成形後ヘ ラミカキ?/ケス リ	明淡褐/明 淡褐	0.7ミ以下 長・石・赤・ 褐色?	(7/8)	削出高台 I - j3. 内面底部 線刻
1953	L385	B-5b	SE385543 (29 坪)	土師 器	皿	13.8	2.3	指痕。ヨコナテ/ヨ コナテ・指痕	乳白/乳白	1ミ以下褐 色ク	3/8	Ba形態。手 法?外面に黒 斑
1954	L385	B-5b	SE385543 (29 坪)	土師 器	皿	15.7	2.2	指痕。ヨコナテ/ヨ コナテ・ヘラナテ・指 痕	淡褐/淡褐	1ミ以下長・ 褐色ク	3/8	Ba形態。手 法?外面に黒 斑
1955	L385	B-5b	SE385543 (29 坪)	土師 器	皿	16.1	2.9	ナテ。ヨコナテ/ヨコ ナテ・底部ヘラナテ	濁淡褐-淡 橙褐/濁淡 褐-淡橙褐	1.5ミ以下 長・石・褐色 ク	3/8	Ba形態。手 法?内面口縁 部にス
1956	L385	B-8	SE385543 (29 坪)	黒色	椀	(11.4)	(2.55)	ミカキ/ミカキ	黒/黒	0.5ミ以下 黒	(1/16)	削出高台
1957	L385	B-5b	SE385543 (29 坪)	緑釉 須	椀	(6.0)	(2.0)	ヘラミカキ?/回転 ナテ	暗鉛-淡灰 /暗鉛-淡 灰	1.5ミ以下 白・褐	(5/8)	削出高台 I - w. 内面にヘ ラ描き。釉発色 せず
1958	L385	B-8	SE385543 (29 坪)	緑釉 須	椀	(5.5)	(3.3)	回転ナテ後ミ カキ/回転ナテ後 ミカキ	暗青灰/暗 青灰	0.1-0.5ミ 白色粒子・ 灰色粒子?	(1/1)	削出高台 I - e
1959	L385	B-8	SE385543 (29 坪)	緑釉	椀	(6.2)	(1.7)	ナテ/ヘラケス リ。ナ テ	淡橙灰/淡 橙灰	1ミ以下黒	(1/5)	削出高台 I - j3. 軟陶。 釉:緑灰
1960	L385	B-8	SE385543 (29 坪)	灰釉 須	皿	15.0	3.4	回転ナテ後ミ カキ/回転ナテ。回 転ケスリ後ミカキ	淡明灰/淡 明灰	0.5ミ以下 長・石少量	1/2	貼付高台。ス
1961	L385	B-5b	SK385322 (29 坪)	緑釉 須	椀	(6.6)	(3.1)	?/回転ヘラケス リ	青灰/青灰	1ミ以下長・ 黒	1/4	削出高台 I - j3
1962	L385	B-5b	SK385322 (29 坪)	青磁	皿	10.0	2.5	回転ナテ/回転 ナテ・ケス リ	淡緑灰/淡 肌灰白	1ミ以下長	1/2	同安窯系?

1963	L385	B-5b	村田里29坪内 包含層	土師 器	皿	8.2	1.35	ナテ <sup>+</sup> /ナテ <sup>+</sup>	肌/肌	3ミ以下石・ 長・赤・雲	1/2	
1964	L385	B-8	村田里29坪内 包含層	緑釉 須	椀	(5.7)	(1.4)	クス <sup>+</sup> リ後ナテ <sup>+</sup> /クス <sup>+</sup> リ後ナテ <sup>+</sup>	暗灰/暗灰	0.5ミ以下 長	(2/3)	削出高台 I - j3
1965	L385	B-8	村田里29坪内 包含層	緑釉 須	椀	(6.2)	(1.4)	回転ナテ <sup>+</sup> /回転ナ テ <sup>+</sup>	灰/灰	1ミ以下長・ 黒	(1/3)	削出高台 I - j1. 重焼痕
1966	L385	B-8	村田里29坪内 包含層	緑釉 須	皿	14.6	2.7	回転ナテ <sup>+</sup> /クス <sup>+</sup> リ 後ナテ <sup>+</sup>	灰/灰	1ミ以下長・ 雲・黒	1/8 (1/1)	削出高台 I - j3
1967	L385	B-8	村田里29坪内 包含層	須恵 器	壺G	(3.7)	(4.4)	回転ナテ <sup>+</sup> /回転ナ テ <sup>+</sup> . 底部糸切り	灰/灰	0.5ミ以下 長	(1/6)	
1968	L385	B-8	村田里29坪内 包含層	緑釉 須	椀	(6.5)	(2.3)	回転ナテ <sup>+</sup> /クス <sup>+</sup> リ 後ナテ <sup>+</sup>	灰/灰	1ミ以下長・ 黒	(1/1)	削出高台 I - j3. 重焼痕. ハ 7記号
1969	L385	B-8	村田里29坪内 包含層	緑釉	椀	(6.3)	(1.7)	ミカ <sup>+</sup> キ/高台貼付	緑黄灰/緑 黄灰	0.5ミ以下 長	(1/3)	貼付高台 II - w1. 硬陶. 釉: 淡緑. ハ7記号
1970	L385	B-8	村田里29坪内 包含層	灰釉	椀	(8.4)	(2.1)	回転ナテ <sup>+</sup> /回転ナ テ <sup>+</sup>	乳灰/乳灰	1.5ミ以下 長・黒	(1/4)	貼付高台. 釉: 淡緑灰. 重焼痕
1971	L385	B-5b	SD385229 (29・ 30坪境)	土師 器	杯A	14.2	(2.0)	ヨコナテ <sup>+</sup> /ヨコナテ <sup>+</sup>	淡灰白茶/ 淡赤褐	2ミ以下長・ ク・雲	1/4	9c後半. Ca形 態
1972	L385	B-5b	SD385229 (29・ 30坪境)	土師 器	皿A	13.6	1.7	ナテ <sup>+</sup> /ヨコナテ <sup>+</sup> . ナテ <sup>+</sup>	白肌/肌茶 褐	1.5ミ以下 石・長	1/4	Ca形態
1973	L385	B-5b	SD385229 (29・ 30坪境)	土師 器	皿A	13.6	2.1	ヨコナテ <sup>+</sup> /不明	茶褐-濁肌 白/茶褐	0.5ミ以下 長・石・1ミ 以下赤	1/8	Ca形態. 手法 不明
1974	L385	B-5b	SD385229 (29・ 30坪境)	土師 器	皿A	16.0	(2.0)	ヨコナテ <sup>+</sup> . ナテ <sup>+</sup> /ヨコ ナテ <sup>+</sup> . 摩滅. 不明	淡黄茶褐/ 淡肌/淡黄 茶褐	砂粒微量	1/10	Ca形態
1975	L385	B-5b	SD385229 (29・ 30坪境)	土師 器	甕	14.0	(3.0)	ヨコナテ <sup>+</sup> /ヨコナテ <sup>+</sup>	暗黒/暗黒	1ミ以下長・ 石	1/6	H形態?内外 面にス
1976	L385	B-5b	SD385229 (29・ 30坪境)	土師 器	甕	15.6	(3.3)	ナテ <sup>+</sup> . ハナクス <sup>+</sup> リ/ヨ コナテ <sup>+</sup>	淡黄茶褐/ 淡黄茶褐	2ミ以下石・ 長	1/12	C形態
1977	L385	B-5b	SD385229 (29・ 30坪境)	土師 器	甕	24.0	3.2	ナテ <sup>+</sup> /ハナ	淡褐/濃茶 褐	2ミ以下長・ ク・石	1/14	C形態. ス
1978	L385	B-5b	SD385229 (29・ 30坪境)	土師 器	甕	24.4	(4.0)	ヨコナテ <sup>+</sup> /ヨコナテ <sup>+</sup> . ヨ コナテ <sup>+</sup> 後タキ. タキ	淡灰白褐/ 明茶褐	2ミ以下長・ 石・雲	1/6	B形態
1979	L385	B-5b	SD385229 (29・ 30坪境)	黒色	椀	14.0	(3.6)	ヨコナテ <sup>+</sup> /ヨコナテ <sup>+</sup>	黒/黒-淡 褐	1ミ以下長・ 石・赤・雲	1/7	A類
1980	L385	B-5b	SD385229 (29・ 30坪境)	黒色	甕	14.0	(3.2)	ナテ <sup>+</sup> /ヨコナテ <sup>+</sup>	茶-黒/茶- 黒	2.5ミ以下 石・長	1/7	ス
1981	L385	B-5b	SD385229 (29・ 30坪境)	須恵 器	杯A	13.0	3.65	回転ナテ <sup>+</sup> /回転ナ テ <sup>+</sup>	黄灰白/黄 灰	細かな白・ 雲	1/5	H形態
1982	L385	B-5b	SD385229 (29・ 30坪境)	須恵 器	杯A	12.9	3.95	回転ナテ <sup>+</sup> /回転ナ テ <sup>+</sup>	灰白/灰白 チャ	2ミ以下長・ 石	(1/3)	K形態
1983	L385	B-5b	SD385229 (29・ 30坪境)	須恵 器	杯A	13.8	3.55	回転ナテ <sup>+</sup> /回転ナ テ <sup>+</sup> . 回転クス <sup>+</sup> リ. 底部未調整	灰白/黄灰 白	1ミ以下長・ 石	1/3	N形態. II 新
1984	L385	B-5b	SD385229 (29・ 30坪境)	須恵 器	杯A	13.9	3.7	回転ナテ <sup>+</sup> /回転ナ テ <sup>+</sup>	灰-暗灰/ 灰-暗灰	1ミ以下長・ 黒	2/3	H形態? II 古
1985	L385	B-5b	SD385229 (29・ 30坪境)	須恵 器	杯A	12.6	3.7	回転ナテ <sup>+</sup> /回転ナ テ <sup>+</sup>	明灰/明灰	0.5ミ以下 長多量	1/8	T形態. 外面 に底部墨書
1986	L385	B-5b	SD385229 (29・ 30坪境)	須恵 器	杯B	(10.6)	(3.6)	回転ナテ <sup>+</sup> /回転ナ テ <sup>+</sup>	青灰/暗灰	細かな長・ 石	(1/6)	
1987	L385	B-5b	SD385229 (29・ 30坪境)	須恵 器	杯B	(11.6)	(1.3)	回転ナテ <sup>+</sup> /回転ナ テ <sup>+</sup> . 高台貼付. 底部ハナ切り	暗青灰/暗 青灰	細かな長・ 石	(1/6)	
1988	L385	B-5b	SD385229 (29・ 30坪境)	緑釉 須?	椀	15.4	(5.2)	回転ナテ <sup>+</sup> /回転ナ テ <sup>+</sup>	暗灰/暗灰	細かな長・ 石	1/16	
1989	L385	B-5b	SD385229 (29・ 30坪境)	緑釉 須	椀?	(8.2)	(2.6)	回転ナテ <sup>+</sup> /回転ナ テ <sup>+</sup> . 高台貼付	灰/灰	1ミ以下長・ 黒	(1/2)	貼付高台 II - w1. 硬陶
1990	L385	B-5b	SD385229 (29・ 30坪境)	緑釉 須	椀	12.9	3.85	回転ナテ <sup>+</sup> /回転ナ テ <sup>+</sup> . 高台貼付	灰/灰	細かな長・ 石	1/8	貼付高台 II - j1. 硬陶

## 出土土器観察表

1991	L385	B-5b	SD385229 (29・30坪境)	緑釉須	椀	14.6	3.85	回転ナテ <sup>*</sup> /回転ナテ <sup>*</sup> . 高台ナス <sup>*</sup> リだし	暗灰-灰/暗灰	3ミリ以下長・黒	1/4	削出高台 I-j1. 硬陶. 自然釉
1992	L385	B-5b	SD385229 (29・30坪境)	緑釉須	椀	(6.6)	(1.75)	回転ナテ <sup>*</sup> /回転ナテ <sup>*</sup> . 円盤状高台	灰白/灰白	1ミリ以下長・チャ・黒	(1/2)	削出高台 I-e. 硬陶. 釉剥落顕著
1993	L385	B-5b	SD385229 (29・30坪境)	緑釉須	皿	(7.0)	(1.8)	ナテ <sup>*</sup> /ナテ <sup>*</sup>	明乳白/明乳白	砂粒微量	(1/3)	削出高台 I-e. 硬陶
1994	L385	B-5b	SD385229 (29・30坪境)	緑釉須	椀	17.2	(4.9)	回転ナテ <sup>*</sup> /回転ナテ <sup>*</sup>	青灰/青灰	4ミリ以下長	1/4	硬陶. 高台形態不明
1995	L385	B-5b	SD385229 (29・30坪境)	緑釉須	椀	9.1	4.65	回転ナテ <sup>*</sup> /回転ナテ <sup>*</sup> . 回転ヘラス <sup>*</sup> リ	灰白-灰-濁灰/灰白-灰	1ミリ以下長・チャ	1/8 (1/2)	削出高台 I-e
1996	L385	B-5b	SD385229 (29・30坪境)	灰釉須	椀	13.6	4.6	回転ナテ <sup>*</sup> /回転ナテ <sup>*</sup>	明灰/明灰	1ミリ以下長	1/1	
1997	L385	B-5b	SD385229 (29・30坪境)	灰釉須	椀	14.1	(3.3)	回転ナテ <sup>*</sup> /回転ナテ <sup>*</sup>	灰白/灰白	1ミリ以下長	1/12	内面微かに釉: 淡黄緑
1998	L385	B-5b	SD385229 (29・30坪境)	緑釉須	椀	13.8	3.45	回転ナテ <sup>*</sup> /回転ナテ <sup>*</sup> . 高台貼付	灰/灰	1ミリ以下長・チャ	1/3	削出高台 I-e. 硬陶
1999	L385	B-5b	SD385229 (29・30坪境)	緑釉須	皿	9.9	3.0	回転ナテ <sup>*</sup> /回転ナテ <sup>*</sup> . 底部糸切り	青灰/青灰	1ミリ以下長	(1/2)	糸切高台 III-i. 硬陶
2000	L385	B-5b	SD385229 (29・30坪境)	緑釉須	皿	(6.8)	(1.7)	回転ナテ <sup>*</sup> /ナス <sup>*</sup> リ	灰白/灰白	1ミリ以下長	(3/4)	削出高台 I-e. 硬陶
2001	L385	B-5b	SD385229 (29・30坪境)	須恵器	壺C	7.9	(3.7)	回転ナテ <sup>*</sup> /回転ナテ <sup>*</sup>	明青灰/灰白	1.5ミリ以下長・チャ	1/6	
2002	L385	B-5b	SD385229 (29・30坪境)	須恵器	壺	11.2	(3.2)	ナテ <sup>*</sup> ナテ <sup>*</sup> /回転ナテ <sup>*</sup>	灰/灰	1ミリ以下長	1/8	
2003	L385	B-5b	SD385229 (29・30坪境)	須恵器	唾壺	—	(2.2)	ナテ <sup>*</sup> . 指痕/ヨコナテ <sup>*</sup> . ヘラミカ <sup>*</sup> キ	灰白/灰白	砂粒微量	[1/2]	
2004	L385	B-5b	SD385229 (29・30坪境)	須恵器	壺?	11.7	(2.3)	回転ナテ <sup>*</sup> /回転ナテ <sup>*</sup>	暗灰/灰	1ミリ以下長	1/6	
2005	L385	B-5b	SD385229 (29・30坪境)	須恵器	壺	(7.9)	(2.7)	回転ナテ <sup>*</sup> /回転ナテ <sup>*</sup> . 高台貼付	灰/灰	砂粒微量	(1/1)	
2006	L385	B-5b	SD385229 (29・30坪境)	須恵器	壺L	(7.4)	(4.9)	回転ナテ <sup>*</sup> /回転ナテ <sup>*</sup> . ヘラ切り底	灰/灰	砂粒微量	(1/5)	
2007	L385	B-5b	SD385229 (29・30坪境)	須恵器	壺L	(7.3)	(3.7)	回転ナテ <sup>*</sup> /回転ナテ <sup>*</sup>	灰/暗灰	砂粒微量	(1/9)	
2008	L385	B-5b	SD385229 (29・30坪境)	須恵器	壺L	(7.7)	(6.3)	回転ナテ <sup>*</sup> /回転ナテ <sup>*</sup> . ナス <sup>*</sup> リ後ナテ <sup>*</sup> . ナテ <sup>*</sup>	淡灰/濁暗灰	砂粒殆どなし	(1/3)	内面底部自然釉
2009	L385	B-5b	SD385229 (29・30坪境)	須恵器	壺	(6.5)	(1.1)	回転ナテ <sup>*</sup> 後回転ナス <sup>*</sup> リ/回転ナテ <sup>*</sup> . 糸切り後高台貼付	淡緑青灰/青灰	細かな白・黒	(1/1)	内面竹串状の調整痕
2010	L385	B-5b	SD385229 (29・30坪境)	灰釉	壺B	(13.2)	(4.6)	回転ナテ <sup>*</sup> /回転ナテ <sup>*</sup>	淡灰黄/黒深緑灰	1ミリ以下長	(1/12)	釉: 深緑
2011	L385	B-5b	SD385229 (29・30坪境)	須恵器	壺N?	(13.6)	(8.6)	回転ナテ <sup>*</sup> /回転ナテ <sup>*</sup>	灰白/灰白	1ミリ以下長	1/4	自然釉
2012	L385	B-5b	SD385229 (29・30坪境)	須恵器	鉢?	(17.0)	(6.95)	回転ナテ <sup>*</sup> /回転ナテ <sup>*</sup> . 回転ナス <sup>*</sup> リ. 高台貼付	灰/灰	1ミリ以下長	(1/4)	
2013	L385	B-5b	SD385229 (29・30坪境)	緑釉	椀	13.6	4.1	回転ナテ <sup>*</sup> /回転ナテ <sup>*</sup>	淡灰-肌/淡灰-肌	1ミリ以下長	1/8 (1/1)	削出高台 I-j1. 硬陶
2014	L385	B-5b	SD385229 (29・30坪境)	緑釉	椀	(6.8)	(1.15)	回転ナテ <sup>*</sup> /回転ナテ <sup>*</sup>	淡灰緑/淡灰緑	1ミリ以下長・チャ・石	(1/3)	削出高台 I-e. 軟陶. 釉: 深黄緑
2015	L385	B-5b	SD385229 (29・30坪境)	緑釉	椀	(7.0)	(2.85)	回転ナテ <sup>*</sup> /回転ナス <sup>*</sup> リ	青灰/青灰	1ミリ以下長	1/3	削出高台 I-e. 硬陶. 釉: 濃洪緑
2016	L385	B-5b	SD385229 (29・30坪境)	緑釉	皿	(7.6)	(2.1)	回転ナテ <sup>*</sup> /回転ナテ <sup>*</sup>	灰/灰	砂粒微量	(1/5)	削出高台 I-j1. 硬陶. 釉: 明黄緑
2017	L385	B-5b	SD385229 (29・30坪境)	緑釉	椀	18.5	(4.2)	回転ナテ <sup>*</sup> /回転ナテ <sup>*</sup>	淡深緑灰/淡深緑灰	1ミリ以下長・黒	1/10	硬陶. 釉: 淡深緑

2018	L385	B-5b	SD385229(29・30坪境)	緑釉	皿	14.2	6.2	不明/回転ナテ・ クスリ	淡褐/淡褐	1ミ以下長	1/16	削出高台 I-e. 軟陶. 釉: 明黄緑
2019	L385	B-5b	SD385229(29・30坪境)	緑釉	皿	14.9	2.75	回転ナテ/回転ナテ・ 底部ナテ	淡茶灰/淡茶灰	1.5ミ前後長・石少量	1/2	削出高台 I-e. 硬陶. 釉: 淡緑灰
2020	L385	B-5b	SD385229(29・30坪境)	緑釉	皿?	(7.3)	(1.15)	不明/不明	黄灰白/黄灰白	0.5ミ以下長	(9/10)	削出高台 I-e. 釉: 明緑. 洛北(I期新)
2021	L385	B-5b	SD385229(29・30坪境)	緑釉	椀	(5.2)	(1.7)	回転ナテ/回転ナテ	灰/灰	1ミ以下長・黒	(1/1)	糸切高台 III-i. 硬陶. 釉: 明黄緑
2022	L385	B-5b	SD385229(29・30坪境)	灰釉	椀	(6.8)	(3.2)	回転ナテ/回転ナテ	緑灰/灰白	1ミ以下長	1/4	貼付高台
2023	L385	B-5b	SD385229(29・30坪境)	灰釉	椀	(7.0)	(2.2)	回転ナテ/回転ナテ	灰白/灰白	1ミ以下長・黒・石	1/6	貼付高台. 釉: 淡緑灰白
2024	L385	B-5b	SD385229(29・30坪境)	灰釉	椀	(7.0)	(2.3)	回転ナテ/回転ナテ	緑灰/灰白	2ミ以下長・黒	1/4	
2025	L385	B-5b	SD385229(29・30坪境)	灰釉	皿	14.6	2.6	回転ナテ/回転ナテ	半透明/灰白	1ミ以下長・黒	1/3	貼付高台(II期古-中)
2026	L385	B-5b	SD385229(29・30坪境)	灰釉	壺	—	—	回転ナテ/回転ナテ・ クスリ	淡灰白/淡灰白	1ミ以下長・黒	破片	破片
2027	L385	B-5b	SD385229(29・30坪境)	灰釉	甕	—	—	ナテ/タタキ	暗灰/深緑茶	1ミ以下長	破片	釉: 深緑茶. 猿投
2028	L385	B-5b	SD385229(29・30坪境)	灰釉	甕	—	—	ナテ/タタキ	暗灰洪茶/暗灰洪茶	2ミ以下長	破片	釉: 洪緑茶. 猿投
2029	L399	B-6	SD330002(20坪)	緑釉須	椀	(6.4)	(1.65)	回転ナテ/回転ナテ	明灰/明灰	0.2ミ以下黒多量	(2/3)	削出高台 I-w. 硬陶
2030	L399	B-6	SD330002(20坪)	灰釉須	椀	(8.8)	(2.1)	回転ナテ/回転ナテ	明灰/淡灰褐	1ミ以下長	(1/3)	外面底部に墨書?
2031	L399	B-7	SD399515(20坪)	緑釉須	皿?	(6.0)	(1.6)	回転ナテ/回転ナテ・ ミカキ	灰/灰	0.5ミ以下長・石・黒少量	(1/2)	削出高台 I-e. 硬陶. 重焼痕
2032	L399	B-7	村田里20坪内包含層	緑釉須	椀	(8.6)	(2.2)	回転ナテ/ミカキ	灰/灰	1ミ前後長・石	(1/4)	貼付高台 II-w1. 硬陶
2033	L385	B-5b	SD385266(29.30坪)	灰釉	椀	(6.5)	(1.1)	回転ナテ/回転ナテ	灰白/灰白	1ミ以下長	(1/2)	釉: 淡明緑灰
2034	L385	B-8	SE385543(29坪)	土師器	皿	13.7	(2.7)	ナテ・指痕/コナテ・ 指痕	淡褐/淡褐	1.5ミ以下黒・雲	3/8	Aa形態.e手法
2035	L385	B-5b	SE385543(29坪)	緑釉須	椀	17.9	6.2	ミカキ/ミカキ	淡明褐/淡明褐	砂粒微量	1/4	削出高台 I-j3. 軟陶. 重焼痕
2036	L385	B-5b	SE385544(29坪)	土師器	甕A	33.6	(17.6)	ナテ後ハウ. コナテ/コナテ・ ハウ後指痕・ナテ	淡茶灰-明茶灰/明黒茶褐	1.5ミ以下長・石・チャ多量	1/4	外面に繊維状に炭化したス
2037	L385	B-5b	SE385544(29坪)	土師器	羽釜	26.4	(19.6)	ナテ・コナテ/コナテ・ ハウ	淡黒褐-暗茶褐/淡黒褐	4ミ以下長・石・チャ	1/2	外面にス. 内面使用による摩滅
2038	L385	B-5b	SE385544(29坪)	須恵器	鉢	29.9	12.0	回転ナテ・コナテ/コナテ・ 回転ナテ	淡灰/淡灰	2.5ミ以下長・石・チャ	5/8	内外面に黒斑
2039	L385	B-5b	SE385519(30坪)	土師器	甕	17.7	(7.2)	クスリ. ナテ/ナテ・ クスリ	淡橙褐/淡灰褐. 濁茶灰	3ミ以下長・石・チャ・ク	1/4	
2040	L385	B-5b	SE385519(30坪)	黒色	椀	15.3	5.5	ミカキ. コナテ/コナテ・ ミカキ. 高台貼付	黒鉛/黒鉛	0.5ミ以下長・雲	5/8	
2041	L385	B-5b	SE385519(30坪)	灰釉	椀	13.4	5.7	回転ナテ/回転ナテ・ コナテ・底部糸切り	淡灰/淡灰	0.5ミ長・石・灰色粒子?	1/1	つけかけ施釉. 釉: 濁緑灰
2042	L303	B-1a	村田里30坪内包含層	緑釉須	椀	(8.9)	(1.9)	回転ナテ/回転ナテ	暗青灰/暗青灰	砂粒微量	(1/8)	貼付高台 II-w1. 硬陶

出土土器観察表

2043	L385	B-5b	村田里30坪内 包含層	緑釉 須	皿	(6.2)	(1.3)	ヘラス <sup>*</sup> リ/回転 ケス <sup>*</sup> リ	淡灰白/淡 灰白	細粒 <sup>+</sup> ・長	(1/1)	削出高台 I - j3. 硬陶
2044	L303	B-1a	村田里30坪内 包含層	緑釉 須	椀	(7.1)	(1.9)	回転 <sup>+</sup> テ <sup>*</sup> /回転 テ <sup>*</sup>	淡灰/淡灰	砂粒微量	(1/5)	削出高台 I - j1. 硬陶
2045	L385	B-5b	村田里30坪内 包含層	緑釉	椀	—	(1.7)	回転 <sup>+</sup> テ <sup>*</sup> /回転 テ <sup>*</sup>	淡黄白/淡 桃紅. 淡黄 白	2ミ以下石・ <sup>+</sup> ・長	(1/1)	外面沈線2 本. 釉: 洪深 緑. 軟陶. 貼 付高台 II -w
2046	L303	B-1a	村田里30坪内 包含層	緑釉	椀	(7.0)	(1.4)	回転 <sup>+</sup> テ <sup>*</sup> /回転 テ <sup>*</sup>	淡黄灰/淡 黄灰	0.5ミ以下 長・石	(1/10)	貼付高台 II - w1. 釉: 淡緑. 硬陶
2047	L337	B-5a	村田里30坪内 包含層	緑釉	椀	(7.0)	(2.2)	テ <sup>*</sup>	白灰/淡黄 褐	1ミ前後長・ <sup>+</sup>	(1/2)	貼付高台 II - s. 硬陶
2048	L303	B-1a	村田里30坪内 包含層	緑釉	椀	(5.45)	(1.4)	回転 <sup>+</sup> テ <sup>*</sup> /回転 テ <sup>*</sup>	淡灰/淡灰	0.5ミ以下 長少量	(7/8)	糸切高台 III - i. 釉: 淡緑
2049	L303	B-1a	村田里30坪内 包含層	緑釉	椀	(6.3)	(1.7)	回転 <sup>+</sup> テ <sup>*</sup> /回転 テ <sup>*</sup>	淡青灰/淡 青灰	1.5ミ以下 長・石・黒	(1/1)	削出高台 I - j3. 釉: 濁黄 灰. 硬陶
2050	L337	B-5a	村田里30坪内 包含層	緑釉	椀	(8.4)	(1.75)	テ <sup>*</sup> /テ <sup>*</sup>	灰白-淡橙 白/淡橙白	1ミ以下白	(1/2)	削出高台 I - j3. 釉: 濁黄. 軟陶
2051	L303	B-1a	村田里30坪内 包含層	緑釉	椀	(6.6)	(1.5)	回転 <sup>+</sup> テ <sup>*</sup> /回転 テ <sup>*</sup>	淡灰/淡灰	砂粒殆どな し	(1/4)	高台 II -s. 釉: 淡緑. 猿 投
2052	L337	B-5a	村田里30坪内 包含層	緑釉	皿	10.8	1.95	回転 <sup>+</sup> テ <sup>*</sup> /回転 テ <sup>*</sup> . 高台貼付	緑/緑	砂粒微量	2/5	釉: 鮮緑. 東 海系緑釉(美 濃・尾北)二 川窯
2053	L337	B-5a	村田里30坪内 包含層	緑釉	皿	—	(1.6)	テ <sup>*</sup> /テ <sup>*</sup>	白淡灰褐/ 淡灰褐	0.4ミ以下 <sup>+</sup>	(1/6)	高台 II -w1. 釉: 淡緑. 硬
2054	L303	B-1a	村田里30坪内 包含層	灰釉	椀	(6.2)	(1.4)	回転 <sup>+</sup> テ <sup>*</sup> /回転 テ <sup>*</sup>	乳灰/乳灰	0.4ミ以下 長少量	1/10	
2055	L303	B-1a	村田里30坪内 包含層	灰釉	椀	(6.9)	(1.6)	回転 <sup>+</sup> テ <sup>*</sup> /回転 テ <sup>*</sup>	淡灰/淡灰	砂粒微量	(1/4)	底部墨痕. 東 濃(光ヶ丘 II 新~ III)
2056	L337	B-5a	村田里30坪内 包含層	須恵 器	壺A	11.1	(14.2)	回転 <sup>+</sup> テ <sup>*</sup> /回転 テ <sup>*</sup> . ヘラス <sup>*</sup> リ	淡黄灰/淡 黄灰	ミ以下長・ 黒	1/2	粘土紐巻き 上げ?
2057	L303	B-1a	村田里30坪内 包含層	須恵 器	甕	19.7	(6.7)	タキ. 回転 <sup>+</sup> テ <sup>*</sup> / 回転 <sup>+</sup> テ <sup>*</sup> . タキ	青灰/淡灰	1-5ミ黒	1/12	
2058	L303	B-1a	村田里30坪内 包含層	灰釉 須	皿	13.8	3.1	ケス <sup>*</sup> リ後 <sup>+</sup> テ <sup>*</sup> /ケス <sup>*</sup> リ後 <sup>+</sup> テ <sup>*</sup>	淡灰/淡灰	砂粒微量	4/5	内面/外面底 部に墨痕
2059	L336	A-1	村田里30(19) 坪内包含層	灰釉?	椀	(8.6)	(2.3)	回転 <sup>+</sup> テ <sup>*</sup> /回転 テ <sup>*</sup> . ヘラス <sup>*</sup> リ	灰白/灰白	砂粒なし	(1/1)	貼付高台. 墨 書「智富」. 美濃(II中~ 新)
2060	L337	B-5a	村田里30坪内 包含層	須恵 器	壺	(16.0)	(6.9)	回転 <sup>+</sup> テ <sup>*</sup> /回転 テ <sup>*</sup>	灰白/濁灰 緑	2ミ以下白・ 黒	(1/4)	貼付高台
2061	L334	B-3	村田里31坪内 包含層	須恵 器	椀	—	(1.9)	回転 <sup>+</sup> テ <sup>*</sup> /回転 テ <sup>*</sup>	淡灰白/淡 灰褐	1ミ以下長・ <sup>+</sup>	(1/2)	三角高台. 自 然釉
2062	L334	B-3	村田里31坪内 包含層	緑釉	椀	(6.0)	(1.2)	回転 <sup>+</sup> テ <sup>*</sup> /回転 テ <sup>*</sup>	青灰白/青 灰白	1ミ以下長・ <sup>+</sup>	(3/4)	削出高台 I - w. 硬陶
2063	L334	B-3	村田里31坪内 包含層	緑釉	椀	(6.4)	(1.65)	回転 <sup>+</sup> テ <sup>*</sup> /回転 テ <sup>*</sup>	暗青灰/暗 青灰	1ミ以下長	(1/6)	削出高台 I - j1. 釉: 濁黄 緑. 硬陶
2064	L334	B-3	村田里31坪内 包含層	緑釉	椀	(8.4)	(2.6)	回転 <sup>+</sup> テ <sup>*</sup> /回転 テ <sup>*</sup>	灰/灰	砂粒微量	(1/4)	貼付高台 II - y1. 釉: 暗緑. 硬陶
2065	L334	B-3	村田里32坪内 包含層	緑釉 須	椀	(6.0)	(1.95)	回転 <sup>+</sup> テ <sup>*</sup> /回転 テ <sup>*</sup>	灰白/灰白	1ミ前後黒	(1/3)	削出高台 I - w. 全面にス. 硬陶
2066	L334	B-3	村田里32坪内 包含層	灰釉 須	椀	—	(3.0)	回転 <sup>+</sup> テ <sup>*</sup> /回転 テ <sup>*</sup>	灰白-褐/ 明灰白	2ミ以下長	(1/5)	貼付高台
2067	L334	B-3	村田里32坪内 包含層	須恵 器	椀	(7.4)	(2.35)	回転 <sup>+</sup> テ <sup>*</sup> /回転 テ <sup>*</sup>	暗灰/暗灰	1.5ミ以下 長・3ミ以下 黒	(1/5)	貼付高台. 回 転 <sup>+</sup> テ <sup>*</sup> 後 <sup>+</sup> 調 整



2068	L334	B-3	村田里32坪内 包含層	灰釉	皿	(6.8)	(1.25)	回転ナテ <sup>+</sup> /回転ナ テ <sup>+</sup>	明灰白/明 灰白	砂粒微量	(1/4)	貼付高台
2069	L334	B-3	村田里32坪内 包含層	須恵 器	壺M?	(5.7)	(1.8)	回転ナテ <sup>+</sup> /回転ナ テ <sup>+</sup> . 高台貼付	暗灰/暗灰	1ミ以下長	(1/1)	
2070	L334	B-3	村田里32坪内 包含層	須恵 器	器台	(15.2)	(4.8)	ナテ <sup>+</sup> . 回転ナテ <sup>+</sup> / 回転ナテ <sup>+</sup>	淡灰/淡灰	3.5ミ以下 長・チャ・頁	1/16	
2071	L333	B-4	村田里20坪内 包含層	青磁	碗?	17.2	(2.8)	不明/ナテ <sup>+</sup>	淡灰/淡灰	砂粒微量	1/24	釉:淡緑灰
2072	L363	A-6b	A6bSK44	土師 器	皿	5.0	1.1	指痕/不明	淡橙褐	砂粒微量	1/1	
2073	L385	B-8	B8SD59	土師 器	皿	7.5	1.1	ナテ <sup>+</sup> /ナテ <sup>+</sup>	淡桃褐	長・石・赤色 斑粒・雲	1/2	Db形態
2074	L384	A-5	A5SD18	土師 器	皿	7.9	0.9	ヨコナテ <sup>+</sup> /ヨコナテ <sup>+</sup>	淡黄褐	1ミ前後石	1/3	Db形態
2075	L303	B-1a	村田里30坪内 包含層	瓦器	皿	8.8	1.25	ナテ <sup>+</sup> /ヨコナテ <sup>+</sup>	灰白	砂粒微量	1/4	
2076	L384	A-5	A5SD75	瓦器	皿	9.35	1.8	回転ナテ <sup>+</sup> 後ナテ <sup>+</sup> / ナテ <sup>+</sup>	黒灰褐	砂粒微量	9/10	布で仕上?
2077	L385	B-8	B8SD315	瓦質 土器	鍋	23.8	(8.3)	ヨコナテ <sup>+</sup> /ヨコ方向ナ テ <sup>+</sup> 押.ヨコナテ <sup>+</sup>	淡黄褐~ 濃灰	1ミ以下長・ 石	1/4	コケ <sup>+</sup> ・ス
2078	L315	B-2a	村田里20坪内 包含層	土師 器	土錘	2.7	(4.8)	不明/不明	肌/灰黒	1ミ以下長・ 石・カサ	1/1	コケ <sup>+</sup>
2079	L385	B-5b	B5bSK101	土製 品	羽口	10.9	(10.3)	不明/不明	肌褐/灰黒	4ミ以下長・ 石・チャ	破片	ガラス化溶融 物.白色の還 元帯
2080	L336	A-1	A1P176	瓦器	碗	13.2	3.35	暗.ミカ <sup>+</sup> キ/指痕	黒灰白/黒 灰白	砂粒微量	1/3	楠葉IV-2
2081	L384	A-5	A5SD58	瓦器	碗	12.4	3.8	暗/ヨコナテ <sup>+</sup> .ナテ <sup>+</sup>	黒灰/黒灰	砂粒微量	4/5	楠葉IV-2
2082	L362	A-6a	A6aSD18	瓦器	碗	11.9	(3.5)	不明/ヨコナテ <sup>+</sup>	淡黒灰/淡 黒灰	3ミ小石・ 1.5ミ以下 粗粒砂	1/4	楠葉IV-1?
2083	L303	B-1a	B1aSD220	瓦器	碗	11.6	(2.4)	不明/不明	灰/灰	砂粒微量	1/10	楠葉IV-1?
2084	L385	B-8	B8SD71	瓦器	碗	12.6	3.6	不明/ヨコナテ <sup>+</sup>	黒灰/灰白	砂粒微量	3/8	楠葉IV-1~2
2085	L334	B-3	村田里29坪内 包含層	瓦器	碗	13.0	(3.8)	不明/指痕	灰白-黒灰/ 灰白-黒 灰	2.5ミ以下 長・石	1/4	楠葉IV-2?
2086	L330	A-3	A3SD28	瓦器	碗	10.6	2.6	不明/不明	黒灰/黒灰	砂粒微量	1/2	楠葉IV-1
2087	L362	A-6a	A6aSD30	瓦器	碗	(4.8)	3.22	不明/不明	灰白/灰白	2ミ以下長・ チャ・ク	(1/4)	楠葉IV-1~2
2088	L330	A-3	A3SD41	瓦器	碗	11.0	(3.0)	ミカ <sup>+</sup> キ/ヨコナテ <sup>+</sup> .指 痕	黒灰/黒灰	砂粒微量	4/5	楠葉IV-1
2089	L362	A-6a	A6aSD18	瓦器	碗	12.0	(3.0)	ヨコナテ <sup>+</sup> /ヨコナテ <sup>+</sup>	灰褐/灰褐	砂粒微量	1/6	楠葉III期後 半~IV期
2090	L333	B-4b	B4bSD25	瓦器	碗	11.6	4.1	ミカ <sup>+</sup> キ/ミカ <sup>+</sup> キ.ヨコ ナテ <sup>+</sup> .指痕	黒灰/黒灰	1ミ以下粗 粒砂	1/1	楠葉IV-1
2091	L384	A-5	A5SD37	瓦器	碗	11.4	3.6	不明/ヨコナテ <sup>+</sup> .指 痕	灰白/黒灰	砂粒微量	1/4	楠葉IV-1
2092	L363	A-6b	A6bSD10	瓦器	碗	12.0	3.7	ナテ <sup>+</sup> 後暗.ヨコナテ <sup>+</sup> / ヨコナテ <sup>+</sup> .指痕	黒灰/黒灰	砂粒微量	1/2	楠葉IV-1
2093	L363	A-6b	A6bSD36	瓦器	碗	13.0	(3.1)	ミカ <sup>+</sup> キ.ヨコナテ <sup>+</sup> /ヨ コナテ <sup>+</sup> .指痕	黒-灰/黒	1ミ以下長・ 石	1/5	楠葉IV-1
2094	L334	B-3	B3SD26	瓦器	碗	12.6	3.7	ミカ <sup>+</sup> キ.ヨコナテ <sup>+</sup> /ヨ コナテ <sup>+</sup> .指痕	暗黒灰-暗 灰/暗灰	1ミ以下石・ 雲	1/2	楠葉IV-1
2095	L329	A-2	村田里19坪内 包含層	瓦器	碗	12.2	3.65	ミカ <sup>+</sup> キ.ヨコナテ <sup>+</sup> /ヨ コナテ <sup>+</sup> .指痕	暗灰/暗灰	2ミ前後長・ 石少量	1/3	楠葉III-3~ IV-1
2096	L330	A-3	A3SD06	瓦器	碗	12.0	3.65	不明/不明	淡灰-黒灰/ 黒灰	1-3ミ前後 粗砂多量	1/4	楠葉IV-1
2097	L333	B-4b	村田里29坪内 包含層	瓦器	碗	12.8	3.6	不明/指痕後ナ テ <sup>+</sup>	黒灰-灰白/ 黒灰	1.5ミ以下 長・石	7/10	楠葉III-3~ IV-1
2098	L399	B-6	B6SK21	瓦器	碗	12.6	3.95	回転ナテ <sup>+</sup> .ヨコナテ <sup>+</sup> / 回転ナテ <sup>+</sup>	灰白-暗灰/ 暗灰-灰	1ミ以下長・ 石・黒	9/10	楠葉III-3~ IV-1

出土土器観察表

2099	L361	A-4	A4SD02	瓦器	椀	11.6	3.3	不明/不明	暗灰/暗灰	1ミリ前後長・石多量	1/8	楠葉Ⅲ-3~Ⅳ-1?
2100	L361	A-4	A4SD18	瓦器	椀	12.8	3.8	ミカキ、ヨコナテ/ヨコナテ、指痕	暗灰/暗灰	0.5-2.5ミリ石	1/3	楠葉Ⅲ-3~Ⅳ-1、全体に歪み
2101	L384	A-5	A5SD10	瓦器	椀	11.8	(3.8)	ヨコナテ後ミカキ/ヨコナテ、指痕	銀黒/銀黒	砂粒微量	1/8	楠葉Ⅲ-3
2102	L361	A-4	A4SX165	瓦器	椀	12.6	(3.5)	不明/ヨコナテ、不明	灰白褐/淡黄白褐	1ミリ以下長	1/5	楠葉Ⅲ期後半以降
2103	L363	A-6b	村田里18坪内包含層	瓦器	椀	12.4	4.0	ナテ後暗/ヨコナテ、指痕	黒灰/黒灰	砂粒微量	3/4	楠葉Ⅲ-3
2104	L363	A-6b	A6bSD52	瓦器	椀	12.8	4.0	ナテ後暗/ヨコナテ、指痕	黒灰/黒灰	砂粒微量	1/8	楠葉Ⅲ-3?
2105	L361	A-4	A4SD15	瓦器	椀	12.4	4.5	ミカキ/ナテ	黒灰/黒灰	0.5ミリ以下長	1/8	楠葉Ⅲ-3?
2106	L303	B-1a	村田里30坪内包含層	瓦器	椀	12.1	(3.3)	ヨコナテ後ミカキ/ヨコナテ	暗黒灰/暗黒灰	砂粒微量	1/8	楠葉Ⅲ-3?
2107	L362	A-6a	A6aSD26	瓦器	椀	13.0	4.0	ミカキ、暗、ヨコナテ/ヨコナテ、ミカキ	暗灰/灰白	砂粒微量	1/12	楠葉Ⅲ-3
2108	L384	A-5	A5SD53	瓦器	椀	13.6	(3.6)	ナテ後暗/ヨコナテ	黒灰/黒灰	砂粒微量	1/5	楠葉Ⅲ-3
2109	L399	B-7	B7SD30	瓦器	椀	13.0	(3.65)	ヨコナテ、指痕後ミカキ/ヨコナテ、指痕後回転ナテ	黒灰/黒灰	3ミリ以下長・チャ・雲	1/4	楠葉Ⅲ-3
2110	L334	B-3	B3SD20	瓦器	椀	13.6	(3.3)	ミカキ/ヨコナテ	灰-暗灰/暗黄灰	1.5ミリ以下長・石	1/6	楠葉Ⅲ-3~Ⅳ-1
2111	L362	A-6a	村田里18坪内包含層	瓦器	椀	13.0	4.3	ミカキ/ヨコナテ、ミカキ	?	2ミリ以下長・石	1/5	楠葉Ⅲ-3
2112	L362	A-6a	A6aSD25	瓦器	椀	13.8	(2.6)	ミカキ/不明	黒灰褐/灰白褐	1.5ミリ以下長・石	1/6	楠葉Ⅲ以降
2113	L384	A-5	A5SD63	瓦器	椀	13.2	4.4	ミカキ/ヨコナテ、ナテ	黒灰/黒灰	砂粒微量	?	楠葉Ⅲ-2~3
2114	L363	A-6b	村田里18坪内包含層	瓦器	椀	12.5	4.0	ミカキ、暗、ヨコナテ/指痕	暗灰/暗灰	1ミリ以下雲	1/1	楠葉Ⅲ-3
2115	L362	A-6a	A6aSD22	瓦器	椀	12.4	3.8	ミカキ/ヨコナテ	暗黒灰/淡灰	砂粒微量	1/3	楠葉Ⅲ-3?
2116	L384	A-5	A5SD68	瓦器	椀	15.4	(3.8)	ミカキ、不明/ヨコナテ、ナテ?	灰白/灰白	砂粒微量	1/8	楠葉Ⅲ
2117	L362	A-6a	A6aSD22	瓦器	椀	13.6	4.2	ミカキ/ヨコナテ、指痕	黒灰/黒灰	砂粒微量	1/4	楠葉Ⅲ-2
2118	L385	B-5b	B5bSD264	瓦器	椀	14.3	4.5	ナテ後暗/ヨコナテ、指痕	黒灰/黒灰	砂粒微量	1/2	楠葉Ⅲ-2~3
2119	L385	B-8	B8SD31	瓦器	椀	13.7	3.7	ヘラミカキ/ヨコナテ、指痕	黒灰/黒灰	砂粒微量	3/4	楠葉Ⅲ-1
2120	L384	A-5	A5SD03	瓦器	椀	14.4	(4.1)	ミカキ/ヨコナテ、指痕	黒灰/黒灰	砂粒微量	1/5	楠葉Ⅲ-1
2121	L337	B-5a	村田里30坪内包含層	瓦器	椀	13.6	5.6	ミカキ?不明/ヨコナテ、指痕	暗灰/暗灰	砂粒微量	7/10	楠葉Ⅲ-1~2
2122	L337	B-5a	SK337006	瓦器	椀	14.4	(3.4)	ナテ後ミカキ/ヨコナテ、ナテ後ミカキ	暗灰/暗灰	砂粒微量	1/8	楠葉Ⅲ-3
2123	L337	B-5a	村田里30坪内包含層	瓦器	椀	15.4	(4.3)	不明/不明	黒灰/黒灰	砂粒微量	1/4	楠葉Ⅱ
2124	L303	B-1a	B1aSD202	瓦器	椀	14.4	4.8	ミカキ?/ミカキ?	黒灰/黒灰	砂粒微量	1/4	楠葉Ⅲ-1
2125	L384	A-5	A5SD57	瓦器	椀	14.2	4.9	ミカキ?ヨコナテ/不明	黒灰/黒灰	砂粒微量	7/10	楠葉Ⅱ-3~Ⅲ-1
2126	L337	B-5a	SK337006	瓦器	椀	14.4	(3.7)	ミカキ、ヨコナテ/ヨコナテ、ミカキ、指痕	黒灰/黒灰	砂粒微量	1/10	楠葉Ⅱ-2
2127	L337	B-5a	SK337006	瓦器	椀	14.3	5.0	暗、ミカキ/ヨコナテ、ミカキ	淡黒褐/黒褐	砂粒微量	1/1	楠葉Ⅱ-2
2128	L399	B-6	B6P86	瓦器	椀	15.0	(4.9)	ミカキ/指痕後ミカキ	黒灰/黒灰	0.5ミリ以下雲	1/4	楠葉Ⅱ-1
2129	L303	B-1a	村田里30坪内包含層	瓦器	椀	14.0	(4.3)	暗/ヨコナテ後暗、ミカキ	銀灰/銀灰	砂粒微量	1/8	楠葉Ⅱ-1~2

2130	L385	B-5b	SE385544	瓦器	椀	15.0	6.5	ナテ <sup>テ</sup> 後ミガキ.ヨコナ テ <sup>テ</sup> /ヨコナテ <sup>テ</sup> .ナテ <sup>テ</sup> 後ミガキ	明淡灰/暗 鉛	砂粒微量	1/4	楠葉 I-3
2131	L385	B-5b	SE385544	瓦器	椀	16.2	(4.4)	ナテ <sup>テ</sup> 後ミガキ.ヨコナ テ <sup>テ</sup> /ヨコナテ <sup>テ</sup> .ナテ <sup>テ</sup> 後ミガキ	白濁灰/暗 鉛	砂粒微量	1/8	楠葉 I-3

土器観察表では、肉眼観察によって推定された造岩鉱物の名称を略称して記載した(「石」(石英)・「長」(長石)・「珩」(チャート)・「雲」(雲母)・「角」(角閃石)・「ク」(クサリ礫)・「ケツ」(頁岩)・「赤」(赤色斑粒)・「黒」(不明黒色粒)など)。また、「〇〇土器」については、「土器」を省略し「〇〇」のみ記した。器種「緑釉須」・「灰釉須」は、それぞれ、緑釉型・灰釉型の須恵器(無釉陶器)を指す。

備考に記載した律令期土器の器種名および調整手法については以下の文献を参考として概ね準拠した。  
小笠原・西・吉田1976、田辺・安田・巽1982、百瀬1986

また、土師器の口縁部端部の細分形態については長岡京左京第120次調査分類(秋山他1986)、須恵器の形態分類については長岡京左京第196次調査分類に準拠した(國下・秋山1992)。平安時代緑釉陶器の底部形態については、高橋1995、中世瓦器編年については、尾上・森島・近江1995を参考とした。

第10表 出土木器観察表

番号	地区	出土遺構	種類	樹種大別	長さ (残存)	幅 (残存)	径 (残存)	高さ (残存)	厚さ (残存)	備考(単位; cm)
1	B-5	SR303016	直柄広鋏	広葉樹	(14.4)	(6.2)			2.4	泥除装着装置
2	B-3	SR303016	直柄広鋏	広葉樹	(20.6)	(14.3)			1.6	復元幅18.8
3	B-3	SR303016	直柄広鋏	広葉樹	(11.8)	(6.6)			3.1	泥除装着装置
4	B-3	SR303016	直柄鋏	広葉樹	(9.8)	(4.3)			2.5	舟形隆起のみ残存
5	B-3	SR303016	直柄広鋏	広葉樹	(10.0)	(11.6)			3.6	泥除装着装置
6	B-5	SR303016	直柄鋏	広葉樹	(18.4)	(4.4)			3.3	舟形隆起のみ残存か
7	B-5	SR303016	直柄鋏	広葉樹	(20.4)	(5.0)				狭鋏か. 泥除装着装置痕の突起有
8	B-5	SR303016	直柄広鋏	広葉樹	(20.4)	(14.0+ 4.3)			0.7+0.5	復元幅肩で18.0舟形突起離落?
9	B-5	SR303016	直柄鋏か	広葉樹	(23.4)	(8.9)			0.95	
10	B-5	SR303016	直柄狭鋏か	広葉樹	(17.1)	(6.1)			1.9	
11	B-3	SR303016	直柄狭鋏か	広葉樹	(15.3)	(5.0)			3.3	方孔
12	B-3	SR303016	直柄狭鋏	広葉樹	(22.9)	8.5			2.2	方孔
13	B-3	SR303016	直柄又鋏	広葉樹	15.0	(9.9)			2.5	抉り丸. 3歯. 復元幅19.1
14	B-5	SR303016	直柄又鋏	広葉樹	21.8	(15.2)			3.6	5歯. 復元幅18.4
15	B-5	SR303016	直柄又鋏	広葉樹	(13.4)	(12.5)			2.2	5歯か. 方孔
16	B-3	SR303016	直柄又鋏	広葉樹	(9.4)	(6.9)			3.0	4歯. 方孔
17	B-3	SR303016	直柄又鋏	広葉樹	18.1	(17.4)			2.2	4歯. 復元幅20.0. 方孔
18	B-3	SR303016	泥除	広葉樹	11.8	20.5			3.6	半月形
19	B-3	SR303016	泥除	広葉樹	14.2	16.9			2.1	
20	B-5	SR303016	曲柄狭鋏	広葉樹	(22.1)	(8.7)			1.47	
21	B-5	SR303016	曲柄二又鋏		(36.8)	(5.5)			1.4	復元幅10.9
22	B-5	SR303016	曲柄二又鋏	広葉樹	(28.7)	(5.0)			1.3	復元幅10.0
23	B-3	SR303016	曲柄二又鋏	広葉樹	(18.6)	(4.5)			1.2	
24	B-5	SR303016	曲柄二又鋏	広葉樹	(25.0)	(4.5)			1.8	復元幅9.0. 緊縛痕有
25	B-5	SR303016	組合せ鋏	広葉樹	23.6	(9.0)				推定幅17.2
26	B-3	SR303016	組合せ鋏	広葉樹	(24.0)	18.1			0.8	
27	B-5	SR303016	組合せ鋏	広葉樹	21.4	(18.5)			1.0	復元幅19.7
28	B-5	SR303016	一木鋏	広葉樹	42.1	(10.7)			2.2	復元幅12.4
29	B-5	SR303016	掘棒	広葉樹	(27.2)	6.4			2.4	權?
30	B-5	SR303016	組合式柄	広葉樹	(16.6)	7.6			2.8	鉄刃装着溝有
31	B-5	SR303016	農具曲柄	広葉樹	(31.0)	(12.6)			2.4	膝柄. 台長16.4. 台幅2.8. 柄幅3.3
32	B-5	SR303016	斧柄未製品		(19.2)	(16.2)				農具柄未製品か. 台長18.0. 台幅4.0
33	B-3	SR303016	斧膝柄	広葉樹	(37.4)	(7.7)			4.4	柄幅2.9
34	B-5	SR303016	タモ		(28.6)	(15.4)				基端孔有. 杵に樹皮遺存
35	B-3	SR303016	高杯(杯・脚 結合部)	軸:広, ほ ぞ:針	(4.4)	(4.0)				ホゾ結合に更木釘使用(地獄ホゾ)
36	B-5	SR303016	高杯	広葉樹		(3.8)	26.4	(8.8)		1/8程度残存
37	B-3	SR303016	高杯	広葉樹			38.6	(1.5)		1/16程度残存
38	B-3	SR303016	高杯	広葉樹			25.6	(5.2)		外周1/3程度残存
39	B-5	SR303016	蓋	広葉樹		(13.1)	5.3			推定径16.2. 幅2.8の加工痕
40	B-3	SR303016	槽脚部	広葉樹	(14.3)	(4.3)			3.8	
41	B-5	SR303016	脚付槽	広葉樹	(12.6)			(3.6)		脚部分
42	B-3・ 5	SR303016	盤	広葉樹	(20.7)	(11.4)			(1.0)	
43	B-5	SR303016	盤か	広葉樹	(10.2)			(2.6)		

44	B-3	SR303016	脚付盤	広葉樹	(23.8)	(8.6)			(3.9)	
45	B-3	SR303016	盤	広葉樹	(33.4)	(22.5)		(6.0)		
46	B-5	SR303016	槽	針葉樹	30.4	(5.2)				
47	B-3	SR303016	横杓子	広葉樹	(12.1)	(8.2)			5.3	
48	B-3	SR303016	縦杓子				21.0	(8.8)		
49	B-3	SR303016	横杓子	広葉樹	(4.6)	(7.0)				
50	B-3	SR303016	杓子柄基部		(6.0)	(6.6)			2.3	縦杓子?
51	B-5	SR303016	白				(11.5)		3.8	小型白
52	B-3	SR303016	白	広葉樹			13.0		(8.7)	小型白未製品
53	B-3	SR303016	白	広葉樹			口径 14.0	8.5		小型白. 1/4程度残存. 底径8.0. 外面 に手斧刃線痕
54	B-3	SR303016	白	広葉樹	(7.2)	(9.3)				小型白. 推定底径12.6
55	B-5	SR303016	匙		(17.0)	(4.2)				
56	B-5	SR303016	砧もしくは 小型杵	針葉樹	14.2	2.3				先端未仕上. 刀子刃線痕?
57	B-5	SR303016	用途不明品	広葉樹	(12.3)	3.4			1.9	
58	B-5	SR303016	用途不明品		(19.2)	3.3			1.0	
59	B-3	SR303016	用途不明品	針葉樹	(17.9)	(3.4)			1.1	復元幅4.1. 曲柄鍬身頭部?
60	B-3	SR303016	柄	針葉樹	(18.2)	5.2			2.7	
61	B-5	SR303016	田下駄	針葉樹	(22.7)	12.5			1.1	
62	B-3	SR303016	田下駄	針葉樹	(14.9)	7.5			1.3	裏面に火を受けた痕跡
63	B-3	SR303016	田下駄	針葉樹	(16.7)	(10.6)			0.9	
64	B-5	SR303016	板状木製品	針葉樹	29.8	7.6			1.5	
65	B-5	SR303016	有孔板状木 製品	針葉樹	23.5	5.4			0.9	
66	B-5	SR303016		針葉樹	(16.0)	6.0			0.95	
67	B-5	SR303016	部材	針葉樹	(22.0)	3.6			2.0	
68	B-5	SR303016	部材?	広葉樹	39.0	7.8			7.0	一部に火を受けた痕跡
69	B-3	SR303016	琴か	針葉樹	(52.1)	4.8			1.2	刻線有
70	B-5	SR303016	弓	針葉樹	(49.3)	2.3			1.3	
71	B-5	SR303016	弓?	針葉樹?	(17.4)	3.2			0.5	
72	B-5	SR303016	弓?	針葉樹?	(25.95)	2.1			1.0	
73	B-5	SR303016	弓?	針葉樹?	(16.7)	1.7			0.9	
74	B-5	SR303016	棒状木製品		(17.8)	2.9			2.2	
75	B-5	SR303016	有頭棒状木 製品	広葉樹	(26.2)	2.7			1.75	
76	B-3	SR303016	弓?	針葉樹	108.4	2.3			1.2	
77	B5	SR303016	木戈	広葉樹	(3.9)	(6.0)			1.1	
78	B-3	B地区包 含層	木簡	針葉樹	30.3	2.7			0.3	墨書「九月九日□米□二升里米三升 【四日出来事】」
79	B-3	SR334010	木簡	針葉樹	30.3	2.6			0.25	墨書(不明)
80	B-6	SD330002	木簡	針葉樹	(12.0)	1.9			0.7	墨書「是是是是□□是」 「京京京□京」
81	B-6	SD330002	木簡	針葉樹	(3.9)	(1.7)			0.5	墨書「五十」
82	B-6	SD330002	人形	針葉樹	(10.0)	2.0			0.3	顔面墨書
83	B-6	SD330002	人形? 齋 串?	針葉樹	(6.0)	2.9			0.2	墨痕?
84	B-5b	SD333005	人形	針葉樹	(14.9)	2.3			0.4	
85	B-3	SD333005	人形	針葉樹	(16.9)	2.8			0.3	
86	A-5	SE384092	人形	針葉樹	(26.8)	2.25			0.3	顔面墨書
87	B-3	SD333005	齋串	針葉樹	(10.6)	2.3			0.15	
88	A-5	SE384092	人形? 齋 串?	針葉樹	19.7	2.4			0.2	

## 出土木器観察表

89	A-5	SE384092	人形? 斎串?	針葉樹	(17.3)	3.1			0.2	
90	B-3	SE334007	人形? 斎串?	針葉樹	(16.7)	1.9			0.1	
91	B-4	SD333005	人形? 斎串?	針葉樹	(17.9)	2.4			0.3	
92	B-4	SD333005	人形? 斎串?	針葉樹	(7.2)	2.4			0.2	
93	B-6	SD330002	斎串	針葉樹	(21.35)	1.35			0.55	墨書
94	A-5	SE384092	斎串	針葉樹	38.1	2.0			1.1-1.3	
95	B-3	SE334007	櫛	広葉樹	(1.8)	(3.2)			0.4	
96	B-3	SE334007	櫛	広葉樹	(2.1)	(2.1)				
97	B-3	SE334007	櫛	広葉樹	(1.8)	(1.6)				
98	B-3	SE334007	櫛	広葉樹	3.9	(4.9)			0.8	
99	B-3	SR334010	小型槽	針葉樹	8.2	4.5		2.3		
100	B-3	SD333005	柄	針葉樹	(8.0)	3.45-2.4			3.0	柄頭部?
101	B-6	SD330002	箸	針葉樹	(7.5)	0.6			0.35	
102	B-6	SD330002	箸	針葉樹	(4.0)	0.6			0.4	
103	B-6	SD330002	箸	針葉樹	(6.95)	0.8			0.75	
104	B-6	B地区包含層	箸	針葉樹	(5.0)	0.6			0.4	
105	B-6	B地区包含層	箸	針葉樹						
106	B-6	B地区包含層	箸	針葉樹	(5.0)	0.45			0.4	
107	B-6	B地区包含層	箸	針葉樹	(6.2)	0.6			0.5	
108	B-6	B地区包含層	箸	針葉樹	(3.4)	0.6			0.6	
109	B-6	B地区包含層	箸	針葉樹	(14.8)	0.85			0.4	
110	B-6	B地区包含層	箸	針葉樹	(22.5)	0.8			0.4	
111	B-6	B地区包含層	箸	針葉樹	(10.1)	0.6			(0.3)	
112	B-6	B地区包含層	箸	針葉樹	(11.6)	0.8			0.6	
113	B-6	B地区包含層	箸	針葉樹	(9.6)	0.9			0.4	
114	B-5b	B地区包含層	椀	広葉樹			9.4	(3.2)		内外面漆塗仕上
115	A-6a	A地区包含層	高台付椀	広葉樹			底径7.0	(5.0)		内外面漆塗仕上
116	B-5b	SD330002	椀	広葉樹					1.5	内外面漆塗仕上
117	B-3	SD333005	曲物	針葉樹			10.4	(5.0)	0.25	底部厚0.7. 曲部~底板に穿孔4. 木釘3. 側板・底板は針葉樹
118	B-5b	SE385544	曲物	針葉樹			14.8	(9.2)		釘孔・留部有
119	B-8	SE385537	曲物	針葉樹			19.7	(4.9)		桜皮の留め
120	B-3	SD333005	曲物	針葉樹			(18.4)	(4.9)		桜皮の紐. 木釘残存
121	B-3	SR303016	蓋	針葉樹	(6.4)	(8.6)			0.4	墨書. 中央部に桜皮残存
122	B-6	SD330002	曲物?	針葉樹			11.6		0.2	底板?. 墨(?) 付着. 木釘残存
123	B-4a	SE333002	曲物	針葉樹			13.0		0.6	底板. 刃物痕. 木釘残存3
124	A-5	SE384092	曲物	針葉樹			15.3		0.9	底板. 木釘残存
125	B-5b	SD333005	曲物	針葉樹			15.9		0.5	底板. 中央部穿孔. 曲物底板を転用か
126	B-8	SD333005	曲物	針葉樹			15.4		0.5	底板
127	B-6	SD330002	曲物	針葉樹	(12.6)	(5.0)			0.8	底板?. 墨(?) 付着. 木釘残存

128	B-3	SD333005	曲物	針葉樹	(13.6)	(4.2)		0.5	底板
129	B-5b	SK385191	曲物	針葉樹	(13.5)	(4.7)		0.8	底板
130	B-5b	SE385544	曲物	針葉樹	28.6	8.1		0.6	底板. 釘孔. 加工痕
131	B-5b	SE385544	曲物	針葉樹	29.6	11.3		0.75	底板. 釘孔. 加工痕
132	B-3	B地区包含層	曲物	針葉樹	32.5	10.5		2.0	底板. 加工面. 貼付面
133	B-3	SD334104	不明木製品	針葉樹	35.8	3.5		0.5	
134	B-8	SD333005	折敷	針葉樹	(53.5)	(19.7)		1.2	蓋板. 奈良時代以前か
135	B-5b	SD333005	折敷	針葉樹	(60.2)	48.1		0.5	底板
136	B-3	SD334009	杓子	針葉樹	17.8	9.2		0.6	
137	A-5	SD330003	打鋏	針葉樹	32.0	19.0		2.1	身. 138と組合せ
138	A-5	SD330003	打鋏	針葉樹	85.0				柄. 137と組合せ. 手ずれ痕有
139	A-6a	SB362116	礎板	スギ?	46.3	18		12.5	芯持角柱材. ホゾ組手加工
140	A-6a	SB362116	礎板	スギ?	29.9	12.3		6.9	芯持柱材. ホゾ
141	A-6a	SB362116	礎板	スギ?	32.5	10.5		10.0	芯持柱材. ホゾ
142	A-6a	SB362116	礎板	スギ?	45.4	16.7		8.0	辺材
143	A-6a	SB362116	礎板	スギ?	30.5	13.1		8.9	芯持柱材. ホゾ. 側面/鉋による仕上げ有
144	A-6a	SB362116	礎板	スギ?	39.2	16.3		6.4	縦斧ではほぼ垂直打割. 底面/鋸(?)の擦痕有
145	A-6a	SB362116	礎板	スギ?	36.9	16.0		11.4	芯去柱材. ホゾ. 鋸で途中まで截断
146	A-6a	SB362116	礎板	スギ?	48.9	17.3		10.8	芯去角柱材. ホゾ
147	A-6a	SB362116	礎板	スギ?	29.7	15.3		4.0	辺材. 縦斧(歯幅約5.0)で垂直打割. 右利き?
148	A-6a	SB362116	礎板	スギ?	30.2	16.6		4.4	辺材
149	A-6a	SB362116	礎板	スギ?	37.6	14.4		14.3	芯持柱材. ホゾ
150	A-6a	SB362116	礎板	スギ?	28.9	13.4		4.3	辺材
151	A-6a	SB362116	礎板	スギ?	29.2	14.3		4.6	辺材. 150と同一の刃こぼれ痕有
152	A-6a	SB362116	礎板	スギ?	25.7	15.5		7.6	芯持柱材. ホゾ
153	A-6a	SB362116	礎板	スギ?	(31.3)	13.7			辺材. ホゾ
154	A-6a	SB362116	礎板	スギ?	(28.3)	11.4		3.9	辺材. 不定方向の斧痕
155	A-6a	SB362116	礎板	スギ?	(29.8)	12.6			辺材
156	A-6a	SB362116	礎板	スギ?	(29.4)	14.1		4.3	辺材. ホゾ. 手斧と鑿使用
157	A-6a	SB362116	礎板	スギ?	31.5	14.1		4.7	辺材. 刃幅4.3の横斧で加工
158	A-6a	SB362116	礎板	スギ?	59.9	14.0		8.9	辺材
159	A-6a	SB362116	礎板	スギ?	35.8	13.5		4.4	辺材
160	A-6a	SB362116	礎板	スギ?	31.2	11.4		10.6	芯持柱材. ホゾ. 斧か刀子を垂直に打込んだ痕跡
161	A-6a	SB362116	礎板	スギ?	(33.7)	12.1		13.4	芯持柱材. ホゾ. 鉋による仕上
162	A-6a	SB362116	礎板	スギ?	37.9	10.8		10.1	芯持柱材. ホゾ. 手斧による剥取痕有
163	A-6a	SB362116	礎板	スギ?	30.4	16.2		13.4	芯去角柱材. ホゾ. 鉋・斧痕. 墨
164	A-6a	SB362116	礎板	スギ?	35.8	13.2		3.9	辺材
165	A-6a	SB362116	礎板	スギ?	33.0	14.5		4.8	辺材. 垂直打ちのホゾ
166	A-6a	SB362116	礎板	スギ?	32.4	12.9		4.3	辺材. ホゾ. 167と接合
167	A-6a	SB362116	礎板	スギ?	30.0	13.3		4.0	辺材. 166と接合
168	A-6a	SB362116	礎板	スギ?	(27.9)	11.4		4.6	芯持柱材. ホゾ
169	A-6a	SB362116	礎板	スギ?	(47.4)	12.5		10.9	芯去角柱材. ホゾ. 手斧痕
170	A-6a	SB362116	礎板	スギ?	(25.3)	16.8		6.9	芯持柱材. ホゾ. 一部炭化
171	A-6a	SB362116	礎板	スギ?	(48.4)	18.1			芯持角柱材. ホゾ
172	A-6a	SB362116	柱根	スギ?	(62.8)	30.2			木口墨打
173	A-6a	SB362116	礎板	スギ?	(39.0)	17.5			芯去角柱材. ホゾ. 173~175接合

出土木器観察表

174	A-6a	SB362116	礎板	スギ?	(41.1)	18.5			15.7	芯去角柱材. 刃幅4.35の手斧痕
175	A-6a	SB362116	礎板	スギ?	(49.1)	18.7				芯去角柱材. ホゾ. 手斧痕
176	A-6b	SE363084	井戸側材	スギ?	125.0	27.6			4.9	井籠凹組手. 墨書「西一」. 焼痕
177	A-6b	SE363084	井戸側材	スギ?	127.2	25.4			4.9	井籠凸組手. 付着物
178	A-6b	SE363084	井戸側材	スギ?	126.0	26.3			5.4	井籠凸組手. 墨書「東三」. 付着物
179	A-6b	SE363084	井戸側材	スギ?	127.4	23.4			3.7	井籠凸組手. 付着物
180	A-6b	SE363084	井戸側材	スギ?	126.6	27.2			4.0	井籠凸組手. 付着物
181	A-6b	SE363084	井戸側材	スギ?	125.9	28.0			5.5	井籠凸組手. 墨書「西口・西南一」. 刻印. 付着物
182	A-6b	SE363084	井戸側材	スギ?	128.3	25.2			3.8	井籠凹組手. 付着物
183	A-6b	SE363084	井戸側材	スギ?	124.9	26.2			5.0	井籠凹組手
184	A-6b	SE363084	井戸側材	スギ?	125.6	23.4			5.0	井籠凹組手. 付着物
185	A-6b	SE363084	井戸側材	スギ?	125.8	26.9			4.3	井籠凹組手. 付着物
186	A-6b	SE363084	井戸側材	スギ?	129.5	28.0			4.4	井籠凸組手
187	A-6b	SE363084	井戸側材	スギ?	127.1	26.1			4.9	井籠凹組手. 墨書「東北二」. 刻印
188	A-6b	SE363084	井戸側材	スギ?	126.3	26.6			4.5	井籠凹組手. 墨書「二」. 付着物
189	A-6b	SE363084	井戸側材	スギ?	123.2	23.0			3.7	井籠凹組手. 付着物
190	A-6b	SE363084	井戸側材	スギ?	123.8	27.8			4.8	井籠凹組手. 付着物
191	A-6b	SE363084	井戸側材	スギ?	123.3	27.4			5.0	井籠凹組手. 墨書「東本」
192	A-6b	SE363084	井戸側材	スギ?	124.5	25.2			5.4	井籠凸組手. 墨書「東西」. 付着物
193	A-6b	SE363084	井戸側材	スギ?	124.9	25.7			4.3	井籠凸組手. 墨書「東重二」. 付着物
194	A-6b	SE363084	井戸側材	スギ?	124.5	23.4			4.6	井籠凸組手. 墨書「東口」
195	A-6b	SE363084	井戸側材	スギ?	126.9	27.5			4.5	井籠凸組手. 付着物
196	B-4	B地区包含層	曲物	針葉樹			38.6	29.3		平安時代初頭か
197	A-5	SE384092	曲物	針葉樹			33.3	22.8		
198	B-8	SE385543	曲物	針葉樹			51.0	40.0		木釘5
199	B-5b	SE385519	曲物	針葉樹			24.3	15.0		
200	B-5b	SE385519	曲物	針葉樹			21.9	(11.2)		
201	B-5b	SE385519	曲物	針葉樹			20.0	14.0		釘穴26. 木釘2
202	B-8	SK385536	曲物	針葉樹			38.7	(19.7)		
203	A-6b	SE363115	曲物	針葉樹			51.0	31.0		
204	A-5	A5SD22	下駄	広葉樹	(13.8)	(4.7)			1.9	
205	A-5	A5SD22	下駄	広葉樹	22.0	9.8			4.1	
206	B-7	SE399421	櫃板	スギ	54.0	42.8			1.6	東側短側板
207	B-7	SE399421	櫃板	スギ	55.4	44.0			1.6	西側短側板
208	B-7	SE399421	櫃板	スギ	90.0	42.6			1.8	北側長側板
209	B-7	SE399421	櫃板	スギ	91.4	36.2			1.8	南側長側板

注：樹種大別は肉眼観察による。



第11表 出土石器観察表

番号	出土地区	遺構番号	器種名	全長(残存長)(cm)	重さ(g)	石材	備考(単位; cm)
1	B-5b	ST385619	打製石鏃	(2.3)	1.12	サヌカイト	基部欠
2	B-5b	ST385619	打製石鏃	2.6	1.22	サヌカイト	
3	B-5b	ST385619	打製石鏃	2.2	1.10	サヌカイト	先端再生
4	B-5b	ST385619	打製石鏃	3.7	2.99	サヌカイト	使用時に先端欠.裏面平坦
5	B-5b	ST385619	打製石鏃	3.4	1.84	サヌカイト	使用時に先端欠
6	B-5b	ST385619	打製石鏃	3.25	1.42	サヌカイト	使用時に先端欠
7	B-5b	ST385619	打製石鏃	2.9	1.99	サヌカイト	使用時に先端・基部欠
8	B-5b	ST385619	打製石鏃	(1.3)	0.33	サヌカイト	中川(1998b)第2・3図11-19.使用時折
9	B-5b	ST385619	打製石鏃	(3.4)	3.46	サヌカイト	中川(1998b)第2・3図11-19.使用時折.11基部欠
10	B-5b	ST385619	打製石鏃	(0.75)	0.12	サヌカイト	使用時に折れた先端.先端もわずかに欠
11	B-5b	ST385619	打製石鏃	(1.7)	0.96	サヌカイト	裏面大きな剥離.先端と基部欠
12	B-5b	ST385619	打製石鏃	(2.0)	0.89	サヌカイト	使用時に先端欠.基部押圧剥離時折
13	B-5b	ST385619	打製石鏃	(1.3)	0.65	サヌカイト	使用時に先端・基部欠
14	B-5b	ST385619	磨製石剣	(2.0)	1.74	粘板岩	使用時折の切先
15	B-5b	ST385619	磨製石剣	(3.7)	5.91	粘板岩	中川(1998b)第2・3図15-16-17使用時折の切先.基部側粗い研磨
16	B-5b	ST385619	磨製石剣	(0.75)	0.04	粘板岩	中川(1998b)第2・3図15-16-17
17	B-5b	ST385619	磨製石剣	(1.2)	0.09	粘板岩	中川(1998b)第2・3図15-16-17
18	B-5b	ST385619	磨製石剣	(5.1)	9.34	粘板岩	中川(1998b)第2・3図3-23.他よりも石質微妙に異なる
19	B-5b	ST385619	磨製石剣	(1.5)	0.19	粘板岩	中川(1998b)第2・3図3-23.
20	B-5b	ST385619	磨製石剣	(5.9)	20.9	粘板岩	中川(1998b)第2・3図4-5-7-25-33.切先ややずんぐり
21	B-5b	ST385619	磨製石剣	(6.6)	17.16	粘板岩	中川(1998b)第2・3図6-16-17-19-26-b
22	B-5b	ST385619	磨製石剣	(1.7)	0.29	粘板岩	中川(1998b)第2・3図6-16-17-19-26-b
23	B-5b	ST385619	磨製石剣	(2.7)	1.43	粘板岩	中川(1998b)第2・3図6-16-17-19-26-b
24	B-5b	ST385619	磨製石剣	(0.8)		粘板岩	中川(1998b)第2・3図6-16-17-19-26-b
25	B-5b	ST385619	磨製石剣	(7.2)	2.13	粘板岩	中川(1998b)第2・3図6-16-17-19-26-b
26	B-5b	ST385619	磨製石剣	(1.8)	2.09	粘板岩	中川(1998b)第2・3図4-5-7-25-33
27	B-5b	ST385619	磨製石剣	(0.75)	0.10	粘板岩	中川(1998b)第2・3図4-5-7-25-33
28	B-5b	ST385619	磨製石剣	(0.9)	0.22	粘板岩	中川(1998b)第2・3図4-5-7-25-33
29	B-5b	ST385619	磨製石剣	(18.4)	149.8	粘板岩	中川(1998b)第2・3図4-5-7-25-33
30	B-5b	ST385619	磨製石剣	(1.6)	0.23	粘板岩	切先
31	B-5b	ST385619	磨製石剣	(0.75)	0.03	粘板岩	切先近く
32	B-5b	ST385619	磨製石剣	(0.6)	0.02	粘板岩	切先
33	B-8	SK385613	石錐破損品	2.0	0.54	サヌカイト	中川(1998a)第3図1
34	B-8	SK385613	石錐破損品	2.2	1.06	サヌカイト	中川(1998a)第3図2

出土石器観察表

35	B-8	SK385613	剥片	3.6	2.02	サヌカイト	中川(1998a)第3図3.打面自然面.縦長剥片
36	B-8	SK385613	剥片	1.9	0.88	サヌカイト	中川(1998a)第3図4.打面自然面.横長剥片
37	B-8	SK385613	剥片	2.6	2.35	サヌカイト	中川(1998a)第3図5.打面自然面.先端折
38	B-8	SK385613	剥片	2.75	2.52	サヌカイト	中川(1998a)第3図6.側面自然面で打撃有
39	B-8	SK385613	剥片頭部	2.15	1.00	サヌカイト	中川(1998a)第3図7
40	B-8	SK385613	二次加工剥片	1.1	0.46	サヌカイト	中川(1998a)第3図8.底面付.横長剥片
41	B-8	SK385613	二次加工剥片	0.6	0.15	サヌカイト	中川(1998a)第3図9.底面付.横長剥片
42	B-8	SK385613	二次加工剥片	0.75	0.19	サヌカイト	中川(1998a)第3図10.底面わずか付.打面付.横長剥片
43	B-8	SK385613	二次加工剥片	1.0	0.29	サヌカイト	中川(1998a)第3図11.底面付.横長剥片
44	B-8	SK385613	二次加工剥片	0.7	0.34	サヌカイト	中川(1998a)第3図12.横長剥片
45	B-8	SK385613	二次加工剥片	0.9	0.26	サヌカイト	中川(1998a)第3図13.横長剥片.底面付
46	B-8	SK385613	二次加工剥片	1.25	0.52	サヌカイト	中川(1998a)第3図14.横長剥片
47	B-8	SK385613	二次加工剥片	0.85	0.39	サヌカイト	中川(1998a)第3図15.底面付.剥片
48	B-8	SK385613	二次加工剥片	1.35	0.45	サヌカイト	中川(1998a)第3図16.横長剥片
49	B-8	SK385613	二次加工剥片	1.1	0.39	サヌカイト	中川(1998a)第3図17.横長剥片
50	B-8	SK385613	二次加工剥片	0.95	0.27	サヌカイト	中川(1998a)第3図18.横長剥片
51	B-8	SK385613	二次加工剥片	1.6	0.54	サヌカイト	中川(1998a)第3図19.横長剥片
52	B-8	SK385613	剥片	1.6	1.09	サヌカイト	中川(1998a)第3図20.背面ヒンジフラクチュア顕著
53	A-1	SK336011	石鏃	3.5	2.59	サヌカイト	
54	A-1	SK336011	打製石剣	(3.5)	4.60	サヌカイト	先端・基部欠
55	A-1	SK336011	打製石剣未成品	5.1	16.99	サヌカイト	側面自然面.片面研磨後側縁打撃
56	A-1	SK336011	磨製石鏃	(3.7)	4.15	粘板岩	有茎柳葉形
57	A-1	SK336011	剥片	3.5	2.49	サヌカイト	
58	A-1	SK336011	剥片	2.3	2.64	サヌカイト	剥離後片面研磨
59	A-1	SK336011	剥片	2.8	1.29	サヌカイト	打面自然面
60	A-1	SK336011	剥片	6.9	12.78	サヌカイト	側縁加工.押圧剥離
61	A-1	SK336011	剥片	4.35	3.34	サヌカイト	
62	A-1	SK336011	磨製石鏃未成品?	7.4	9.79	粘板岩	表裏研磨顕著
63	A-1	SK336015	剥片	3.7	9.17	サヌカイト	
64	A-1	SK336015	未成品(種類不明)	2.85	3.01	サヌカイト	自然面有.表裏研磨顕著
65	A-1	SK336015	剥片	1.65	0.22	サヌカイト	
66	A-1	SD336012.下層	剥片	3.1	10.15	サヌカイト	
67	A-1	SD336012.中層	剥片	4.1	19.84	サヌカイト	打面自然面.刃部調整
68	A-1	SD336012.下層	剥片	2.6	2.59	サヌカイト	
69	A-1	SD336012.下層	剥片	3.2	3.44	サヌカイト	刃部調整
70	A-1	SD336012	剥片	2.0	2.75	サヌカイト	打面自然面.表面にも自然面
71	A-1	SD336012.中層	剥片	5.4	43.0	サヌカイト	

72	A-1	SD336012	剥片	1.5	0.53	サヌカイト	
73	A-1	SD336012. 下層	剥片	2.5	2.09	サヌカイト	
74	A-1	SD336012. 下層	石器砥石	16.0	338	凝灰岩	
75	A-1	SD336012. 下層	磨製石剣	(6.3)	18.27	粘板岩	
76	A-1	SD336012. 中層	磨製石鏃	(3.1)	1.68	粘板岩	
77	A-1	SD336012. 中層	磨製石剣	(5.6)	8.99	粘板岩	
78	A-1	SD336012. 下層	太形蛤刃石斧	12.4	590	閃緑岩	縦斧. 柄装着用凹顕著
79	A-1	SD336012. 下層	石庖丁	(12.4)	39.1	粘板岩	刃加工後鎌に再利用か. 石剣・石戈と同質石材
80	B-1a	SD303011	剥片	3.1	3.28	サヌカイト	
81	B-1a	SD303011	柱状片刃石斧片	(5.1)	9.99	粘板岩	
82	B-1a	SD303011	石庖丁未成品?	5.1	56.3	粘板岩	
83	B-5b	SD303011	石戈	(5.3)	14.17	粘板岩	
84	A-1	SD336013	剥片	1.8	2.01	サヌカイト	打面自然面か. 底面有
85	A-1	SD336013	剥片	2.8	3.40	サヌカイト	片面研磨
86	A-1	SD336013	剥片	2.1	1.71	サヌカイト	片面研磨
87	B-3	SD303012	剥片	3.0	3.06	サヌカイト	多少石質異
88	B-3	SD303012	剥片	1.4	1.27	サヌカイト	打面自然面. 自然面からの剥離細かい
89	B-3	SR303016	石庖丁未成品	10.4	83.9	粘板岩	
90	B-3	SR303016	太形蛤刃石斧	(9.1)	133.5	閃緑岩(白色斑晶なし)	破片
91	B-3	SR303016	石庖丁未成品	15.0	106.2	粘板岩	側面自然面. 表裏一部研磨
92	A-4	ST363113	打製石鏃	2.8	1.51	サヌカイト	
93	A-4	ST363113	打製石鏃	3.0	1.17	サヌカイト	
94	A-4	ST361159	打製石鏃	3.9	2.40	サヌカイト	
95	A-6a	A地区包含層	打製石鏃	2.35	0.84	サヌカイト	
96	A-5	A地区包含層	打製石鏃	2.9	1.29	サヌカイト	
97	A-5	A地区包含層	打製石鏃	2.2	0.78	サヌカイト	
98	B-5b	B地区包含層	打製石鏃	(1.4)	0.61	サヌカイト	先端折
99	A-2	A地区包含層	打製石鏃	3.1	2.28	サヌカイト	基部欠
100	A-3	A地区包含層	打製石鏃	(1.6)	0.44	サヌカイト	
101	B-3	B地区包含層	打製石鏃	2.6	1.03	サヌカイト	
102	不明	包含層	打製石鏃	4.1	3.00	サヌカイト	
103	不明	包含層	打製石鏃	6.9	12.15	サヌカイト	
104	B-7	B地区包含層	打製石鏃	3.9	2.99	サヌカイト	
105		B地区包含層	磨製石鏃	5.2	3.45	粘板岩	
106		A地区包含層	磨製石鏃未成品?	(6.4)	4.82	粘板岩	石庖丁再加工?先端刃潰し
107		B地区包含層	磨製石剣	(7.1)	15.46	粘板岩	
108		B地区包含層	磨製銅剣形石剣	(9.3)	44.9	粘板岩	やや軟質
109		A地区包含層	磨製銅剣形石剣	(6.3)	28.3	粘板岩	やや軟質
110		B地区包含層	打製石剣	16.6	79.0	サヌカイト	底面自然面
111		A地区包含層	石戈	(8.8)	62.8	粘板岩	基部2ヶ穿孔
112		A地区包含層	磨製石剣	(6.5)	18.02	粘板岩	
113	B-5b	B地区包含層	扁平片刃石斧	(4.6)	41.4	閃緑岩(白色斑晶なし)	
114	B-5b	B地区包含層	扁平片刃石斧	(4.0)	24.0	粘板岩	

## 出土石器観察表

115	A-6b	A地区包含層	片刃石斧	9.0	194.6	閃緑岩(白色斑晶なし)	106と石質似る
116	A-6b	A地区包含層	扁平片刃石斧	(8.2)	187.3	閃緑岩(白色斑晶なし)	
117	B-3	B地区包含層	扁平片刃石斧	(7.1)	86.3	粘板岩	耕器具に再利用か. 斧時の先端折
118	B-5b	B地区包含層	太形蛤刃石斧	15.2	838	閃緑岩	先端折
119	A-4	A地区包含層	太形蛤刃石斧	(8.9)	355	閃緑岩	折
120	A-1	A地区包含層	太形蛤刃石斧	(9.4)	350	閃緑岩	折
121	B-5b	B地区包含層	太形蛤刃石斧	(8.4)	327	閃緑岩	折
122	B-6	B地区包含層	太形蛤刃石斧	(5.6)	48.2	閃緑岩	刃部破片
123	A-6b	A地区包含層	石庖丁素材	35.4	1458	粘板岩	硬質頁岩に近い石質. 1側面自然面
124	A-3	A地区包含層	石庖丁素材	17.5	146.2	粘板岩	粗割段階
125	A-3	A地区包含層	石庖丁未成品	(11.4)	56.2	粘板岩	孔径0.65. 片岩的石質. 1側面自然面. 表裏研磨有. 製品表面剥離?
126	B-3	B地区包含層	石庖丁未成品	(5.8)	10.83	粘板岩	頁岩的石質
127	B-5a	SD303012	石庖丁未成品	(9.2)	33.9	粘板岩	
128	A-5	A地区包含層	石庖丁	15.2	73.5	粘板岩	孔径0.5と0.55
129	B-5b	B地区包含層	石庖丁	(12.4)	65.8	粘板岩	孔径0.5と0.45
130	B-5b	B地区包含層	石庖丁?	(8.4)	27.6	粘板岩	打製石庖丁様挟り
131	B-5b	B地区包含層	石庖丁?	(6.0)	10.29	?	自然礫の可能性大
132	B-1a	B地区包含層	石庖丁	(7.8)	-	粘板岩	孔径0.55
133	A-1	A地区包含層	石庖丁再加工	(4.0)	10.03	粘板岩	片岩的石質. 3孔
134	不明	包含層	石庖丁再加工	(8.6)	14.45	粘板岩	孔径0.3. 右側面割口に孔
135	A-6b	A地区包含層	板状加工品	7.5	9.07	粘板岩	石庖丁再利用か. 刃は鈍
136	B-2a	B地区包含層	石庖丁再加工	(7.5)	18.65	粘板岩	石庖丁刃部を打撃調整
137	B-5b	B地区包含層	石庖丁再加工	(4.0)	10.92	粘板岩	
138	A-6b	A地区包含層	石庖丁再加工	(4.5)	10.08	粘板岩	背にも刃なので再利用か
139	A-1	A地区包含層	板状加工品	(6.0)	15.62	粘板岩	研磨一定方向. 他の弥生石器とはやや様相異なる
140	B-3	B地区包含層	削器	6.9	38.1	サヌカイト	表面・側面自然面
141	A-6a	A地区包含層	削器	3.8	24.0	サヌカイト	1側面自然面. 楔形石器転用
142	A-1	A地区包含層	楔形石器	3.4	4.28	サヌカイト	刃部調整. 石鏃未成品か
143	B-5b	B地区包含層	剥片	4.9	25.1	サヌカイト	両側自然面. 原石手の平サイズ. 端部剥離痕は新しい
144	A-1	A地区包含層	剥片	3.3	21.3	サヌカイト	打面自然面
145		A地区包含層	剥片	5.2	23.1	サヌカイト	表裏研磨
146	B-6	B地区包含層	石核	5.7	62.6	サヌカイト	表面自然面
147	A-1	A地区包含層	剥片	1.3	1.11	サヌカイト	
148	B-7	B地区包含層	剥片	1.8	2.24	サヌカイト	底面自然面
149	B-6	B地区包含層	剥片	3.3	13.06	サヌカイト	打面・側面自然面
150	A-6b	A地区包含層	剥片	3.5	9.78	サヌカイト	打面自然面
151	B-7	B地区包含層	剥片	3.5	5.48	サヌカイト	表面自然面. 刃部調整. 二次加工有り
152	B-7	B地区包含層	剥片	2.5	2.95	サヌカイト	
153	B-3	B地区包含層	剥片	2.25	3.65	サヌカイト	底面自然面
154	B-5b	B地区包含層	扁平片刃石斧?	5.0	30.2	閃緑岩	
155	B-7	B地区包含層	剥片	2.4	4.55	チャート	
156	B-5b	B地区包含層	剥片	1.65	2.30	玉髓	
157	B-5b	SD303007	石核	9.8	379	チャート	

158	B-5b	SD303009	砥石	(8.25)	220.3	凝灰岩	4面使用.2面凹み
159	B-5b	SD303008	砥石	(18.5)	470	ホルンフェルス	石器砥石
160	B-5b	SD303008	砥石	(18.9)	698	粘板岩	石器砥石
161	A-4	A地区包含層	石杵?	13.5	905	閃緑岩	片面に剝離痕集中.角部分に敲打痕
162	A-4	A地区包含層	蛤刃石斧	6.7	53.2	閃緑岩	
163	B-3	SR303016	不明	(16.4)	141.3	ホルンフェルス	グリップ状凹み有り
164	B-8	ST385615	石斧原石?	18.1	1325	閃緑岩	一部研磨
165	A-4	A地区包含層	石棒	(20.1)	797	結晶片岩	風化激しい
166	B-8	B地区包含層	砥石	(5.1)	109.9	砂岩?	石器砥石
167	B-6	B地区包含層	石鋸?	(6.4)	14.52	結晶片岩	
168	B-5b	SD303008	棗玉	2.4	9.56	翡翠	直径1.6.孔径0.3~0.7.両面穿孔
169	A-6b	SD362201	石錘	6.25	26.0	粘板岩?	
170	B-5b	B地区包含層	叩石	11.4	825	砂岩	
171	B-5b	B地区包含層	扁平勾玉?	3.05	4.25	?	遺物未確認
172	B-5b	SD303009	双孔円板	3.05	5.41	滑石	孔径1.8.孔間0.9
173	B-5b	SD303009	扁平勾玉	3.4	3.44	滑石	
174	B-5b	SD385601	紡錘車	備考参照	20.8	滑石	最大径3.3.孔径0.6.鋸歯文.紅簾片岩様石質
175	B-5b	SD303008	紡錘車	備考参照	50.7	滑石	最大径4.6.孔径0.4.結晶片岩様石質
176	B-5b	SD303009	紡錘車	備考参照	28.0	滑石	最大径4.8.孔径0.65
177	B-5b	B地区包含層	石釧?	(6.0)	8.02	滑石?	
178	B-5b	B地区包含層	石錘	5.8	213.5	閃緑岩	
179	B-7	SD399015	石製丸軋	3.5	6.87	安山岩	
180	B-5b	B地区包含層	碁白玉	1.45	1.40	石英	
181	A-6a	SK362100小壺	ガラス小玉	備考参照	0.05	ガラス	径0.43.孔径0.235
182	A-6a	SK362100小壺	ガラス小玉	備考参照	0.06	ガラス	径0.4.孔径0.19/0.21
183	A-6a	SK362100小壺	ガラス小玉	備考参照	0.04	ガラス	最大径0.44.孔径0.14/0.185
184	A-6a	SK362100小壺	ガラス小玉	備考参照	0.06	ガラス	径0.41.孔径0.165/0.125
185	A-6a	SK362100小壺	ガラス小玉	備考参照	0.03	ガラス	最大径0.4.孔径0.185
186	A-6a	SK362100小壺	ガラス小玉	備考参照	0.03	ガラス	径0.34.孔径0.17
187	A-6a	SK362100小壺	ガラス小玉	備考参照	0.04	ガラス	最大径0.39.孔径0.165
188	A-6a	SK362100小壺	ガラス小玉	備考参照	0.05	ガラス	径0.32.孔径0.115
189	A-6a	SK362100小壺	ガラス小玉	備考参照	0.04	ガラス	径0.3.孔径0.15/0.11
190	A-6a	SK362100小壺	ガラス小玉	備考参照	0.01	ガラス	孔径(0.2)

注 観察表内の引用文献は、次の通り

中川1998a：中川和哉 1998「弥生時代石器研究の実践－東土川遺跡出土例から－」『京都府埋蔵文化財情報』第67号 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター

中川1998b：中川和哉 1998「桂川右岸における石剣の出土例－東土川遺跡を中心に－」『京都府埋蔵文化財情報』第68号 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター

第12表 出土金属器観察表(1) 銭貨以外(単位; cm)

番号	地区	出土遺構	種類	長さ (復原)cm	幅 (復原)	厚さ (復原)	高さ (復原)	径 (復原)	備考
1	B-3	SE334007	銅鏡					径 (11.3)	上方作系浮彫式獸帯鏡. 福岡市五島山古墳に類例
2	B-5b	SD385605	銅鏃	3.05	0.8	0.25			
3	B-7	SK399504	銅印	2.7	2.6	3.25			「福」陽鑄
4	B-6	SD303005	不明鉄製品	6.5	3.95				帯に伴うものか
5	B-2b	SD331001	棒状鉄製品	(16.4)	1.15	0.5			釘か鑿
6	B-5b	SX385548	棒状鉄製品	17.1	1.35	0.65			釘か鑿

第13表 出土金属器観察表(2) 銭貨(単位; mm)

番号	地区	出土遺構	貨幣名(種)	W(g)(残 存値)	G(mm)	N(mm)	g(mm)	n(mm)	T(mm)	t(mm)	備考
7	A-4	SX361172	和同開珎	3.39	24.50	20.75	9.00	6.50	1.62	0.9	
8	A-6a	A-6a地区 包含層	和同開珎	2.71	25.75	19.50	6.95	6.30	1.95	1.19	
9	B-5b	SX385538	神功開寶	2.98	24.25	21.25	8.25	6.75	1.44	0.55	
10	A-4	SX361172	神功開寶	—	25.00	22.17	8.50	6.75	1.44	0.55	破損
11	B-5b	SD303007	神功開寶	(1.72)	24.50	21.25	8.00	6.25	1.34	0.82	
12	B-3	SD303005	神功開寶	—	—	—	(8.40)	(6.50)	(1.78)	(1.12)	
13	B-5a	B-5a地区 包含層	元□通寶	(1.36)	21.50	19.75	8.75	7.75	0.97	0.72	
14	A-5	A5SD76	元豊通寶	(1.68)	23.75	20.75	8.75	7.50	0.82	0.62	
15	A-6a	A-6a地区 包含層	紹聖元寶	3.16	23.50	18.75	7.50	6.30	1.45	0.84	
16	A-6a	A-6a地区 包含層	□□元寶	2.80	23.75	19.00	9.00	7.00	1.25	1.10	
17	A-6a	A-6a地区 包含層	(皇)宋(通)寶	2.74	23.50	19.75	8.25	6.50	1.22	1.04	
18	A-5	A5SX26	寛永通寶	3.61	25.25	20.25	8.00	5.50	1.45	0.82	
19	B-5b	B-5b地区 包含層	寛永通寶	4.32	25.00	19.50	7.60	5.80	1.45	0.84	
20	A-4	SX361172	萬年通寶	—	(25.80)	(21.50)	(9.50)	(7.50)	(1.35)	(0.70)	破碎. 拓本 不能
21	B-5b	S X 385555	神功開寶	1.92	25.50	22.00	8.20	6.45	1.78	0.95	錆着. 拓本 不能
22	B-5b	S X 385555	神功開寶	(1.52)	(24.60)	(21.80)	8.00	6.40	(1.63)	(0.72)	錆着. 拓本 不能

第14表 遺構番号対応表

次数	地区	遺構番号	現地記録番号	遺構種類					
L329	A-1	SB329005	SB-5	掘立柱建物跡	L330	A-3	SX330015-1	SX60	路面土坑
L336	A-1	SD329008	SD148	溝	L330	A-3	SR330016	SX57-Ⅲ	流路
L336	A-1	SD329009( SD361168)	SD162 SD166(SD168)	溝	L330	A-3	SD330017	SD37・SD70・SD119	溝
L336	A-1	ST329011	SD11	方形周溝墓	L330	A-3	SK330018	弥生土器溜り	弥生土器溜り(遺構不明瞭)
L336	A-1	SB336001	SB-2	掘立柱建物跡	L330	A-3	SX330019	SX77	路面土坑
L336	A-1	SB336002	SB-1	掘立柱建物跡	L330	A-3	A3SD06	SD06	溝
L336	A-1	SB336003	SB-3	掘立柱建物跡	L330	A-3	A3SD28	SD28	溝
L336	A-1	SB336004	SB-4	掘立柱建物跡	L330	A-3	A3SD41	SD41	溝
L336	A-1	SB336005	SB-6	掘立柱建物跡	L361	A-4	SD329001		東三坊大路東側溝
L336	A-1	SA336007	不明	柵列	L361	A-4	SA329003		塀
L336	A-1	SA336009 a・b	不明	柵列	L361	A-4	SF330007		東三坊大路
L336	A-1	SK336011	SK141	土坑	L361	A-4	SX361122		路面土坑
L336	A-1	SD336012	SD115	溝	L361	A-4	ST361123( SX363113)	SX123・(SX113)	方形周溝墓
L336	A-1	SD336013	SD28	溝	L361	A-4	SX361124		路面土坑
L336	A-1	ST336014	3号周溝墓	方形周溝墓跡	L361	A-4	SX361127	SX127	路面土坑
L336	A-1	SK336015	SK142	土坑	L361	A-4	SX361143	SX143	路面土坑
L336	A-1	SK336016	SK175	土坑	L361	A-4	SX361153	SX153	路面土坑
L336	A-1	SK336017	不明	土坑	L361	A-4	SX361154	SD154	路面土坑
L336	A-1	SX336095	SX95	土坑	L361	A-4	ST361159	SD159	方形周溝墓
L336	A-1	SK336158	SK158	土坑	L361	A-4	ST361160	SX160	方形周溝墓
L336	A-1	SK336169	SK169	土坑	L361	A-4	SD361161	SD161	溝
L336	A-1	A1P176	SP176	土坑	L361	A-4	SD361162	SD162	溝
L329	A-2	SD329001		東三坊大路東側溝	L361	A-4	SX361064	SX64	土坑
L329	A-2	SB329002	不明	掘立柱建物跡	L361	A-4	SX361165	SX165	路面土坑
L329	A-2	SA329003	塀1	塀	L361	A-4	SX361166	SX166	路面土坑
L329	A-2	SB329004	不明	掘立柱建物跡	L361	A-4	SD361168	SD168	溝
L329	A-2	SB329005		掘立柱建物跡	L361	A-4	SX361172	SX172	土坑
L329	A-2	SA329006	不明	柵列	L361	A-4	SD361174	SD174	溝
L329	A-2	SX329007	土坑3	土坑	L361	A-4	SD361176	SD176	溝
L329	A-2	SD329008	SD02・SD03	溝	L361	A-4	SB361181		橋跡
L329	A-2	SD329010	SD10	溝	L361	A-4	SB361182		橋跡
L329	A-2	ST329011	2号周溝墓	方形周溝墓	L361	A-4	SD362201	SD150	溝
L329	A-2	SF330007		東三坊大路	L361	A-4	A4SD02	SD02b	溝
L329	A-2	SD389009	SD5～9	溝	L361	A-4	A4SD15	SD15	溝
L330	A-3	SD330001	SD61	東三坊大路西側溝	L361	A-4	A4SD18	SD18	溝
L330	A-3	SD330002	SD63	二条条間大路南側溝	L361	A-4	A4SX165	SX165	
L330	A-3	SD330003	SD62	二条条間大路北側溝	L384	A-5	SD330001	SD106	東三坊大路西側溝
L330	A-3	SD330004	SD103	溝	L384	A-5	SD330002	SD102	二条条間大路南側溝
L330	A-3	SD330005	SD66	溝	L384	A-5	SD330003	SD101	二条条間大路北側溝
L330	A-3	SF330006		二条条間大路	L384	A-5	SD330004		溝
L330	A-3	SF330007		東三坊大路	L384	A-5	SF330006		二条条間大路
L330	A-3	SD330010	SD71	溝	L384	A-5	SF330007		東三坊大路

遺構番号対応表

L384	A-5	SD330010	SD98	溝	L362	A-6a	SB362116	SB116	掘立柱建物跡
L384	A-5	SD330011	SD97	溝	L362	A-6a	SB362117	SB117	掘立柱建物跡
L384	A-5	SX330015-1	SX90-1	路面土坑	L362	A-6a	SB362118	SB118	掘立柱建物跡
L384	A-5	SX330015-2	SX90-2	路面土坑	L362	A-6a	SA362119	SA119	柵列
L384	A-5	SD330017	SD116	溝	L362	A-6a	SA362120	SA120	柵列
L384	A-5	SD363086	SD87	溝	L362	A-6a	SD362122	SD122	溝
L384	A-5	SX384088	SX88	土坑	L362	A-6a	SD362123	SD123	溝
L384	A-5	SX384089	SX89	土坑	L362	A-6a	SK362124	SX124	土坑
L384	A-5	SX384091	SX91	土坑	L362	A-6a	SD362125	SD125	溝
L384	A-5	SE384092	SE92	井戸	L362	A-6a	SD362130	SD130	溝
L384	A-5	SD384104	SX104	溝	L362	A-6a	SK362133	SX133	土坑
L384	A-5	SB384107	SB107	掘立柱建物跡	L362	A-6a	SD362134	SD134	溝
L384	A-5	SE384108	SE108	井戸	L362	A-6a	SK362136	SK136	土坑
L384	A-5	SX384109	SD109	溝	L362	A-6a	SK362137	SX137	土坑
L384	A-5	SB384110	SB110	掘立柱建物跡	L362	A-6a	SD362138	SD138	溝
L384	A-5	SB384111	SB111	掘立柱建物跡	L362	A-6a	SD362201	SD201	溝
L384	A-5	SB384112	SB112	掘立柱建物跡	L362	A-6a	A6aSD18	SD18a	溝
L384	A-5	SA384113	SA113	柵列	L362	A-6a	A6aSD22	SD22c	溝
L384	A-5	ST384114	SX114	方形周溝墓	L362	A-6a	A6aSD25	SD25a	溝
L384	A-5	ST384115	SX115	方形周溝墓	L362	A-6a	A6aSD26	溝26b. 26c	溝
L384	A-5	ST384118	SX118	方形周溝墓	L362	A-6a	A6aSD30	SD30a	溝
L384	A-5	A5SD03	SD03-a	溝	L363	A-6b	SD330001		東三坊大路西側溝
L384	A-5	A5SD10	SD10-6	溝	L363	A-6b	SD362101	SD76	二条条間北小路北側溝
L384	A-5	A5SD18	SD18	溝	L363	A-6b	SD362102	SD75	二条条間北小路南側溝
L384	A-5	A5SD22	SD22	溝	L363	A-6b	SD362103	SD77	溝
L384	A-5	A5SX26	SX26	土坑	L363	A-6b	SD362201	SD107	溝
L384	A-5	A5SD37	SD37-2	溝	L363	A-6b	SB363078	SB78	掘立柱建物跡
L384	A-5	A5SD53	SD53c-4	溝	L363	A-6b	SB363079	SB79	掘立柱建物跡
L384	A-5	A5SD57	SD57	溝	L363	A-6b	SB363080	SB80	掘立柱建物跡
L384	A-5	A5SD58	SD58a	溝	L363	A-6b	SB363081	SB81	掘立柱建物跡
L384	A-5	A5SD63	SD63b-1	溝	L363	A-6b	SB363082	SB82	掘立柱建物跡
L384	A-5	A5SD68	SD68	溝	L363	A-6b	SE363084	SE84	井戸
L384	A-5	A5SD75	SD75	溝	L363	A-6b	SK363085	SX85	土坑
L384	A-5	A5SD76	SD76	溝	L363	A-6b	SD363086	SD86	溝
L362	A-6a	SX362100	SX100	土坑	L363	A-6b	SD363087	SD87	溝
L362	A-6a	SD362101	SD101	二条条間北小路北側溝	L363	A-6b	SK363089	SX89	土坑
L362	A-6a	SD362102	SD102	二条条間北小路南側溝	L363	A-6b	SK363090	SX90	土坑
L362	A-6a	SD362103	SD103	溝	L363	A-6b	SD363100	SD88	溝
L362	A-6a	SB362104	SB104	掘立柱建物跡	L363	A-6b	SD363104	SD104	溝
L362	A-6a	SD362105	SD105	溝	L363	A-6b	SK363105	SK105	土坑
L362	A-6a	SD362107	SD107	溝	L363	A-6b	SF363108	SF108	道路跡
L362	A-6a	SD362108	SD108	溝	L363	A-6b	SF363109	SF109	道路跡
L362	A-6a	SD362109	SD109	溝	L363	A-6b	SD363111	SX111	溝
L362	A-6a	SD362111	SD111	溝	L363	A-6b	ST363112( ST361159)	SX112· (SX159)	方形周溝墓
L362	A-6a	SD362112	SD112	溝	L363	A-6b	ST363113( ST361123)	SX113	方形周溝墓
L362	A-6a	SD362114	SD114	溝					



L363	A-6b	SE363115	SE115	井戸				
L363	A-6b	SD363116	SD116	溝				二条条間大路 南側溝
L363	A-6b	ST363117( ST363106)	SD117(SD106)	方形周溝墓				二条条間大路 北側溝
L363	A-6b	SB363119	SB119	掘立柱建物跡		SD01		東三坊大路西 側溝
L363	A-6b	SD363120	SD120	溝				掘立柱建物跡
L363	A-6b	SD363121	SD110	溝				
L363	A-6b	A6bSD10	SD10	溝				
L363	A-6b	A6bSD36	SD36	溝				
L363	A-6b	A6bSD52	SD52	溝				
L363	A-6b	A6bSD77	SD77	溝				
L363	A-6b	A6bSK44	SK44	土坑				
L303	B-1a	SK303001	SK229	土坑				
L303	B-1a	SB303003	SB03	掘立柱建物跡				
L303	B-1a	SB303004	不明	掘立柱建物跡				
L303	B-1a	SD303005	SD301	溝				
L303	B-1a	SD303006	SD302	溝				
L303	B-1a	SD303007	SD303	溝				
L303	B-1a	SD303008	SD310	溝				
L303	B-1a	SD303009	SD309	溝				
L303	B-1a	SD303010	SD304	溝				
L303	B-1a	SD303011	SD305	溝				
L303	B-1a	SD303012		溝				
L303	B-1a	SD303013	SD307	溝				
L303	B-1a	SD303014	SD311	溝				
L303	B-1a	SD303015	SD312	溝				
L303	B-1a	SX303016	東部湿地	下層流路・東 部湿地				
L303	B-1a	B1aSD202	SD202	溝				
L303	B-1a	B1aSD220	SD220	溝				
L303	B-1b	SB303101	SB01	掘立柱建物跡				
L303	B-1b	SB303102	SB02	掘立柱建物跡				
L303	B-1b	SD303103	SD10	溝				
L303	B-1b	SD303104	SD11	溝				
L303	B-1b	SD303105	SD601	溝				
L303	B-1b	SK303106	SX02	土坑				
L315	B-2a	SD315003		東三坊大路東 側溝				
L315	B-2a	SB315004	SB004	掘立柱建物跡				
L315	B-2a	SB315005	SB005	掘立柱建物跡				
L315	B-2a	SB315006	SB006	掘立柱建物跡				
L315	B-2a	SB315007	SB007	掘立柱建物跡				
L315	B-2a	SB315008	SB008	掘立柱建物跡				
L315	B-2a	SA315009	不明	柵列				
L315	B-2a	SA315010	不明	柵列				
L315	B-2a	SK315011	土坑1	土坑				
L315	B-2a	SK315012	土坑2	土坑				
L315	B-2a	SA315013	不明	柵列				
L315	B-2a	SA315014	不明	柵列				
L315	B-2a	SD330002						
L315	B-2a	SD330003						
L331	B-2b	SD331001	SD01					
L331	B-2b	SB331002	不明					
L334	B-3	SE334001	SE1	井戸				
L334	B-3	SE334002	SE2	井戸				
L334	B-3	SE334003	SE3	井戸				
L334	B-3	SD334004	SD04	溝				
L334	B-3	SD334005	SD05	溝				
L334	B-3	SD334006	SD06	溝				
L334	B-3	SE334007	SE106	井戸				
L334	B-3	SD334008( SD303011)	SD8(SD102)	溝				
L334	B-3	SD334009	SD9(SR105)	溝				
L334	B-3	SR334010( SD303007)	SR10(SR101)	流路				
L334	B-3	SD334011	SD11(SD114)	溝				
L334	B-3	SD334012	SD12(SD113)	溝				
L334	B-3	SD334013	SD32	溝				
L334	B-3	SD334014	SD14	溝				
L334	B-3	SR334015	SR15(SD104)	旧流路跡				
L334	B-3	SD334016	SD16(SR123)	溝				
L334	B-3	SD334017	SD17	溝				
L334	B-3	SR334018	SR18(SR126)	旧流路跡				
L334	B-3	SR334019	SR19(SD107)	旧流路跡				
L334	B-3	SK334020	SK20	土坑				
L334	B-3	SK334021	SK21(SK120)	土坑				
L334	B-3	SX334022	SX22(SK123)	土坑				
L334	B-3	SX334023	SX23(SK119)	土坑				
L334	B-3	SX334024	SX24(SK126)	土坑				
L334	B-3	SX334025	SX25(SK125)	土坑				
L334	B-3	SX334026	SX26(SX124)	不明土坑				
L334	B-3	SX334027	SX27	不明土坑				
L334	B-3	SX334028	SX28(SX121)	不明土坑				
L334	B-3	SX334029	SX29	不明土坑				
L334	B-3	SX334030	SX30(SD104・5 区)	溝				
L334	B-3	SX334031	SX31	不明土坑				
L334	B-3	SX334032	SX32	不明土坑				
L334	B-3	SD334033	SD33	溝				
L334	B-3	SX334034	SX34	不明土坑				
L334	B-3	SX334035	SX35	不明土坑				
L334	B-3	SX334036	SX36(SD115)	溝				
L334	B-3	SK334037	SK37(SK201)	土坑				
L334	B-3	SX334039	SX39(SX122)	土坑				
L334	B-3	SX334040	SX40	土坑				
L334	B-3	SD334044	SD09	溝				
L334	B-3	SB334047	SB47	掘立柱建物跡				

遺構番号対応表

L334	B-3	SD334051	SD51	下層小溝群	L337	B-5a	SD337010	不明	溝
L334	B-3	SD334052	SD52	下層小溝群	L337	B-5a	ST337011	不明	方形周溝墓跡
L334	B-3	SD334053	SD53	下層小溝群	L337	B-5a	ST337012	不明	方形周溝墓跡
L334	B-3	SD334054	SD54	下層小溝群	L337	B-5a	B5aSK07	SK07	土坑
L334	B-3	SD334055	SD55	下層小溝群	L385	B-5b	SD303001	SD215	溝
L334	B-3	SD334056	SD56	下層小溝群	L385	B-5b	SD303002	SD503a	東四坊坊間西 小路東側溝
L334	B-3	SD334057	SD57	下層小溝群	L385	B-5b	SD303007	SD607	溝
L334	B-3	SD334058	SD58	下層小溝群	L385	B-5b	SD303008	SD608	溝
L334	B-3	SD334059	SD59	下層小溝群	L385	B-5b	SD303009	SD609	溝
L334	B-3	SD334060	SD60	下層小溝群	L385	B-5b	SD303011	SD610	溝
L334	B-3	SD334061	SD61	下層小溝群	L385	B-5b	SD330003	SD501	二条条間大路 北側溝
L334	B-3	SD334062	SD62	下層小溝群	L385	B-5b	SD385229	SD229	溝
L334	B-3	SD334063	SD63	下層小溝群	L385	B-5b	SK385322	SX322	土坑(井戸?)
L334	B-3	SD334064	SD64	下層小溝群	L385	B-5b	SB385509	SB509	掘立柱建物跡
L334	B-3	SD334065	SD65	下層小溝群	L385	B-5b	SB385510	SB510	掘立柱建物跡
L334	B-3	SD334066	SD66	下層小溝群	L385	B-5b	SB385511	SB511	掘立柱建物跡
L334	B-3	B3SD20	SD20	溝	L385	B-5b	SB385512	SB512	掘立柱建物跡
L334	B-3	B3SD26	SD26c	溝	L385	B-5b	SB385513	SB513	掘立柱建物跡
L333	B-4a	SD315003		東三坊大路東 側溝	L385	B-5b	SE385519	SK519	井戸
L333	B-4a	SB315004		掘立柱建物跡	L385	B-5b	SB385533	SB533	掘立柱建物跡
L333	B-4a	SB333001	不明	掘立柱建物跡	L385	B-5b	SE385537	SE537	井戸
L333	B-4a	SE333002	SE001	井戸	L385	B-5b	SX385538	SX538	土坑
L333	B-4a	SD333007	東部落ち込み 第2層	溝	L385	B-5b	SB385540	SB540	橋跡
L333	B-4b	SB333003	SB33303	掘立柱建物跡	L385	B-5b	SE385543	SK543	井戸
L333	B-4b	SD333004		溝	L385	B-5b	SE385544	SK544	井戸
L333	B-4b	SD333005	B-111	溝	L385	B-5b	SB385546	SB546	掘立柱建物跡
L333	B-4b	SK333006	SK01	土坑	L385	B-5b	SB385547	SB547	掘立柱建物跡
L333	B-4b	B4bSD01	SD01	溝	L385	B-5b	SX385548	SX548	路面土坑
L333	B-4b	B4bSD25	SD25	溝	L385	B-5b	SK385550	SK550	土坑
L333	B-5a	SD303001	SD227	溝	L385	B-5b	SK385552	SK552	埋甕遺構
L337	B-5a	SD303002	SD225	東四坊坊間西 小路東側溝	L385	B-5b	SD385553	SD553	東四坊坊間西 小路西側溝
L337	B-5a	SD303009	SD309		L385	B-5b	SD385601	SD601	溝
L337	B-5a	SD303010	SD304		L385	B-5b	SD385602	SD602	溝
L337	B-5a	SD303012	SD2		L385	B-5b	SD385603	SD603	溝
L337	B-5a	SR303016	下層流路		L385	B-5b	SD385604	SD604	溝
L337	B-5a	SD334008( SD303011)		溝	L385	B-5b	SD385605	SD605	溝
L337	B-5a	SF334042	SF01(黄灰褐 色土層)	道路跡	L385	B-5b	SD385606	SD606	溝
L337	B-5a	SB337001	不明	掘立柱建物跡	L385	B-5b	SD385611	SD611	溝
L337	B-5a	SB337002	SB01	掘立柱建物跡	L385	B-5b	ST385614	ST614	方形周溝墓跡
L337	B-5a	SB337003	SB02	掘立柱建物跡	L385	B-5b	ST385619	ST619	方形周溝墓跡
L337	B-5a	SA337004	不明	柵列	L385	B-5b	SD385621	SD621	溝
L337	B-5a	SF337005	SF02	道路跡	L385	B-5b	ST385623	SX623	方形周溝墓跡
L337	B-5a	SX337006	SK07	土坑	L385	B-5b	B5bSK101	SK101	土坑
L337	B-5a	SD337007	不明	溝	L385	B-5b	B5bSD264	SD264	溝
L337	B-5a	SD337008	不明	溝	L399	B-6	SD330003		二条条間大路 北側溝
L337	B-5a	SD337009	不明	溝	L399	B-6	SD333004	SD601	

L399	B-6	SD399087	SD87	溝
L399	B-6	SK399520	P520	土坑
L399	B-6	SD399606	SX606	溝
L399	B-6	SD399609	SX609	溝
L399	B-6	SD399610	SX610	溝
L399	B-6	B6SK21	SK21	土坑
L399	B-6	B6P86	SP86 (SP520東)	土坑
L399	B-7	SB315006	不明	掘立柱建物跡
L399	B-7	SB315007	不明	掘立柱建物跡
L399	B-7	SB315008	SB008	掘立柱建物跡
L399	B-7	SA315014	不明	柵列
L399	B-7	SD330002		二条条間大路 南側溝
L399	B-7	SD399015	SD15	溝
L399	B-7	SD399068	SD68	溝
L399	B-7	SD399408	SD408	溝
L399	B-7	SB399415	SB415	掘立柱建物跡
L399	B-7	SB399417	SB417	掘立柱建物跡
L399	B-7	SB399418	SB418	掘立柱建物跡
L399	B-7	SB399420	SB420	掘立柱建物跡
L399	B-7	SE399421	SE421	井戸
L399	B-7	SD399422	SD422	溝
L399	B-7	SD399423	SD423	溝
L399	B-7	SD399424	SD424	溝
L399	B-7	SE399503	SE503	井戸
L399	B-7	SK399504	SX504	土坑
L399	B-7	SK399505	SX505	土坑
L399	B-7	SD399515	SD515	溝
L399	B-7	SB399518	SB518	掘立柱建物跡
L399	B-7	SX399594	SX594	土坑
L399	B-7	SD399599	SD599	溝
L399	B-7	ST399602	SX602	方形周溝墓跡
L399	B-7	SD399607	SD607	溝
L399	B-7	SD399611	SX611	溝
L399	B-7	B7SD30	SD30	溝
L385	B-8	SD330002	SD502	二条条間大路 南側溝
L385	B-8	SB333003		掘立柱建物跡
L385	B-8	SD333004	SD507	
L385	B-8	SD333005	SD505	水路
L385	B-8	SD385336	ST616東溝	溝
L385	B-8	SD385504	SD504	東四坊坊間西 小路東側溝
L385	B-8	SB385514	SB514	掘立柱建物跡
L385	B-8	SB385515	SB515	掘立柱建物跡
L385	B-8	SB385516	SB516	掘立柱建物跡
L385	B-8	SK385517	SK517	土坑
L385	B-8	SE385536	SE536	井戸
L385	B-8	SD385601		溝

L385	B-8	SD385602		溝
L385	B-8	SD385603		溝
L385	B-8	SK385613	SK613	土坑
L385	B-8	ST385615	ST615	方形周溝墓跡
L385	B-8	ST385616	ST616	方形周溝墓跡
L385	B-8	SK385630	SK630	土坑
L385	B-8	B8SD31	SD31	溝
L385	B-8	B8SD59	SD59	溝
L385	B-8	B8SD71	SD71	溝
L385	B-8	B8SD315	SD315	溝
L314	D-2a	SB314001	SB01	掘立柱建物跡
L314	D-2a	SB314002	SB02	掘立柱建物跡
L314	D-2a	SB314003	SB03	掘立柱建物跡
L314	D-2a	SK314004	SK01	土坑
L314	D-2a	SR314005	SX01	流路
L331	D-2b	SD331003		二条条間南小 路北側溝
L331	D-2b	SD331004		二条条間北小 路南側溝

第15表 遺構座標一覧表

番号	次数	概報	工区	調査区	遺構名	X座標	Y座標	備考
1	216	40	向日	10BL. 21-1tr.	SD216101	-117,934.000	-25,575.000	三条条間北小路南側溝の可能性有り
2	267	51	向日	11BL. 22tr.	SD26703	-117,766.550	-25,409.500	二条大路北側溝
3			向日	12BL. 13tr.	SD26707	-117,662.000	-25,385.600	東三坊東小路西側溝
4			向日	12BL. 13tr.	SD26708	-117,652.000	-25,376.100	東三坊東小路東側溝
5			向日	12BL. 13tr.	SD26713	-117,648.700	-25,373.000	三条条間北小路北側溝
6			向日	12BL. 13tr.	SD26711	-117,657.850	-25,381.000	二条条間南小路南側溝
7		61	京都	B-1	SD28603	-117,210.000	-24,839.100	東四坊坊間東小路西側溝の可能性あり
8	286	61	京都	B-2	SD286102	-117,255.100	-24,853.000	一条大路北側溝
9				B-2	SD286103	-117,278.850	-24,880.000	一条大路南側溝
10				B-2	SD286101	-117,250.000	-24,838.600	東四坊坊間東小路西側溝の可能性あり
11				C-2c	SD286311	-117,194.000	-24,721.500	東四坊大路西側溝
12	303		P.A	B-1a	SD303002	-117,462.000	-25,101.200	東四坊坊間西小路東側溝
13	315		P.A	B-2a	SD315001	-117,513.800	-25,170.000	二条条間大路北側溝
14			P.A	B-2a	SD315002	-117,538.600	-25,190.000	二条条間大路南側溝
15			P.A	B-2a	SD315003	-117,570.000	-25,230.100	東三坊大路東側溝
16	329	69	P.A	A-2	SD329001	-117,486.000	-25,230.400	東三坊大路東側溝
17	330		P.A	A-3	SD330001	-117,510.000	-25,255.050	東三坊大路西側溝
18				A-3	SD330002	-117,539.600	-25,290.000	二条条間大路南側溝
19				A-3	SD330003	-117,514.400	-25,270.000	二条条間大路北側溝
20	331		P.A	B-2b	SD331001	-117,605.000	-25,255.000	東三坊大路西側溝
21				D-2b	SD331003	-117,649.000	-25,305.000	二条条間南小路北側溝
22				D-2b	SD331004	-117,658.300	-25,312.500	二条条間南小路南側溝
23	332		向日	B-1a	SD33201	-118,072.000	-25,650.000	二条条間小路南側溝
24				B-1a	SD33203	-118,078.000	-25,651.500	東三坊坊間西小路西側溝
25	334		P.A	B-3	SD315001	-117,513.300	-25,032.000	二条条間大路北側溝
26				B-3	SD315002	-117,537.500	-25,032.000	二条条間大路南側溝
27	361	74	P.A	A-4	SD330001	-117,390.000	-25,255.000	東三坊大路西側溝(北側)
28				A-4	SD330001	-117,480.000	-25,254.700	東三坊大路西側溝(南側)
29				A-4	SD329001	-117,421.000	-25,230.200	東三坊大路東側溝(北端)
30				A-4	SD329001	-117,480.000	-25,230.200	東三坊大路東側溝(南端)
31	362			A-6a	SD362101	-117,387.100	-25,287.000	二条条間北小路北側溝
32				A-6a	SD362102	-117,396.250	-25,347.200	二条条間北小路南側溝(西端部)
33				A-6a	SD362102	-117,395.900	-25,256.000	東三坊大路接合部分
34	384	78	P.A	A-5	SD330001	-117,495.000	-25,255.050	東三坊大路西側溝
35				A-5	SD330003	-117,514.500	-25,272.000	二条条間大路北側溝(東端部)
36				A-5	SD330003	-117,514.600	-25,310.000	二条条間大路北側溝(中央部)
37				A-5	SD330003	-117,514.750	-25,346.500	二条条間大路北側溝(西端部)
38				A-5	SD330002	-117,539.500	-25,297.500	二条条間大路南側溝(東端部)
39				A-5	SD330002	-117,539.700	-25,347.300	二条条間大路南側溝(西端部)
40	385			B-5b・B-8	SD330003	-117,513.320	-25,040.000	二条条間大路北側溝(東端部)
41				B-5b・B-8	SD330003	-117,513.320	-25,075.000	二条条間大路北側溝(中央部)
42				B-5b・B-8	SD330003	-117,513.680	-25,110.000	二条条間大路北側溝(西端部)

43				B-5b・B-8	SD330002	-117,537.680	-25,040.000	二条条間大路南側溝(東端部)
44				B-5b・B-8	SD330002	-117,538.020	-25,075.000	二条条間大路南側溝(中央部)
45				B-5b・B-8	SD330002	-117,538.300	-25,110.000	二条条間大路南側溝(西端部)
46				B-5b・B-8	SD303002	-117,510.000	-25,099.960	東四坊坊間西小路東側溝(南端部)
47				B-5b・B-8	SD303002	-117,470.000	-25,100.440	東四坊坊間西小路東側溝(北端部)
48				B-5b・B-8	SD385504	-117,545.000	-25,099.448	東四坊坊間西小路東側溝(北端部)
49				B-5b・B-8	SD385504	-117,585.000	-25,099.032	東四坊坊間西小路東側溝(南端部)
50				B-5b・B-8	SD385553	-117,476.000	-25,109.280	東四坊坊間西小路西側溝(北端部)
51				B-5b・B-8	SD385553	-117,512.000	-25,108.680	東四坊坊間西小路西側溝(南端部)
52	399	84	P. A	B-6・B-7	SD330003	-117,513.780	-25,148.000	二条条間大路北側溝(西部)
53				B-6・B-7	SD330003	-117,513.600	-25,140.000	二条条間大路北側溝(中央部)
54				B-6・B-7	SD330003	-117,513.580	-25,120.000	二条条間大路北側溝(東部)
55				B-6・B-7	SD330002	-117,538.700	-25,180.000	二条条間大路南側溝(西部)
56				B-6・B-7	SD330002	-117,538.540	-25,148.000	二条条間大路南側溝(中央部)
57				B-6・B-7	SD330002	-117,538.100	-25,120.000	二条条間大路南側溝(東部)
58				B-6・B-7	SD315003	-117,584.000	-25,229.740	東三坊大路東側溝

第16表 検出建物一覧表

町	地区	遺構番号	母屋		桁尺	梁尺	庇尺				備考	
			桁行	梁行			西	北	南	東		
13	D-2a	SB314001	(2)	2	6/6.5	8.5						
13	D-2a	SB314002	(3)	(2)	6	6						
13	D-2a	SB314003	(3)	2	6	6						
14	A-5	SB384111	(2)	2	8	8.5			9			
14	A-5	SB384107	(1)	2	10	8			10	10		
14	A-5	SB384112	5	2	8	9	11					
14	A-3	SK30012+013										柱間8尺
14	B-2b	SB331002	3	2	6	7						
15	A-6a	SB362116	5	2	8	8		10				
15	A-6a	SB362104	(4)	2	8	8		9.5	9.5			
15	A-6a	SB362117	5	2	8	8			11			
15	A-6a	SB362118	5	2	8	8	9					
15	A-6b	SB363079	(4)	2	8	8			9			
15	A-6b	SB363078	5	2	8	8	9		9	9		
15	A-6b	SB363082	3	2	7	8.5	9	9				
15	A-6b	SB363080	5	2	8	8				9		
15	A-6b	SB363081	5	2	8弱	8弱		9	9	9		
2	A-1	SB336005			7(※)	8.5	9		8	9		(※)北4間8尺
2	A-1	SB336003	7	2	9(※)	8.5						(※)北4間9.5尺
2	A-1	SB336004	2	2	11	8						
2	A-1/2	SB329005	(4)	1	9(※)	16						(※)北4間8尺
2	A-2	SB329004	3	1	6(※)	14						(※)北2間4.5尺
2	A-1	SB336001	5	2	7.5	8						
2	A-1	SB336002	5	2	7.5	8						
2	A-2	SB329002	(1)	(1)	6	6						
2	B-1b	SB303101	(3)	2	8.5	8.5			9	9		
2	B-1b	SB303102	(3)	(2)	(※)	7						(※)西から7・7.5・9.5尺
3	B-7	SB399415	3	2	9	9	9					
3	B-7	SB399518	5	2	8	8						
3	B-2a/7	SB315006	5	2	(※)	8	10.5					(※)北2間分7.5尺・南3間分8尺
3	B-2a/7	SB315005			(※)	8				10.5		(※)北2間分8.5尺・南3間分8尺
3	B-2a	SB315008	2	2	8	6.5						
3	B-4a	SB333001	5	2	7	9						
3	B-2a/7	SB315007	3	2	8.5	8	8.5		10			
3	B-2a	SB315004	(3)	2	8(※)	8			10			(※)東3間8.5尺
6	B-8	SB385516	5	2	9	9						
6	B-4b/8	SB333003	3	2	8(※)	7.5		8				(※)西1間9尺
6	B-8	SB385514	5	2	8(※)	8			9.5			(※)北3間9.5尺
6	B-8	SB385515	5	2	6	9						
7	B-5	SB337001	3	1	7.5	11						
7	B-5	SB337002	7	2	9(※)	8.5						(※)北4間9.5尺
7	B-5b	SB385512	3	2	7(※)	8						(※)西1間7.5尺
7	B-5b	SB385513	3	1	5.5	12			9.5			

7	B-5b	SB385533	4	2	(※)	6.5					(※)西から9・7・7・8尺
7	B-5b	SB385509	3	2	8.5	8.5					
7	B-5b	SB385510	3	1	4(※)	13					(※)南1間は5尺
7	B-5b	SB385511	5	2	9.5(※)	9		13	12	13	(※)北3間10尺
7	B-5b	SB385546	2	1	8	9					
7	B-3	SB334047	不明	2	不明	7(※)					(※)桁?
7	B-1a	SB303004	(3)	1	8.5	17					
7	B-1a/5	SB303003	3	1	6	13					
7	B-5	SB337003	5	2	(※)	(※)					(※)桁/西3間分8.5尺. 東2間分8尺 梁/北1間 8尺.南1間7.5尺

第17表 土層名一覽表

図版番号	番号	遺構	土層	土色	
1	a-b	ST329011	1	暗灰色粘土	3 淡褐灰色砂質土 4 灰色砂質土 5 足痕による堆積 c-d 1 淡褐灰色土 2 淡灰褐色土 3 褐灰色粘質土 4 暗茶褐色粘質土(黄色土混) e-f 1 灰黄色砂質土 2 暗褐色土+黄色土 3 灰色泥土(近世ピット) 4 暗褐色土 5 黄灰色土(灰色粘質土混) 6 灰黄色粘質土 a-b ST363113 1 淡黄灰色土 2 淡灰白色土 3 淡灰色土(茶色斑混) 4 淡青灰色粘土 5 淡黄灰色粘土 6 淡灰黄色土 7 灰色粘土(炭混) 8 淡灰色粘土 c-d 1 暗紫灰色砂質土 2 暗黄灰色砂質土 3 暗黄灰色砂質土 4 暗灰色粘質土 5 黄灰色砂質土 6 淡黄灰色砂質土 7 淡黄灰色砂質土 8 暗黄灰色粘砂 9 灰色土(炭含) 10 灰色土 11 黄灰色粘砂(非常に砂質) 12 黄灰色粘砂 13 青灰色粘砂 14 青灰色粘砂 15 淡灰色粘質土 16 暗青灰色粘質土 17 淡灰色粘質土 18 淡緑灰色粘質土 19 暗青灰色粘質土 e-f 1 暗緑灰色砂質土 2 黒灰色粘質土 3 暗灰土 4 灰色土 5 淡黄灰色粘質土 6 灰色土 7 灰色土 8 淡黄灰褐色粘質土 9 灰色粘質土 10 緑黄灰色土 g-h 1 青灰色粘質土(炭混) 2 青灰色粘砂 3 淡黄灰色砂 4 淡黄灰色粘土 5 淡灰色混淡黄色土 a-b ST363112 1 淡灰色土(黄色・茶色斑混) 2 黄褐色混淡灰色土 3 黄灰色粘土 4 淡灰色粘土 c-d 1 紫灰色砂質土(マンガン混) 2 暗黄紫灰色砂質土(マンガン混) 3 暗紫灰色粘砂(マンガン多含) 4 黄褐色粘砂 5 黄灰褐色粘砂 6 黄灰色粘質土(シルト) 7 黄灰色粘質土
			2	淡灰色粘土	
	c-d	ST336014	1	暗灰色粘土	
			2	淡黄灰色粘土	
	e-f		1	暗青灰色粘土	
			2	淡青灰色粘土	
	g-h			記載なし	
	a-b	ST337011	1	淡灰色シルト	
			2	暗褐色土	
	a-b	ST337012	1	淡灰色土	
			2	茶褐色土	
	a-b	SD399609	1	明黄褐色砂質土(鉄・マンガン含)	
			2	暗黄褐色砂質土(鉄・マンガン含)	
	c-d	SD399610	1	明黄褐色砂質土(鉄含)	
			2	暗黄褐色砂質土(マンガン含)	
	a-b	ST399602	1	黄褐色砂質土(鉄分沈着)	
			2	暗褐色砂+黒褐色粒(マンガン含)	
	c-d		1	淡黄褐色砂質土	
			2	明黄褐色砂	
	e-f		1	暗黄褐色砂質土	
			2	暗黄褐色粘質土	
	a-b	SD399607	1	黒褐色細砂(マンガン含)	
			2	灰黒色細砂混シルト(鉄含)	
	a-b	SD399611	1	黄褐色土	
2			淡褐灰色土		



3	a-b	ST361159	1 灰褐色砂質土 2 黄灰褐色砂質土 3 暗灰褐色砂質土 4 粗い暗灰褐色砂質土 5 灰色砂質土 6 暗灰色砂質土(炭含) 7 暗灰色シルト(炭含) 8 暗灰色砂質土(炭含) 9 暗灰色土 10 灰色土 11 灰色砂質土 12 暗灰色粘砂 13 暗灰色砂混粘質土 14 暗緑灰色粘土混砂(ヲ汁) 15 茶褐色砂(ヲ汁) 16 緑灰色砂混シルト(ヲ汁)			
	a-b	ST361160	1 暗褐色砂質土(マンガン多) 2 暗灰褐色砂質土 3 暗灰色砂質土 4 暗灰色礫混砂質土 5 暗灰色土 6 暗緑灰色土 7 緑灰色礫混砂 8 暗緑灰色粘土混砂質土 9 暗緑灰色礫混砂質土			
	a-b	SD363111	1 茶色斑混黄褐色土 2 黄褐色土 3 黄灰色土 4 灰色混黄灰色砂混土 5 黄灰色土 6 黄色混淡灰色粘土(炭混) 7 淡灰色粘土(炭混) 8 暗灰色混淡灰色粘土(炭混)			
	a-b	ST385619	1 黄灰色土			
	c-d		1 暗黄灰褐色土 2 黄灰色土			
	e-f		1 黄褐色砂質土 2 淡黄灰色粘砂			
	a-b	ST385629	1 暗灰褐色土			
	c-d		1 暗灰褐色土			
	e-f		1 暗灰褐色土			
	a-b	ST385614	1 暗灰色砂質土 2 黄灰色土			
	c-d		1 灰色粘砂 2 淡黄灰色粘砂			
	e-f		1 暗黄灰褐色土(橙斑混)			
	g-h		1 暗黄灰色粘砂 2 紫灰色粘砂			
	i-j		1 淡黄灰色土 2 濃黄灰褐色土			
	k-l		1 黄灰色砂質土 2 灰褐色砂質土 3 淡灰色土 4 淡黄灰色土 5 淡黄灰色土(黄味強)			
	m-n		1 暗紫灰色砂質土(マンガン多含) 2 暗灰色粘砂 3 灰黄色粘砂 4 淡黄灰色粘砂			
a-b	ST385615	1 黄褐色粘砂 2 青黄灰色粘砂				
c-d		1 暗灰褐色粘砂 2 黄灰色粘砂				
e-f		1 暗灰褐色粘砂 2 灰色粘砂				
g-h		1 淡黄茶灰色粘砂				
i-j		1 暗灰色粘砂 2 淡緑黄灰色粘砂				
	k-l		1 淡灰色粘砂			
	a-b	ST385616	1 暗灰色土 2 淡黄灰色粘砂			
	c-d		1 暗黄灰色粘砂 2 暗灰色粘砂 3 黄灰色粘砂			
	e-f		1 暗灰色土 2 淡黄灰色粘砂			
	g-h		1 暗灰色粘砂 2 暗黄灰色粘砂			
	i-j		1 黄褐色粘砂 2 灰褐色粘砂 3 暗灰色粘質土 4 暗黄灰色粘質土			
	k-l		1 黄褐色粘砂 2 暗黄褐色粘砂 3 暗灰褐色粘砂 4 灰色粘砂 5 灰褐色粘砂 6 暗灰色粘質土 7 淡黄灰色粘質土			
	a-b	ST385336	1 暗紫灰褐色砂質土 2 暗灰色粘砂 3 黄灰色粘砂			
	c-d		1 暗褐色砂質土 2 淡黄灰色粘砂 3 淡黄灰褐色粘砂 4 暗褐色粘質土			
4	a-b	ST384115	1 黄褐色粘質土(小礫混) 2 淡褐灰色砂質土(小礫混) 3 褐灰色粘質土(小礫混) 4 暗褐灰色粘質土(小礫混) 5 暗褐灰色土(小礫混) 6 暗褐灰色土(小礫・砂多) 7 褐灰色粘質土 8 褐灰色土 9 黄褐色粘質土(きめ細かい) 10 暗黒褐色粘質土 11 暗褐色粘質土(淡黄色シルト塊) 12 暗褐色粘質土 13 灰色砂(礫混) 14 灰色粘質土(小礫・砂質土混) 15 灰色粘質土 16 暗灰色土 17 灰色砂質土 18 明緑灰色砂質土			
	c-d		1 黄褐色粘質土(小礫混) 2 淡褐灰色土(小礫混) 3 淡褐灰色土 4 淡褐灰色粘質土 5 淡褐灰色粘質土 6 淡暗褐色粘性土 7 淡緑灰色粘性土 8 明緑灰色シルト 9 淡灰色シルト 10 暗淡灰色シルト 11 淡灰色シルト			
	e-f		1 黄灰色粘質土(砂粒混) 2~7 記載なし 8 暗褐色粘質土 9 灰色粘土砂 10 淡暗灰色粘質土 11 淡緑灰色シルト 12 灰色砂			
	g-h		1 茶褐色土(粗砂質礫混) 2 茶褐色土(灰色粗砂混) 3 茶褐色土(淡灰色粗砂混) 4 茶褐色土(粗砂・小礫混)			

土層名一覽表

		5	暗褐色土(シルト混)			2	暗灰褐色土(有機質)
		6	暗褐色土(泥土混)			3	黒褐色腐植土(有機質)
		7	暗褐色土(シルト・砂・小礫混)			4	灰色砂
		8	暗褐色粘質土		2	SD337007	1 暗灰褐色粘質土(有機質)
		9	暗褐色土(微砂混)				2 黒褐色腐植土
		10	暗褐色土(砂質土混)				3 灰色砂
a-b	ST384114	1	茶褐色土(礫混)				4 暗灰色砂
		2	黄褐色土(灰色土混)		3	SD303012	1 茶灰色土
		3	黄褐色土				2 黄褐色土
		4	灰色泥土(礫混)				3 黄灰色粘質土
		5	淡黄灰色粗砂				4 褐灰色粘質土
		6	灰褐色砂礫(泥土混)				5 黄灰色粘質土
		7	暗灰色土				6 褐灰色粘質土
		8	暗灰色粘質土(礫混)				7 青灰色粘土
		9	淡黄灰色シルト				8 黄色粘質土
		10	暗灰色粗砂		4	SD303012	1 茶灰色土
		11	灰色砂(小砂礫混)				2 茶灰色土
c-d		1	茶褐色土(砂礫混)				3 茶灰色土
		2	灰黄色土				4 黄灰色粘質土
		3	暗黄灰色土				5 褐灰色粘質土
		4	茶褐色土(灰色砂礫混)				6 黄色粘質土
		5	暗黄灰色土(茶色強い)		5	SD336012	1 暗灰褐色砂質土
		6	暗灰褐色シルト				2 暗紫灰褐色土(粘強)
		7	暗黄灰色粘粗砂質土(砂強)				3 暗紫灰褐色土
		8	暗黄灰色粘粗砂質土				4 暗黄灰色砂質土(焼土多含)
		9	暗灰色粘質土				5 黄褐色粘質土
		10	暗灰色粘質土(砂礫混)				6 暗灰色粘質土(炭多量含)
		11	暗灰色土(砂礫多)				7 灰褐色粘質土
		12	暗灰色シルト				8 淡紫灰色粘質土
e-f		1	茶褐色土(小礫混)				9 灰色シルト(炭混)
		2	淡褐色粘質土				10 黄灰褐色粘質土(マンガン含)
		3	淡緑灰色土(小礫混)				11 茶灰色混粘質土
		4	淡緑灰色粘質土				12 淡茶灰色砂混粘質土
		5	黒灰色泥土		6	SD303011	1 褐灰色粘質土
		6	淡黄灰色砂粒				2 褐色砂質土
		7	淡黒灰色砂粒				3 茶灰色土
		8	暗褐色土(礫多)				4 暗褐色土(灰色土混)
		9	暗褐色砂質土				5 褐色砂質土
g-h		1	暗茶灰色土(礫・砂混)				6 褐色砂質土
		2	黄灰色砂粒				7 暗灰色土
		3	暗褐色土(礫多)				8 暗褐色土
		4	黄灰色砂礫				9 黄褐色土
a-b	ST384118	1	暗茶灰色土(礫・砂混)				10 灰色粘質土
5							11 灰色砂質土
	SK336015	1	暗灰色粘土(炭含)				12 灰色シルト
		2	乳灰色粘土		7	SD303011	1 暗黄褐色・暗灰色シルト
	SK336169	1	暗茶褐色粘質土(マンガン多)				2 明黄灰色シルト(褐色斑粒含)
		2	焼土炭層(地山土塊多)				3 明黄灰色シルト(粘土分含)
		3	灰褐色粘質土				4 明黄灰色シルト(褐色斑粒含)
		4	灰色シルト				5 灰白色シルト+粘土
a-b	SK334037	1	黄褐色細砂質土				6 黄灰白シルト(地山土崩落土)
c-d		2	黄褐色細砂質土		8	SD303011	1 暗黒灰色シルト
		3	灰黄色微細砂質土				2 灰黄褐色シルト
	SK333006	1	暗青黄褐色粉砂				3 灰黄褐色砂
		2	灰褐色砂質土				4 黄白色粘土+砂
		3	黄灰褐色砂質土		9	SD361168	1 暗灰色土
	SK336016	1	黄灰褐色砂質土				2 暗灰色砂
	SK385613	1	黄褐色土				3 暗灰色砂+粘土のラミナ
6	ST385619	1	横褐色砂質土				4 暗灰色砂+粘土のラミナ(ラミナ細)
	ST363113	1	淡灰色粘土(暗灰色土混)				5 暗灰色土
	ST385614	1	黄褐色土				6 暗灰色砂混粘質土
	SK385552	1	淡黄灰色砂泥				7 暗灰色砂質土
		2	淡黄褐色砂質土				8 暗灰色礫混粘質土
		3	黄灰色粘質土				9 暗灰色粘質土(砂・礫混)
		4	灰黄色粘質土		10	SD361168	1 灰色砂礫
		5	1・2層混合土				2 暗灰色粘質土
		A	暗灰色粘質土		11	SD303010	1 暗黄灰色砂質土
		B	灰色粘質土				2 暗灰褐色土
7	1	SD337010	1 暗灰色粘砂				

		3 暗灰色粘質土(炭多含) 4 暗灰色粘質土(炭多含) 5 灰色砂混粘質土 6 灰色粘質土 7 暗青灰色粘質土 8 黄灰色粘質土 9 黄灰色粘質土 10 青灰色砂	8	1	SD303008	1 濁灰黄褐色砂 2 暗灰色細砂 3 灰褐色粗砂 4 黄橙褐色砂+灰色細砂 5 黒灰色シルト+暗灰色粘土 6 暗灰色粗砂 7 灰色シルト 8 灰色砂 9 暗灰色シルト 10 灰色砂 11 濁灰色細砂 12 濁灰色細砂 13 濁灰色粗砂 14 暗灰色粗砂 15 暗灰色粗砂 16 黒灰色粗砂 17 濁灰色砂質土 18 濁灰白色砂(ミナ) 19 濁黄灰褐色粗砂
12	SD361162	1 紫灰色礫砂質土 2 暗灰色礫混土 3 暗灰色礫混粘質土 4 暗灰色砂質土 5 暗灰色砂礫混粘質土 6 緑灰色砂 7 灰色土 8 灰色粘質土 9 緑灰色小礫混砂質土 10 灰色礫混砂質土 11 灰色礫混砂質土 12 灰色礫混砂質土 13 緑灰色砂礫(砂礫径7mm) 14 灰色土 15 緑灰色礫混砂質土 16 緑灰色砂質土 17 暗灰色土 18 暗灰色砂混粘質土(炭多含) 19 暗灰色礫混土 20 暗灰色砂礫混粘質土		2	SD303008	1 暗茶灰褐色砂質土(マンガン多) 2 濃黄灰褐色砂質土(マンガン多) 3 淡黄灰褐色砂質土(マンガン多) 4 黄灰褐色砂質土(マンガン多) 5 淡灰色シルト 6 灰色シルト 7 淡灰色砂 8 黄灰褐色礫混砂 9 淡灰色砂質土 10 淡灰色砂 11 灰色シルト(炭少含) 12 灰色砂質土 13 淡青灰色シルト 14 暗灰色砂質土 15 暗灰色シルト 16 淡灰色シルト 17 淡灰色砂質土(炭少含) 18 濁暗青灰シルト(淡灰色粘土小土塊含) 19 暗灰色粘質土(炭・遺物細片含) 20 淡黄灰色砂質土(炭少含) 21 暗灰色砂質土 22 淡黄灰色砂 23 暗灰色砂質土(炭少含) 24 淡青灰色砂質土 25 暗青灰色シルト 26 濁黄灰色砂(黄色砂と暗灰色砂粗ミナ) 27 暗黄灰色砂質土 28 暗青灰色質土(淡黄色粘土小土塊少含) 29 暗灰色礫混砂質土(淡黄色粘土小土塊多含) 30 淡黄灰色砂(マンガン含) 31 黄灰色砂(炭若干マンガン含) 32 暗灰色砂質土 33 暗灰色砂
13	SD362162	1 暗黄褐色小礫混砂質土 2 紫褐色砂質土(砂礫混) 3 紫褐色砂質土(黄味がかる) 4 紫褐色礫混砂質土(マンガン多) 5 黄褐色小礫混砂質土 6 暗灰色砂混粘質土 7 灰色砂 8 暗灰色砂混シルト 9 褐色土 10 暗灰色礫混土 11 灰褐色砂礫 12 暗茶灰色礫混砂質土(礫多) 13 暗黄灰色礫混砂質土 14 灰色礫混砂質土 15 暗茶灰色礫混砂質土 16 暗灰色礫混砂質土 17 暗青灰色礫混土 18 暗青灰色礫混粘質土		2下	SD303007	1 濁暗灰橙褐色粘砂 2 濁灰色シルト 3 濁暗青灰色粘土 4 淡灰褐色砂質土 5 淡青灰色シルト 6 暗灰色砂 7 暗灰色砂
14	SD362162	1 黄褐色礫混砂質土 2 黄灰褐色粘質土 3 暗灰色粘質土 4 灰色粘質土 5 灰色砂 6 灰色礫混土 7 灰褐色+礫混砂質土 8 灰色礫混砂質土 9 暗灰色粘質土(礫少量含)		3	SD303008	1 暗茶灰褐色砂質土(マンガン多含) 2 暗黄灰褐色砂質土(マンガン多含) 3 暗青灰色シルト 4 淡灰色礫混砂質土 5 暗灰褐色砂質土 6 黄灰褐色砂質土 7 灰白色シルト 8 灰白色砂質土 9 淡黄灰色砂質土
15	SD303009	1 暗灰黒褐色砂 2 暗灰褐色砂 3 暗灰褐色シルト 4 暗褐色シルト 5 暗灰褐色シルト 6 灰色粘土+シルト 7 暗灰褐色砂 8 暗灰色細砂(砂緻密)				
16	SD329009	1 灰色砂礫 2 暗灰色砂混粘質土				
17	SD329009	1 淡黄灰色砂礫混粘土(整地) 2 灰色シルト-粘土(ミナ状の堆積) 3 暗灰色粘土-灰色細礫(ミナ状)				

土層名一覧表

4	SD303007	10	黄褐色砂質土(マンガン多含)	9	15	SD385601	1	淡灰色粘砂質土
		11	淡灰色砂質土				2	灰色粘質土
		12	灰褐色砂質土(粗砂・小礫多含)		3	灰色粘質土(黄色土塊含)		
		13	暗茶灰褐色砂質土(黄色粘土塊・マンガン粒多含)		4	淡黄灰色粘質砂(灰色土塊含)		
		14	暗灰褐色砂質土(黄色粘土塊・マンガン粒・小礫含)		16	SD363104	1	茶褐色混淡灰色土
		1	濁茶灰褐色砂質土		1	二条条間	1	茶灰色土
		2	茶灰褐色砂質土		2	大路北側	2	黄色混灰色土
		3	黄灰褐色砂質土		3	溝	3	黒灰色粘土
		4	濁黒灰褐色粘砂		(SD33003)		4	淡黒灰色混灰白色粘土(足痕による堆積)
		5	淡灰褐色シルト				5	灰白色粘土
		6	淡黄灰色シルト		2		1	黄色混灰色土
		7	濁黄灰色砂礫土				2	淡黄褐色土
		8	淡灰褐色粘質土(灰褐色シルト)				3	淡灰色混黄褐色砂
		9	灰褐色礫混粘砂				4	淡灰色混黄褐色土
		10	淡灰褐色礫混粘砂				5	黒灰色土
		11	暗青灰褐色礫混砂質土				6	黒灰色粘土
		12	濁灰褐色粘砂(暗灰色粘土土塊含)				7	黒灰色混灰白色粘土(足痕による堆積)
		13	暗黄灰褐色砂質土				8	淡黒灰色混灰白色粘土(足痕による堆積)
		14	淡黄褐色粘質土		3		1	淡黄色混淡灰色砂
		15	暗灰褐色粘砂				2	淡灰色混黄褐色砂
		16	暗黄灰褐色砂質土				3	黄色混灰色土
		17	黄灰褐色粘砂				4	淡灰色混黄褐色土
		18	暗灰褐色礫混粘砂				5	黄色混淡灰色砂(軟らかい)
		19	濁暗灰褐色粘砂(暗灰色粘)				6	黄褐色土(硬い)
20	淡灰褐色砂(粗砂)			7	黒灰色粘土			
21	灰褐色粘砂(細礫含)			8	黒灰色粘土(やや黄色混)			
22	淡灰褐色粘砂(土器片含)			9	黒灰色混灰白色粘土(足痕による堆積)			
23	濁黄灰褐色砂(粗砂)			10	淡黒灰色混灰白色粘土(足痕による堆積)			
24	濁黄灰褐色砂	4		1	淡黄色混淡灰色砂			
5	SD385606 SD385611	1	濁灰茶褐色砂質土	2	淡灰色混黄褐色砂			
		2	灰橙褐色砂	3	淡灰色混黄褐色土			
		3	濁灰色粘土	4	暗茶褐色混黄褐色土			
		4	暗濁灰褐色砂質土	5	黄色混灰色土			
		5	暗褐色砂	6	黒灰色粘土			
		6	濁灰色シルト+灰色粘土	7	黒灰色混灰白色粘土(足痕による堆積)			
6	SD385606	1	濁暗灰色砂質土	8	淡黒灰色混灰白色粘土(足痕による堆積)			
		2	濁灰色粘土	5				
7	SD385611	1	暗灰黒褐色シルト	1	淡黄色混淡灰色砂			
		2	灰黄褐色砂質土	2	淡灰色混黄褐色砂			
		3	灰褐色粘土+黒褐色シルト	3	黄色混灰白色土			
		4	濁灰色粘土	4	淡灰色混黄褐色土			
8	SD385606	1	黒灰色砂質土	5	淡灰色土			
		2	灰黒褐色砂	6	黄褐色土(硬い)			
		3	灰黄褐色粘質土	7	黒灰色粘土			
		4	暗橙褐色砂質土	8	黒灰色混灰白色粘土(足痕による堆積)			
		5	灰褐色粘質土	9	淡黒灰色混灰白色粘土(足痕による堆積)			
9	SD385603	1	濁灰黄褐色シルト	10	暗灰色混黄褐色土			
		2	濁暗灰黄褐色粘土	6				
		3	明黄褐色粘質土(灰色シルト粒含)	1	灰色砂			
10	SD385603	1	濁灰黄褐色シルト+細砂	2	淡黄色混淡灰色砂			
		2	濁灰褐色粘土	3	淡灰色土			
		3	明黄褐色粘質土(灰色シルト含)	4	淡灰色土			
11	SD385601	1	灰白色シルト(マンガン沈着)	5	黄色混灰白色土			
		2	灰褐色シルト+粘質土(鉄分沈着)	6	淡灰色混黄褐色砂			
		3	灰黒褐色粘質土	7	淡灰色混黄褐色土			
		4	灰黒色粘土+シルト	8	黒灰色粘土			
		5	灰黒褐色砂	9	灰白色粘土			
12	SD385601	1	淡黄灰色砂質土	10	黒灰色混灰白色粘土(足痕による堆積)			
		2	淡紫灰色粘砂質土	7				
		3	紫灰色砂混粘質土	1	淡黄色混淡灰色砂			
13	SD385601	1	淡紫灰色粘砂質土	2	淡灰白色土			
		2	暗灰色砂混粘質土	3	淡灰色混黄褐色土			
		3	灰色粘質土混(黄灰色土混)	4	灰色砂			
		4	黄灰色粘質土(灰色土混)	5	黒灰色粘土			
14	SD385601	1	淡灰色砂質土	6	淡黒灰色混灰白色粘土(足痕による堆積)			
		2	暗灰色粘質土	7	黒灰色混灰白色粘土(足痕による堆積)			
		3	黄褐色粘質土	8	灰白色粘土			
		4	黄灰色粘質土	8				
				1	淡黄色混淡灰色砂			
				2	淡黄褐色土			
				3	黄褐色土(硬い)			
				4	灰色砂			

		5 淡灰色混黄褐色土			3 暗青灰色粘土
		6 黒灰色粘土			4 暗灰色極細砂+シルト
		7 黒灰色混灰白色粘土(足痕による堆積)			5 暗灰色+淡黄褐色粘土
		8 淡黒灰色混灰白色粘土(足痕による堆積)			6 黄褐色粘土
		9 灰白色粘土	19		1 灰黄褐色細砂
9		1 淡黄色混淡灰色砂			2 灰黄褐色極細砂+シルト
		2 黄褐色土(硬い)			3 暗青灰色粘土
		3 淡灰色混黄褐色土			4 濁緑灰色粘土
		4 灰色砂			5 黄褐色粘土
		5 黄色混灰白色土	20		1 黄褐色砂礫+灰白色砂
		6 黒灰色粘土			2 黄褐色砂礫(マンガン含)
		7 黒灰色混灰白色粘土			3 1.2.の中間的色調の土
		8 灰白色粘土			4 黄褐色砂+灰色粘質土
10		1 淡黄色混淡灰色砂			5 暗灰色褐色粘質土+黄色シルトか土塊
		2 淡灰色混黄褐色砂			6 明橙褐色を含む明黄褐色砂
		3 淡灰色混黄褐色土			7 暗黄褐色砂
		4 淡灰色土			8 暗青灰色粘土(黒色有機質)
		5 黄色混淡灰色砂(軟らかい)			9 暗黄褐色砂
		6 黄褐色土(硬い)			10 暗青灰色粘土+暗褐色シルト塊
		7 黒灰色粘土			11 灰白色粘土
		8 黒灰色混灰白色粘土(足痕による堆積)	21		1 黄褐色砂礫(マンガン含)
		9 淡黒灰色混灰白色粘土(足痕による堆積)			2 暗灰色褐色粘質土+黄色シルトか土塊
		10 灰白色粘土			3 暗黄褐色砂
11		1 淡黄褐色土			4 暗青灰色粘土(黒色有機質)
		2 淡黄灰色土(茶褐色斑混)			5 暗青灰色粘土+黄色シルトか土塊
		3 茶褐色土			6 暗青灰色粘土+灰白色粘土塊
		4 黒色粘土(灰白色粘土混)			7 灰黄白粘質土+粘土
		5 灰白色粘土(黒色粘土混)	22		1 黄褐色砂礫(マンガン含)
12		1 淡黄褐色土			2 灰白色粘土
		2 淡黄褐色土(茶褐色斑混)			3 灰白色粘質土
		3 淡黄灰色土(茶褐色斑混)			4 灰黄白粘質土+粘土
		4 茶褐色土			5 暗青灰色粘土(黒色有機質)
		5 灰白色混黒色粘土			6 灰白色粘土
		6 黄茶色土	23		1 黄褐色砂礫(マンガン含)
		7 黒色混灰白色粘土			2 暗青灰色粘土+暗褐色シルト塊
13		1 淡黄褐色土			3 暗青灰色粘土+黄色シルトか土塊
		2 淡黄褐色土(茶褐色斑混)			4 暗青灰色粘土(黒色有機質)
		3 淡黄灰色土(茶褐色斑混)			5 暗青灰色粘土+灰白色粘土塊
		4 茶褐色土			6 灰白色粘土
		5 黒色粘土(灰白色粘土混)			7 灰白色粘質土(所々粘土含)
		6 黒色混灰白色粘土	24		1 黄褐色砂礫+灰白色砂
14		1 淡灰色土			2 黄褐色砂礫(マンガン含)
		2 淡黄灰色土			3 明橙褐色を含む明黄褐色砂
		3 淡灰褐色土			4 暗青灰色粘土+暗褐色シルト塊
		4 黄灰色砂混粘質土			5 暗青灰色粘土(黒色有機質)
		5 黄灰色粘質土			6 暗青灰色粘土+黄色シルトか土塊
		6 青灰色粘質土	25		1 黄褐色砂礫+灰白色砂
15		1 淡灰色土			2 黄褐色砂礫(マンガン含)
		2 黄褐色土			3 明橙褐色を含む明黄褐色砂
		3 黄灰色粘質土			4 暗黄褐色砂
		4 紫灰色粘質土			5 暗青灰色粘土+暗褐色シルト塊
		5 紫灰色礫混粘質土	26		1 黄褐色砂礫(マンガン含)
16		1 灰黄褐色細砂+砂			2 暗褐色砂礫+暗灰色粘質土塊
		2 黒炭色有機質土			3 明橙褐色土+明黄褐色砂
		3 灰褐色砂+細砂			4 暗黄褐色砂
		4 灰黄褐色極細砂+シルト			5 暗青灰色粘土+暗褐色シルト塊
		5 灰黄褐色細砂+砂			6 暗黄褐色砂
		6 暗青灰色粘土+極細砂			7 暗青灰色粘土(黒色有機質)
		7 濁緑灰色粘土+砂粒(2mm大)	27		1 黄褐色砂礫(マンガン含)
17		1 灰黄褐色細砂			2 暗褐色砂礫+暗灰色粘質土塊
		2 灰黄褐色極細砂+シルト			3 暗褐色砂礫(やや明黄褐色)
		3 暗灰黄褐色極細砂+シルト			4 暗黄褐色砂
		4 灰黄褐色極細砂+シルト			5 暗青灰色粘土(黒色有機質)
		5 暗灰色極細砂+粘土			6 灰白色粘土
		6 暗青灰色粘土	28		1 黄褐色砂礫(マンガン含)
		7 濁緑灰色粘土			2 暗褐色砂礫+暗灰色粘質土塊
18		1 灰黄褐色細砂			3 暗褐色砂礫(やや明黄褐色)
		2 灰黄褐色極細砂+シルト			4 暗青灰色粘土(黒色有機質)

土層名一覽表

10	29		5	暗青灰色粘土+灰白色粘土塊	9		1	淡茶灰色礫混砂質土		
			6	明黄褐色砂(明橙褐色土混)			2	淡黄茶灰色礫混砂質土		
			7	灰白色粘質土			3	淡黄茶灰色礫混砂質土(粘質土も含)		
			8	杭痕(青灰色シルト)			4	黄茶色砂礫		
			1	淡緑灰褐色砂質土(細砂)			5	灰色礫混シルト(ヲミ)		
			2	淡灰褐色砂質土(極細砂)			6	暗灰色礫混砂		
			3	暗灰色混淡灰褐色砂質土			7	暗灰色礫混シルト		
			4	暗灰色砂質土(黄色土塊多)			8	黄灰色砂礫		
	30		5	暗灰色砂質土(黄色土塊少)	10		1	淡茶灰色礫混砂質土		
			6	淡青灰色砂質土(細・極細砂)			2	淡黄茶灰色礫混砂質土		
			7	淡青灰色砂質土(シルト-極細砂)			3	淡黄茶灰色礫混砂質土(礫多)		
			8	淡青灰色砂質土(細砂)			4	黄茶灰色礫混砂質土		
			1	淡緑灰褐色砂質土(細砂)			5	淡黄灰色砂(粘土混)		
			2	灰色砂質土(細砂-極細砂)			6	淡茶灰色粘質土		
	1	二条条間 大路南側 溝 (SD33002)	3	暗灰色砂質土(細砂)	11		7	淡茶灰色砂		
			4	淡灰色砂質土(細砂-極細砂)			8	暗灰濁色砂礫		
			5	淡灰褐色(極細砂)			9	淡灰色礫混シルト		
			6	暗灰色混淡黄灰色土(シルト混)			10	暗灰色砂礫		
			1	黄灰色土			11	暗灰色砂礫混シルト		
			2	黄灰色土+明黄色土塊			12	暗黄灰色砂(ヲミ)		
			3	淡灰粘質土			12		1	淡茶灰色礫混砂質土
			4	黄灰色土+暗灰色粘質土					2	淡灰褐色礫混砂質土
	5	暗灰色粘質土+黄色粘土塊	3	淡黄灰色粘土混砂礫						
	6	暗灰色粘質土+灰色砂質土	4	淡灰褐色礫混砂質土						
	7	暗灰色粘土(砂質多い)	5	淡黄灰色礫混シルト						
	8	暗灰色粘土	6	淡灰色礫混粘質土						
	2		1	黄灰色土+明黄色土塊	7	灰色砂礫				
			2	淡灰粘質土	8	暗灰色砂礫混シルト				
			3	暗灰色粘質土+明黄色土塊	9	暗灰色砂(マトリックスに粘質土やや多)				
4			暗灰色粘質土(灰色砂質土混)	13		1			淡灰褐色礫混砂質土	
5			暗灰色粘土(ざらざら)			2	淡茶灰色礫混砂質土			
6			暗灰色粘土			3	淡灰褐色礫混粘質土(1に類似)			
7			白灰色粘土			4	淡茶灰色礫混砂質土			
3		1	黄灰色土			5	灰褐色砂質土			
		2	黄灰色土+明黄色土塊			6	淡茶灰色砂質土			
		3	暗灰色粘質土+黄色粘土塊			7	淡黄灰色礫混シルト			
		4	暗灰色粘質土(灰色砂質土混)			8	淡灰色礫混シルト			
		5	暗灰色粘質土(灰色砂質土多)			9	暗灰色砂礫			
		6	暗灰色粘土			10	暗灰色砂礫混シルト			
4		1	黄灰色土+明黄色土塊	14		1	暗カ <sup>テ</sup> 褐色砂質土			
		2	淡灰色粘質土			2	灰褐色粗砂			
		3	暗灰色粘質土+黄色粘土塊			3	灰褐色粗砂+シルト			
		4	暗灰色粘土+灰色砂質土			4	黒灰色粘土(砂礫粒含)			
		5	暗灰色粘土(砂質多)			5	暗灰色粘土(砂礫流入)			
		6	暗灰色粘土(小礫混)			6	黒灰色砂			
		7	暗灰色粘土	15		1	黄灰白色砂礫			
5		1	暗灰色土+黄色粘土塊			2	橙褐色砂礫			
		2	黄灰色粘質土			3	灰白色細砂+粗砂			
		3	暗灰色粘質土(灰色砂質土混)			4	灰白色粗砂			
		4	暗灰色粘質土+黄色粘土塊			5	黒灰色砂礫(1-1.5cm垂角礫)			
		5	暗灰色粘土			6	砂礫(主に礫)			
		6	淡灰色粘質土			7	濁灰褐色砂礫(2cmの垂角礫)			
6		1	黄灰色土+明黄色土塊			8	濃青灰色粘土+粒界に細砂			
		2	淡灰色粘質土	16		1	暗茶灰褐色砂			
		3	黄灰色土+明黄色土塊			2	明黄灰色砂(鉄分沈着)			
		4	ブロック			3	灰色粘土			
		5	暗灰色粘質土+明黄色土塊			4	暗灰色粘土			
		6	黄灰色粘質土+暗灰色粘質土			5	濃灰色粘土+砂混土			
		7	暗灰色粘質土+黄色粘土塊			6	灰色砂(粗い)			
		8	暗灰色粘土	17		1	黄灰色砂			
		9	淡灰色粘質土			2	灰白色シルト			
1	黄茶色土	3	暗灰色シルト+砂礫							
7		2	黒色粘土	18		1	濁灰色細砂+シルト			
		3	黒灰色粘質土			2	濁灰色(緑がかる)シルト+粘土			
		1	黄茶色土			3	濁暗灰色シルト+粘土			
		2	黒色混灰白色土			4	濁青緑灰色シルト+粘土			
8		3	黒色粘土	5	緑灰色粘土					
		4	黒灰色粘質土	1	黄褐色砂					

		2	濃灰色シルト+粘土
		3	濃灰色シルト+細砂
		4	暗灰色シルト(濁灰色粘土塊(1cm大)混)
		5	暗灰色砂+細砂
		6	暗濁緑灰色粘土
19		1	灰褐色砂(粗砂+細砂)
		2	灰褐色砂
		3	灰黄褐色粘質土(シルト+粘土)
		4	灰黄褐色細砂
		5	暗灰色粘質土(砂+粘土)
		6	暗灰色粘質土(シルト+粘土)
		7	暗青灰色細砂
		8	暗青灰色シルト+緑灰色粘土塊(1cm角)
		9	濁緑灰色粘質土(極細砂シルト)
20		1	暗紫灰褐色砂質土
		2	灰褐色砂質土
		3	灰色シルト+細砂
		4	濃青灰色土
		5	濃灰褐色粘土+細砂
		6	暗灰色シルト+細砂
21		1	暗紫灰褐色砂質土(マンガン含)
		2	黄灰色土
		3	濃灰色土
		4	暗灰色土
		5	淡灰色土
		6	暗灰褐色砂質土
		7	淡黄灰色粘質土
		8	暗青灰色粘質土
		9	灰色砂混粘質土
22		1	暗橙灰色砂質土
		2	紫灰褐色砂質土
		3	暗灰褐色砂質土(マンガン多)
		4	紫灰色砂質土(近世土坑)
		5	暗褐色砂質土
		6	淡黄褐色粘質土
		7	淡黄灰色粘質土
		8	暗灰色粘質土
		9	濃灰色粘質土
23		1	暗灰褐色砂質土
		2	暗紫灰褐色土
		3	灰褐色土
		4	暗灰色粘質土
		5	暗橙濁色粘質土(地山土に類似)
		6	暗灰色粘質土
24		1	暗紫灰色砂質土(マンガン多)
		2	暗灰褐色土(マンガン多)
		3	暗黄灰褐色土
		4	暗灰色土
		5	淡灰褐色粘質土
25		1	黄茶灰色砂質土(マンガン含)
		2	灰褐色土(マンガン多)
		3	黄灰色土
		4	暗灰色粘質土(有機物含)
		5	淡黄灰色粘質土
		6	明灰色粘質土
26		1	黄茶灰色砂質土(マンガン含)
		2	灰褐色砂質土(マンガン多)
		3	茶灰色土
		4	暗灰色粘質土(塊状に入る)
		5	淡茶褐色粘質土
27		1	暗紫褐色砂質土(マンガン大量)
		2	灰色粘質土
		3	暗灰色粘質土
		4	淡黄灰色粘質土
28		1	暗紫灰色砂質土(マンガン多)
		2	黄灰色土
		3	灰色土
		4	暗灰色粘質土

			5	淡緑黄灰色土(暗灰色土塊混)
29			1	暗紫灰色砂質土(マンガン多)
			2	暗灰褐色砂質土(暗灰色粘質土塊含)
			3	暗灰色粘質土(直径3cm小礫)
			4	淡黄灰色粘質土
30				記載なし
31			1	淡緑灰色砂質土
			2	淡緑灰褐色砂質土
			3	暗青灰色砂質土+赤褐色砂質土(細砂-極細砂)
			4	暗灰色砂質土(シルト-極細砂)
			5	暗灰色砂質土(シルト・1-2cm大黄色土塊含)
			6	淡灰色砂質土(細砂-極細砂)
32			1	淡緑灰色砂質土
			2	淡緑灰褐色砂質土
			3	暗青灰色砂質土+赤褐色砂質土(細砂-極細砂)
			4	暗青灰色砂質土(細砂-極細砂)
			5	淡灰色砂質土(細砂-極細砂)
11	1	二条条間 北小路北 側溝 (SD362101)	1	淡黄褐色土
			2	灰白色混淡黄褐色土
			3	淡茶灰色土
			4	淡茶褐色土
	2		1	淡黄褐色土
			2	灰白色混淡黄褐色土
			3	淡茶灰色土(灰白色砂混)
			4	淡黄灰色土
	3		1	淡黄褐色砂混土
			2	淡黄褐色土
			3	淡黄灰色土
	4		1	淡黄褐色砂混土
			2	淡黄褐色土
			3	淡茶灰色土
			4	淡黄灰色土
			5	灰色土(茶黄色少量混)
			6	淡茶褐色土
	5~9			記載なし
	10	二条条間 小路南側 溝 (SD362102)	1	灰黄褐色砂質土
			2	灰褐色シルト
	11		1	灰黄褐色砂質土
			2	灰褐色シルト
			3	暗灰褐色シルト
			4	暗灰黄褐色粘質土
	12		1	灰褐色シルト
			2	暗灰黄褐色粘質土
	13		1	灰黄褐色砂質土
			2	灰褐色シルト(黄白色砂混)
			3	暗灰褐色シルト(黄白色砂混)
			4	暗灰黄褐色粘質土
	14		1	灰黄褐色砂質土
			2	灰褐色シルト
			3	暗灰褐色シルト
			4	暗灰黄褐色粘質土
	15		1	淡茶褐色土
			2	黄色混灰白色土
			3	灰白色土(茶色斑混)
			4	灰白色土(茶色斑少量混)
	16		1	淡茶褐色土
			2	淡茶灰色土
			3	明茶褐色土
	17		1	淡茶褐色土
			2	淡茶灰色土
			3	明茶褐色土
	18		1	淡茶灰色土
			2	淡灰色土
	19		1	淡茶灰色土
			2	淡灰色土
	20		1	淡茶褐色土
			2	淡茶灰色土

土層名一覽表

21		1 淡茶褐色土 2 淡茶灰色土 3 淡灰色土			3 茶褐色土(黄色砂混) 4 茶褐色土(灰色土混) 5 灰色土(茶褐色土混)
22	東三坊大路西側溝 (SD330001)	1 淡灰黄色砂質土 2 暗灰黄色粘質土 3 暗黄色粘質土	14	SD362201	1 淡黄褐色砂 2 茶褐色土(黄色砂混) 3 茶褐色土(灰色土混) 4 灰色土(茶褐色土混)
23		1 淡灰黄色粘質土 2 淡黄灰色シルト 3 淡灰色砂質土(マンガン多含) 4 灰黄色粘質土 5 淡黄灰色粘質土 6 淡黄灰色細砂 7 明灰色粘質土 8 黄灰色粘質土 9 暗黄灰色粘質土	15	SD333004	1 灰黄褐色砂質土 2 明橙褐色砂質土 3 灰白色シルト+細砂(酸化鉄沈着) 4 暗黒褐色砂質土 5 暗灰色シルト+粘土
24		1 淡灰黄色粘質土 2 淡青灰色粘質土 3 淡青灰色シルト-細砂 4 淡青灰色粘質土(やや砂質)	16	SD333004	1 黄褐色砂質土+黒褐色斑粒(マンガン沈着) 2 明黄褐色粘質土 3 黄褐色砂+黒褐色斑粒(マンガン沈着) 4 灰色細砂+シルト 5 灰色粘土+シルト
25		1 淡青灰色粘質土 2 淡青灰色シルト-細砂 3 淡黄灰色粘質土 4 淡灰黄色粘質土(やや淡)	17	SD333004	1 明灰褐色砂質土 2 淡黄灰色土(黒斑混) 3 明黄灰色粘質土 4 黄混暗灰色粘質砂 5 淡灰褐色粘土
26		1 淡灰黄色粘質土 2 淡青灰色シルト-細砂	18	SD385229	1 濁灰黄褐色砂 2 灰黄色粘質土
27		1 淡灰黄色粘質土 2 淡黄灰色粘質土 3 灰黄色砂質土 4 淡青灰色砂 5 淡灰綠色粘土	19	SD385229	1 灰黄褐色砂 2 明青灰色粘質土+シルト
28		1 淡灰黄色粘質土 2 淡乳灰色粘質土 3 淡青灰色粘土 4 淡青灰色シルト-細砂	20	SD385229	1 灰黄褐色粘質土+砂質土 2 灰色粘土+シルト 3 暗灰色粘土
29		1 淡灰黄色粘質土 2 淡青灰色粘質土	21	SD385229	1 黒褐色砂 2 灰褐色砂質土 3 灰色粘質土 4 灰黄褐色粘質土
30		1 灰褐色砂質土 2 淡茶灰色砂混シルト 3 灰色シルト 4 灰色シルト 5 淡黄灰色粘質土 6 淡青灰色シルト 7 淡茶灰色粘質土	22	SX385322	1 灰橙褐色粘質土(2-4cm大円礫) 2 暗灰色粘土(2-3cm大角礫) 3 暗灰色粘土+シルト(2-4cm大円礫多) 4 暗灰色粘土+橙褐色固結土(1-1.5cm大重円礫含) 5 暗青灰色粘土(円礫等含まず)
31		1 淡灰黄色粘質土 2 淡青灰色粘質土	23	SX385322	1 灰橙褐色粘質土(2-4cm大円礫) 2 暗灰色粘土(2-3cm大角礫) 3 暗灰色粘土+シルト(2-4cm大円礫多含) 4 暗青灰色粘土(円礫等含まず)
32		1 淡灰色粘質土 2 淡青灰色粘質土	13	SD362103	1 白黄褐色砂質土 2 明灰黄褐色砂質土 3 灰褐色シルト 4 暗灰黄褐色シルト
33		1 暗黄褐色土 2 暗黄褐色砂質土 3 淡灰褐色粘質土 4 明黄灰色砂質土 5 明黄褐色粘質土 6 暗灰色砂質土 7 暗灰色粘質土 8 混灰色砂質土(黄斑) 9 暗灰褐色土(黄斑混) 10 暗灰褐色砂質土 11 明灰色粘質土	2		1 明灰黄褐色砂質土 2 暗灰黄褐色粘質土
34		1 淡黄褐色土 2 淡黄灰色土 3 淡灰色土(黄褐色斑多く混) 4 淡灰色土(黄褐色斑少量混) 5 茶褐色土(黄褐色斑混)	3		1 明灰黄褐色砂質土 2 暗灰黄褐色粘質土
35		1 明褐色土 2 淡黄灰褐色土 3 淡灰色土(黄褐色斑少量混) 4 淡黄灰色土(黄褐色斑多く混) 5 淡灰色粘質土	4		1 明灰黄褐色砂質土 2 灰黄褐色砂質土 3 灰褐色シルト 4 暗灰褐色シルト
			5		1 淡黄灰色土 2 淡灰色土 3 黄褐色土(淡灰色斑混)
			6		1 淡黄灰色土 2 淡灰色土 3 黄褐色土(淡灰色斑混)
			7		1 淡黄灰色土 2 淡灰色土 3 黄褐色土(淡灰色斑混)
			8		1 淡黄褐色土 2 淡灰色土 3 淡黄灰色土 4 黄褐色土(淡灰色斑混)
			9		1 淡灰色土



2		6	黒灰色シルト(有機物・焼骨遺存)	3		1	暗橙褐色砂+シルト	SD362201	3	茶褐色土(黄色砂混)
		1	暗橙褐色砂+シルト			4	茶褐色土(灰色土混)			
		2	明橙褐色粘質土(シルト+粘土)			5	灰色土(茶褐色土混)			
		3	淡青灰色粘土(純層)			1	淡黄褐色砂			
		4	淡青灰色シルト+細砂粒			2	茶褐色土(黄色砂混)			
		5	暗灰色シルト+粘土			3	茶褐色土(灰色土混)			
3		6	黒灰色砂混粘土	SD333004	4	灰色土(茶褐色土混)	1	灰黄褐色砂質土		
		1	黒褐色砂固結		2	明橙褐色砂質土				
		2	暗橙褐色砂+シルト		3	灰白色シルト+細砂(酸化鉄沈着)				
		3	暗橙褐色砂		4	暗黒褐色砂質土				
		4	暗橙褐色シルト		5	暗灰色シルト+粘土				
		5	淡灰色シルト		SD333004	1	黄褐色砂質土+黒褐色斑粒(マンガン沈着)			
6	暗灰黒色礫	2	明黄褐色粘質土							
4		1	暗橙褐色砂+シルト	3		黄褐色砂+黒褐色斑粒(マンガン沈着)				
		2	明橙褐色粘質土(シルト+粘土)	4		灰色細砂+シルト				
		3	淡灰色シルト	5		灰色粘土+シルト				
		4	淡青灰色粘土	SD333004		1	明灰褐色砂質土			
		5	暗灰色粘土(浸漬状固体・有機質・焼骨含)		2	淡黄灰色土(黒斑混)				
		6	暗黄褐色砂		3	明黄灰色粘質土				
		7	淡暗灰色シルト+粘土(有機質無)		4	黄混暗灰色粘質砂				
		8	暗灰色粘土+淡緑青灰色粘土(地山の巻き込み)		5	淡灰褐色粘土				
5		1	暗橙褐色砂+シルト		SD385229	1	濁灰黄褐色砂			
		2	明橙褐色粘質土(シルト+粘土)			2	灰黄色粘質土			
		3	淡青灰色粘土			SD385229	1	灰黄褐色砂		
		4	淡青灰色シルト+細砂	2			明青灰色粘質土+シルト			
		5	暗灰色シルト+粘土	SD385229			1	灰黄褐色粘質土+砂質土		
		6	暗灰色粘土+シルト(7よりシルト分多)				2	灰色粘土+シルト		
		7	暗灰色粘土(シルト含)				3	暗灰色粘土		
6		1	暗橙褐色砂+シルト(砂粒のみ)		SD385229		1	黒褐色砂		
		2	明橙褐色粘質土(シルト+粘土)				2	灰褐色砂質土		
		3	淡灰色シルト(純層)			3	灰色粘質土			
		4	淡青灰色粘土(純層)			4	灰黄褐色粘質土			
		5	淡青灰色シルト+細砂粒(混層)	SX385322		1	灰橙褐色粘質土(2-4cm大円礫)			
		6	暗灰色シルト+粘土(有機質多)			2	暗灰色粘土(2-3cm大角礫)			
		7	明橙褐色砂			3	暗灰色粘土+シルト(2-4cm大円礫多)			
		8	暗灰色粘質土+シルト(6に類似)			4	暗灰色粘土+橙褐色固結土(1-1.5cm大重円礫含)			
7	SX330015	1	黒灰色土(黄褐色・灰白色土混)		5	暗青灰色粘土(円礫等含まず)				
		2	黄色混淡灰色土		SX385322	1	灰橙褐色粘質土(2-4cm大円礫)			
		3	黄灰色土			2	暗灰色粘土(2-3cm大角礫)			
		4	黄褐色土(軟らか)			3	暗灰色粘土+シルト(2-4cm大円礫多含)			
		5	黒灰色土混黄灰色土	4		暗青灰色粘土(円礫等含まず)				
		6	黄灰色土	SD362103		1	白黄褐色砂質土			
8	SX361122	1	黄褐色砂質土			2	明灰黄褐色砂質土			
		2	黄灰色砂質土		3	灰褐色シルト				
		3	暗灰色土		4	暗灰黄褐色シルト				
9	SX361122	1	茶灰色砂質土		1	明灰黄褐色砂質土				
		2	紫灰色土		2	暗灰黄褐色粘質土				
		3	黄褐色砂質土		SD362103	1	明灰黄褐色砂質土			
		4	黄灰色砂質土			2	暗灰黄褐色粘質土			
		5	暗紫灰色砂混粘質土	SD362103		1	明灰黄褐色砂質土			
		6	暗紫灰色土			2	灰黄褐色砂質土			
		7	暗黄褐色土			3	灰褐色シルト			
		8	紫灰色粗砂混粘質土			4	暗灰褐色シルト			
10	SX361124	1	黄灰色砂質土			5	1 淡黄灰色土			
		2	淡灰色土			2	淡灰色土			
		3	淡茶灰色土(マンガン多含)		3	黄褐色土(淡灰色斑混)				
		4	黄色砂質土		SD362103	1	淡黄灰色土			
11	SX361124	1	黄褐色砂質土	2		淡灰色土				
		2	灰褐色土	3		黄褐色土(淡灰色斑混)				
12	SD362201	1	明白黄褐色砂質土	SD362103		1	淡黄灰色土			
		2	明灰黄褐色砂質土			2	淡灰色土			
		3	灰黄褐色砂質土			3	黄褐色土(淡灰色斑混)			
		4	濃灰茶褐色混灰色シルト			SD362103	1	淡黄褐色土		
		5	灰黄褐色シルト				2	淡灰色土		
		6	濃灰茶褐色シルト		3		黄褐色土(淡灰色斑混)			
		7	灰褐色粘土		SD362103		1	淡黄褐色土		
13	SD362201	1	淡黄褐色砂	2			淡灰色土			
		2	淡黄褐色土(灰白色砂混)	3			淡黄灰色土			
13		1	淡黄褐色土(灰白色砂混)	4			黄褐色土(淡灰色斑混)			
		SD362201	1	茶褐色土(黄色砂混)		1	淡黄褐色土			
			2	茶褐色土(灰色土混)		2	淡灰色土			
			3	灰色土(茶褐色土混)		3	淡黄灰色土			
			1	淡黄褐色砂	4	黄褐色土(淡灰色斑混)				
			2	茶褐色土(黄色砂混)	SD362201	1	淡黄褐色土			
			3	茶褐色土(灰色土混)		2	淡灰色土			
			4	灰色土(茶褐色土混)		3	淡黄灰色土			
			1	灰黄褐色砂質土		4	黄褐色土(淡灰色斑混)			
2	明橙褐色砂質土		SD362201	1		明灰褐色砂質土				
3	灰白色シルト+細砂(酸化鉄沈着)	2		暗灰黄褐色粘質土						
4	暗黒褐色砂質土	3		明灰黄褐色砂質土						
5	暗灰色シルト+粘土	4		暗灰黄褐色粘質土						
1	黄褐色砂質土+黒褐色斑粒(マンガン沈着)	SD362201		1		明灰黄褐色砂質土				
2	明黄褐色粘質土			2	暗灰黄褐色粘質土					
3	黄褐色砂+黒褐色斑粒(マンガン沈着)			3	明灰黄褐色砂質土					
4	灰色細砂+シルト			4	暗灰黄褐色粘質土					
5	灰色粘土+シルト			1	明灰黄褐色砂質土					
1	黒褐色砂		2	暗灰黄褐色粘質土						
2	灰褐色砂質土		3	明灰黄褐色砂質土						
3	灰色粘質土		4	暗灰黄褐色粘質土						
4	灰黄褐色粘質土		1	明灰黄褐色砂質土						
1	灰橙褐色粘質土(2-4cm大円礫)	2	暗灰色粘土(2-3cm大角礫)							
2	暗灰色粘土(2-3cm大角礫)	3	暗灰色粘土+シルト(2-4cm大円礫多)							
3	暗灰色粘土+シルト(2-4cm大円礫多)	4	暗灰色粘土+橙褐色固結土(1-1.5cm大重円礫含)							
4	暗灰色粘土+橙褐色固結土(1-1.5cm大重円礫含)	5	暗青灰色粘土(円礫等含まず)							
5	暗青灰色粘土(円礫等含まず)	1	灰橙褐色粘質土(2-4cm大円礫)							
1	灰橙褐色粘質土(2-4cm大円礫)	2	暗灰色粘土(2-3cm大角礫)							
2	暗灰色粘土(2-3cm大角礫)	3	暗灰色粘土+シルト(2-4cm大円礫多含)							
3	暗灰色粘土+シルト(2-4cm大円礫多含)	4	暗青灰色粘土(円礫等含まず)							
4	暗青灰色粘土(円礫等含まず)	1	白黄褐色砂質土							
1	白黄褐色砂質土	2	明灰黄褐色砂質土							
2	明灰黄褐色砂質土	3	灰褐色シルト							
3	灰褐色シルト	4	暗灰黄褐色シルト							
4	暗灰黄褐色シルト	1	明灰黄褐色砂質土							
1	明灰黄褐色砂質土	2	暗灰黄褐色粘質土							
2	暗灰黄褐色粘質土	3	明灰黄褐色砂質土							
3	明灰黄褐色砂質土	4	暗灰黄褐色粘質土							
4	暗灰黄褐色粘質土	1	明灰黄褐色砂質土							
1	明灰黄褐色砂質土	2	灰黄褐色砂質土							
2	灰黄褐色砂質土	3	灰褐色シルト							
3	灰褐色シルト	4	暗灰褐色シルト							
4	暗灰褐色シルト	1	淡黄灰色土							
1	淡黄灰色土	2	淡灰色土							
2	淡灰色土	3	黄褐色土(淡灰色斑混)							
3	黄褐色土(淡灰色斑混)	1	淡黄灰色土							
1	淡黄灰色土	2	淡灰色土							
2	淡灰色土	3	黄褐色土(淡灰色斑混)							
3	黄褐色土(淡灰色斑混)	1	淡黄褐色土							
1	淡黄褐色土	2	淡灰色土							
2	淡灰色土	3	淡黄灰色土							
3	淡黄灰色土	4	黄褐色土(淡灰色斑混)							
4	黄褐色土(淡灰色斑混)	1	淡灰色土							
1	淡灰色土	1	淡灰色土							

土層名一覽表

		2	黃褐色土(淡灰色斑混)			2	褐色砂質土	
10	SD330004	1	暗茶黄色土		SK363094	1	暗黃褐色砂質土	
		2	淡灰色土(暗茶斑混)		SK363095	1	暗黃褐色砂質土	
		3	淡灰色土			2	褐色砂質土	
		4	淡灰色混黑灰色粘土		SK363096	1	暗黃褐色砂質土	
11		1	暗茶黄色土	23	P1	SB362117	1	灰色シルト(漆喰・木板含)
		2	淡灰色土				2	黃褐色砂質土
		3	黄灰色土				3	青灰色砂質土
		4	灰色粘土(黄色土混)				4	暗灰色シルト
		5	淡灰色混黄茶色土				5	暗青灰色シルト
		6	黑灰色粘土(淡灰色土混)				6	暗青灰色粘土
12		1	褐色砂		P2	SB362117	1	明青灰色シルト
		2	淡茶黄色土				2	暗青灰色シルト
		3	黄灰色粘土				3	青灰色砂質土
		4	淡灰色土				4	灰白色粘土
		5	黄色混淡灰色土				5	暗灰色砂質土(炭混)
		6	灰色土				6	灰黄灰色シルト+砂
		7	淡灰色混黄褐色土				7	暗灰色粘質土(炭混)+粘土(5に類似)
		8	淡灰色粘土				8	暗黃褐色砂質土
13		1	淡茶黄色土		P3	SB362117	1	青灰色シルト
		2	黄色混淡灰色土				2	暗青灰色シルト+粘土
		3	灰色粘土				3	濁黃褐色砂質土(灰色粘土筋)
		4	黄灰色粘土				4	黃褐色粘質土
14		1	暗茶黄色土				5	灰色シルト
		2	灰色粘土				6	青灰色粘土
15		1	暗茶黄色土		P4	SB362117	1	明青灰色シルト(漆喰層状堆積)
		2	淡灰色土				2	暗青灰色シルト
		3	灰色粘土				3	明褐色砂質土
		4	黄褐色土				4	暗褐色砂質土
16		1	淡灰色混暗灰色粘土				5	褐色砂質土
		2	淡黄灰色粘土				6	青灰色シルト
17	SX384104	1	淡灰色土		P9	SB362117	1	青灰色粘質土(黑褐色砂混)
		2	淡黄灰色土(淡灰白色砂混)				2	青灰色シルト(漆喰含層状堆積)
		3	黄灰色土				3	暗青灰色粘土(シルト含)
		4	淡黄灰色土				4	暗青灰色粘土(シルト含)
18		1	淡黄灰色土				5	明褐色砂質土(灰色シルト含)
		2	黄褐色土				6	灰白色シルト
		3	淡灰色土				7	暗黃褐色粘土
		4	黄色混淡灰色土				8	黄褐色シルト
		5	淡灰白色土				9	暗青灰色シルト+粘土
19		1	淡灰色土		P10	SB362117	1	黄褐色砂質土+灰色粘質土
		2	白色混黄褐色土				2	黄褐色砂質土+灰色粘質土
		3	灰白色土				3	暗黃褐色砂質土+灰色粘土
20		1	灰色混黄茶色土				4	明黃褐色粘質土+灰色粘土
		2	黄茶色土				5	暗青灰色シルト(漆喰多く混)
		3	黄茶色礫混土				6	暗青灰色粘土(漆喰多く混)
		4	淡灰色混淡黄褐色土				7	濁暗黃褐色砂質土+灰色粘土
21		1	茶褐色土				8	濁暗黃褐色砂質土+灰色シルト
		2	淡茶褐色土				9	濁暗黃褐色砂質土+灰色粘土
		3	淡灰色土				10	灰色シルト
		4	茶色混淡灰色土				11	灰色シルト+濁黃褐色砂質土
		5	淡灰色混茶褐色土				12	濁暗黃褐色砂質土+灰色シルト(同量程混)
		6	淡茶褐色土				13	明黃褐色粘質土
		7	暗茶褐色土				14	暗灰色シルト(漆喰含まず)
	SK362100	1	黄灰色シルト		P12	SB362117	1	灰白色シルト
		2	暗灰色シルト				2	灰黃褐色砂質土
	SK399504	1	暗褐色砂質土				3	黄褐色シルト
	SX361172	1	淡灰橙色シルト				4	暗青灰色シルト(粘土粒・炭片含)
		2	淡橙灰色シルト		P13	SB362117	1	灰色シルト
		3	淡灰色シルト				2	灰色シルト(漆喰含)
	SX361172	1	淡緑灰色シルト				3	暗黃褐色砂質土
		2	淡黄橙色粘土				4	青灰色シルト
15	SE384108		記載なし		P14	SB362117	1	灰色シルト
19	SK363091	1	暗黃褐色砂質土				2	灰色シルト(漆喰含)
		2	褐色砂質土				3	暗黃褐色砂質土
		3	暗黃褐色粘質土					
	SK363092	1	暗黃褐色砂質土					
	SK363093	1	暗黃褐色砂質土					

25	a-b	SD333004	3	暗黄褐色砂質土	28	a-b	SK363089	4	淡黄褐色土	
			4	青灰色シルト				5	淡灰色土	
			1	褐色砂				6	淡灰色土+淡茶褐色土	
			2	淡茶黄色土				7	淡灰色土	
			3	淡灰色土				1	淡黄灰色土	
			4	灰色土				2	黄灰色粘質土(炭含)	
			5	黄色混淡灰色土				3	黄灰色粘質土+茶灰色土(炭含)	
			6	淡灰色混黄褐色土				4	茶灰色粘質土(炭含)	
	c-d	SD333004	7	淡灰色粘土		5	灰色土(炭含)			
			8	黄灰色粘土		6	暗灰色泥			
			1	淡茶黄色土		7	淡灰色粘土			
			2	黄色混淡灰色土		8	黄色粘質土			
e-f	SX384091	3	灰色粘土	c-d		1	淡黄灰色土			
		4	黄灰色粘土			2	黄灰色粘質土(炭含)			
		1	淡灰色混黄褐色土			3	黄灰色粘質土+茶灰色土(炭含)			
		2	暗茶褐色斑混淡青灰色土			4	茶灰色粘質土(炭含)			
		3	淡青灰色粘土(黄色斑混)			5	暗灰色泥			
		4	淡黄褐色混淡灰色土			6	灰色土(炭含)			
		5	淡黄褐色混淡灰色土(茶褐色斑混)			7	淡灰色粘土			
g-h	SB384110	6	淡青灰色粘土	e-f		8	灰色土(炭含.6とほぼ同)			
		7	淡灰色土			9	黄色粘質土			
		1	黄色混灰色砂			1	淡黄灰色土			
		2	黄色混灰色粘質土			2	黄灰色粘質土(炭含)			
		3	灰色粘土			3	茶灰色粘質土(炭含)			
		4	灰色混黄色粘質土			4	茶灰色粘質土(炭多)			
		5	暗茶褐色混灰色粘土			5	茶灰色粘質土(炭含.3と同)			
		6	灰色砂(柱あたり)			6	灰色土(炭含)			
		7	灰色混黄褐色土			7	灰色土(炭含.6とほぼ同)			
		8	黄色混灰色砂			8	暗灰色泥			
		9	黄色混灰色土			9	淡灰色粘土			
		10	灰色土			SK362124	1	灰青色シルト		
11	淡灰色砂	2	明灰黄褐色粘質土							
12	淡灰色粘質砂	3	淡青灰褐色粘土							
i-j	SB384110	1	灰黄色砂	SK363085		1	淡灰色砂質土(炭混)			
		2	灰黄色砂(茶褐色斑混)			2	淡灰色砂質土			
		3	黄色混灰色粘質土			3	茶灰色土(土器・炭多)			
		4	灰色粘質砂混土			4	黄灰色砂質土+茶褐色土			
		5	灰黄色土			5	褐色~暗茶灰色粘質土			
		6	灰色砂混土			6	灰色粘質土			
		7	淡灰色粘質土			29	P151	SB361181	1	淡黄灰色粘質土
		8	淡灰色粘質砂				P152	SB361181	1	淡黄灰色粘質土
26		SE363084	1	茶褐色淡灰色土	P98	SA329003	1	淡緑灰色-淡黄灰色シルト(灰色粘土塊多)		
			2	茶褐色淡灰色砂			2	淡乳灰色シルト混粘土		
			3	茶褐色(少)淡灰色砂			3	灰緑色粘土		
			4	黄茶色砂			4	淡乳灰色粘土		
			5	黄色混淡灰色粘土	P103	SA329003	1	淡緑灰色-淡黄灰色シルト(灰色粘土塊含)		
			6	黄褐色粘土			2	淡緑灰色砂混粘土		
			7	黄褐色混淡灰色砂	P105	SA329003	1	淡緑灰色粘土(青灰色土塊)		
			8	黄褐色(多)混淡灰色砂			2	淡灰緑色粘土(少礫含)		
			9	淡灰色砂混粘土	P106	SA329003	1	灰色シルト+黒灰色混灰白色粘土		
			10	淡灰色粘土(灰白色粒混)			2	緑灰色細砂+黒灰色シルト+粘土塊		
			11	淡灰色粘土			3	灰色混淡灰黄色粘土+黒灰色シルト+粘土塊		
			12	淡灰色混茶褐色土			4	淡緑灰色粘土(細砂混)		
			13	明黄褐色土	P107	SA329003	1	暗灰色混淡黄灰色粘土(細砂混)		
			14	黄灰色混淡灰色粘質土			2	淡灰色混乳灰色粘土(細砂混)		
			15	淡灰色粘質土	38	SE385537	1	暗黄灰色砂質土(マンガン多)		
			16	淡灰色砂混粘質土			2	黄灰色土		
			17	淡灰色粘土(やや濃い)			3	濃灰色粘質土		
			18	灰色砂			4	淡灰色粘質土		
			19	灰色粘土(やや砂混)			5	暗灰色粘質土		
			20	灰色細砂			SE333002		1	明灰色土
			21	灰色粘土(粘質強い)					2	灰色土
27	東西断面	SK363090	1	淡灰色粘砂質土					3	灰色混黄褐色土
			2	淡灰色粘砂質土(淡黄色土混)	4	淡灰色混黄褐色土				
			3	黄色混灰色土	5	黄褐色土				
南北断面	SK363090	SK363090	1	淡黄褐色砂質土	6	黄色混淡灰色土				
			2	淡黄茶色土	7	黄色混淡灰色土(砂多)				
			3	灰色土(炭混)	8	黄灰色粘土(灰色砂混)				

土層名一覧表

			9 黄灰色粘土 10 灰色砂混粘土 11 灰色砂(淡灰色粘土混) 12 茶灰色砂 13 淡暗灰色土			6 暗灰色粘質土
		SE384092	1 緑灰色礫混砂質土 2 緑灰色粘質土 3 暗緑灰色粘質土 4 暗灰色粘質土 5 暗緑灰色粘質土 6 暗灰色砂混土 7 明緑灰色砂質土 8 明灰色砂混粘質土 9~12 記載なし		SE385543	1 茶灰色砂混粘質土 2 茶灰色粘質土 3 淡灰色粘質土 4 灰色粘質土 5 暗灰色粘土 6 灰色粘土 7 灰色砂礫混粘土 8 暗灰色泥土
44	北ピット	SB385547	1 濁黄灰色粘質土(マンガン多) 2 茶灰褐色粘質土(マンガン多) 3 灰褐色粘質土 4 灰褐色粘質土+淡黄色粘土塊 5 淡茶灰色粘質土(マンガン多) 6 淡灰褐色シルト(マンガン多) 7 青灰色粘土(淡緑色粘土塊) 8 濁茶灰褐色粘質土(マンガン多)			
	南ピット	SB385547	1 暗青灰色礫混粘土(淡緑色粘土塊・小礫含)			
46		SE334007	1 淡緑灰色粘質土(細砂・赤褐色砂質土混) 2 淡緑灰色砂質土(細・微細砂) 3 黒灰色粘質土(淡緑灰色混) 4 黒灰色粘質土(細砂・微細砂) 5 黒灰色砂質土+灰色砂質土 6 暗灰色粘質土+淡緑灰色土塊 7 暗灰色粘質土(黒色・暗緑色土塊含) 8 暗灰色粘質土+緑灰色粘質土(細砂) 9 黒灰色粘質土(細砂) 10 黄灰色砂質土(中砂~粗砂)			
47		SE363115	1 黄灰色土 2 茶灰色粘質土(炭混) 3 淡白灰色シルト 4 淡灰色土 5 茶灰色砂質(砂多・炭混) 6 茶灰色粘質土 7 暗灰色粘質土+白灰色シルト塊 8 淡灰色粘質土 9 淡灰色土(白灰色シルト混) 10 淡灰色粘質土+暗灰色粘土塊 11 暗灰色粘土			
48		SE385536	1 暗灰色粘質土 2 淡灰色砂混粘質土 3 灰色粘質土 4 淡灰色砂混粘質土 5 淡紫灰色砂質土 6 暗灰色粘質土 7 暗灰色泥土 8 青灰色粘質土 9 暗灰色泥土			
		SE385544	記載なし			
		SE399503	1 濁黄褐色礫混土 2 淡黒褐色粘土 3 淡黒褐色小礫 4 淡黒褐色粘質土 5 淡黒褐色粘土(5cmの礫含) 6 淡黒褐色粘土 7 淡黒褐色粘土 8 淡黒褐色粘土 9 淡黒褐色粘土			
49		SE385519	1 暗黒褐色砂質土 2 明黄褐色粘質土+灰色土 3 明黄灰色混明灰色粘質砂 4 暗灰色粘質砂 5 青灰白色砂+暗灰色粘質土			

## 報告書抄録

ふりがな	ながおかきょうあとさきょうにじょうさん・しほう・ひがしつちかわいせき							
書名	長岡京跡左京二条三・四坊・東土川遺跡							
副書名								
巻次								
シリーズ名	京都府遺跡調査報告書							
シリーズ番号	第28冊							
編著者名	野島 永・中川和哉・小池 寛・岩松 保・平良泰久							
編集機関	(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター							
所在地	〒617-0002 京都府向日市寺戸町南垣内40-3			Phone	075(933)3877			
発行年月日	西暦 2000 年 9 月 26 日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ながおか きょうあと さきょうに じょうさ ん・しほう ひがしつち かわいせき 長岡京跡左 京二条三・ 四坊 東土川遺跡	きょうとしみなみ くくぜひがしつち かわちょう  京都市南区久世東 土川町	107	10	34° 56' 26"	135° 43' 28"	19930506 ～ 19971016	50,930	パーキング エリア建設
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
長岡京跡左 京二条三・ 四坊 東土川遺跡	都城  集落・墓地 生産遺跡	長岡京期  弥生・古墳・平安 ・中世		条坊路・水路・掘立柱建物 井戸・門・築地 地鎮遺構 流路・掘立柱建物・井戸 耕作用畦畔・方形周溝墓		土器(弥生土器・ 土師器・須恵器 陶器・瓦器ほか) 木器(農工具・容器 ・木簡・曲物) 石器(石鏃・石剣・ 石斧ほか) 金属器(鏡・銭・ 印章・釘)		二条三坊十 三・十四 十五町 二条四坊二 三・六・七 町の宅地

## 京都府遺跡調査報告書 第28冊&lt;本文編&gt;

平成12年9月26日

発行 (財)京都府埋蔵文化財調査研究  
センター〒617-0002 向日市寺戸町南垣内40番の3  
Phone (075)933-3877 (代)

印刷 三星商事印刷株式会社

〒604-0093 京都市中京区新町通竹屋町下ル  
Phone (075)256-0961 (代)